

世良田環濠集落遺跡(2)

社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)(主)大間々世良田線
世良田交差点改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2015

群馬県太田土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

世良田環濠集落遺跡(2)

社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)(主)大間々世良田線
世良田交差点改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2015

群馬県太田土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



1 焼継あり。焼継溶液で「せら田 志ミ 春や」(せらだ しみずや)と記載。Ⅲ区 1号遺物集中箇所62 (第89図)



2 焼継あり。焼継溶液で「せら田 志ミ すや」(せらだ しみずや)と記載。Ⅳ区 2号土坑21 (第109図)



3 焼継あり。焼継溶液で「せら田 志ミ 寿”や」(せらだ しみずや)と記載。Ⅲ区 1号遺物集中箇所123 (第94図)



4 焼継あり。焼継溶液で「せら田 志ミ 寿や」(せらだ しみずや)と記載。Ⅲ区 1号遺物集中箇所 7 (第86図)



5 焼継あり。焼継溶液で「文吉」(ぶんきち)と記載。Ⅱ区 1号竪穴状遺構 1 (第74図)



6 焼継あり。赤色で「千せ」(ちせ)と記載。Ⅲ区一括25 (第98図)



7 徳利の底部に墨書で「大町井筒屋 斜格子囲い内に舩の字」(おおまちいづつや 屋号)と記載。Ⅲ区22号土坑 6 (第78図)



8 染付土瓶の文様下に呉須で「松川亭」または「杉山亭」か。Ⅱ区 1号竪穴状遺構 1 (第74図)



9 焼継あり。口唇部7カ所に赤茶色の指先状痕跡。高台端部に黒色の焼き付いた痕 2カ所。Ⅲ区 1号遺物集中箇所63 (第89図)

口絵 2



10 内面に赤色等付着。右奥：Ⅱ区1号溝11、左奥：Ⅲ区23号土坑2、中央：Ⅱ区2号溝1、右手前：Ⅲ区一括28、左手前：Ⅱ区13号土坑1



11 各所から出土した「円盤状加工品」。高台部を利用したものも多い。



12 各所から出土した灯明具(在地製土器 皿)



13 各所から出土した灯明具(陶器 油皿と受皿)



14 各所から出土した灯明具(ひょうそく)



15 各所から出土した灯明具(両口形カンテラ)



16 肥前磁器 染付広東碗の揃い



17 肥前磁器 染付広東碗の揃い



18 肥前磁器 染付小広東碗の揃い



19 肥前磁器 染付端反碗の揃い



20 肥前磁器 染付碗の揃い



21 肥前磁器 染付端反碗の揃い



22 肥前磁器 染付皿の揃い



23 瀬戸・美濃陶器 染付皿の揃い

口絵 4



24 群馬県では貴重品だった江戸時代後期の焼塩壺



25 江戸時代後期の陶器蓋各種



26 江戸時代後期の陶器徳利



27 江戸時代後期の置き竈



28 江戸時代後期の手水鉢



29 江戸時代後期の火鉢

序

清和源氏一門の有力な武士団であった新田氏一族の根拠地として平安時代末期に成立した新田荘の荘域は、上野国新田郡全域から勢多郡・佐位郡・武蔵国榛沢郡の一部という広大な範囲に及び、平成12年には、新田荘遺跡群の構成要素のうちの11箇所が国の史跡に指定され、改めてその歴史的価値が高く評価されることになりました。

また、近世になると、江戸に幕府を開いた徳川將軍家が、新田氏の支族である得川氏の末裔を自称したことによって、徳川氏発祥の「聖地」と認定され、幕府による手厚い保護が加えられるに至りました。

このように歴史的に高い意義を有する地域に位置し、周囲に堀を持つ中世の集落の形態を遺す遺跡として知られて参りました本遺跡の一部が、平成25年度から26年度にかけて、主要地方道大間々世良田線の世良田交差点改良工事に先立って当事業団によって発掘調査されました。

このたび、世良田交差点の北西・南東・南西側における発掘調査の成果がまとめられ、平成25～26年度に発掘調査された範囲全域について発掘調査報告書が刊行され、事業が完結することになりました。

発掘調査から報告書の刊行に至るまでには、群馬県太田土木事務所、群馬県教育委員会、太田市教育委員会、地元関係者の皆様方に、多大なるご指導とご協力を賜りました。篤く御礼を申し上げますとともに、本書が地域における歴史の解明に資することを願ひまして、序といたします。

平成27年11月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 中野 三智男

例 言

1 本書は、社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)(主)大間々世良田線世良田交差点改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査による、世良田環濠集落遺跡Ⅱ～Ⅳ区にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書である。

なお、Ⅰ区の調査成果については、当事業団が、平成27年1月16日に発行した『公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第595集 世良田環濠集落遺跡(Ⅰ)社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)(主)大間々世良田線世良田交差点改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』に纏めてあるので、併せて参照されたい。

2 所在地 太田市世良田町1086-1、1086-8、1087-1、1088-1、1089-1、1089-2、1089-3、1360-1、1360-3、1360-4、1361-2、1361-4

3 事業主体 群馬県太田土木事務所

4 調査主体 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

5 調査期間 履行期間 平成26年5月1日～平成27年8月29日

調査期間 平成26年6月1日～平成26年6月30日

履行期間 平成26年10月1日～平成27年2月27日

調査期間 平成26年11月1日～平成26年12月31日

6 調査面積 280㎡+1,172㎡

7 発掘調査体制は次の通りである。

発掘調査担当 調査統括・上席専門員 関根愼二、主任調査研究員 藤井義徳

遺跡掘削工事請負 山下工業株式会社 有限会社 毛野考古学研究所

地上測量業務委託 株式会社 シン技術コンサル

8 整理期間 履行期間 平成27年4月1日～平成27年11月30日

整理期間 平成27年4月1日～平成27年9月30日

9 整理体制は次の通りである。

整理担当 専門員(総括) 高島英之

遺物写真撮影 補佐(総括) 関 邦一、専門員(総括) 津島秀章、専門員(総括) 高島英之、専門調査役 藤巻幸男

遺物保存処理 補佐(総括) 関 邦一

デジタル編集 主任調査研究員 齊田智彦

10 本書作成の担当者は次の通りである。

編集・執筆 専門員(総括) 高島英之、専門調査役 藤巻幸男(第4章第2節)

遺物観察表(土器・陶磁器) 専門調査役 藤巻幸男

遺物観察表(石器) 専門員(総括) 津島秀章

遺物観察表(鉄製品) 補佐(総括) 関 邦一

11 発掘調査書資料及び出土品は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

12 発掘調査及び報告書作成に際しては、下記の方々、機関にご協力、ご指導をいただきました。記して感謝いたします。(敬称略・順不同)

峰岸純夫、須永光一、小宮俊久、群馬県教育委員会、群馬県立文書館、太田市教育委員会、太田市立新田荘歴史資料館

凡 例

- 1 本文中に使用した座標・方位は、すべて世界測地系(日本測地系2,000平面直角座標第IX系)を使用している。なお、座標北と真北との偏差は、調査対象地中央付近の $X=29,568$ 、 $Y=-49,848$ で東偏 $0^{\circ}19'41.40''$ である。
- 2 遺構平面図に記した数値は標高を表し、単位はmを用いた。
- 3 遺構・遺物実測図の縮尺率は原則として以下の通りとした。1：3以外の縮尺の遺物については、遺物番号の後に縮尺を記入してある。遺物観察表における遺物法量の単位はcm、重量の単位はgである。

遺構 1：40

遺物 中近世陶器・土器(甕・鉢・焙烙・鍋などの大型品)・瓦 1：4

中近世陶磁器(碗皿などの小型品) 1：3

石製品(砥石など)・鉄製品 1：2

石製品(硯など)・銅銭 1：1

- 4 本書で掲載した地図は、下記のものを使用した。

国土地理院 地形図 1：25,000「上野境」(平成14年2月1日発行)、「深谷」(平成14年9月1日発行)

1：50,000「深谷」(平成10年9月1日発行)、「高崎」(平成10年12月1日発行)

国土地理院 地勢図 1：200,000「宇都宮」(平成23年6月1日発行)

太田市役所地形図 1：2,500 (平成23年3月測図)

- 5 本書の図版に使用したスクリーン・トーン及びマークは、次のことを示す。

遺物出土地点 石器 ・ 土器 ・

遺構図 攪乱(断面図) 

遺物図 石器 摩耗痕  摩耗痕の範囲(断面図) 

土器 スス付着 

目次

口絵

序

例言・凡例

目次

挿図・表・写真目次

第1章 調査に至る経緯、調査の方法・経過	1	第3節 III区で検出された遺構と遺物	39
第1節 調査に至る経緯	1	1. 土坑	40
第2節 調査の方法と経過	4	2. 井戸	47
1. 調査の方法	4	3. 溝	48
2. 調査の経過	4	4. ピット	49
第3節 整理作業の概要	4	5. 礎石	53
第2章 遺跡の位置と環境	5	6. 配石	71
第1節 地理的環境	5	7. その他の遺構	71
第2節 歴史的環境	5	8. 遺構外一括出土遺物	71
1. 旧石器時代	5	第4節 IV区で検出された遺構と遺物	71
2. 縄文時代	11	1. 土坑	72
3. 弥生時代	11	2. 井戸	79
4. 古墳時代	11	3. 溝	81
5. 奈良・平安時代	12	4. ピット	82
6. 中世	13	5. 礎石	91
7. 近世	15	6. 遺構外一括出土遺物	107
第3章 調査の成果	16	第5節 旧石器の確認調査	107
第1節 成果の概要	16	第4章 調査成果のまとめ	108
第2節 II区で検出された遺構と遺物	16	第1節 出土した「文久永宝」について	108
1. 土坑	17	第2節 出土した近世の陶磁器・土器について	109
2. 井戸	21	1. 文字資料	109
3. 溝	22	2. 明りの道具類	109
4. ピット	23	3. 焼塩壺	112
5. 地下式坑	25	4. 置き竈	112
6. 竪穴状遺構	38	5. 手水鉢	113
7. 礎石	39	第3節 まとめ	114
8. その他の遺構	39	遺物観察表	116
9. 遺構外一括出土遺物	39	非掲載遺物集計表	145
		遺物図版	
		遺構写真	
		抄録	

挿図目次

第1図	遺跡の位置(1)・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第2図	遺跡の位置(2)・・・・・・・・・・・・・・・・	2
第3図	調査区設定図・・・・・・・・・・・・・・・・	3
第4図	周辺地形分類図・・・・・・・・・・・・・・	6
第5図	周辺の遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
第6図	Ⅱ-1～3調査区遺構検出状況・・・・・・・・	26
第7図	Ⅱ-4～7調査区遺構検出状況・・・・・・・・	27
第8図	Ⅱ区1～11号土坑平面図・断面図・・・・・	28
第9図	Ⅱ区12～20号土坑平面図・断面図・・・・・	29
第10図	Ⅱ区21・22・24～28号土坑平面図・断面図	30
第11図	Ⅱ区1～4号井戸平面図・断面図・・・・・・・・	31
第12図	Ⅱ区1・2・4・5号溝平面図・断面図・・・・・	32
第13図	Ⅱ区3号溝平面図・断面図・・・・・・・・・・	33
第14図	Ⅱ区3・6・7号溝平面図・断面図・・・・・・	34
第15図	Ⅱ区8・9号溝平面図・断面図・・・・・・・・	35
第16図	Ⅱ区1～12号ピット平面図・断面図・・・・・	36
第17図	Ⅱ区1号地下式坑、1・2号竪穴状遺構、1号礎石、 1号落ち込み平面図・断面図・・・・・・・・	37
第18図	Ⅲ-1～3調査区遺構検出状況・・・・・・・・	55
第19図	Ⅲ-4・5調査区遺構検出状況・・・・・・・・	56
第20図	Ⅲ区1～8・10・11号土坑平面図・断面図	57
第21図	Ⅲ区9・12～16・19号土坑平面図・断面図	58
第22図	Ⅲ区17・18、20～28、53・54号土坑平面図・断面図	59
第23図	Ⅲ区29～37・58号土坑平面図・断面図・・・・・	60
第24図	Ⅲ区38～49号土坑平面図・断面図・・・・・	61
第25図	Ⅲ区50～52・55～57・59・60号土坑平面図・断面図	62
第26図	Ⅲ区1～3号井戸平面図・断面図・・・・・・・・	63
第27図	Ⅲ区1・3号溝平面図・断面図・・・・・・・・	64
第28図	Ⅲ区4号溝平面図・断面図・・・・・・・・・・	65
第29図	Ⅲ区2・5号溝平面図・断面図・・・・・・・・	66
第30図	Ⅲ区1～21号ピット平面図・断面図・・・・・	67
第31図	Ⅲ区22～30号ピット、1・5～8号礎石平面図・断面図	68
第32図	Ⅲ区2～4号礎石平面図・断面図・・・・・・	69
第33図	Ⅲ区1～2号配石平面図、断面図、1号遺物集中箇所平面図	70
第34図	Ⅳ-1～3調査区遺構検出状況・・・・・・・・	92
第35図	Ⅳ-4・5調査区遺構検出状況・・・・・・・・	93
第36図	Ⅳ区1～10号土坑平面図、断面図・・・・・・	94
第37図	Ⅳ区11～18号土坑平面図、断面図・・・・・	95
第38図	Ⅳ区19～29・31号土坑平面図、断面図・・・・・	96
第39図	Ⅳ区30・32～38号土坑平面図、断面図・・・・・	97
第40図	Ⅳ区40～45号土坑、1・2号井戸平面図、断面図	98
第41図	Ⅳ区3～8号井戸平面図、断面図・・・・・・	99
第42図	Ⅳ区9～13号井戸平面図、断面図・・・・・・	100
第43図	Ⅳ区1～4号溝、7・34～38号ピット平面図、断面図	101
第44図	Ⅳ区39～43、61～70号ピット平面図、断面図	102
第45図	Ⅳ区1～5号礎石平面図、断面図・・・・・・	103
第46図	Ⅱ区旧石器確認調査坑位置図、断面図・・・・・	104
第47図	Ⅲ区旧石器確認調査坑位置図、断面図・・・・・	105
第48図	Ⅳ区旧石器確認調査坑位置図、断面図・・・・・	106
第49図	出土したカンテラ・・・・・・・・・・・・・・	111
第50図	出土した焼塩壺・・・・・・・・・・・・・・	112
第51図	出土した置き竈・・・・・・・・・・・・・・	112
第52図	出土した手水鉢・・・・・・・・・・・・・・	113
第53図	上毛新田世良田略絵図(弘化2(1845)年)・・・・	114
第54図	山崎一氏作図世良田環濠集落図・・・・・・・・	115
第55図	Ⅱ区2号土坑出土遺物、6号土坑出土遺物(1)・・	147
第56図	Ⅱ区6号土坑出土遺物(2)、7・12号土坑出土遺物、13号土坑 出土遺物(1)・・・・・・・・・・・・・・	148
第57図	Ⅱ区13号土坑出土遺物(2)・・・・・・・・・・	149
第58図	Ⅱ区13号土坑出土遺物(3)・・・・・・・・・・	150
第59図	Ⅱ区13号土坑出土遺物(4)、16号土坑出土遺物(1)・・	151
第60図	Ⅱ区16号土坑出土遺物(2)・・・・・・・・・・	152
第61図	Ⅱ区24号土坑出土遺物(1)・・・・・・・・・・	153
第62図	Ⅱ区24号土坑出土遺物(2)・・・・・・・・・・	154
第63図	Ⅱ区24号土坑出土遺物(3)、1～3号井戸出土遺物・・	155
第64図	Ⅱ区4号井戸出土遺物、1号溝出土遺物(1)・・・・	156
第65図	Ⅱ区1号溝出土遺物(2)・・・・・・・・・・・・	157
第66図	Ⅱ区1号溝出土遺物(3)・・・・・・・・・・・・	158
第67図	Ⅱ区1号溝出土遺物(4)・・・・・・・・・・・・	159
第68図	Ⅱ区1号溝出土遺物(5)・・・・・・・・・・・・	160
第69図	Ⅱ区1号溝出土遺物(6)・・・・・・・・・・・・	161
第70図	Ⅱ区1号溝出土遺物(7)・・・・・・・・・・・・	162
第71図	Ⅱ区1号溝出土遺物(8)、2号溝出土遺物・・・・・・	163
第72図	Ⅱ区3・5・6号溝出土遺物、7号溝出土遺物・・・・	164
第73図	Ⅱ区8・9号溝出土遺物、4・10号ピット、1号地下式坑 出土遺物、1号竪穴状遺構出土遺物(1)・・・・	165
第74図	Ⅱ区1号竪穴状遺構出土遺物(2)・・・・・・・・	166
第75図	Ⅱ区2号竪穴状遺構、遺構外出土遺物・・・・・・	167
第76図	Ⅱ区一括出土遺物・・・・・・・・・・・・・・	168
第77図	Ⅲ区1・4・7号土坑出土遺物、9号土坑出土遺物(1)・・	169
第78図	Ⅲ区9号土坑出土遺物(2)、11・13・16・22号土坑出土遺物	170
第79図	Ⅲ区24・27・30～32・35・36・47号土坑、1号井戸出土遺物	171
第80図	Ⅲ区2・3号井戸、2・3号溝出土遺物、4号溝出土遺物(1)・・	172
第81図	Ⅲ区4号溝出土遺物(2)・2号ピット出土遺物・・・・	173
第82図	Ⅲ区6号ピット、1号礎石出土遺物、2号礎石出土遺物(1)・・	174
第83図	Ⅲ区2号礎石出土遺物(2)・・・・・・・・・・・・	175
第84図	Ⅲ区4号礎石出土遺物、6号礎石出土遺物(1)・・・・	176
第85図	Ⅲ区6号礎石出土遺物(2)、7号礎石、1号配石出土遺物(1)・	177
第86図	Ⅲ区1号配石出土遺物(2)、2号配石出土遺物、1号遺物集中箇 所出土遺物(1)・・・・・・・・・・・・・・	178
第87図	Ⅲ区1号遺物集中箇所出土遺物(2)・・・・・・・・	179
第88図	Ⅲ区1号遺物集中箇所出土遺物(3)・・・・・・・・	180
第89図	Ⅲ区1号遺物集中箇所出土遺物(4)・・・・・・・・	181
第90図	Ⅲ区1号遺物集中箇所出土遺物(5)・・・・・・・・	182
第91図	Ⅲ区1号遺物集中箇所出土遺物(6)・・・・・・・・	183
第92図	Ⅲ区1号遺物集中箇所出土遺物(7)・・・・・・・・	184
第93図	Ⅲ区1号遺物集中箇所出土遺物(8)・・・・・・・・	185
第94図	Ⅲ区1号遺物集中箇所出土遺物(9)・・・・・・・・	186
第95図	Ⅲ区1号遺物集中箇所出土遺物(10)・・・・・・	187
第96図	Ⅲ区1号遺物集中箇所出土遺物(11)・・・・・・	188
第97図	Ⅲ区1号遺物集中箇所出土遺物(12)・・・・・・	189
第98図	Ⅲ区一括出土遺物(1)・・・・・・・・・・・・	190
第99図	Ⅲ区一括出土遺物(2)・・・・・・・・・・・・	191
第100図	Ⅲ区一括出土遺物(3)・・・・・・・・・・・・	192
第101図	Ⅲ区一括出土遺物(4)・・・・・・・・・・・・	193
第102図	Ⅲ区一括出土遺物(5)・・・・・・・・・・・・	194
第103図	Ⅲ区一括出土遺物(6)・・・・・・・・・・・・	195
第104図	Ⅲ区一括出土遺物(7)・・・・・・・・・・・・	196
第105図	Ⅲ区一括出土遺物(8)・・・・・・・・・・・・	197
第106図	Ⅲ区一括出土遺物(9)・・・・・・・・・・・・	198
第107図	Ⅲ区一括出土遺物(10)、Ⅳ区2号土坑出土遺物(1)・・	199
第108図	Ⅳ区2号土坑出土遺物(2)・・・・・・・・・・・・	200
第109図	Ⅳ区2号土坑出土遺物(3)・・・・・・・・・・・・	201
第110図	Ⅳ区2・3・12号土坑出土遺物・・・・・・・・・・	202
第111図	Ⅳ区13・18・22号土坑出土遺物・・・・・・・・	203
第112図	Ⅳ区25・26・28号土坑出土遺物、29号土坑出土遺物(1)・・	204
第113図	Ⅳ区29号土坑出土遺物(2)・・・・・・・・・・	205
第114図	Ⅳ区29号土坑出土遺物(3)・・・・・・・・・・	206
第115図	Ⅳ区31～33・36号土坑出土遺物・・・・・・・・	207
第116図	Ⅳ区38号土坑、1・3・4号井戸出土遺物・・・・	208
第117図	Ⅳ区6～8・10・11号井戸出土遺物・・・・・・	209
第118図	Ⅳ区12・13号井戸、3・40・41・68・70号ピット、1号礎石 出土遺物・・・・・・・・・・・・・・	210
第119図	Ⅳ区一括出土遺物(1)・・・・・・・・・・・・	211
第120図	Ⅳ区一括出土遺物(2)・・・・・・・・・・・・	212

表 目 次

第1表	周辺の遺跡一覧表(1)	8	第4表	陶磁器類文字資料一覧	110
第2表	周辺の遺跡一覧表(2)	9	第5表	非掲載遺物集計表	145
第3表	周辺の遺跡一覧表(3)	10			

写真目次

PL. 1

1. II-1区全景(北)
2. II-2区全景(南)
3. II-3区全景(北)
4. II-3区全景 北端(南)
5. II-4区全景(南)
6. II-5区全景(北)
7. II-7区全景 西端(西)
8. II-7区全景 東端(西)

PL. 2

1. II-3区1号土坑全景(南)
2. II-3区2号土坑全景(南)
3. II-3区3・5号土坑全景(南)
4. II-3区4号土坑全景(南)
5. II-3区6号土坑遺物出土状況(東)
6. II-3区6号土坑土層断面(南)
7. II-3区6号土坑全景(南)
8. II-3区7号土坑全景(東)
9. II-3区7号土坑土層断面(南)
10. II-2区8号土坑土層断面(東)
11. II-5区9号土坑全景(西)
12. II-5区10号土坑全景(西)
13. II-4区11号土坑全景(南)
14. II-4区12号土坑全景・土層断面(南)
15. II-1区13号土坑全景(南)

PL. 3

1. II-1区13号土坑土層断面(南)
2. II-6区16号土坑全景(北)
3. II-6区16号土坑土層断面(西)
4. II-7区17号土坑全景・土層断面(南)
5. II-7区18号土坑全景(西)
6. II-7区18号土坑土層断面(北)
7. II-7区19号土坑全景(西)
8. II-7区19号土坑土層断面(西)
9. II-7区20号土坑全景・土層断面(北)
10. II-7区21号土坑土層断面(北)
11. II-7区22号土坑全景(北)
12. II-7区21号土坑土層断面(南)
13. II-7区24号土坑遺物出土状況(南西)
14. II-7区24号土坑遺物出土状況(南西)
15. II-7区24号土坑全景(南西)

PL. 4

1. II-6区25号土坑土層断面(東)
2. II-6区26号土坑土層断面(南)
3. II-7区27号土坑全景(北)
4. II-7区28号土坑全景・土層断面(南)
5. II-2区1号井戸全景(北)

6. II-2区1号井戸土層断面(南)

7. II-2区2号井戸全景(北)

8. II-2区2号井戸土層断面(西)

PL. 5

1. II-1区3号井戸全景・土層断面(西)
2. II-3区1号溝全景(北)
3. II-3区1号溝土層断面(東)
4. II-3区2号溝全景(南)
5. II-1区3号溝全景(北)
6. II-1区3号溝土層断面(北)
7. II-2区3号溝全景(北)
8. II-2区3号溝土層断面(北)

PL. 6

1. II-3区3号溝南部全景(北)
2. II-3区3号溝北部全景(北)
3. II-3区3号溝土層断面(南)
4. II-4区3号溝全景(南)
5. II-5区3号溝全景(南)
6. II-7区5号溝全景・土層断面(東)
7. II-7区6・7号溝全景(東)

PL. 7

1. II-7区8号溝全景(西)
2. II-6区8号溝土層断面(西)
3. II-7区9号溝全景(北)
4. II-7区9号溝全景(西)
5. II-7区9号溝土層断面(西)
6. II-3区1号ピット全景(南)
7. II-3区1号ピット土層断面(東)
8. II-3区2号ピット全景・土層断面(南西)
9. II-5区3号ピット全景(東)
10. II-5区3号ピット土層断面(東)
11. II-7区4・5号ピット全景・土層断面(北)
12. II-7区6号ピット全景・土層断面(北)
13. II-7区7号ピット全景・土層断面(南)
14. II-7区8号ピット全景(北)
15. II-7区9号ピット全景(北)

PL. 8

1. II-6区1号地下式坑全景(南西)
2. II-3区1号竪穴状遺構遺物出土状況(東)
3. II-3区1号竪穴状遺構全景(北)
4. II-4区2号竪穴状遺構全景(東)
5. II-4区2号竪穴状遺構土層断面(南)
6. II-6区1号礎石全景(南)
7. III-1区全景(北)
8. III-1区土層断面(南)

PL. 9

1. III-2区全景(南西)
2. III-3区全景(南)
3. III-4区全景(南)
4. III-5区全景西端(南)
5. III-5区全景(南東)
6. III-5区全景(北西)
7. III-5区全景(南東)

PL.10

1. III-5区1号土坑全景(北東)
2. III-5区1号土坑土層断面(東)
3. III-5区2号土坑全景(北西)
4. III-5区2号土坑土層断面(東)
5. III-5区3号土坑全景(北)
6. III-5区3号土坑土層断面(南西)
7. III-5区4号土坑全景・遺物出土状況(北東)
8. III-5区4号土坑土層断面(南東)
9. III-5区5号土坑全景・土層断面全景(北東)
10. III-5区6号土坑土層断面(南東)
11. III-3区7号土坑全景(東)
12. III-3区7号土坑土層断面(東)
13. III-3区8号土坑全景(南東)
14. III-3区8号土坑土層断面(東)
15. III-5区9号土坑全景(西)

PL.11

1. III-3区10号土坑全景(東)
2. III-3区10号土坑土層断面(東)
3. III-5区11号土坑全景(南西)
4. III-5区11号土坑土層断面(南西)
5. III-5区12号土坑全景・土層断面(南西)
6. III-5区13号土坑全景・土層断面(北)
7. III-5区14号土坑全景・遺物出土状況(北東)
8. III-5区15号土坑全景(南西)
9. III-5区15号土坑土層断面(南西)
10. III-5区16号土坑全景・土層断面(北東)
11. III-5区17号土坑全景(南)
12. III-5区17号土坑土層断面(北西)
13. III-5区18号土坑全景・土層断面(北西)
14. III-5区19号土坑全景(南西)
15. III-2区20号土坑全景(東)

PL.12

1. III-2区21号土坑全景・土層断面(東)
2. III-2区22号土坑遺物出土状況(東)
3. III-2区22号土坑全景・土層断面(東)
4. III-2区23・24号土坑全景(南)
5. III-2区23・25号土坑全景(北西)
6. III-2区23・25号土坑土層断面(南)
7. III-5区27号土坑全景(南西)
8. III-5区28・29号土坑全景(南西)
9. III-4区30号土坑全景(南東)
10. III-4区30号土坑土層断面(東)
11. III-4区31・58号土坑全景(西)
12. III-4区31号土坑土層断面(東)
13. III-5区32号土坑全景(東)
14. III-5区32号土坑土層断面(南東)
15. III-4区33・37号土坑全景(南東)

PL.13

1. III-4区34号土坑全景(南東)
2. III-4区34号土坑土層断面(西)
3. III-4区35号土坑土層断面(西)
4. III-4区36号土坑全景(北西)
5. III-4区36号土坑土層断面(南)

6. III-4区38号土坑全景(西)
7. III-4区38号土坑土層断面(西)
8. III-4区40・41号土坑全景(南西)
9. III-4区42・44～46号土坑全景(北西)
10. III-4区42号土坑土層断面(南西)
11. III-4区44号土坑全景(南東)
12. III-4区46号土坑土層断面(南東)
13. III-4区47号土坑全景(西)
14. III-4区47号土坑土層断面(南東)
15. III-4区47号土坑礫下全景(西)

PL.14

1. III-4区47号土坑礫下土層断面(南)
2. III-4区48号土坑全景(南西)
3. III-4区50号土坑全景・土層断面(南東)
4. III-5区51～54・57・60号土坑全景(北西)
5. III-5区51号土坑土層断面(南西)
6. III-5区52号土坑土層断面(南東)
7. III-5区53号土坑土層断面(北東)
8. III-5区54号土坑土層断面(北東)
9. III-5区55号土坑全景(北東)
10. III-5区55号土坑土層断面(南西)
11. III-5区56号土坑全景(北東)
12. III-5区56号土坑土層断面(南西)
13. III-5区57号土坑全景・土層断面(南西)
14. III-1区59号土坑土層断面(北)
15. III-5区60号土坑土層断面(北西)

PL.15

1. III-5区1号井戸全景(北西)
2. III-5区1号井戸土層断面(北東)
3. III-4区2号井戸全景(北西)
4. III-4区2号井戸土層断面(南東)
5. III-4区3号井戸全景(南東)
6. III-4区3号井戸土層断面(北東)
7. III-5区1号溝全景(北)
8. III-3区3号溝全景(南西)

PL.16

1. III-3区3号溝土層断面(南西)
2. III-4区3号溝全景(南西)
3. III-4区3号溝土層断面(南西)
4. III-2区4号溝全景(南西)
5. III-3区4号溝土層断面A-A' (南西)
6. III-3区4号溝土層断面B-B' (北東)
7. III-4区5号溝全景(南東)
8. III-4区5号溝土層断面(南)

PL.17

1. III-5区2号ピット全景・土層断面(北)
2. III-5区3号ピット全景・土層断面(東)
3. III-5区5号ピット全景(北西)
4. III-5区5号ピット土層断面(北西)
5. III-5区6号ピット土層断面(西)
6. III-4区7・18号ピット全景(北西)
7. III-4区8・9号ピット全景(北西)
8. III-4区10号ピット全景(南東)
9. III-4区12号ピット全景(南)
10. III-4区13号ピット全景(北西)
11. III-4区13号ピット土層断面(南)
12. III-4区ピット群(北西)
13. III-5区21号ピット土層断面(北)
14. III-5区22号ピット土層断面(西)
15. III-5区23号ピット土層断面(南)

PL.18

1. Ⅲ-5区24号ピット土層断面(北西)
2. Ⅲ-5区25号ピット土層断面(南東)
3. Ⅲ-5区26号ピット土層断面(北西)
4. Ⅲ-4区27号ピット土層断面(北西)
5. Ⅲ-5区ピット群全景(東)
6. Ⅲ-5区1号礎石全景(北東)
7. Ⅲ-5区1号礎石土層断面(北東)
8. Ⅲ-5区1号礎石石組み状況(南)
9. Ⅲ-5区2号礎石全景(東)
10. Ⅲ-5区2号礎石全景(南西)
11. Ⅲ-5区2号礎石土層断面(西)
12. Ⅲ-4区3~7号礎石全景(南)
13. Ⅲ-4区3・4号礎石土層断面(北西)
14. Ⅲ-4区3号礎石土層断面(北西)
15. Ⅲ-4区4号礎石全景(北西)

PL.19

1. Ⅲ-4区4号礎石土層断面(東)
2. Ⅲ-4区5号礎石全景(北東)
3. Ⅲ-4区5号礎石土層断面(南東)
4. Ⅲ-4区6号礎石全景(北西)
5. Ⅲ-4区6号礎石土層断面(東)
6. Ⅲ-4区7号礎石全景(西)
7. Ⅲ-4区7号礎石土層断面(東)
8. Ⅲ-4区8号礎石全景(西)
9. Ⅲ-3区1号配石全景(西)
10. Ⅲ-3区1号配石完掘後全景(西)
11. Ⅲ-3区2号配石全景(西)
12. Ⅲ-3区2号配石完掘後全景(西)
13. Ⅳ-1区全景(南)
14. Ⅳ-2区全景(北東)
15. Ⅳ-3区北東端全景(北東)

PL.20

1. Ⅳ-3区西端全景(西)
2. Ⅳ-3区西全景(東)
3. Ⅳ-3区中央全景(南)
4. Ⅳ-5区全景(東)
5. Ⅳ-5区全景(東)
6. Ⅳ-4区1号土坑全景・土層断面(南)
7. Ⅳ-5区2号土坑全景(南)

PL.21

1. Ⅳ-3区4号土坑全景・土層断面(東)
2. Ⅳ-1区5号土坑全景・土層断面(東)
3. Ⅳ-1区6号土坑全景・土層断面(東)
4. Ⅳ-1区7号土坑全景・土層断面(東)
5. Ⅳ-1区8号土坑全景・土層断面(東)
6. Ⅳ-1区9号土坑全景(南)
7. Ⅳ-1区10号土坑全景・土層断面(南東)
8. Ⅳ-1区11号土坑全景(南東)
9. Ⅳ-1区11号土坑・5号井戸土層断面(東)
10. Ⅳ-1区11号土坑底部付近土層断面(南西)
11. Ⅳ-1区12号土坑全景(北西)
12. Ⅳ-1区12号土坑土層断面(東)
13. Ⅳ-1区13号土坑土層断面(西)
14. Ⅳ-4区14号土坑全景(南西)
15. Ⅳ-4区15号土坑全景・土層断面(東)

PL.22

1. Ⅳ-4区16号土坑全景(北)
2. Ⅳ-4区16号土坑土層断面(北東)
3. Ⅳ-4区17号土坑土層断面(北)
4. Ⅳ-4区18号土坑土層断面(南西)
5. Ⅳ-3区21号土坑全景(南東)

6. Ⅳ-3区21号土坑土層断面(南西)
7. Ⅳ-3区22号土坑出土遺物(東)
8. Ⅳ-3区22号土坑全景(南西)
9. Ⅳ-3区22号土坑土層断面(北)
10. Ⅳ-3区23・25号土坑土層断面(南東)
11. Ⅳ-3区25号土坑出土遺物(南東)
12. Ⅳ-3区26号土坑全景・土層断面(北西)
13. Ⅳ-3区28号土坑全景(西)
14. Ⅳ-3区29号土坑全景出土遺物状況(北)
15. Ⅳ-3区29号土坑全景(北)

PL.23

1. Ⅳ-3区29号土坑土層断面(西)
2. Ⅳ-4区30号土坑全景・土層断面(北)
3. Ⅳ-3区32号土坑遺物出土状況(南)
4. Ⅳ-3区32号土坑全景(南)
5. Ⅳ-3区32号土坑土層断面(南西)
6. Ⅳ-3区33号土坑全景・土層断面(西)
7. Ⅳ-4区34号土坑土層断面(南)
8. Ⅳ-3区36号土坑全景・土層断面(北西)
9. Ⅳ-3区38号土坑遺物出土状況(南西)
10. Ⅳ-3区38号土坑全景(南)
11. Ⅳ-3区38号土坑土層断面(南西)
12. Ⅳ-3区39号土坑全景(東)
13. Ⅳ-3区39号土坑土層断面(南)
14. Ⅳ-3区40号土坑全景(西)
15. Ⅳ-3区40号土坑土層断面(北西)

PL.24

1. Ⅳ-3区41号土坑全景(北)
2. Ⅳ-3区42号土坑全景(東)
3. Ⅳ-3区42号土坑土層断面(南)
4. Ⅳ-3区43号土坑全景(南)
5. Ⅳ-3区43号土坑土層断面(南西)
6. Ⅳ-2区44号土坑全景・土層断面(北)
7. Ⅳ-3区1号井戸全景・土層断面(東)
8. Ⅳ-3区2号井戸全景・土層断面(南)
9. Ⅳ-1区3号井戸全景(南東)
10. Ⅳ-1区3号井戸土層断面(南西)
11. Ⅳ-1区4号井戸土層断面(北東)
12. Ⅳ-3区6号井戸全景(北東)
13. Ⅳ-3区6号井戸土層断面(南東)
14. Ⅳ-3区7号井戸全景(北東)
15. Ⅳ-3区7号井戸土層断面(南東)

PL.25

1. Ⅳ-3区8号井戸全景(北)
2. Ⅳ-4区9号井戸全景(東)
3. Ⅳ-3区10号井戸全景・土層断面(北)
4. Ⅳ-3区11号井戸全景・土層断面(東)
5. Ⅳ-2区12号井戸全景(西)
6. Ⅳ-2区12号井戸土層断面(北東)
7. Ⅳ-3区13号井戸全景(北東)
8. Ⅳ-2区13号井戸全景・土層断面(南)

PL.26

1. Ⅳ-5区1号溝全景(南)
2. Ⅳ-5区1号溝土層断面(北)
3. Ⅳ-5区2号溝全景(南東)
4. Ⅳ-5区2号溝(北)
5. Ⅳ-1区3号溝全景・土層断面(東)
6. Ⅳ-4区4号溝土層断面(南)
7. Ⅳ-5区4号ピット土層断面(南)
8. Ⅳ-5区5号ピット全景(南)

PL.27

1. IV-5区6号ピット全景(南)
2. IV-5区7号ピット土層断面(東)
3. IV-1区21号ピット土層断面(東)
4. IV-1区22・23号ピット全景(北西)
5. IV-1区22号ピット土層断面(南)
6. IV-1区24～27・30・31・33号ピット群全景(南東)
7. IV-1区23号ピット土層断面(南西)
8. IV-1区24号ピット土層断面(南)
9. IV-1区25号ピット土層断面(西)
10. IV-1区26号ピット土層断面(南)
11. IV-1区27号ピット土層断面(南)
12. IV-1区30号ピット土層断面(南西)
13. IV-1区31号ピット土層断面(南西)
14. IV-4区34号ピット全景・土層断面(南西)
15. IV-4区36号ピット土層断面(北東)

PL.28

1. IV-4区37号ピット土層断面(東)
2. IV-4区38号ピット土層断面(南西)
3. IV-4区39号ピット土層断面(北西)
4. IV-3区40～42号ピット全景・土層断面(南東)
5. IV-4区60号ピット土層断面(南)
6. IV-4区61・62号ピット土層断面(南)
7. IV-3区63号ピット土層断面(南)

8. IV-3区64号ピット全景(北)
9. IV-3区65号ピット全景(西南)
10. IV-3区66号ピット全景(北)
11. IV-3区66号ピット土層断面(北西)
12. IV-3区67号ピット全景(北)
13. IV-3区68号ピット全景(北西)
14. IV-2区69号ピット土層断面(東)
15. IV-2区70号ピット土層断面(南西)

PL.29

1. IV-2区71号ピット土層断面(南西)
2. IV-2区72号ピット土層断面(南)
3. IV-4区3～5号礎石全景(南東)
4. IV-5区2号礎石全景(南)
5. IV-5区2号礎石土層断面(南)
6. IV-4区3号礎石全景(南西)
7. IV-4区3号礎石掘方全景(南)
8. IV-4区4号礎石全景(南西)
9. IV-4区4号礎石上面石取り上げ後(南)
10. IV-4区4号礎石完掘後全景(北)
11. IV-4区5号礎石全景(南西)
12. IV-4区5号礎石下面全景(南)
13. IV-4区5号礎石完掘後全景(南)
14. IV-2区旧石器確認調査坑全景(南)
15. IV-2区旧石器確認調査坑土層断面(北西)

第1章 調査に至る経緯、調査の方法・経過

第1節 調査に至る経緯

世良田環濠集落遺跡は群馬県太田市世良田町に所在する(第1図)。世良田町は太田市の南西の端にあたり、旧尾島町の西端に位置する。

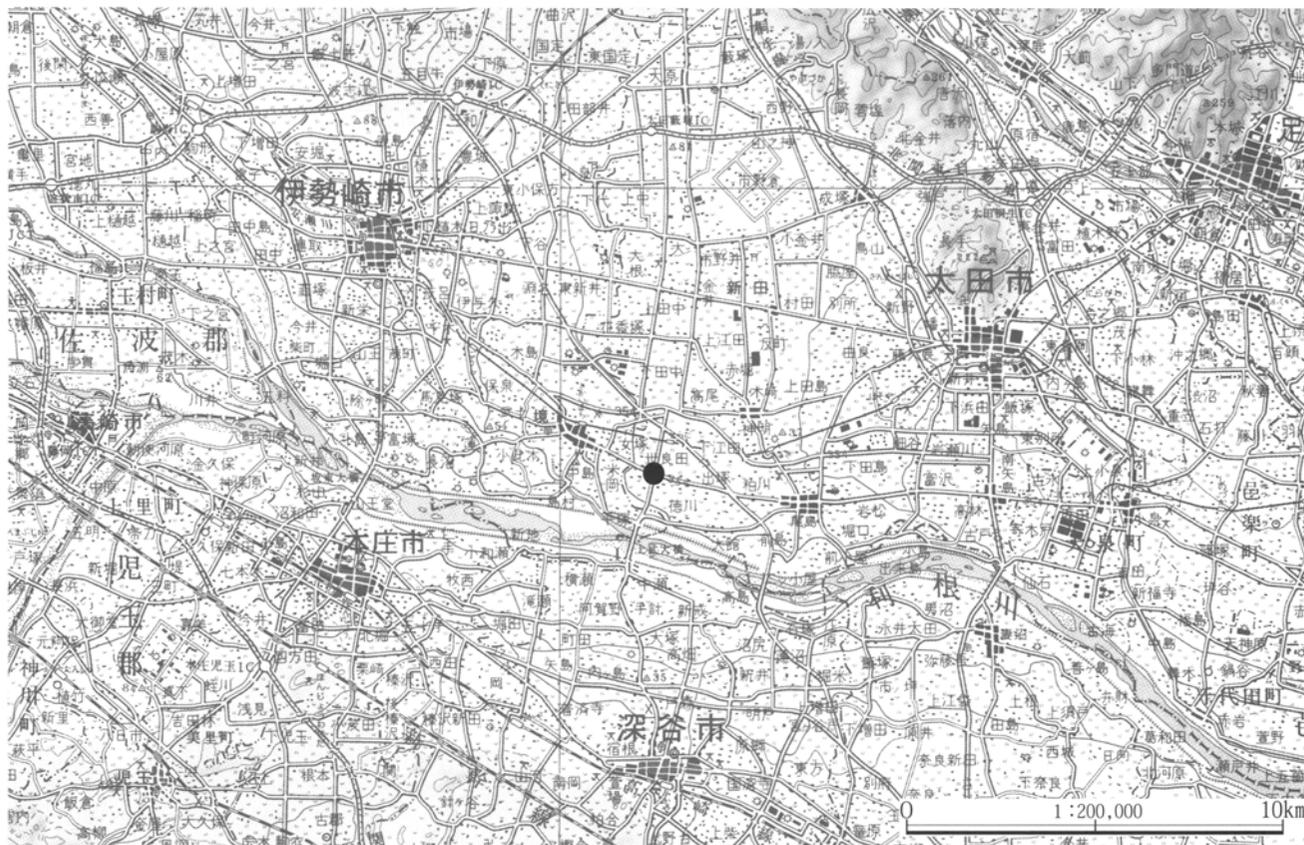
発掘調査は、世良田町を南北に走る主要地方道大間々世良田線、同伊勢崎・深谷線と、東西に貫く国道354線とが交わる世良田交差点の改良工事に先立って行われた。

改良工事では、交差点付近の道路が拡幅されるため、交差点4方向が発掘調査の対象となった。国道354線の北側、主要地方道大間々世良田線の北東側にあたる調査区(1区)における調査成果については、平成27年1月16日に当事業団から刊行された『公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第595集 世良田環濠集落遺跡(1)社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)(主)大間々世良田線世良田交差点改良工事に伴う埋蔵文

化財発掘調査報告書』にすでに纏められている。

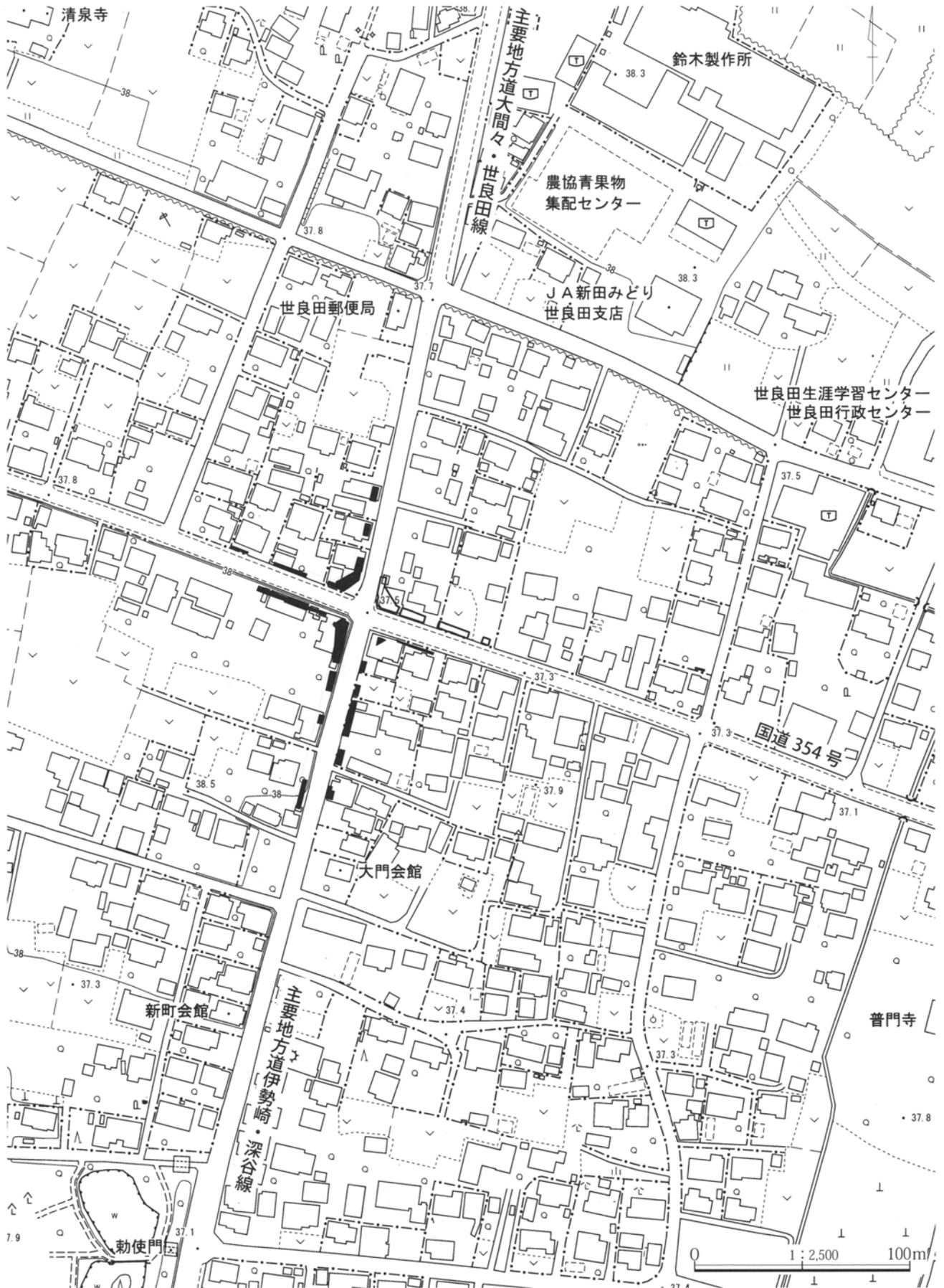
この事業については、平成25年5月10日、群馬県県土整備部建設企画課から群馬県教育委員会事務局文化財保護課に対して、平成25年度社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)(主)大間々世良田線世良田交差点改良工事についての事業照会から始まった。県教育委員会文化財保護課は、同年6月18日、当該箇所が周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲内にあたることから、文化財保護法第94条による届出が必要なこと、工事対象地の遺構の有無次第では埋蔵文化財発掘調査が必要なことを回答した。

8月26日に、県太田土木事務所と県教育委員会文化財保護課により現地協議が行われ、県教育委員会文化財保護課からは試掘調査の実施が提案され、9月30日に県教育委員会文化財保護課が試掘調査を実施し、遺構の存在を確認したため、埋蔵文化財の記録保存を前提とした発掘調査が行われ、県太田土木事務所から当事業団に委託



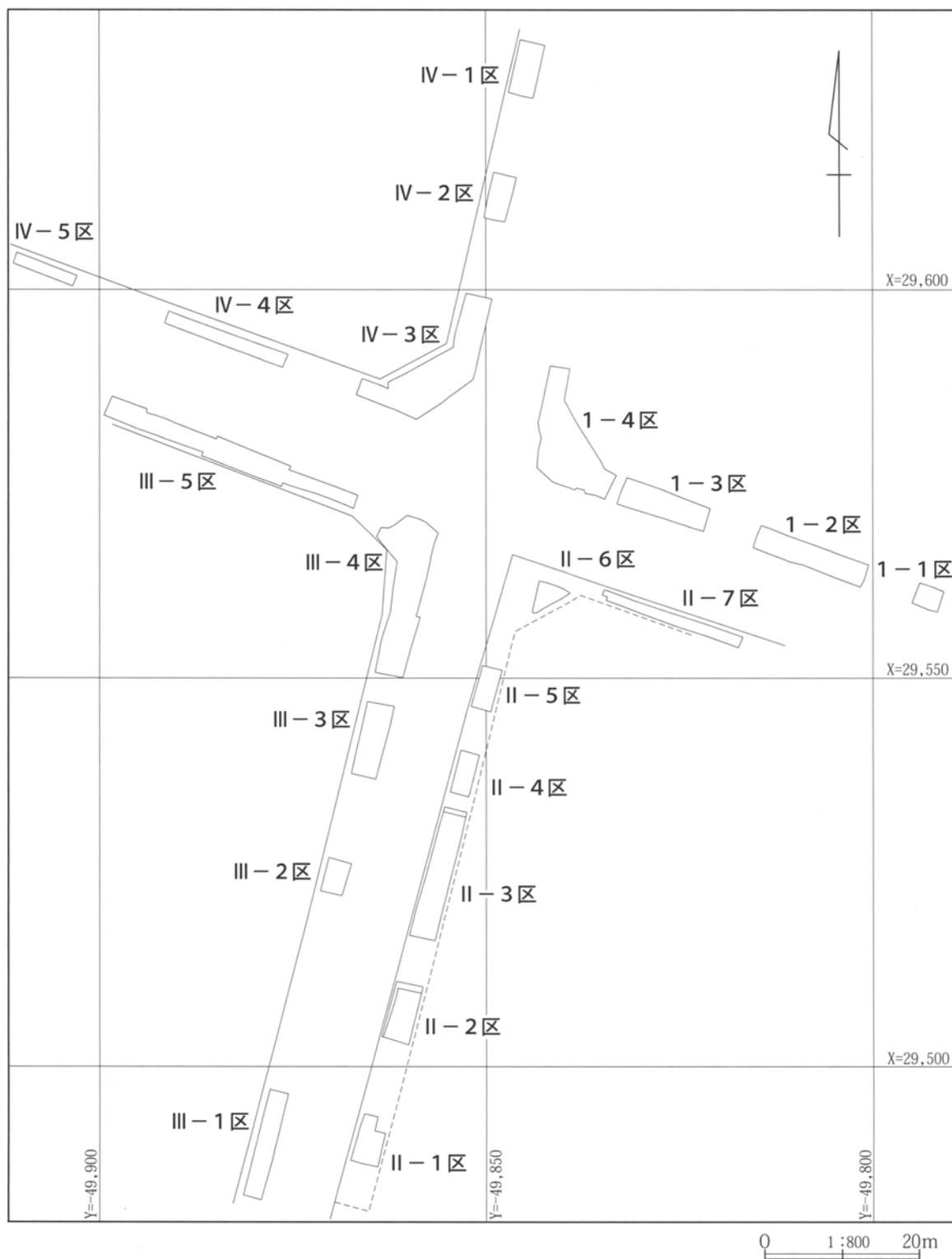
第1図 遺跡の位置(1)

(国土地理院200,000分の1地勢図「宇都宮」(平成23年6月1日発行)使用)



第2図 遺跡の位置(2)

(太田市長の承認を得て、同市発行の2,500分の1地形図(平成23年測図)を使用)



第3図 調査区設定図

されることとなった。

世良田交差点北東側の発掘調査は、平成26年2月1日から28日まで当事業団によって実施され、平成26年9月1日から平成27年1月31日までの間、整理作業が実施された。

交差点北西・南東・南東側の発掘調査は、平成26年6月1日から6月30日までと、平成26年10月1日から12月31日までの2回にわたって実施し、整理業務を平成27年4月1日から9月30日までの間実施した。

第2節 調査の方法と経過

1. 調査の方法

調査の対象になったのは世良田交差点の北西、南東、南西側3箇所であり、南東側をⅡ区、南西側をⅢ区、北西側をⅣ区とした。それぞれの調査区は、対象地に隣接する民家への進入路、あるいはすでに地下に埋納されたライフライン確保のため寸断され、Ⅱ区はⅡ-1～7調査区、Ⅲ区はⅢ-1～5調査区、Ⅳ区はⅣ-1～5調査区に細分して調査を行った。

遺構の測量には世界測地系(日本測地系2000平面直角座標Ⅹ系)を用いた。調査区が狭小であるため、特に本遺跡特有のグリッドは設けていない。位置の表示が必要な場合は、1m×1m単位のグリッドを作り、その南東側の差票の下三桁を用いて表している(例：X=29,565、Y=-49,804の場合、565-804と表す)。

調査の方法であるが、バックホーによる表土除去の後、鋤簾を用いて遺構確認を行い、確認できた遺構について発掘調査を行った。住宅密集地における発掘調査だったため、遺構確認面には多くの攪乱がみられ、遺構確認は困難を極めた。確認できた主な遺構は、地下式坑1、土坑132、溝18、井戸20、ピット117、礎石14などであり、それぞれ埋土の土層観察のために半裁するなどをして掘り下げた。各遺構の名称は、各調査区ごと、各遺構の種類ごとに番号を付して表現した。

遺構の測量は測量業者に委託し、平面図、断面図ともに縮尺は1/20とし、データをデジタル化してその後の整理作業の便を図っている。また、写真撮影はデジタル一眼レフカメラにより、一部にブローニー版の白黒フィルムを使用している。

なお、すでに報告書を刊行した1区では、調査対象地に、ロームではないかと思われる土層の堆積が認められたため、1-3調査区において2m×2mの旧石器確認のためのトレンチを設定して確認調査を実施したが、良好なローム層は確認することができなかったので、本調査区でも旧石器の分布はないものと判断し、それ以上の調査は行なっていなかった。

今回の調査ではⅢ-4調査区及びⅣ-3調査区において2m×2mの旧石器確認のためのトレンチを2箇所設

定して確認調査を実施したが、良好なローム層は確認することができなかったので、本調査区でも旧石器の分布はないものと判断し、それ以上の調査は行わなかった。

2. 調査の経過

現地における発掘調査は平成26年6月2日(月)から着手し、最初に世良田交差点南東側にあたるⅡ区の調査から着手した。6月27日(金)までⅡ-5区の調査を実施して、一時中断し、その後、11月7日(金)から再着手した。11月10日(月)からはⅢ区・Ⅳ区の調査にも着手し、11月14日(金)にはⅡ-7区の埋め戻しに着手し、11月17日(月)にはⅡ区のすべての調査を終了し、Ⅱ区から撤収している。

以後、11月下旬からはⅢ区・Ⅳ区の発掘調査が主体となり、12月15日(月)からはⅣ区、翌12月16日(火)からはⅢ区でも旧石器の確認調査に着手し、12月18日(木)にはⅢ・Ⅳ区ともに埋め戻しに着手、19日(金)まで実施し、現場での作業を終え、以後は12月24日(木)まで基礎整理を実施した。

第3節 整理作業の概要

整理作業は平成27年4月1日(水)から9月30日(水)まで、6箇月間実施した。

遺構図面は調査区ごとに順次、点検・修正・編集を行い、掲載図面をデジタルデータとして作成した。遺物については、接合・復元・写真撮影・実測の後、実測図をスキャンニングしてデジタルデータ化した。遺物実測と並行して遺物の観察を行い、遺物観察表を作成した。

写真は、遺構・遺物ともデジタル写真から編集をおこなった。

以上の作業と並行して本文の執筆、土層説明や各種一覧表を作成し、それらを併せてレイアウトを作成した後にデジタル編集し、9月上旬までに報告書原稿を作成した。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

世良田環濠集落遺跡は群馬県南部の平野域の東部に位置する太田市の南西隅付近、旧尾島町の町域の西端近くに所在している。

広大な関東平野の北端に位置しており、市全体の地形は、北から中央東側にかけて金山・八王子丘陵があるが、それ以外はほぼ平坦地で、全体的には起伏に乏しい地形である。

市域の西側には広大な大間々扇状地が広がり、その南側には低い台地と、それとあまり標高差のない低地が広がっている。

市域の北東部は渡良瀬川によって栃木県と、南は利根川によって埼玉県と接しており、古代以来、上野国と下野・武蔵両国との国境地帯に位置し、交通の要衝であった。

本遺跡地の標高は、世良田交差点で37.5mである。周辺の地形分類は、第4図(Ⅰ区発掘調査報告書『公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第595集世良田環濠集落遺跡(1)社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)(主)大間々世良田線世良田交差点改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2015.1.より引用)に見るように大間々扇状地の南側にあたり、利根川の沖積作用によって形成された平野が広がっている。

本遺跡は、伊勢崎市街地から広瀬川右岸に沿って東に延びる伊勢崎台地の東端にあたり、先端は旧尾島町の中心市街地にまで及ぶ幅1km前後の細長く低い台地で、「伊勢崎砂層」で構成される「尾島台地」上に立地し、「伊勢崎砂層」の表層には二次堆積のローム層が堆積しているという(澤口宏「第二章地形・地質」『尾島町誌通史編』上巻尾島町、1993)。本遺跡では第一次調査、第二次調査とも旧石器の確認調査を実施したが、いずれの調査区においても純粋なローム層は確認できていない。

現在、本遺跡の周辺では、北側の低地が水田、南側の台地が集落や畠として利用され、遺跡のある地域は現在、

世良田の集落となっており、宅地以外には畑地である。今回、調査対象地となったのは集落中心部の交差点周辺であり、江戸時代後期～幕末期の絵図でも宅地として描かれており、古くから宅地として利用されていたと考えられる。そのため、調査範囲には多くの攪乱が入り、遺構の残りはよい状態ではなかった。

第2節 歴史的環境

調査対象地は、インターネット上に公開されている群馬県統合型地理情報システム(GIS)マッピングぐんまの「遺跡・文化財」<http://mapping-gunma.pref.gunma.jp>、2015年9月現在のデータ)によれば、南北1km、東西1kmほどの範囲にわたって、「J0052世良田環濠集落」として中世集落・城館跡の周知の埋蔵文化財包蔵地とされている。埋蔵文化財包蔵地として認定されている範囲には、国指定史跡新田荘遺跡群を構成する総持寺境内、長楽寺境内、東照宮境内など中世から近世にかかわる寺社などが存在している。

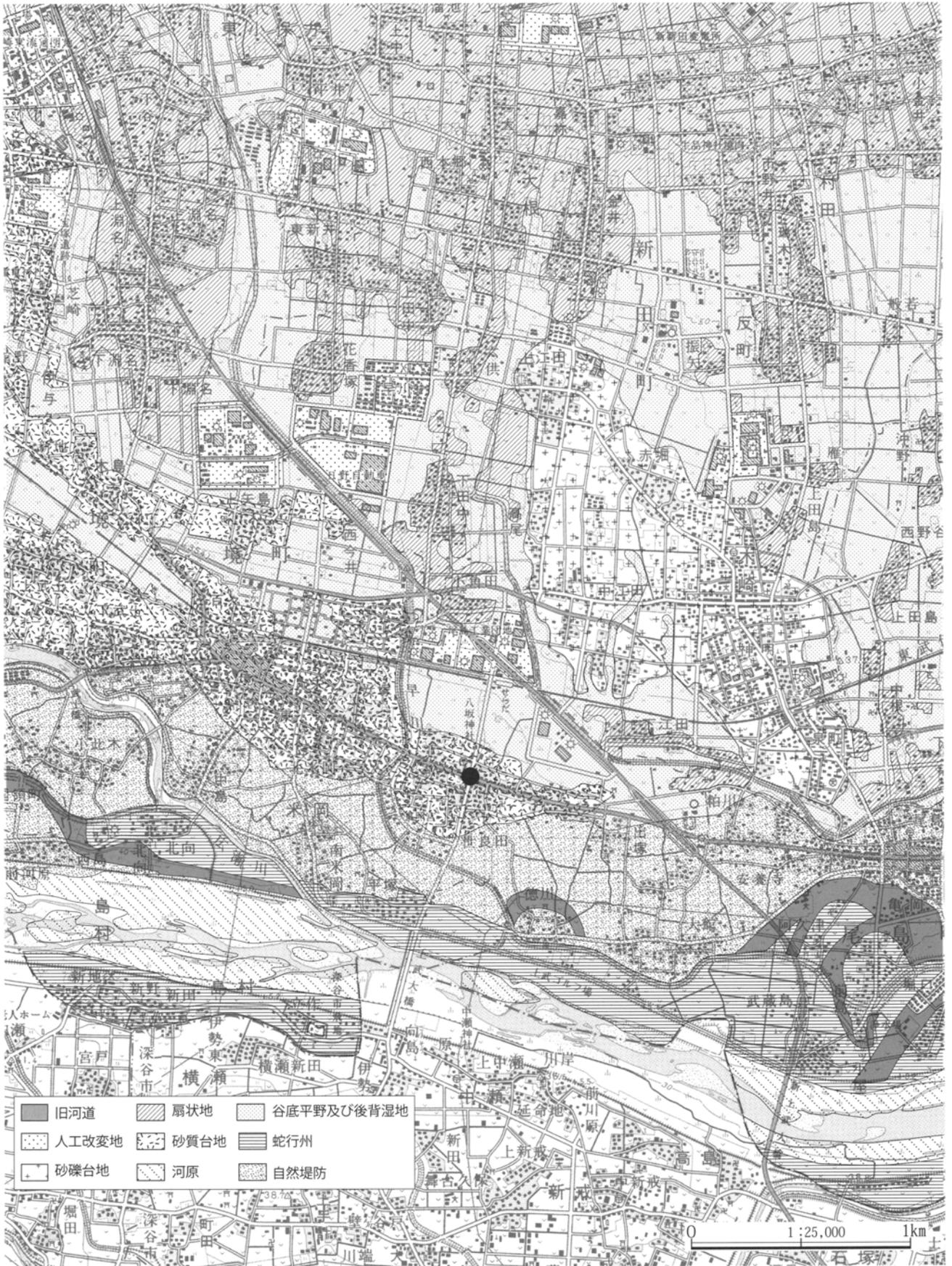
なお、第5図「周辺の遺跡」に掲載した周辺遺跡の名称・位置・範囲は、上記マッピングぐんま「遺跡・文化財」のデータに依拠した。

なお、上記は、本遺跡の先行報告書である当事業団編(資料統括高井佳弘編集担当)『公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第595集 世良田環濠集落遺跡(1)社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)(主)大間々世良田線世良田交差点改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2015.1.の第1章第1節「調査に至る経緯」・第2章第1節「地理的環境」・第2章第2節「歴史的環境」を一部引用した。

1. 旧石器時代

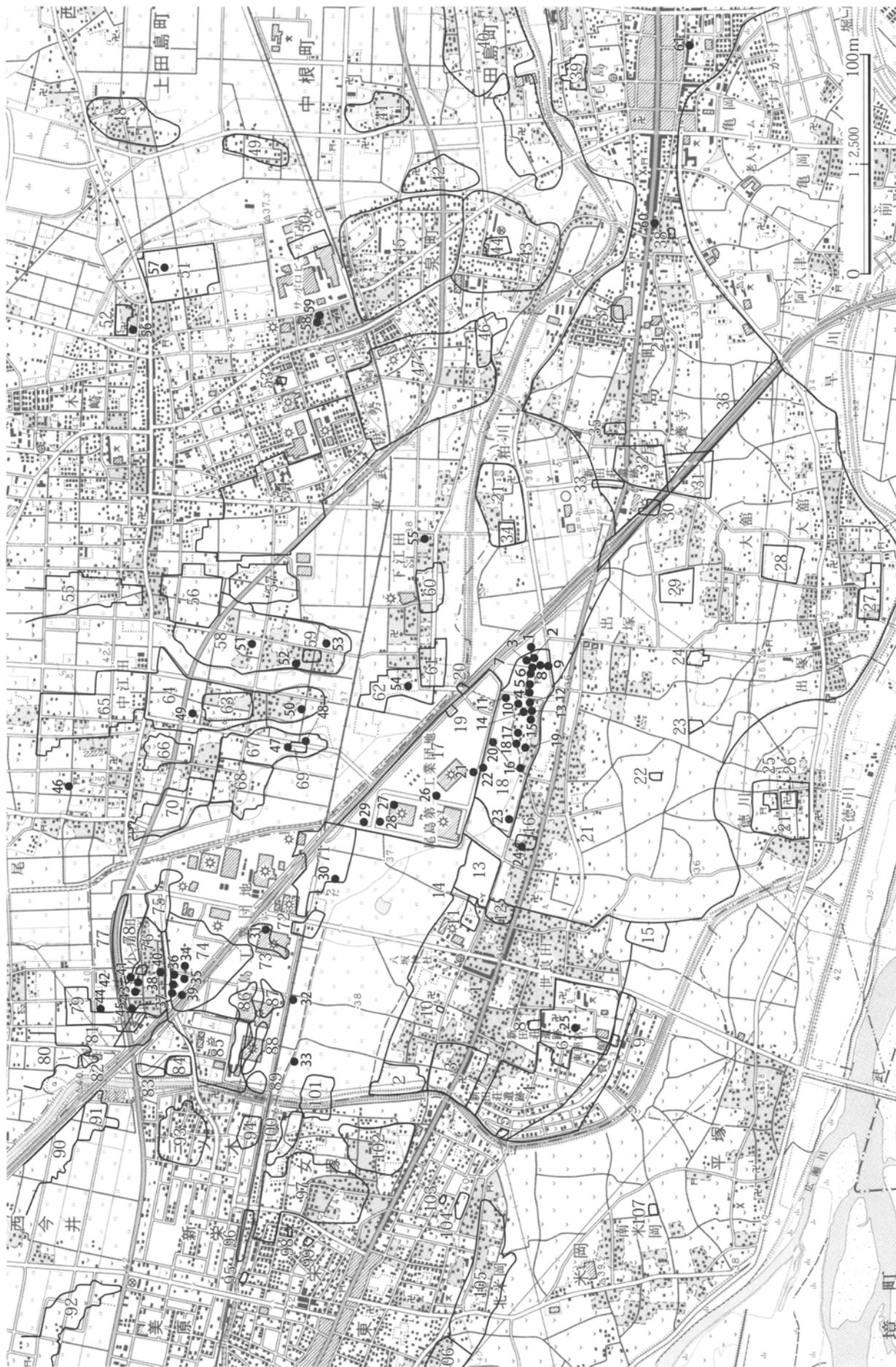
遺跡が所在する尾島台地上では、これまでのところ本遺跡を含めて旧石器時代の遺構・遺物は全く検出されない。

本遺跡の北、約1kmに位置する尾島工業団地遺跡群内



第4図 周辺地形分類図

(地形分類は群馬県『土地分類基本調査・深谷』(1991)、『同・高崎』(1993)による。国土地理院50,000分の1地形図「深谷」(平成10年9月1日発行)、『高崎』(平成10年12月1日発行)使用)



第5図 周辺の遺跡
(国土地理院25,000分の1地形図「上野境」(平成14年2月1日発行)、深谷(平成14年9月1日発行)使用)

第2章 遺跡の位置と環境

第1表 周辺の遺跡一覧表(1)

番号	遺跡名称	所在地	時代	種類	文献等
1	世良田環濠集落遺跡	太田市世良田町	中世	集落・城館	本報告書 尾島町誌専門員会1993「尾島町誌 通史編上巻」
2	上新田遺跡	太田市世良田町	古墳・中世	散布地・城館	(株)東京電力1988「西田・谷津・中道・上新田・今井遺跡」
3	新田館跡	太田市世良田町	中世	城館	(株)東京電力1988「西田・谷津・中道・上新田・今井遺跡」、尾島町教育委員会1997「新田館跡」
4	今井地区遺跡群	太田市世良田町	古墳・平安～中近世	集落・城館・寺社・墓	平成元～6に5次の発掘調査を実施
5	今井遺跡	太田市世良田町	中世・近世	集落	(株)東京電力1988「西田・谷津・中道・上新田・今井遺跡」
6	世良田館跡	太田市世良田町	中世	城館	群馬県教育委員会1988「群馬県の中世城館跡」
7	長楽寺遺跡	太田市世良田町	弥生・古墳・中世・近世	集落・社寺・古墳	尾島町教育委員会1978「長楽寺遺跡」、1984「長楽寺遺跡」、1992「長楽寺遺跡」
8	世良田新町遺跡	太田市世良田町	中世	社寺	平成10.5～7発掘調査実施
9	東照宮南遺跡	太田市安養寺町	中世・近世	城館	「群馬県の中世城館跡」
10	上新田Ⅱ遺跡	太田市世良田町	中世	集落	昭和63.9～10発掘調査実施
11	岩松陣屋跡	太田市世良田町	中世・近世	城館	「群馬県の中世城館跡」
12	船田館跡	太田市世良田町	古墳・中世・近世	集落・城館・寺社	「尾島町誌通史編上巻」
13	宝積院跡	太田市世良田町	古墳・中世・近世	集落・城館・寺社	尾島町誌専門員会1993「尾島町誌通史編上巻」
14	世良田陣屋	太田市世良田町	中世・近世	その他	平成14・15発掘調査実施
15	精進場遺跡	太田市世良田町	奈良・平安	散布地	昭和61.11試掘
16	世良田下町遺跡	太田市世良田町	古墳・中世・近世	散布地	
17	世良田諏訪下遺跡	太田市世良田町	古墳・平安・中近世	古墳・集落・生産	尾島町教育委員会1994「世良田諏訪下遺跡」
18	下原古墳群	太田市世良田町	古墳	古墳	
19	世良田下江田前遺跡	太田市世良田町	不明	不明	尾島町教育委員会1992「出塚大日南遺跡・粕川黒川遺跡・世良田下江田前遺跡」
20	下江田前遺跡	太田市世良田町	中世	その他	群埋文1991「飯土井二本松遺跡・下江田前遺跡」
21	FP泥流下遺跡群	太田市	古墳	集落・生産	
22	世良田若宮遺跡	太田市世良田町	古墳	散布地	
23	世良田諏訪東遺跡	太田市世良田町	古墳・奈良	散布地	
24	出塚大日南遺跡	太田市出塚町	古墳	散布地	尾島町教育委員会1992「出塚大日南遺跡・粕川黒川遺跡・世良田下江田前遺跡」
25	徳川館跡	太田市徳川町	中世	城館	昭和63.5発掘調査実施
26	縁切寺満徳寺遺跡	太田市世良田町	近世	社寺	発掘調査実施
27	大館御蔵遺跡	太田市大館町	古墳・中世	散布地	昭和61.12調査(試掘)
28	大館館跡	太田市大館町	縄文・古墳	散布地	「群馬県の中世城館跡」
29	安養寺西居立遺跡	太田市安養寺町	中世	城館	「群馬県の中世城館跡」
30	安養寺居立遺跡	太田市安養寺町	縄文・古墳	散布地	
31	安養寺森南遺跡	太田市安養寺町	古墳・中世・近世	城館・その他	
32	安養寺森ノ内遺跡(安養寺館跡)	太田市安養寺町	弥生・古墳・中世・近世	散布地・城館	「群馬県の中世城館跡」、尾島町教育委員会「安養寺館跡」2004
33	安養寺北原遺跡	太田市安養寺町	中世・近世	その他	平成12.6～8発掘調査実施
34	粕川本郷遺跡	太田市粕川町	古墳・奈良	散布地	
35	安養寺東居立遺跡	太田市安養寺町	中世	城館	「群馬県の中世城館跡」
36	安養寺森西遺跡・大館馬場遺跡・阿久津宮内遺跡	太田市安養寺町			群埋文1955「安養寺森西遺跡・大館馬場遺跡・阿久津宮内遺跡」
37	粕川新堀下遺跡	太田市粕川町	古墳・平安	集落・墓	尾島町教育委員会2000「粕川新堀下遺跡」
38	亀岡軽浜遺跡	太田市亀岡町	中世・近世	その他	尾島町教育委員会2005「亀岡軽浜遺跡」
39	尾島裏組遺跡	太田市尾島町	古墳・中世	散布地	
40	下田島遺跡	太田市下田島町	縄文・古墳	古墳・集落	太田市教育委員会2003「市内遺跡ⅩⅦ」、2004「市内遺跡20」、2005「市内遺跡21」
41	石之塔遺跡	太田市中根町	古墳	散布地	
42	長福寺遺跡	太田市下田島町	古墳・平安・近世・中世・江戸	集落・城館・寺社	太田市教育委員会1992「長福寺遺跡発掘調査概報」、2005「長福寺遺跡第Ⅲ次」
43	西田島遺跡	太田市下田島町	縄文・古墳・平安・近世	古墳・集落・城館	太田市教育委員会1987「西田島遺跡」、1991「西田島遺跡Ⅱ-下田島上跡の調査-」
44	岩松館址	太田市下田島町	中世	城館	
45	延亨割遺跡	太田市泉町	縄文・古墳	古墳・集落	太田市教育委員会1996「延亨割遺跡」
46	なた山遺跡	太田市粕川町	縄文・古墳	散布地	
47	粕川山之神遺跡	太田市粕川町	縄文～近世	散布地	尾島町教育委員会1992「粕川山之神遺跡」、1994「粕川山之神遺跡Ⅱ」、1997「粕川山之神遺跡」、1998「粕川山之神遺跡Ⅲ」
48	杉ノ内遺跡	太田市上田島町	古墳	散布地	
49	松木ヶ谷戸遺跡	太田市中根町	古墳	散布地	
50	下田遺跡	太田市新田木崎町	縄文・古墳	散布地・その他	新田町教育委員会1992「下田遺跡」
51	大豆柄遺跡	太田市新田木崎町	縄文・古墳	散布地・その他	『資料編(上)』『新田町誌』第2巻
52	長命寺裏遺跡	太田市新田木崎町	縄文・古墳・平安	散布地	『資料編(上)』『新田町誌』第2巻
53	中通遺跡	太田市新田木崎町	古墳	散布地	『資料編(上)』『新田町誌』第2巻
54	花園遺跡	太田市新田木崎町	旧石器・縄文～平安・中世	集落	新田町教育委員会1996「中江田遺跡群花園遺跡」、2001「新田町内遺跡Ⅲ」

第2表 周辺の遺跡一覧表(2)

番号	遺跡名称	所在地	時代	種類	文献等
55	下耕地遺跡	太田市新田赤堀町	古墳	散布地	『資料編(上)』『新田町誌』第2巻
56	寒沢遺跡	太田市新田中江田町	古墳	散布地	『資料編(上)』『新田町誌』第2巻
57	ハツ縄遺跡	太田市新田中江田町	縄文・古墳～平安・中近世	縄文・古墳～平安・中近世	群埋文1995「中江田ハツ縄遺跡」、新田町教育委員会1999「ハツ縄遺跡」
58	中江田原遺跡	太田市新田中江田町	旧石器・縄文～奈良・平安	集落	新田町教育委員会1979「中江田(原)消防詰所遺跡」、1985「中江田遺跡」、1997「中江田遺跡群」他
59	原館跡	太田市新田中江田町	中世・近世	城館	『資料編(上)』『新田町誌』第2巻
60	御門遺跡	太田市下江田町	古墳	城館	『資料編(上)』『新田町誌』第2巻
61	五反田遺跡	太田市新田下江田町	縄文・古墳	散布地	
62	下江田本郷遺跡	太田市新田下江田町	縄文・古墳	散布地	『資料編(上)』『新田町誌』第2巻
63	中江田本郷館跡	太田市新田中江田町	中世・近世	城館	『資料編(上)』『新田町誌』第2巻
64	中江田本郷遺跡(中江田本郷廃寺)	太田市新田中江田町	縄文・古墳～平安・中世	集落・寺社	新田町教育委員会1979「中江田(原)消防詰所遺跡」、1985「中江田遺跡」、1997「中江田遺跡群」他
65	赤仏遺跡	太田市新田中江田町	古墳・奈良・平安・他	散布地	
66	中江田宿通遺跡	太田市新田中江田町	古墳・奈良・平安	集落	新田町教育委員会1979「中江田(原)消防詰所遺跡」、1985「中江田遺跡」、1997「中江田遺跡群」他
67	中江田C遺跡	太田市新田中江田町	旧石器・古墳	散布地	『資料編(上)』『新田町誌』第2巻
68	中江田B遺跡	太田市新田中江田町	旧石器・縄文・古墳	散布地	『資料編(上)』『新田町誌』第2巻
69	旧来迎寺跡	太田市新田中江田町	中世・近世	社寺	『資料編(上)』『新田町誌』第2巻
70	中江田A遺跡	太田市新田中江田町	旧石器・縄文～奈良・平安	集落	新田町教育委員会1979「中江田(原)消防詰所遺跡」、1985「中江田遺跡」、1997「中江田遺跡群」、2001「上野井古墳群・揚原遺跡・中江田A遺跡」
71	歌舞伎遺跡	太田市世良田町	古墳～奈良・平安～中世	集落	群埋文1982「歌舞伎遺跡」尾島町教育委員会1998「歌舞伎遺跡」
72	世良田土屋分遺跡	太田市世良田町	古墳・奈良・平安	集落	尾島町教育委員会1995「世良田土屋分遺跡」
73	鼠塚遺跡	太田市小角田町	縄文・古墳・平安	古墳・集落	太田市教育委員会2012「尾島工業団地遺跡」
74	小角田前遺跡	太田市世良田町	古墳～奈良・平安・中世	集落	群埋文1986「小角田前遺跡」、1995「小角田前Ⅰ・Ⅱ遺跡」、太田市教育委員会2011「尾島工業団地遺跡」
75	小角田下遺跡	太田市小角田町	縄文・古墳～奈良・中世	古墳	太田市教育委員会2011「尾島工業団地遺跡」
76	小角田古墳群	太田市小角田町	古墳	古墳	
77	小角田遺跡群	太田市小角田町	古墳・平安・近世	集落・墓他	尾島町教育委員会1997「小角田遺跡群」
78	小角田中通遺跡	太田市小角田町	中世・近世	集落・墓	平成12.1～2発掘調査実施
79	中道遺跡	太田市新田下田中町	古墳～中世		(株)東京電力1988「西田・谷津・中道・上新田・今井遺跡」、群埋文1995「下田中中道遺跡・下田中川久保遺跡」
80	下田中川久保遺跡	太田市新田下田中町	中世		新田町教育委員会2005「新田町内遺跡Ⅶ」、群埋文1995「下田中中道遺跡・下田中川久保遺跡」
81	三ツ木血沼遺跡	伊勢崎市境三ツ木町	縄文・古墳・平安・近世	古墳・集落・生産	群埋文2000「三ツ木血沼遺跡」
82	三ツ木越戸3遺跡	伊勢崎市境三ツ木町	奈良・平安	散布地	
83	三ツ木・越戸遺跡	伊勢崎市境三ツ木町	奈良・平安	散布地・集落	群埋文1981「三ツ木遺跡」
84	三ツ木・越戸2遺跡	伊勢崎市境三ツ木町	古墳・奈良・平安	散布地	
85	三ツ木・住林寺遺跡	伊勢崎市境三ツ木町	古墳・奈良・平安	集落	発掘調査1983～85実施
86	水久保遺跡	太田市小角田町	縄文・古墳・平安	古墳・城館	太田市教育委員会2013「尾島工業団地遺跡」
87	水久保Ⅱ遺跡	太田市小角田町	古墳～奈良・平安	集落	太田市教育委員会2014「尾島工業団地遺跡」
88	水久保Ⅲ遺跡	太田市小角田町	古墳～奈良・平安	集落	太田市教育委員会2014「尾島工業団地遺跡」
89	水久保Ⅳ遺跡	太田市小角田町	古墳～奈良・平安	集落	太田市教育委員会2014「尾島工業団地遺跡」
90	三ツ木遺跡	伊勢崎市境三ツ木町	縄文～奈良・平安	集落	群埋文1985「三ツ木遺跡」他
91	三ツ木・自光坊遺跡	伊勢崎市境三ツ木町	縄文～奈良・平安	散布地・集落	境町教育委員会1980「西今井・三ツ木遺跡調査概報」
92	上矢島遺跡	伊勢崎市境上矢島町	古墳～奈良・平安	集落・墓	境町教育委員会1979「上矢島遺跡発掘調査概報」
93	三ツ木・西林遺跡	伊勢崎市境三ツ木町	縄文・古墳～中世	集落・墓	山崎一1979「上毛古城址の研究」、境町教育委員会1979「西林遺跡第1次発掘調査概報」
94	女塚・下田遺跡	伊勢崎市境三ツ木町	古墳・平安～中近世	集落・墓	境町教育委員会1979「西林遺跡・下田遺跡発掘調査概報」
95	栄・谷口遺跡	伊勢崎市境栄町	古墳・奈良・平安	散布地	
96	女塚・大蔵塚遺跡	伊勢崎市境女塚町	奈良・平安	散布地	
97	女塚遺跡	伊勢崎市境女塚町	奈良・平安	散布地・集落	境町役場1978「境町の古代遺跡」他
98	女塚・道西遺跡	伊勢崎市境女塚町	奈良・平安	散布地	
99	女塚・新開地遺跡	伊勢崎市境女塚町	古墳・奈良・平安	散布地	
100	女塚・堀込遺跡	伊勢崎市境三ツ木町	古墳・奈良・平安	散布地	
101	三蔵城跡遺跡	太田市世良田町	中世	城館	「群馬県の中世城館跡」
102	女塚・熊之野3遺跡	伊勢崎市境米岡町	奈良・平安	散布地	
103	女塚・熊之野2遺跡	伊勢崎市境米岡町	縄文	散布地	
104	女塚・熊之野1遺跡	伊勢崎市境米岡町	縄文	散布地	
105	北米岡遺跡	伊勢崎市境米岡町	縄文・古墳～中世	散布地・集落	県立伊勢崎女子高等学校1962「群馬県境町北米岡遺跡」
106	米岡・沼端遺跡	伊勢崎市境米岡町	縄文・古墳・奈良・平安	散布地	
107	米岡・光正坊遺跡	伊勢崎市境米岡町	平安・中世	散布地	

第2章 遺跡の位置と環境

第3表 周辺の遺跡一覧表(3)

古墳

番号	古墳名称	所在地	時代	種類	文献等
1	世良田村1号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
2	世良田村2号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
3	世良田村3号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
4	世良田村4号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
5	世良田村5号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
6	世良田村6号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
7	世良田村7号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
8	世良田村8号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
9	世良田村9号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
10	世良田村10号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
11	世良田村11号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
12	世良田村12号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
13	世良田村13号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
14	世良田村14号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
15	世良田村15号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
16	世良田村16号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
17	世良田村17号墳(一本松塚古墳)	太田市世良田町	古墳・中世・近世	散布地	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
18	世良田村18号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
19	世良田村19号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
20	世良田村20号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
21	世良田村21号墳(しどみ山古墳)	太田市世良田町	古墳・中世・近世	散布地	尾島町教育委員会1994「世良田諏訪下遺跡」
22	世良田村22号墳(第二しどみ山古墳)	太田市世良田町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
23	世良田村23号墳(二休地蔵塚古墳)	太田市世良田町	古墳・中世・近世	散布地	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
24	世良田村24号墳(落衛塚古墳)	太田市世良田町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
25	徳川義孝累代の墓・世良田村25号墳(文殊山古墳)	太田市世良田町	古墳・中世	古墳・墓その他	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
26	世良田村26号墳(稲荷山古墳)	太田市世良田町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
27	世良田村27号墳(下ノ諏訪古墳)	太田市世良田町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
28	世良田村28号墳(二子塚古墳)	太田市世良田町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
29	世良田村29号墳(御稲荷山古墳)	太田市世良田町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
30	世良田村30号墳(歌舞伎山古墳)	太田市世良田町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
31	世良田村31号墳(鼠塚古墳)	太田市世良田町	古墳	古墳(前方後円墳)	太田市教育委員会2011「尾島工業団地遺跡」
32	世良田村32号墳(銭神塚古墳)	太田市世良田町	古墳	古墳	太田市教育委員会2011「尾島工業団地遺跡」
33	世良田村33号墳(上ノ諏訪古墳)	太田市世良田町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
34	世良田村34号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会1998「世良田諏訪下遺跡」
35	世良田村35号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会1999「世良田諏訪下遺跡」
36	世良田村36号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会2000「世良田諏訪下遺跡」
37	世良田村37号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会2001「世良田諏訪下遺跡」
38	世良田村38号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会2002「世良田諏訪下遺跡」
39	世良田村39号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会2003「世良田諏訪下遺跡」
40	世良田村40号墳	太田市世良田町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
41	世良田村42号墳	太田市小角田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会2004「世良田諏訪下遺跡」
42	世良田村43号墳	太田市小角田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会2005「世良田諏訪下遺跡」
43	世良田村44号墳	太田市小角田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会2006「世良田諏訪下遺跡」
44	世良田村45号墳	太田市小角田町	古墳	古墳	尾島町教育委員会2007「世良田諏訪下遺跡」
45	中道1号墳	太田市新田下田中町	古墳	古墳	群埋文1995「下田中中道遺跡・下田中川久保遺跡」
46	矢抜神社古墳	太市新田中江田町	古墳	古墳	
47	二ツ山古墳	太市新田中江田町	古墳	古墳	
48	旧来迎寺跡東古墳	太市新田中江田町	古墳	古墳	
49	石川古墳	太市新田中江田町	古墳	古墳	『資料編(上)』『新田町誌』第2巻
50	本郷古墳	太市新田中江田町	古墳	古墳	
51	百庚申古墳	太市新田中江田町	古墳	古墳	『資料編(上)』『新田町誌』第2巻
52	原古墳	太市新田中江田町	古墳	古墳	
53	森下古墳	太市新田中江田町	古墳	古墳	『資料編(上)』『新田町誌』第2巻
54	木崎村5号墳(二ツ塚古墳)	太市新田下江田町	古墳	古墳	『資料編(上)』『新田町誌』第2巻
55	長慶塚古墳	太市新田下江田町	古墳	古墳	
56	長命寺古墳	太市新田木崎町	古墳	古墳	『資料編(上)』『新田町誌』第2巻
57	大豆柄古墳	太市新田木崎町	古墳	古墳	
58	木崎二ツ塚古墳	太市新田木崎町	古墳	古墳	『資料編(上)』『新田町誌』第2巻
59	神明塚古墳	太市新田木崎町	古墳	古墳	『資料編(上)』『新田町誌』第2巻
60	尾島町1号墳	太田市尾島町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』
61	尾島町2号墳	太田市尾島町	古墳	古墳	『上毛古墳総覧』、『尾島町誌通史編上巻』

歌舞伎遺跡(71)で終末期の尖頭器、中江田A遺跡(70)と中江田原遺跡(58)からも浅間山火山灰(As-Bpブロック)を含む層位からスクレイパーが1点とナイフ型石器が2点出土している。

2. 縄文時代

遺跡が所在する尾島台地上では、現在までのところ縄文時代の遺跡も見つかっていない。

周辺では、前期～後期の集落遺跡がいくつか発見されてはいるものの、いずれも小規模である。

前期集落 本遺跡の北東約1.2kmに位置する花園遺跡(54)がある。

中期集落 本遺跡から約1～1.5km北に位置する尾島工業団地遺跡群内の歌舞伎遺跡(71)・小角田下遺跡(75)・小角田前遺跡(74)・水久保遺跡(86)・水久保Ⅱ遺跡(87)・水久保Ⅲ遺跡(88)・鼠塚遺跡(73)などがある。

後期集落 尾島工業団地遺跡群内小角田前遺跡(74)と本遺跡の東北東約3kmに位置する粕川山之神遺跡(47)などがある。

3. 弥生時代

弥生時代になるとようやく尾島台地にも小規模ながら集落が形成され始めてくる。

これら本遺跡周辺で確認されている弥生時代の集落遺跡も、本遺跡周辺の縄文時代集落と同様、いずれも小規模なものばかりである。

中期 本遺跡から約700m南側という近い位置に所在する長楽寺遺跡(6・7・25などとほぼ同位置)では、弥生時代中期中葉(須和田式期)の竪穴住居が2棟調査されている。この他、本遺跡の西南西約3kmに位置する阿久津宮内遺跡(36)では中期の条痕文土器が、また、中期の土器が、本遺跡の東北東約1.4kmに位置する花園遺跡(54)や歌舞伎遺跡(71)などから出土している。

後期 小角田前遺跡(74)では、樽式期の竪穴住居1棟が調査されている。

4. 古墳時代

前期集落等 群馬県における古墳時代前期土器の標識遺跡である石田川遺跡が本遺跡の東約6kmに存在し、本遺跡から約700m南側という近い位置にあり、弥生時代中

期中葉(須和田式期)の竪穴住居が2棟調査された長楽寺遺跡(6・7・25などとほぼ同位置)では、古墳時代前期の竪穴建物が31棟が検出されている。

他に、鼠塚遺跡(73)・小角田前遺跡(74)・小角田下遺跡(75)・花園遺跡(54)・水久保遺跡Ⅰ～Ⅳ(86～89)、本遺跡から北西に約2.5kmの三ツ木遺跡(90)などで古墳時代前期の竪穴建物群や方形周溝墓、壺棺墓等が検出されている。

中期集落 中期では前期以上に集落の規模が拡大していく様相がみられる。

尾島工業団地遺跡群では、古墳時代中期の竪穴住居合計117棟などと共に幅4.2m・深さ1.2mの南北方向の濠が検出され(鼠塚遺跡(73))、張り出しがみられることから、平面形は五角形状で、南辺約105m・東辺約60m・北東辺約110m・北西辺約90m・西辺約70m(溝)という規模を呈する古墳時代の豪族居館跡と想定された。南側の谷、北東側の旧早川、北西側の湿地という自然地形をうまく利用し、台地を分断するように2本の濠を掘って区画しており、時期は、溝からの出土遺物と土層断面の状況から、5世紀後半～6世紀初頭と見られる。

この他、歌舞伎遺跡(71)や花園遺跡(54)でも集落が調査されている。

中期の畠 本遺跡の北東約800mに位置する大館馬場遺跡(27・28付近)では、榛名山火山灰FA層下の畠も調査されている。

後期集落 本遺跡から東北東に約400mという至近に位置する宝積遺跡(13)で、この時期の集落が検出されている。

大規模な集落は、本遺跡の約1～1.5km北に位置する尾島工業団地内遺跡群で、古墳時代後期(鬼高期)の竪穴住居合計611棟検出され、周囲の世良田諏訪下遺跡(17)、小角田前遺跡(74)・歌舞伎遺跡(71)、本遺跡から北東へ約1.5kmの場所に位置する中江田A遺跡(70)・中江田原遺跡(58)、本遺跡の東北東約1.4kmに位置する花園遺跡(54)など多くの遺跡から後期の集落が発見されている。

後期の畠 本遺跡の西南西約2kmに位置する安養寺森西遺跡・阿久津宮内遺跡(36)では洪水層下の古墳時代の畠が検出された。

古墳 1938(昭和13)年に刊行された『上毛古墳総覧』に

は、旧世良田村内で55基の古墳が掲載されている。その多くは古墳時代後期・6世紀以降の径10m前後の小型円墳であるが、本遺跡の周辺で最も規模が大きい古墳は、本遺跡の北北東約1.5kmに位置する全長約90mの前方後円墳、世良田村37号墳(古墳表37)であり、大刀・刀装具・金環・埴輪多数が出土している。

本遺跡から約700m南側という近い位置に所在する長楽寺遺跡(6・7・25などとほぼ同位置)からは、周濠に榛名山火山灰FA層が堆積する円墳5基と埴輪棺1基が発見されている。

本遺跡の北東約1kmに位置する尾島第二工業団地内遺跡群内の世良田諏訪下遺跡(17)では、帆立貝式古墳4基を含む古墳73基が調査された。一部が低地に立地したため、平安時代に起こった洪水で埋没し、埴輪が配置された状態のまま検出された。

本遺跡の北約1.2kmに位置する世良田工業団地内遺跡群の鼠塚遺跡(73)では、円墳とともに『上毛古墳総覧』に「世良田村31号墳(鼠塚)」(古墳表31)として掲載されている古墳が調査され、全長44mの前方後円墳であったことが判明した。

5. 奈良・平安時代

郡・郷 本遺跡の地は律令制下には新田郡内にあたる。新田郡の郡名「新田」は、中世の『万葉集』の写本では「爾比多」、平安時代の『延喜式』や『和名抄』では「尔布多」と読みが振られており、「ニヒタ」とか「ニフタ」と発音されていたと考えられる。旧新田町内の遺跡では、「入田」と記載した墨書土器が多く出土しており、「ニフタ」と発音されていたことを裏付ける。

新田郡は、西側を佐位郡と、北東から東側にかけては山田郡と、北側を勢多郡と接し、南側は利根川を隔てて武蔵国と接している。

平安時代中期に成立したわが国最初の百科事典である『和名類聚抄』では、郡内に新田(ニフタ)・滓野(カスノ)・石西(イワセ)・祝人(ハフリ)・淡甘(タンカイまたはタコウ)・駅家(ウマヤ)の6郷があったとされる。

郡名を負う新田郷と駅家郷は郡家や駅家が設置された官衙地区の周辺である郡域中央東部一帯、滓野郷は旧尾島町粕川周辺、石西郷は太田市街地南部の岩瀬川町周辺、祝人郷は八王子丘陵西麓の平坦地一帯などがそれぞれ有

力な比定地と考えられている。

淡甘郷 世良田の周辺には「上田中」・「下田中」・「高尾」などという地名が存在することから「淡甘郷」の故地に比定されている。淡甘郷に関わる古代の史料としては、正倉院蔵の調布に、「(表)上野国新田郡淡甘郷戸主矢田部根麻呂調黄壹返長六丈廣一尺九寸 (裏)天平勝寶四年十月主當國司正六位上行介阿部朝臣息道郡司擬少領无位他田部君足人」とあり、752(天平勝寶4)年段階における郡司の氏名がわかる稀有な史料とである。また『東大寺要録』には、747(天平19)年に勅命によって東大寺に1000戸の食封が施入されたことを示す記事があり、その中に上野国新田郡内の50戸が含まれている。

新田郡家 新田郡家は、旧新田町と太田市との市町境に位置する太田市天良町天良七堂遺跡である。1955(昭和30)年に行われた発掘調査で、南北16m・東西7m、6間×3間の南北棟総柱大型礎石建物が検出され、付近から炭化米が多数出土した。この大型総柱礎石建物は、新田郡家正倉院を形成する倉庫群のうちの一棟と考えられ、この遺跡が新田郡家の遺跡である可能性が指摘された。2007(平成19)年5月の発掘調査によっても正倉院の一角を構成していたと考えられる大規模な総柱建物が発見され、さらに同年6月には主要地方道伊勢崎・足利線の北側から巨大な郡庁院の遺構が検出され、天良七堂遺跡が新田郡家の遺跡であることは確実となった。

新田駅家 『延喜式』兵部省諸国駅伝馬条によれば、新田郡内には東山道駅路が東西に貫通し、上野・下野両国から武蔵国への分岐点となった陸上交通上の要衝であり、官人の公務通行を支援すべく設けられた施設である新田駅家が置かれていた。古代において、官衙はそれぞれが比較的近辺にまとまって配置されていた様子が判明しているため、新田駅家も新田郡家からさほど遠くない場所に設置されていたものとするのが自然である。新田駅家の所在地としては、太田市新田村田から寺井にかけての場所に想定する意見が強い。

古代交通の要衝 周知のように、711(宝亀2)年、武蔵国が東海道に所管換えとなり、新田駅家から南へと分岐して武蔵国府に至っていた東山道駅路武蔵路は駅路としての扱いを受けなくなった(『続日本紀』宝亀2年10月己卯条)。これによって、制度的には、新田駅家は駅路分岐点としての重要拠点から駅路路線上の一般的な駅家と

同じになるわけで、官衝としての性格に大きな変更が生じたように感じられるが、新田駅家と武蔵国府とを結ぶ道路自体が実際に廃止されたわけではない。東山道駅路武蔵路が、道路そのものの若干の位置の変更はあるにせよ、ルートとして中世の鎌倉街道にほぼ踏襲されていることからみても、そのことは明白である。東山道駅路武蔵路は、あくまでも駅路ではなくなったということだけで、上野・下野両国間にわたる東山道駅路と武蔵国府・東海道駅路とを結ぶ連絡路的な官道として機能し続けたものと考えられる。それによって、駅路分岐点ではなくなったものの、東山道駅路と東海道駅路とを連絡する官道との分岐点として、古代陸上交通上の要衝としての重要性は、決して変わるものではなかったと見るべきであろう。

古代交通の遺跡 旧新田町内では、牛堀・矢ノ原ルートと称される高崎市南部の平地から玉村町を経て旧境町にかけて東西に貫く幅約12mの古代道路遺構に続く道路遺構と、その南側数百メートルの位置を、牛堀・矢ノ原ルートに並行して東西に貫く幅約10mの下新田ルートの二系統の駅路遺構が検出されている。また、北関東自動車道の建設に関わる調査では、さらに東に寄った金山丘陵の東麓地域である太田市東今泉町の地域で、約1kmにわたって幅約12mの古代道路遺構が検出され、これは牛堀・矢ノ原ルートにつながる道路遺構であると考えられている。

群馬県高崎市南部から玉村町、旧境町、旧新田町南部にかけて検出されている牛堀・矢ノ原ルートと、その延長上の道路と考えられる太田市東今泉町付近で検出された幅12mの古代道路遺構は、いずれも8世紀中葉から後半にかけて廃絶していることが調査の結果明らかになっており、牛堀・矢ノ原ルート、下新田ルートいずれも『延喜式』兵部省諸国駅伝馬条に記載のある段階の東山道駅路とは異なる段階の駅路の跡とみられ、むしろ『延喜式』段階における東山道駅路は、牛堀・矢ノ原ルートや下新田ルートよりはかなり北側に位置する榛名山東麓から赤城山南麓の台地上を通過していたものと考えられる。平安時代の東山道駅路は、本遺跡の北方、旧藪塚本町域内を通過していたと想定できるが、旧藪塚本町域や太田市北部地域では、現在までのところ、古代の道路遺構が検出された遺跡はない。

集落 多くの集落遺跡が調査されている。なかでも尾島工業団地内遺跡群では、奈良時代の竪穴住居が199棟、平安時代の竪穴住居211棟・大型掘立柱建物1棟を含む掘立柱建物69棟が検出され、古墳時代中期から継続的に集落が営まれた様相が明らかになっている。

この他、世良田諏訪下遺跡(17)、歌舞伎遺跡(71)、小角田前遺跡(74)、中江田宿通遺跡(66)、中江田本郷遺跡(64)、花園遺跡(54)など多くの集落遺跡が調査されている。

なお、尾島工業団地内遺跡から出土した9世紀中葉の滑石製紡輪には、上面に「矢田衆即□矢田公□子□」と線刻されたものが出土している。

水田 世良田諏訪下遺跡(17)では、9世紀の洪水で埋没した水田が2面と浅間山火山灰As-B層下水田跡が検出されている。こうした水田跡は小角田遺跡群でも検出されている。

6. 中世

新田荘 上野国内の荘園で最も著名な新田荘は、平安時代末期に成立した。

天仁元(1108)年に起きた浅間山の大噴火による火山灰(As-B)の降下によって荒廃した新田郡東南部の平野部を清和源氏嫡流の流れを汲む在地豪族新田義重が地主職を得て再開発し、1157(保元2)年に19郷を、時の治天の君である鳥羽院の御願寺であった金剛心院に寄進し、領家を当時中納言であった藤原(花山院)忠雅とした。その功績によって新田義重は改めて下司職に任ぜられ、新田荘の立券に成功したことによって成立した。

その範囲は、当初、北を鹿田山、東を金山丘陵、西を早川、南を利根川に囲まれた地域の19郷とされ、新田郡の西側を占めていた。その後、1170(嘉応二)年の「新田荘嘉応二年目録」には新たに37郷が追加され、新田郡全域に及び、義重の没後はその子供たちによって分割された。

その後、鎌倉時代の1224(元仁元)年段階では、新田氏本宗家と庶流の世良田氏・岩松氏(父系では足利氏流)の3氏の間で分割支配されるようになるが、新田氏本宗家は、義重の曾孫にあたる新田政義の代に没落し、以後は『吾妻鏡』にも登場しないような一地方御家人にまで零落してしまった。

新田氏本宗8代目の義貞は、後醍醐天皇の挙兵に呼応して、足利尊氏の嫡子(後の義詮)を奉じて鎌倉を攻め、

鎌倉幕府の中核を滅ぼした。以後、新田氏一門は南朝軍の中核となるが、次第に敗退を重ねていく南朝と共に没落してゆき、早く北朝に降った岩松氏が事実上の本宗家の地位を占めて新田荘を支配した。だが、戦国時代に入ると岩松氏も家臣で新田義宗の末裔を称した由良氏によって下剋上され、さらに小田原北条氏の傘下にあった由良氏も、1590(天正18)年、豊臣秀吉による関東攻略で秀吉軍に敗れ、居城である金山城と所領を失い、新田荘は完全に解体された。

女堀 なお、赤城山南麓の標高90～100mの等高線の間をほぼ東南東方向に、前橋市東部の荒口町、二之宮町、伊勢崎市赤堀町下触などを経て同市西国定までの全長約13kmに及ぶ12世紀初頭に開削された未完の農業用水路跡である女堀は、新田氏の関与が想定された時期もあったが、近年では、1108(天仁元)年の浅間山大噴火の降灰によって壊滅した大間々扇状地地域の農地、淵名荘の再開発のための農業用水の供給を目的に、下野国西部から上野国東部にかけて一大勢力を形成し、上野国衛の在庁官人としても主要な位置を占めていた秀郷流藤原氏の淵名氏を中心とする豪族連合であると見るのが有力である。

開削が未完に終わった理由は、自然条件的に無理が多い計画であったことや、土木技術の未熟さによる工事の破綻、義国流河内源氏と秀郷流藤原氏が次第に対立関係に陥ったことにあるとする見方がある。

新田荘関連遺跡群 本遺跡周辺には新田荘に関係する遺跡が多く存在する。

本遺跡の西、約600mに位置する現・総持寺一帯は、新田氏館跡(3)とされ、新田義重居館説や世良田頼氏・新田義貞などの居館説などがある。規模からみても新田氏本宗家惣領級の豪族の館であることには間違いのないだろう。

長楽寺 本遺跡の南側に近接し、境内が史跡新田荘遺跡群の構成要素となっている長楽寺(7)は、1221(承久3)年に得川義季がわが国の臨済宗の開祖である栄西の高弟である栄朝を開山として創建した東日本初の禅寺(「東関最初禅窟」)であるが、禅の専門道場ではなく、顕密三宗兼学の寺であった。幕府から「関東十刹」の第7位に列せられ、新田本宗家の滅亡後も鎌倉公方家の帰依を得、関東屈指の臨済宗大寺院として繁栄したが、戦国時代には寺運は著しく衰退した。

その後、長楽寺は江戸に幕府を開いた徳川家康の顧問であった天海僧正によって天台宗に改宗され、江戸時代には歴代徳川將軍の帰依を受け、世良田東照宮の別当寺ともなり、末寺七百余ヶ寺を擁する大寺院として隆盛を極めた。

なお、長楽寺境内はこれまで、1976(昭和51)年3～4月に行われた長楽寺現境内の南側、東照宮現境内の東側に隣接する尾島町立世良田小学校の改築に伴う発掘調査では、中世の基壇や井戸が、また、1981(昭和56)年9～10月に行われた長楽寺庫裏に隣接する世良田保育園改築工事に伴って行われた発掘調査では、境内の区画溝が、さらに1992(平成4)年10月に行われた長楽寺庫裏改築に伴う発掘調査では、近世末期の庫裏の建物跡の一部にあたる礎石建物跡が検出されている。この調査で検出された遺構・遺物は、本遺跡の今回の発掘調査で検出された遺構・遺物の年代観に近い。

普光庵跡古墓 世良田東照宮境内に所在する普光庵跡は、長楽寺第5世月船琛海のために、同寺第11世牧翁一が建立した墓地の跡で、長く所在地が不明であったが、1937(昭和12)年9月、落雷を受け倒れた老杉の根を撤去するために掘削したところ、骨蔵器が発見され、禅僧の埋葬形式である普同塔(共同埋葬)であることが判明した。

月船琛海は、鎌倉時代後期の1282(弘安5)年に長楽寺の住持となり、同寺の基礎を確立した名僧で、1307(徳治2)年に京都東福寺第8世となり、翌、1308(延慶元年)、東福寺において入滅、時の花園天皇より「法照禪師」の諡を下賜された。

塔所は、東福寺に営まれたが、牧翁一によって長楽寺にも分骨されたのである。

月船琛海の骨蔵器である古瀬戸灰釉三耳壺は、安山岩製の縦54.5cm、横36.3cm、高さ30cmの石櫃の中に納められ、「月船和尚」の刻銘のある一辺30cm・厚さ6cmの凝灰岩製の蓋が載せられていた。弟子6人の骨蔵器は古瀬戸灰釉四耳壺2点と灰釉瓶子4点であり、月船琛海石櫃の西側に南北一列に並んで発見された。

このように埋葬者が特定できる中世の骨蔵器は全国的に希であり、これらは瀬戸焼の編年基準となる貴重な資料として注目されている。

運河 世良田諏訪下遺跡(17)では、鎌倉時代の溝が調査

され、早川から中世世良田宿を通り石田川に至る物資運搬のための運河と考えられている。この大溝からは、中世の笹塔婆、皿、板草履など大量の木製品が出土している。

中世陶磁器の出土 徳川館跡(25)には新田氏の祖である新田義重の墓と伝えられている五輪塔があり、墓地整理の際に骨蔵器として使用された13世紀前後の古瀬戸四耳壺が出土した。こうした古瀬戸や在地産陶器を利用した中世の骨蔵器は、東照宮境内(6・8付近)の普光庵跡古墓の他に円福寺境内伝新田氏累代墓でも発見されている。

花園遺跡(54)では古瀬戸鉄釉印花合子、歌舞伎遺跡(71)からは古瀬戸灰釉水滴、上新田遺跡(新田館跡)(2)からも古瀬戸鉄釉水滴などが出土、また、長楽寺には青磁香炉・花瓶などが伝世しており当時の繁栄が窺える。

7. 近世

家康関東移配 天正18(1590)年、豊臣秀吉による小田原北条氏攻略後の徳川家康関東入封に伴い、徳川四天王・徳川十六神将・徳川三傑に数えられ、家康覇業の功臣として名高い榊原康政が上野国館林城に入り、徳川家臣中第2位の10万石を与えられ、現在の館林市・太田市域ほぼ全域を領した。

榊原康政は、この地の堤防工事や街道整備などに力を注ぎ、慶長11(1606)年5月14日に館林城にて死去。榊原家は三代にわたって館林城主の地位にあったが、寛永20(1643)年に陸奥国白河(福島県白河市)に転封され、世良田の地域は天領となった。

徳川郷 当初、「松平」の苗字と藤原氏の氏名を名乗っていた徳川家康は、新田氏の祖である新田義重の子の得川義季の末裔を自称し、武家の棟梁の一つである清和源氏の流れであることを主張するようになる。永禄9年(1566)年)、勅許を得て徳川を名乗ることを許され、従五位下三河守に叙任された。時の正親町天皇は、当初、この先例のない申請に対して勅許を躊躇したが、吉田兼右が万里小路家文書を調査した結果、先例が発見されたことにより、勅許を得るに至ったのである。家康は、朝廷より三河守の官職を得ることによって領国たる三河国支配の正当性を得るとともに、清和源氏一門である新田氏の流れを汲む徳川氏を公称することによって、家格の向上を

図ったのみならず、後に征夷大將軍に補任される正当性をも得ることになった。

1617(元和3)年に、家康の遺言に従って二代將軍秀忠が駿河国久能山より下野国日光へ家康の遺骸を改葬した際に建てられた東照社の社殿を、三代將軍家光は、1636(寛永13)年の家康21年神忌に向けて寛永の大造替を開始し、今日見られる荘厳な社殿への大規模改築が行われた。1645(正保2)年11月11日には、後光明天皇から宮号が授与され、東照社から東照宮と改称され、国家守護の「日本之神」として、翌年の例祭からは朝廷からの奉幣が恒例となり、奉幣使(日光例幣使)が派遣されるようになった。その日光例幣使が日光と京都とを往復する道を例幣使街道と呼んだ。

補注

なお、第5図「周辺の遺跡」に掲載した周辺遺跡の名称・位置・範囲は、上記マッピングぐんま「遺跡・文化財」のデータに依拠したものであり、また、以上の記述は、本遺跡の先行報告書である当事業団編(資料統括高井佳弘編集)『公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第595集 世良田環濠集落遺跡(1) 社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)(主)大間々世良田線世良田交差点改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2015.1.の第2章第1節「地理的環境」、第2章第2節「歴史的環境」を全面的に参考とし、一部引用した部分もあり、第5図「周辺の遺跡」及び第2～4表「周辺の遺跡」(古墳表を含む)は、同報告書からの全面的引用であることを明記しておく。

参考文献

- ・群馬県統合型地理情報システム(GIS)マッピングぐんま-「遺跡・文化財」<http://mapping-gunma.pref.gunma.jp/pref-gunma/top/select.asp?dtp=86&p1=3>、2015年9月現在のデータ)
- ・能登健・峰岸純夫編『よみがえる中世5浅間火山灰と中世の東国』平凡社 1989.12.
- ・尾島町誌編纂委員会編『尾島町誌 通史編』尾島町 1993
- ・新田町誌編纂委員会編『新田町誌 第4巻 新田荘と新田氏』新田町 1984
- ・新田町誌編纂委員会編『新田町誌 第1巻 通史編』新田町 1990
- ・太田市史編纂委員会編『太田市史通史編 中世』太田市 1997
- ・神谷佳明「第2章第2節「歴史的環境」(公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団事業団編『公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第595集世良田環濠集落遺跡(1) 社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)(主)大間々世良田線世良田交差点改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2015)

第3章 調査の成果

第1節 成果の概要

本遺跡は、市街地化が進んだ地域の中に所在しており、しかも今回、調査の対象となった地域は、直前まで宅地として利用されていたため、ゴミ穴などが沢山掘られるなど、現代の攪乱が数多く、遺構の残存状態は、必ずしも良好ではなかった。そのような中で調査できた遺構は、Ⅱ区からⅣ区あわせて、土坑132基、井戸20基、溝18条、ピット117基、地下式坑1基、竪穴状遺構2基、礎石14基、配石2基であった。それぞれの調査区が狭小であるため、遺構の全容を調査できたものは少なく、ほとんどの遺構が調査区外までかかっていたり、部分的に破壊されたりしていた。各区とも遺構確認面の起伏が甚だしいのが特色である。

この遺跡において最も多く検出された遺構である土坑は、調査区の全域に分布しており、とくに集中箇所はない。形態には様々なものが見られるので、用途も様々なものがあつたらしい。井戸も市街地にあるため16基と多い。いずれも素堀の井戸である。溝は区画溝の一部と見られるものがあつた。ピットの検出数も多く、数基ずつ集中しているようであり、何らかの建物の柱穴として把握できたものは皆無であつた。これは礎石についても同様に言えることである。配石も礎石の一部である可能性が高いが、礎石ほど明確ではない。

第2節 Ⅱ区で検出された遺構と遺物

Ⅱ区は、昨年度調査をした1区からみて、国道354号線を挟んだ南側にあたる部分と、同線と直角に交差する主要地方道伊勢崎深谷線の東側に道路を拡幅する部分にあたる。

調査区は7箇所に分かれ、世良田交差点を北の起点とする主要地方道伊勢崎・深谷線の東側の拡幅部分を、南側から順次、Ⅱ-1調査区、Ⅱ-2調査区、Ⅱ-3調査区、Ⅱ-4調査区、Ⅱ-5調査区とし、世良田交差点における国道354号線との交差箇所をⅡ-6区、国道354号

線の南側の調査区をⅡ-7区とした。

Ⅱ区で検出された遺構は、土坑27基、井戸4基、溝9条、ピット15基、地下式坑1基、竪穴状遺構2基、礎石1基である。

Ⅱ-1調査区は、Ⅱ区の最南端にあたり、 $X=29,485 \sim 29,495$ ・ $Y=-49,860$ に位置する。

主要地方道伊勢崎・深谷線を挟んでⅢ-1調査区の東側にあたる。土坑3基、井戸1基、溝1条が検出された。

Ⅱ-2調査区は、Ⅱ区の南から二番目の場所で、 $X=29,500 \sim 29,515$ ・ $Y=-49,855 \sim -49,865$ に位置し、主要地方道伊勢崎・深谷線を挟んで西側にはⅢ-2調査区がある。土坑1基、井戸2基、溝1条が検出された。

Ⅱ-3調査区は、Ⅱ区の南から三番目の場所で、 $X=29,515 \sim 29,535$ ・ $Y=-49,850 \sim -49,860$ に位置し、主要地方道伊勢崎・大間々線を挟んで西側にⅢ-3調査区がある。Ⅱ区最大の調査面積を有する調査区である。土坑7基、溝4条、ピット6基、竪穴状遺構1基が検出された。

Ⅱ-4調査区は、Ⅱ-3区のさらに北側の調査区であり、 $X=29,535 \sim 29,545$ ・ $Y=-49,850 \sim -49,855$ に位置する。主要地方道伊勢崎・深谷線を挟んで西側にはⅢ-3区がある。土坑2基、溝1条、竪穴状遺構1基が検出された。

Ⅱ-5調査区は、Ⅱ-4調査区のさらに北側の調査区であり、主要地方道伊勢崎・深谷線に面する最北端の調査区である。 $X=29,545 \sim 29,555$ ・ $Y=-49,845 \sim -29,855$ に位置し、主要地方道伊勢崎・深谷線を挟んで西側にはⅢ-4調査区がある。土坑2基、溝1条、ピット1基などが検出された。

Ⅱ-6調査区は、世良田交差点に面した三角形を呈する調査区であり、世良田交差点の西側にはⅢ-4調査区、北西側にはⅠ-3調査区、北側にはⅠ-4調査区がある。Ⅱ区ではこの5調査区とその東側に位置する6調査区が国道354号線に面した調査区である。 $X=29,555 \sim 29,560$ ・ $Y=-49,835 \sim -29,845$ に位置する。土坑3基、溝1条、井戸1基、地下式坑1基が検出された。

II-7調査区は、世良田交差点の東側、国道354線に面するII区では最東端の調査区である。X=29,550～29,565・Y=-49,8145～-29,835に位置し、国道354号線を挟んで北側にはI-2・3調査区がある。土坑9基、溝5条、ピット7基が検出された。

1. 土坑

II区では27基の土坑が検出された。II区の最南端にあたるII-1調査区では3基、その北側に位置するII-2調査区では1基、さらにその北側に位置するII-3調査区では7基、さらに北側のII-4調査区では2基、さらに北側のII-5調査区では2基、世良田交差点に面した三角形を呈するII-6調査区では3基、世良田交差点の東側、国道354線に面するII区では最東端の調査区であるII-7調査区では9基が検出された。

なお、23号土坑は欠番である。

(1) 1号土坑(第8図、PL.2)

位置：II-3調査区の南東隅付近に位置する2号土坑のすぐ東側、5号土坑のすぐ南側に隣接する。1～5号土坑はII-3区の南東端付近に5基まとまって存在する。それぞれの重複が甚だしい。X=29,516～29,517、Y=-49,856～-49,857。

重複関係：西側を2号土坑に掘り込まれる。

方向：N-120°-E。

規模と形状：西側を2号土坑に破壊されるが、東西に長い楕円形状を呈する。長さ0.95m・幅0.85m・深さ0.18m。全体に浅いが、西側が深く、東に行くに従って浅くなっている。

埋土：暗褐色土。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(2) 2号土坑(第8・55図、PL.2)

位置：II-3調査区の南端付近の中央部に位置する。3・4号土坑のすぐ南側に隣接する。X=29,517、Y=-49,886。

重複関係：1号土坑の西辺を掘り込む。

方向：N-4°-E。

規模と形状：南北に長い楕円形状を呈する。長さ0.65m・幅0.55m・深さ0.23m。

埋土：暗褐色土。 **遺物：**砥石片1点。 **時期：**不明。

(3) 3号土坑(第8図、PL.2)

位置：II-3調査区の南端付近のほぼ中央部に位置する。4号土坑のすぐ北東側、5号土坑のすぐ北西側に隣接する。X=29,518～29,519、Y=-49,856～-48,857。

重複関係：4号土坑の北東辺を掘り込み、5号土坑に南東辺を掘り込まれる。

方向：N-75°-E。

規模と形状：東西にやや長い楕円形状を呈する。長さ0.83m・幅0.8m・深さ0.17m。全体的に扁平で浅い。

埋土：暗褐色土。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(4) 4号土坑(第8図、PL.2)

位置：II-3調査区の南端付近のほぼ中央部に位置する。南西部落ち込みのすぐ東側、3号土坑のすぐ西側に隣接する。X=29,518、Y=-49,857。

重複関係：3号土坑に北東辺を掘り込まれる。

方向：N-20°-E。

規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。長さ0.8m・幅0.76m・深さ0.09m。全体的に扁平で浅い。

埋土：暗褐色土。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(5) 5号土坑(第8図、PL.2)

位置：II-3調査区の南端付近のほぼ中央部に位置する。1号土坑のすぐ北側、3号土坑のすぐ南側に近接する。X=29,517～29,518、Y=-49,856。

重複関係：3号土坑の南東辺を掘り込む。

方向：N-45°-E。

規模と形状：北東・南西方向にやや長い楕円形状を呈する。長さ0.7m・幅0.63m・深さ0.19m。

埋土：暗褐色土。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(6) 6号土坑(第8・55・56図、PL.2)

位置：II-3調査区のほぼ中央部のやや西寄りに位置する。3号溝のすぐ東側、2号溝のすぐ西側に近接する。X=29,524～29,526、Y=-49,856。

重複関係：2号溝の西端を掘り込む。

方向：N-14°-E。

規模と形状：南北方向に長い長円形状を呈する。長さ1.57m・幅0.55m・深さ0.37m。土坑自体の特異な形状や、皿・碗のような供食型遺物がまとまって出土しているこ

と、とくにその中に人為的穿孔が施された皿が含まれていることなどから、土葬墓あるいは何らかの祭祀・信仰に関わる遺構である可能性も考えられるが、埋土等の状況からは、積極的な証左は得られなかった。

埋土：上層に暗褐色土、中層に黒褐色土、下層に鈍い黄褐色土の堆積が見られた。**遺物**：肥前磁器染付皿4点、瀬戸・美濃陶器染付皿2点、在地土器皿4点、鉄製釘1点。土師器皿の1点には底部に人為的な穿孔がなされている。**時期**：近世末期。

(7) 7号土坑(第8・56図、PL. 2)

位置：Ⅱ-3調査区のほぼ中央部のやや西寄りに位置する。3号溝の東側、4号溝の西側に近接する。X = 29,527 ~ 29,529、Y = -49,856。

重複関係：3号溝に西辺を掘り込まれる。4号溝の西端を掘り込む。

規模と形状：不定形。検出長1.25m・検出幅1.05m・深さ0.3m。

埋土：上層に鈍い暗褐色土、下層に明灰褐色土の堆積が見られた。**遺物**：円盤状土製品1点。**時期**：近世末期。

(8) 8号土坑(第8図、PL. 2)

位置：Ⅱ-2調査区で検出された唯一の土坑で、調査区のほぼ中央部のやや北寄り、西端に位置する。1号井戸の北西側、2号井戸の西側に位置する。X = 29,507 ~ 29,509、Y = -49,860 ~ -49,961。

重複関係：3号溝を掘り込む。

規模と形状：不定形。長さ1.57m・残存幅0.95m・深さ0.27m。

埋土：上層に黒褐色土、下層に褐灰色土の堆積が見られた。**遺物**：なし。**時期**：不明。

(9) 9号土坑(第8図、PL. 2)

位置：Ⅱ-5調査区の北西端に位置している。10号土坑のすぐ北側に隣接する。X = 29,550 ~ 29,551、Y = -49,849 ~ -49,850。

重複関係：3号溝のⅡ-5調査区における北西端部を掘り込む。

規模と形状：不定形。検出長1.5m・検出幅1.3m・深さ0.42m。底部は浅いすり鉢状を呈している。

埋土：褐灰色土。**遺物**：なし。**時期**：不明。

(10) 10号土坑(第8図、PL. 2)

位置：Ⅱ-5調査区の中央部の西寄りの位置にある。9号土坑のすぐ南側に隣接する。X = 29,547 ~ 29,549、Y = -49,849 ~ -49,850。

重複関係：3号溝により西辺を掘り込まれる。

規模と形状：北側に張り出しを持つ台形状に見えるが、西側を破壊されているため、全容は不明である。不定形。長さ1.91m・検出幅0.74m・深さ0.15m。底部は浅く扁平。

遺物：なし。**時期**：不明。

(11) 11号土坑(第8図、PL. 2)

位置：Ⅱ-4調査区の南東隅寄りに位置する。Ⅱ-4調査区の東端約三分の二を占める12号土坑のすぐ西側に近接する。X = 29,534 ~ 29,535、Y = -49,853 ~ -49,854。

重複関係：3号溝を掘り込む。

方向：N-105°-E。

規模と形状：東西に長い楕円形状を呈する。長さ1.3m・幅0.75m・深さ0.17m。

遺物：鉄銭小片1点(泉文解読不能)。

時期：近世末期。

(12) 12号土坑(第9・56図、PL. 2)

位置：Ⅱ-6調査区の東端の南側約三分の二を占める巨大な土坑。11号土坑のすぐ東側に近接する。X = 29,534 ~ 29,539、Y = -49,851 ~ -49,852。

重複関係：なし。

規模と形状：調査区内では南北に長い不整楕円形状に見えるが、東側大半が調査区の東側に出、南端も調査区外に出るため、全容は不明である。不定形。検出長4m・検出幅1.03m・深さ0.1m。底部は浅く扁平。

埋土：黒褐色土。**遺物**：在地系土器火鉢片1点、瀬戸・美濃陶器爛徳利1点、銅銭1点(文久永宝：文久3(1863)年2月から慶応3(1867)年まで铸造)。**時期**：近世末期。

(13) 13号土坑(第9・56~59図、PL. 2・3)

位置：Ⅱ-1調査区のほぼ中央に位置する。3号井戸のすぐ南端を掘り込む。X = 29,489 ~ 29,491、Y = -

49,864～49,865。

重複関係：なし。

方向：N-100°-E。

規模と形状：北東-南西方向に長い隅丸長方形を呈する。北側がオーバーハングする。長さ1.55m・幅0.6m・深さ0.25m。

埋土：鈍い黄褐色土。 **遺物**：19点を取り上げた。肥前磁器染付丸碗2点、肥前磁器染付碗蓋片1点、肥前磁器染付鉢片1点、京・信楽系陶器碗片1点、瀬戸・美濃系陶器灰釉丸碗片1点、瀬戸・美濃系陶器灰釉折縁輪禿皿片2点、丹波陶器すり鉢片1点、在地系土器瓦質鉢片1点、在地系土器焙烙片7点、円盤状加工土製品1点、羽口1点である。いずれも近世末期～近代初等頃のものと考えられる。 **時期**：近世末期。

(14)14号土坑(第9図)

位置：II-1調査区の北端のほぼ中央に位置する3号井戸の北側に隣接する。X=29,492～29,493、Y=-49,864～-49,865。

重複関係：3号井戸に南側を掘り込まれる。

規模と形状：南北に長い楕円形状を呈するものと思われるが、北側が調査区外に出、南側を破壊されているため全容は不明である。検出長0.95m・幅0.72m・深さ0.2m。

遺物：なし。 **時期**：近世末期

(15)15号土坑(第9図)

位置：II-1調査区の南西隅に位置する。X=29,488、Y=-49,864～-49,865。

重複関係：3号溝を掘り込む。

規模と形状：楕円形状を呈するものと思われるが、西側及び南側が調査区外に出るため、全容は不明である。検出長0.55m・現存幅0.33m・深さ0.37m。

埋土：褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(16)16号土坑(第9・59・60図、PL.3)

位置：II-6調査区の北東寄りに位置する。II-6調査区の北東隅にある1号地下式坑のすぐ西側、II-6調査区の北辺にかかる26号土坑のすぐ南東側に隣接する。X=29,560～29,561、Y=-49,840～-49,841。

重複関係：なし。

方向：N-95°-E。

規模と形状：東西にわずかに長い楕円形状を呈する。長さ1.55m・幅0.6m・深さ0.25m。

埋土：鈍い黄褐色土。 **遺物**：産地不詳急須片・徳利片各1点、在地系土器焜炉片2点、在地系土器火鉢片2点、銅銭小片(文久永宝：文久3(1863)年2月から慶応3(1867)年まで鑄造)など8点、鎌など鉄製品片2点、礫石器磨石1点が出土した。急須の底部には「トチ」という墨書がある。 **時期**：近世末期。

(17)17号土坑(第9図、PL.3)

位置：II-7調査区的最東端付近にまとまって点在している。17号土坑は、II-7調査区的最東端近くの北側に位置する。18号土坑の北西側、19号土坑の東側に位置する。X=29,555、Y=-49,817～-49,818。

重複関係：なし。

規模と形状：北側が調査区外に出るため全容は不明である。

埋土：鈍い黄褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(18)18号土坑(第9図、PL.3)

位置：II-7調査区的最東端付近の南壁にほぼ接して位置する。17号土坑の南側に位置する。南端が調査区の南端と接する。X=29,554～29,555、Y=-49,817～-49,818。

重複関係：8号溝を掘り込む。

方向：N-20°-E。

規模と形状：北西-南東方向にわずかに長い楕円形状を呈する。長さ0.55m・幅0.5m・深さ0.2m。

埋土：鈍い黄褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(19)19号土坑(第9図、PL.3)

位置：II-7調査区的最東端付近、17号土坑の南側に位置する。X=29,555～29,556、Y=-49,819～-49,820。

重複関係：7・8号溝を掘り込む。

方向：N-25°-E。

規模と形状：北東-南西方向にやや長い楕円形状を呈する。長さ0.6m・幅0.5m・深さ0.08m、浅い。

埋土：鈍い黄褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(20)20号土坑(第9図、PL.3)

位置：Ⅱ-7調査区のほぼ中央部付近、21号土坑の東側に位置する。X=29,555～29,556、Y=-49,819～-49,820。

重複関係：9号溝と8号ピットに掘り込まれる。

規模と形状：不整形。検出長0.9m・検出幅0.85m・深さ0.55m。

埋土：上中層暗褐色土、下層褐色土。**遺物：**なし。**時期：**不明。

(21)21号土坑(第10図、PL.3)

位置：Ⅱ-7調査区の中央部からやや西寄りの付近、20号土坑のすぐ西側、22号土坑のすぐ東側に隣接する。X=29,557～29,558、Y=-49,826～-49,828。

重複関係：9号溝に掘り込まれる。

規模と形状：南側が調査区外に出るため全容は不明である。検出長0.9m・検出幅0.85m・深さ0.83m。

埋土：上層暗褐色土、中層鈍い黄褐色土、下層黒褐色土。

遺物：なし。**時期：**不明。

(22)22号土坑(第10図、PL.3)

位置：Ⅱ-7調査区の西寄りの位置、21号土坑のすぐ西側、5号ピットのすぐ東側に隣接する。X=29,558～29,559、Y=-49,829～-49,830。

重複関係：9号溝、4号ピットに掘り込まれる。

規模と形状：南北両端が調査区外に出るため全容は不明である。現存長1.26m・現存幅1.03m・深さ0.5m。

埋土：暗褐色土。**遺物：**なし。**時期：**不明。

(23)24号土坑(第10・61～63図、PL.3)

位置：Ⅱ-7調査区の西端寄りの位置、10号ピットのすぐ東側に隣接する。X=29,559～29,560、Y=-49,831～-49,832。

重複関係：27号土坑の北西辺を掘り込む。

方向：N-89°-E。

規模と形状：西北隅が調査区外に出るため全容は不明であるが、東西に長い隅丸長方形を呈するものと思われる。長さ1.23m・幅0.53m・深さ0.93m。

埋土：上層褐色土、中層暗褐色土、下層褐色土。**遺物：**多種多様な陶器片、土器片などが出土し、いわゆるゴミ

捨ての穴と考えられる。ここでは、34点の遺物を取り上げた。肥前磁小坏2点、肥前磁器染付猪口片2点、肥前磁器染付皿片1点、瀬戸・美濃系磁器小坏3点、瀬戸・美濃系磁器染付猪口1点、瀬戸・美濃系陶器染付皿2点、瀬戸・美濃系磁器染付端反碗1点、瀬戸・美濃系陶器錆釉灯明油皿3点、瀬戸・美濃系陶器鉄絵乗燭1点、京・信楽系陶器灰釉蓋2点、京・信楽系灰釉灯明油皿片3点、在地系土器皿1点、在地系土器さな片1点、搬入形塩焼壺蓋1点、搬入形塩焼壺片1点、制作地不詳の碗1、蓋1、透明釉蓋1、染付蓋1、灰釉片口鉢1、鍋蓋片1、白磁端反皿1、棧瓦片2点、銅製品銭貨1点。瀬戸美濃系陶器乗燭底部には「に」と墨書されている。**時期：**近代。

(24)25号土坑(第10図、PL.4)

位置：Ⅱ-6調査区の北西隅。26号土坑のすぐ西側、1号礎石のすぐ北西側に隣接する。X=29,561～29,562、Y=-49,842～-49,843。

重複関係：なし。

規模と形状：北及び西側が調査区外に出るため全容は不明である。現存長1.06m・現存幅0.43m・深さ0.5m。

埋土：上層暗褐色土、中層黄褐色土、下層暗褐色土。**遺物：**なし。**時期：**不明。

(25)26号土坑(第10図、PL.4)

位置：Ⅱ-6調査区の北西寄りの位置。北端。25号土坑のすぐ西側、4号井戸のすぐ北側、16号土坑のすぐ北西側に隣接する。X=29,561～29,562、Y=-49,840～-49,842。

重複関係：なし。

規模と形状：北側が調査区外に出るため全容は不明である。現存長2.03m・幅0.43m・深さ0.5m。

埋土：上層黒色土、下層黄褐色土。**遺物：**なし。

時期：不明。

(26)27号土坑(第10図、PL.4)

位置：Ⅱ-7調査区の西端寄りの位置。6・9号ピットの東側、4号ピット・22号土坑西側に近接する。X=29,558～29,559、Y=-49,831。

重複関係：北西辺を24号土坑に掘り込まれる。5号ピットを掘り込む。

規模と形状：南側が調査区外に出るため全容は不明である。検出長1.5m・検出幅1m・深さ0.8m。

埋土：表土褐色土(砂質)、上層暗褐色土、下層暗褐色土。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(27)28号土坑(第10図、PL. 4)

位置：II-7調査区の最西端寄りの位置。6・9号ピットの北西側、10号ピット西側に近接する。X=29,560~29,561、Y=-49,833~-49,834。

重複関係：中央部を7号ピットに掘り込まれる。

規模と形状：北側が調査区外に出るため全容は不明である。下部がオーバーハングしている。検出1.23m・検出幅0.57m・深さ1.03m。

埋土：表土褐土ローム混、上層明黄褐色土、下層暗褐色土ローム塊混。 **遺物：**なし。 **時期：**不明

2. 井戸

II区では4基の井戸が検出されている。II-1調査区で1基、II-2調査区で2基、II-6調査区で1基であった。II区世良田交差点から国道354号線に面するII-7調査区では全く井戸は検出されなかった。また、II-3・5調査区からも井戸は検出されていない。

ただし、主要地方道太田・大間々線に面したII-4調査区では、世良田交差点以北でも井戸は検出されているので、世良田交差点以北には井戸はないということではない。

II区で検出されたのは、いずれも素堀の井戸であり、また、径も比較的小さかったことや、現状で、いずれも交通量が激しい道路に面した箇所での調査であり、調査区が民家とも隣接していたため、調査及び周辺民家及び通行の安全を最優先し、底面までの完掘はいずれも断念せざるを得なかった。

(1)1号井戸(第11・63図、PL. 4)

位置：II-2調査区の中央部から南寄りの位置、3号溝のすぐ東側に隣接する。X=29,504~29,506、Y=-49,860~-49,861。

重複関係：なし。

規模と形状：不整形形状を呈する。幅1m・調査深度約1m。

埋土：黒褐色土ベース。 **遺物：**在地系土器皿片2点。

時期：近世末期。

(2)2号井戸(第11・63図、PL. 4)

位置：II-2調査区の中央部の東端南寄りの位置。X=29,505~29,508、Y=-49,859。

重複関係：なし。

規模と形状：東側が調査区外に出るため全容は不明である。検出長2.55m・検出幅1.15m・調査深度約0.7m。

埋土：表土にぶい黄褐土・灰黄褐色土・にぶい黄色土・褐灰色土(砂質土)、埋土最上層褐灰色土、上層黒褐色土、下層中央暗褐色土、下層壁際褐灰色土(粘土ブロック崩落土)。**遺物：**11点を取り上げた。肥前磁器染付湯呑片1点、肥前磁器染付丸碗片1点、肥前磁器丸碗片1点、瀬戸・美濃陶器染付筒形湯呑片1点、在地系土器皿片、京・信楽系陶器灰釉壺1点、甕片、焙烙片、置輪片各1点、砥石片2点。 **時期：**近代。

(3)3号井戸(第11・63図、PL. 5)

位置：II-1調査区の北寄りの位置。X=29,491~29,492、Y=-49,864~-49,865。

重複関係：14号土坑、3号溝を掘り込む。13号土坑に掘り込まれる。

規模と形状：東北側約四分の一が調査区外に出るため全容は不明であるが、楕円形状を呈するものと考えられる。本遺跡では最大規模の井戸である。検出長2.3m・検出幅2.2m・調査深度約0.8m。

埋土：表土暗褐色土、上層黒褐色土、中層黄褐色土(ローム塊多く含む)、下層褐灰色粘質土。 **遺物：**在地系土器皿片、鉢片各1点。 **時期：**近世末期。

(4)4号井戸(第11・64図)

位置：II-6調査区の中央から西寄りの位置。16号土坑のすぐ南西側、25号土坑のすぐ南東側。26号土坑のすぐ南側に隣接する。X=29,560~29,562、Y=-49,841~-49,843。

重複関係：埋絶後に1号礎石が築かれる。8号溝を掘り込む。上層を大きく攪乱されている。

規模と形状：東西にやや長い楕円形状を呈する。オーバーハングしている。長さ1.62m・幅1.43m・調査深度

約0.7m。

埋土: 鈍い黄褐色土。 **遺物:** 肥前磁器染付丸碗片1点、中国白磁皿片1点、瀬戸・美濃陶器天目茶碗片1点、常滑陶器甕片1点、焼締陶器甕片1点、砥石2点、中央に孔が穿たれた石製品1点。 **時期:** 近世末期。

3. 溝

Ⅱ区では9条の溝が検出されている。Ⅱ-1区からⅡ-6区にかけて検出された確認総延長約650mに及ぶ3号溝、Ⅱ-6調査区からⅡ-7調査区にかけて検出された確認総延長22.5mに及ぶ8号溝の他は、ほぼ各調査区内での検出である。

(1) 1号溝(第12・64～71図、PL. 5)

位置: Ⅱ-3調査区の最北端。X=29,530～29,533、Y=-49,854～-49,855。

重複関係: 埋没後上面を11～14号ピットに掘り込まれる。底部を1号竪穴状遺構に掘り込まれる。7号土坑に南辺の一部を掘り込まれる。

規模と形状: 東西方向に流れる深い溝の長さ約1m分が検出されたに過ぎない。幅1m・調査深度約1m。

埋土: 上層暗褐色土、褐灰色土、黒褐色土、中層褐色土、黒褐色土、暗褐色土、下層灰黄褐色土、黒褐色土。 **遺物:** 71点を取り上げた。肥前磁器染付小坏4点、肥前磁器染付筒形湯呑片2点、肥前磁器染付湯呑4点、肥前磁器染付端反碗4点、肥前磁器染付丸碗2点、肥前磁器染付碗1点、肥前磁器染付丸碗2点、肥前磁器染付平碗1点、肥前磁器染付広東碗1点、肥前磁器染付皿2点、肥前磁器染付秃皿2点、堺・明石陶器すり鉢片1点、肥前磁器染付輪花鉢2点、瀬戸・美濃陶器染付湯呑1点、瀬戸・美濃陶器鍍釉灯明油皿9点、瀬戸・美濃陶器腰鍍釉片1点、瀬戸・美濃陶器灰釉折縁輪秃皿片1点、瀬戸・美濃陶器皿片1点、瀬戸・美濃陶器水瓶片1点、瀬戸・美濃陶器半胴甕片1点、瀬戸・美濃陶器灰釉大皿片1点、在地系土器皿片2点、在地系土器煎鍋片2点、在地系土器十能片2点、在地系土器鉢片3点、在地系土器置き輪片1点、在地系土器焙烙片7点、在地系土器置竈1点、円盤状加工土製品1点、制作地不詳灰釉端反碗1点、制作地不詳土瓶片1点、平瓦片3点、棧瓦片3点、鉄釘1点、銅製キセル吸口1点、砥石片1点。なお、平瓦の裏面に

「大」カ「丈」カと墨書されたものがある。 **時期:** 近代。

(2) 2号溝(第12・71図、PL. 5)

位置: Ⅱ-3調査区のほぼ中央部を1号溝と並行して東西方向に流れる。X=29,525、Y=-49,854～-49,855。

重複関係: 西端部を6号土坑に掘り込まれる。

規模と形状: 東西方向に流れる溝で、西端は6号土坑に掘り込まれる。検出長1.83m・幅1.1m・深さ0.1m。

遺物: 肥前磁器染付小坏2点、肥前磁器白磁香炉片1点、瀬戸・美濃陶器染付皿1点、瀬戸・美濃陶器鉄釉灯明油皿2点、在地系土器置竈片1点、制作地不詳陶器蓋1点、鉄釘1点。 **時期:** 近世末期。

(3) 3号溝(第13・14・72図、PL. 5・6)

位置: Ⅱ-1～Ⅱ-5調査区の西壁にかかる位置。X=29,489～29,550、Y=-49,850～-49,866。

重複関係: Ⅱ-1区では3号土坑、14・15号土坑を掘り込む。Ⅱ-2区では中央部付近を8号土坑に掘り込まれる。Ⅱ-3区では北端部を1号溝に掘り込まれる。Ⅱ-4区では南端部付近を11号土坑に、北端部を2号竪穴状遺構に掘り込まれる。Ⅱ-5区では北端部を9号土坑に掘り込まれる。

規模と形状: Ⅱ-1区からⅡ-5区まで、総延長650mに及ぶが、Ⅱ-3区の南側では、一部検出されなかった区間がある。Ⅱ-2区では調査区の北端まで溝が延びているので、Ⅱ-2区からⅡ-3区に至る間の未調査箇所であったん止まるものと考えられる。Ⅱ-5調査区の北端が9号土坑によって掘り込まれているため、溝がⅡ-5調査区の更に北に延びるのか否かは不明である。各調査区西側が調査区外に出るため、溝幅は全く不明である。検出総延長約650m・検出幅0.2～0.58m・深さ0.17～0.55m。

埋土: 上層暗褐色土、下層褐色土、黄褐色土。 **遺物:** 肥前磁器染付端反碗片1点、肥前磁器染付丸碗片1点、常滑陶器甕片1点、在地系土器皿片1点、在地系土器鉢片1点、在地系土器火鉢片1点、在地系土器焙烙片1点、円盤状加工土製品1点、銅銭1点(寛永通宝)、銅製キセル雁首1点、砥石片1点。 **時期:** 近世末期。

(4) 4号溝(第12図)

位置:II-3調査区の北寄りの位置。1号溝のすぐ南側、2号溝の北側を両溝に並行して東西方向に流れる。1・2号溝との新旧関係は不明。X=29,527、Y=-49,853~-49,855。

重複関係:西端を7号土坑に掘り込まれる。

規模と形状:東西方向に流れる小規模な溝。検出長2.1m・幅0.33m・深さ約0.23m。

埋土:上層暗褐色土、下層黒褐色土。**遺物:**なし。**時期:**近世末期。

(5) 5号溝(第12・72図、PL.6)

位置:II-7調査区の中央部からやや東寄りの位置。北壁際。7号溝のすぐ北側。X=29,556~29,557、Y=-49,853~-49,855。

重複関係:9号溝2の西端を掘り込む。

規模と形状:II-7調査区北壁側から南北方向に流れる小規模な溝。8号溝の手前で止まる。検出長0.84m・幅0.56m・深さ約0.11m。暗黒褐色土。

遺物:在地系土器皿片1点、瓦片1点。**時期:**不明。

(6) 6・7号溝(第14・72・73図)

位置:II-7調査区の東寄りの位置。X=29,554、Y=-49,819~-49,823。

重複関係:19号土坑に掘り込まれる。18号土坑を掘り込む。南端を8号溝に掘り込まれる。

規模と形状:II-7調査区東・北壁の外側から南西-東北方向に流れる比較的大きな溝。8号溝が7号溝の北側をほぼ並行して流れ、7号溝に合流する。南側をほぼ並行して8号溝が流れる。検出長3.8m・幅0.71m・深さ約0.1~0.15m。

遺物:6号溝出土の遺物2点(瀬戸・美濃陶器尾呂茶碗片1点、常滑陶器甕片1点)、7号溝出土の遺物4点(肥前磁器染付丸碗片1点、肥前磁器陶胎染付碗片1点、瀬戸・美濃灰釉丸碗片1点、志戸呂陶器鉄釉灯明皿1点)を取り上げた。**時期:**近世末期。

(7) 8号溝(第15図、PL.7)

位置:II-6調査区のほぼ南半分を占め、II-7調査区の南東隅部分で検出される。II-6調査区では東西両端が調査区外に出、II-7調査区では南西側及び東端が調

査区外に出る。X=29,554~29,560、Y=-49,817~-49,842。

重複関係:II-6区では4号井戸に北辺を掘り込まれる。II-7調査区では18号土坑に掘り込まれる。7号溝を掘り込む。

規模と形状:東西方向に流れる大溝。検出長22.5m・幅0.75m・深さ約0.47m。

埋土:上層暗褐色土、黒褐色土、中層灰黄褐色土、褐色土、下層褐灰色土。**遺物:**3点を取り上げた。京・信楽系陶器灰釉碗片1点、常滑陶器甕片1点、砥石片1点。

時期:近世末期。

(8) 9号溝(第15図、PL.7)

位置:II-7調査区のほぼ中央部に位置する、X=29,555~29,559、Y=-49,816~-49,827。

重複関係:20~22号土坑を掘り込み、5号溝に掘り込まれる。

規模と形状:東西方向に流れる溝。ほぼ中央部が土橋状に掘り遺される。長さ6.57m・幅0.6m・深さ約0.6m。

埋土:灰黄褐色土。**遺物:**肥前磁器染付丸碗片1点。

時期:近世末期。

4. ピット

II区では15基のピットが検出されている。1~10号ピットはいずれも用途不明の小穴である。11~15号ピットは建物の礎石だった可能性が考えられる。

検出されたのは、II-3調査区から7基、II-5調査区から1基、II-7調査区から7基である。

(1) 1号ピット(第16図、PL.7)

位置:II-3調査区の中央部から南寄りに位置する。3号溝の東側に近接する。X=29,520、Y=-49,856~-49,857。

重複関係:なし。

規模と形状:東西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.45m・短径0.4m・深さ約0.28m。

埋土:褐色土。**遺物:**なし。**時期:**不明。

(2) 2号ピット(第16図、PL.7)

位置:II-3調査区の北東寄りに位置する。2号溝の

北側、4号溝の南側に近接する。X=29,526、Y=-49,854。

重複関係：なし。

規模と形状：北東-南西方向にやや長い隅丸形状を呈する。長径0.33m・短径0.3m・深さ約0.3m。

(3) 3号ピット(第16図、PL.7)

位置：Ⅱ-5調査区の中央部、南端寄りに位置する。3号溝の東側に近接する。X=29,545、Y=-49,850。

重複関係：なし。

規模と形状：ほぼ円形状を呈する。径0.3m・深さ約0.16m。

埋土：鈍い黄褐色土。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(4) 4号ピット(第16・73図、PL.7)

位置：Ⅱ-7調査区の中央部から西寄りの位置。9号溝のすぐ西側、5号ピットのすぐ北側に隣接し、27号土坑のすぐ東側に隣接する。X=29,558～29,559、Y=-49,829。

重複関係：22号土坑、5号ピットを掘り込む。

規模と形状：不整形円形状を呈する。長径0.34m・短径0.33m・深さ約0.11m。

埋土：鈍い黄褐色土。 **遺物：**在地形土器火鉢1点。

時期：不明。

(5) 5号ピット(第16図、PL.7)

位置：Ⅱ-7調査区の中央部から西寄りの位置。9号溝の西側に近接する。4号ピットとほぼ同じ位置である。X=29,558～29,559、Y=-49,829。

重複関係：27号土坑を掘り込む。5号ピットに掘り込まれる。

規模と形状：不整形円形状を呈するものと思われるが、南端が調査区外に出る。長径0.52m・短径0.42m・深さ約0.14m。

埋土：鈍い黄褐色土。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(6) 6号ピット(第16図、PL.7)

位置：Ⅱ-7調査区の西端寄りの位置。9号ピットのすぐ南側に隣接する。27号土坑の西側に近接する。X=29,559、Y=-49,852～-49,853。

重複関係：なし。

規模と形状：不整形円形状を呈するものと思われるが、南辺が調査区外に出るため、全容は不明である。現存最大径0.64m・現存最幅0.3m・深さ約0.15m。

埋土：暗褐色土。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(7) 7号ピット(第16図、PL.7)

位置：Ⅱ-7調査区の西端寄りの位置。9・10号ピットの西側に近接する。X=29,560、Y=-49,830。

重複関係：28号土坑を掘り込む。

規模と形状：不整形円形状を呈するものと思われるが、北辺が調査区外に出る為全容は不明である。検出最大径0.5m・検出最大幅0.3m・深さ約0.2m。

埋土：暗褐色土。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(8) 8号ピット(第16図、PL.7)

位置：Ⅱ-7調査区の中央部から東寄りに位置する。X=29,560、Y=-49,830。

重複関係：20号土坑を掘り込む。

規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。南辺が調査区外に出る。長径0.55m・短径0.44m・深さ約0.84m。

埋土：暗赤褐色土。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(9) 9号ピット(第14図、PL.7)

位置：Ⅱ-7調査区の西端寄りに位置する。6号ピットのすぐ北側、10号ピットのすぐ南側、24号土坑のすぐ西側に隣接する。X=29,560、Y=-49,832～-49,833。

重複関係：なし。

規模と形状：北東-南北方向にやや長い楕円形状を呈する。長径0.25m・短径0.22m・深さ約0.25m。

埋土：鈍い黄褐色土。人為的埋没。 **遺物：**なし。

時期：不明。

(10) 10号ピット(第16・73図)

位置：Ⅱ-7調査区の西端寄りに位置する。24号土坑のすぐ西側、に隣接する。X=29,545、Y=-49,850。

重複関係：なし。

規模と形状：ほぼ円形状を呈する。径0.3m・深さ約0.16m。

埋土：暗褐色土。 **遺物：**石製品砥石1点。 **時期：**不明。

(11)11号ピット(第16図)

位置：II-3調査区の北端寄りの位置、11・12号ピットは調査区の東壁に接している。12号ピットのすぐ北側に隣接する。X=29,529～29,530、Y=-49,853。

特徴：11～15号ピットは、14号ピット以外、いずれも礫が詰まった穴である。13・14号ピットの西側、III-3調査区の西壁際で検出された南北に並ぶ同様の礫が詰まった礎石状の遺構や、同様に15号ピットの西側の壁際で検出された同様に礫が詰まった礎石状の遺構とともに、それらの形状から、建物の礎石であると考えられる。11号ピット・13号ピット・西壁際の礎石状遺構が東西方向に一直線上に並び、そのすぐ南側に心々間で約1mの間隔をとって12号ピット・14号ピット・西壁際の礎石状遺構が一直線に東西方向に並ぶ。中列、13・14号ピット及びその西側に隣接する西壁際の礎石状遺構との間は約0.7mほどであるが、東側第1列である11・12号ピットと中列13・14号ピットとの間は約16mと離れており、東側第1列と中列との中間の位置に並存した礎石状遺構が存在したが、調査時までには失われた可能性もある。あるいは、東側第1列と、中列及び西壁際の礎石状遺構とは別個の建物であった可能性もある。南側に位置する15号ピットと、そのすぐ西側に隣接する西壁際の第三の礎石状遺構との列の間は南北に約3m離れていること、15号ピットの東側には、11・12号ピットに対応するような礎石状遺構の列がないことから考えれば、南側の15号ピット及びその西側に隣接する礎石状遺構によって構成される建物は別個のものである可能性が高い。

重複関係：なし。

規模と形状：南北に長い楕円形状の不整円形状を呈するものと思われるが、東側が調査区外に出るため、全容は不明である。長径0.73m・検出短径0.27m・深さ約0.16m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(12)12号ピット(第16図)

位置：II-3調査区の北端寄りの位置。11号ピットのすぐ南側に隣接する。X=29,528～29,529、Y=-49,853。

重複関係：なし。

規模と形状：11号ピット同様、石が詰められた浅い穴。南北に長い楕円形状を呈するものと思われるが、東端が

調査区外に出る。長径0.55m・検出短径0.38m・深さ約0.33m。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(13)13号ピット(第16図)

位置：II-3調査区の北端寄りの位置。11号ピットの西側、14号ピットのすぐ北側に隣接する。X=29,530、Y=-49,855。

重複関係：なし。

規模と形状：11・12号ピット同様、石が詰まった浅い穴。南北に長い楕円形状を呈する。長径0.51m・短径0.45m・深さ約0.08m。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(14)14号ピット(第16図)

位置：II-3調査区の北端寄りの位置。12号ピットの西側、13号ピットのすぐ南側に隣接する。X=29,529、Y=-49,855。

重複関係：なし。

規模と形状：11～13号ピットとは異なり、本ピットには石が詰まっていないが、規模や形状、位置などから見て11～15号ピット同様の機能を呈したのと考えられる。南北に長い不整円形状を呈する。長径0.63m・短径0.4m・深さ約0.11m。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(15)15号ピット(第16図)

位置：II-3調査区の中央部から北西寄りの位置。X=29,525、Y=-49,854。

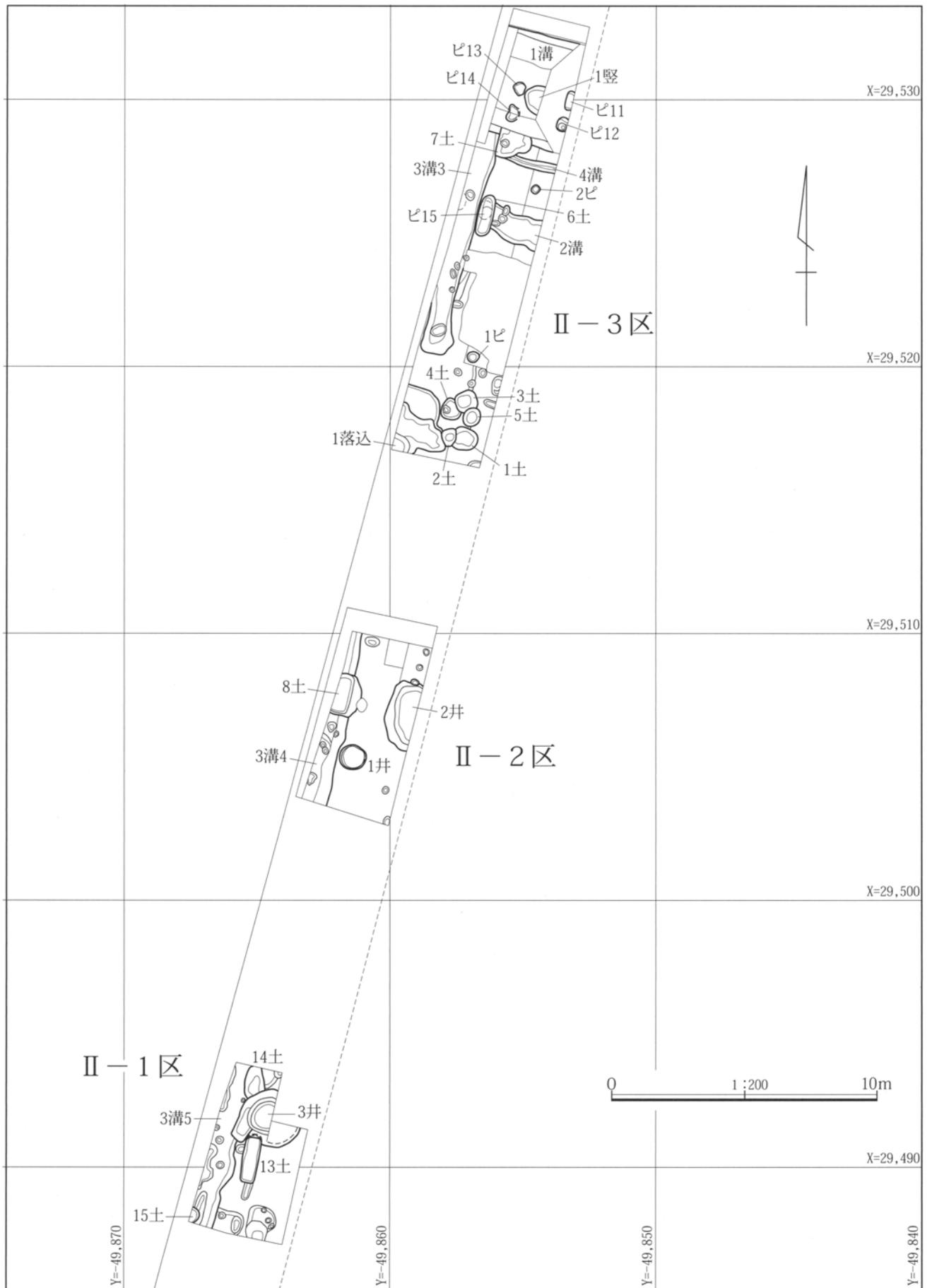
重複関係：6号土坑を掘り込む。

規模と形状：11～13号ピット同様、石が詰まった浅い穴とみられるが、掘り込みは明確ではなく、石の集積が確認できた程度であった。規模や形状、位置などから見て11～14号ピット同様の機能を呈したのと考えられる。南北に長い楕円形状を呈する。長径0.67m・短径0.34m。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

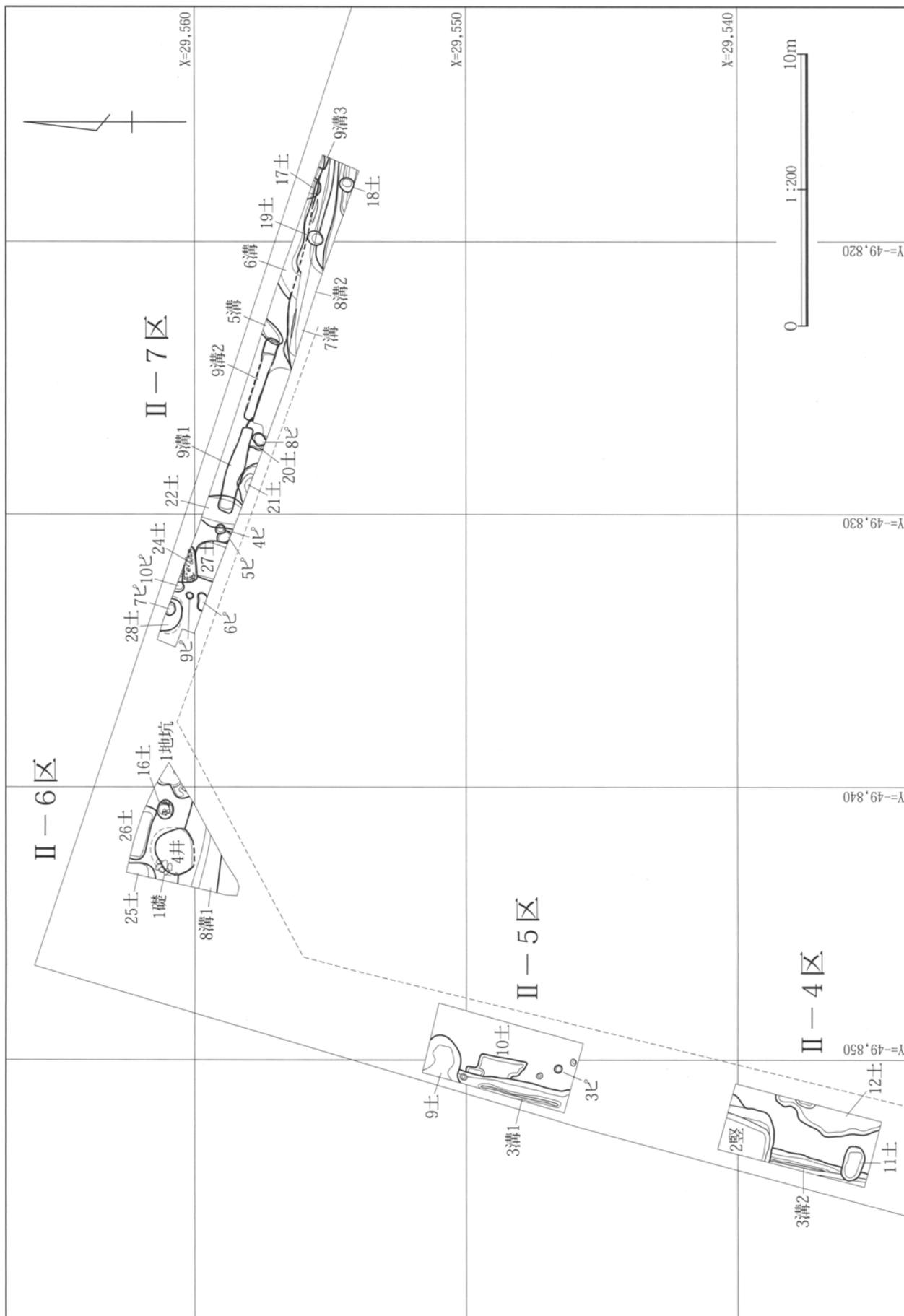
5. 地下式坑

II-6区において地下式坑が1基検出されている。

分布 地下式坑は関東地方を中心に中世後半頃に盛行する屋敷周辺に掘削された地下室で、地表から縦坑を掘り、そこから横方向に広げて室部を作る構造の施設であり、その用途や機能については不明な点が多く、未だ統一し



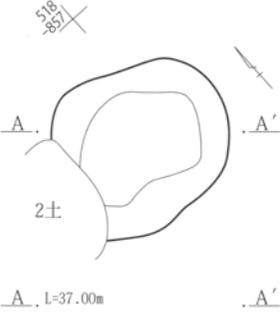
第6図 II-1～3調査区遺構検出状況



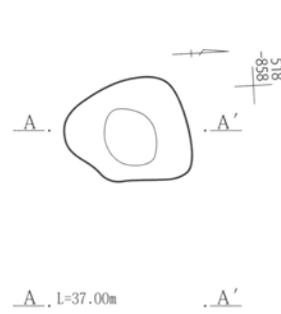
第7図 II-4～7調査区遺構検出状況

第3章 調査の成果

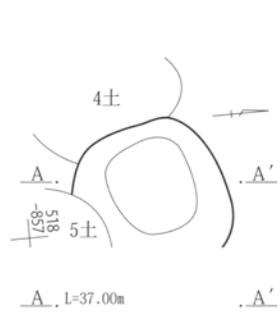
1号土坑



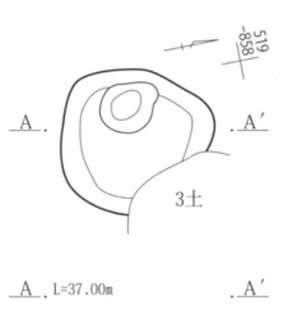
2号土坑



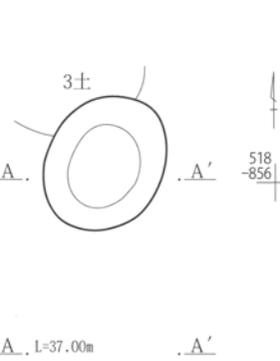
3号土坑



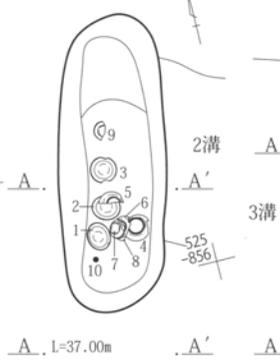
4号土坑



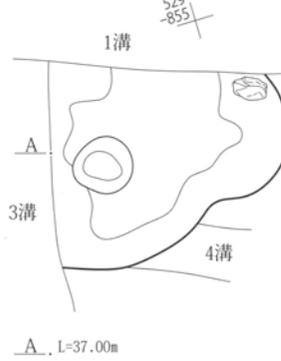
5号土坑



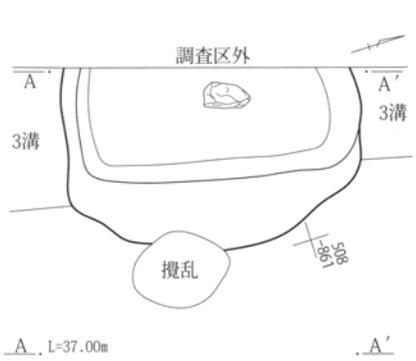
6号土坑



7号土坑



8号土坑



6号土坑A-A'

- 1層 暗褐(10YR3/3) φ 5mmの炭化物少量含む。
- 2層 黒褐(10YR2/3)炭化物多く含む。
- 3層 にぶい黄褐(10YR4/3)少量の炭化物とローム粒含む。

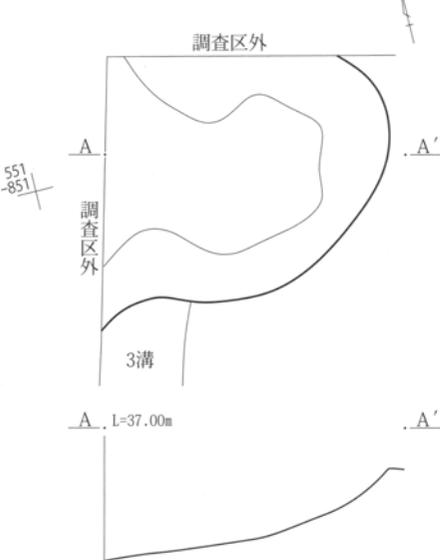
7号土坑A-A'

- 1層 にぶい黄褐(10YR5/3) φ 0.5～10mmのローム粒含む。
- 2層 明灰褐(7.5YR7/1)ローム粘土ブロック含む。

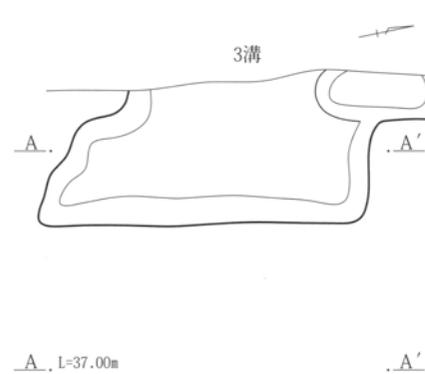
8号土坑A-A'

- 1層 黒褐(10YR3/1) φ 1cmのロームブロック含む。
- 2層 褐灰(10YR4/1)ローム粘土ブロック多く含む。

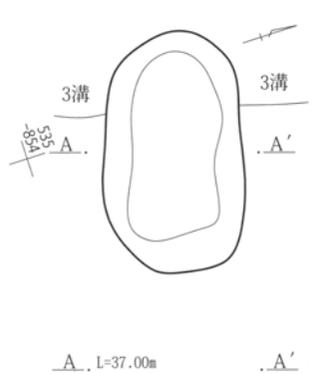
9号土坑



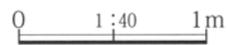
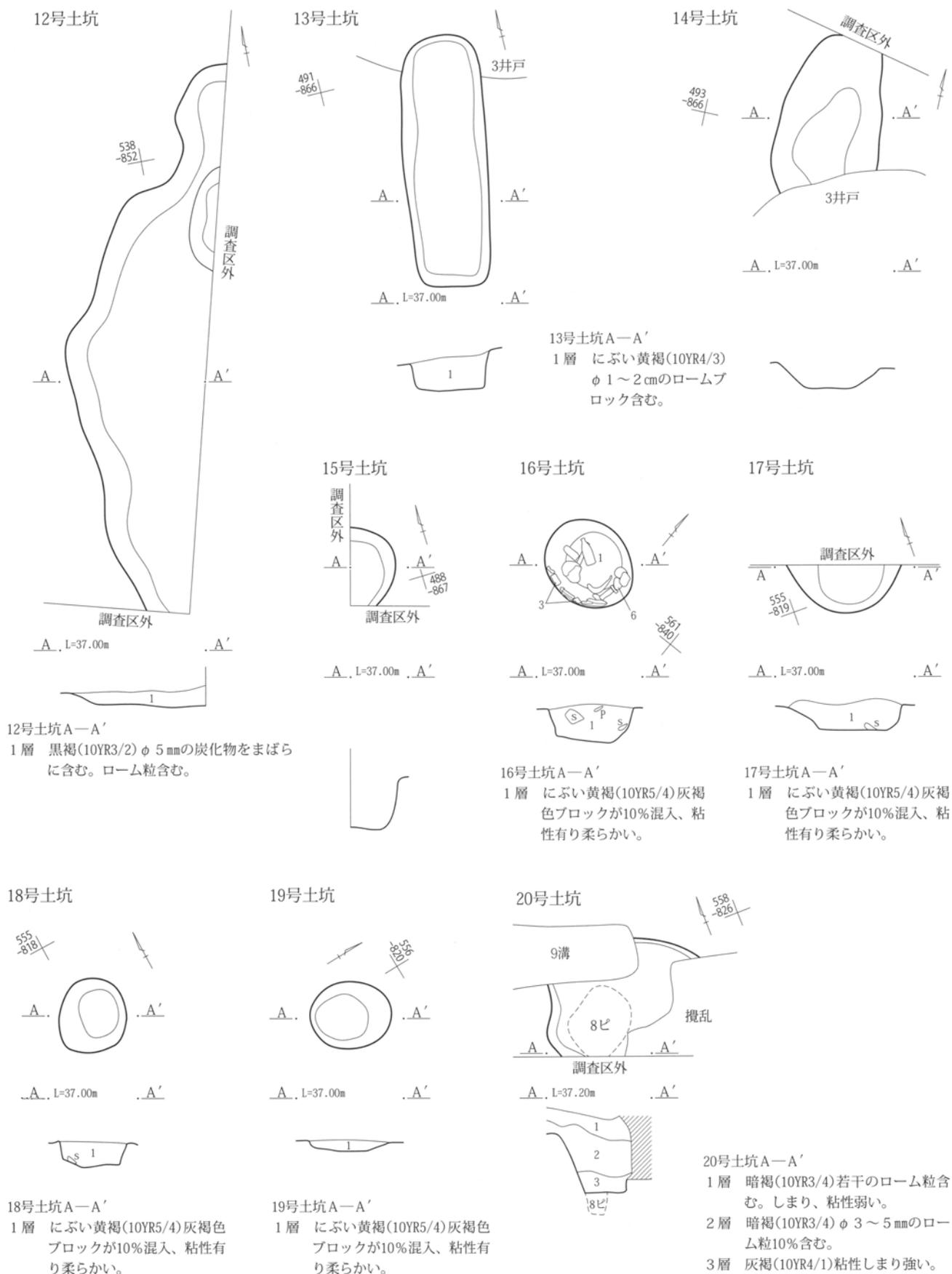
10号土坑



11号土坑



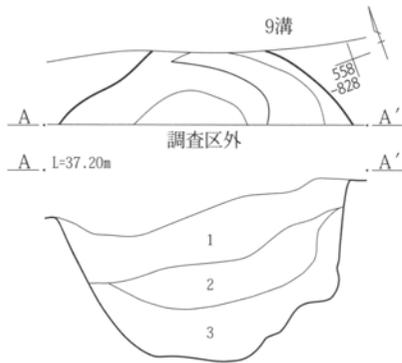
第8図 II区1～11号土坑平面図・断面図



第9図 II区12~20号土坑平面図・断面図

第3章 調査の成果

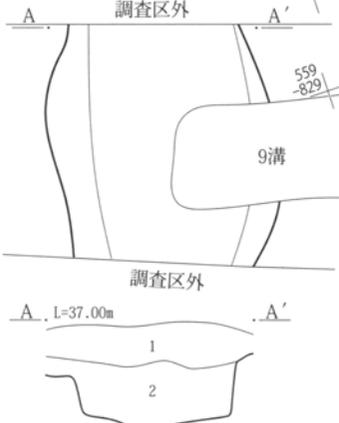
21号土坑



21号土坑A-A'

- 1層 暗褐(10YR3/4)若干のローム粒含む。しまり、粘性弱い。
- 2層 にぶい黄褐(10YR3/4)粘性しまり弱い。
- 3層 黒褐(10YR3/2) φ 3~5mmの灰白色ブロック30%含む。

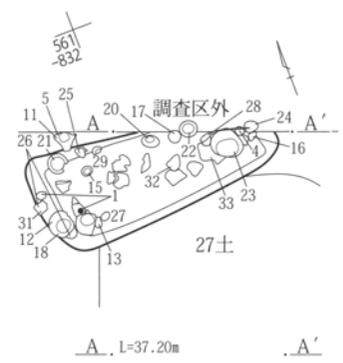
22号土坑



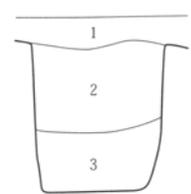
22号土坑A-A'

- 1層 褐(10YR4/4)粘性有り。しまり弱い。砂質。
- 2層 暗褐(10YR3/4) φ 1cmのロームブロック20%、炭化物含む。

24号土坑



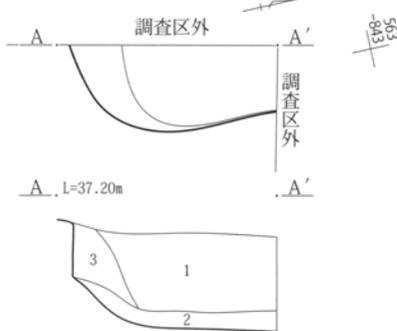
24号土坑A-A'



24号土坑A-A'

- 1層 褐(10YR4/4)粘性有り、しまり弱い。砂質。
- 2層 暗褐(10YR3/4)炭化物20%含む。
- 3層 褐(10YR4/4)灰白色粘土ブロック、炭化物含む。

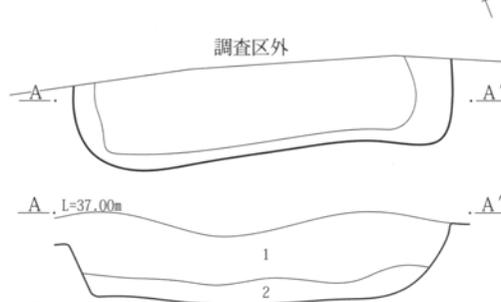
25号土坑



25号土坑A-A'

- 1層 暗褐(10YR3/3) φ 3~5cmのロームブロック含む。粘性有り。
- 2層 黄褐(10YR5/6)ローム粒30%含む。
- 3層 暗褐(10YR3/3) φ 3~5mmローム粒30%含む。

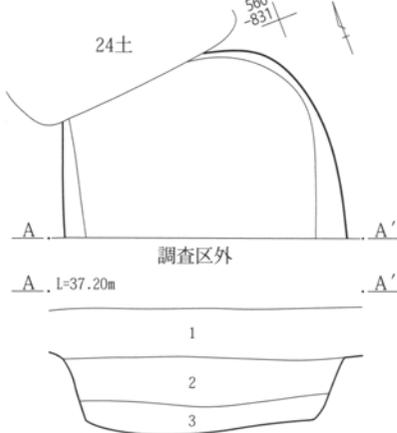
26号土坑



26号土坑A-A'

- 1層 黒(10YR7/2) φ 3~5mmのローム粒極少量混じる。
- 2層 黄褐(10YR5/6)ローム粒30%含む。

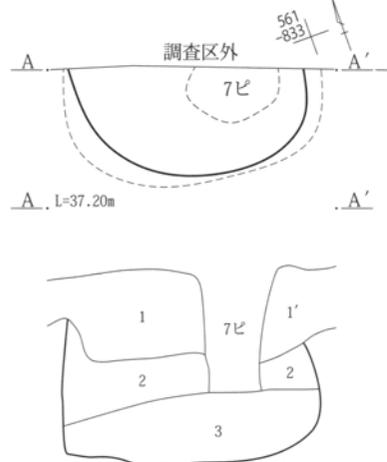
27号土坑



27号土坑A-A'

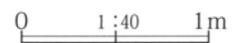
- 1層 褐(10YR4/4)粘性有り、しまり弱い。砂質。
- 2層 暗褐(10YR3/3)ローム50%混じる。
- 3層 暗褐(10YR3/4)炭化物20%含む。

28号土坑



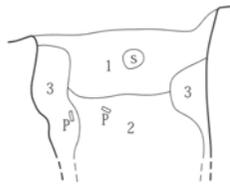
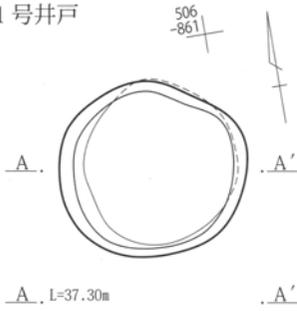
28号土坑A-A'

- 1層 暗褐(10YR3/4)炭化物20%含む。
- 1'層 暗褐(10YR3/3)ローム50%混じる。
- 2層 明黄褐(10YR3/3)地山の灰色土と褐色土が混じる天井崩落土、粘性しまり強い。
- 3層 暗褐(10YR3/3) φ 3~5cmのロームブロック30%含む。粘性しまり強い。



第10図 II区21・22・24~28号土坑平面図・断面図

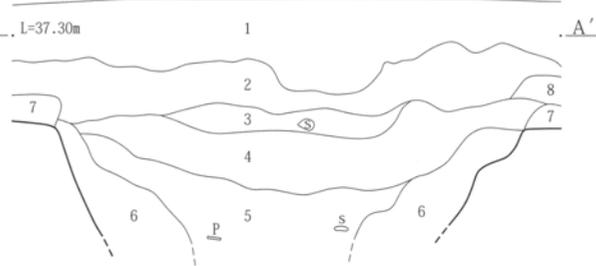
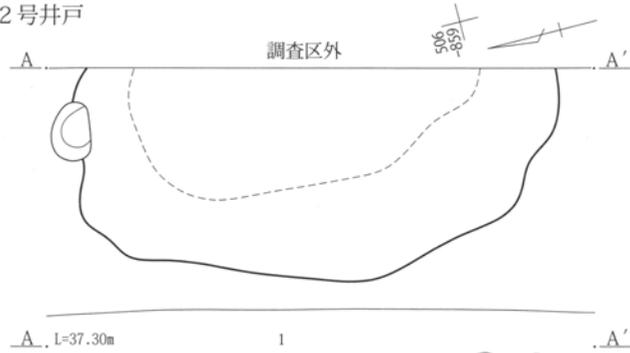
1号井戸



1号井戸 A-A'

- 1層 黒褐(10YR3/2)φ 1~2mmのローム粒含む。し
まり悪い。
- 2層 黒褐(10YR2/3)やや粘質。
- 3層 褐灰(10YR4/1)ローム粘土ブロック多く含む。

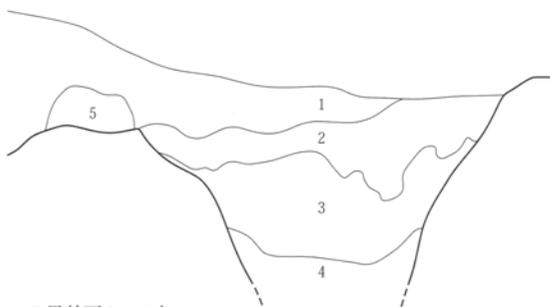
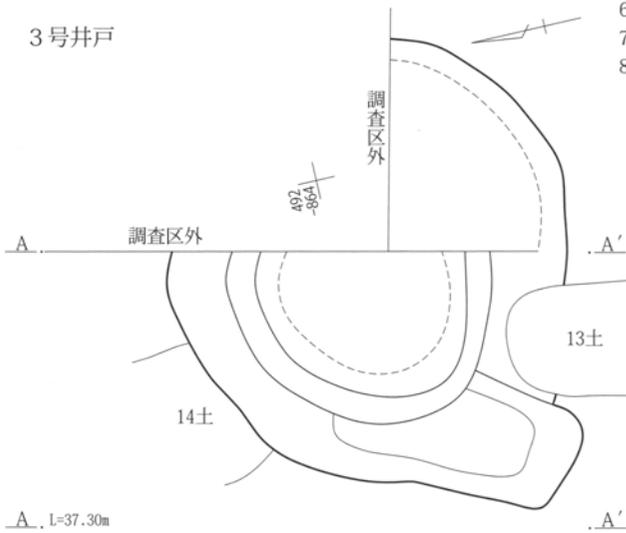
2号井戸



2号井戸 A-A'

- 1層 にぶい黄褐(10YR4/3)φ 3~5cmのロームブロック含む。
- 2層 灰黄褐(10YR4/2)φ 5~10mmのローム粒、炭化物含む。
- 3層 褐灰(10YR4/1)粘土ブロック層。
- 4層 黒褐(10YR3/1)φ 1cmのロームブロック、炭化物含む。
- 5層 暗褐(10YR3/4)φ 1cmのロームブロック含む。
- 6層 褐灰(10YR6/1)粘土ブロック崩落土。
- 7層 にぶい黄土(10YR6/3)ロームと砂質土の混土。
- 8層 褐灰(10YR4/1)砂質土。

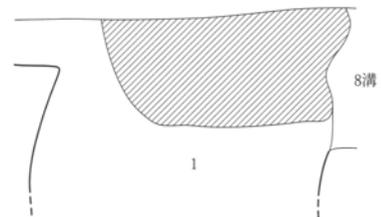
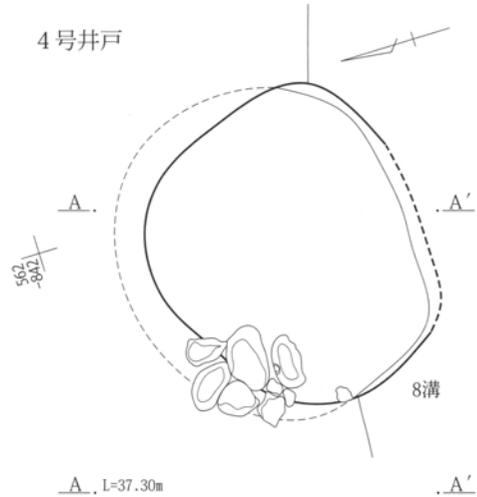
3号井戸



3号井戸 A-A'

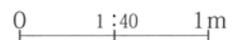
- 1層 暗褐(10YR3/3)φ 1~2cmのロームブロック多く含む。
- 2層 黒褐(10YR3/2)φ 1cmの軽石粒(As-A)、ローム粒含む。
- 3層 黄褐(10YR5/6)φ 1~2cmのロームブロック多く含む。
- 4層 褐灰(10YR6/1)粘土質。
- 5層 黒褐(10YR3/1)φ 1~2cmのローム粒、褐灰色粘質土ブロック。

4号井戸



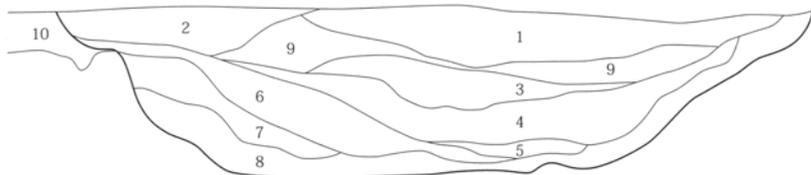
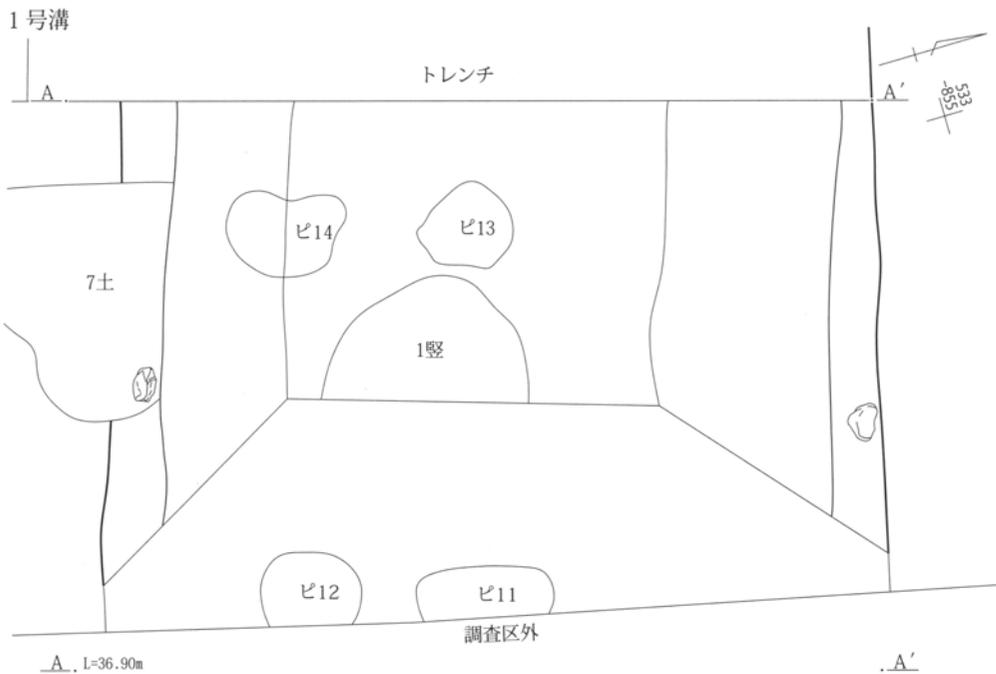
4号井戸 A-A'

- 1層 にぶい黄褐(10YR5/4)灰褐色ブロックが10%混入、粘
性有り柔らかい。



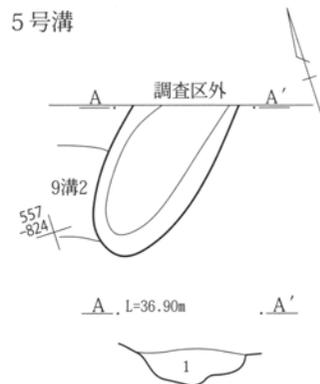
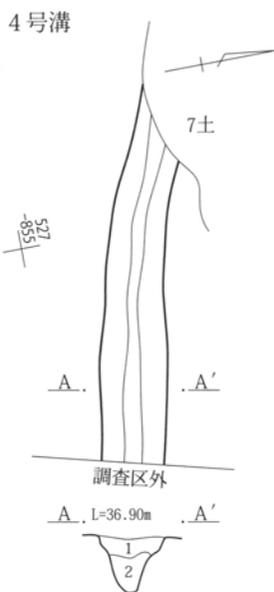
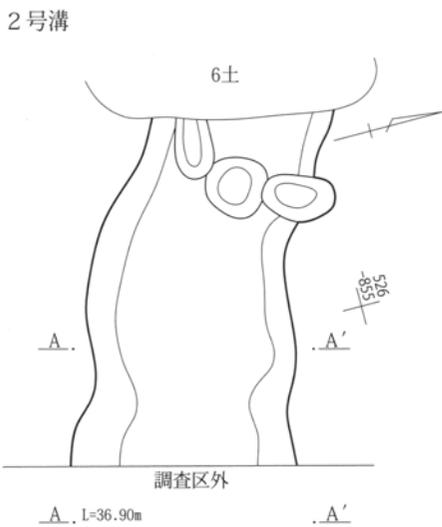
第11図 II区1~4号井戸平面図・断面図

第3章 調査の成果



1号溝 A-A'

- 1層 暗褐(10YR3/4) 5cmのロームブロック含む。しまり弱く粘質。
- 2層 褐灰(10YR4/1)灰色ブロックとφ 1cmの炭化物含む。
- 3層 褐(10YR4/6)φ 5cmのロームブロック含む。しまり弱く粘質。
- 4層 黒褐(10YR3/2)粘質土。
- 5層 灰黄褐(10YR4/2)砂粒混じり。
- 6層 暗褐(10YR3/4)φ 2~3cmのロームブロック多く含む。
- 7層 黒褐(10YR3/1)φ 1~2cmのロームブロック、砂粒含む。
- 8層 黒褐(10YR2/3)灰色粘土と黒褐土混じり。
- 9層 黒褐(7.5YR3/2)若干のローム含む。
- 10層 褐(10YR4/4)ローム混じり土。

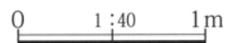


4号溝 A-A'

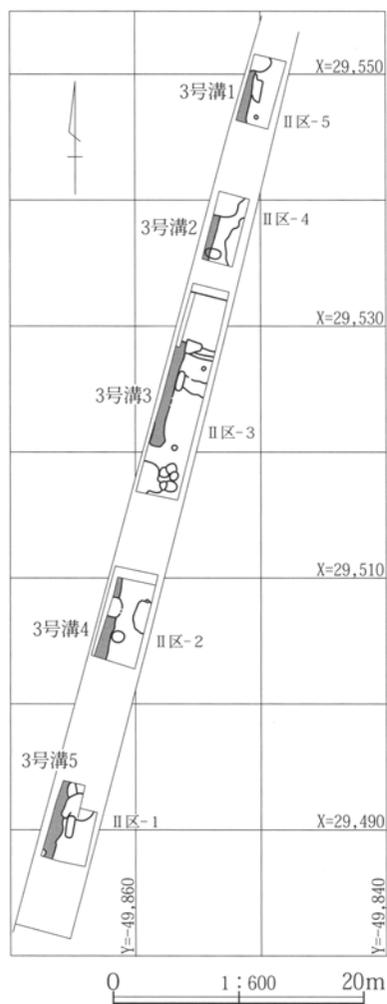
- 1層 暗褐(10YR3/4)ローム粒混じり。
- 2層 黒褐(10YR2/3)φ 1~2cmのロームブロック含む。

5号溝 A-A'

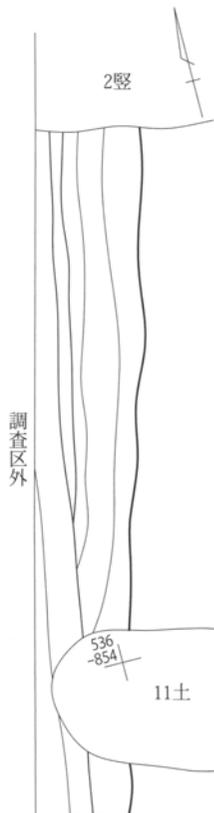
- 1層 黒(10YR7/2)φ 1~2mmのローム粒極少量混じる。



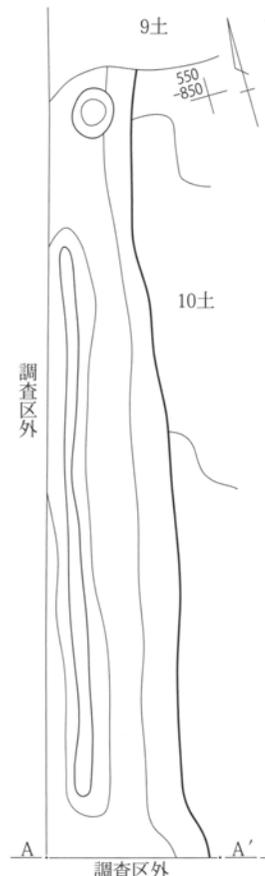
第12図 II区1・2・4・5号溝平面図・断面図



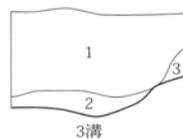
3号溝-2



3号溝-1



A, L=37.20m A'



B, L=36.90m B'



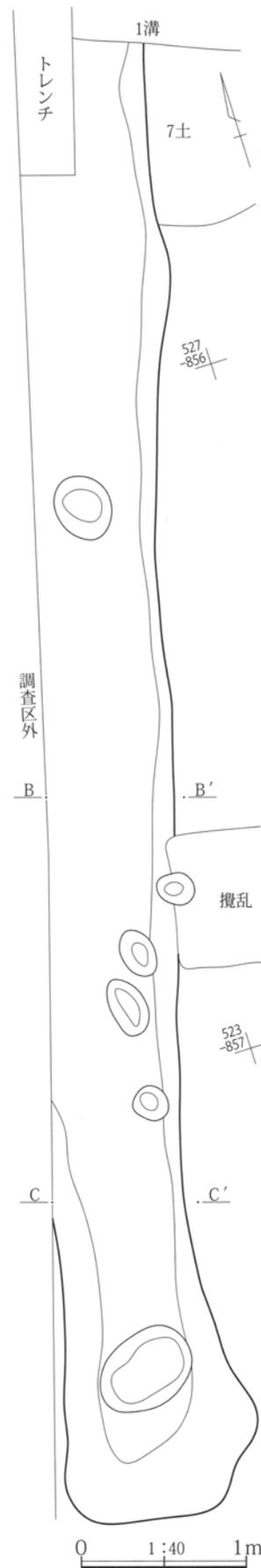
C, L=36.90m C'



3号溝A-A'・B-B'・C-C'

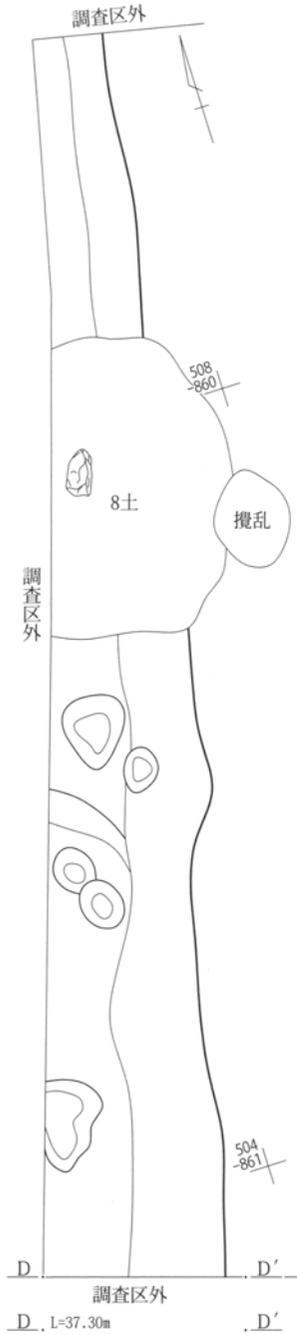
- 1層 暗褐(10YR3/3)φ1~2cmのロームブロック、炭化物含む。
- 2層 褐(10YR4/4)ローム粒、φ2~3cmのロームブロック含む。
- 3層 褐(10YR4/6)φ1cmのローム粒含む。

3号溝-3



第13図 II区3号溝平面図・断面図

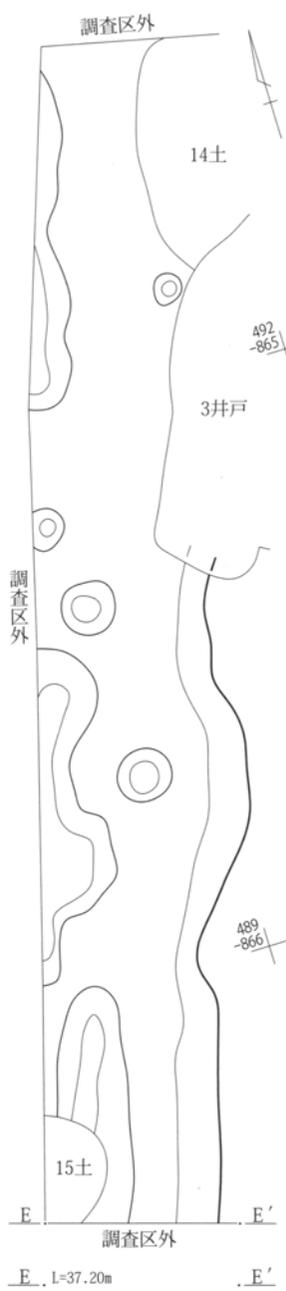
3号溝-4



3号溝D-D'

- 1層 にぶい黄褐(10YR4/3)φ 3~5 cmのロームブロック含む。しまり弱く粘質。
- 2層 暗褐(10YR3/3)φ 5 mmのロームブロック含む。
- 3層 暗褐(10YR3/4)少量のローム含む。
- 4層 黄褐(10YR5/6)ロームブロック。
- 5層 にぶい黄褐(10YR5/4)ロームブロックと暗褐色土の混土。
- 6層 明黄褐(10YR5/6)ローム漸移層。

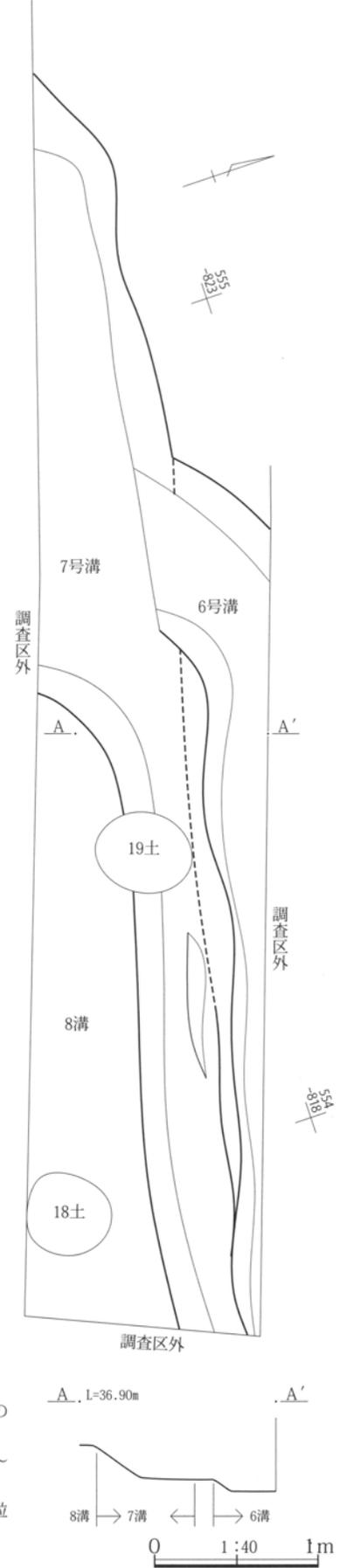
3号溝-5



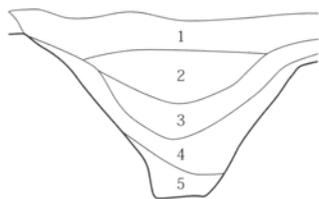
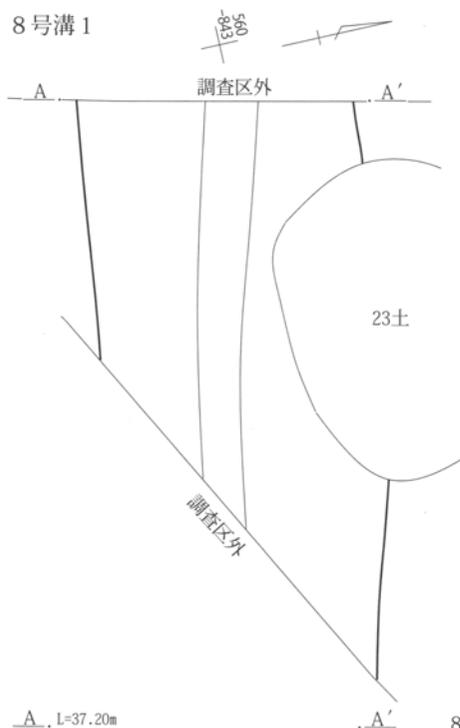
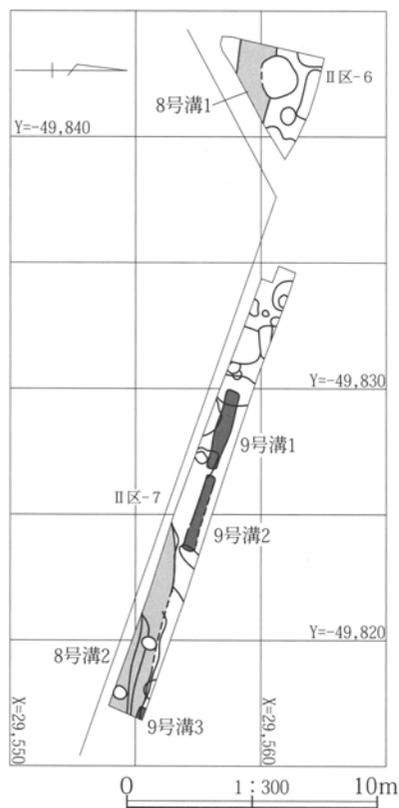
3号溝E-E'

- 1層 暗褐(10YR3/3)φ 1~2 cmのロームブロック、炭化物含む。
- 2層 褐(10YR4/4)ローム粒、φ 2~3 cmのロームブロック含む。
- 3層 褐(10YR4/9)φ 1 cmのローム粒含む。

6・7号溝



第14図 II区3・6・7号溝平面図・断面図



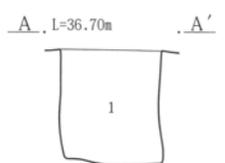
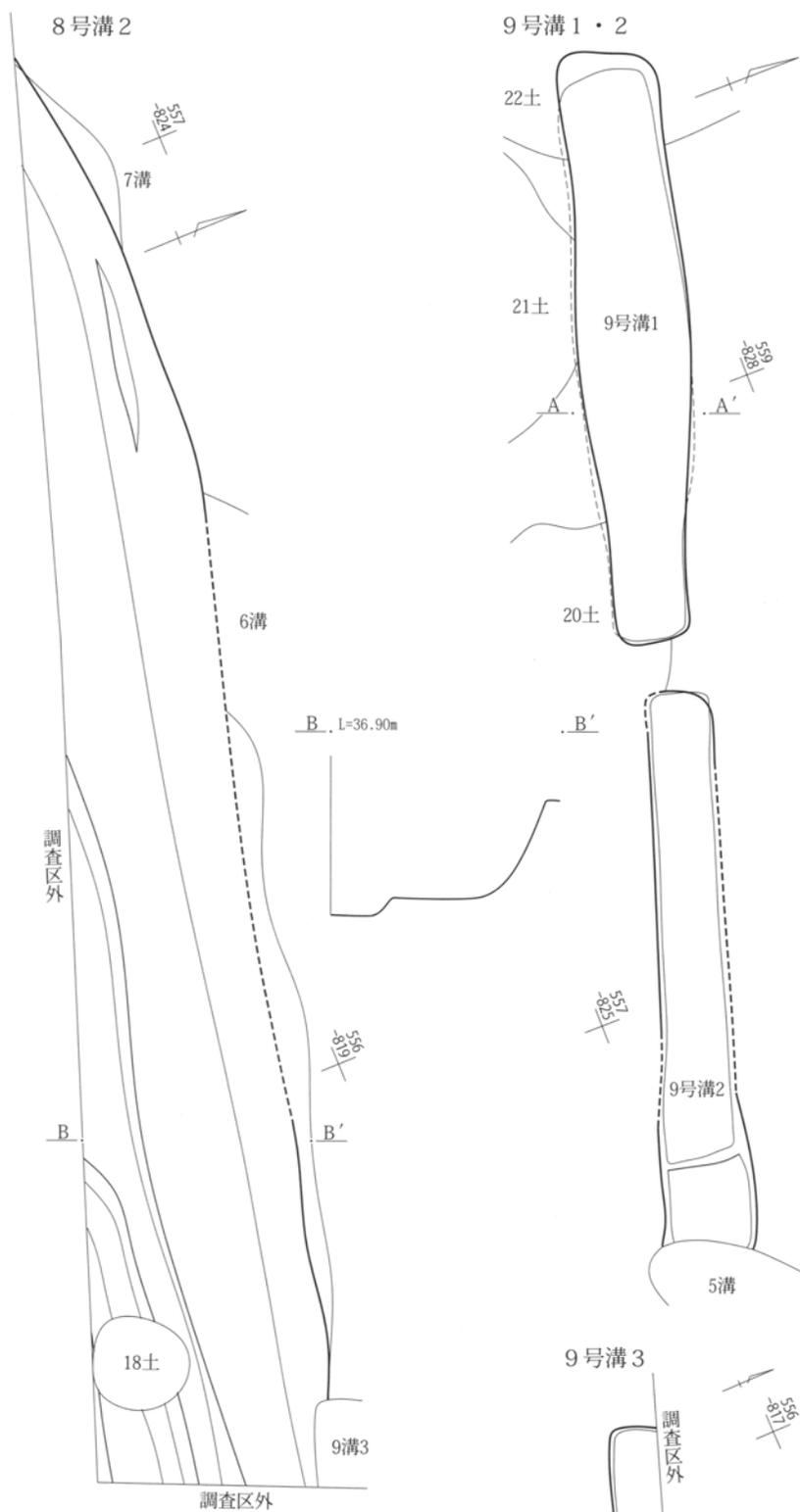
8号溝A—A'

- 1層 暗褐(10YR3/3) φ 1~2cmのロームブロック含む。粘性有り。
- 2層 黒褐(10YR3/1) φ 5mmのローム粒30%含む。粘性しまり強い。
- 3層 灰黄褐(10YR4/2) φ 3~5mmのローム粒30%含む。
- 4層 褐(10YR4/4)灰白色粘にまばらに入る。粘性しまり強い。
- 5層 褐灰(10YR4/1)灰白色粘土50%混じる。粘性しまり強い。

9号溝A—A'

- 1層 灰黄褐(10YR5/2) φ 5~10mmの灰白色ブロック10%含む。粘性有り、しまり弱い。人為的埋没。

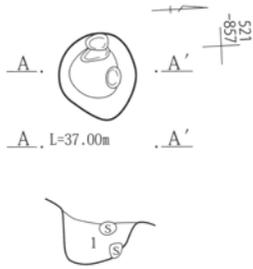
第15図 II区8・9号溝平面図・断面図



9号溝A—A' L=36.70m

第3章 調査の成果

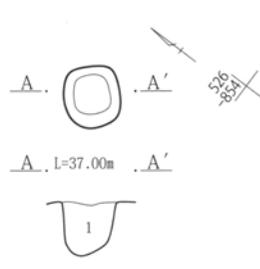
1号ピット



1号ピット A-A'

1層 褐(7.5YR4/4) φ 5~10mmのロームブロック含む粘質土。

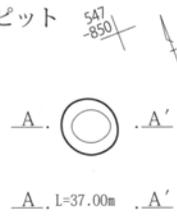
2号ピット



2号ピット A-A'

1層 暗褐(10YR3/4) φ 2~3mmの炭化物、ローム粒含む。しまり悪い。

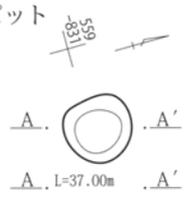
3号ピット



3号ピット A-A'

1層 にふい黄褐(10YR4/3)ローム粒含む。しまり悪い。

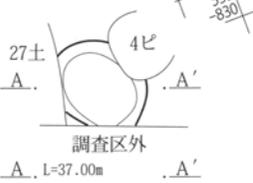
4号ピット



4号ピット A-A'

1層 暗赤褐(5YR2/3)少量の灰白色粒含む。

5号ピット



6号ピット A-A'

1層 暗褐(10YR3/4) φ 1cmのロームブロック20%含む。炭化物含む。
2層 暗褐(10YR3/3)ローム粒50%混じる。
3層 暗褐(10YR3/3)ローム極少量混じる。

6号ピット



7号ピット



7号ピット A-A'

1層 暗褐(10YR3/4) φ 1~2cmのロームブロック20%含む。

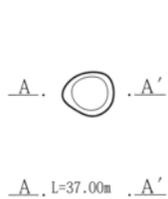
8号ピット



8号ピット A-A'

1層 暗赤褐(5YR2/3)少量の灰白色粒含む。

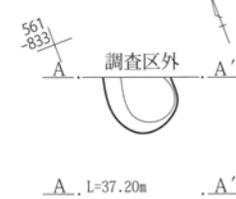
9号ピット



9号ピット A-A'

1層 にふい黄褐(10YR5/4)ロームが鹿の子状に入る。人為的埋没。

10号ピット



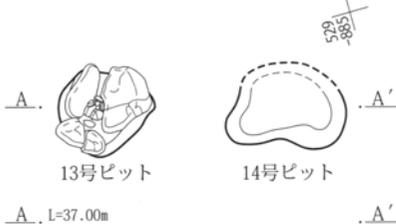
10号ピット A-A'

1層 褐(10YR4/4)粘性有り。しまり弱い、砂質。
2層 暗褐(10YR3/3)ローム粒50%混じる。
3層 暗褐(10YR3/4) φ 1cmのロームブロック20%、炭化物含む。

11・12号ピット



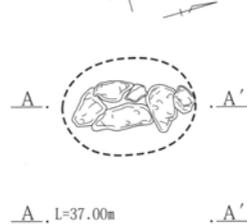
13・14号ピット



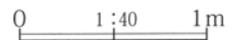
13号ピット

14号ピット

15号ピット

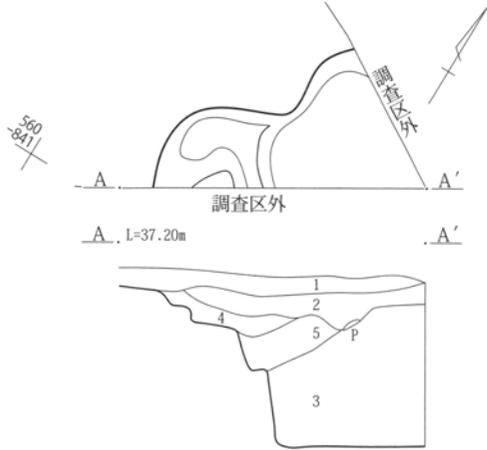


15号ピット A-A'



第16図 II区 1~12号ピット平面図・断面図

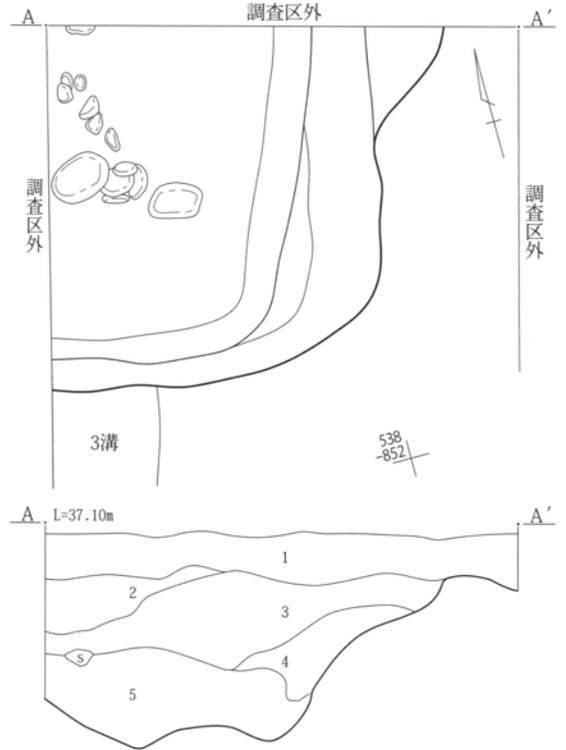
1号地下式坑



1号地下式土坑A—A'

- 1層 暗褐(10YR3/3)φ 1～2cmのロームブロック含む。粘性有り。
- 2層 黒褐(10YR3/1)φ 1～2cmの小礫含む、粘性有り。
- 3層 暗褐灰(10YR7/1)粘土質。
- 4層 褐(10YR4/3)やや粘質。
- 5層 明黄褐(10YR6/8)ローム崩落土。

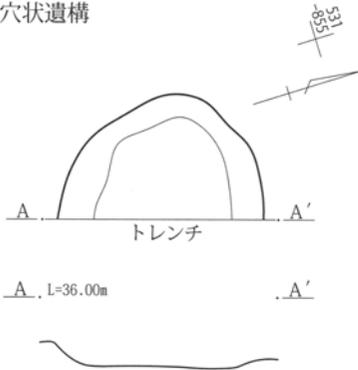
2号竖穴状遺構



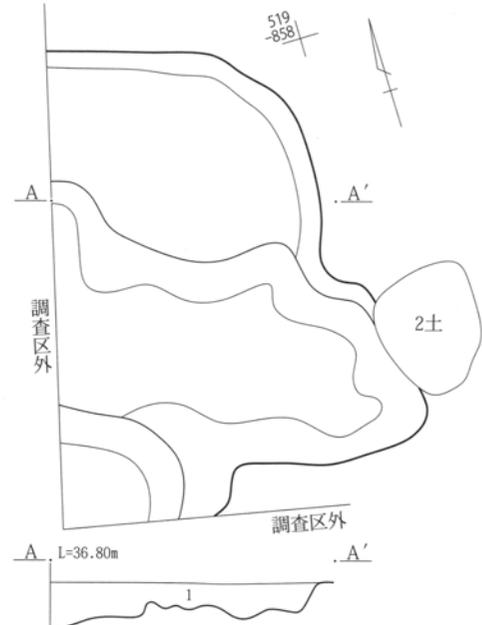
2号竖穴状遺構A—A'

- 1層 暗褐(10YR3/3)少量の炭化物、φ 2cmのロームブロック含む。
- 2層 暗褐(10YR3/4)φ 1cmのロームブロック含む。
- 3層 褐(10YR4/4)φ 1～3cmのロームブロックが鹿の子状に入る。
- 4層 黒褐(10YR3/1)φ 1～3cmのロームブロック含む。
- 5層 黒褐(10YR3/2)φ 1～3cmのロームブロック多量に含む。

1号竖穴状遺構



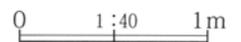
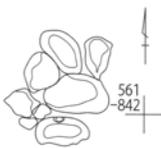
1号落ち込み



1号落ち込みA—A'

- 1層 暗褐(7.5YR3/4)少量の炭化物、φ 2～5mmの軽石、ローム粒含む。

1号礎石



第17図 II区1号地下式坑、1・2号竖穴状遺構、1号礎石、1号落ち込み平面図・断面図

た結論を得るには至っていないのが現状である。

関東地方の中世後半頃の一般的な屋敷跡の周辺からは、ほとんど検出されると言っても過言ではないほど普遍的な遺構で、関東地方以外では九州北部にやや多く分布しており、その他、東海・北陸・中国地方の一部からも若干検出されている。また、東北地方などでも地下式坑と似た施設の存在が報告されており、類似した後世の室との識別が困難な施設も含めると、散在的ではあろうが、もっと多くの事例が広範囲に分布する可能性が高い。

機能 地下式坑の機能に関する現時点における代表的な説としては、穀物類等の農産物を主とした貯蔵施設説、戦災、自然災害等からの一時避難施設説(シェルター説)、隠匿施設説(トランクルーム説)、葬送関連施設説、ないしはこれらの複数の機能を合わせ持つ多機能説等が提示されている。

貯蔵施設説 穀物類の貯蔵施設説は、室内から多量の炭化した穀類が出土した事例と、遺跡が台地上の湿気の籠り難い場所、主にローム層堆積地に営まれているという点を根拠としている。

シェルター or トランクルーム説 シェルターないしはトランクルーム説は、それらの多くが戦国期の所産であるということや、建物周辺に設けられるケースが多いという点や形状を根拠に唱えられている。

葬送・宗教関連施設説 葬送に伴う施設説は、堅坑や室内から人骨や板碑等が出土するケースが多々見られることによる。この中には、具体的に禅宗の葬法であるとの説や、またム口内で遺体を骨化するための一次葬施設であるとの見方、さらには真言密教立川流の儀礼に基づき、遺体を室内で骨化し、得られた髑髏を加工して秘儀を行う場であると想定する説すらある。

各説とも説得的な面はあるが、反面否定的資料にも事欠かないのが現状で、決め手を欠いている。

各遺跡から検出される地下式坑の総数は、単基から百基前後まで、遺跡によって多寡がある。(参考：今井恵昭「地下式坑が作られた時代」『駒沢史学』82号 2014)

(1) 1号地下式坑(第17・73図、PL. 8)

位置：Ⅱ-6調査区の北東端に位置する。16号土坑のすぐ東側に隣接する。X=29,538～29,540、Y=-49,851～-49,853。

重複関係：なし。

規模と形状：東・北側が調査区外に出るため、全容は不明であるが、北側に階段を伴う入り口が設けられ、坑内の床面はフラットである。検出長径1.9m・検出短径1.74m・深さ0.87m。

埋土：上層暗褐色土・黒褐色土・褐色土・明黄褐色土、坑内暗褐色灰色土。 **遺物**：肥前磁器染付皿1点、在地系土器香炉片1点。 **時期**：近世末期。

6. 堅穴状遺構

Ⅱ区では2基の堅穴建物状が検出されている。Ⅱ-3区から1号堅穴状遺構が、Ⅱ-4区から2号堅穴状遺構がそれぞれ検出されている。

昨年度調査された1区からも堅穴状遺構の検出はなく、本遺跡では、現在の所、堅穴状遺構はⅡ区からのみの検出である。

これらの堅穴状遺構は、先史・古代の堅穴住居ではなく、また、中世都市や城郭である鎌倉、博多、下古館遺跡(栃木県下野市)、新平田遺跡(鹿児島県大口市)、浪岡城跡(青森県青森市)などで検出されている中世堅穴建物とも異なる様相であり、部分的にしか検出できなかったこともあって、遺構の用途や機能は不明である。

(1) 1号堅穴状遺構(第17・73・74図、PL. 8)

位置：Ⅱ-3調査区の北端寄りに位置する。X=29,529～29,530、Y=-49,854。

重複関係：1号溝の底面に掘り込む。

規模と形状：東側が深度掘削のための法面の中に入るため、全容は不明である。堅穴状遺構の西端が検出されている。検出長径1.1m・検出短径0.67m。 **遺物**：制作地不詳染付土瓶1点、制作地不詳灰釉台付灯明油皿1点、軒棧瓦片1点、銅銭1点(文久永宝：文久3(1863)年2月から慶応3(1867)年まで铸造)、石鉢1点。 **時期**：近世末期～近代初頭。

(2) 2号堅穴状遺構(第17・75図、PL. 8)

位置：Ⅱ-4調査区の北西隅に位置する。12号土坑の北西側に近接する。X=29,538～29,540、Y=-49,851～-49,853。

重複関係：3号溝の北端部を掘り込む。

規模と形状：北側及び西側が大きく調査区外に出るため詳細は不明である。検出長径1.9m・検出短径1.74m・検出深度約0.87m。

埋土：上層暗褐色土、中層暗褐色土・褐色土・黒褐色土、下層黒褐色土。**遺物：**皿と鉄製品釘各1点。**時期：**近世末期。

7. 礎石

II区では調査時に「礎石」という遺構名称が付された遺構は、II-6区で検出された1基のみであるが、ピットの項で述べたように11～15号ピット及びその西の壁際でごく一部が検出されたピット群も礎石であると考えられる。

(1) 1号礎石(第17図、PL.8)

位置：II-6調査区の中央よりやや北側、西端寄りに位置する。25号土坑のすぐ南西側、8号溝のすぐ北側に隣接する。X=29,561～29,562、Y=-49,843～-49,844。

重複関係：4号井戸埋没後にその縁辺部にかかる位置に構築される。

規模と形状：南北に長い楕円形状を呈する。確認面に集積が見られた状態であり、掘り込みは全く確認できなかった。構造から何らかの建物の柱跡と考えられるが、相対する礎石は調査範囲内からは見つからなかった。竪穴状遺構の西端が検出されている。長径0.7m・短径0.5m。**遺物：**なし。**時期：**近世末期～近代初頭か。

8. その他の遺構

(1) 1号落ち込み(第17図)

位置：II-3調査区の南西隅に位置する。1・4号土坑のすぐ西側に隣接する。X=29,517～29,520、Y=-49,857～-49,860。

重複関係：2号土坑に掘り込まれる。

規模と形状：南・西辺が調査区外に出るため全容は不明である。不整形。底部は起伏が大きい、どちらかの方向に傾斜しているわけではない。人為的な掘り込みであるのか、自然に形成された窪地なのかは不明である。検出長径2.51m・検出短径1.9m・深さ0.2m。

埋土：暗褐色土。**遺物：**染付碗1点。**時期：**近世末期。

9. 遺構外一括出土遺物

遺構外出土遺物を観察表及び第75・76図に掲載した。なお、「遺構外出土遺物」と「一括」は同意であり、「落ち込み出土」遺物1点も含む。

第3節 III区で検出された遺構と遺物

III区は、主要地方道大間々・深谷線の世良田交差点以南の西側と、世良田交差点の西側、国道354号線沿いの南側の部分にあたる。

調査区は5箇所に分かれ、主要地方道大間々・深谷線の西側拡幅部分を南からIII-1調査区、III-2調査区、III-3調査区とし、主要地方道大間々・深谷線が世良田交差点にかかる、交差点南西側拡張部分を含む一角をIII-4調査区、国道354号線の南側拡幅部分をIII-5調査区とした。

III区で検出された遺構は、土坑60基、井戸3基、溝5条、ピット30基、礎石8基、配石2基である。土坑と礎石の検出件数は、全調査区内で最多である。

III-1調査区は、主要地方道大間々・深谷線の西側拡張区の南の端にあたり、X=29,480～29,500・Y=-49,875～-49,885に位置する。主要地方道大間々・深谷線を挟んだ東側にはII-2調査区が存在する。土坑1基、溝1条が検出された。

III-2調査区は、主要地方道大間々・深谷線の西側拡張区にかかるIII区において南から2番目の調査区で、X=29,520～29,530・Y=-49,865～-49,875に位置する。主要地方道大間々・深谷線を挟んだ東側にはII-3調査区が存在する。土坑7基、溝1条が検出された。

III-3調査区は、主要地方道大間々・深谷線の西側拡張区にかかるIII区において南から3番目の調査区で、X=29,535～29,550・Y=-49,860～-49,870に位置する。主要地方道大間々・深谷線を挟んだ東側にはII-4調査区が存在する。検出された遺構は、土坑3基、溝2条、配石が2基である。

III-4調査区は、世良田交差点の南側、主要地方道大間々・深谷線が世良田交差点に達する部分の、西側の拡張区と世良田交差点そのものの南西側拡張箇所にあたる。X=29,550～29,565、Y=-49,855～-49,865。土

第3章 調査の成果

坑21基、井戸2基、溝3条、ピット19基、礎石6基が検出された。土坑・ピットの検出数はⅢ区最多である。

Ⅲ-5調査区は、国道353号線の南側拡幅部分にあたる調査区で、交差点部分にあたるⅢ-4調査区の北側と本調査区とが、Ⅲ区では国道353号線に面した調査区ということになる。Ⅲ区の中で最も調査面積が大きい調査区である。土坑28基、井戸1基、溝1条、ピット11基、礎石2基が検出された。

1. 土坑

Ⅲ区では60基の土坑が検出された。Ⅰ区では14基、Ⅱ区では27基、Ⅳ区では45基であるから、調査区別では圧倒的に最多である。

主要地方道太田・大間々線に面し、Ⅲ区の最南端にあたるⅢ-1調査区では1基、その北側に位置するⅢ-2調査区では7基、さらにその北側にあたるⅢ-3調査区では3基、世良田交差点にかかるⅢ-4調査区では21基、国道353号線の南側に面したⅢ-5調査区では28基が検出された。世良田交差点に面したⅢ-4調査区と国道353号線の南側に面したⅢ-5調査区とに集中して出土している。

他の調査区においても、南端部や北端部に比べて、世良田交差点に近い箇所や国道353号線に面した調査区において、より多くの土坑が検出されるような傾向が窺える。ただし、用途・機能が明確に判明するものは皆無であった。

(1) 1号土坑(第20・77図、PL.10)

位置:Ⅲ-5調査区最西端付近に位置する。1号礎石の東側、2号礎石の西側に位置する。X=29,584、Y=-49,894~-49,895。

重複関係:なし。

方向:N-110°-E。

規模と形状:北西-南東方向に長い不整楕円形状を呈する小規模な土坑。長径0.8m・短径0.4m・深さ0.25m。

埋土:黒褐色土。 **遺物:**在地系土器鉢片1点。 **時期:**中世。

(2) 2号土坑(第20図、PL.10)

位置:Ⅲ-5調査区の西端付近に位置する。1号井戸

のすぐ北側に、2号礎石のすぐ南側に隣接する。X=29,582~29,583、Y=-49,893。

重複関係:なし。

方向:N-20°-W。

規模と形状:南北にやや長い楕円形状を呈する小規模な土坑。長径0.42m・短径0.36m・深さ0.31m。

埋土:灰黄褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**不明。

(3) 3号土坑(第20図、PL.10)

位置:Ⅲ-5調査区の西端よりやや中央寄りの南壁際。2号礎石の東側、4号土坑の西側に位置する。X=29,580~29,581、Y=-49,891~-49,892。

重複関係:なし。

規模と形状:南側が調査区外に出るため全容は不明であるが、方形ないし長方形の掘方を有するものと考えられる。検出長径0.88m・検出短径0.44m・深さ0.14m。

埋土:褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**不明。

(4) 4号土坑(第20・77図、PL.10)

位置:Ⅲ-5調査区の西寄りに位置する。3号土坑の東、9号土坑の西側に位置する。X=29,580~29,581、Y=-49,891~-49,892。

重複関係:2号礎石に北側を、1号溝に東側を掘り込まれる。

規模と形状:北側を2号礎石に、東側を1号溝に掘り込まれ、南側は調査区外に出るため全容は不明であるが、不整形形状を呈する大きな土坑である。検出長径1.84m・検出短径1.5m・深さ0.12m。

埋土:上層暗褐色土、中層黒褐色土、下層褐色土。 **遺物:**肥前磁器染付丸碗1点、肥前磁器染付小坏1点、京・信楽系灰釉灯明油皿片1点、瀬戸・美濃陶器乗燭片2点、円盤形土製品1点、在地系土器皿1点、在地系土器焙烙片1点、在地系土器置竈片1点。 **時期:**近世末期。

(5) 5号土坑(第20図、PL.10)

位置:Ⅲ-5調査区の西端付近に位置する。南壁に掛かる。1号井戸の西側に位置する。X=29,582~29,583、Y=-49,896~-49,897。

重複関係:1号礎石に中央部を掘り込まれる。

規模と形状:中央部を1号礎石に掘り込まれ、南側が大

大きく調査区外に出るため全容は不明であるが、不整楕円形状を呈する大きな土坑である。検出長径2.02m・検出短径0.8m・深さ0.3m。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(6) 6号土坑(第20図、PL.10)

位置：Ⅲ-5調査区の西端、西北隅に掛かる。1号土坑の西側、5号土坑の北西側に位置する。X=29,584～29,585、Y=-49,897～-49,898。

重複関係：1号礎石に中央部を掘り込まれる。

規模と形状：中央部を1号礎石に掘り込まれ、北及び西側が大きく調査区外に出るため全容は不明であるが、不整楕円形状を呈する大きな土坑である。検出長径1.74m・検出短径1.44m・深さ0.39m。

遺物：なし。 **時期**：不明。

(7) 7号土坑(第20・77図、PL.10)

位置：Ⅲ-3調査区の中央部からやや北東の位置。2号配石のすぐ東側に隣接する。X=29,542～29,543、Y=-49,863～-49,864。

重複関係：なし。

方向：N-13°-E。

規模と形状：南北に若干長い楕円形状を呈する。長径1.04m・短径0.88m・深さ0.2m。

埋土：褐灰色砂質土。 **遺物**：2点を取り上げた。軒丸瓦片1点、在地系土器鉢片1点。 **時期**：近世末期。

(8) 8号土坑(第20図、PL.10)

位置：Ⅲ-3調査区のほぼ中央。7号土坑のすぐ南側に位置する。X=29,541～29,542、Y=-49,864。

重複関係：なし。

規模と形状：東西に若干長い楕円形状を呈する。長径0.94m・短径0.92m・深さ0.17m。

埋土：褐灰色砂質土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(9) 9号土坑(第21・77・78図、PL.10)

位置：Ⅲ-5調査区の中央部からやや西寄りの位置。1号溝の東側に近接する。X=29,578～29,580、Y=-49,884～-49,887。

重複関係：なし。

方向：N-118°-E。

規模と形状：南側が調査区外に出るが東西に長い楕円形状を呈する巨大な土坑。本遺跡で検出された土坑の中で最大規模である。長径2.7m・検出短径2.2m・検出深度0.46m

埋土：上層褐色土、中層黒褐色土、下層暗褐色土。 **遺物**：在地系土器鉢片1点、在地系土器内耳鍋片1点、在地系土器焙烙片1点、常滑陶器甕片4点。 **時期**：中世。

(10) 10号土坑(第20図、PL.11)

位置：Ⅲ-3調査区の南西隅。X=29,537～29,538、Y=-49,864。

重複関係：なし。

規模と形状：西端が調査区外に出るため全容は不明であるが、東西に若干長い楕円形状を呈する。検出長径0.94m・短径0.92m・深さ0.17m。

埋土：黒褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(11) 11号土坑(第20・78図、PL.11)

位置：Ⅲ-5調査区の中央部より東寄りの位置。14号土坑の北側。X=29,576～29,577、Y=-49,875～-49,876。

重複関係：2号礎石に掘り込まれる。

規模と形状：南北に長い楕円形状を呈する。検出長径1.1m・検出短径0.7m・深さ0.62m。

埋土：上層暗褐色土、中層鈍い黄褐色シルト質土、下層暗褐色砂質土。 **遺物**：龍泉窯青磁皿片1点、瀬戸・美濃陶器碗片1点。 **時期**：中世。

(12) 12号土坑(第21図、PL.11)

位置：Ⅲ-5調査区の東寄りの位置。17号土坑の東側、16号土坑の北西側に近接する。X=29,575～29,576、Y=-49,873。

重複関係：なし。

規模と形状：北側が調査区外に出るため全容は不明であるが、東西に長い楕円形状を呈するものと思われる。検出長径0.5m・検出短径0.1m・深さ0.31m。

埋土：暗褐色砂質土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(13) 13号土坑(第21・78図、PL.11)

位置：Ⅲ-5調査区的最東端寄りの位置。南壁に掛かる。

X=29,572～29,573、Y=-49,868～49,869。

重複関係：なし。

規模と形状：南側大半が調査区外に出るため全容は不明であるが、楕円形状を呈するものと思われる。検出長径1.7m・検出短径1.2m・深さ0.33m。

埋土：灰黄褐色砂質土。 **遺物**：肥前磁器染付丸碗1点、瀬戸・美濃陶器徳利片1点、堺・明石陶器すり鉢片1点。

時期：近世末期。

(14)14号土坑(第21図、PL.11)

位置：Ⅲ-5調査区の中央部より東寄りの位置。南壁に掛かる。X=29,575、Y=-49,876。

重複関係：60号土坑に掘り込まれる。

規模と形状：南側が調査区外に出るため全容は不明であるが、東西にやや長い不整楕円形状を呈するものと思われる。検出長径0.8m・検出短径0.3m・深さ0.19m。

埋土：灰黄褐色砂質土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(15)15号土坑(第21図、PL.11)

位置：Ⅲ-5調査区の東端寄り。北壁に掛かる。2・3号ピットのすぐ西側に隣接する。X=29,573、Y=-49,870。

重複関係：19号土坑を掘り込む。

規模と形状：南側が調査区外に出るが、南北に長い隅丸長方形形状を呈するものと思われる。検出長径0.7m・検出短径0.66m・深さ0.15m。

埋土：灰黄褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(16)16号土坑(第21・78図、PL.11)

位置：Ⅲ-5調査区の東寄り。南壁に掛かる。12号土坑の南東側に、19号土坑の南西側に隣接する。X=29,573～29,574、Y=-49,872～-49,873。

重複関係：なし。

規模と形状：南側が調査区外に出るが、東西に長い不整楕円形状を呈するものと思われる。検出長径1.78m・検出短径0.84m・深さ0.13m。

埋土：灰黄褐色土、鈍い黄褐色土。 **遺物**：古瀬戸陶器盤類片1点。 **時期**：中世か。

(17)17号土坑(第22図、PL.11)

位置：Ⅲ-5調査区の東寄り。11号土坑の南東側に、12号の南西側に、14号土坑の北東側に、16号土坑の西側に近接する。X=29,575、Y=-49,874～-49,875。

方向：N-98°-E。

重複関係：なし。

規模と形状：東西に長い不整楕円形状を呈する。長径1.3m・短径1.04m・深さ0.38m。

埋土：上層鈍い黄褐色砂質土、下層鈍い黄褐色シルト質土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(18)18号土坑(第22図、PL.11)

位置：Ⅲ-5調査区の最東端。東壁に掛かる。X=29,572～29,573、Y=-49,866～-49,867。

重複関係：5・6号ピットに掘り込まれる。

規模と形状：東側が大きく調査区外に出るため全容は不明であるが、西北西-東南東方向に長い不整楕円形状を呈するものと思われる。検出長径1.02m・検出短径0.8m・深さ0.46m。

埋土：上層暗褐色砂質土、下層鈍い黄褐色シルト質土。

遺物：なし。 **時期**：不明。

(19)19号土坑(第21図、PL.11)

位置：Ⅲ-5調査区の最東端寄り。北壁に掛かる。13号土坑の北西側に、16号土坑の北東側に、2・3号ピットの西側に近接する。X=29,573～29,574、Y=-49,869～-49,871。

重複関係：15号土坑に掘り込まれる。

規模と形状：北側が調査区外に出るため全容は不明であるが、不整楕円形状を呈するものと思われる。検出長径1.78m・検出短径0.5m・深さ0.36m。

埋土：上層暗褐色粘質土、中層褐色粘質土、下層鈍い黄褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(20)20号土坑(第22図、PL.11)

位置：Ⅲ-2調査区の最北端。北壁に掛かる。24号土坑の東側、4号溝の西側に位置する。X=29,526、Y=-49,868～-49,869。

重複関係：24・25号土坑を掘り込む。

規模と形状：北側が調査区外に出るため全容は不明であるが、不整楕円形状を呈するものと思われる。検出長径

0.49m・検出短径0.18m・深さ0.19m。

埋土：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(21)21号土坑(第22図、PL.12)

位置：Ⅲ-2調査区の北西端。北壁及び西壁に掛かる。25号土坑のすぐ西側に隣接する。X=29,526、Y=-49,869~-49,870。

重複関係：なし。

規模と形状：北側及び西側が調査区外に出るため全容は不明であるが、不整形楕円形状を呈するものと思われる。

検出長径1m・検出短径0.5m・深さ0.43m。

埋土：上層鈍い黄褐色土、中下層暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(22)22号土坑(第22・78図、PL.12)

位置：Ⅲ-2調査区の南寄りの位置。西壁に掛かる。X=29,523~29,524、Y=-49,870~-49,871。

重複関係：26号土坑を掘り込む。

規模と形状：西側が調査区外に出るため全容は不明であるが、東西に長い楕円形状を呈する大きな土坑と思われる。検出長径1.2m・検出短径1.16m・深さ0.35m。

埋土：暗褐色土。 **遺物**：肥前磁器染付筒形小坏1点、肥前磁器染付小坏1点、肥前磁器染付碗1点、肥前磁器染付丸碗片1点、瀬戸・美濃陶器絵徳利1点、制作地不詳徳利1点、常滑焼陶器甕片1点、在地系土器皿2点、在地系土器置竈片1点、在地系土器焙烙片1点。なお、瀬戸・美濃陶器絵徳利の底部蛇目高台部に「大町井筒屋」という文字と家号(菱囲い内に「舛」)が墨書されたものがある。 **時期**：近世末期。

(23)23号土坑(第22図、PL.12)

位置：Ⅲ-2調査区の中央部。22号土坑のすぐ北東側に隣接する。X=29,524、Y=-49,869。

方向：N-12°-E。

重複関係：24・25号土坑を掘り込む。

規模と形状：南北に長い隅丸長方形形状を呈する。長径1.02m・短径0.7m・深さ0.56m。

埋土：灰黄褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(24)24号土坑(第22・79図、PL.12)

位置：Ⅲ-2調査区の中央部。X=29,525~29,526、Y=-49,868~-49,869。

重複関係：23号土坑を掘り込む。25号土坑に掘り込まれる。

規模と形状：不整形。検出長径1.42m・検出短径0.7m・深さ0.32m。

埋土：暗褐色土。 **遺物**：肥前磁器染付丸碗片1点。

時期：近現代。

(25)25号土坑(第22図、PL.12)

位置：Ⅲ-2調査区の中央部からやや西側の位置。X=29,524~29,526、Y=-49,869~-49,870。

重複関係：23・24号土坑を掘り込まれる。

規模と形状：不整形。検出長径2.74m・検出短径0.56m・深さ0.31m。

埋土：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(26)26号土坑(第22図、PL.12)

位置：Ⅲ-2調査区の中央部からやや南寄りの位置。X=29,522~29,524、Y=-49,869~-49,870。

重複関係：20号土坑に掘り込まれる。4号溝を掘り込む。

規模と形状：不整形。検出長径1.8m・検出短径0.5m・深さ0.21m。

埋土：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(27)27号土坑(第22・79図、PL.12)

位置：Ⅲ-5調査区の中央部。南壁に掛かる。28号土坑のすぐ東側に隣接する。X=29,576~29,577、Y=-49,880~-49,881。

重複関係：54号土坑に掘り込まれる。

規模と形状：南側が調査区外に出るため全容は不明である。不整形を呈するものと思われる。検出長径1.34m・検出短径1.2m・深さ0.43m。

埋土：灰黄褐色砂質土。 **遺物**：銅銭2点(泉文解説不能)。

時期：近世末期。

(28)28号土坑(第22図、PL.12)

位置：Ⅲ-5調査区の中央部。南壁に掛かる。27号土坑のすぐ西側に、29号土坑のすぐ東側に隣接する。X=29,576~29,577、Y=-49,881~-49,882。

重複関係：なし。

規模と形状：南側が調査区外に出るため全容は不明である。不整形を呈するものと思われる。検出長径0.84m・検出短径0.8m・深さ0.1m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(29)29号土坑(第23図、PL.12)

位置：Ⅲ-5 調査区の中央部。南寄りの位置。28号土坑のすぐ西側に隣接する。X=29,577、Y=-49,882。

方向：N-59°-E。

重複関係：なし。

規模と形状：北東-南西方向に長い不整形を呈する。検出長径0.88m・検出短径0.44m・深さ0.54m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(30)30号土坑(第23・79図、PL.12)

位置：Ⅲ-4 調査区の北端寄りの位置。北西壁際。44号土坑の西側に近接する。X=29,565～29,566、Y=-49,861～-49,862。

重複関係：47号土坑、8号礎石に掘り込まれる。

規模と形状：北西-南東方向に長い不整楕円形状を呈する。検出長径1.2m・検出短径1.08m・深さ0.1m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(31)31号土坑(第23・79図、PL.12)

位置：Ⅲ-4 調査区の北西端。北西壁に掛かる。X=29,568、Y=-49,862～-49,863。

重複関係：37号ピットに掘り込まれる。

規模と形状：北北側及び西側が調査区外に大きく出るため、全容は不明である。検出長径1.2m・検出短径1.08m・深さ0.1m。

埋土：上層暗褐色土、下層鈍い黄褐色土、暗褐色土。

遺物：在地系土器内耳鍋1点。 時期：中世。

(32)32号土坑(第23・79図、PL.12)

位置：Ⅲ-5 調査区の中央部。やや北寄りの位置。27・53・54号土坑のすぐ北側、2号礎石のすぐ南側に隣接する。X=29,577～29,578、Y=-49,878～-49,881。

方向：N-118°-E。

重複関係：52号土坑を掘り込む。58号土坑に掘り込まれ

る。

規模と形状：東-西に長い隅丸長方形形状を呈する。長径2.8m・短径0.56m・深さ0.32m。

埋土：上層灰黄褐色土、下層鈍い黄褐色土。 遺物：瀬戸・美濃陶器鉄釉秉燭1点。 時期：近世末期。

(33)33号土坑(第23図、PL.12)

位置：Ⅲ-4 調査区の中央部よりやや北寄りの位置。東壁に掛かる。34号土坑のすぐ東側に隣接する。X=29,561～29,562、Y=-49,857～-49,858。

重複関係：3号溝を掘り込む。

規模と形状：東側が調査区外に大きく出るため、全容は不明である。検出長径1.2m・検出短径0.2m・深さ0.1m。

埋土：灰黄褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(34)34号土坑(第23図、PL.13)

位置：Ⅲ-4 調査区の中央部よりやや北寄りの位置。東壁際。33号土坑のすぐ西側に隣接する。X=29,562～29,563、Y=-49,857～-49,858。

重複関係：3号溝を掘り込み、3号井戸を掘り込む。

方向：N-10°-E。

規模と形状：南北に長い隅丸長方形形状を呈する。長径3.08m・短径0.44m・深さ0.62m。

埋土：上層鈍い黄褐色土、下層暗褐色土。 遺物：なし。

時期：不明。

(35)35号土坑(第23・79図、PL.13)

位置：Ⅲ-4 調査区の中央部よりやや北寄りの位置。東壁にかかる。7号ピットの東側に近接する。X=29,558～29,559、Y=-49,858～-49,859。

重複関係：3号溝を掘り込む。

規模と形状：東側が調査区外に出るが、南北に長い隅丸長方形形状を呈するものと思われる。検出長径2.38m・検出短径0.42m・深さ0.53m。

埋土：鈍い黄褐色土。 遺物：肥前磁器染付丸碗1点。

時期：近世末期。

(36)36号土坑(第23・79図、PL.13)

位置：Ⅲ-4 調査区の北寄りの位置。44号土坑、11号ピットの東側、8号ピットの西側に近接する。X=29,564、

Y=-49,858~-49,859。

重複関係：3号井戸、48号土坑を掘り込む。

方向：N-20°-W。

規模と形状：南北に長い隅丸長方形を呈する。長径1.78m・検出短径0.6m・深さ0.56m。

埋土：鈍い黄褐色土。 **遺物**：常滑陶器甕片1点。 **時期**：中世

(37)37号土坑(第23図、PL.12)

位置：III-4調査区の中央部よりやや北寄りの位置。7・18号ピットのすぐ北側に隣接し、49号土坑の東側に近接する。X=29,560~29,561、Y=-49,858~-49,859。

重複関係：3号溝に掘り込まれる。

方向：N-20°-W。

規模と形状：南北に長い隅丸長方形を呈する。検出径0.7m・深さ0.18m。

埋土：鈍い黄褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(38)38号土坑(第24図、PL.13)

位置：III-4調査区の中央部。35号土坑の西側に置する。X=29,568、Y=-49,860。

重複関係：なし。

方向：N-10°-W。

規模と形状：南北にやや長い不整楕円形状を呈する。長径0.7m・短径0.5m・深さ0.33m。

埋土：褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(39)39号土坑(第24図、PL.13)

位置：III-4調査区の北端付近。46号土坑のすぐ東側に隣接する。X=29,568、Y=-49,857~-49,858。

重複関係：10号ピットに掘り込まれる。

規模と形状：東西に長い長円形状を呈する。長径1.48m・短径0.46m・深さ0.13m。

埋土：褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(40)40号土坑(第24図、PL.13)

位置：III-4調査区の最北端。北壁に掛かる。X=29,570、Y=-49,858~-49,859。

重複関係：41号土坑を掘り込む。

規模と形状：東北側が調査区外に出るため、全容は不明

である。検出径0.7m・深さ0.08m。

埋土：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(41)41号土坑(第24図、PL.13)

位置：III-4調査区の最北端。北壁に掛かる。X=29,569~29,570、Y=-49,857~-49,858。

重複関係：40号土坑に掘り込まれる。

規模と形状：東北側が調査区外に出るため、全容は不明である。検出長径0.9m・検出短径0.4m・深さ0.18m。

埋土：灰黄褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(42)42号土坑(第24図、PL.13)

位置：III-4調査区の北端部付近。44号土坑のすぐ北側に隣接する。X=29,587~29,588、Y=-49,859~-49,860。

重複関係：12・14号ピットに掘り込まれる。43号土坑、14号ピットを掘り込む。

方向：N-10°-E。

規模と形状：不整楕円形状を呈する。長径0.7m・短径0.6m・深さ0.3m。

埋土：暗褐色土、底部一部鈍い黄褐色土。

遺物：なし。 **時期**：不明。

(43)43号土坑(第24図、PL.13)

位置：III-4調査区の北端部付近。44号土坑のすぐ北側に隣接する。X=29,587~29,588、Y=-49,859~-49,860。

重複関係：42号土坑に掘り込まれる。

規模と形状：東西に長い不整長円形状を呈する。検出長径1.5m・短径0.42m・深さ0.24m。

埋土：褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(44)44号土坑(第24図、PL.13)

位置：III-4調査区の北端部付近。42・43号土坑のすぐ南側に隣接する。3号井戸、36号土坑の西側に位置する。X=29,565~29,566、Y=-49,860。

重複関係：11号ピットに掘り込まれる。45号土坑と合体するが新旧関係は不明である。

規模と形状：東西に長い隅丸長方形の44号土坑と南北に長い隅丸長方形の45号土坑とが合体したような逆

第3章 調査の成果

L字型の形状を呈する。長径1.5m・短径0.72m・深さ0.13m。

埋土：褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(45)45号土坑(第24図、PL.43)

位置：Ⅲ-4調査区の北端部付近。42・43号土坑のすぐ南側に隣接する。2号井戸、36号土坑の西側に位置する。X=29,565～29,566、Y=-49,860。

重複関係：15号ピットに掘り込まれる。

規模と形状：東西に長い隅丸長方形の44号土坑と南北に長い隅丸長方形の45号土坑とが合体したような逆L字型の形状を呈する。長径1.48m・短径0.68m・深さ0.2m。埋土：褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(46)46号土坑(第24図、PL.13)

位置：Ⅲ-4調査区の北端付近。39号土坑のすぐ西側に隣接する。X=29,568～29,569、Y=-49,859～-49,861。

重複関係：13号ピットに掘り込まれる。

規模と形状：西側が調査区外に出るが、東西に長い隅丸長方形を呈するものと思われる。検出長径2.06m・短径0.86m・深さ0.08m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(47)47号土坑(第24・79図、PL.13)

位置：Ⅲ-4調査区の北端付近。西壁際。X=29,565、Y=-49,862。

重複関係：30号土坑を掘り込む。

方向：N-30°-W。

規模と形状：北西-南東方向にやや長い不整楕円形状を呈する。平面形態は小規模な割に非常に深く、底部を検出することが出来なかった。非常に小規模ながら、井戸である可能性がある。長径0.86m・短径0.66m・調査最大深度1.25m。

埋土：上層褐色土、下層暗褐色土。 遺物：円盤型加工土製品1点、在地系土器火鉢片1点、軒平瓦片1点、在地系土器植木鉢片1点。 時期：近世末期～近代初頭。

(48)48号土坑(第24図、PL.14)

位置：Ⅲ-4調査区の北端付近。39号土坑の南側、43・

44号土坑の東側に位置する。X=29,566～29,567、Y=-49,858～-49,859。

重複関係：36号土坑、3号井戸に掘り込まれる。

規模と形状：円形状を呈する。検出径0.88m・深さ1m

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：中世。

(49)49号土坑(第24図)

位置：Ⅲ-4調査区の中央部より北寄りの位置。50号土坑のすぐ東側に隣接する。X=29,560～29,561、Y=-49,858～-49,859。

重複関係：2号井戸に掘り込まれる。

方向：N-102°-E。

規模と形状：東西に長い隅丸長方形を呈する。長径1.8m・短径0.6m・深さ0.93m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(50)50号土坑(第25図、PL.14)

位置：Ⅲ-4調査区の中央部より北寄りの位置。西壁に掛かる。49号土坑、19・20号ピットのすぐ西側に隣接する。X=29,562～29,564、Y=-49,859～-49,861。

重複関係：なし。

規模と形状：大部分が西側調査区外に出るため、全容は不明である。検出長径2.1m・検出短径0.34m・深さ0.3m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(51)51号土坑(第25図、PL.14)

位置：Ⅲ-5調査区の中央部よりやや北寄りの位置。26号ピットのすぐ北側に隣接し、23号ピットの東側に位置する。X=29,578、Y=-49,882。

重複関係：52号土坑を掘り込む。

方向：N-56°-E。

規模と形状：南北に長い不整楕円形状を呈する。長径0.64m・検出短径0.5m・深さ0.23m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(52)52号土坑(第25図、PL.14)

位置：Ⅲ-5調査区の中央部よりやや北寄りの位置。28・29号土坑のすぐ北側に隣接する。X=29,577～29,579、Y=-49,881～-49,882。

重複関係：51号土坑、30・32号ピットに掘り込まれる。

規模と形状：北側が調査区外に出るため全容は不明である。検出長径1.4m・検出短径1.34m・深さ0.21m。
埋土：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(53)53号土坑(第22図、PL.14)

位置：Ⅲ-5調査区のほぼ中央部。南壁に掛かる。X = 29,575 ~ 29,576、Y = -49,879。
重複関係：54号土坑に掘り込まれる。
規模と形状：南側が調査区外に出、西側を54号土坑に掘り込まれ、破壊されているため全容は不明である。検出長径0.2m・検出短径0.14m・深さ0.35m。
埋土：灰黄褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(54)54号土坑(第22図、PL.14)

位置：Ⅲ-5調査区のほぼ中央部。南壁に掛かる。X = 29,576 ~ 29,577、Y = -49,879 ~ -49,880。
重複関係：27号土坑を掘り込む。
規模と形状：南側を53号土坑に掘り込まれ、さらに攪乱され、破壊されているため全容は不明である。検出長径1.1m・検出短径0.9m・深さ0.61m。
埋土：鈍い黄褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(55)55号土坑(第25図、PL.14)

位置：Ⅲ-5調査区の中央部より東寄りの位置。北壁際。X = 29,576 ~ 29,578、Y = -49,877 ~ -49,878。
重複関係：2号礎石に掘り込まれる。32・57号土坑を掘り込む。
方向：N-134°-E。
規模と形状：東西に長い不整楕円形状を呈する。長径2m・短径1.4m・深さ0.29m。
埋土：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(56)56号土坑(第25図、PL.14)

位置：Ⅲ-5調査区の中央部より東寄りの位置。北壁に掛かる。X = 29,576 ~ 29,577、Y = -49,877。
重複関係：2号礎石、11・14号土坑に掘り込まれる。
規模と形状：東北側が調査区外に出、東側が削平されているために全容は不明である。検出長径1.5m・検出短径0.4m・深さ0.12m。
埋土：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(57)57号土坑(第25図、PL.14)

位置：Ⅲ-5調査区の中央部より東寄りの位置。X = 29,576、Y = -49,878。
重複関係：北側を55号土坑に掘り込まれる。
規模と形状：北側が55号土坑に掘り込まれている。南北に長い長楕円形状を呈するものと思われる。検出長径1.14m・検出短径0.46m・深さ0.27m。
埋土：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(58)58号土坑(第23図、PL.12)

位置：Ⅲ-4調査区の北西端。北西壁に掛かる。27・28号ピットの北西側に位置する。X = 29,568 ~ 29,569、Y = -49,882 ~ -49,883。
重複関係：31号土坑に掘り込まれる。
規模と形状：大部分が北・西側調査区外に出るため、全容は不明である。検出径0.82m・深さ0.9m。
埋土：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(59)59号土坑(第25図、PL.14)

位置：Ⅲ-1調査区の最南端のやや西寄りの位置。南壁に掛かる。X = 29,483 ~ 29,484、Y = -49,880。
重複関係：4号溝に掘り込まれる。
規模と形状：大部分が南側調査区外に出るため、全容は不明である。検出径0.6m・深さ0.59m。
埋土：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(60)60号土坑(第25図、PL.14)

位置：Ⅲ-5調査区の中央部より東寄りの位置。南壁に掛かる。56号土坑の南側に近接する。X = 29,574 ~ 29,575、Y = -49,876 ~ -49,877。
重複関係：14号土坑を掘り込む。
規模と形状：南側が調査区外に出るため全容は不明である。検出長径0.6m・検出短径0.46m・深さ0.59m。
埋土：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

2. 井戸

Ⅲ区では3基の井戸が検出されている。Ⅲ-4区で2基、Ⅲ-5区で1基であった。なお、Ⅲ-4区で検出された47号土坑も井戸である可能性がある。

本遺跡では、昨年度に報告したI区を含めて、すべて

の調査区において井戸が検出されている。Ⅲ区で検出された井戸の数は、昨年度報告したⅠ区を含めて、本遺跡で最少である。

Ⅲ区で検出されたのは、Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ区で検出されたのと同様、いずれも素堀の井戸であり、また、径も比較的小さかったことや、現状で、いずれも交通量が激しい道路に面した箇所での調査であり、調査区が民家とも隣接していたため、安全を最優先し、底面までの完掘はいずれも断念せざるを得なかった。

Ⅲ区で検出された井戸は、出土遺物からいずれも中世のものと考えられる。

(1) 1井戸(第26・79図、PL.15)

位置:Ⅲ-5調査区の最西端寄りの位置。南壁に掛かる。2号土坑のすぐ南側に隣接する。X=29,581~29,582、Y=-49,893~-49,894。

重複関係:2号礎石に掘り込まれる。

規模と形状:南側が大きく調査区外に出てしまっているが、不整円形状を呈するものと思われる。断面は漏斗状を呈する。検出長2m・検出幅1.23m・調査深度約1.3m。

埋土:上層暗褐色土・鈍い黄褐色土、中層暗褐色土・褐色土。**遺物:**在地系土器内耳鍋片1点、常滑陶器甕片1点、砥石片1点。**時期:**中世。

(2) 2号井戸(第26・80図、PL.15)

位置:Ⅲ-4調査区の中央部よりやや北東寄りの位置。37号土坑、7・18号ピットのすぐ西側、50号土坑のすぐ東側に隣接する。X=29,580~29,588、Y=-49,860~-49,861。

重複関係:49号土坑を掘り込む。

規模と形状:不整円形状を呈する。長径2.28m・短径2.2m・調査深度約1m。

埋土:上層暗褐色土、中層黒褐色土・暗褐色土、壁際褐色土。**遺物:**在地系土器片口鉢片1点、在地系土器焙烙片1点、常滑陶器甕片1点。

時期:中世。

(3) 3号井戸(第26・80図、PL.15)

位置:Ⅲ-4調査区の北東寄り。44号土坑、11号ピットのすぐ東側に隣接する。X=29,564~29,566、Y=-

49,857~-49,859。

重複関係:34・48号土坑を掘り込む。36号土坑、8・9号ピットに掘り込まれる。

規模と形状:不整楕円形状を呈する。長径2m・短径1.9m・調査深度約0.78m。

埋土:上層鈍い黄褐色土・暗褐色土、中層灰黄褐色土・鈍い黄褐色土。**遺物:**青白磁瓶片1点、常滑陶器甕片1点。**時期:**中世。

3. 溝

Ⅲでは5条の溝が検出されている。Ⅱ区で検出されたⅡ区3・8号溝のような調査区を越えて検出されたような大規模な溝が、Ⅲ区でも検出されている。これらの大規模な溝は、主要地方道世良田・深谷線の前身道路の側溝である可能性が考えられる。

いずれの類例においても、水が流れた痕跡はなく、用水路のようなものではなく、何らかの区画をするための溝であった可能性が高い。

(1) 1号溝(第27図、PL.15)

位置:Ⅲ-5調査区のほぼ中央部より西寄りの位置を南北方向に流れる。9号土坑の西側に位置する。X=29,580~29,582、Y=-49,887~-49,888。

重複関係:2号礎石に掘り込まれる。4号土坑の西側を掘り込む。

規模と形状:南北方向に流れる浅い溝。南北両端は調査区外に出る。検出長2.2m・検出上幅0.8m・検出下幅0.12m・深さ0.6m。**遺物:**なし。**時期:**近世末期。

(2) 2号溝(第29・80図、PL.9)

位置:Ⅲ-4調査区の南端近く。6・7号礎石の北側、4・5号礎石の南側。X=29,553~29,558、Y=-49,860~-49,863。

重複関係:なし。

規模と形状:断面でかろうじて検出された程度。東西方向に流れるものと思われる。検出長2.6m・検出幅0.38m・深さ0.42m。

埋土:上層暗褐色土、中層黒褐色土、下層褐色土。**遺物:**銅銭1点(寛永通宝)。**時期:**近世末期か。

(3) 3号溝(第27・80図、PL.15)

位置：Ⅲ-3調査区の中央部より南西寄りの位置から発し、Ⅲ-4調査区の東寄りにかけて南北方向に流れる。北端はⅢ-4調査区の東壁から調査区外に出るため、全容は不明である。Ⅲ-4調査区の南側では削平を受けたためか検出されなかった。X=29,540～29,567、Y=-49,864～-49,859。

重複関係：Ⅲ-3調査区では2号配石を掘り込む。Ⅲ-4調査区では33・34・35号土坑を掘り込まれ、37号土坑、7号ピットを掘り込む。

規模と形状：Ⅲ-3・4調査区を南北方向に流れる長大な溝。Ⅲ-4調査区の北側で調査区外に出る。主要地方道世良田・深谷線に先行する道路跡の西側溝になる可能性がある。検出総延長294m・幅0.64m・深さ0.3m。

埋土：上層黒褐色土、下層褐灰色土。 **遺物：**瀬戸・美濃磁器碗1点、瀬戸・美濃陶器志野丸皿片1点、石製品砥石1点。 **時期：**近現代。

(4) 4号溝(第28・80・81図、PL.16)

位置：Ⅲ-1～3調査区の東側を南北方向に流れる長大な溝。X=29,483～29,546、Y=-49,865～-49,876。

重複関係：Ⅲ-1調査区では59号土坑を掘り込む。Ⅲ-2調査区では26号土坑に、Ⅲ-3調査区では7・8号土坑、1号配石に掘り込まれ、2号配石を掘り込む。

規模と形状：Ⅲ-1～4調査区にかけて南北方向に流れる長大な溝。南北両端及び東側が調査区外に出るため全容は不明である。3号溝同様、主要地方道世良田・深谷線に先行する道路跡の西側溝になる可能性があるが、3号溝に比べて格段に規模が大きい。検出総延長200m・幅0.5m・深さ0.1m。

埋土：上層暗褐色土・鈍い黄褐色土・褐色土、中層黄褐色土・褐色土・黒褐色土・暗褐色土、下層黒褐色土・灰黄褐色土。 **遺物：**肥前磁器染付丸碗片1点、肥前磁器猪口1点、瀬戸・美濃陶器天目茶碗1点、円盤型加工土製品6点、常滑陶器甕片5点、渥美陶器甕片2点、在地系土器皿1点、在地系土器おろし皿1点、在地系土器片口鉢片2点、在地系土器内耳鍋片1点、在地系土器焙烙片4点、在地系土器片1点、羽口1点、砥石片2点。 **時期：**近世末期。

(5) 5号溝(第29図、PL.16)

位置：Ⅲ-4調査区の北東端付近を南北方向に流れる。X=29,565～29,569、Y=-49,856～-49,858。

重複関係：34号土坑、3号井戸、3号溝、8・9号ピットに掘り込まれる。

規模と形状：3号溝の西側を並行するように南北方向に流れる浅い溝。北端が調査区外に出る。東側を3号溝に掘り込まれており、当然、3号溝より新しい。検出長3.5m・検出幅1.4m・深さ0.35m。

埋土：鈍い黄褐色土。 **遺物：**なし。 **時期：**近世末期。

4. ピット

Ⅲ区では30基のピットが検出されている。I区で44基、II区で14基、Ⅲ区で30基、IV区で72基が検出されているがいずれも用途不明の小穴である。

検出されたのは、Ⅲ-4調査区から17基、Ⅲ-5調査区から13基で、Ⅲ-1～Ⅲ調査区からは検出されなかった。

(1) 1号ピット(第30図)

位置：Ⅲ-5調査区の東寄りに位置する。2号礎石の南側、3号土坑の北側に位置する。X=29,582、Y=-49,892。

重複関係：なし。

規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。長径0.26m・短径0.24m・深さ0.28m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(2) 2号ピット(第30図、PL.17)

位置：Ⅲ-5調査区の東端付近。13号土坑の北側、3号ピットの南側に位置する。X=29,573、Y=-49,906。

重複関係：なし。

規模と形状：不整楕円形状を呈する。長径0.28m・短径0.26m・深さ0.44m。

埋土：上層暗褐色土、下層褐色土・明黄褐色土。 **遺物：**瀬戸陶器灰釉小香炉口縁片1点。 **時期：**近世末期。

(3) 3号ピット(第30図、PL.17)

位置：Ⅲ-5調査区の東端付近。15・19号土坑のすぐ東側、2号ピットの北側に位置する。X=29,574、Y=-

49,869。

重複関係：なし。

規模と形状：隅丸方形形状を呈する。3～5号ピットはいずれも同規模、同形であり、一直線に並ぶ。心々間の距離は約1mであり、いずれも小規模ながらしっかりとした掘方を有している。あるいは3点セットで、柵列や障壁などの柱穴になる可能性がある。長径0.2m・短径0.18m・深さ0.21m。

埋土：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(4) 4号ピット(第30図、PL.17)

位置：Ⅲ-5調査区の東端付近。X=29,573、Y=-49,868。

重複関係：なし。

規模と形状：隅丸方形形状を呈する。長径長径0.18m・短径0.16m・深さ0.65m。

埋土：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(5) 5号ピット(第30図、PL.17)

位置：Ⅲ-5調査区の東端付近。6号ピットのすぐ北側に隣接する。X=29,573、Y=-49,867。

重複関係：18号土坑を掘り込む。

規模と形状：隅丸方形形状を呈する。長径0.24m・短径0.2m・深さ0.59m。

埋土：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：近世末期。

(6) 6号ピット(第30・82図、PL.17)

位置：Ⅲ-5調査区の東端付近。5号ピットのすぐ南側に隣接する。X=29,572～29,573、Y=-49,867。

重複関係：18号土坑を掘り込む。

規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。長径0.5m・短径0.45m・深さ0.4m。

埋土：暗褐色土。 **遺物**：堺・明石陶器すり鉢片1点、在地系土器鉢片1点。 **時期**：近世末期。

(7) 7号ピット(第30図、PL.17)

位置：Ⅲ-4調査区の中央部、東寄りの位置。35号土坑の西側に位置し、37号土坑のすぐ南側に隣接する。X=29,560、Y=-49,859。

重複関係：18号ピット、3号溝に掘り込まれる。

規模と形状：不整楕円形状を呈する。長径0.4m・短径0.38m・深さ0.55m。

埋土：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：近世末期。

(8) 8号ピット(第30図、PL.17)

位置：Ⅲ-4調査区の北寄りの位置。36号土坑のすぐ東側に隣接し、34号土坑の北西側に位置する。8・9・11号ピットは東西にほぼ一列に並ぶが、配置やそれぞれの深さ、掘方の様相から見て何らかの構造物を構成する一連の柱穴とはみなしがたい。X=29,565、Y=-49,859。

重複関係：9号ピット、3号井戸を掘り込む。

規模と形状：不整楕円形状を呈する。長径0.46m・短径0.4m・深さ0.2m。

埋土：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(9) 9号ピット(第30図、PL.17)

位置：Ⅲ-4調査区の北東寄りの位置。X=29,565、Y=-49,857～-49,860。

重複関係：8号ピットに掘り込まれる。3号井戸を掘り込む。

規模と形状：不整楕円形状を呈する。長径0.46m・短径0.4m・深さ0.2m。

埋土：暗褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(10) 10号ピット(第30図、PL.17)

位置：Ⅲ-4調査区の北端寄りの位置。41号土坑の南側、46号土坑の東側に位置する。X=29,568～29,569、Y=-49,858。

重複関係：39号土坑を掘り込む。

規模と形状：東西に長い楕円形状を呈する。長径0.38m・短径0.32m・深さ0.25m。

埋土：上層暗褐色土、下層鈍い黄褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(11) 11号ピット(第30図)

位置：Ⅲ-4調査区の中央部、北寄りの位置。38号土坑、3号井戸の西側に近接する。X=29,568、Y=-49,859～-49,860。

重複関係：44号土坑を掘り込む。

規模と形状：南北に長い楕円形状を呈する。長径0.34m・

短径0.28m・深さ0.12m。

埋土：暗褐色土 遺物：なし。 時期：不明。

(12)12号ピット(第30図、PL.17)

位置：Ⅲ-4調査区の中央部、北寄りの位置。45号土坑のすぐ北側、14号ピットのすぐ南側に隣接する。X=29,567、Y=-49,860。

重複関係：42号土坑、15号ピットを掘り込む。

規模と形状：東西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.34m・短径0.28m・深さ0.38m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(13)13号ピット(第30図、PL.17)

位置：Ⅲ-4調査区の北端付近、北東寄りの位置。40号土坑の南側に位置する。X=29,569、Y=-49,859。

重複関係：46号土坑、15号ピットを掘り込む。

規模と形状：東西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.48m・短径0.38m・深さ0.55m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(14)14号ピット(第30図)

位置：Ⅲ-4調査区の北寄りの位置。29号ピットのすぐ南側、12号ピットのすぐ北側に隣接する。X=29,567～29,568、Y=-49,860。

重複関係：42・43号土坑を掘り込む。

規模と形状：円形状を呈する。長径0.34m・短径0.32m・深さ0.4m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(15)15号ピット(第30図)

位置：Ⅲ-4調査区の北寄りの位置。42・43号土坑、14号ピットのすぐ南側に隣接する。X=29,567、Y=-49,860～-49,861。

重複関係：45号土坑、12号ピットに掘り込まれる。

規模と形状：円形状を呈する。長径0.42m・短径0.4m・深さ0.44m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(16)16号ピット(第30図)

位置：Ⅲ-4調査区の北寄りの位置。44号土坑の南側に

位置する。X=29,564、Y=-49,860。

重複関係：なし。

規模と形状：東西にやや長い不整形楕円形状を呈する小規模なピット。長径0.32m・短径0.24m・深さ0.4m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(17)17号ピット(第30図)

位置：Ⅲ-4調査区の北寄りの位置。45号土坑のすぐ西側に隣接し、8号礎石の北側に位置する。X=29,567、Y=-49,861。

重複関係：なし。

規模と形状：南北にやや長い隅丸長方形形状を呈する小規模なピット。長径0.2m・短径0.14m・深さ0.34m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(18)18号ピット(第30図、PL.17)

位置：Ⅲ-4調査区の中央部からやや北東寄りの位置。2号井戸のすぐ東側に隣接する。X=29,560、Y=-49,859。

重複関係：7号ピットを掘り込む。

規模と形状：東西にやや長い楕円形状を呈する小規模なピット。長径0.3m・短径0.2m・深さ0.36m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(19)19号ピット(第30図)

位置：Ⅲ-4調査区の北西寄りの位置。50号土坑のすぐ東側、20号ピットのすぐ南側に隣接し、49号土坑の北側に位置する。X=29,562、Y=-49,861。

重複関係：なし。

規模と形状：東西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.36m・短径0.3m・深さ0.24m。

埋土：暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(20)20号ピット(第30図)

位置：Ⅲ-4調査区の北西寄りの位置。50号土坑のすぐ東側、19号ピットのすぐ北側に隣接する。X=29,563、Y=-49,861。

重複関係：なし。

規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。北側が深く掘り込まれ、南側の不整形のピットと南北に長い楕

円形状のピットとがあたかも合体したような形状を呈している。長径0.38m・短径0.3m・深さ0.17m。

埋土:暗褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**不明。

(21)21号ピット(第30図、PL.17)

位置:Ⅲ-5調査区の北西寄りの位置。9号土坑のすぐ東側、24号ピットのすぐ北側に隣接する。X=29,563、Y=-49,861。

重複関係:なし。

規模と形状:東西にやや長い不整楕円形状を呈する。長径0.38m・短径0.3m・深さ0.17m。

埋土:暗褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**不明。

(22)22号ピット(第31図、PL.17)

位置:Ⅲ-5調査区の中央部付近。25号ピットのすぐ南西側に隣接する。X=29,578、Y=-49,883~-49,884。

重複関係:24号ピットを掘り込む。

規模と形状:北東-南西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.34m・短径0.3m・深さ0.44m。

埋土:暗褐色土、底部壁際鈍い黄褐色土。 **遺物:**なし。

時期:不明。

(23)23号ピット(第31図、PL.17)

位置:Ⅲ-5調査区の中央部付近。X=29,578、Y=-49,883。

重複関係:なし。

規模と形状:東西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.22m・短径0.21m・深さ0.27m。

埋土:褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**不明。

(24)24号ピット(第31図、PL.18)

位置:Ⅲ-5調査区の中央部付近。X=29,578、Y=-49,883。

重複関係:22・25号ピットに掘り込まれる。

規模と形状:北東-南西方向にやや長い楕円形状を呈する。長径0.36m・短径0.25m・深さ0.52m。

埋土:上層灰黄褐色土、壁際及び下層鈍い黄褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**不明。

(25)25号ピット(第31図、PL.18)

位置:Ⅲ-5調査区の中央部付近。X=29,578、Y=-49,883。

重複関係:24号ピットを掘り込む。

規模と形状:不整楕円形状を呈する小規模なピット。長径0.18m・短径0.16m・深さ0.25m。

埋土:暗褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**不明。

(26)26号ピット(第31図)

位置:Ⅲ-5調査区の中央部付近。51号土坑の南側、29号土坑の北側に近接する。X=29,578、Y=-49,882。

重複関係:52号土坑に掘り込まれる。

規模と形状:不整円形状を呈する小規模ながらもしっかりとした掘方を有するピット。長径0.3m・短径0.28m・深さ0.5m。

埋土:鈍い黄褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**不明。

(27)27号ピット(第31図、PL.18)

位置:Ⅲ-4調査区の北西端付近。西・南壁に掛かる。58号土坑の南側に位置する。X=29,568、Y=-49,863~-49,864。

重複関係:31号土坑を掘り込む。

規模と形状:西側と南側が調査区外に出るため、全容は不明である。検出長径0.4m・検出短径0.2m・深さ0.59m。

埋土:鈍い黄褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**不明。

(28)28号ピット(第31図)

位置:Ⅲ-4調査区の北西端付近。31号土坑の東側に位置する。X=29,567、Y=-49,862~-49,863。

重複関係:なし。

規模と形状:西側と南側が調査区外に出るため、東西にやや長い不整楕円形状を呈する小規模なピット。長径0.32m・短径0.24m・深さ0.1m。

埋土:暗褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**不明。

(29)29号ピット(第31図)

位置:Ⅲ-4調査区の北端付近、西寄りの位置。46号土坑のすぐ南側、42・43号土坑のすぐ北側に隣接する。X=29,568、Y=-49,860。

重複関係:なし。

規模と形状：東北西—南東方向にやや長い不整隅丸長方形形状を呈する小規模なピット。長径0.26m・短径0.24m・深さ0.18m。

埋土：暗褐色土。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(30)30号ピット(第31図)

位置：Ⅲ—5調査区の中央部付近。52号土坑の南側、28号土坑の北側に位置する。X=29,578、Y=-49,881。

重複関係：52号土坑を掘り込む。

規模と形状：隅丸方形形状を呈する小規模ながらもしっかりと掘方を有するピット。径0.18m・深さ0.56m。

埋土：暗褐色土。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

5. 礎石

本遺跡では礎石という遺構名称が付されたものは14基が検出されている。

Ⅲ区では8基が検出されている。Ⅲ—4調査区とⅢ—5調査区からの検出に限られる。

Ⅱ区では、調査時に礎石という遺構名称が付された遺構は1基のみであるが、11～15号ピット及びその西の壁際でごく一部が検出されたピット群も礎石であると考えられる。

Ⅳ区では、Ⅳ—5調査区から1・2号の2基、Ⅳ—4調査区から3～5号の3基が検出された。

なお、Ⅰ区では礎石は検出されていない。

これら本遺跡において検出された礎石は、いずれも同じような規模・構造であり、いずれも同時期のものと考えられるが、Ⅲ—5調査区で検出された1・2号礎石及びⅢ—4調査区で検出された3号礎石のみは特異な形状である。

(1)1号礎石(第31・82図、PL.18)

位置：Ⅲ—5調査区の最西端寄り。西壁及び南壁に掛かる。X=26,583～26,585、Y=-49,896～-49,898。

重複関係：5・6号土坑を掘り込む。

規模と形状：南西側大部分が調査区外に出るため全容は不明であるが、浅い溝状の彫り込みの上に川原石大の礫が何層にも敷き詰められた遺構が、北壁に沿って東西方向に約2.6mの地点で直角に南に曲がって約2.5mで南壁に達している。平面形態を一見すると暗渠のように見え

なくもないが、断面が、石が詰まった構造体であり、暗渠ではなく、建物の基礎部分の礎石と考えられる。検出長0.8m・検出幅0.28m・深さ0.55m。

遺物：瀬戸陶器灯明受皿1点、瀬戸・美濃陶器鉄釉袴腰形香炉片1点。 **時期：**近世末期。

(2)2号礎石(第32・82・83図、PL.18)

位置：Ⅲ—5調査区の西寄りの部分から北壁に沿って中央部東寄りの部分まで一直線に検出された。X=26,576～26,588、Y=-49,875～-49,893。

重複関係：4・11・52・55・56号土坑、1号溝、1号井戸を掘り込む。

規模と形状：Ⅲ—5調査区西寄りに部分から中央部までは、北側が調査区外に出る。調査区中央部から中央部の東寄りの位置にかけては、北壁際を一直線に東西方向に伸びる。調査区東寄りの部分では調査区外に出るため検出されなかった。1号礎石同様、浅い溝状に掘り窪めた中に川原石大の石が何層にも敷詰められて構成されている。1号礎石とほぼ同じ構造である。調査区内の西端寄り。南側に南北に延びる部分が検出されており、調査区よりも南側に展開した建物の礎石と考えられる。現在、この調査区にあたる場所の南側には、世良田交差点の南西角にあたる住宅の長屋門が存在するが、現在の長屋門は、国道354号線の拡幅にともなって南側に移動しており、この礎石が本来あった長屋門の基礎である可能性が高い。検出南北長1m・検出東西長180m・幅0.4m・深さ0.35m。

埋土：上層暗褐色土、下層黄褐色土。 **遺物：**肥前磁器碗片1点、肥前磁器猪口片1点、肥前磁器筒型湯呑1点、肥前磁器染付重鉢1点、肥前磁器染付広東碗片2点、肥前磁器染付皿片1点、瀬戸・美濃陶器緑釉皿片1点、瀬戸・美濃陶器灰釉梅文皿1点、瀬戸・美濃陶器鉄釉灯明油皿1点、常滑陶器甕片2点、在地系土器焙烙片2点、同植木鉢片1点、有孔石製品4点。 **時期：**近世末期。

(3)3号礎石(第32図、PL.18)

位置：3～7号礎石はⅢ—4調査区の中央部から南寄りの位置から南端部にかけて検出され、南北に長大な3号礎石と単体の礎石である4～7号礎石からなる。4～7号礎石は配置から見て一つの建物を構成した礎石の可能

性があるが、3号礎石がこれら他の礎石と同様の一つの建物に関わる遺構であるかはよくわからなかった。本3号礎石はⅢ-4調査区の中央部から南寄りの位置の東壁に掛かる。4号礎石のすぐ東側に隣接する。X=26,553~26,585、Y=-49,896~-49,898。

重複関係：なし。

規模と形状：Ⅲ-4調査区の西壁に掛かる位置を南北方向に長く伸びる。溝状に掘り窪めた中に川原石大の石が何層にも敷詰められて構成され、Ⅲ-5調査区で検出された1・2号礎石に類似した形状・構造であり、本来は、長大な建物の基礎になるものと考えられる。ただし1・2号礎石に較べて、しっかりとした掘方を有している。なお、北側が調査区外に出てしまうため、全容は不明である。検出長4.22m・検出幅0.61m・深さ0.65m。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(4) 4号礎石(第32・84図、PL.18・19)

位置：Ⅲ-4調査区の南寄りの位置。3号礎石のすぐ西側に隣接する。X=26,555~26,556、Y=-49,860~-49,861。

重複関係：なし。

規模と形状：4~7号礎石は、Ⅲ-4調査区の南寄りから南端にかけて4基検出された礎石群である。5号礎石以外の3基はいずれもほぼ同規模であり、ほぼ隅丸方形状に掘り窪めた中に、川原石大の石が敷き詰められて構成されている。Ⅳ-4・5調査区で検出された礎石と類似した構造であり、それらとほぼ同時期の所産であると考えられる。中央部には、上面が比較的扁平な殊更に大きな石が据えられており、柱の当たりが意識された構造になっている。各礎石の心々間の距離は、4号と6号の間がほぼ4m、6号と7号との間が1.8mである。本礎石は東西にやや長い隅丸方形状を呈しており、長径1.04m・短径0.96m・石の上面から掘方底部までの深さは0.52mである。

遺物：肥前磁器丸碗1点、肥前磁器筒型湯呑1点、瀬戸・美濃陶器鉄釉灯明油皿1点、在地系土器焙烙片1点。

時期：近世末期。

(5) 5号礎石(第31図、PL.19)

位置：Ⅲ-4調査区の南寄りに位置する。X =

26,555、Y=-49,862~-49,863。

重複関係：なし。

規模と形状：Ⅲ-4調査区の南部から南端部にかけて検出された4~7号礎石群の中では、他の礎石とは異なる形状を呈し、東西に長く南北に扁平な平面形態を有する掘方が検出された。この特異な形状は、後世の削平や攪乱によるものではないと考えられる。東西に長い隅丸長方形状の掘方の中に川原石大の石が何層にも敷き詰められ構成されているが、川原石の数も他の礎石に較べると格段に少なく、柱の当たりが意識された構造も確認できなかった。あるいは束柱を受ける礎石であるなど、他の礎石とは用途・機能が異なる可能性が考えられる。長径0.95m・短径0.5m・石の上面から掘方底部までの深さは0.7mである。 **遺物：**なし。 **時期：**近世末期。

(6) 6号礎石(第31・84・85図、PL.18・19)

位置：Ⅲ-4調査区の南端付近のほぼ中央に位置する。7号礎石の東側に位置する。X=26,551~26,552、Y=-49,861~-49,862。

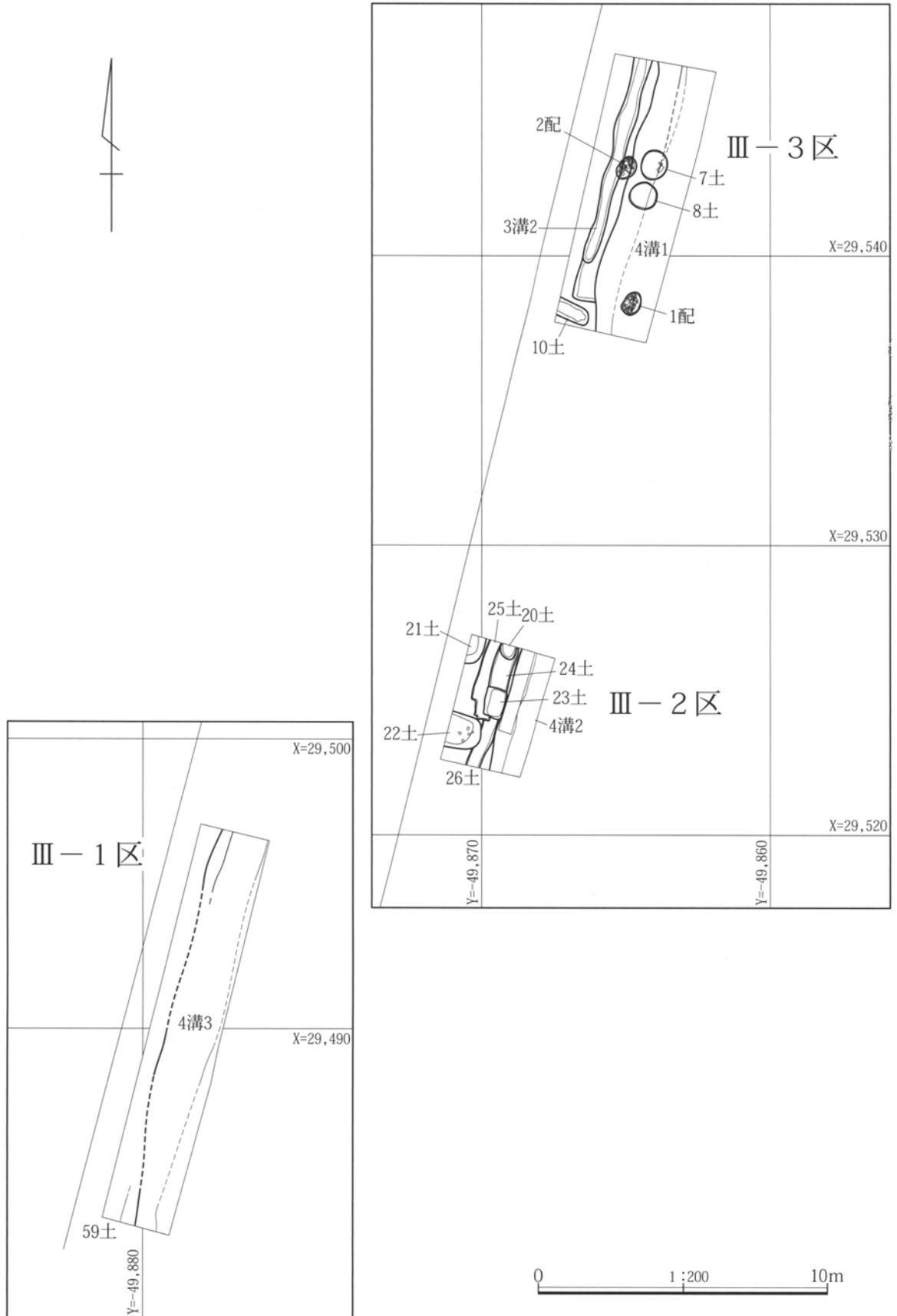
重複関係：遺構ではないが1号遺物集中と名付けられた遺物集中出土箇所範囲に入っている。

規模と形状：Ⅲ-4調査区の南部から南端部にかけて検出された4~7号礎石群の中で、4・6・7号礎石は、ほぼ同規模・同構造の礎石で、ほぼ隅丸方形状に掘り窪めた中に、川原石大の石が敷き詰められて構成されている。Ⅳ-4・5調査区で検出された礎石と類似した構造であり、それらとほぼ同時期の所産であると考えられる。中央部には、上面が比較的扁平な殊更に大きな石が据えられており、柱の当たりが意識された構造になっている。各礎石の心々間の距離は、4号と6号の間がほぼ4m、6号と7号との間が1.8mである。径1.08m・石の上面から掘方底部までの深さは0.6mである。

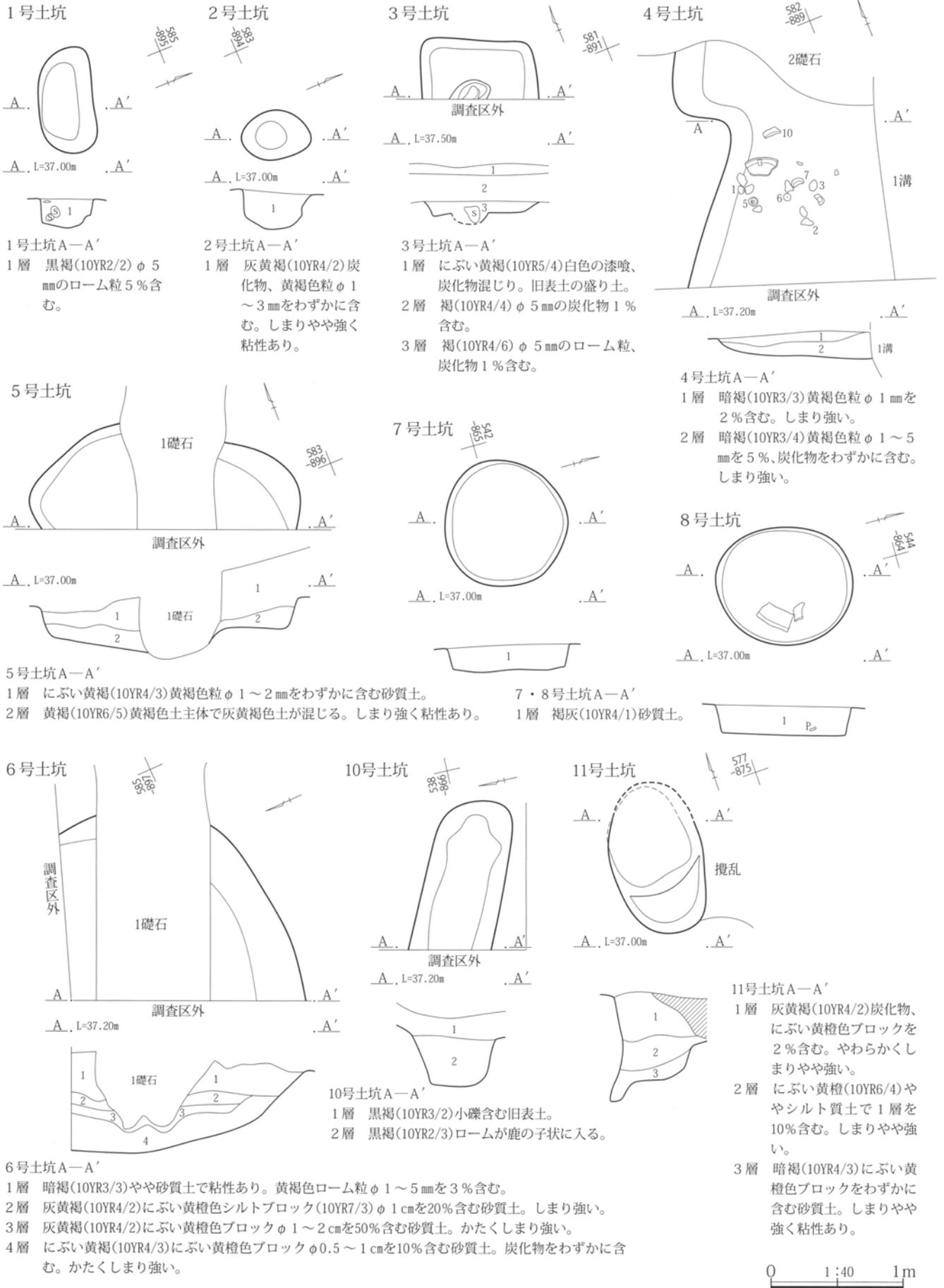
遺物：肥前磁器丸碗2点、肥前磁器小広東碗1点、肥前磁器宏東碗蓋1点、円盤型加工土製品1点、瀬戸・美濃陶器大鉢片1点、常滑陶器甕片1点、在地系土器焙烙片3点、在地系土器皿1点、平瓦片1点。 **時期：**近世末期。

(7) 7号礎石(第31・85図、PL.19)

位置：Ⅲ-4調査区の南端付近の西寄りに位置する。西壁に掛かる。6号礎石の西側に位置する。X=26,551



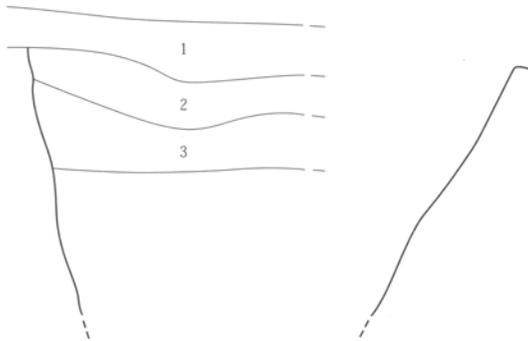
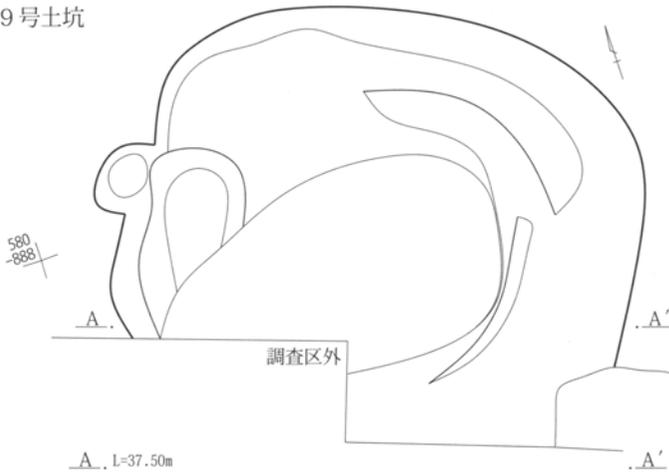
第18図 Ⅲ-1～3調査区遺構検出状況



第20図 III区 1～8・10・11号土坑平面図・断面図

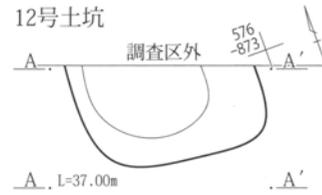
第3章 調査の成果

9号土坑



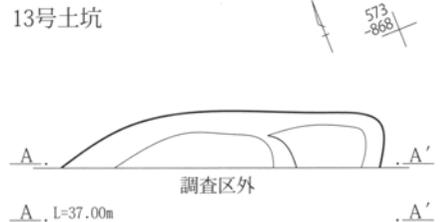
9号土坑A-A'
 1層 褐(10YR4/4)
 2層 黒褐(10YR3/1)
 3層 暗褐(10YR3/4)ややしまり悪い。

12号土坑



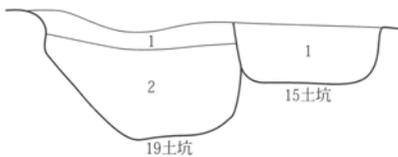
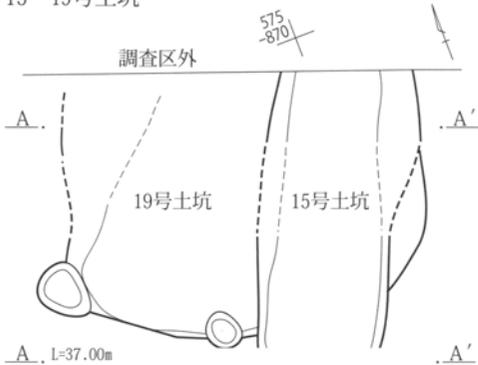
12号土坑A-A'
 1層 暗褐(10YR4/3)にぶい黄橙色ブロックをわずかに含む砂質土。しまりやや強く粘性あり。

13号土坑



13号土坑A-A'
 1層 灰黄褐(10YR4/2)にぶい黄橙色ブロックφ0.5~1cmを7%含む砂質土。しまり強い。

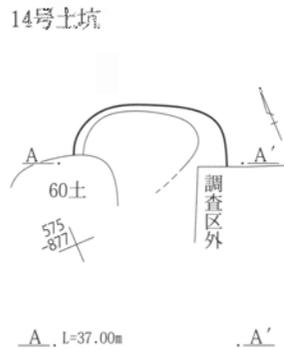
15・19号土坑



15号土坑A-A'
 1層 灰黄褐(10YR4/2)にぶい黄橙色ブロックφ1~2cmを2%、炭化物をわずかに含む。かたくしまり強い。

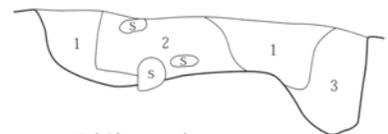
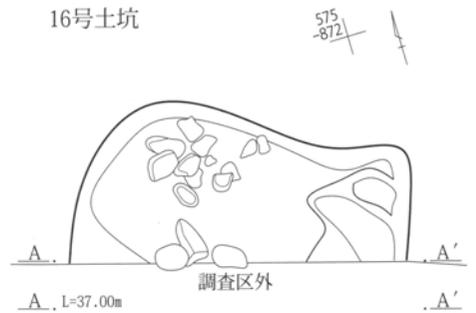
19号土坑A-A'
 1層 暗褐(10YR3/4)粘質土。
 2層 褐(10YR4/4)粘質土。

14号土坑

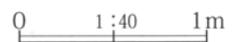


14号土坑A-A'
 1層 灰黄褐(10YR4/2)にぶい黄橙色ブロックφ0.5~1cmを7%含む砂質土。しまり強い。

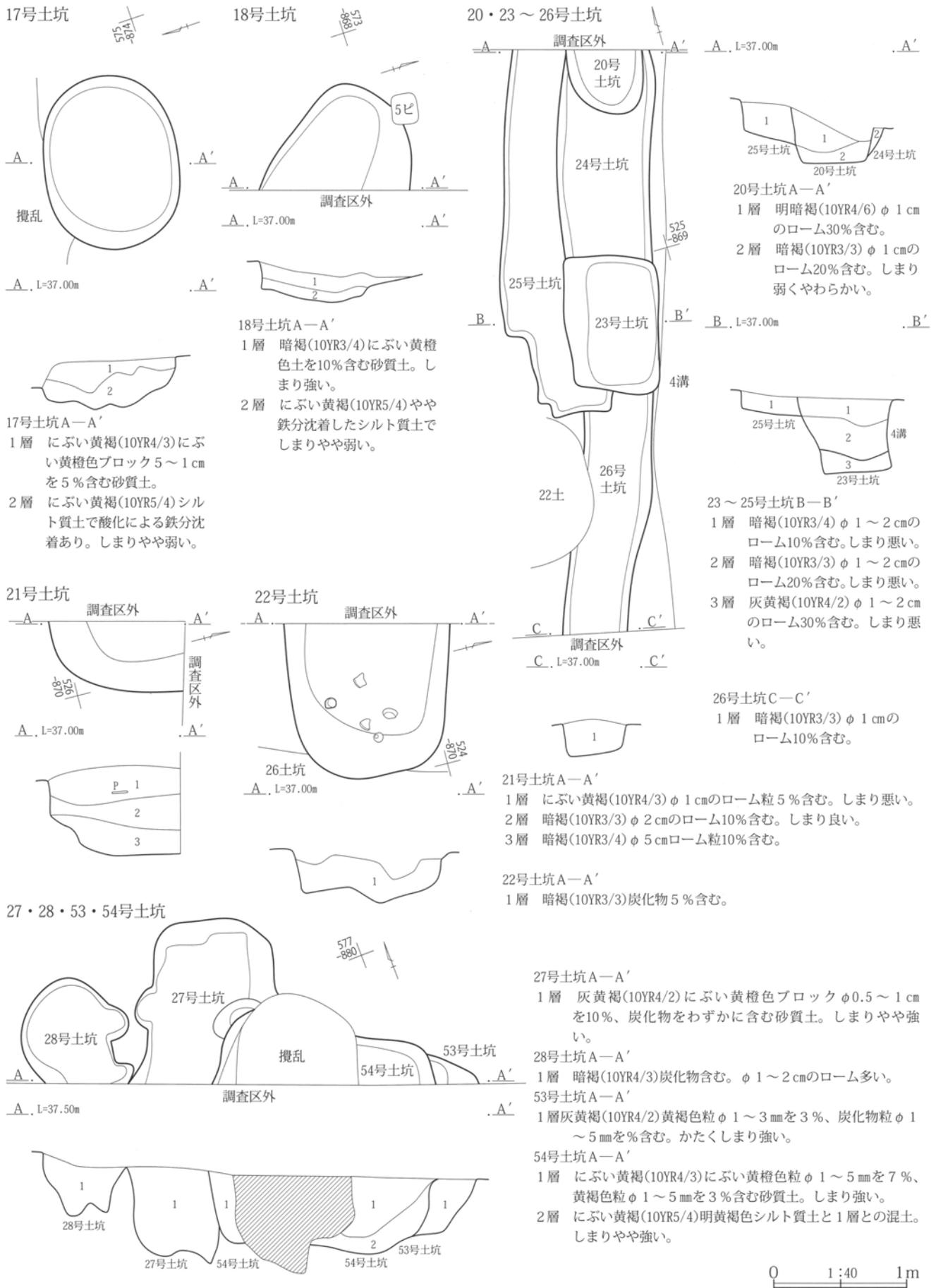
16号土坑



16号土坑A-A'
 1層 灰黄褐(10YR4/2)にぶい黄橙色粒φ1~5mmをわずかに含む。やわらかくしまりやや強い。
 2層 灰黄褐(10YR5/2)灰色シルト質土を50%含む。しまりやや弱い。
 3層 にぶい黄褐(10YR4/3)明黄褐色ブロック(10YR6/6)を10%含む。

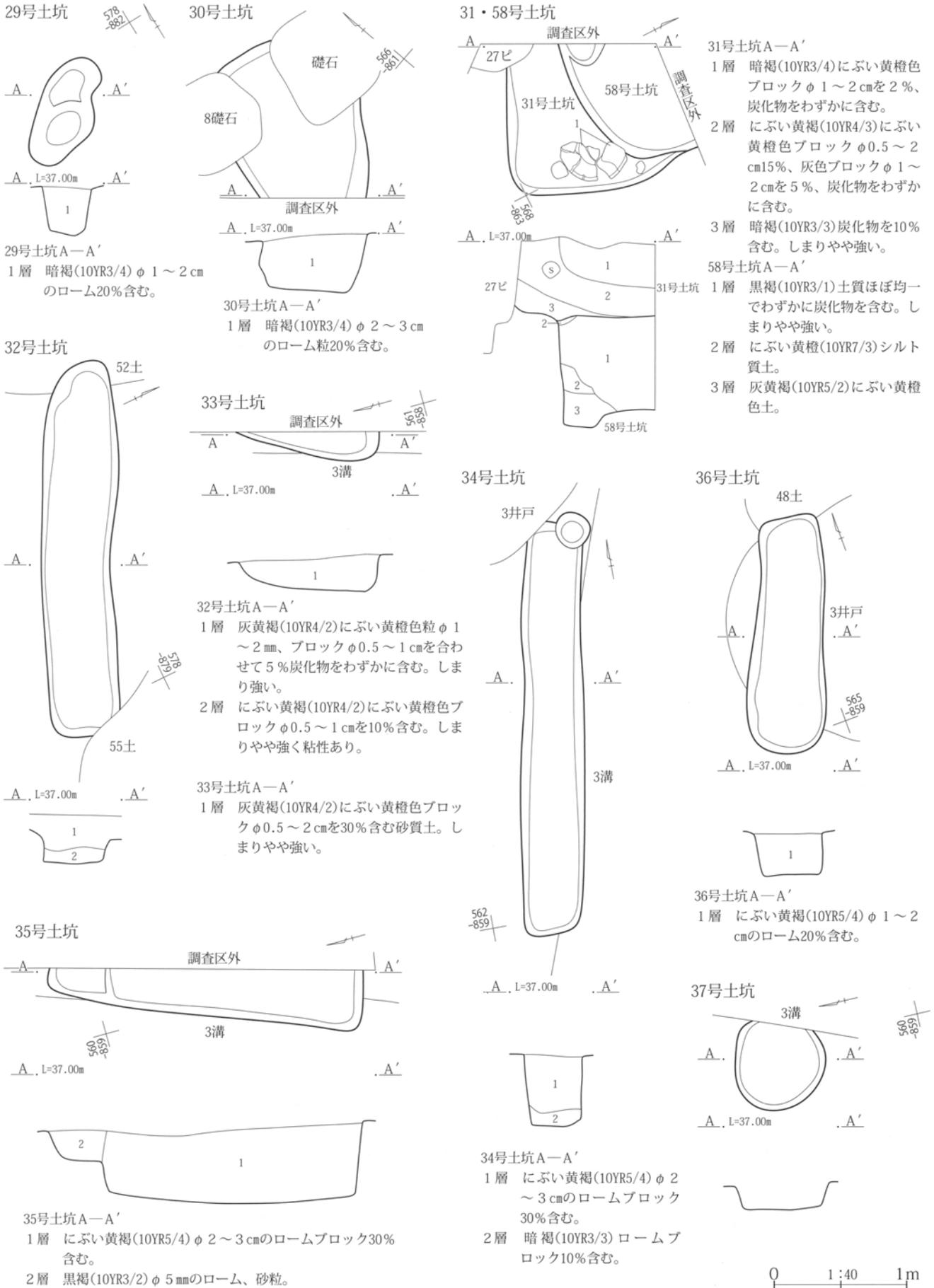


第21図 Ⅲ区9・12~16・19号土坑平面図・断面図

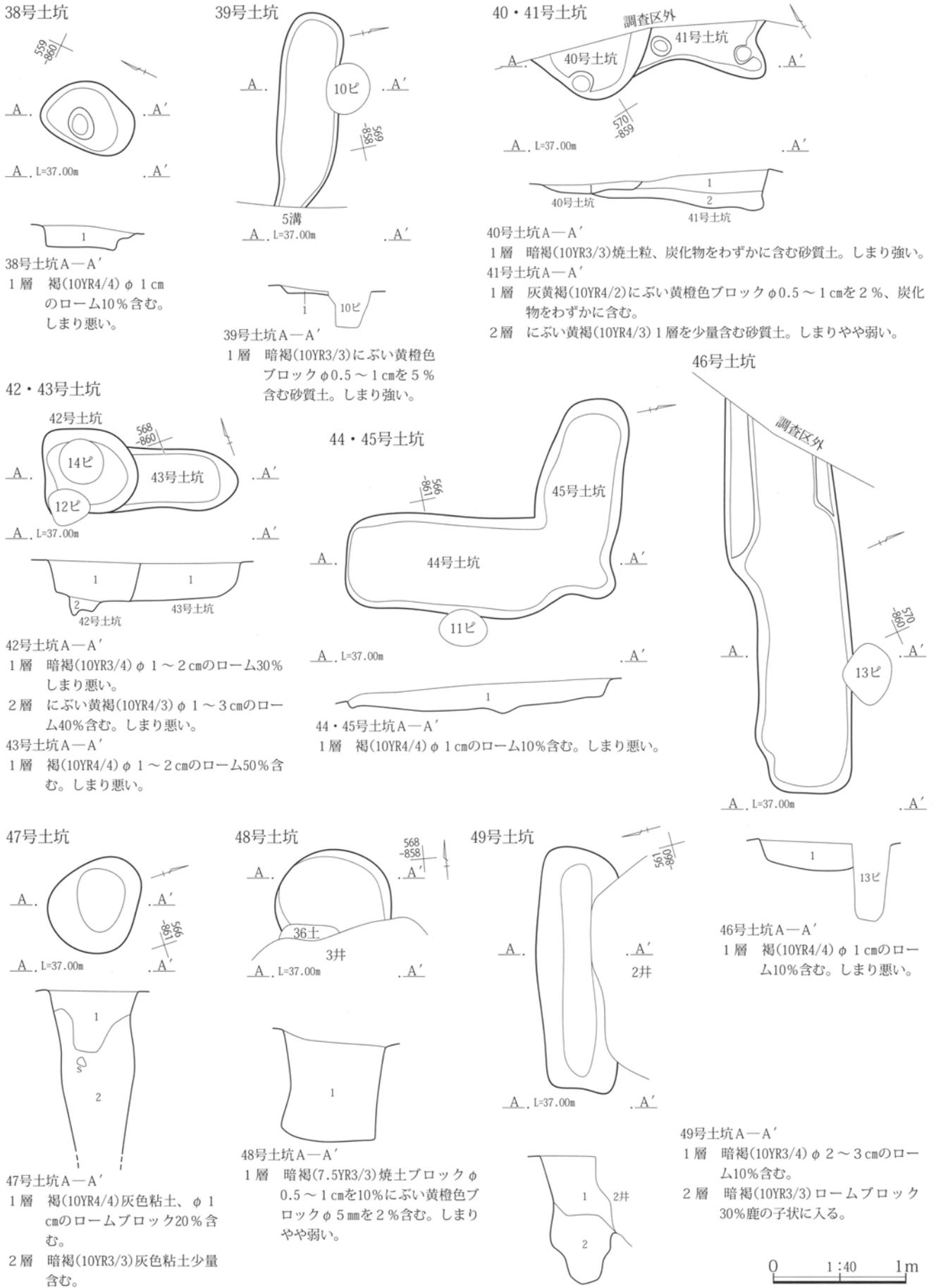


第22図 III区17・18、20~28、53・54号土坑平面図・断面図

第3章 調査の成果



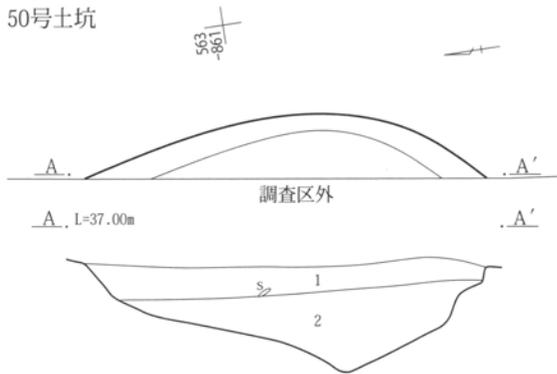
第23図 III区29~37・58号土坑平面図・断面図



第24図 III区38 ~ 49号土坑平面図・断面図

第3章 調査の成果

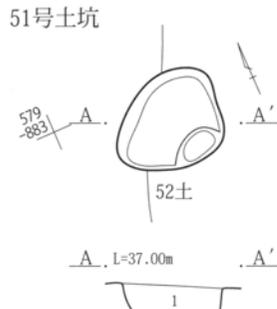
50号土坑



50号土坑A-A'

- 1層 暗褐(10YR4/3)にぶい黄橙色ブロックφ0.5~1cmを5%含む。かたくしまり強い。
- 2層 暗褐(10YR3/3)にぶい黄橙色ブロックφ0.5~1cmを2%、炭化物粒φ0.5mmをわずかに含む。しまり強い。

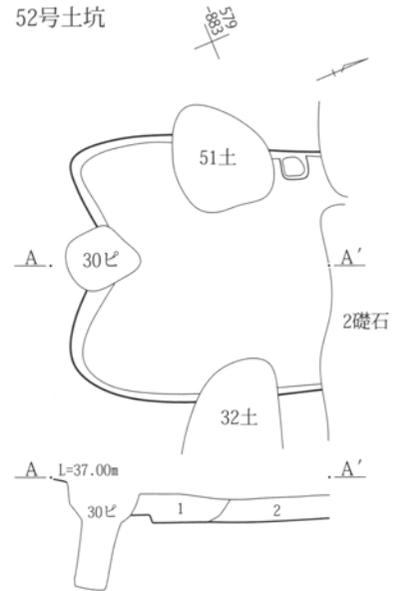
51号土坑



51号土坑A-A'

- 1層 暗褐(10YR4/3)炭化物を含む。φ1~2cmのローム多い。

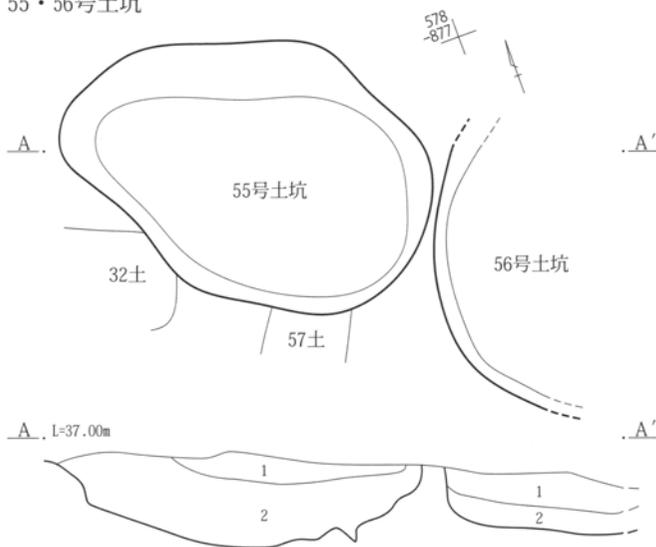
52号土坑



52号土坑A-A'

- 1層 暗褐(10YR3/3)にぶい黄橙色ブロックφ0.5mmをわずかに含む。しまりやや弱く粘性あり。
- 2層 にぶい黄褐(10YR4/3)土質均一でわずかににぶい黄橙色粒φ1~3mmを含む。まりやや弱く粘性あり。

55・56号土坑



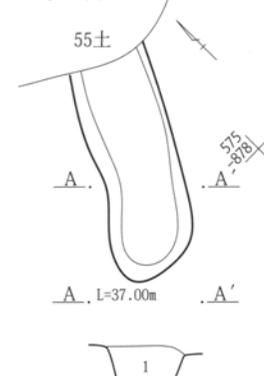
55号土坑A-A'

- 1層 明黄褐(10YR6/6)にぶい黄橙色ブロックφ0.5~2cmを15%含むシルト質土。しまり強い。
- 2層 明黄褐(10YR6/8)にぶい黄橙色ブロックφ1~2cmを10%、暗褐色ブロックφ2~3cmを5%含む。しまりやや強く粘性あり。

56号土坑A-A'

- 1層 にぶい黄褐(10YR4/3)黄褐色ブロックφ0.5~1cm、にぶい黄橙色ブロックφ0.5~1cmを合わせて20%含む。しまり強い。
- 2層 明黄褐(10YR6/6)シルト質土にぶい黄橙色土と1層との混土。しまりやや弱い。

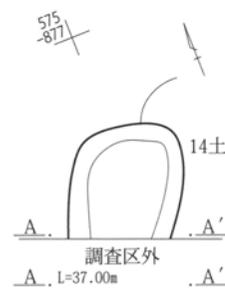
57号土坑



57号土坑A-A'

- 1層 灰黄褐(10YR4/2)にぶい黄橙色ブロックφ0.5~1cmを2%含む。しまりやや強く粘性あり。

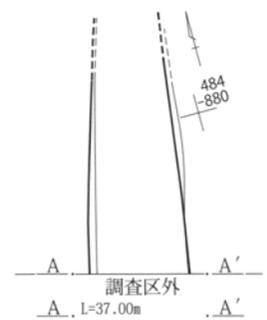
60号土坑



60号土坑A-A'

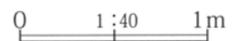
- 1層 にぶい黄褐(10YR5/3)にぶい黄橙色粒φ1~2mm、ブロックφ0.5~1cmを10%含む。やわらかく粘性のある砂質土。
- 2層 にぶい黄橙(10YR6/4)明黄褐色粒φ1~2mmを10%含む、土質粗くしまりやや弱い。

59号土坑



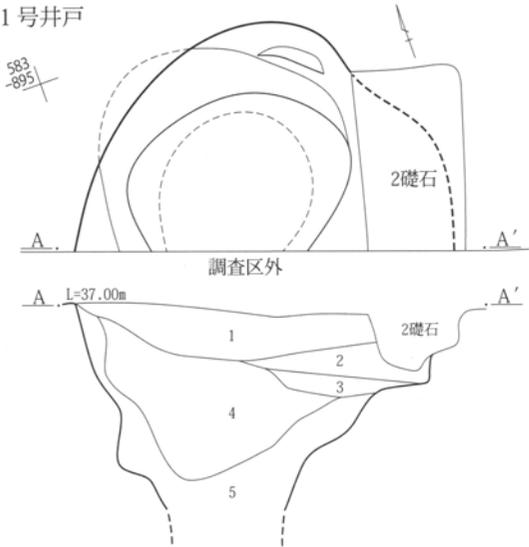
59号土坑A-A'

- 1層 にぶい黄褐(10YR4/3)φ1cmのロームブロック50%含む。
- 2層 黒褐(10YR2/3)粘質土。



第25図 Ⅲ区50~52・55~57・59・60号土坑平面図・断面図

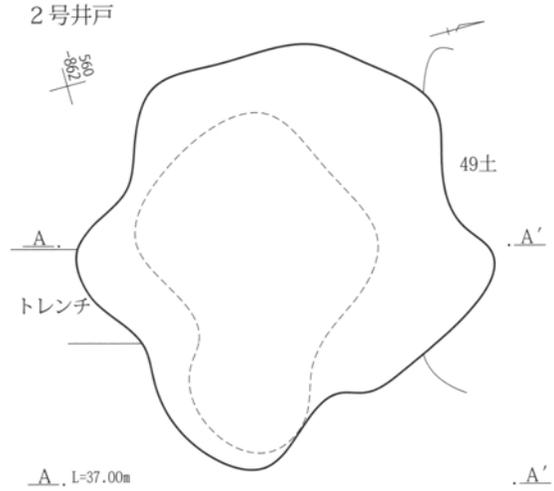
1号井戸



1号井戸A-A'

- 1層 暗褐(10YR3/3)黄褐色粒φ1~5mmを2%含む。かたくしまり強い。
- 2層 暗褐(10YR3/3)黄褐色粒φ1~5mmを7%、炭化物をわずかに含む。しまり強い。
- 3層 にぶい黄褐(10YR5/4)シルト状の黄褐色土が帯状に入る。
- 4層 暗褐(10YR3/3)炭化物、赤褐色粒φ1~5mmと黄褐色粒φ1~3mmを合わせて5%含む。しまり強い。
- 5層 褐(10YR4/6)黄褐色土主体で4層が少量混じるシルト質土。しまり強く粘性あり。

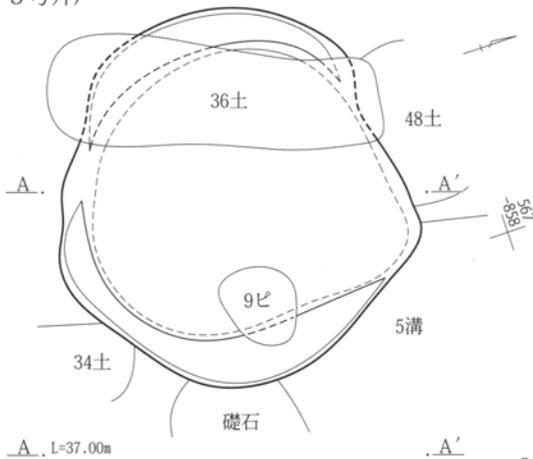
2号井戸



2号井戸A-A'

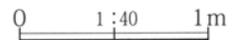
- 1層 暗褐(10YR3/3)φ1~2cmの小礫少量含む。
- 2層 暗褐(10YR4/3)φ0.5~10cmの礫、φ1cmのローム粒。
- 3層 黒褐(10YR3/1)炭化物、焼土粒含む。
- 4層 褐灰(10YR)灰色粘土20%含む。
- 5層 暗褐(10YR2/2)粘質土。

3号井戸



3号井戸A-A'

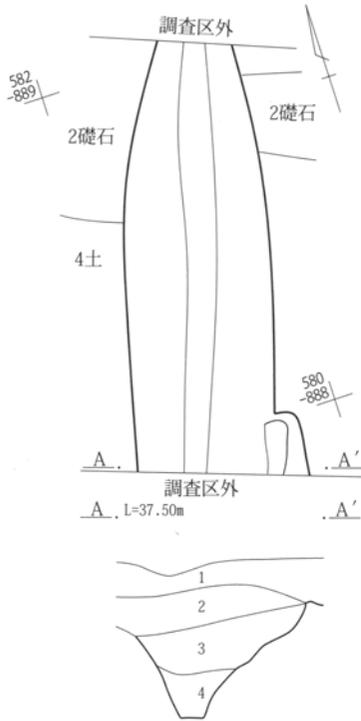
- 1層 にぶい黄褐(10YR4/3)にぶい黄橙色ブロックφ0.5~1cmを5%、炭化物をわずかに含む。しまり強い。
- 2層 暗褐(10YR3/3)にぶい黄橙色ブロックφ0.5~1cmをわずかに含む。しまり強い。
- 3層 灰黄褐(10YR4/2)褐灰色シルトブロックφ1~2cmを10%、炭化物粒を2%含む砂質土。しまりやや強い。
- 4層 灰黄褐(10YR5/2)褐灰色シルト質土を30%含む。しまりやや強い。
- 5層 にぶい黄褐(10YR4/3)にぶい黄橙色ブロックφ1~3cmを50%含む。土質粗くしまりやや弱い。



第26図 III区1~3号井戸平面図・断面図

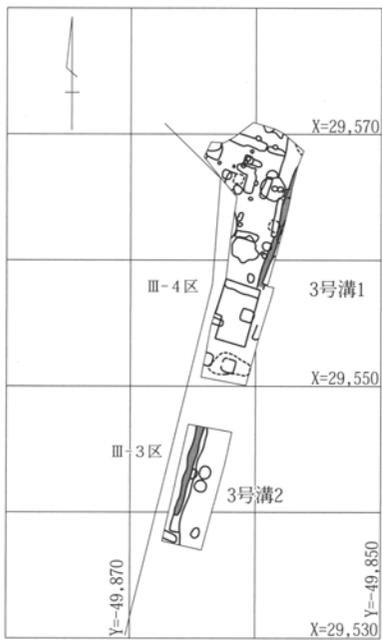
第3章 調査の成果

1号溝

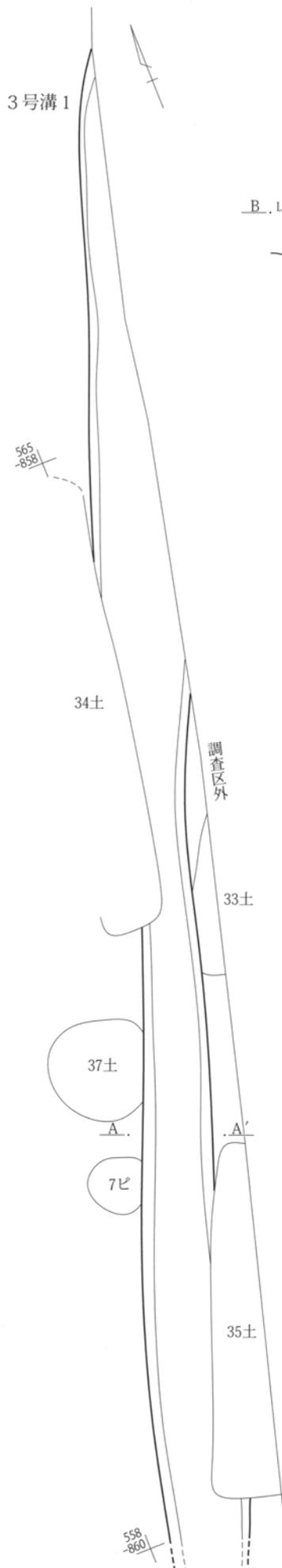


1号溝A-A'

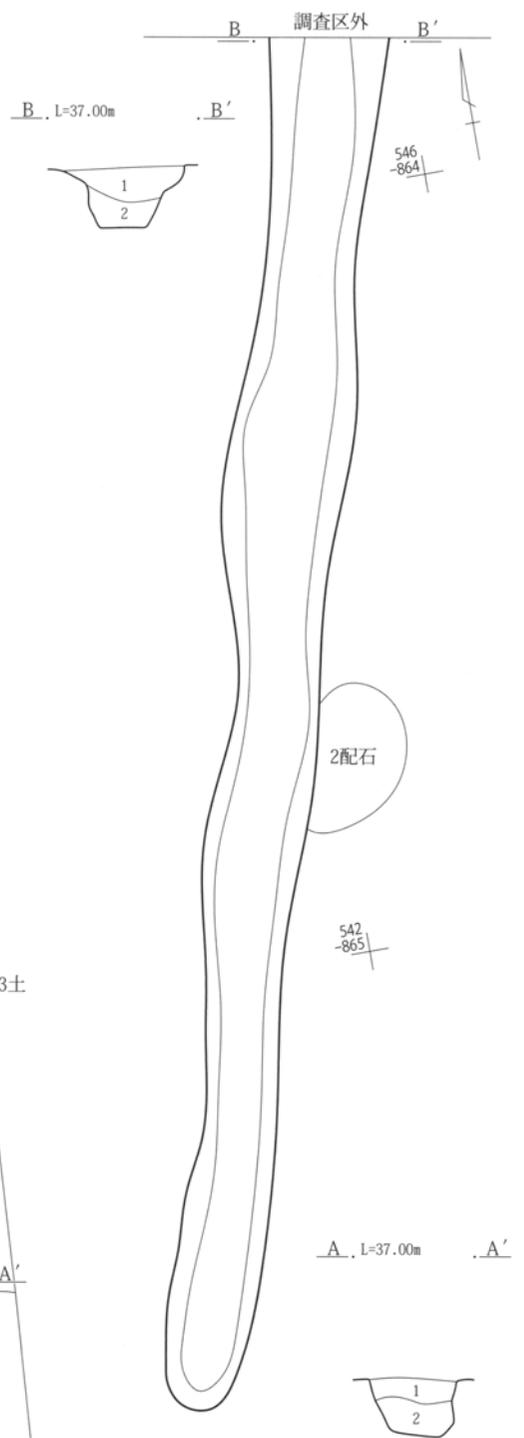
- 1層 褐(10YR3/1)砂質土、若干のローム粒混じる。
- 2層 黒褐(10YR3/1)固くしまる。
- 3層 暗褐(10YR3/4)
- 4層 黄褐(10YR5/6)粘質土、ローム主体。



3号溝1



3号溝2

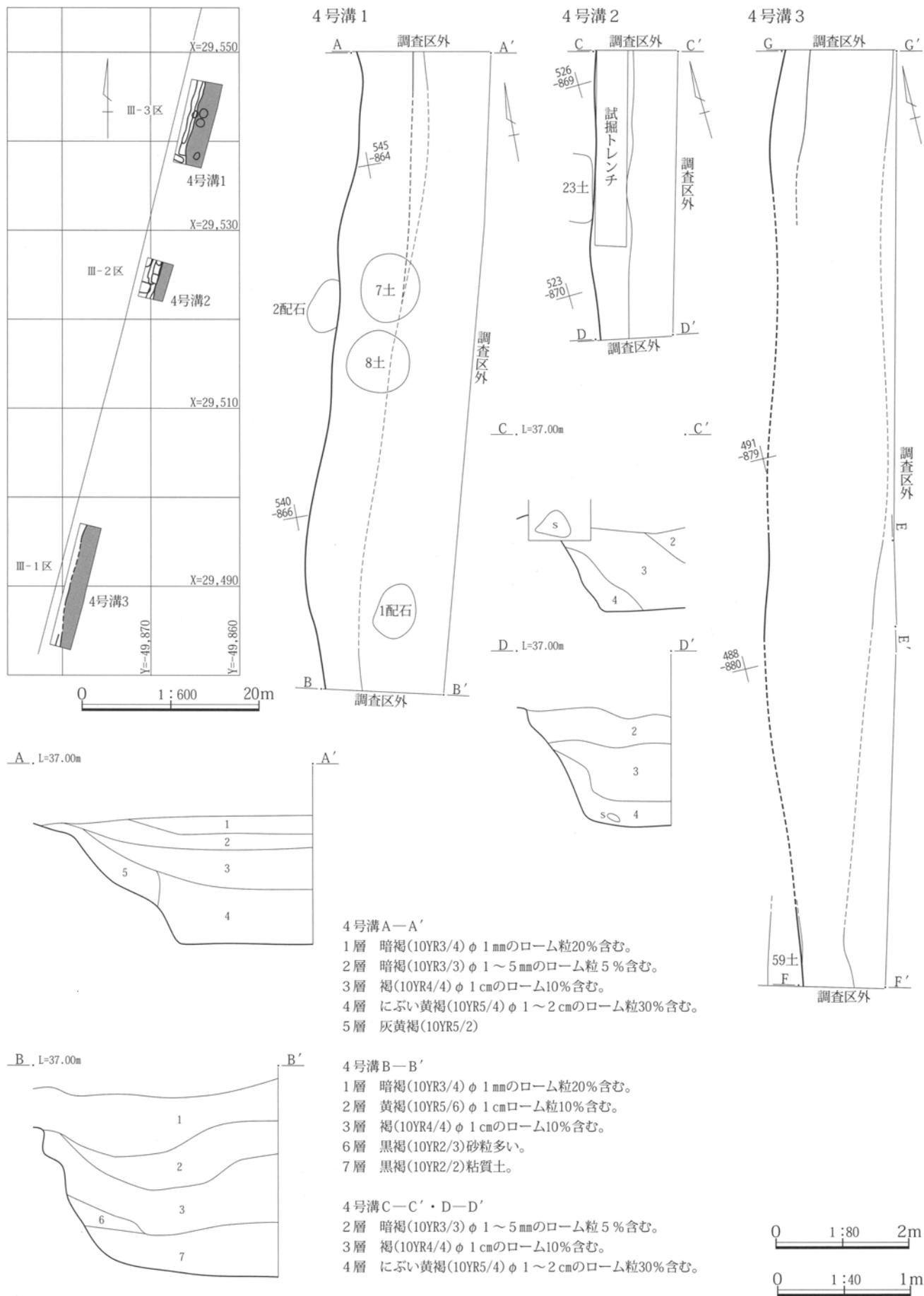


3号溝A-A'

- 1層 黒褐(10YR3/2)焼土ブロックφ0.3~1cmを2%含む。しまり強く粘性あり。
- 2層 褐灰(7.5YR4/2)やや粗い砂層と1層との互層。焼土ブロックをわずかに含む。しまり強い。

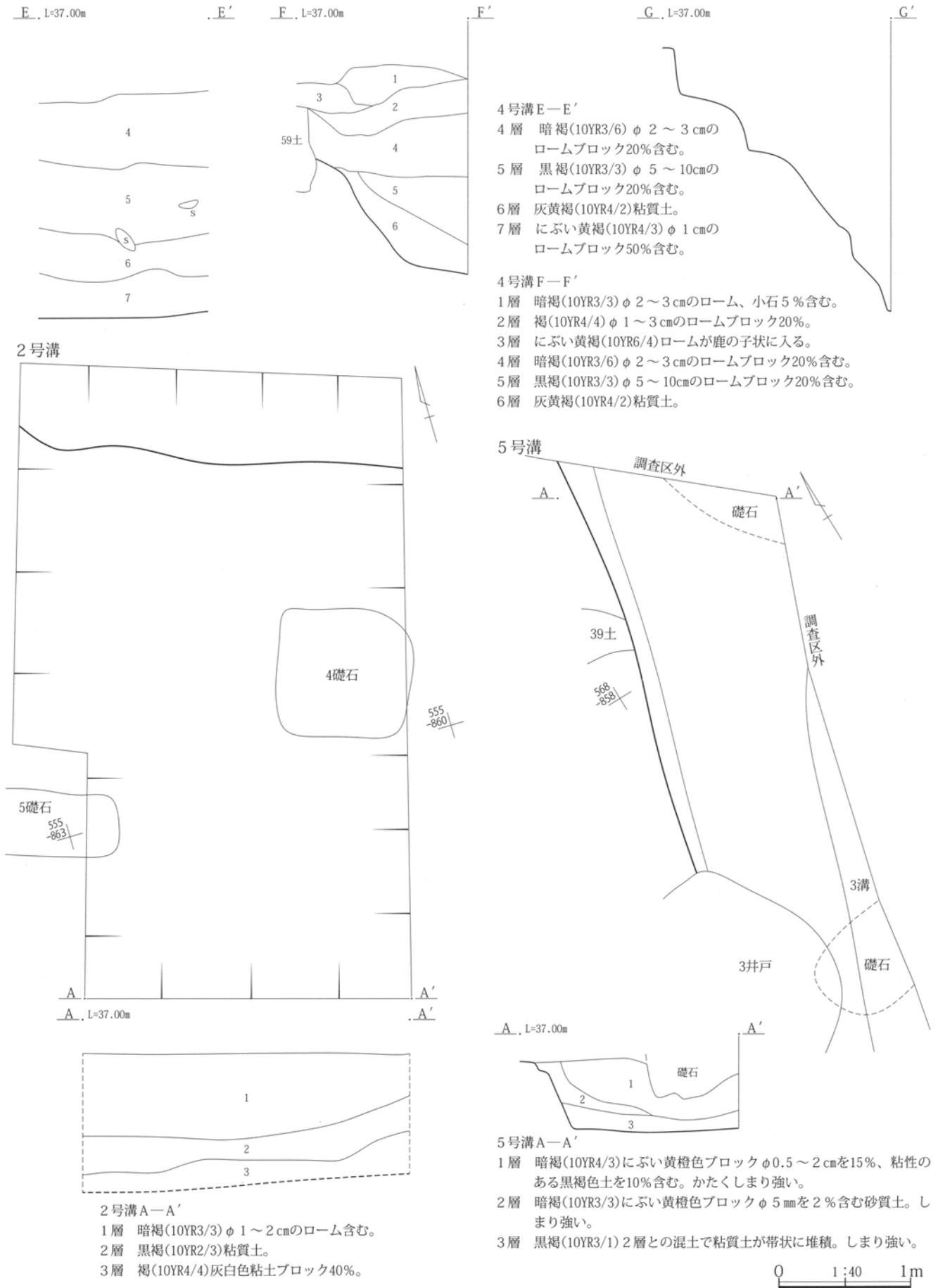


第27図 Ⅲ区1・3号溝平面図・断面図

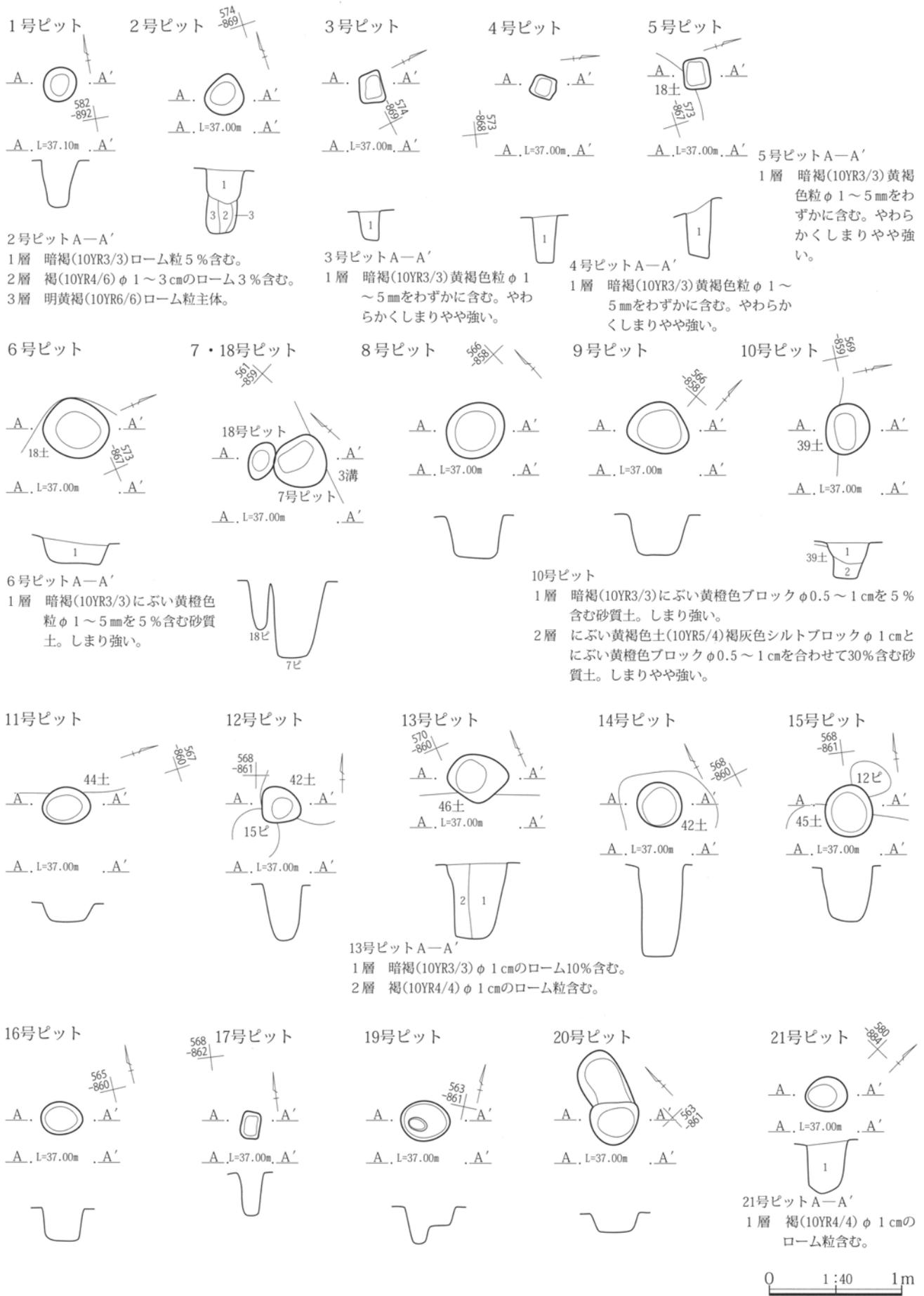


第28図 III区4号溝平面図・断面図

第3章 調査の成果

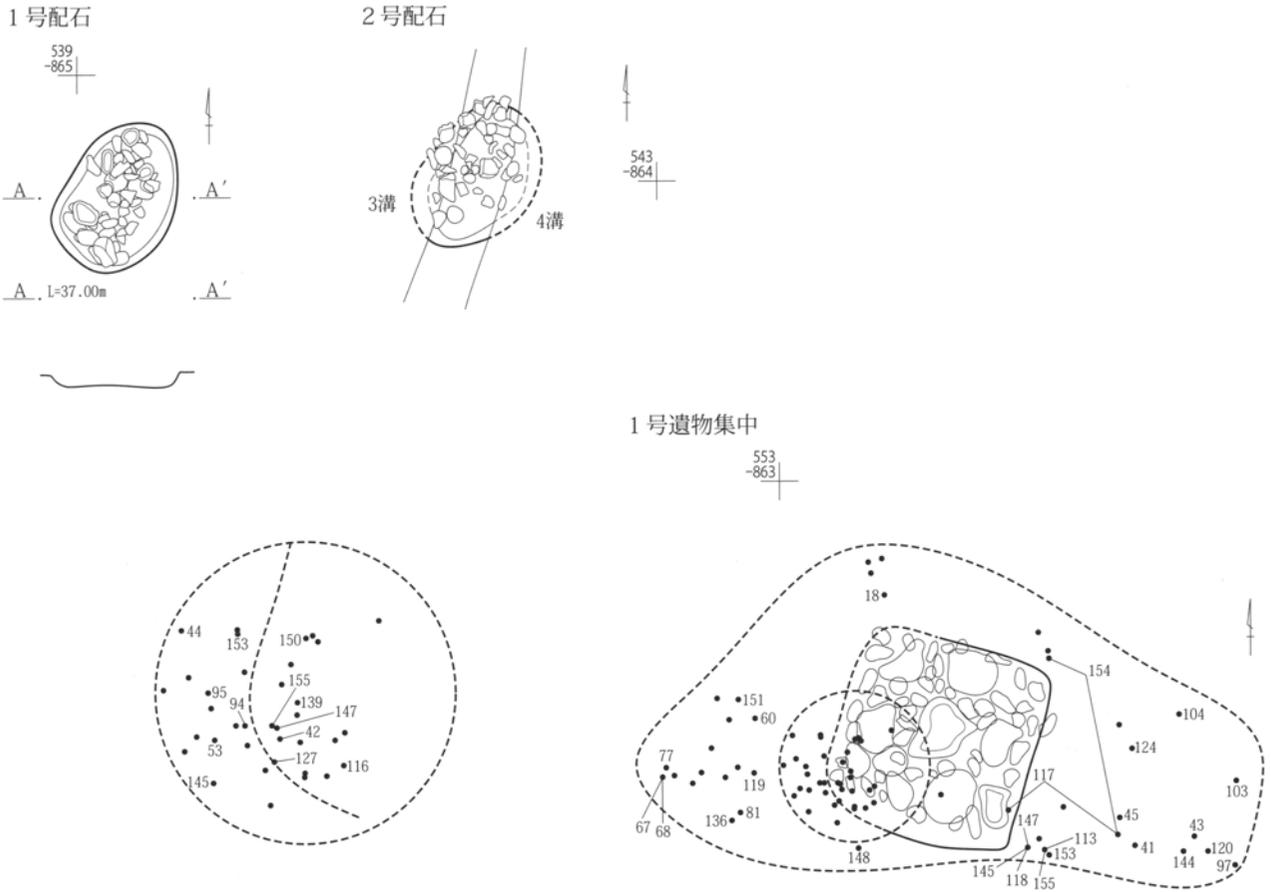


第29図 Ⅲ区2・5号溝平面図・断面図



第30図 III区1~21号ピット平面図・断面図

第3章 調査の成果



第33図 Ⅲ区1～2号配石平面図、断面図、1号遺物集中箇所平面図

～26,552、Y=-49,863。

重複関係：遺構ではないが1号遺物集中と名付けられた遺物集中出土箇所の範囲に一部がかかっている。

規模と形状：Ⅲ-4調査区の南部から南端部にかけて検出された4～7号礎石群の中で、本礎石は西側が調査区外に出るため、正確な全容は不明であるが、4・6号礎石と、ほぼ同規模・同構造の礎石で、ほぼ隅丸形状に掘り窪めた中に、川原石大の石が敷き詰められて構成されている。Ⅳ-4・5調査区で検出された礎石と類似した構造であり、それらとほぼ同時期の所産であると考えられる。中央部には、上面が比較的扁平な殊更に大きな石が据えられており、柱の当たりが意識された構造になっている。各礎石の心々間の距離は、4号と6号の間がほぼ4m、6号と7号との間が1.8mである。検出長径1.1m・検出短径0.66m・石の上面から掘方底部までの深さは0.69mである。

遺物：肥前磁器碗片1点、肥前磁器深皿1点、瀬戸・美濃陶器灰釉端反皿片1点、瀬戸・美濃陶器染付皿片2点、

在地系土器皿片1点、燧石1点。 **時期：**近世末期。

(8) 8号礎石(第31図、PL.19)

位置：Ⅲ-4調査区の北西端部寄りに位置する。17号ピットの南側に位置する。X=26,556～26,567、Y=-49,862。

重複関係：30号土坑を掘り込む。

規模と形状：Ⅲ-4調査区の南部から南端部にかけて検出された4～7号礎石群やⅣ-4・5調査区で検出された礎石群に類似する構造の礎石で、ほぼ隅丸形状に掘り窪めた中に、川原石大の石が敷き詰められて構成されている。Ⅲ-4調査区南側で検出された4・6・7号礎石に較べるとやや小規模ではあるが、Ⅳ-4・5調査区で検出された礎石とも類似した構造であり、それらとほぼ同時期の所産であると考えられる。中央部には、上面が比較的扁平な殊更に大きな石が据えられており、柱の当たりが意識された構造になっている。Ⅲ-4調査区北西端部において単独で1基検出されているように見受け

られなくもないが、すぐ東側に隣接して長径0.9m・短径0.74mの東西に長い長方形状を呈した礎石の痕跡があり、また、Ⅲ-4調査区北部の東壁際にも2箇所(北側のものは東壁に掛かる)礎石の痕跡が見られ、これらの礎石痕跡と一連のものとして建物の礎石を構成していた可能性がある。8号礎石と、そのすぐ東側に隣接する隅丸長方形状の礎石痕跡との心々間は約1mで、一直線上にある東壁に掛かる礎石痕跡との間の心々間距離は約4.2mである。また、東壁際に位置する南北両礎石痕跡の心々間距離は約3mである。長径0.74m・短径0.68mである。

遺物：なし。 時期：近世末期。

6. 配石

本遺跡では配石という遺構名称が付されたものはこのⅢ-3区で検出された2基のみである。

先に述べた礎石とは明らかに異なる特質を有する遺構群で、礎石は川原石大の大きさの礫を使用して構成されていたが、この遺構ではより細かな礫が、浅く掘り窪められた中に敷き詰められている。ただし、敷き詰められた石の密度は、礎石ほどに密ではなく、また、何層にも亘って石が積み上げられたような痕跡もない。掘り窪められた範囲も、礎石が方形ないし長方形状であるのに対して、楕円形状であり、この点も状況は異なる。

また、検出された礫も焼けているわけではなく、焼土の検出も皆無であり、工房に伴う炉、あるいは囲炉裏や竈の一部ということでもないようである。

少なくとも、本遺跡で検出されている礎石とは異なる性格の遺構と見られるものの、具体的な機能や用途については解明することができなかった。

(1) 1号配石(第33・85・86図、PL.19)

位置：Ⅲ-3調査区の中央部からやや北西寄りに位置する。7・8号土坑のすぐ西側に隣接する。X=26,539、Y=-49,864~-49,865。

重複関係：3号溝を掘り込む。

規模と形状：南北に長い浅い楕円形状の窪みに小礫が敷き詰められている。長径0.8m・短径0.5m・深さ0.12m。

遺物：常滑陶器灯片口鉢片1点、瀬戸陶器すり鉢片1点、在地系土器焙烙片2点、円盤状加工土製品2点。 時期：

近世末期。

(2) 2号配石(第33・86図、PL.19)

位置：Ⅲ-3調査区南端部の東寄り。7・8号土坑の西側に位置する。X=26,542~26,543、Y=-49,864~-49,865。

重複関係：なし。

規模と形状：1号配石同様南北に長い浅い楕円形状の窪みに小礫が敷き詰められている、規模、形状ともに1号配石に非常に類似している。長径0.82m・短径0.6m・深さ0.07m。 遺物：在地系土器甕片1点。 時期：近世末期。

7. その他の遺構

(1) 1号遺物集中箇所(第33・86~97図)

位置：Ⅲ-4調査区の南端付近のほぼ中央に位置する。7号礎石の東側に位置する。X=26,551~26,552、Y=-49,861~-49,862。6号礎石の周辺。

重複関係：6号礎石。

規模と形状：Ⅲ-4調査区の南部から南端部にかけて検出された4~7号礎石群の中で、4・6・7号礎石は、ほぼ同規模・同構造の礎石で、ほぼ隅丸方形状に掘り窪めた中に、川原石大の石が敷き詰められて構成されている。Ⅳ-4・5調査区で検出された礎石と類似した構造であり、6号礎石はそれらとほぼ同時期の所産であると考えられ、それに被る1号遺物集中箇所は、それよりも新しい時期のものと考えられる。

遺物：遺物観察表及び86~97図参照。 時期：近世末期~近代。

8. 遺構外一括出土遺物

遺構外出土遺物を観察表及び第98~107図に掲載した。

第4節 IV区で検出された遺構と遺物

Ⅳ区は、主要地方道太田・大間々線の世良田交差点以北の西側と、世良田交差点の西側、国道354号線の北側にあたる。

調査区は5箇所に分かれ、主要地方道太田・大間々線

の西側拡幅部分を北からⅣ-1調査区、Ⅳ-2調査区、世良田交差点の西側拡張部分をⅣ-3調査区、国道354号線の北側拡幅部分を東からⅣ-4調査区、Ⅳ-5調査区とした。

Ⅳ区で検出された遺構は、土坑45基、井戸13基、溝4条、ピット72基、礎石5基である。

Ⅳ-1調査区は、主要地方道太田・大間々線に面し、Ⅳ区の最北端にあたり、 $X=29,620\sim 29,635$ 、 $Y=-49,840\sim -49,850$ に位置する。土坑9基、井戸3基、溝1条、ピット13基が検出された。

Ⅳ-2調査区は、Ⅳ区の北から2番目の場所で、 $X=29,605\sim 29,620$ 、 $Y=-49,845\sim -49,855$ に位置する。土坑2基、井戸2基、ピット4基が検出された。

Ⅳ-3調査区は、世良田交差点を西側に拡幅する場所で、 $X=29,580\sim 29,600$ 、 $Y=-49,845\sim -49,870$ に位置し、Ⅳ区で最も調査面積が広い調査区である。世良田交差点を挟んで東側にはⅠ-4調査区、南東側にはⅡ-6調査区、南側にはⅢ-4・5調査区が位置する。土坑24基、井戸7基、ピット39基が検出された。

Ⅳ-4調査区は、国道354号線に面し、国道を挟んだ南側にはⅢ-5調査区が位置する。 $X=29,590\sim 29,500$ 、 $Y=-49,875\sim -49,895$ に位置する。土坑9基、井戸1基、溝1条、ピット9基、礎石2基が検出された。

Ⅳ-5調査区は、国道354号線に面した、Ⅳ-4調査区のさらに西側に位置する調査区である。 $X=29,600\sim 29,605$ 、 $Y=-49,900\sim -49,915$ に位置する。土坑1基、溝2条、ピット7基、礎石4基などが検出された。

1. 土坑

Ⅳ区では45基の土坑が検出された。主要地方道太田・大間々線に面し、Ⅳ区の最北端にあたるⅣ-1調査区では9基、その南側に位置するⅣ-2調査区では2基、世良田交差点にかかるⅣ-3調査区では24基、国道353号線に面した東側のⅣ-4調査区では9基、Ⅳ区最西端のⅣ-5調査区では1基である。

(1) 1号土坑(第36図、PL.20)

位置:Ⅳ-3調査区の西端隅付近に位置する。4号土坑の西側に近接し、13・14号ピットのすぐ東側に隣接する。 $X=29,587$ 、 $Y=-49,863$ 。

重複関係:3号土坑の北側を掘り込む。

方向: $N-120^{\circ}-E$ 。

規模と形状:北側が調査区外に出るため、全容は不明である。検出長径0.42m・検出短径0.42m・深さ0.78m。しっかりとした掘方を有する。

埋土:上層鈍い黄褐色土、下層暗褐色土。 **遺物:**なし。

時期:不明。

(2) 2号土坑(第36・107～110図、PL.20)

位置:Ⅳ-5調査区の最西端に位置する。 $X=29,602\sim 29,604$ 、 $Y=-49,908\sim -49,910$ 。

重複関係:1号礎石に掘り込まれる。

規模と形状:北側が調査区外に出るため全容は不明であるが、東西に長い楕円形状を呈するものと考えられる。検出長3.1m・検出幅1.2m・深さ1.05m。確認面から多量の礫、遺物がまとまって出土した。

埋土:上層暗褐色土、中層黒褐色土・鈍い黄褐色土、下層黒褐色土。 **遺物:**肥前磁器染付丸碗8点、肥前磁器染付小碗2点、肥前磁器染付広東碗4点、肥前磁器染付小広東碗1点、肥前磁器小瓶片1点、肥前磁器染付端反碗1点、肥前磁器染付皿3点、瀬戸・美濃陶器腰鍔茶碗1点、瀬戸・美濃陶器蓋1点、瀬戸・美濃陶器練鉢片2点、瀬戸・美濃陶器汁次片1点、瀬戸・美濃陶器水甕片1点、瀬戸・美濃陶器半胴甕片1点、瀬戸・美濃磁器染付端反碗1点、古瀬戸陶器平碗片1点、在地産土器焙烙片1点、在地系土器手水鉢片1点、在地系土器焙烙片1点、平瓦片1点、有孔石製品1点。なお、肥前磁器皿の1点の底部蛇目高台部に「せら田志ミすや(しみずや)」の文字と屋号が焼継されたものがある。 **時期:**近世末期。

(3) 3号土坑(第36・110図)

位置:Ⅳ-3調査区の西端隅付近に位置する。4号土坑の西側に近接し、13・14号ピットのすぐ東側に隣接する。 $X=29,583\sim 29,586$ 、 $Y=-49,863$ 。

重複関係:1号土坑に北側を掘り込まれる。

規模と形状:北側を1号土坑に掘り込まれるため全容は不明であるが、南北に長い長楕円形状を呈するものと思われる。検出長径0.5m・検出短径0.4m・深さ0.35m。しっかりとした掘方を有する。**埋土:**上層鈍い黄褐色土、下層暗褐色土。 **遺物:**平瓦片1点。 **時期:**近世末期。

(4) 4号土坑(第36図、PL.21)

位置：IV-3調査区の西端隅付近に位置する。1・3号土坑の東側に近接し、11号ピットのすぐ東側に隣接する。

X=29,586～29,587、Y=-49,862～-49,863。

重複関係：9号ピットの東側を掘り込む。

規模と形状：北側を1号土坑に掘り込まれるため全容は不明であるが、南北に長い長楕円形状を呈するものと思われる。検出長径0.5m・検出短径0.4m・深さ0.35m。しっかりとした掘方を有する。

埋土：表土暗褐色土、上層鈍い黄褐色土、下層暗褐色土。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(5) 5号土坑(第36図、PL.21)

位置：IV-1調査区の北西隅にかかる。28号ピットのすぐ北西側に隣接する。X=29,631～29,632、Y=-49,845。

重複関係：なし。

規模と形状：IV-1調査区の北西隅にかかり、北側及び西側が調査区外に出るため全容は不明である。検出長0.6m・幅0.27m・深さ0.45m。

埋土：鈍い黄褐色土。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(6) 6号土坑(第36図、PL.21)

位置：IV-1調査区の北西寄りに位置する。3号井戸の南西側、5号土坑の南側、7号土坑の北側にある。X=29,631～29,632、Y=-49,856。

重複関係：32号ピットに掘り込まれる。

規模と形状：西側が調査区外に出るため、全容は不明である。検出長0.6m・検出幅0.27m・深さ0.45m。

埋土：鈍い黄褐色土。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(7) 7号土坑(第36図、PL.22)

位置：IV-1調査区の中央部、西壁にかかる。3号溝のすぐ北側に近接する。6・9号溝の西側にある。X=29,629～29,630、Y=-49,856。

重複関係：なし。

規模と形状：西側が調査区外に大きく出るため全容は不明である。検出長1.25m・深さ0.25m。

埋土：鈍い黄色褐色土、下層に明灰褐色土の堆積が見られた。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(8) 8号土坑(第36図、PL.21・22)

位置：IV-1調査区の南西隅付近に位置する。9号土坑のすぐ南側、21号ピットのすぐ北側に隣接する。X=29,626、Y=-49,845～-49,846。

重複関係：10号土坑を掘り込む。13号土坑に南東隅部を掘り込まれる。

方向：N-100°-E。

規模と形状：西側が調査区外に出るため全容は不明であるが、13号土坑同様、東西に長い隅丸長方形形状を呈するものと考えられる。検出長1.28m・幅0.58m・深さ0.6m。

埋土：鈍い黄褐色土。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(9) 9号土坑(第36図、PL.21)

位置：IV-1調査区の中央部からやや西南寄りに位置している。8号土坑のすぐ北側に隣接する。X=29,626～29,629、Y=-49,844～-49,845。

重複関係：3号溝の東部、12号土坑、5号井戸の西部を掘り込む。

方向：N-16°-E。

規模と形状：南北に長い長大な長方形形状を呈する。深さはさほどではない。長さ3.03m・幅0.63m・深さ0.22m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(10) 10号土坑(第36図、PL.21)

位置：IV-1調査区の南西隅付近に位置する。3号溝のすぐ南側に隣接する。X=29,626～29,627、Y=-49,846。

重複関係：8号土坑に掘り込まれる。

規模と形状：西側が調査区外に出るため全容は不明である。掘方の形状から井戸である可能性もある。検出長0.7m・検出幅0.56m・深さ0.9m。

埋土：褐色土。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(11) 11号土坑(第37図、PL.21)

位置：IV-1調査区の中央部から西南寄りに位置し、12号土坑の南側に近接する。X=29,626、Y=-49,845。

重複関係：8号土坑西に西辺を、13号土坑に南辺を、23号ピットに東辺を、5号井戸に北辺をそれぞれ掘り込まれる。

規模と形状：南北に長い楕円形状を呈する。検出長

0.88m・幅0.75m・深さ0.65m。

埋土：上層暗褐色土、下層褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：近世末期。

(12)12号土坑(第37・110図、PL.21)

位置：IV-1 調査区の中央部からやや東寄りに位置し、24～26、31・33号ピットのすぐ北側に隣接する。X=29,626、Y=-49,945。

重複関係：西辺を9号土坑に掘り込まれる。5号井戸を掘り込む。

方向：N-30°-W。

規模と形状：不整楕円形状を呈する。長さ0.84m・幅0.75m・深さ0.65m。

埋土：上層灰黄褐色土。下層鈍い黄橙色土。 **遺物**：肥前磁器染付丸碗1点、在地系土器皿2点、懐炉1点、銅銭1点(寛永通宝)。 **時期**：近世末期。

(13)13号土坑(第37・111図、PL.21)

位置：IV-1 調査区の南端付近に位置し、22号ピットのすぐ南側に隣接する。X=29,625、Y=-49,844～-49,845。

重複関係：8号土坑の南東隅部、11号土坑の南端部を掘り込む。

方向：N-97°-E。

規模と形状：東西に長い隅丸長方形形状を呈するものと思われるが、東端は調査区外に出る。検出長1.45m・幅1.6m・深さ0.25m。

埋土：鈍い黄褐色土。 **遺物**：常滑陶器甕片1点、石製品砥石1点。 **時期**：近世末期。

(14)14号土坑(第37図、PL.21)

位置：IV-4 調査区の北西端付近に位置し、34号土坑・9号井戸・3号礎石の東側に近接する。X=29,595～29,596、Y=-49,889～-49,890。

重複関係：30号土坑の東辺を掘り込む。

方向：N-30°-E。

規模と形状：南北に長い隅丸長方形形状を呈するものと思われるが、北側が調査区外に出るため、全容は不明である。14～16・20号土坑のような隅丸長方形形状を呈する土坑は、形状から見て、伸展葬の木棺墓である可能性が

考えられるが、これらの土坑では、墓葬であること示すような痕跡や遺物は出土していない。検出長1.26m・幅0.55m・深さ1m。

埋土：上層暗褐色土、下層鈍い黄褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(15)15号土坑(第37図、PL.21)

位置：IV-4 調査区の東寄りに位置し、38号ピットのすぐ西側に隣接し、19号土坑・37号ピットの北側に位置する。X=29,592～29,593、Y=-49,880～-49,881。

重複関係：なし。

方向：N-20°-E。

規模と形状：南北に長い隅丸長方形形状を呈するものと思われるが、北側が調査区外に出るため、全容は不明である。検出長0.93m・幅0.5m・深さ0.85m。

埋土：上層鈍い黄褐色土、中層灰黄褐色土、下層鈍い黄褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(16)16号土坑(第37図、PL.22)

位置：IV-4 調査区のほぼ中央に位置し、17号土坑の東側に近接する。X=29,593～29,594、Y=-49,884～-49,886。

重複関係：中央部を4号溝に掘り込まれる。

規模と形状：南北に長い隅丸長方形形状を呈するものと思われるが、南側が調査区外に出るため、全容は不明である。検出長0.85m・幅0.85m・深さ0.15m。

埋土：黒褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(17)17号土坑(第37図、PL.22)

位置：IV-4 調査区の中央部よりやや西寄りに位置し、16号土坑の東側に位置する。X=29,593～29,594、Y=-49,885～-49,887。

重複関係：なし。

規模と形状：北側が調査区外に出るため全容は不明である。

埋土：鈍い黄褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：不明。

(18)18号土坑(第37・111図、PL.22)

位置：IV-4 調査区の東寄りに位置し、20号土坑のすぐ東側に隣接する。X=29,591～29,592、Y=-49,878

～-49,879。

重複関係：西側を27号土坑に掘り込まれる。

方向：N-20°-E。

規模と形状：北南北両辺とも調査区外に出るが、南北に長い不整楕円形状を呈するものと考えられる。検出長1.73m・幅7.75m・深さ0.52m。

埋土：上層鈍い黄褐色土・黄褐色土、中層暗褐色土、下層黒褐色土。**遺物**：瀬戸・美濃磁器端反小坏1点、常滑陶器甕片2点、渥美陶器甕片1点、在地系土器片口鉢片1点、在地系土器火鉢片1点、平瓦片1点、丸瓦片1点。**時期**：近代。

(19)19号土坑(第38図)

位置：IV-4調査区の東寄りに位置する。36・37号ピットのすぐ東側に隣接し、15号土坑の南側に位置する。X=29,590～29,592、Y=-49,819～-49,820。

重複関係：27号土坑を掘り込む。

規模と形状：南側が調査区外に出るため、全容は不明である。検出長0.63m・検出最大幅0.42m・深さ0.28m、浅い。

埋土：暗褐色土・褐色土。**遺物**：なし。**時期**：不明。

(20)20号土坑(第38図)

位置：IV-4調査区の東寄りに位置する。38・39号ピットのすぐ東側に、18号土坑のすぐ西側に隣接する。X=29,592、Y=-49,879～-49,880。

重複関係：なし。

方向：N-20°-E。

規模と形状：南北に長い楕円形状を呈する。長さ0.71m・幅0.4m・深さ0.18m。

埋土：明暗褐色土・暗褐色土。**遺物**：なし。**時期**：不明。

(21)21号土坑(第38図、PL.22)

位置：IV-3調査区の北東寄りの位置。40～42号ピットの東側に位置し、24号土坑のすぐ北側に隣接する。X=29,595～29,596、Y=-49,851。

重複関係：なし。

規模と形状：東側を試掘トレンチで大きく掘り込まれ、破壊されているため全容は不明である。検出長1.25m・検出幅0.53m・深さ0.2m。

埋土：暗褐色土。**遺物**：なし。**時期**：不明。

(22)22号土坑(第38・111図、PL.22)

位置：IV-3調査区の北東寄りの位置、21号土坑のすぐ南側。X=29,593～29,594、Y=-49,851。

重複関係：23・24号土坑、7号井戸に掘り込まれる。

方向：N-12°-E。

規模と形状：南北両端が調査区外に出るため全容は不明である。現存長1.26m・現存幅1.03m・深さ0.53m。

埋土：暗褐色土。**遺物**：肥前磁器染付丸碗片1点、京・信楽系小杉碗片1点、瀬戸・美濃陶器半胴甕1点、在地系土器焙烙片1点。**時期**：近世末期。

(23)23号土坑(第38図、PL.22)

位置：IV-3調査区の東寄りの位置。29号土坑の北側に位置する。X=29,593～29,594、Y=-49,851～-49,852。

重複関係：22・24・25号土坑を掘り込む。

規模と形状：東側を試掘トレンチで破壊されているため、全容は不明である。検出長0.55m・検出幅0.24m・深さ0.1m。

埋土：上層褐色土、中層暗褐色土、下層褐色土。**遺物**：なし。**時期**：不明。

(24)24号土坑(第38図)

位置：IV-3調査区の東寄りの位置。21号土坑のすぐ南側に隣接する。X=29,594、Y=-49,851。

重複関係：23・25号土坑に掘り込まれる。22号土坑を掘り込む。

規模と形状：南側を22・25号土坑に掘り込まれ、東側を試掘トレンチによって破壊されているため全容は不明である。検出長0.27m・検出幅0.25m・深さ0.15m。

埋土：暗褐色土。**遺物**：なし。**時期**：近世末期。

(25)25号土坑(第38・112図、PL.22)

位置：IV-3調査区の東寄りの位置。X=29,593、Y=-49,851～-49,852。

重複関係：23・29号土坑に掘り込まれる。23号土坑を掘り込む。

規模と形状：南側を29号土坑に掘り込まれ、東側を試掘

第3章 調査の成果

トレンチによって破壊されているため全容は不明である。検出長0.8m・検出幅0.65m・深さ0.3m。

埋土：上層暗褐色土、下層灰黄褐色土。 **遺物**：銅銭2点(寛永通宝)。 **時期**：近世末期。

(26)26号土坑(第38・118図、PL.22)

位置：IV-3調査区の東寄りの位置。X=29,592～29,595、Y=-49,850。

重複関係：7号井戸を掘り込む。

規模と形状：東側を試掘トレンチによって破壊されているため全容は不明である。検出長2.52m・検出幅0.33m・深さ0.45m。

埋土：褐灰色土。 **遺物**：肥前磁器筒型湯呑1点、在地系土器手水鉢片1点、丸瓦片1点。 **時期**：近世末期。

(27)27号土坑(第38図)

位置：IV-4調査区の東寄りの位置。X=29,591～29,592、Y=-49,879～-49,880。

重複関係：19・20号土坑に掘り込まれる。18号土坑を掘り込む。

規模と形状：全容は不明である。検出長2.52m・検出幅0.33m・深さ0.45m。

埋土：褐灰色土。 **遺物**：なし。 **時期**：近世末期。

(28)28号土坑(第38・112図、PL.22)

位置：IV-3調査区の中央から東寄りの位置。X=29,588～29,589、Y=-49,851～-49,852。

重複関係：なし。

規模と形状：東側が調査区外に出るが、不整円形状を呈するものと考えられる。検出長0.9m・検出幅0.75m・深さ0.45m。しっかりとした掘方を有する。

埋土：褐色土。 **遺物**：5点を取り上げた。在地系土器鉢片1点、銅銭4点(寛永通宝)。 **時期**：近世末期。

(29)29号土坑(第38・112～114図、PL.22・23)

位置：IV-3調査区の北東寄りの位置。22号土坑の南西側、31号土坑の北側、53号ピットの東側に近接。X=29,592～29,593、Y=-49,852～-49,853。

重複関係：25号土坑を掘り込む。

規模と形状：東側が試掘トレンチで破壊されているが、

不整楕円形状を呈するものと考えられる。検出長1.31m・検出幅1.1m・深さ0.4m。しっかりとした掘方を有する。

埋土：上層鈍い黄褐色土、下層灰褐色土。 **遺物**：肥前磁器染付丸碗3点、肥前磁器染付広東碗1点、肥前磁器染付猪口1点、肥前磁器染付皿3点、肥前磁器赤絵火入れ1点、肥前磁器片1点、瀬戸・美濃陶器錆釉灯明油皿1点、軟質施釉陶器カンテラ1点、円盤形加工土製品2点、在地系土器焙烙3点、在地系土器焜炉1点、鉄製品1点。

鉄製品は、L字型の細い板状鉄製品で、木製枘の縁金と考えられるが、木質の残存がわずかなため断定はできない。

特筆すべきは、カンテラ片が出土していることである。カンテラは、本遺構以外にもⅢ区から、4点見つかっており、そちらの方が残存状態はよいが、本例は、遺構からの出土とすることで重要性が高い。カンテラは、18世紀後半以降に江戸で使われるようになるが、それでも使用例は僅少であり、その他の地域での出土例はほとんど無いとされてきた。当時の江戸でもまれであったカンテラが、なぜ、この世良田地でこれほど出土するのかについて、今のところ明確な答えはないが、この地が中世以来の「新田荘」の中心地であり、近世には徳川將軍家が出自の地とした徳川郷に隣接する地域として、また、新田荘に関わる長楽寺や、徳川氏発祥の聖地に設けられた東照宮の門前町として栄えてきたという、この地の豊かさ故に、このような地方では希少な道具が持ち込まれ、使用されていたと考えることは可能であろう。

また、肥前磁器香炉の見込部に「お仁□」と墨書されたものがある。 **時期**：近世末期。

(30)30号土坑(第39図、PL.23)

位置：IV-4調査区の西端寄りの位置。4号礎石の西側に位置する。X=29,594～29,596、Y=-49,889～-49,890。

重複関係：14号土坑に掘り込まれる。

方向：N-25°-E。

規模と形状：南側が調査区外に出るが、北東-南西方向に長い隅丸長形状を呈する。このようなスタイルをとる土坑はIV-4調査区でも他に4基が検出されており、さらにIV-1調査区、IV-2調査区でも検出されており、

形状から見て伸展葬の墓墳である可能性も考えられるが、出土遺物や埋土の状況からは、墓らしい痕跡はいずれにても検出することは出来なかった。検出長1.31m・検出幅0.73m・深さ0.83m。しっかりと掘方を有する。
埋土：上層暗褐色土、中層鈍い黄色土、下層灰黄褐色土。
遺物：なし。 **時期**：不明。

(31)31号土坑(第38・115図)

位置：IV-3調査区の中央部より北東寄りの位置。29号土坑の南側に近接する。X=29,591、Y=-49,889～-49,890。

重複関係：なし

方向：N-30°-W。

規模と形状：北西-南東方向にやや長い楕円形状を呈する。長さ0.62m・幅0.54m・深さ0.27m。しっかりと掘方を有する。

遺物：瀬戸・美濃磁器皿1点、制作地不詳徳利1点、制作地不詳ミニチュア1点、在地系土器焙烙1点、在地系土器植木鉢1点。 **時期**：近世末期。

(32)32号土坑(第39・115図、PL.23)

位置：IV-3調査区の中央部よりやや東寄りの位置、北壁際。8号井戸、44号ピットのすぐ西側に、11号井戸のすぐ東側に近接する。X=29,590～29,592、Y=-49,855～-49,857。

重複関係：なし。

方向：N-0°-W。

規模と形状：北西端が調査区外に出るが、南北にやや長い楕円形状を呈する。検出長0.95m・幅0.73m・深さ0.3m。

埋土：上層灰黄褐色土、下層鈍い黄褐色土。 **遺物**：肥前磁器碗1点、在地系土器皿1点、銅銭1点(寛永通宝)。

時期：近現代。

(33)33号土坑(第39・115図、PL.23)

位置：IV-3調査区の中央部よりやや東寄りの位置。39号土坑のすぐ西側、36号土坑のすぐ東側、56・57号ピットのすぐ北側に隣接する。X=29,588～29,590、Y=-49,853～-49,854。

重複関係：35号土坑を掘り込む。

方向：N-0°-W。

規模と形状：不整形を呈する。長さ1.51m・幅1.4m・深さ0.25m。

埋土：上層暗褐色土、下層黒褐色土。 **遺物**：瀬戸・美濃陶器灰釉碗1点。 **時期**：近世末期。

(34)34号土坑(第39図、PL.23)

位置：IV-4調査区の最西端。14号土坑の西側に近接。X=29,595～29,596、Y=-49,890～-49,891。

重複関係：3号礎石、9号井戸に掘り込まれる。

規模と形状：北側が調査区外に出るが、南北に長い隅丸長方形形状を呈する。先述したように、このようなスタイルをとる土坑はIV-4調査区でも他に4基が検出されており、さらにV-1調査区、IV-1調査区、IV-2調査区でも検出されており、形状から見て伸展葬の墓墳である可能性も考えられるが、出土遺物や埋土の状況からは、墓らしい痕跡はいずれにても検出することは出来なかった。検出長1.33m・幅0.52m・深さ0.58m。しっかりと掘方を有する。

埋土：黒褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：近世末期。

(35)35号土坑(第39図)

位置：IV-3調査区の中央部よりやや東寄りの位置。39号土坑のすぐ西側、36号土坑のすぐ東側、56・57号ピットのすぐ北側に隣接する。X=29,588～29,589、Y=-49,853～-49,854。

重複関係：33号土坑に上面を掘り込まれる。36号土坑を掘り込む。

規模と形状：不整楕円形状を呈する。長さ1.35m・幅1.1m・深さ0.5m。

埋土：上層灰黄褐色土、下層鈍い黄褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：近世末期。

(36)36号土坑(第39・115図、PL.23)

位置：IV-3調査区の中央部よりやや東寄りの位置。40号土坑のすぐ南側、44・54・56号ピットのすぐ東側、33号土坑のすぐ西側に隣接する。X=29,589～29,590、Y=-49,854～-49,855。

重複関係：33号土坑に東辺を掘り込まれる。37号土坑を掘り込む。

方向：N-22°-E。

規模と形状：不整楕円形状を呈する。長さ1.63m・検出幅1.23m・深さ0.53m。しっかりとした掘方を有する。

埋土：上中層灰黄褐色土、下層鈍い黄褐色土。遺物：白京・信楽系陶器碗片1点、砥石片1点。時期：近世末期。

(37)37号土坑(第39図、PL.23)

位置：IV-3調査区の中央部よりやや東寄りの位置。55号ピットのすぐ北側に隣接する。X=29,589~29,590、Y=-49,854~-49,855。

重複関係：36号土坑に北から大半を掘り込まれる。

規模と形状：大半を36号土坑に掘り込まれるため、詳細は不明である。検出長0.86m・検出幅0.45m・深さ0.2m。しっかりとした掘方を有する。

埋土：褐灰色土。遺物：なし。時期：近世末期。

(38)38号土坑(第39・116図、PL.23)

位置：IV-3調査区の中央部より西南寄りの位置。41号土坑の東側、43号土坑の北側に近接する。X=29,588~29,589、Y=-49,855。

重複関係：なし。

規模と形状：東西に並存する2基の長径約0.9m前後のほぼ同規模の浅い土坑と、並存する2基の土坑の南側中央部に掘削された径約0.4mの小規模でやや深いピット状の遺構からなる。東西に並存する浅い土坑は、西側のものが長径0.9m・短径0.85m・深さ0.35m、東側のものが長径0.85m・短径0.7m・深さ0.3mで、いずれも南北にやや長い楕円形状を呈しており、それぞれ北側の縁の約半分に粘土の貼り付けが検出された。また、それぞれ底部には鉄分の沈着が顕著であり、東側の土坑により顕著であった。ただし、焼土等の検出はなく、鍛冶炉のようなものではないと発掘調査時に判断されている。これら両土坑の中心の南側に位置する小規模なピットは、長径0.45m・短径0.3m・深さ0.55mで、東西に長い楕円形状を呈する。この土坑の用途及び機能は不明であるが、焼土の検出はないものの、近世家屋の囲炉裏跡である可能性も考えられる。

埋土：上層褐色土、中層及び東側土坑下層暗褐色土、西側土坑下層褐色土。遺物：肥前磁器染付皿片1点、瀬

戸・美濃系陶器灰釉皿1点、在地系土器皿1点、石臼片1点。時期：近世末期。

(39)39号土坑(第39図、PL.23)

位置：IV-3調査区の中央部より南東寄りの位置。33・35号土坑、56・57号ピットのすぐ東側に隣接する。X=29,587~29,588、Y=-49,853。

重複関係：58号ピットを掘り込む。

方向：N-30°-E。

規模と形状：南北に長い隅丸長方形形状を呈する。先述したように、このようなスタイルをとる土坑はIV-4調査区でも他に4基が検出されており、さらにIV-1、IV-2調査区でも検出されており、形状から見て伸展葬の墓壇である可能性も考えられるが、出土遺物や埋土の状況からは、墓らしい痕跡はいずれにしても検出することは出来なかった。長さ1.42m・幅0.57m・深さ0.62m。しっかりとした掘方を有する。

埋土：黒褐色土。遺物：なし。時期：不明。

(40)40号土坑(第40図、PL.23)

位置：IV-3調査区の中央部より北東寄りの位置。39号土坑、44・59号ピットのすぐ北側、45・47・48号ピットのすぐ南側に隣接する。X=29,590~29,592、Y=-49,854~-49,855。

重複関係：8号井戸に西側を掘り込まれる。

方向：N-110°-E。

規模と形状：東側を8号井戸に掘り込まれ、破壊されているが、南北に長い隅丸長方形形状を呈するものと思われる。先述したように、このようなスタイルをとる土坑はIV-4調査区でも他に4基が検出されており、さらにIV-1、IV-2区でも検出されており、形状から見て伸展葬の墓壇である可能性も考えられるが、出土遺物や埋土の状況からは、墓らしい痕跡はいずれにしても検出することは出来なかった。検出長1.42m・幅0.53m・深さ0.3m。

埋土：上中層鈍い黄褐色土、底部付近一部黄褐色土。

遺物：なし。時期：近世末期。

(41)41号土坑(第40図、PL.24)

位置：IV-3調査区の中央部より西寄りの位置。38号土

坑の西側、64号ピットの東側に位置する。X=29,586～29,592、Y=-49,859～-49,880。

重複関係：なし。

方向：N-20°-E。

規模と形状：不整楕円形状を呈する。北辺と東辺に小規模な掘り込みがみられる。長さ1.65m・幅1.65m・深さ0.32m。浅い。

埋土：上層暗褐色土、下層鈍い黄褐色土。 **遺物：**なし。

時期：不明。

(42)42号土坑(第40図、PL.24)

位置：IV-3調査区のほぼ中央部。38号土坑の北東側、55号ピットの西側に位置する。X=29,586～29,588、Y=-49,856。

重複関係：中央部を若干攪乱されている。

方向：N-10°-E。

規模と形状：南北に長い隅丸長方形形状を呈する。先述したように、このようなスタイルをとる土坑はIV-4調査区でも他に4基が検出されており、さらにIV-1、IV-2調査区でも検出されており、形状から見て伸展葬の墓墳である可能性も考えられるが、出土遺物や埋土の状況からは、墓らしい痕跡はいずれにしても検出することは出来なかった。不整楕円形状を呈する。北辺と東辺に小規模な掘り込みがみられる。長さ1.73m・幅0.4m・深さ0.2m。浅い。

埋土：暗褐色土。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(43)43号土坑(第40図、PL.24)

位置：IV-3調査区の西寄り。南端。38号土坑の南側、63号ピットの南東側に位置する。X=29,583～29,585、Y=-49,858～-49,859。

重複関係：なし。

規模と形状：南側が調査区外に出るため、全容は不明であるが、南北に長い不整楕円形状を呈するものと思われる。検出長1.95m・幅1.85m・深さ0.6m。

埋土：上層灰黄褐色土、下層暗褐色土。 **遺物：**なし。

時期：不明。

(44)44号土坑(第40図、PL.24)

位置：IV-2調査区の中央部からやや南東寄り。X=

29,610～29,611、Y=-49,847～-49,848。

重複関係：なし。

方向：N-2°-E。

規模と形状：南北に長い不整楕円形状を呈する。長さ0.99m・幅0.72m・深さ0.12m。浅い。

埋土：暗褐色土。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(45)45号土坑(第40図)

位置：IV-2調査区の北東端部。70号ピットの東側。X=29,813～29,814、Y=-49,846。

重複関係：13号井戸に掘り込まれる。

方向：N-2°-E。

規模と形状：東側と北側が調査区外に出、南西隅部を13号井戸に掘り込まれ、破壊されるため、全容は不明である。検出長1.22m・検出幅0.55m・深さ0.25m。浅い。

埋土：上層暗褐色土、下層明黄褐色土。

遺物：なし。 **時期：**不明。

2. 井戸

IV区では13基の井戸が検出されている。IV-1調査区で3基、IV-2調査区で2基、IV-3調査区で7基、IV-4調査区で1基であった。なお、IV-5調査区で検出された1号礎石も井戸である可能性がある。

本遺跡では、昨年度に報告したI区を含めて、すべての調査区において井戸が検出されている。とりわけ、このIV区では、昨年度報告したI区を含めて、検出された井戸の数は、本遺跡で最多である。

IV区で検出されたのは、II区で検出されたのと同様、いずれも素堀の井戸であり、また、径も比較的小さかったことや、現状で、いずれも交通量が激しい道路に面した箇所での調査であり、調査区が民家とも隣接していたため、安全を最優先し、底面までの完掘はいずれも断念せざるを得なかった。

なお、III区で検出された井戸同様、本調査区において検出された井戸の多くは、出土遺物から中世のものと思われる。

(1)1号井戸(第40・116図、PL.24)

位置：IV-3調査区的最西端、南壁と西壁に掛かる。2号井戸の南側、15～19号ピットの西側に位置する。

X=29.586～29.587、Y=-49.865～49.866。

重複関係：なし。

規模と形状：西側と南側とが大きく調査区外に出ているので、全容は不明である。検出長0.92m・検出幅0.88m・調査深度約1.4m。

埋土：上層褐色土、中層黒褐色土、壁際褐色土。遺物：古瀬戸陶器緑釉小皿1点、常滑陶器甕片2点。時期：中世。

(2) 2号井戸(第40図、PL.24)

位置：IV-3 調査区の最西端、北壁に掛かる。1号井戸、15号ピットの北側に位置する。X=29,587～29,588、Y=-49,865～-49,866。

重複関係：なし。

規模と形状：北側と南側とが大きく調査区外に出ているので、全容は不明である。検出長1.7m・検出幅0.3m・調査深度約0.85m。

埋土：上層暗褐色土、中層黄褐色土、壁際黒褐色土。遺物：なし。時期：不明。

(3) 3号井戸(第41・116図、PL.24)

位置：IV-1 調査区の北端寄り。29号ピットのすぐ東側に隣接する。X=29,630～29,631、Y=-49,844～-49,845。

重複関係：なし。

規模と形状：東西にやや長い不整楕円形状を呈する。長さ1.04m・幅0.98m・調査深度約0.75m。

埋土：上層褐色土、中層灰黄褐色土・暗褐色土。遺物：常滑陶器甕片1点、平瓦片1点。時期：中世。

(4) 4号井戸(第41・116図、PL.24)

位置：IV-1 調査区の南東端。13号土坑の南側に近接する。X=29,624～29,625、Y=-49,843～-49,844。

重複関係：なし。

規模と形状：東南及び東側大部分が調査区外に出るため全容は不明である。検出長1.04m・検出幅0.4m・調査深度約0.8m。

埋土：上層灰黄褐色土・暗褐色土、中層暗褐色土。遺物：常滑陶器甕片3点。時期：中世。

(5) 5号井戸(第41図、PL.21)

位置：IV-1 調査区の中央部より南寄りに位置する。X=29,606～29,607、Y=-49,844～-49,845。

重複関係：11号土坑を掘り込む。12号土坑に北東辺を掘り込まれる。東辺を31号ピットに掘り込まれる。

規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。長さ0.9m・幅0.88m・調査深度約0.8m。

埋土：上層鈍い黄褐色土・黄褐色土、中層暗褐色土。遺物：なし。時期：不明。

(6) 6号井戸(第41・117図、PL.24)

位置：IV-3 調査区の最北西端、西壁に掛かる。42号ピットの北側に位置する。X=29,597～29,599、Y=-49,851～-49,852。

重複関係：なし。

規模と形状：西側が大きく調査区外に出ているので、全容は不明であるが、楕円形状を呈するものと思われる。検出長2.2m・検出幅0.88m・調査深度約0.75m。

埋土：上層暗褐色土、中層黒褐色土。遺物：常滑陶器甕片1点、平瓦片3点。時期：中世。

(7) 7号井戸(第41・117図、PL.24)

位置：IV-3 調査区の北端寄りの位置。21・23～25号土坑の東側に位置する。X=29,593～29,596、Y=-49,850～-49,851。

重複関係：22号土坑を掘り込む。26号土坑に南側を大きく掘り込まれる。

規模と形状：東側が大きく調査区外に出ているので、全容は不明であるが、南北に長い楕円形状を呈するものと思われる。検出長2.5m・検出幅1.14m・調査深度約0.45m。

埋土：上層暗褐色土、壁際灰黄褐色土。遺物：砥石1点。時期：不明。

(8) 8号井戸(第41・117図、PL.25)

位置：IV-3 調査区の中央部より東寄りの北壁際。32号土坑のすぐ東側に、44・46・59号ピットのすぐ北側に、54号ピットのすぐ西側に隣接する。X=29,591～29,592、Y=-49,854～-49,855。

重複関係：40号土坑を掘り込む。

規模と形状：北側が大きく調査区外に出てしまっている
ので、全容は不明であるが不整楕円形状を呈するもの
と思われる。検出長2.16m・検出幅0.78m・調査深度約
0.45m。

埋土：上層暗褐色土、壁際灰黄褐色土。

遺物：肥前磁器染付丸碗1点、砥石1点。 **時期：**近代。

(9) 9号井戸(第42図、PL.25)

位置：IV-4調査区の最西端。14号土坑の西側に位置
する。IV-4区で検出された唯一の井戸である。X =
29,595 ~ 29,596、Y = -49,890 ~ -49,891。

重複関係：34号土坑を掘り込む。3号礎石に掘り込ま
れる。

規模と形状：西辺が調査区外に出てしまっている
ので、全容は不明であるが概ね不整形形状を呈するもの
と思われる。検出長0.9m・検出幅0.88m・調査深度約0.98m。

埋土：上層灰黄褐色土、中層黒褐色土・鈍い黄褐色土。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(10) 10号井戸(第42・117図、PL.25)

位置：IV-3調査区の中央部、南壁際。58号ピットの
すぐ西側に隣接する。X = 29,586 ~ 29,587、Y = -49,853
~-49,854。

重複関係：なし。

規模と形状：南側が調査区外に出てしまっている
ので、全容は不明であるが概ね不整形形状を呈するもの
と思われる。検出長0.84m・検出幅0.6m・調査深度約0.9m。

埋土：上層黄褐色土、中層鈍い黄褐色土。 **遺物：**在地
系土器片口鉢片1点。 **時期：**中世。

(11) 11号井戸(第42・117図、PL.25)

位置：IV-3調査区の中央部、北壁際。32号土坑の
すぐ西側に隣接する。X = 29,589 ~ 29,590、Y = -49,857
~-49,859。

重複関係：なし。

規模と形状：北側が調査区外に出てしまっている
ので、全容は不明であるが、南北に長い不整楕円形状を
呈するものと思われる。検出長1.34m・検出幅1.68m・
調査深度約1.05m。

埋土：上層暗褐色土・褐色土、中層黒褐色土。 **遺物：**

瀬戸・美濃陶器腰鍔茶碗片1点、常滑陶器甕片1点、平
瓦片1点。 **時期：**中世。

(12) 12号井戸(第42・118図、PL.25)

位置：IV-2調査区の南寄りの位置、西壁際。44号土坑
の西側に位置する。X = 29,610 ~ 29,611、Y = -49,848
~-49,849。

重複関係：なし。

規模と形状：西側が調査区外に出てしまっている
ので、全容は不明であるが、不整楕円形状を呈するもの
と思われる。検出長1.6m・検出幅1m・調査深度約1.1m。

埋土：上層暗褐色土・明黄褐色土、中層灰黄褐色土。

遺物：瀬戸・美濃磁器小碗片1点、古瀬戸陶器盤類片1
点、常滑陶器甕か壺片1点、在地系土器皿片1点。 **時
期：**近代。

(13) 13号井戸(第42・118図、PL.25)

位置：IV-2調査区の北端。70号ピットのすぐ南
側、72号ピットのすぐ東側に隣接する。X = 29,612 ~
29,614、Y = -49,846 ~ -49,848。

重複関係：48号土坑の南西隅を掘り込む。71号ピットに
北西隅を掘り込まれる。

規模と形状：東西に長い不整楕円形状を呈する。長さ2.22
m・幅1.64m・調査深度約0.65m。

埋土：上層暗褐色土・明黄褐色土、中層灰黄褐色土。埋
土中に多量の川原石大の礫の混入がみられた。埋め戻し
の際に入れられたものか。 **遺物：**在地系土器火鉢片1
点。 **時期：**近世末期。

3. 溝

IV区では4条の溝が検出されている。IV-1調査区か
ら1条、IV-4調査区から1条、IV-5調査区から2条
である。II区で検出されたII区8号溝のような調査区を
越えて検出されたような大規模な溝は、IV区では全く検
出できなかった。

いずれも幅が短く、浅い小規模な溝である。また、I
~III区で検出された溝同様、調査できた範囲が小さく、
詳細は明らかに出来なかった。いずれの類例においても、
水が流れた痕跡はなく、用水路のようなものではなく、
何らかの区画をするための溝であった可能性が高い。

(1) 1号溝(第43図、PL.26)

位置:IV-5調査区のほぼ中央を南北方向に流れる。2・3号ピットの西側に近接する。X=29,602~29,603、Y=-49,906~-49,907。

重複関係:1号ピットを掘り込む。

規模と形状:南北方向に流れる浅い溝。南北両端は調査区外に出る。検出長1.5m・幅0.6m・深さ0.45m。

埋土:上層灰黄褐色土、中層暗褐色土・鈍い黄褐色土、下層褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**不明。

(2) 2号溝(第43図、PL.26)

位置:IV-5調査区の南東隅を東西方向に流れる。7号ピットのすぐ南側に隣接する。X=29,600~29,601、Y=-49,903~-49,905。

重複関係:なし。

規模と形状:東西方向に流れる浅い溝。南側及び東側が調査区外に出る。検出長2.6m・検出幅0.38m・深さ0.42m。

埋土:上層灰黄褐色土・鈍い黄褐色土、下層鈍い黄褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**不明。

(3) 3号溝(第43図、PL.26)

位置:IV-1調査区の南寄りの位置を東西方向に流れる。10号土坑のすぐ北側、7号土坑のすぐ南側に隣接する。X=29,622、Y=-49,845~-49,846。

重複関係:東端を9号土坑に掘り込まれる。

規模と形状:東西方向に流れる浅い溝。西側が調査区外に出る。東側を9号土坑に掘り込まれる。9号土坑を越えてさらに東側には延びてはいない。9号土坑と交差する位置で止まるか。検出長0.7m・幅0.46m・深さ0.42m。

埋土:鈍い黄褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**近世末期。

(4) 4号溝(第43図、PL.26)

位置:IV-4調査区の中央部を南北方向に流れる。5号礎石の西側、17号土坑の東側に近接する。X=29,593~29,594、Y=-49,884。

重複関係:16号土坑の中央部を南北に掘り込む。

規模と形状:南北方向に流れる浅い溝。南北両端が調査区外に出る。検出長1.7m・幅0.5m・深さ0.1m。

埋土:鈍い黄褐色土。 **遺物:**なし。 **時期:**近世末期。

4. ピット

IV区では72基のピットが検出されている。I区で44基、II区で14基、III区で30基が検出されているから、その多さがわかる。いずれも用途不明の小穴である。検出されたのは、IV-1調査区から13基、IV-2調査区から4基、IV-3調査区から39基、IV-4調査区から9基、IV-5調査区から7基である。

(1) 1号ピット(第35図)

位置:IV-5調査区のほぼ中央部から南寄りに位置する。2~4号ピットの西側。X=29,602、Y=-49,906~-49,907。

重複関係:西側を1号溝に掘り込まれる。

規模と形状:東西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.34m・短径0.264m・深さ約0.2m。

遺物:なし。 **時期:**不明。

(2) 2号ピット(第35図)

位置:IV-5区のほぼ中央部から東寄りに位置する。3号ピットのすぐ北側、2号礎石のすぐ南側に隣接する。X=29,602、Y=-49,906。

重複関係:なし。

規模と形状:不整隅丸正方形形状を呈する。径0.26m・深さ約0.17m。

遺物:なし。 **時期:**不明。

(3) 3号ピット(第35・118図)

位置:IV-5区のほぼ中央部から東寄りに位置する。2号ピットのすぐ南側、4号ピットのすぐ北西側に隣接する。X=29,602、Y=-49,906。

重複関係:なし。

規模と形状:東西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.45m・短径0.36m・深さ約0.49m。しっかりとした掘方を有する。

遺物:在地系土器皿1点。 **時期:**近世。

(4) 4号ピット(第35図、PL.26)

位置:IV-5調査区のほぼ中央部、東南寄りの南壁際に位置する。3号ピットのすぐ南東側、2号溝のすぐ西側

に隣接する。X=29,601、Y=-49,906。

重複関係：なし。

規模と形状：南辺が調査区外に出る。東西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.58m・短径0.5m・深さ約0.54m。しっかりとした掘方を有する。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(5) 5号ピット(第35図、PL.26)

位置：IV-5調査区の東寄り、北壁際に位置する。2号溝の北側に位置する。X=29,602、Y=-49,904～-49,905。

重複関係：なし。

規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。長径0.42m・短径0.38m・深さ0.26m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(6) 6号ピット(第35図、PL.27)

位置：IV-5調査区の東北端部、北壁際に位置する。7号ピットのすぐ北側に隣接する。X=29,601、Y=-49,903。

重複関係：なし。

規模と形状：南東-北西方向に長い不整形形状を呈する。長径0.32m・短径0.3m・深さ0.35m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(7) 7号ピット(第43図、PL.27)

位置：IV-5調査区の東北端部、東壁際に位置する。2号溝のすぐ北側に隣接する。X=29,600～29,601、Y=-49,903。

重複関係：なし。

規模と形状：南東-北西方向に長い不整形形状を呈する。長径0.45m・短径0.3m・深さ0.4m。

埋土：上層暗褐色土、下層鈍い黄褐色土。 **遺物：**なし。
時期：不明。

(8) 8号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の西端部付近に位置する。20号ピットのすぐ西側、10号ピットのすぐ南側に隣接する。X=29,55～29,586、Y=-49,863～-49,864。

重複関係：なし。

規模と形状：8～20号ピットは、IV-4区の西端のブロックに集中して存在するピット群であるが、まとまって存在しているにもかかわらず、建物の柱痕であるような兆候は全く見いだすことが出来なかった。南北に長い不整形楕円形状を呈する。長径0.42m・短径0.32m・深さ0.53m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(9) 9号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の西端部付近に位置する。20号ピットのすぐ北側、10号ピットのすぐ東側に隣接する。X=29,586、Y=-49,863。

重複関係：4号土坑に掘り込まれる。

規模と形状：東側を4号土坑に大きく掘り込まれているため、全容は不明である。検出長径0.24m・検出短径0.16m・深さ0.08m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(10) 10号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の西端部付近に位置する。8号ピットのすぐ北側、9号ピットのすぐ西側、12号ピットに隣接する。X=29,586、Y=-49,863。

重複関係：なし。

規模と形状：南北に長い楕円形状を呈する。長径0.42m・短径0.35m・深さ0.45m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(11) 11号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の西端部付近に位置する。4号土坑のすぐ西側、9号ピットの北側、10号ピットの北東側に近接する。X=29,586、Y=-49,863。

重複関係：なし。

規模と形状：ほぼ円形状を呈する。径0.2m・深さ0.45m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(12) 12号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の西端部付近に位置する。10号ピットのすぐ西側に隣接する。X=29,586、Y=-49,864。

重複関係：なし。

規模と形状：北東－南西方向に長い楕円形状を呈する。

長径0.32m・短径0.28m・深さ0.57m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(13)13号ピット(第34図)

位置：IV－3調査区の西端部付近に位置する。1・3号土坑のすぐ西側、14号ピットのすぐ南側に隣接する。X=29,587、Y=-49,864。

重複関係：なし。

規模と形状：東西に長い不整楕円形状を呈する。長径0.22m・短径0.2m・深さ0.31m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(14)14号ピット(第34図)

位置：IV－3調査区の西端部付近の北壁際に位置する。1号土坑のすぐ西側、13号ピットのすぐ北側に隣接する。X=29,587、Y=-49,864。

重複関係：なし。

規模と形状：東西に長い不整楕円形状を呈する。長径0.28m・短径0.24m・深さ0.12m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(15)15号ピット(第34図)

位置：IV－3調査区の西端部付近に位置する。18・19号ピットのすぐ北側に隣接し、1号井戸の東側に近接する。X=29,587、Y=-49,864。

重複関係：なし。

規模と形状：南北に長い楕円形状を呈する。長径0.3m・短径0.2m・深さ0.3m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(16)16号ピット(第34図)

位置：IV－3調査区の西端部付近に位置する。18・19号ピットの南側、17号ピットの北側に近接し、1号井戸の東側に位置する。X=29,586、Y=-49,865。

重複関係：なし。

規模と形状：北東－南西方向にやや長い楕円形状を呈する。長径0.22m・短径0.18m・深さ0.32m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(17)17号ピット(第34図)

位置：IV－3調査区の西端部付近の南壁際に位置する。16号ピットの南側、1号井戸の東側に位置する。X=29,585～29,586、Y=-49,865。

重複関係：なし。

規模と形状：東西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.26m・短径0.2m・深さ0.21m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(18)18号ピット(第34図)

位置：IV－3調査区の西端部付近、15号ピットのすぐ南側、16号ピットのすぐ北側に隣接する。X=29,586、Y=-49,865。

重複関係：西側を19号ピットに掘り込まれる。

規模と形状：東西に長い楕円形状を呈する。検出長径0.3m・検出短径0.24m・深さ0.11m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(19)19号ピット(第34図)

位置：IV－3調査区の西端部付近、15号ピットのすぐ南側、16号ピットのすぐ北側に隣接する。X=29,586、Y=-49,865。

重複関係：18号ピットの西側を掘り込む。

規模と形状：不整円形状を呈する。径0.28m・深さ0.28m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(20)20号ピット(第34図)

位置：IV－3調査区の西端部付近、4号土坑、9号ピットのすぐ南側、8号ピットのすぐ東側に隣接する。X=29,586、Y=-49,863。

重複関係：なし。

規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。長径0.3m・短径0.28m・深さ0.28m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(21)21号ピット(第34図・PL.27)

位置：IV－1調査区の南西端部付近、8号土坑のすぐ南側に隣接し、13号土坑の西側に位置する。X=29,525、Y=-49,846。

重複関係：なし。

規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。21～33号ピットは、いずれもIV-1調査区で検出されており、21・28・29・32号ピットを除いては、いずれも調査区の南東寄りに位置しているが、建物の柱穴を構成するような要素は全く発見できなかった。長径0.24m・短径0.22m・深さ0.28m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(22)22号ピット(第34図・PL.27)

位置：IV-1調査区の南寄りの位置。11号土坑のすぐ東側、13号土坑のすぐ北側、23号ピットのすぐ南側に隣接する。X=29,626、Y=-49,844。

重複関係：なし。

規模と形状：東西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.26m・短径0.24m・深さ0.3m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(23)23号ピット(第34図・PL.27)

位置：IV-1調査区の南寄りの位置。30号ピットのすぐ南西側、13号土坑のすぐ北側、23号ピットのすぐ南側に隣接する。X=26,626、Y=-49,844。

重複関係：11号土坑を掘り込む。

規模と形状：東西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.42m・短径0.3m・深さ0.38m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(24)24号ピット(第34図・PL.27)

位置：IV-1調査区の南寄りの位置。31号ピットのすぐ西側、9号土坑のすぐ東側に隣接する。X=26,627、Y=-49,844～-49,845。

重複関係：5号井戸を掘り込む。

規模と形状：北東-南西方向にやや長い楕円形状を呈する。長径0.32m・径0.22m・深さ0.21m。

遺物：なし。 **時期：**近世末期。

(25)25号ピット(第34図・PL.27)

位置：IV-1調査区の南東寄りの位置、東壁際。12号土坑・26号ピットのすぐ東側に隣接する。X=26,627、Y=-49,843。

重複関係：なし。

規模と形状：北西-南東方向にやや長い楕円形状を呈する。長径0.42m・短径0.35m・深さ0.3m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(26)26号ピット(第34図・PL.27)

位置：IV-1調査区の南東寄りの位置。12号土坑の南東に近接し、25号ピットのすぐ南西側に、33号ピットのすぐ北東側に隣接する。X=26,626～26,627、Y=-49,843。

重複関係：なし。

規模と形状：北東-南西方向にやや長い楕円形状を呈する。長径0.42m・短径0.35m・深さ0.3m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(27)27号ピット(第34図・PL.27)

位置：IV-1調査区の南東寄りの位置。4号井戸の北に位置する。X=26,625、Y=-49,844。

重複関係：なし。

規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。長径0.3m・短径0.2m・深さ0.2m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(28)28号ピット(第34図)

位置：IV-1調査区の北西隅付近。2号土坑のすぐ南東側、29号ピットのすぐ北側に隣接する。X=26,631、Y=-49,845。

重複関係：なし。

規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。長径0.3m・短径0.24m・深さ0.29m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(29)29号ピット(第34図)

位置：IV-1調査区の北西隅付近。3号井戸のすぐ西側、28号ピットのすぐ南側に隣接する。X=26,630～26,631、Y=-49,845。

重複関係：なし。

規模と形状：不整楕円形状を呈する。長径0.24m・短径0.22m・深さ0.39m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(30)30号ピット(第34図・PL.27)

位置：IV-1 調査区の南東部。33号ピットのすぐ南側、23号ピットのすぐ北東側に隣接する。X=26,625、Y=-49,844。

重複関係：なし。

規模と形状：東西に長い不整形楕円形状を呈する。長径0.46m・短径0.28m・深さ0.35m。

遺物：なし。 時期：不明。

(31)31号ピット(第34図・PL.37)

位置：IV-1 調査区の南東部。24号ピットのすぐ東側、33号ピットのすぐ西側に隣接する。X=26,626～26,627、Y=-49,844。

重複関係：5号井戸を掘り込む。

規模と形状：東西に長い不整形楕円形状を呈する。長径0.46m・短径0.28m・深さ0.35m。

遺物：なし。 時期：不明。

(32)32号ピット(第34図)

位置：IV-1 調査区の中央よりやや北寄りの位置。西壁際。1号土坑の北側、5号土坑の南側に位置する。X=26,629～26,630、Y=-49,845。

重複関係：6号土坑を掘り込む。

規模と形状：南北に若干長い楕円形形状を呈する。長径0.24m・短径0.22m・深さ0.37m。

遺物：なし。 時期：不明。

(33)33号ピット(第34図)

位置：IV-1 調査区の南東部。23号ピットのすぐ北側に接し、26号ピットのすぐ西側に、31号ピットのすぐ東側に隣接する。X=26,626、Y=-49,844。

重複関係：なし。

規模と形状：南東-北西方向に長い不整形楕円形状を呈する。長径0.28m・短径0.26m・深さ0.44m。

遺物：なし。 時期：不明。

(34)34号ピット(第43図、PL.27)

位置：IV-4 調査区の中央部よりやや東寄りの位置。北壁際。X=26,593、Y=-49,881。

重複関係：東側を35号ピットに掘り込まれる。

規模と形状：不整形。検出長径0.4m・検出短径0.2m・深さ0.47m。

埋土：上層褐色土、下層暗褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(35)35号ピット(第43図)

位置：IV-4 調査区の中央部よりやや東寄りの位置。北壁際。X=26,593、Y=-49,881。

重複関係：35号ピットの東側を掘り込む。

規模と形状：不整形。検出長径0.4m・検出短径0.2m・深さ0.4m。

埋土：上層褐色土、下層鈍い黄褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(36)36号ピット(第43図、PL.27)

位置：IV-4 調査区の中央部よりやや東寄りの位置。南壁際。37号ピットのすぐ南側、19号土坑のすぐ東側に隣接する。X=26,592、Y=-49,881。

重複関係：なし。

規模と形状：南側大半が調査区外に出るため全容は不明である。検出長径0.3m・検出短径0.3m・深さ0.4m。

遺物：なし。 時期：不明。

(37)37号ピット(第43図、PL.28)

位置：IV-4 調査区の中央部よりやや東寄りの位置。南壁寄り。36号ピットのすぐ北側、19号土坑のすぐ西側に隣接する。X=26,592、Y=-49,881。

重複関係：なし。

規模と形状：北西-南東方向にやや長い楕円形状を呈する。検出長径0.4m・検出短径0.3m・深さ0.4m。

埋土：暗褐色土、底部に褐色土塊を含む。 遺物：なし。 時期：不明。

(38)38号ピット(第43図、PL.28)

位置：IV-4 調査区の中央部より東寄りの位置。北壁際。39号ピットのすぐ北側、15号土坑のすぐ東側、20号土坑のすぐ北西側に隣接する。X=26,593、Y=-49,880。

重複関係：なし。

規模と形状：北側が調査区外に出るため全容は不明である。検出長径0.3m・検出短径0.25m・深さ0.22m。

遺物：なし。 時期：不明。

(39)39号ピット(第44図、PL.28)

位置：IV-4調査区の中央部より東寄りの位置。北壁寄り。38号ピットのすぐ南側、15号土坑のすぐ東側、20号土坑のすぐ西側に隣接する。X=26,592、Y=-49,880。

重複関係：なし。

規模と形状：南東-北西方向にやや長い楕円形状を呈する。検出長径0.3m・検出短径0.25m・深さ0.17m。

埋土：鈍い黄褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(40)40号ピット(第44・118図、PL.28)

位置：IV-3調査区の北東端部寄りの位置。西壁際。41号ピットのすぐ南側に隣接する。X=26,594～26,595、Y=-49,853。

重複関係：なし。

規模と形状：IV-3調査区北東端部の西壁にかかって南北に3基並ぶ40号～42号ピットは、いずれも西側が調査区外に出るため形状の全容は不明であるが、検出された範囲においては東西に長い長楕円形状を呈しており、一見するとあたかも畝の柵のように見えなくもないが、そうだとすると連続性に乏しい。検出長径0.7m・検出短径0.55m・深さ0.4m。

埋土：上層暗黄褐色土、下層暗褐色土。 遺物：在地系土器大鉢片1点。 時期：近世。

(41)41号ピット(第44・118図、PL.28)

位置：IV-3調査区の北東端部寄りの位置。西壁際。40号ピットのすぐ北側、42号ピットのすぐ南側に隣接する。X=26,595、Y=-49,853。

重複関係：なし。

規模と形状：西側が調査区外に出るため形状の全容は不明であるが、検出された範囲においては東西に長い長楕円形状を呈する。検出長径0.45m・検出短径0.45m・深さ0.47m。

埋土：上層暗黄褐色土、下層暗褐色土。 遺物：軒丸瓦片1点。 時期：近世。

(42)42号ピット(第44図、PL.28)

位置：IV-3調査区の北東端部寄りの位置。西壁際。41

号ピットのすぐ北側に隣接し、6号井戸の南側に位置する。X=26,596、Y=-49,852～-49,853。

重複関係：なし。

規模と形状：西側が調査区外に出るため全容は不明であるが、検出された範囲においては東西に長い長楕円形状を呈する。検出長径0.8m・検出短径0.4m・深さ0.2m。

埋土：褐色土。 遺物：なし。 時期：不明。

(43)43号ピット(第44図)

位置：IV-4調査区の東端部。X=26,590～26,591、Y=-49,876。

重複関係：なし。

規模と形状：東西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.46m・短径0.47m・深さ0.45m。

埋土：上層褐色土。中央部に黒褐色土の陥入あり。下層鈍い黄褐色土。本遺跡で検出されたピットの中では、63号ピットとならんでただ二つ柱穴状の土層堆積状況を呈する。中央部に縦に陥入する黒褐色土が柱痕となるか。ただし、本ピットを柱穴と見ると周辺には他に対応する柱穴がない。 遺物：なし。 時期：不明。

(44)44号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の中央部より北東寄り。32号土坑のすぐ東側、8号井戸のすぐ南側、59号ピットのすぐ西側に隣接する。X=26,600、Y=-49,856。

重複関係：なし。 規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。長径0.32m・短径0.26m・深さ0.25m。

遺物：なし。 時期：不明。

(45)45号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の中央部より東寄り。46号ピットのすぐ南東側、48号ピットのすぐ南西側に隣接する。本45号ピットから53号ピットまでは、IV-3区の中央部から東寄りの位置に集中する比較的小規模なピットである。まとまって存在するが、いずれも建物を構成する柱穴とは考えられない。X=26,601、Y=-49,854。

重複関係：40号土坑を掘り込む。

規模と形状：楕円形状を呈する。長径0.22m・短径0.2m・深さ0.24m。

遺物：なし。 時期：不明。

(46)46号ピット(第34図)

位置：Ⅳ-3調査区の中央部より東寄り。8号井戸のすぐ東側、45号ピットのすぐ北西側、48号ピットのすぐ南西側に隣接する。X=26,601、Y=-49,854。

重複関係：なし。

規模と形状：東西に長い楕円形状を呈する。長径0.36m・短径0.26m・深さ0.2m。

遺物：なし。 時期：不明。

(47)47号ピット(第34図)

位置：Ⅳ-3調査区の中央部より東寄り。48号ピットのすぐ東側に隣接する。X=26,601、Y=-49,853。

重複関係：なし。

規模と形状：東西に長い楕円形状を呈する。長径0.2m・短径0.18m・深さ0.25m。

遺物：なし。 時期：不明。

(48)48号ピット(第34図)

位置：Ⅳ-3調査区の中央部より東寄り。47号ピットのすぐ西側に隣接する。X=26,601、Y=-49,853～-49,854。

重複関係：なし。

規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。長径0.3m・短径0.2m・深さ0.21m。

遺物：なし。 時期：不明。

(49)49号ピット(第34図)

位置：Ⅳ-3調査区の中央部より東寄り。33・35号土坑のすぐ北側に隣接する。X=26,600、Y=-49,853。

重複関係：なし。

規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。長径0.36m・短径0.3m・深さ0.28m。

遺物：なし。 時期：不明。

(50)50号ピット(第34図)

位置：Ⅳ-3調査区の中央部より東寄り。X=26,600、Y=-49,852。

重複関係：なし。

規模と形状：北西-南東方向にやや長い隅丸長方形形状を呈する。長径0.42m・短径0.36m・深さ0.25m。

遺物：なし。 時期：不明。

(51)51号ピット(第34図)

位置：Ⅳ-3調査区の中央部より東寄り。北壁際。8号井戸のすぐ東側に隣接する。X=26,600、Y=-49,852。

重複関係：なし。

規模と形状：北西-南東方向にやや長い隅丸長方形形状を呈する。長径0.42m・短径0.36m・深さ0.25m。

遺物：なし。 時期：不明。

(52)52号ピット(第34図)

位置：Ⅳ-3調査区の東北寄り。東壁にかかる。29号土坑の西側に位置する。X=26,600、Y=-49,852。

重複関係：なし。

規模と形状：北西側が調査区外に出るため、全容は不明である。検出長径0.53m・検出短径0.18m・深さ0.72m。しっかりと掘方を有する。

遺物：なし。 時期：不明。

(53)53号ピット(第34図)

位置：Ⅳ-3調査区の東北寄り。29号土坑の西側に位置する。X=26,593、Y=-49,853。

重複関係：なし。

規模と形状：南北にやや長い隅丸長方形形状を呈する。長径0.16m・短径0.15m・深さ0.11m。

遺物：なし。 時期：不明。

(54)54号ピット(第34図)

位置：Ⅳ-3調査区の中央部からやや東寄りの位置。36号土坑のすぐ東側に隣接する。54～59号土坑は、Ⅳ-3調査区の中央部に点在する。45～53号ピットよりもさらに調査区の中央部に近い位置である。これらのピットも建物の柱穴を構成するような要素は見いだすことが出来なかった。X=26,589、Y=-49,856。

重複関係：なし。

規模と形状：北西-南東方向にやや長い楕円形状を呈する。長径0.4m・短径0.26m・深さ0.46m。

遺物：なし。 時期：不明。

(55)55号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の中央部からやや東寄りの位置。42号土坑の東側、37号土坑の南側に近接する。X=26,588、Y=-49,855。

重複関係：なし。

規模と形状：東西に長い楕円形状を呈する。長径0.35m・短径0.25m・深さ0.5m。しっかりとした掘方を有する。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(56)56号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の中央部からやや東寄りの位置。33・35号土坑の南側、37号ピットのすぐ西側に隣接する。X=26,588、Y=-49,855。

重複関係：なし。

規模と形状：不整形形状を呈する。長径0.38m・短径0.32m・深さ0.39m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(57)57号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の中央部からやや東寄りの位置。33・35号土坑の南側、36号ピットのすぐ東側に隣接する。X=26,588、Y=-49,854。

重複関係：なし。

規模と形状：北東-南西方向にやや長い楕円形状を呈する。長径0.56m・短径0.5m・深さ0.13m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(58)58号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の中央部からやや東寄りの位置。南東壁際。39号土坑のすぐ南西側に接し、10号井戸のすぐ東側に隣接する。X=26,588、Y=-49,853~-49,854。

重複関係：なし。

規模と形状：北東-南西方向にやや長い楕円形状を呈する。長径0.48m・短径0.4m・深さ0.52m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(59)59号ピット(第34図)

位置：IV-3調査区の中央部からやや東寄りの位置。北壁寄り。8号井戸のすぐ南側、36号土坑のすぐ北側、44号ピットのすぐ東側に隣接する。X=26,600、Y=-

49,855。

重複関係：なし。

規模と形状：東西に長い楕円形状を呈する。長径0.42m・短径0.22m・深さ0.3m。

遺物：なし。 **時期：**不明。

(60)60号ピット(第44図、PL.28)

位置：IV-4調査区のほぼ中央部。北壁にかかる。5号礎石の北側に位置する。60~62号ピットは、いずれもIV-4調査区の北壁にかかる位置で検出された。X=26,595、Y=-49,887。

重複関係：なし。

規模と形状：北側が調査区外に出るため、全容は不明である。検出長径0.5m・検出短径0.14m・深さ0.47m。

埋土：上層灰黄褐色土、下層鈍い黄褐色土。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(61)61号ピット(第44図、PL.28)

位置：IV-4調査区の中央部から西寄りの位置。北壁にかかる。62号ピットのすぐ東側、4号礎石のすぐ北側に隣接する。X=26,595、Y=-49,886~-49,887。

重複関係：なし。

規模と形状：北側が調査区外に出るため、全容は不明である。検出長径0.38m・検出短径0.26m・深さ0.43m。

埋土：鈍い黄褐色土。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(62)62号ピット(第44図、PL.28)

位置：IV-4調査区の中央部から西寄りの位置。北壁にかかる。61号ピットのすぐ西側、4号礎石のすぐ北側に隣接する。X=26,595、Y=-49,887。

重複関係：なし。

規模と形状：北側が調査区外に出るため、全容は不明である。検出長径0.6m・検出短径0.2m・深さ0.42m。

埋土：鈍い黄褐色土。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(63)63号ピット(第44図、PL.28)

位置：IV-3調査区の中央部から西寄りの位置。南西壁際。42号土坑、65号ピットの西側に位置する。本ピットでは、43号ピット同様、柱穴状の土層堆積が検出できた。ただし、本ピットと対になって建物の柱穴を構成す

第3章 調査の成果

るようなピットは、周囲では全く検出されなかった。63～68号ピットは、いずれもIV-3調査区の中央部から西寄りにかけての地域に点在する。本遺跡から発見されたピット群の中では、これらの中には珍しく比較的大型のものが少なくない、それらの用途・機能が明らかに出来たものはない。X=26,584、Y=-49,887。

重複関係：なし。

規模と形状：南北に長い楕円形状を呈する。長径0.3m・短径0.25m・深さ0.52m。

埋土：柱痕層黒褐色土、埋土層鈍い黄褐色土、壁際層暗褐色土。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(64)64号ピット(第44図、PL.28)

位置：IV-3調査区の中央部から西寄りの位置。北西壁際。41号土坑の北西側に位置する。X=26,588、Y=-49,860。

重複関係：なし。

規模と形状：北東-南西方向にやや長い不整楕円形状を呈する。長径0.58m・短径0.43m・深さ0.65m。しっかりと掘方を有する。

埋土：褐色土。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(65)65号ピット(第44図、PL.28)

位置：IV-3調査区の中央部から南西寄りの位置。43号土坑のすぐ東側に隣接する。X=26,588、Y=-49,860。

重複関係：なし。

規模と形状：北東-南西方向にやや長い不整楕円形状を呈する。長径0.58m・短径0.43m・深さ0.65m。しっかりと掘方を有する。

埋土：暗褐色土。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(66)66号ピット(第44図、PL.28)

位置：IV-3調査区の中央部からやや西寄りの位置。X=26,587～26,589、Y=-49,857～-49,858。

重複関係：なし。

規模と形状：東西にやや長い不整楕円形状を呈する。長径0.3m・短径0.25m・深さ0.38m。

埋土：暗褐色土。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(67)67号ピット(第44図、PL.28)

位置：IV-3調査区のほぼ中央部。43号土坑のすぐ西側に隣接する。X=26,588、Y=-49,856。

重複関係：なし。

規模と形状：不整円形状を呈する。径0.45m・深さ0.65m。しっかりと掘方を有する。

埋土：暗褐色土。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(68)68号ピット(第44・118図、PL.28)

位置：IV-3調査区のほぼ中央部から南東寄りの位置。10号井戸の西側、24号土坑の東側に位置する。X=26,586、Y=-49,855。

重複関係：なし。

規模と形状：東西に長い不整楕円形状を呈する。長径0.2m・短径0.18m・深さ0.16m。

遺物：銅銭(寛永通宝)1点。 **時期：**不明。

(69)69号ピット(第44図、PL.28)

位置：IV-2調査区の南端寄りの西側。X=26,609～26,610、Y=-49,849。

重複関係：なし。

規模と形状：北西-南東方向に長い平面水滴状を呈する。断面は、底部の中央部が一段更に深く掘り窪められており。柱穴の可能性も考えられなくはないが、埋土の土層断面から柱痕らしき土層は全く検出されなかった。69～72号ピットは、IV-2区調査区内に点在するが、それぞれの関連性を見いだすことは出来なかった。長径0.36m・短径0.3m・深さ0.32m。

埋土：灰黄褐色土。 **遺物：**なし。 **時期：**不明。

(70)70号ピット(第44・124図、PL.28)

位置：IV-2調査区の北端中央。北壁に掛かる。X=26,609～26,610、Y=-49,849。

重複関係：なし。

規模と形状：北側が調査区外に出るため全容は不明である。検出長径0.4m・検出短径0.3m・深さ0.56m。しっかりと掘方を有する。**埋土：**暗褐色土。 **遺物：**古瀬戸陶器盤類片1点。 **時期：**15世紀。

(71)71号ピット(第34図、PL.29)

位置：IV-2調査区の北寄り、西壁際。X=26,613～

26, 614、Y=-49,848。

重複関係：13号井戸を掘り込む。

規模と形状：北東-南西方向にやや長い楕円形状を呈する。長径0.46m・短径0.44m・深さ0.26m。 **遺物**：なし。

時期：不明。

(72)72号ピット(第34図、PL.29)

位置：IV-2調査区の北寄り、西壁際。X=26,612～26,613、Y=-49,848。

重複関係：なし。

規模と形状：北西-南東方向にやや長い楕円形状を呈する。長径0.28m・短径0.26m・深さ0.38m。 **遺物**：なし。

時期：不明。

5. 礎石

本遺跡では礎石という遺構名称が付されたものは、全部で14基が検出されている。IV区では、IV-5調査区から1・2号の2基が、IV-4調査区から3～5号の3基の計5基がそれぞれ検出されている。

II区では、調査時に「礎石」という遺構名称が付された遺構は1基のみであるが、ピットの項で述べたように11～15号ピット及びその西の壁際でごく一部が検出されたピット群も礎石であると考えられる。また、III区では8基が検出されている。なお、I区では礎石は検出されていない。

これら本遺跡において検出された礎石は、いずれも規模・構造が類似したものが多く、いずれも同時期のものと考えられる。

(1)1号礎石(第45・118図、PL.29)

位置：IV-5調査区の西端寄り。北壁に掛かる。1号溝の西側に位置する。X=26,603～26,604、Y=-49,908～-49,909。

重複関係：2号土坑を掘り込む。

規模と形状：南北側大部分が調査区外に出るため全容は不明であるが、長方形に掘り窪めた中に川原石大の石が敷き詰められ構成されている。検出長径0.9m・検出短径0.28m。

遺物：有孔石製品1点。 **時期**：近世末期～近代初頭。

(2)2号礎石(第45図、PL.29)

位置：IV-5調査区の中央部からやや東寄り。北壁に掛かる。2号ピットのすぐ北側に隣接する。X=26,603～26,602、Y=-49,905。

重複関係：なし。

規模と形状：南北側大部分が調査区外に出るため全容は不明であるが、1号礎石同様、長方形に掘り窪めた中に川原石大の石が敷き詰められ構成されている。1号礎石とほぼ同規模であり、心々間の距離は約3mである。検出長径0.76m・検出短径0.34m。

埋土：上層暗褐色土、下層黄褐色土。 **遺物**：なし。 **時期**：近世末期～近代初頭。

(3)3号礎石(第45図、PL.29)

位置：IV-4調査区の最西端。14号土坑の西側に隣接する。X=26,596、Y=-49,890～-49,891。

重複関係：9号井戸、14号土坑を掘り込む。

規模と形状：3～5号礎石は、IV-4調査区のほぼ中央部から西端にかけて、3基検出された礎石である。いずれもほぼ同規模であり、ほぼ隅丸方形に掘り窪めた中に川原石大の石が敷き詰められ構成されている。中央部には、南北方向に長い縦長の石や(4・5号)、上面が平坦な石が据えられ(3号)、柱の当たりが意識された構造になっている。各礎石の心々間の距離は、3号と4号の間がほぼ3.6m、4号と5号との間が3.8mである。検出長径1.02m・検出短径1m。

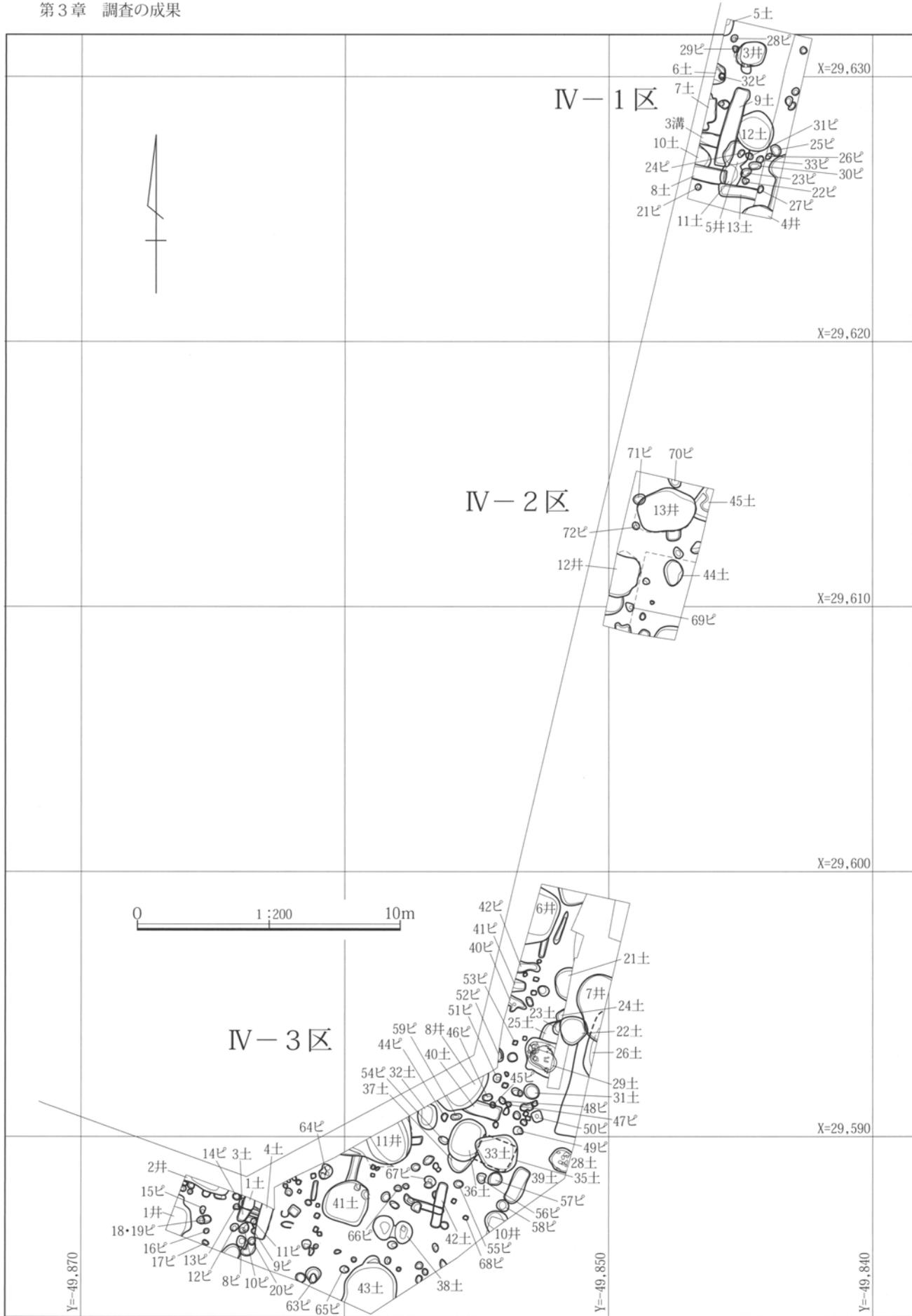
遺物：なし。 **時期**：近世末期～近代初頭。

(4)4号礎石(第45図、PL.29)

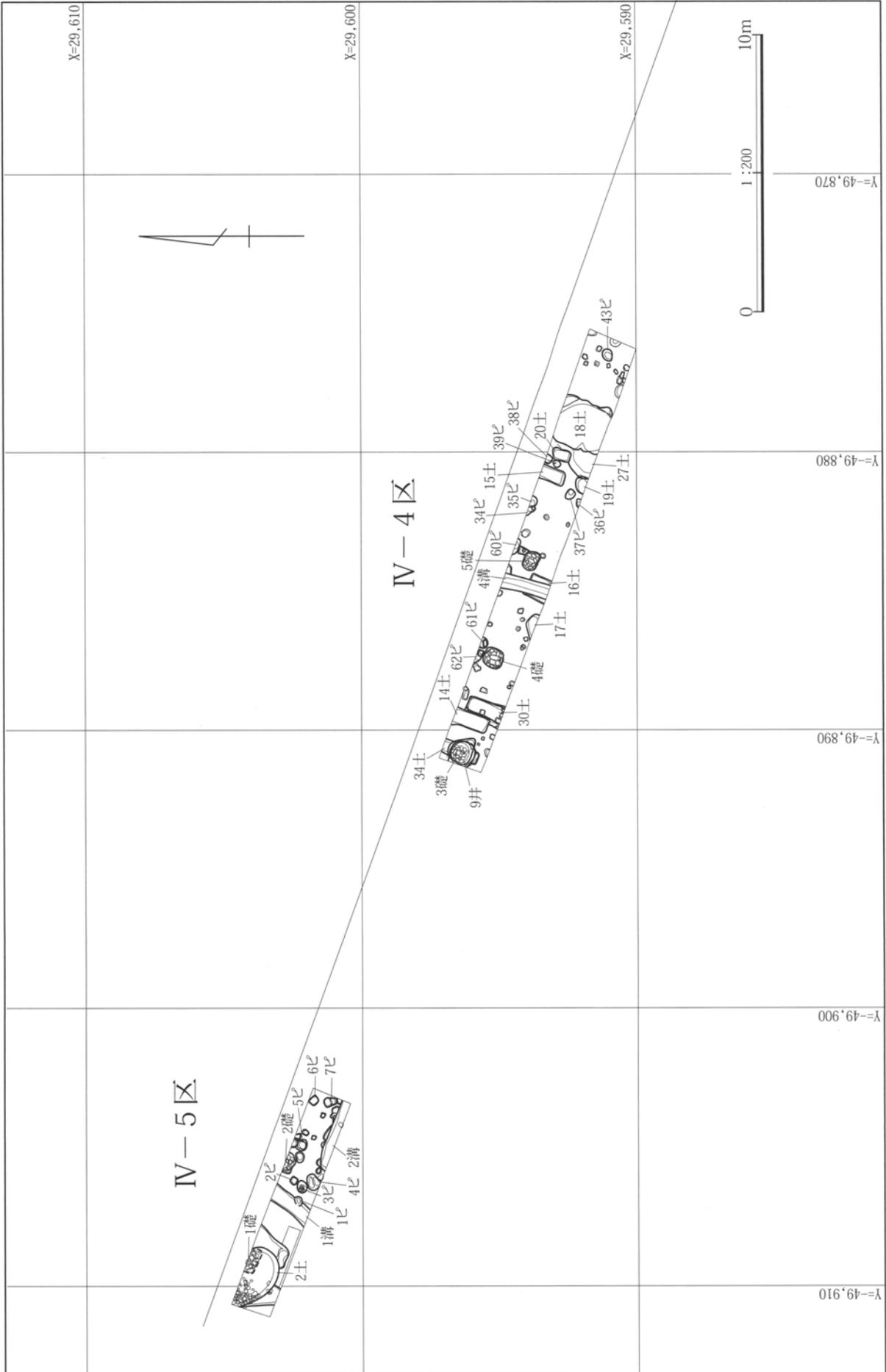
位置：IV-4調査区の西北寄りの位置。61・62号ピットのすぐ南側に隣接する。X=26,595、Y=-49,887。

重複関係：なし。

規模と形状：3～5号礎石は、IV-4調査区のほぼ中央部から西端にかけて、3基検出された礎石である。いずれもほぼ同規模であり、ほぼ隅丸方形に掘り窪めた中に川原石大の石が敷き詰められ構成されている。中央部には、南北方向に長い縦長の石が据えられ、柱の当たりが意識された構造になっている。各礎石の心々間の距離は、3号と4号の間がほぼ3.6m、4号と5号との間が3.8mである。検出長径0.72m・検出短径0.7m。

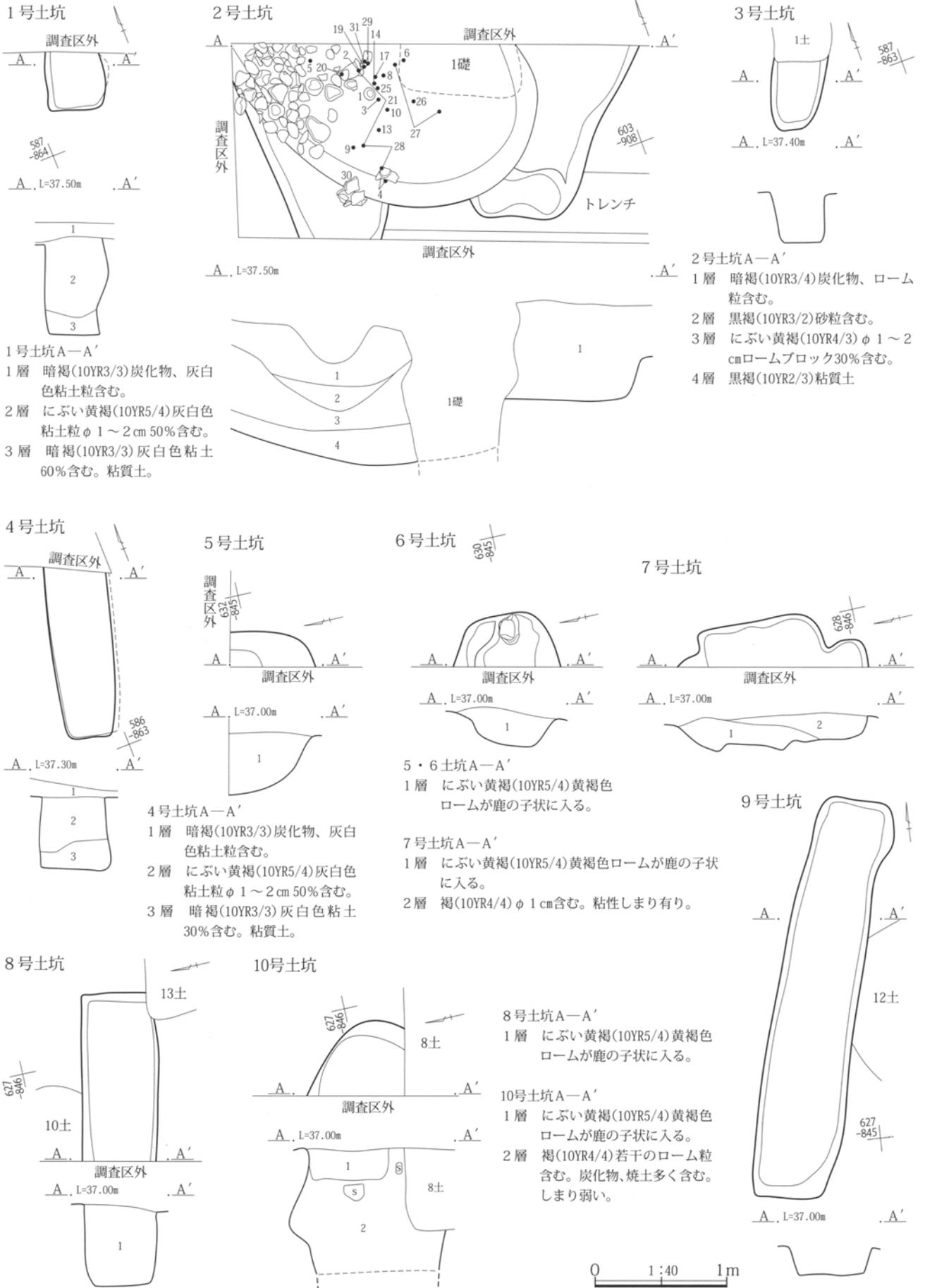


第34図 IV-1～3調査区遺構検出状況



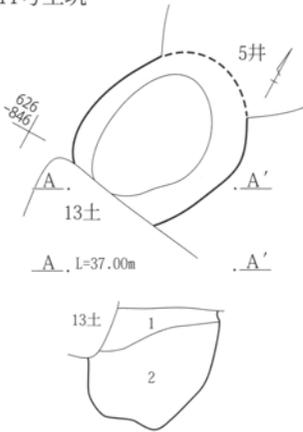
第35図 IV-4・5調査区遺構検出状況

第3章 調査の成果



第36図 IV区 1~10号土坑平面図、断面図

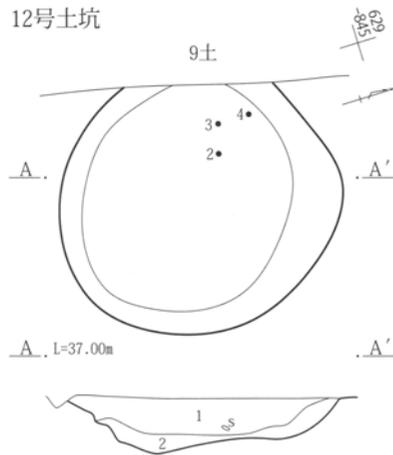
11号土坑



11号土坑A-A'

- 1層 暗褐(10YR3/3)若干のローム粒含む。粘性有り。
- 2層 褐(10YR4/4)黄褐色ローム多く含む。粘性しまり強い。

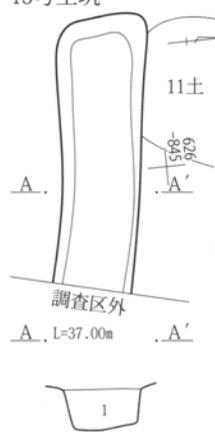
12号土坑



12号土坑A-A'

- 1層 灰黄褐(10YR4/2)にぶい黄橙色(10YR7/3)ブロックφ1~2cmを5%、炭化物をわずかに含む砂質土。しまりやや強い。
- 2層 にぶい黄橙(10YR6/4)1層が10%混じる砂質土。しまりやや弱い。

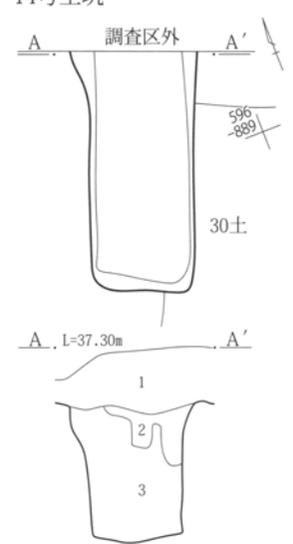
13号土坑



13号土坑A-A'

- 1層 にぶい黄褐(10YR5/4)明黄褐色ブロック(10YR5/4)φ0.5~1cmを20%含む砂質土。しまり強い。

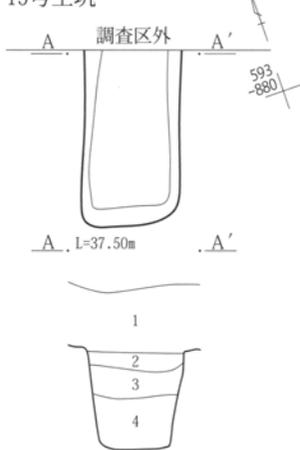
14号土坑



14号土坑A-A'

- 1層 褐(10YR4/4)砂質、ローム粒含む。
- 2層 暗褐(10YR3/3)ローム粒5%含む。砂質。
- 3層 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム、灰白色粘土がブロック状に入る。人為的埋没。

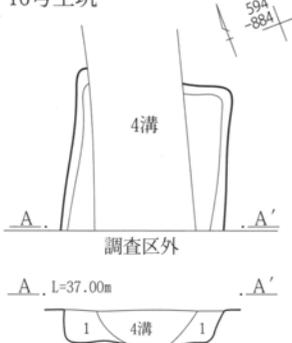
15号土坑



15号土坑A-A'

- 1層 褐(10YR4/4)砂質、ローム粒含む。
- 2層 にぶい黄褐(10YR5/4)ロームブロック主体。
- 3層 灰黄褐(10YR4/2)ロームブロック30%含む。
- 4層 にぶい黄褐(10YR5/4)ローム、灰白色粘土がブロック状に入る。人為的埋没。

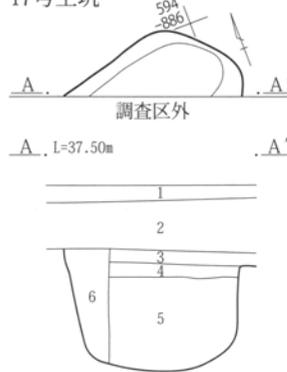
16号土坑



16号土坑A-A'

- 1層 黒褐(10YR3/2)φ2~5mmのローム粒。固くしまる。版築土。

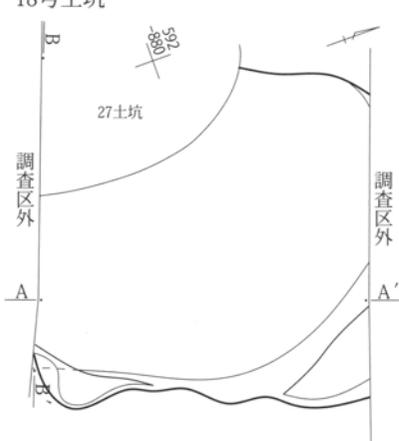
17号土坑



17号土坑A-A'

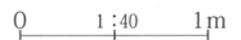
- 1層 黒褐(10YR3/1)旧地表土。固くしまる。
- 2層 褐灰(10YR4/1)砂質土。
- 3層 灰黄褐(10YR4/2)やや粘質。
- 4層 黒褐(10YR3/2)φ2~5mmのローム粒。固くしまる。版築土。
- 5層 暗褐(10YR3/3)φ1~2cmのロームブロック30%含む。
- 6層 褐(10YR4/6)φ5mmのロームブロック5%含む。やや粘質。

18号土坑



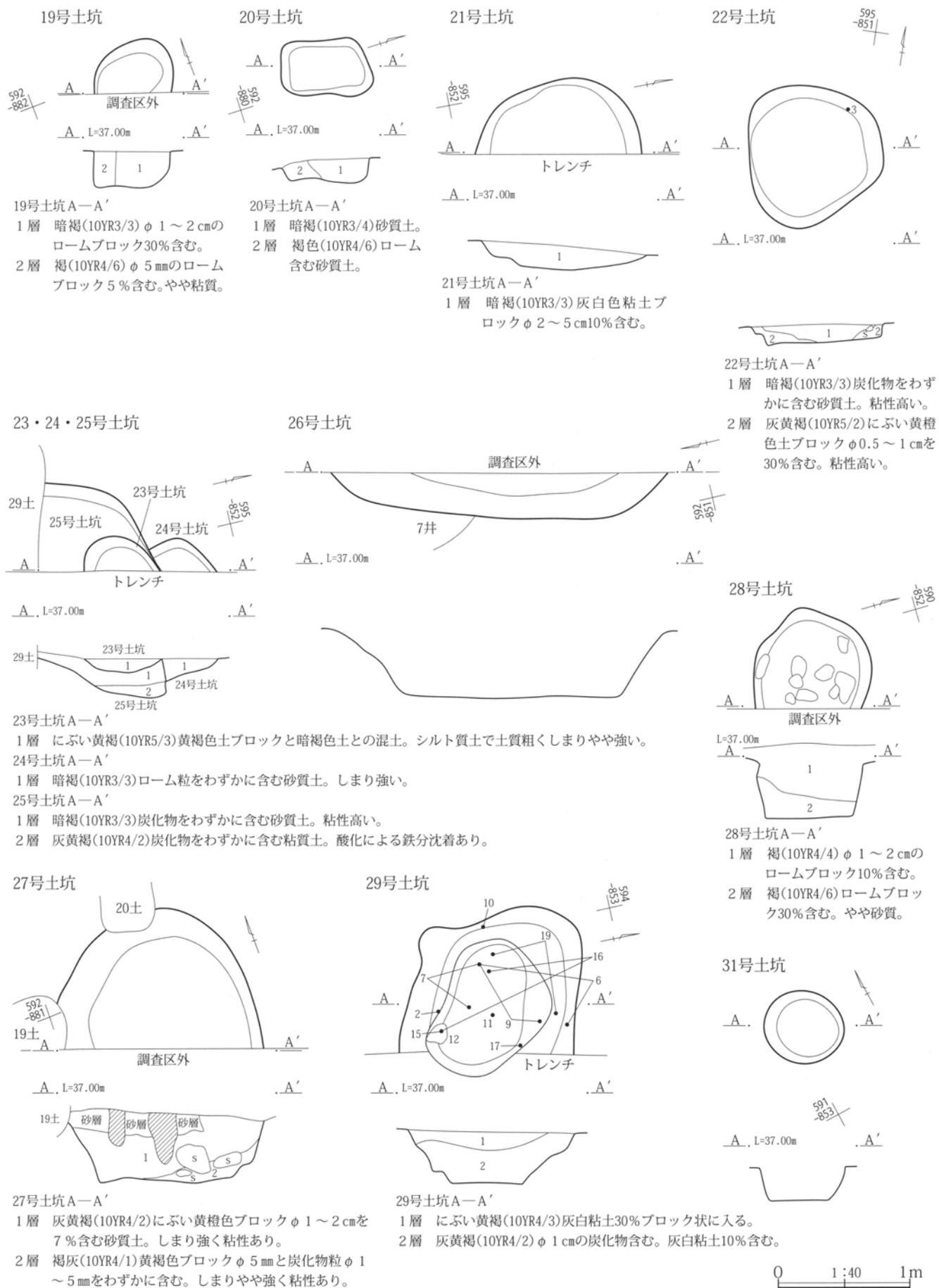
18号土坑A-A'・B-B'

- 1層 にぶい黄褐(10YR4/3)ロームブロック50%入る。しまり悪い。
- 2層 黄褐(10YR5/6)ロームブロック10%含む。
- 3層 暗褐(10YR3/3)ロームブロック30%混じり、固くしまる。
- 4層 黒褐(10YR2/3)炭化物φ5mm30%含む。φ1cm、ローム10%含む。

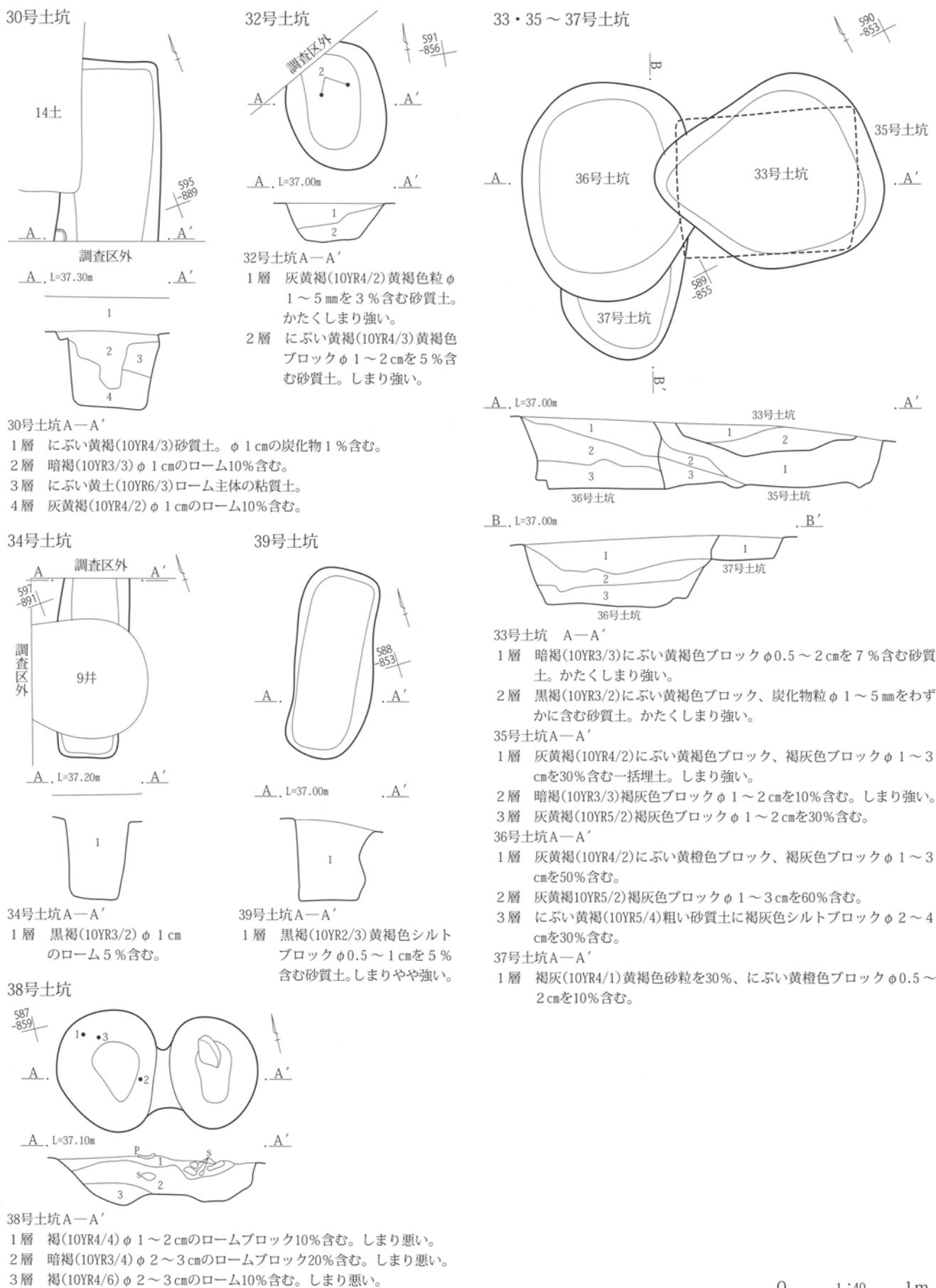


第37図 IV区11~18号土坑平面図、断面図

第3章 調査の成果

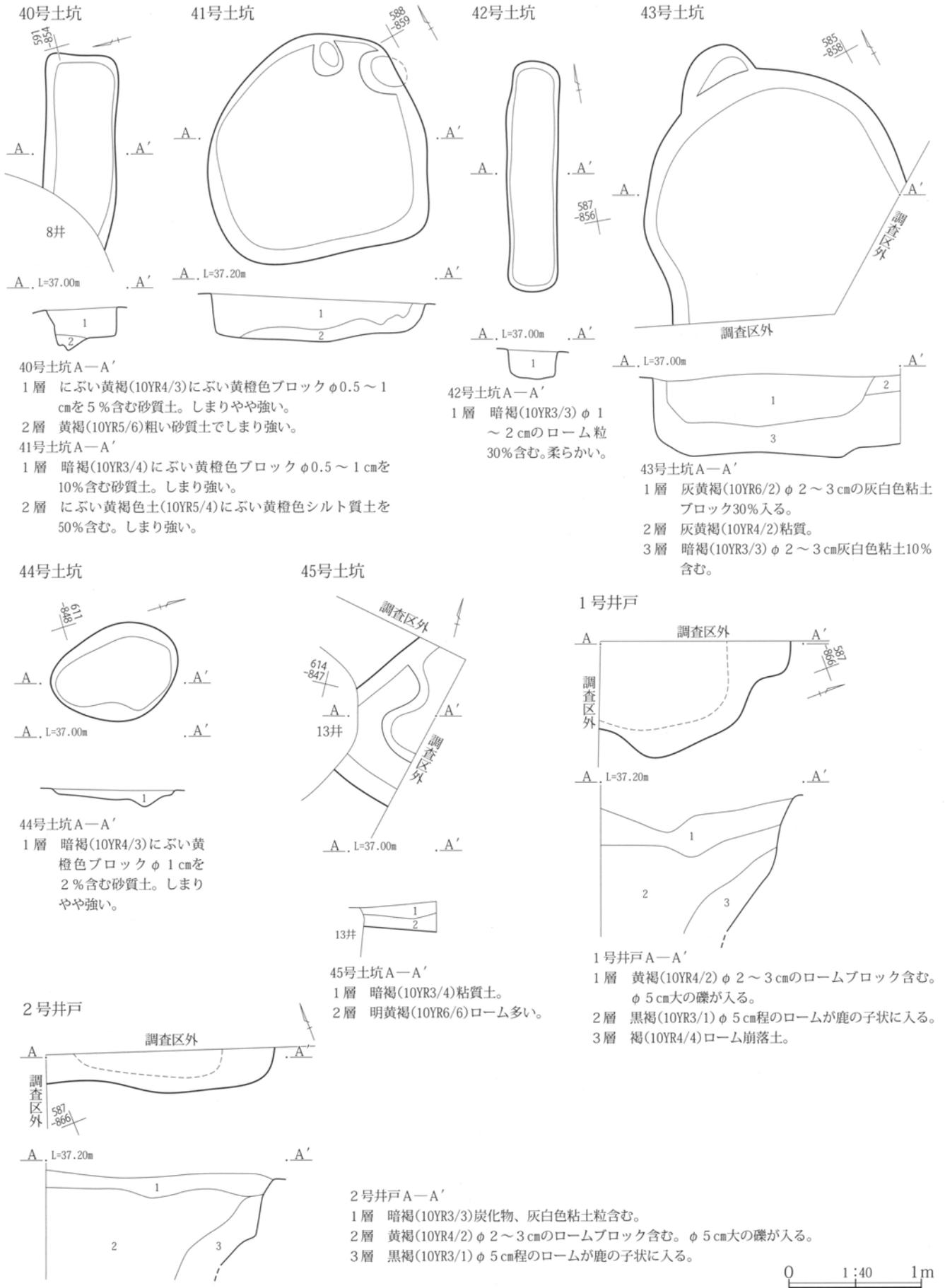


第38図 IV区19~29・31号土坑平面図、断面図



第39図 IV区30・32～39号土坑平面図、断面図

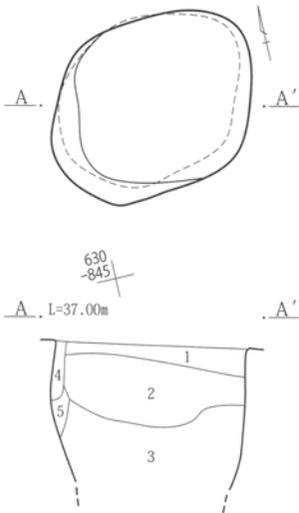
第3章 調査の成果



第40図 IV区40~45号土坑、1・2号井戸平面図、断面図

0 1:40 1m

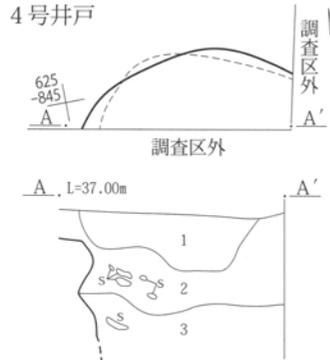
3号井戸



3号井戸A-A'

- 1層 褐(10YR4/6)白色軽石粒含む。
- 2層 灰黄褐(10YR4/2)炭化物、ローム粒含む。粘性しまり強い。
- 3層 暗褐(10YR3/3)粘性しまり強い。
- 4層 黄褐(10YR6/5)ローム粒多く含む。
- 5層 にぶい黄褐(10YR4/3)φ 1～2cmのローム粒30%含む。

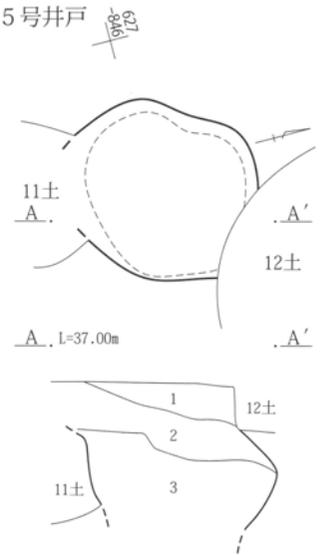
4号井戸



4号井戸A-A'

- 1層 灰黄褐(10YR4/2)砂礫混じり現代の攪乱。
- 2層 暗褐(10YR3/3)φ 1cmのローム粒30%含む。
- 3層 暗褐(10YR3/3)粘性しまり強い。

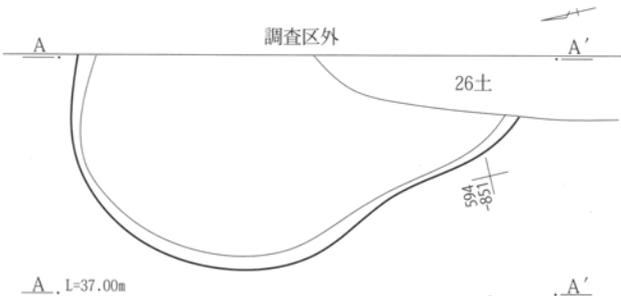
5号井戸



5号井戸A-A'

- 1層 にぶい黄褐(10YR4/3)粘性しまり弱い。
- 2層 黄褐(10YR5/6)φ 2～5cmのロームが鹿の子状に入る。
- 3層 暗褐(10YR3/3)φ 1～2cmのロームブロック20%含む。粘性強い。

7号井戸



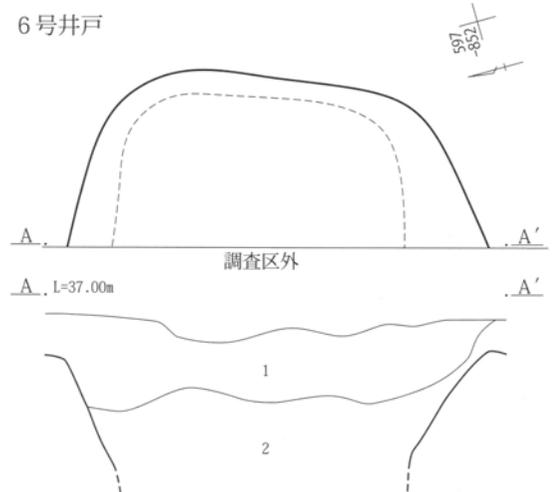
7号井戸A-A'

- 1層 暗褐(10YR3/3)明黄褐色シルトブロックφ0.5～1cmを2%、炭化物をわずかに含む。しまりの強い砂質土。
- 2層 暗褐(10YR4/3)茶褐色に鉄分沈着し、やや粘性のある砂質土。しまり強い。
- 3層 灰黄褐(10YR4/2)明黄褐色シルトブロック10%含む。鉄分沈着の多い砂質土でしまり強い。

8号井戸A-A'

- 1層 にぶい黄褐(10YR5/4)灰白色ブロック1～2cmを20%含む。
- 2層 褐(10YR4/4)ロームが鹿の子状に入る。
- 3層 褐(10YR4/6)φ 1～2cmのロームブロック20%含む。
- 4層 暗褐(10YR3/4)粘質土

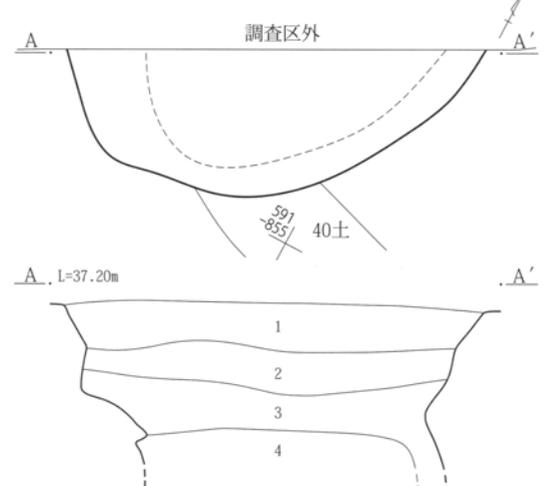
6号井戸



6号井戸A-A'

- 1層 暗褐(10YR3/3)φ 1～2cmのロームブロック20%含む粘質土。
- 2層 黒褐(10YR2/3)φ 5～10cmのロームブロック40%含む粘質土。

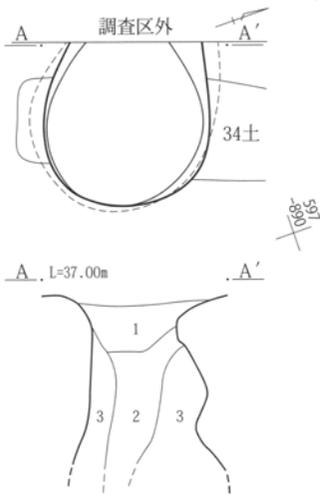
8号井戸



第41図 IV区3～8号井戸平面図、断面図

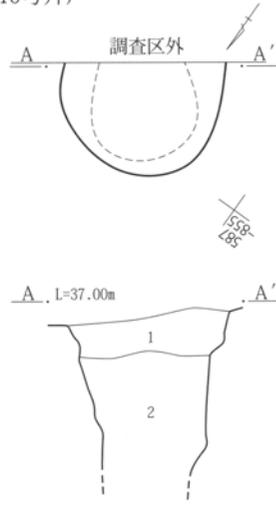
第3章 調査の成果

9号井戸



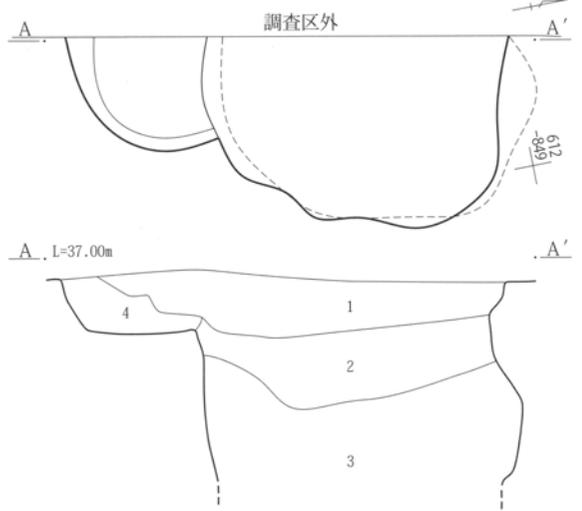
- 9号井戸 A—A'
- 1層 灰黄褐(10YR4/2) φ 1 cmのローム5%含む。
 - 2層 黒褐(10YR3/2) φ 1 cmのローム5%含む。
 - 3層 にぶい黄褐(10YR4/3)粘質土。

10号井戸



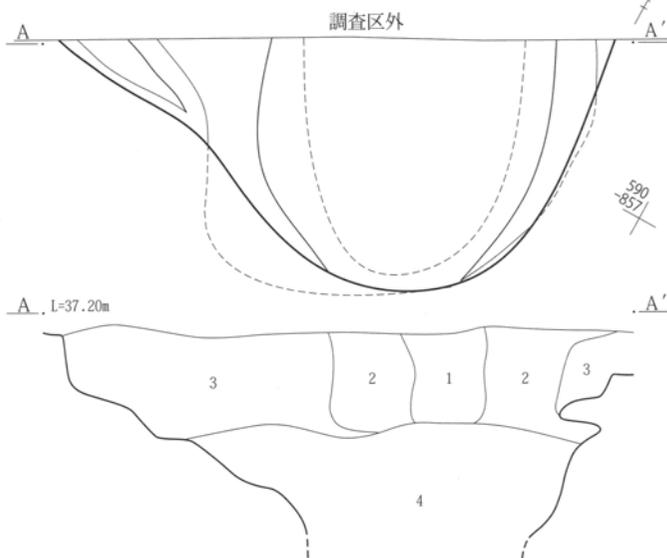
- 10号井戸 A—A'
- 1層 灰黄褐(10YR4/2)砂粒、φ 1 cmのローム含む。
 - 2層 暗褐(10YR3/3)灰白色粘土5%含む。

12号井戸



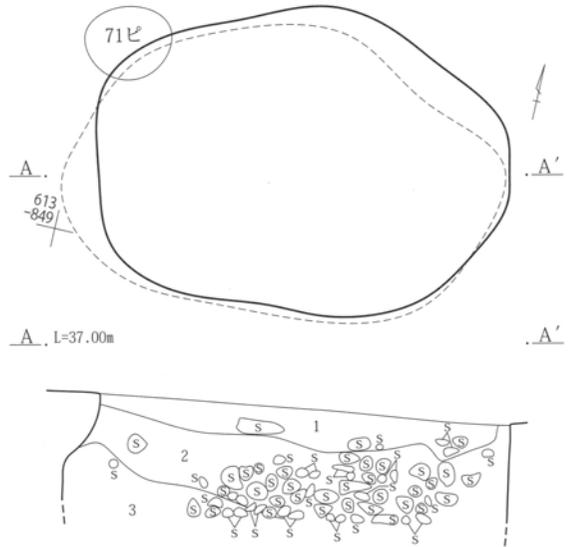
- 12号井戸 A—A'
- 1層 暗褐(10YR13/3) φ 1 cmのローム粒30%含む。
 - 2層 暗褐(10YR3/4) φ 1 cmのローム50%含む
 - 3層 灰黄褐(10YR4/2)ローム鹿の子状に入る。
 - 4層 明黄褐(10YR6/6)ローム崩落土。

11号井戸



- 11号井戸 A—A'
- 1層 暗褐(10YR4/4) φ 2~3 cmの灰白色粘土ブロック30%含む。
 - 2層 暗褐(10YR3/4) φ 1 cmの灰白色粘土10%含む。
 - 3層 褐(10YR4/6) φ 10 cm大の黄褐色ロームブロック鹿の子状に入る。
 - 4層 黒褐(10YR3/2) φ 10 cm大の黄色粘土多い。粘質強い。

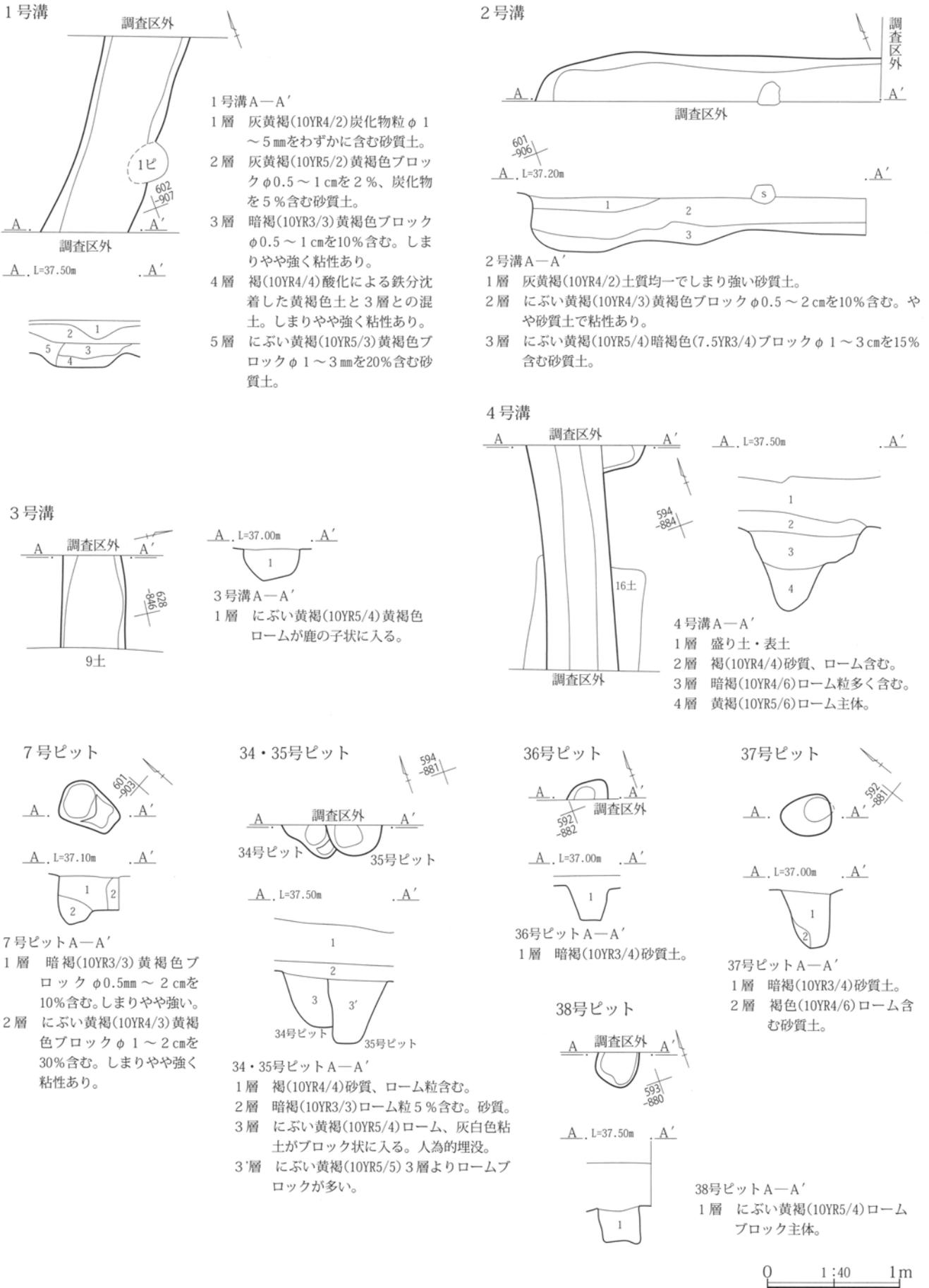
13号井戸



- 13号井戸 A—A'
- 1層 暗褐(10YR3/3) φ 1 cmのローム10%含む。
 - 2層 暗褐(10YR3/4)粘質土。
 - 3層 暗褐(10YR3/4)礫混じり。



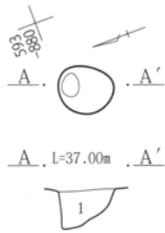
第42図 IV区9~13号井戸平面図、断面図



第43図 IV区1~4号溝、7・34~38号ピット平面図、断面図

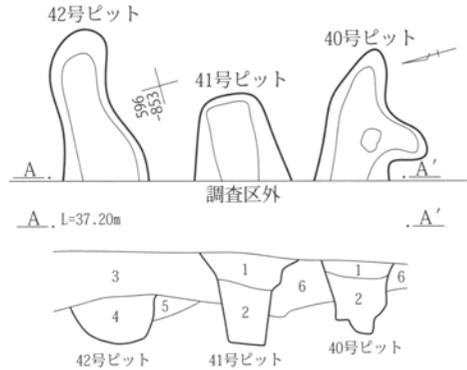
第3章 調査の成果

39号ピット



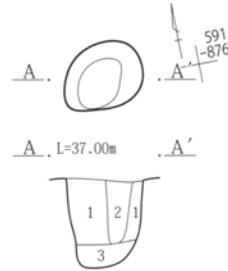
39号ピットA-A'
1層 にぶい黄褐(10YR5/4)ロームブロック主体。

40～42号ピット



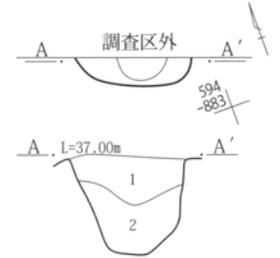
40・41・42号ピットA-A'
1層 暗黄褐(10YR6/6)φ1～2cmロームブロック50%含む。
2層 暗褐(10YR3/4)φ1～2cmロームブロック30%含む。
3層 褐(10YR4/4)φ1～2cmロームブロック20%含む。
4層 褐(10YR4/6)φ1～2cmロームブロック30%含む。
5層 褐(10YR4/6)φ1～2cmロームブロック50%含む。
6層 にぶい黄褐(10YR4/3)ロームブロックが鹿の子状に入る。粘性しまり強い。

43号ピット



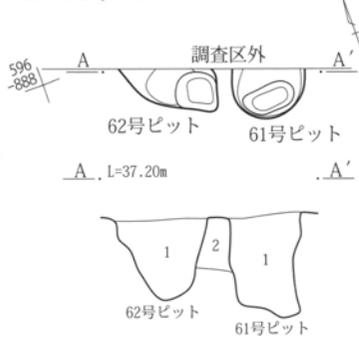
43号ピットA-A'
1層 褐(10YR4/4)黄褐色ブロックφ5～10mmを30%含む。かたくしまり強い。
2層 黒褐(10YR3/2)やわらかく粘性あり。炭化物を5%含む。
3層 にぶい黄褐(10YR4/3)砂質土でやや粘性あり。

60号ピット



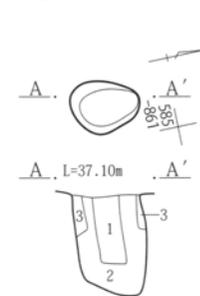
60号ピットA-A'
1層 灰黄褐(10YR4/2)φ1cmのローム10%含む。
2層 にぶい黄褐(10YR4/3)粘質土。

61・62号ピット



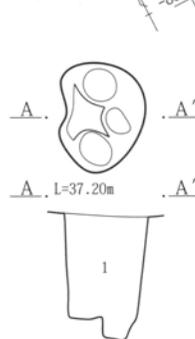
61号ピットA-A'
1層 にぶい黄褐(10YR4/2)ローム30%含む。
62号ピットA-A'
1層 にぶい黄褐(10YR4/2)ローム30%含む。
2層 にぶい黄褐(10YR6/3)灰色粘土主体。

63号ピット



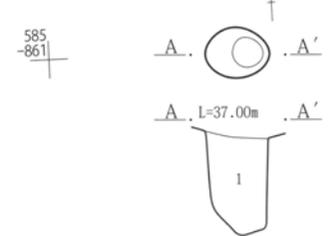
63号ピットA-A'
1層 黒褐色土A-A'(10YR3/2)土質均一でやわらかくしまりやや強い。
2層 にぶい黄褐色土(10YR5/4)土質粗く、にぶい黄褐色土、黄褐色ブロックと1層との混土。しまりやや強い。
3層 暗褐色土(10YR3/3)黄褐色粒φ1～5mmを5%含む砂質土。しまり強い。

64号ピット

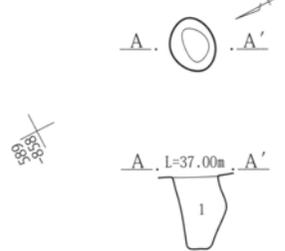


64号ピットA-A'
1層 褐色土(10YR4/4)にぶい黄褐色ブロックφ0.5～1cmを5%含む。しまり強い。
65号ピットA-A'
1層 暗褐(10YR3/4)φ5mmのローム粒10%入る。

65号ピット

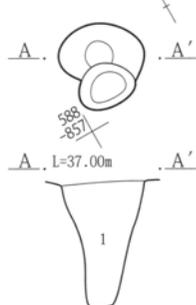


66号ピット



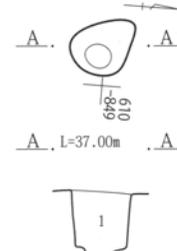
66号ピットA-A'
1層 暗褐(10YR3/4)φ5mmのローム粒10%入る。

67号ピット



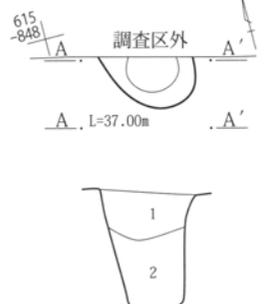
67号ピットA-A'
1層 暗褐(10YR3/4)φ5mmのローム粒10%入る。

69号ピット

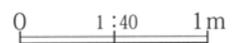


69号ピットA-A'
1層 灰黄褐色土(10YR4/2)にぶい黄褐色ブロックφ0.5～1cmを5%と、鉄分沈着した砂質土が混じる。しまりやや強い。

70号ピット

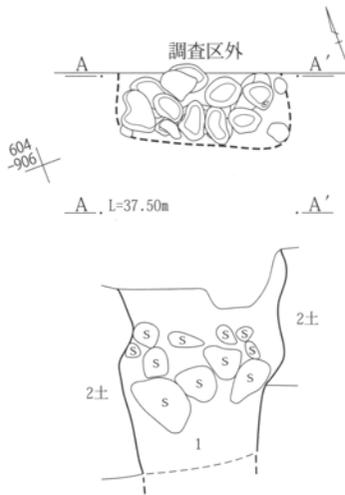


70号ピットA-A'
1層 暗褐色土(10YR4/3)にぶい黄褐色ブロックφ0.5～1cmを10%含む。しまりやや強い。
2層 暗褐色土(10YR3/3)にぶい黄褐色ブロックφ0.5～1cmを15%含む。しまりやや強い。



第44図 IV区39～43、60～70号ピット平面図、断面図

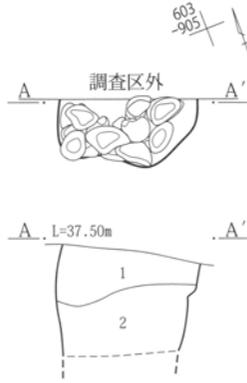
1号礎石



1号礎石A-A'

1層 にぶい黄褐(10YR4/3)明黄褐色粒φ1~5mmと炭化物をわずかに含む砂質土。かたくしまり強い。

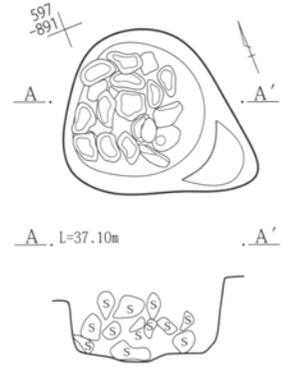
2号礎石



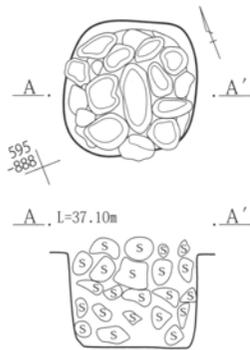
2号礎石A-A'

1層 暗褐(10YR3/3)礎石含む。
2層 黄褐(10YR5/6)粘性しまり有。
φ5cm大の礫含む。

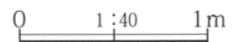
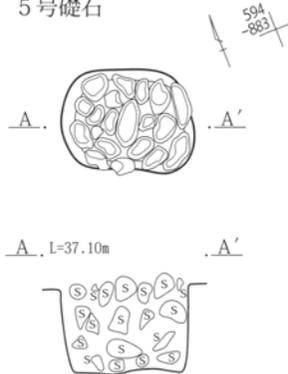
3号礎石



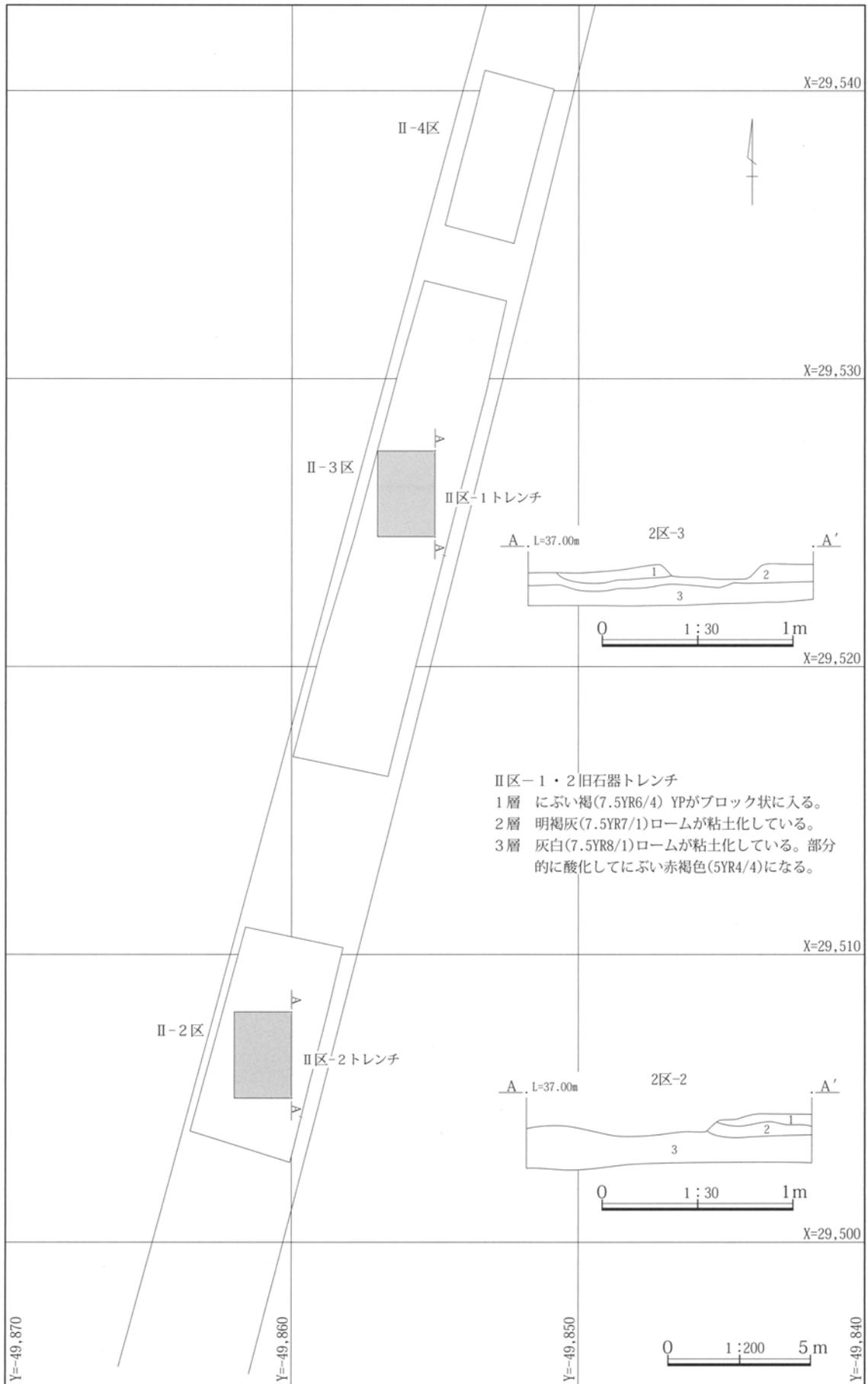
4号礎石



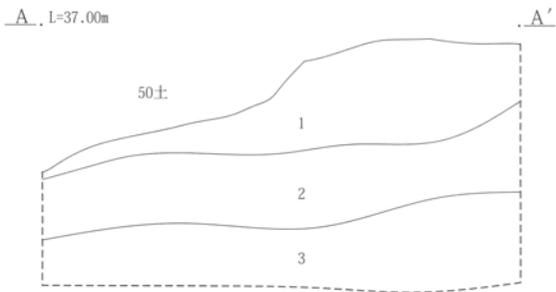
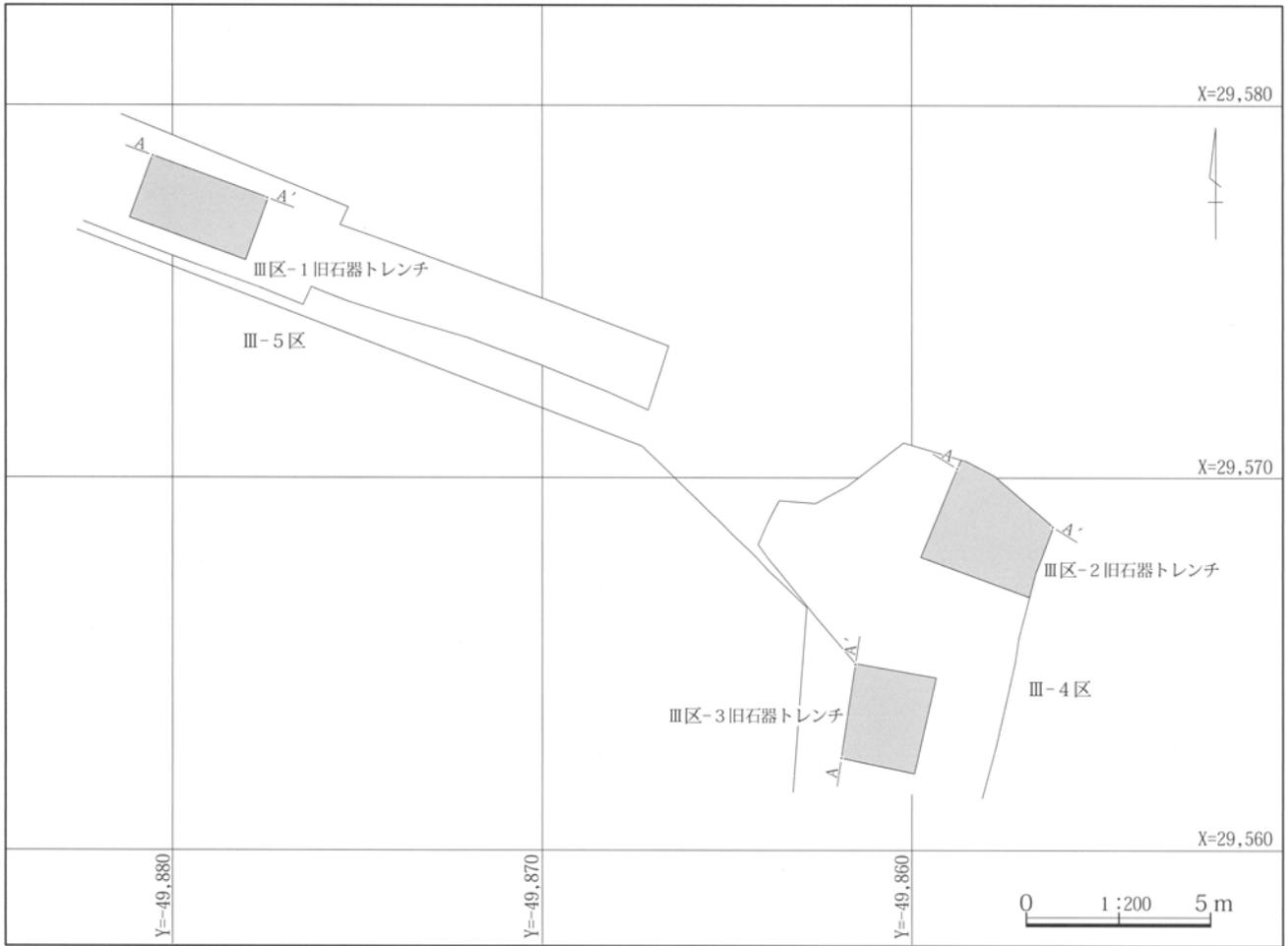
5号礎石



第45図 IV区1~5号 礎石平面図、断面図



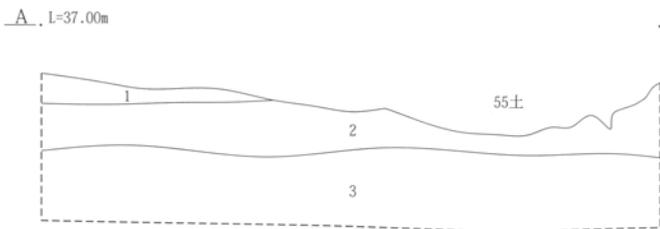
第46図 II区旧石器確認調査坑位置図、断面図



Ⅲ区-1 旧石器トレンチ
 1層 にぶい黄土(10YR7/2)砂質。
 2層 灰白(10YR7/1)粘質土。
 3層 灰白(10YR7/1)粘土と砂の互層。



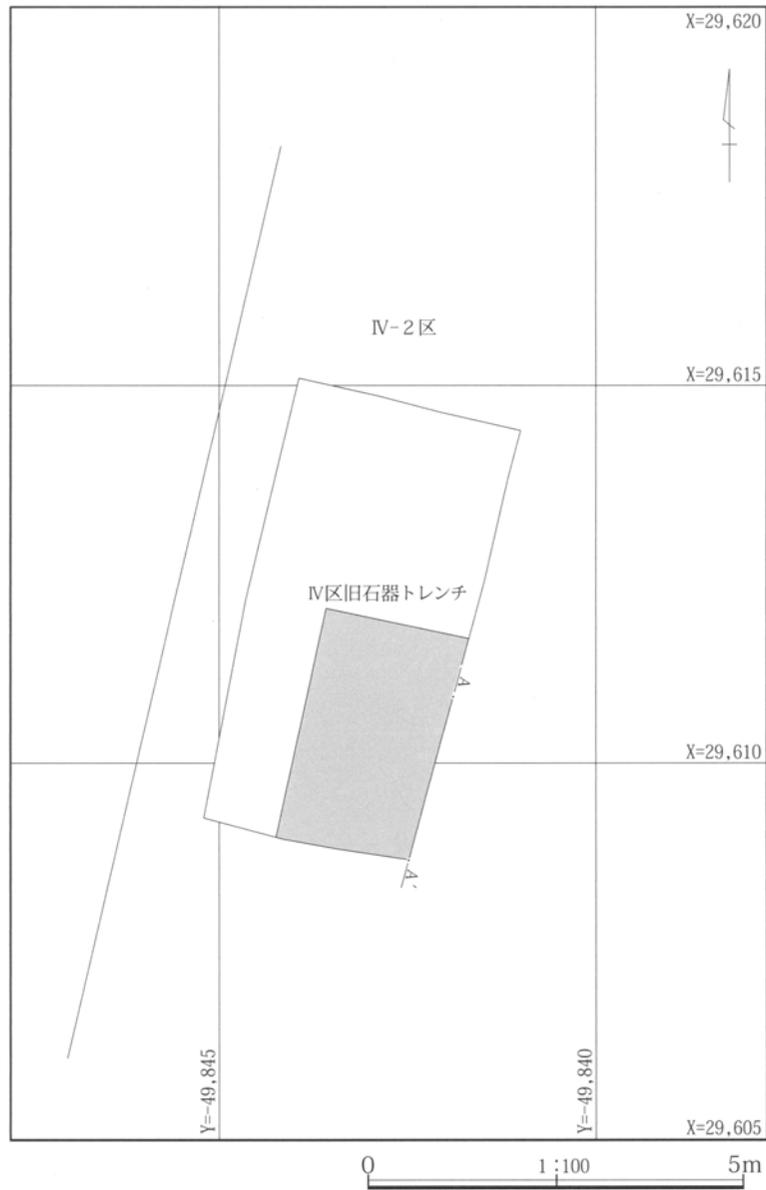
Ⅲ区-2 旧石器トレンチ
 3層 にぶい黄褐(10YR5/4)φ 1～5 cmのロームブロック含む。
 4層 灰白(10YR7/1)砂層と粘土の互層。



Ⅲ区-3 旧石器トレンチ
 1層 暗褐(10YR3/3)φ 1～5 cmのローム粒5%含む。
 2層 灰白(10YR8/2)φ 2～3 cmの軽石含む。
 3層 灰白(10YR1/1)粘質土と砂のラミナ層。



第47図 Ⅲ区旧石器確認調査坑位置図、断面図



A, L=37.00m

.A'



IV区旧石器トレンチ

- 1層 にぶい黄土(10YR7/4)砂質土。
- 2層 灰白(10YR8/1)砂粒と粘土の混合土。
- 3層 褐灰(10YR4/1)灰白色粘土と褐色土のラミナ層。

第48図 IV区旧石器確認調査坑位置図、断面図

遺物：なし。 時期：近世末期～近代初頭。

(5) 5号礎石(第45図、PL.29)

位置：IV-4調査区のほぼ中央部に位置する。16号土坑のすぐ北東側に隣接し、4号溝の東側、60号ピットの南側に位置する。X=26,593～26,594、Y=-49,883～-49,884。

重複関係：なし。

規模と形状：3～5号礎石は、IV-4調査区のほぼ中央部から西端にかけて、3基検出された礎石である。いずれもほぼ同規模であり、ほぼ隅丸形状に掘り窪めた中に川原石大の石が敷き詰められ構成されている。中央部には、南北方向に長い縦長の石が据えられ、柱の当たりが意識された構造になっている。各礎石の心々間の距離は、3号と4号の間がほぼ3.6m、4号と5号との間が3.8mである。本礎石は、北西-南東方向にやや長い隅丸長方形を呈しており、検出長径0.7m・検出短径0.54mである。

遺物：なし。 時期：近世末期～近代初頭。

6. 遺構外一括出土遺物

遺構外一括出土遺物を観察表及び第119・120図に掲載した。

第5節 旧石器の確認調査

II区で2箇所、III区で3箇所、IV区で1箇所、計6箇所において、旧石器の確認調査坑を設定し、確認調査を実施した。設定したのはII-2調査区、II-3調査区、III-4調査区2箇所、III-5調査区、IV-2調査区であり、基本土層におけるロームの検出状況等や調査範囲の大きさを勘案して調査坑を設定した。

いずれの調査坑においても旧石器は全く確認されなかった。

調査坑の設定箇所及び平面図、土層断面図は以下の通りである。(第40～42図、PL.29)

第4章 調査成果のまとめ

第1節 出土した「文久永宝」 について

Ⅱ区12・16号土坑、1号竪穴から出土した文久永宝は、1863(文久3)年2月から1867(慶応3)年まで鑄造され、幕末に流通した銭貨であり、鑄造の時期が非常に限られていることから、本遺跡における遺構の年代を知る上で、重要な手がかりになると思われる。故に、1節を設け、この銭貨の基本的な性格についてまとめておくことにしたい。

幕府の大老であった井伊直弼が桜田門外の変で暗殺されると、薩摩藩では、1862(文久2)年3月、藩主島津忠義の実父である久光が、朝廷・幕府・雄藩の政治的提携を企図し、公武合体運動を推進することを目的に兵を率いて京都へ上洛した。この薩摩藩の実質的リーダーである島津久光の朝廷に対する働きかけにより、同年5月、朝廷では「將軍家茂の上洛」、「沿海5大藩(薩摩・長州・土佐・仙台・加賀の各藩)で構成される五大老の設置」、「一橋徳川家当主慶喜の將軍後見職就任及び前越前福井藩主松平慶永の大老職就任」の「三事策」からなる幕政改革を要求するために勅使を江戸へ派遣することが決定され、久光は勅使随従を命じられて、勅使大原重徳と共に江戸に下向し、勅使とともに幕閣との交渉にあたり、一橋慶喜の將軍後見職就任及び松平慶永の政事総裁職(大老格)就任を実現させた。これが世に言う「文久の幕政改革」であり、新貨幣の鑄造は、この幕政改革による新時代の到来を象徴するものであった。

1860(万延元)年から鑄造が始まった寛永通寶精鉄4文銭の不評を受けて、4文銭を銅銭に戻すことにしたのである。しかしながら、銅産出量の絶対的不足から生じた地金の高騰により、現実的には、量目を減じざるを得なかったというのが実態であった。

こうした経緯によって鑄造された「文久永寶(宝)」は、銅製で、直径0.9寸(約2.7センチメートル)、規定量目は9分(約3.375グラム)と、初期の寛永通寶より軽めであり、形状は円形で、中央部に正方形の穴が開けられてお

り、表面には「文久永寶(宝)」の文字が上下右左の順に刻まれ、裏面には波形模様が刻まれている。

この「文久永寶(宝)」の文字には3種類のものがあるとされており、それぞれ当時、幕府の中枢にあった要人たちが元となる文字の揮毫を担当したとされている。

初字の「文」の字が楷書体のものは、当時の若年寄であった小笠原壱岐守長行(のちに老中・外国事務総裁、肥前唐津藩主、1822(文政5)年～1891(明治24)年)の筆によるもので「真文」と呼ばれている。

初字の「文」の字が草書体の「文」となっているものは、当時の老中であった板倉周防守勝静(のちに老中首座・内国御用取扱、備中松山藩主、1823(文政6)年～1889(明治22)年)の筆によるもので「草文」と呼ばれている。

初字の「文」の字が草書体で、「寶」の字が「宝」となっているものは、当時、新設されたばかりの政事総裁職に就任した松平越前守慶永(1828(文政11)年～1890(明治23)年)の筆によるもので「略宝」と呼ばれている。

これら江戸時代に流通した銭貨のうち、鉄銭は1873(明治6)年12月25日に、天保通寶は1891(明治24)年末をもって運用停止となったが、「文久永寶(宝)」などの銅銭は1953(昭和28)年末の「小額通貨の整理及び支払金の端数計算に関する法律」により廃止されるまで、法的には通用していた。

参考文献

1. 瀧澤武雄・西脇康『日本史小百科「貨幣」』東京堂出版、1999。
2. 滝沢武雄『日本の貨幣の歴史』吉川弘文館、1996。

第2節 出土した近世の陶磁器・土器について

世良田は「新田荘」を領した新田義重の本拠地であり、中世にはその末子・得川(世良田)義季が開いた長楽寺の門前町として栄えた。長楽寺の繁栄によって世良田は宿としても知られるようになり、その縁辺には市なども開かれ、東上野の交通・交易の中心地だったという。当遺跡がある通称「世良田十字路」は、中世の「四日市と宿」があったとされる古道の中心域に該当する。また、江戸時代には長楽寺の南に東照宮が置かれ、江戸時代も商業地区として栄えたようである。1845(弘化2)年の絵図では、世良田十字路の南北の道は「大門町」、東西の道は「中町」と記載されており、両道沿いには家々の屋根が連なるように描かれている(第53図)。

今回の調査でも中世の瓦や陶磁器類が出土しているが、その主体を占めるのは江戸時代後期の陶磁器類である。年代的には18世紀末葉から19世紀前半代のものが主体を占めており、揃いものも数多く認められた。特に世良田十字路の南西側にあたるⅢ区1号遺物集中からは一括廃棄された多量の陶磁器類が出土しており、接合率も高く、揃いものや特殊な遺物も数多く検出されている。これらの遺物は大半が日常使用する雑器ではあるが、各種のものがよく出揃っており、県内のこの時期の基準的な一群として注目される。

ここでは、この地区の特徴を示すものや、注目されるものをいくつか取り上げて紹介しておきたい。

1. 文字資料

不明瞭なものもあるが、24点を確認した(第4表)。いずれも江戸時代後期から幕末頃に使用されたものと判断する。文字は墨書・刻印のほかに焼継溶液で記載したものもあり、また注文中で屋号や店名を呉須で書いたと考えられるものもある。

瓦や焙烙にみられる刻印は4例あり、いずれも作り手か商品名を示すものであろう。

墨書と思われものは12点出土しており、数が多いが欠損品や不明瞭なものも多い。5は急須の底に片仮名で「トチ」と書いてあるが、何を示すのかは解らない。6は

ひょうそくの底部に平仮名で「に」と書いてあり、おそらく「いろは」でナンバーを付けたものだろう。10は徳利の底に「大町井筒屋」と屋号を書いたもので、店の名を示すものであろう(口絵1-7)。ただ、世良田には「大門町」はあるが「大町」はわからない。14・15は置き竈の焼き口前面に文字が書かれたもので、残念ながらその示すものがはっきりしない。

17は焼継が施された染付端反碗の高台内に赤色塗料で「千せ」と書いてあり、おそらく所有者の名前を示すのであろう(口絵1-6)。これは焼継溶液に赤色の塗料を混ぜて使用した可能性が高い。

18～22は焼継溶液で文字を書いたもので、いずれも焼継が施された器であり、修繕の注文を受けた際に預かった人名や店名をメモした事例であろう。18は染付湯呑の底に「文吉」と書いてあり、所有者の名前と考えてよい(口絵1-5)。19～22は器種や大きさは様々だが、いずれも見えにくい高台付近に「せらだ しみずや(世良田清水屋)」と特定の店名を書いている。焼継溶液でこれほどの文字数を書いた事例は希少である(口絵1-1～4)。

23・24は呉須で書かれた事例で、店名と屋号を書いたものであろう。これらは陶磁器製造元に注文中で発注した可能性が高い。(口絵1-8)

これらの遺物は、当時の群馬県南東部地域での生活の中で文字がどのように使われていたのかを示している。また店名を書いたものが多いことは、この地区にそうした店舗が存在した可能性も想定させる。なかでも19～22の「世良田 清水屋」は、4点のうち3点がⅢ区1号遺物集中から出土しており、この地点に「世良田 清水屋」があった可能性が高いと言えよう。

しかもこの事例は、文字数の多い点もさることながら、同じ店名を4点とも異なった書き方で綴っている点は偶然とは言い難く、むしろ洒落や遊び心を楽しむ様子まで彷彿とさせる。こうした点は、当時の一地方の生活習慣や風俗を知る手懸かりとしても重要な事例と言ってよいだろう。

2. 明かりの道具類

当時の照明具は行灯が一般的で、ろうそくは高級品で庶民が使えるものではなかったという。照明用の灯油が

第4表 陶磁器類文字資料一覧 (判読その他について、群馬県立文書館古文書係の協力を得た。)

番号	区	遺構	No.	図版番号	種類	器種	年代	書いた場所	使ったもの	文字	読み	備考
1	II	1号溝	52	67	在地系土器	十能	江戸時代後半～終末	表面中央部	刻印	二山マークの下に「加」	やまか	製造元、または商品名を示す。
2	II	1号溝	66	69	瓦	平瓦	江戸時代後半～終末	側面部	刻印	一山マークの下に「木」	やまき	製造元、または商品名を示す。
3	III	4号溝	26	81	在地系土器	焙烙	江戸時代後半～終末	底部内面	刻印	「□上」	?うえ	製造元、または商品名を示す。
4	III	1号遺物集中	145	96	在地系土器	焙烙	江戸時代後半～終末	底部内面中央部	刻印	「大口上」	だい?うえ	製造元、または商品名を示す。
5	II	16号土坑	2	59	陶器	急須	江戸時代後半～終末	底部	墨書	「トチ」	とち	カタカナ
6	II	24号土坑	25	62	瀬戸・美濃陶器	鉄軸ひょうそく	江戸時代後半～終末	底部	墨書	「に」	に	「いろは」でナンバナー付け
7	II	3号井戸	1	63	在地系土器	皿	江戸時代後半～終末	見込み	墨書か?	?	不明	
8	II	1号溝	65	69	瓦	平瓦	江戸時代後半～終末	裏面	墨書	「大口」	だい	「土」の可能性もあり。文字が続く可能性が強い。
9	II	遺構外	5	75	肥前磁器	染付皿	江戸時代後半～終末	底部底の目高台部	墨書	「□可も」?	かも?	
10	III	22号土坑	6	78	陶器	徳利	江戸時代後半～終末	底部	墨書	「大町井筒屋、菱田いに「死」	おおまち いづつや	店の名であろう。
11	III	1号遺物集中	100	92	瀬戸・美濃陶器	灰軸火入れ	江戸時代後半～終末	底部高台内	墨書	「巳□」	み?	「見」の可能性もあり
12	III	一括	72	102	益子・笠間陶器か	灰軸皿	江戸時代後半～終末	底部高台部	墨書	「□田」	せらだ?	地名・人名・屋号か?
13	III	一括	88	103	瀬戸・美濃陶器	灰軸灯明受皿	江戸時代後半～終末	外面腰部	墨書	不明	不明	煤油の可能性もある
14	III	一括	127	106	搬入系土器	置き竈	江戸時代後半～終末	焚き口前面	墨書	「勝」か?	かつ?	所有者あるいは使用場所・部屋か
15	III	一括	128	106	搬入系土器	置き竈	江戸時代後半～終末	焚き口前面	墨書	不明	不明	所有者あるいは使用場所・部屋か
16	IV	29号土坑	10	113	肥前磁器	赤絵火入れ	江戸時代後半～終末	見込	墨書	「お仁□」?	おにし?	
17	III	一括	25	98	肥前磁器	染付端反碗	江戸時代後半～終末	底部高台内	赤色塗料	「チせ」又は「千世」	ちせ	所有者の名前か。焼継あり。
18	II	1号溝	11	64	肥前磁器	染付湯呑	江戸時代後半～終末	底部高台内	焼継溶液	「文吉」	ぶんぎち	所有者の名前か。焼継あり。内面に赤茶色の付着物。
19	III	1号遺物集中	62	89	肥前磁器	広卓碗	江戸時代後半～終末	底部高台内	焼継溶液	「せら田 志ミ春や」	せらだ しみずや	店の名であろう。焼継あり。
20	III	1号遺物集中	123	94	京・信楽系陶器	灰軸土瓶	江戸時代後半～終末	外面腰部	焼継溶液	「せら田 志ミ春や」	せらだ しみずや	店の名であろう。焼継あり。
21	III	1号遺物集中	7	86	肥前磁器	染付坏	江戸時代後半～終末	底部高台内	焼継溶液	「せら田」	せらだ	店の名であろう。焼継あり。
22	IV	2号土坑	21	109	肥前磁器	染付皿	江戸時代後半～終末	外面腰部	焼継溶液	「志ミ春や」	しみずや	
23	II	6号土坑	4	55	肥前磁器	染付皿	江戸時代後半～終末	底部底の目高台部	焼継溶液	「せら田 志ミすや」	せらだ しみずや	店の名であろう。焼継あり。
24	II	1号竪穴状遺構	1	74	陶器	染付土瓶	江戸時代後半～終末	見込み、底部高台内	呉須	「□□屋」と屋号「兼友」?	「ひらのや」か?屋号は「かねとも」か?	店の名か。注文発注品か。
							江戸時代後半～終末	外面主文様下の帯内	呉須	松川亭?	まつかわてい?	店の名か。注文発注品か。

一般まで使えるようになったのは江戸時代中期以降だと言われており、江戸時代の遺跡では灯明皿が数多く出土する。当遺跡でもひょうそく7点、灯明油皿19点、灯明受皿28点、土器皿35点が出土しているが、その他に県内では出土例が少ないカンテラが8点出土しており、ここで5点について紹介したい。なお、非掲載のものは、Ⅲ区一括で2点、Ⅳ区一括で1点、いずれも破片である。

当遺跡出土のカンテラはいずれも両口形のもので、内外面に光沢のある透明釉(5は黒みを帯びる)がかけられている。3は肩部の片側に円形のスタンプを横位に重ねた三輪の文様が印刻されているが、その他はいずれも無文である。

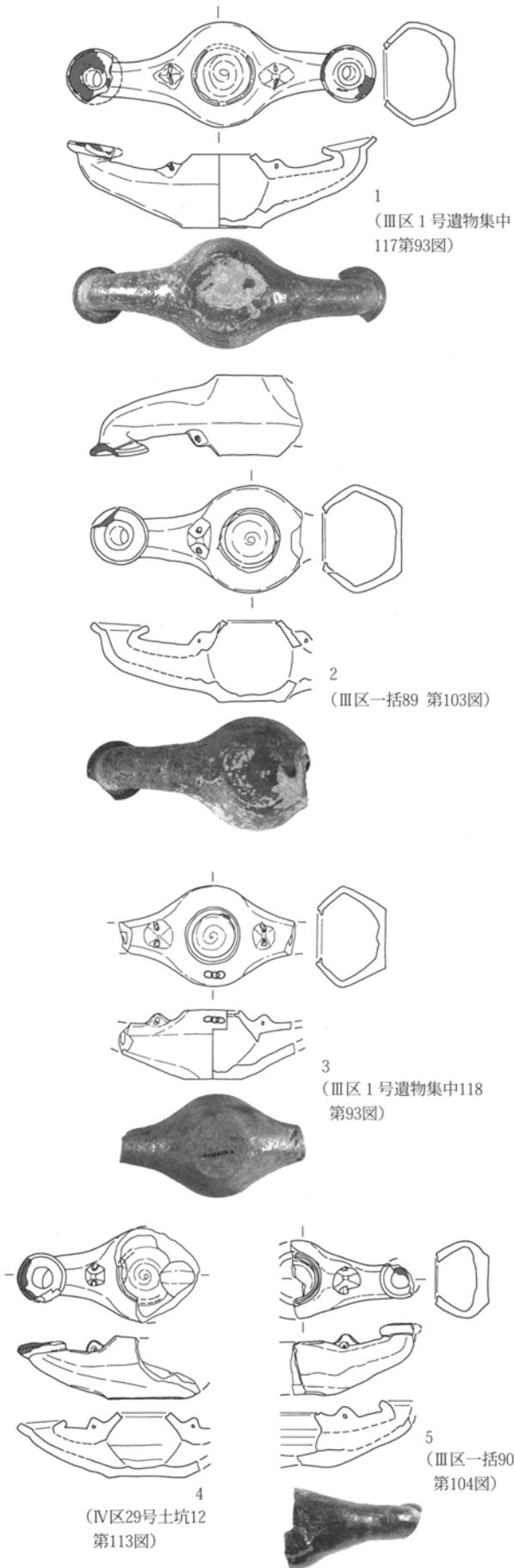
大きさは、1は長さ23.7cm、幅6.0cm、高さは本体が5.6cm、腕部も含めた高さは6.9cmである。これを基準にすると、2は本体の高さはやや高いがほぼ同型、3・4はそれよりやや小さく、腕の長さも短い。5は腕の長さは4に近いが、本体はさらに小型で小さい。

いずれも本体は轆轤で成形し、そこに腕のような両口部が取り付けられている。2では底部に回転糸切り痕が残っており、いずれも底部内面に指ナデ痕が残る。底部の平面形状は1・4が菱形状、2・5が方形、3は円形である。本体口唇部にはいずれも蓋受けが付くが、蓋は見当たらない。両腕部の付け根には釣り手用の紐かけ孔がつく一対の突起があり、2ではこの部分に銅線が一部残っていた。

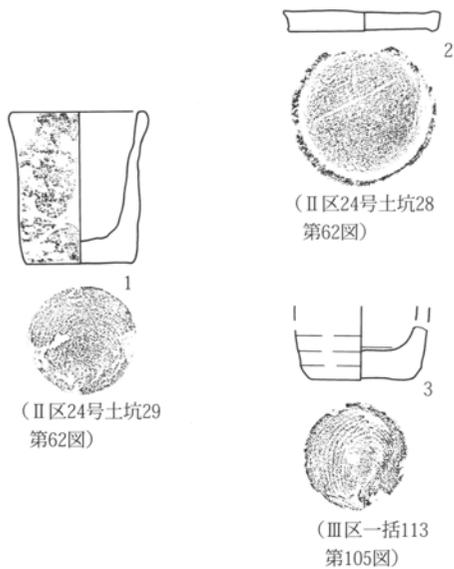
なお、燃焼部が欠損する3以外の4点は、いずれも燃焼部を中心に使用による煤油が明瞭に付着している。

こうしたカンテラは18世紀後葉以降に出現したもので、天井から吊り下げた「八軒」もしくは「八方」と呼ばれる照明具のなかに入れて使用されたとされており、以前は江戸市中でのみ使用された特殊な器種と考えられていた。

少なくとも高所に吊り下げて広範囲を照らす道具であることは間違いなく、大広間や湯屋、あるいは広い作業場などで使用されたものであろう。それが5点も出土しているとなれば、当遺跡付近にそうした施設があったことになる。また、これらは5点のうち2点がⅢ区1号遺物集中、2点がⅢ区一括からの出土であり、文字資料の「世良田 清水屋」との関連を想定させる。



第49図 出土したカンテラ



第50図 出土した焼塩壺

3. 焼塩壺

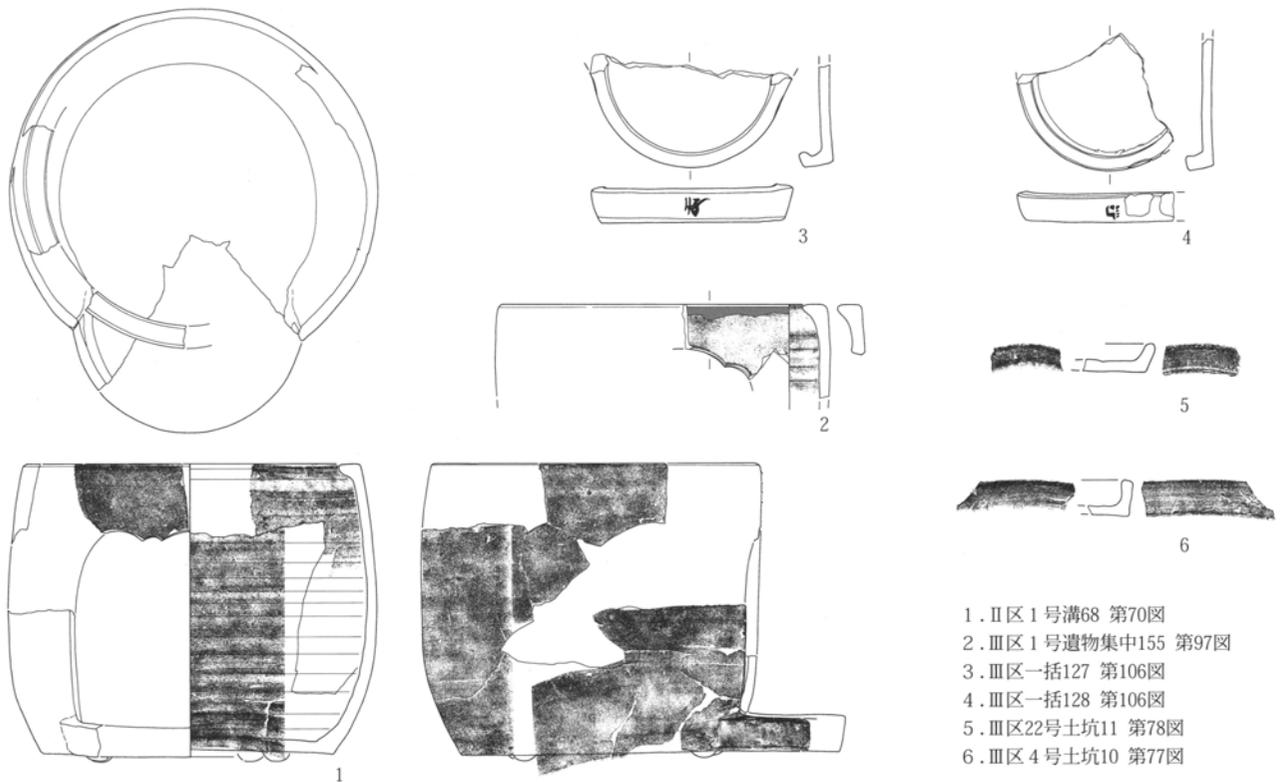
身が2点、蓋が1点、計3点が出土している。身は二つとも轆轤成形のもので、底部に回転糸切り痕を残す。いずれも皿類と言われる江戸時代後半期のもので、僅か

な出土数だが群馬県では城以外で出土する事例は極希であり、本地区が一般的な農村や集落ではないことを示す資料の一つでもある。

4. 置き竈

土器類のなかで注目したい遺物の一つがこの「置き竈」である。同じ形態と考えられるものが6点出土しているが、県内の他の遺跡からの出土例は寡聞にして知らない。これらの出土位置は6点中5点がⅢ区から、1点はⅡ区からの出土だが、いずれも半径40m以内の至近距離からの出土である。なお、非掲載であるが、この他にⅢ区1号礎石から4点、Ⅲ区1号遺物集中箇所から23点、Ⅲ区一括から3点、Ⅳ区一括から2点の破片が出土している。

ほぼ全容が把握できる1は大きさが胴部直径39.2cm、高さ31cmで、底部に半球状の脚が4個付く。正面に狭間様の装飾を施した焚き口枠があり、その下部に縁がつく半円状の盤が取り付けられている。そのほかでは狭間様の装飾がある上端部(2)1点と焚き口下部の盤が4点(3・4・5・6)出土しており、このうち3・4は正面部に墨書がある。盤は1も含めて5点あり、1は直径26cmほどだが、その他の4点はいずれも直径20cmほどで共



第51図 出土した置き竈

通している。ただし、縁部の形態は皆異なっており、手作りとはいえこだわりを感じる。

置き竈はその構造から板の間や室内での煮炊きを可能にする道具と考えられ、料亭などの高級な施設で使用された可能性も考えられるのではないだろうか。

5. 手水鉢

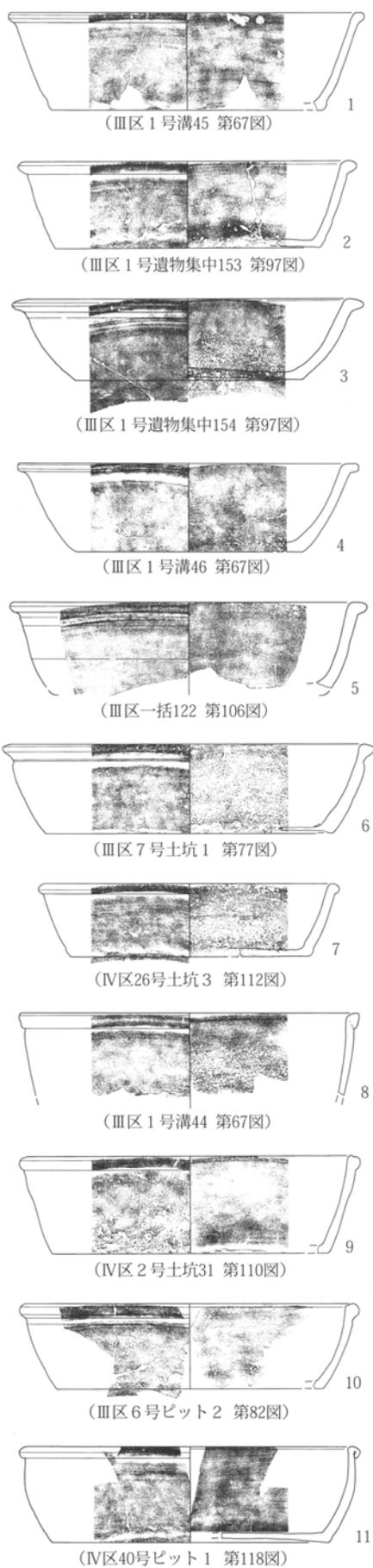
土器類のなかでもう一つ注目したいのは、燻して黒くした大きな鉢である。総計11点が出土しており、県内でもこれだけまとまって出土する例は少ない。

大きさはいずれも口縁部直径が40cmほどあり、口唇部から内面にわたって入念に研磨を施し、光沢を放っている。二次焼成を受けて変色したもの(5)や焼成がややあまいもの(10)もあるが、この点は当器種の最大の特徴である。形態は、体部が大きく開き、口縁部上端がくの字状に外折して口唇部上端が平坦になるもの(1~6)と、体部の開きが小さく、口縁部上端に隆帯を施すもの(7~11)とがある。

同様の形状を呈するものはこの他に数点あるが、内面の研磨が認められないため除外した。火鉢としたものも燻して黒くしたものが多く、口唇部に光沢を施すが、内面を研磨するものはない。

これらは手水鉢として使用された可能性を考えたい。当遺跡では水鉢の出土がほとんどなく、焙烙に比べて底部もやや厚手につくられており、水を扱う器としてこの器種がふさわしいと判断した。当然染み出しはあるだろうが、そのことを予め了解していれば不都合はないのではないか。

以上、出土遺物から窺えた当遺跡の特色のいくつかを述べてみた。工事の性格上掘幅部のみに限られた調査で遺構は全容まで把握できないが、出土遺物は各種の材料が比較的出揃っており、江戸時代後期の当地域の基準的な資料を提示することができた。また、出土遺物のなかには周囲に店舗等が並んだ商業地区の様相が想定されるものもあり、江戸時代後期に「大門町」や「中町」と呼ばれた世良田十字路の様相を垣間見ることができた。



第52図 出土した手水鉢

第3節 まとめ

周知のように、世良田環濠集落遺跡は、平安時代末期の1157（保元2）年に、源義国の長男である新田義重が、父義国とともに再開発した上野国新田郡西部の早川流域・石田川流域の「空閑の郷々」19郷（女塚、上江田、下江田、田中、大館、粕川、小角、押切、出塚、世良田、三木、上今井、下今井、上平塚、下平塚、木崎、長福寺、多古宇、八木沼）について、鳥羽法皇御願寺である金剛心院を本家に、藤原北家花山院藤原忠雅を領家として寄進され立券し、同年、藤原忠雅により新田義重が新田荘下司職に補任されて成立した上野国内屈指の中世荘園である新田荘のただ中に所在する中世に形成された環濠集落遺跡として名高い遺跡である。

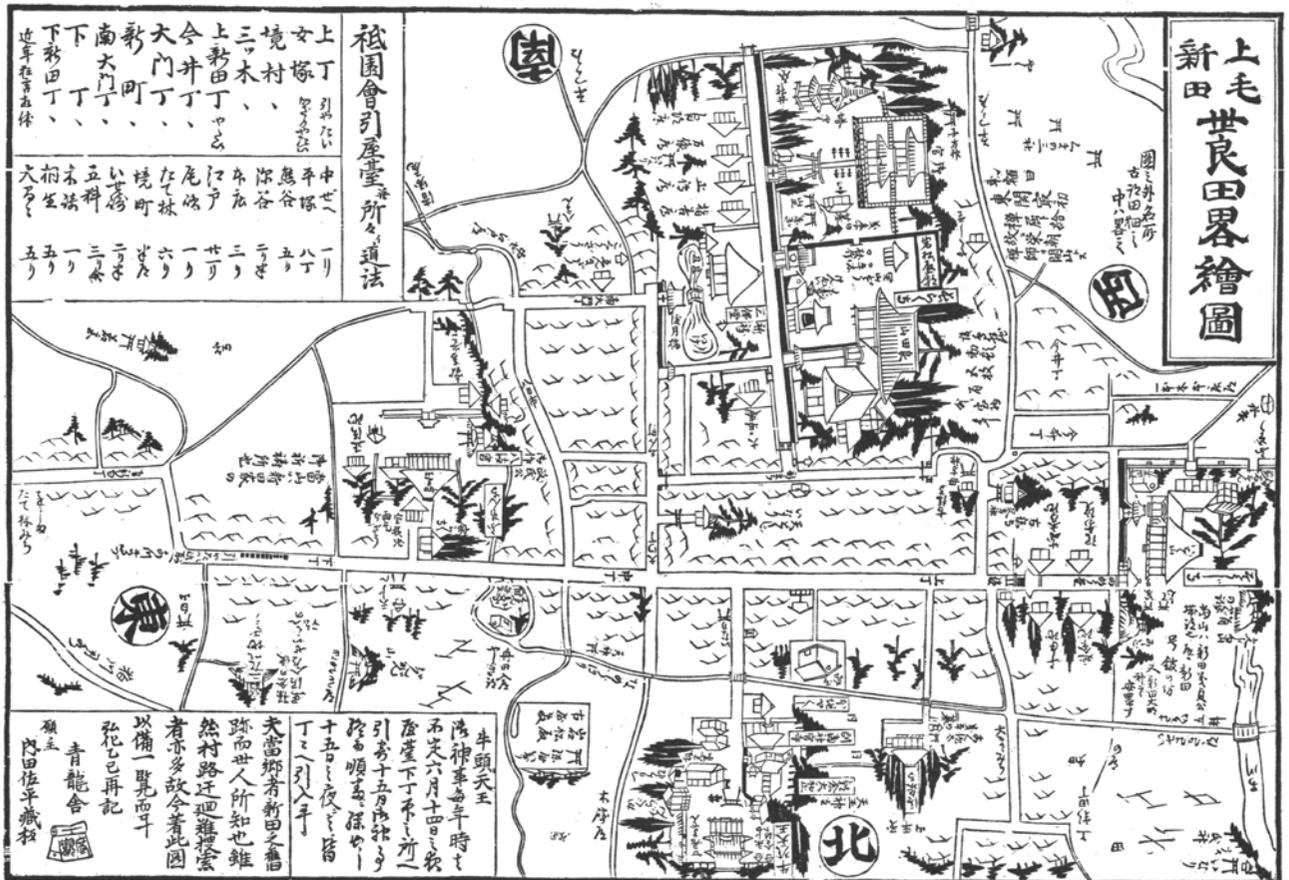
周囲には、北に金山城を築いた由良氏の重臣であった大沢氏の居館であったと伝える岩松陣屋跡や八坂神社、西に新田氏本宗家の館跡と伝えられる新田館跡、東に新

田氏累代の家臣であった船田氏の居館跡と伝えられる船田館跡、南に中世以来の古刹である長楽寺など、重要な中世の遺跡が点在している。

ただ、世良田環濠集落の実態は、遺跡範囲内の市街地化が甚だしいことなどもあり、現在までのところ、ほとんど明らかになっていないのが実情である。

平成24年度に太田市教育委員会の調査により中世の環濠集落の堀が早川まで続いていたことが明らかとなったが、平成26年2月から12月まで断続的に実施され世良田交差点改良工事に伴う今回の一連の発掘調査では、残念ながら、これに関係する堀跡は発見されず、明確な中世の遺構もほとんど発見することができなかった。

近世の井戸、土坑、建物の柱穴跡、柵列の穴跡等の遺構が確認され、とくに土坑からは長楽寺で使用された多数の瓦片が出土した。その概要については、『世良田環濠集落遺跡』（1）で報告したとおりであり、近世に徳川將軍家の家祖と位置づけられた中世豪族得川氏の開基である長楽寺は、江戸時代を通じて幕府の手厚い庇護を受



第53図 上毛新田世良田略絵図(弘化2(1845)年)

(太田市立新田荘遺跡資料館提供)

け、その繁栄が、「門前町」とも言うべき世良田交差点周辺の集落にも大きな影響を及ぼしていたことを改めて認識させられた。

今回、ここに報告する発掘調査においても、残念ながら、建物については、調査範囲が狭いため、全体像は全く明らかにすることができなかった。また、現在の道路に並行して近世の柵列の跡がいくつも検出されており、おそらく、近世以前の道に面して柵が存在したものと考えられる。

また、今回の一連の調査で、大量に出土した近世～近代の陶磁器類には、当時は使用されることが極めて希であったカンテラが含まれていたり、また、当時は高級品とされた肥前陶磁が多数出土していたり、さらには京・信楽系陶器や瀬戸・美濃系陶磁器、常滑陶器など大量に

出土しており、この地における物資流通の高い水準のほどや、そうした器物を大量に購入・使用しつづけていたこの地域の豊かさには驚嘆の念を禁じ得ない。江戸幕府の歴代将軍の手厚い庇護を受けてきた中世以来の古刹・長楽寺の門前町というこの地の特質を考慮しても、主要街道に直接面しているわけでもなく、宿場町でもないこの地域にこれほどの流通と消費があったことは、これまで予測できなかったことである。今後、周辺地域の歴史的環境を考察する上で、重要な手がかりとなりうる事象であると確信する。

また、これほどまとまって出土した近世陶磁器類の資料群は、群馬県内における近世陶磁器の一つの指標となるべき資料と位置づけられるものと考えられる。資料として活用されることを期待したい。



第54図 山崎一氏作図世良田環濠集落図
(太田市立新田荘遺跡資料館提供)

遺物観察表

Ⅱ区2号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				長 幅	(9.5) (4.6)	厚 重			
第55図	1	石製品砥石	2/3				砂岩	研面は3面認められる。正面及び裏面は、研ぎ減りと考えられるやや内湾した形態である。右側面はほぼ平坦である。上部、下部及び左側部欠損。	

Ⅱ区6号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				口 底	13.2 5.4	高			
第55図	1	肥前磁器染付皿	ほぼ完形				白灰	見込み蛇の目釉剥ぎ。見込みコンニャク判による五弁花。体部内面唐草文と2重圏線。外面無文。	
第55図	2	肥前磁器染付皿	一部欠損				白	見込み蛇の目釉剥ぎ。見込みコンニャク判による五弁花。体部内面唐草文と2重圏線。外面無文。	
第55図	3	肥前磁器染付皿	一部欠損				白灰	見込み蛇の目釉剥ぎ。見込みコンニャク判による五弁花。体部内面唐草文と2重圏線。外面無文。1と揃い。	
第55図	4	肥前磁器染付皿	一部欠損				白灰	体部外面に唐草文。見込み1重圏線内に「□□屋(ひらのやカ)」と屋号「鉤藤」カ「兼友」カ。底部高台内1重圏線内に渦福字銘カ。器形に歪み。焼成不良。	
第55図	5	瀬戸・美濃陶器染付皿	一部欠損				灰黄白	見込み蛇の目釉剥ぎ。中央に手書きの帆掛舟。体部内面に花唐草文と1重圏線。外面無文。	
第56図	6	瀬戸・美濃陶器染付皿	一部欠損				灰黄白	見込み蛇の目釉剥ぎ。中央に手書きの帆掛舟。体部内面に花唐草文と1重圏線。外面無文。5と揃い。	
第56図	7	在地系土器皿	ほぼ完形				橙	体部直線的に開く。底部内面指撫で。底部回転糸切り、無調整。糸が細かく細い。底部のほぼ中央に焼成後の小円孔。	
第56図	8	在地系土器皿	ほぼ完形				にぶい橙	体部直線的に開く。底部内面指撫で。底部回転糸切り、無調整。糸が細かく細い。	
第56図	9	在地系土器皿	1/2				浅黄橙	体部直線的に開く。底部内面指撫で。底部回転糸切り後、撫で。糸が細かく細い。底部のほぼ中央に焼成後の小円孔。	
第56図	10	在地系土器皿	1/3				にぶい黄橙	体部直線的に開く。底部内面指撫で。底部回転糸切り、無調整。糸が細かく細い。	
第56図	11	鉄製品釘	一部欠損					断面ほぼ正方形の角釘。先端に向かい徐々に細くなるが先端は尖らないが破損の可能性も有る。頭は薄く延ばし直角に曲げるが端は劣化破損する。木質等は確認できない。	

Ⅱ区7号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				横 縦	6.8 6.5	厚			
第56図	1	円盤形土製品	完形				灰	瓦の破片を円形状に打ち欠いたもの。	器面摩滅

Ⅱ区12号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				口 首 底	4.2 2.5 7.2	高			
第56図	1	瀬戸・美濃陶器爛徳利	一部欠損				淡黄白	注ぎ口が嘴状に尖るが欠損。体部の片面に鉄絡具で擬宝珠を2つ描く。口縁部内面と外面に灰釉。貫入する。	器面摩滅
第56図	2	在地系土器火鉢	口縁部1/4、体部1/3				にぶい橙～灰	体部が丸い小型品で、底部に丸い脚が3個付く。内外面燻し、黒色化。口唇部研磨・光沢。口縁部外面に太い沈線が巡り、体部外面に回転施文による縦位の櫛目文。	器面摩滅
第56図	3	銅製品銭貨	一部欠損					文久永宝。表面外縁・文字・郭とも彫深く明瞭、裏面も外縁・波・郭とも彫深く明瞭。波型の摸様に沿ってゴースト状に低い波型の隆起が見られる。表裏両面に細かい条痕が密に存在する。	器面摩滅

Ⅱ区13号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				口 底	7.8 2.8	高			
第56図	1	肥前磁器染付丸碗	腰上3/4欠				灰白	体部外面に染付。内面無文。	
第56図	2	肥前磁器染付丸碗	体部1/4				灰白	体部外面に染付。内面無文。	
第56図	3	円盤状加工品	完形				灰白	肥前磁器、染付碗の底部を円形状に打ち欠いたもの。	
第56図	4	肥前磁器染付碗蓋	体部1/2欠				白	外面縦格子文。摘み内1重圏線内に寿カ。口縁部内面2重圏線、天井部内面1重圏線内に不明文様。広東碗の蓋。	
第57図	5	肥前磁器染付鉢	2/3				白	外面に草木文。内面無文。口唇部と口縁部内面の釉を拭き取る。高台外面に2重圏線。	
第57図	6	京・信楽系陶器碗	口縁部1/2欠				灰白	内外面に灰釉。貫入する。腰下と高台に釉無し。	
第57図	7	瀬戸・美濃陶器灰釉丸碗	口縁部1/4、体部1/2				灰黄白	内外面に灰釉。腰下と高台に釉無し。体部外面に鉄絵一部残る。	
第57図	8	瀬戸・美濃陶器灰釉折縁輪壳皿	2/3				白灰	口縁～腰部内外面と見込みに灰釉。	
第57図	9	瀬戸・美濃陶器灰釉折縁輪壳皿	口縁～体部1/4				灰	灰釉に貫入する。	

挿 図 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
			口底	高	径			
第57図	10 丹波陶器すり鉢	1/2、底部欠	口底 34.4 14.4	高	12.7	にぶい黄橙	直立する口縁部に凹線が2条巡る。口唇部に沈線1条。口縁部内面に段差。内面の櫛歯は6条。内外面に自然釉。底部は丸く打ち欠かされている。体部外面下指押さえ状圧痕。	
第57図	11 在地系土器瓦質鉢?	口縁部片	口底	高		灰	瓦質で硬質。外反する口縁部に等間隔に円孔が並ぶ。内折した口唇部が内面に突出し、上端に広い平坦面を形成。	
第57図	12 在地系土器焙烙	1/2	口底 (38.2) -	高	5.7	橙～黒褐	底部丸底。内耳2個残。内面研磨、軽い光沢。外面煤付着、黒色化。	
第58図	13 在地系土器焙烙	1/2	口底 (36.0) -	高	5.9	にぶい橙～黒褐	口縁部内湾。底部丸底状。内耳1個残。口縁部～腰部外面に煤付着、黒色化。	
第58図	14 在地系土器焙烙	1/3	口底 (37.0) -	高	-	橙～黒褐	底部丸底。内耳1個残。内面撫で。外面煤付着。	
第58図	15 在地系土器焙烙	口縁部片	口底 38.8 -	高	5.3	明赤褐	口縁部直立。底部丸底状。内耳1個残。外面に煤付着、黒色化。	
第58図	16 在地系土器焙烙	口縁部片	口底 (39.4) -	高	-	橙	口縁部直立。底部丸底状。内耳1個残。外面に煤付着、黒色化。	
第59図	17 在地系土器焙烙	口縁部片	口底 (36.2) (32.6)	高	5.6	黒～にぶい黄橙	口縁部外傾気味に直立。底部平底。口唇部外面に段差あり。内耳1個残。外面に煤付着、黒色化。底部外縁寄りに直径4mmの円孔あり。その周辺にキリ孔痕2カ所あり。	
第59図	18 在地系土器焙烙	1/6	口底 (36.0) (30.4)	高	5.0	にぶい黄橙	口縁部直線的に開く。底部平底。内外面燻し、黒色化。内面に轆轤目。腰下に押さえ痕。	
第59図	19 羽口	破片				にぶい橙	体部直径5.2cm、孔直径1.6cm。焼締まって重量感あり。外面煤付着、黒色。	

II区16号土坑

挿 図 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
			口底	高	径			
第59図	1 制作地不詳陶器徳利	完形	口底 2.7 5.4	高	18.6	にぶい黄橙	外面透明釉の上に口縁部に緑色釉を着け流し。透明釉の下半部では緑色釉が混ざって暗色化している。	
第59図	2 制作地不詳陶器急須	一部欠損	口底 6.0 5.0	高	7.0	褐灰	口唇部、注ぎ口端部、把手端部に黒色釉施釉。注ぎ口内面に茶漉しが付く。把手上面に桜の透かし。上げ底状の底面に布痕が残り、その中央に墨書で「トチ」の文字。	
第59図	3 在地系土器火鉢	口縁部1/3残	口底 11.0 -	高	-	にぶい橙	口縁部が僅かに外反しながら開き、口唇部がくの字に内折。内外面燻し、黒色化。口唇部～口縁部外面研磨・光沢。口唇部上面が一樣に荒く擦ったように削れており、口唇部内面も削れやキズが多い。	
第59図	4 在地系土器火鉢	1/3	口底 (16.3) 15.4	高	14.0	にぶい橙	円筒形の小型の火鉢で、口縁部が内側へ垂れ込み、腰部をめぐる凹線下が丸く突出する。内外面燻し、黒色化。口唇部研磨・光沢。体部外面に回転施文による鯨肌状文を施す。体部外面の一部と底部外縁の摩耗が顕著。	
第60図	5 在地系土器焜炉	体部上半1/3残	口底 (34.0)	-		橙	円筒状の焜炉で、外面に櫛歯の斜格子文が施される。内外面燻し、灰色化。口唇部上面に粗い条痕様の撫で痕がつくが、使用により摩耗。内面被熱・白色化、煤付着。	
第60図	6 在地系土器焜炉	口縁部1/3、体部内面一部残	口底 (20.0)	-		橙～黒褐	体部が二重構造の焜炉で、口唇部に鍋掛け用の突出部がつく。外面燻し・黒色化。口唇部上面と口縁部外面研磨・光沢。口縁部外面に2条の沈線がめぐる。内側部分は中位でロート状に細くなる構造で、上半部には一定間隔で円孔が付き、下半部に方形の出し入れ口がある。	
第60図	7 鉄製品鎌	ほぼ完形	長幅 18.6 9.8	厚重	1.1 80.99		細身の鎌で、先端部は特に細く研ぎ減りと見られるが、錆化が著しく砥界面は識別できない。茎は端部を細く延ばし折り曲げる形状。柄の木質等は確認できない。	
第60図	8 礫石器磨石	完形	長幅 11.8 9.7	厚重	2.3 416.5	粗粒輝石安山岩	扁平な円礫を素材とする。正面及び裏面の全体に弱い磨面をもつ。	

II区24号土坑

挿 図 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
			口底	高	径			
第61図	1 肥前磁器小坏	完形	口底 6.0 2.4	高	3.0	白	外面口縁部下に微隆線がめぐる。内外面に灰釉。口錆。	近現代。
第61図	2 肥前磁器小坏	完形	口底 6.6 2.4	高	2.8	白	口縁部外面笹状の染付。正面のみに染付。内面無文。高台内中央に小さな凹みあり。	
第61図	3 瀬戸・美濃磁器小坏	完形	口底 7.1 2.9	高	4.7	白	外面に花蝶文染付。腰と高台外に2重圏線。内面無文。	
第61図	4 制作地不詳磁器碗	一部欠損	口底 7.3 3.1	高	5.6	白	体部2箇所に素地に模様を線刻し、その上に呉須を刷毛塗りする。内面無文。貫入する。	近代か。
第61図	5 瀬戸・美濃磁器小坏	一部欠損	口底 5.1 3.3	高	5.3	白	外面に縦格子文様を染付。内面無文。口唇部を呉須で縁取り。高台内1重圏線内に不明銘。	近現代。
第61図	6 肥前磁器染付端反碗	2/3	口底 10.5 3.6	高	5.9	白	外面に線書きの牡丹文様。口縁部内面に鋸歯文帯、見込み1重圏線内に寿字文か。	近代。
第61図	7 瀬戸・美濃磁器染付猪口	完形	口底 6.5 4.6	高	5.4	灰白	やや小型、底部蛇の目凹型高台。内外面に白色釉。外面に浜辺風景染付。見込みに帆掛け舟か。口錆。釉は白濁し、焼成不良。	
第61図	8 肥前磁器染付猪口	1/3	口底 (7.3) (5.4)	高	5.6	白	外面に山河文様。口縁部内面に2重圏線。見込みに1重圏線。	
第61図	9 肥前磁器染付猪口	体部片	口底 - (5.9)	高	-	灰白	やや大型。外面に立木文様。内外面灰釉に貫入する。	

遺物観察表

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
				口 底	高	重				
第61図	10	制作地不詳 磁器白磁端 反皿	1/3	口 底	(12) (6.7)	高	2.1	灰白	腰が折れて口縁部が外反。見込みに素地を毛彫りした文様がつく。軸は淡い水色。	
第61図	11	肥前磁器染 付皿	2/3	口 底	12.4 4.4	高	3.9	灰白	見込み蛇の目軸剥ぎ。体部内面斜格子文と2重圏線。外面無文。	
第61図	12	瀬戸・美濃 陶器染付皿	2/3	口 底	14.0 6.6	高	3.9	灰白	体部内面に扇文と花文を2組配置。見込みに帆掛け舟。体部外面に結び目文を2組配置。高台内中央に円形の削り。内外面とも貫入入る。	
第61図	13	瀬戸・美濃 陶器染付皿	一部欠損	口 底	13.6 6.7	高	3.6	灰白	体部内面に扇文と花文を2組配置。見込みに帆掛け舟。体部外面に結び目文を2組配置。高台内中央に円形の削り。内外面とも貫入入る。	12と揃い。
第62図	14	京・信楽系 陶器か灰釉 蓋	完形	口 底	5.5 3.5	高	1.3	灰白	上面蛇の目削りだし。摘み部に僅かな円形の突出あり。上面に灰釉、貫入入る。	
第62図	15	京・信楽系 陶器か灰釉 蓋	完形	口 底	5.6 3.8	高	1.3	灰黄白	上面蛇の目削りだし。摘み部に円形の突出部がつく。上面に灰釉、貫入入る。	
第62図	16	制作地不詳 陶器透明釉 蓋	一部欠損	口 底	5.5 2.3	高	1.6	淡黄	ロート型で端部が外反し、片側に円孔がつく。上面蛇の目削りだし。摘みは乳首状。上面に透明釉、貫入入る。裏面回転系切り、無調整。	
第62図	17	制作地不詳 陶器染付蓋	一部欠損	口 底	6.6 2.0	高	1.4	灰白	ロート型で端部が外反し、片側に円孔がつく。上面に鷲の飛来図を染付。摘みは付くが欠損。上面に灰釉、貫入入る。裏面回転系切り、無調整。	
第62図	18	制作地不詳 陶器蓋	完形	口 底	8.1 -	高	2.1	灰黄褐	無釉。型作り成形で、上面に布痕が残る。摘みは粘土紐をS字状にして貼り付け、片側に円孔を施す。内面に指痕が残る。	
第62図	19	京・信楽系 陶器か灰釉 灯明油皿	1/3	口 底	(10.3) (4.0)	高	2.4	灰	上面に灰釉、外面無釉。見込みと体部外面に重焼痕。	
第62図	20	瀬戸・美濃 陶器錆釉灯 明油皿	完形	口 底	9.2 4.1	高	1.8	灰白	錆釉施釉後、口縁部外面以下を払う。見込みと体部外面に重焼痕。	
第62図	21	瀬戸・美濃 陶器錆釉灯 明油皿	一部欠損	口 底	9.6 4.0	高	2.3	灰	受け部1箇所をU字形に抉る。錆釉施釉後、口縁部外面以下を払う。受け部と体部外面重焼痕。	
第62図	22	瀬戸・美濃 陶器錆釉灯 明油受皿	完形	口 底	9.1 4.1	高	2.0	灰	受け部1箇所をU字形に抉る。錆釉施釉後、口縁部外面以下を払う。受け部と体部外面重焼痕。	
第62図	23	京・信楽系 陶器か灰釉 灯明油受皿	一部欠損	口 底	9.7 3.9	高	2.0	灰白	受け部1箇所をU字形に抉る。上面に灰釉、外面無釉。受け部と体部外面重焼痕。	
第62図	24	京・信楽系 陶器か灰釉 灯明油受皿	口縁部3/4欠	口 底	10.4 3.8	高	2.0	黄灰白	受け部1箇所をU字形に抉る。上面に灰釉、外面無釉。受け部と体部外面重焼痕。	
第62図	25	瀬戸・美濃 陶器鉄絵 ひょうそく	完形	口 底	5.1 3.6	高	4.2	淡黄	内面と外面腰まで鉄釉。底部回転系切り後、無調整。底面中央に固定用の円孔あり。底部に「に」と墨書。いろはで順に記載したものであろう。	
第62図	26	制作地不詳 灰釉片口鉢	ほぼ完形	口 底	16.8 8.7	高	7.9	オリーブ灰	口縁部に肥厚帯、その下に片口がつく。内面と外面腰まで灰釉。見込みにトチン痕5個、高台に重焼痕。	
第62図	27	在地系土器 皿?	完形	口 底	5.0 1.9	高	0.9	橙	浅く開いた形態。底部をややくぼめ、周囲を爪状の圧痕で丸く表現。内面入念撫で。外面に細かな割れが残る。非実用品か。蓋の可能性もあり。	
第62図	28	搬入形土器 焼塩壺蓋	一部欠損	口 底	6.2 5.8	高	0.8	橙	型作り成形。裏面の周囲に縁が付く。	
第62図	29	搬入形土器 焼塩壺	体部1/3	口 底	(5.2) 4.2	高	6.0	橙	口縁部付近やや外反。轆轤整形。底部回転系切り、無調整。外面の器面荒れ顕著。	
第63図	30	制作地不詳 陶器鍋蓋	1/3欠	口 底	4.2 16.0	高	4.7	黄橙	天井部に高台様の丸い把手がつく。体部外面に飛びかんなの文様。把手の外側と腰部に蛇の目状に薄い鉄泥。内面に薄い緑釉。	
第63図	31	在地系土器 サナ	1/3	口 底	(14.8) -	高	2.1	黄白	型作り成形。上面が被熱で赤色化、灰付着。	
第63図	32	瓦棧瓦	破片			高	1.7	灰	表面灰色から灰黒色。縁に面取り。	
第63図	33	瓦棧瓦	1/4			高	1.7	灰	表面灰色から灰黒色。縁に面取り。	
第63図	34	銅製品銭貨	完形	縦 横	2.669 2.680	厚 重	0.114 3.10		文久永寶。表面外縁・文字・郭とも彫深く明瞭、裏面も外縁・波・郭とも彫深く明瞭。	

II区1号井戸

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
				口 底	高	重				
第63図	1	在地系土器 皿	1/3、口縁部欠	口 底	- (6.8)	高	-	にぶい橙	外面腰部に素地土の継ぎ目。底部回転系切り、無調整。	
第63図	2	在地系土器 皿	1/3	口 底	(7.2) (5.6)	高	1.7	にぶい黄橙	見込み周囲が凹む。内面に煤油付着。底部回転系切り、無調整。	

Ⅱ区2号井戸

挿 図 No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
			口底	高	厚			
第63図	1 肥前磁器湯呑み	1/3	口底 (6.8) (4.2)	高 6.0		白	外面に手書き草花文。内面無文。	近代か。
第63図	2 肥前磁器染付丸碗	体部1/4	口底 (8.0) -	高 -		灰白	外面に染付。口縁部内面に2重圏線	
第63図	3 瀬戸・美濃陶器染付筒形湯呑	1/2、口縁部欠	口底 - (3.2)	高 -		灰白	焼成不良。外面に菊花文。見込み1重圏線内に不明文様。	
第63図	4 肥前磁器丸碗	口縁部片	口底 (9.0) -	高 -		灰白	外面に緑釉。口縁部内面に斜格子帯。見込み1重圏線。	
第63図	5 京・信楽系陶器灰釉蓋	1/2	口底 5.0 3.8	高 1.1		灰白	上面蛇の目削りだし。摘み部欠損。上面に灰釉、貫入入る。24土14と同型か。裏面合わせ部を細かく打ち欠いて、鋭利な刃を作出している。	
第63図	6 在地系土器皿	底部	口底 - 6.1	高 -		橙	体部欠損。焼成良好。底部やや上げ底。底部内面指撫で。底部回転糸切り、無調整。底部の中央と片側に小円孔2個。	中世か。
第63図	7 在地系土器甕か	体部下半1/4	口底 - (11.5)	高 -		橙	焼成良好、硬質。胴部直立。内面に轆轤目。外面研磨、光沢。	
第63図	8 在地系土器置輪	破片				にぶい橙	表面に煤付着。	
第63図	9 在地系土器焙烙	口縁部片				橙	内耳1個残。	
第63図	10 石製品砥石	1/2	長幅 (4.8) 2.4	厚重 1.5 24.4		砥沢石	研面は3面認められ、それぞれほぼ平坦な形態である。正面には、刃慣らし傷と考えられる痕跡が認められる。右側面には櫛歯タガネ痕が明瞭に認められ、上面にはそれが僅かに残る。下部欠損。	
第63図	11 石製品砥石	2/3	長幅 6.2 2.0	厚重 2.2 43.4		砂岩	研面は3面認められる。正面は、研ぎ減りと考えられるやや外湾した形態である。上面及び裏面はほぼ平坦である。左右側部及び下部欠損。	

Ⅱ区3号井戸

挿 図 No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
			底	高	厚			
第63図	1 在地系土器皿	底部片	底 (7.0)			橙	焼成良好。底部回転糸切り、無調整。見込みに墨書。文字不明。	
第63図	2 在地系土器鉢	破片				にぶい黄橙	胴部下半から底部の内面が摩耗。	中世。

Ⅱ区4号井戸

挿 図 No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
			口底	高	厚			
第64図	1 肥前磁器染付丸碗	1/2	口底 (8.6) (3.5)	高 4.3		白	外面にコンニャク判による菊花文を配置。内面無文。	
第64図	2 中国白磁皿	底部1/3残	口底 - (6.0)	高 -		灰白	底部内面見込みに削りの段差がめぐる。底部外面に釉の拭き取り痕、茶色に変色。口禿皿の底部。	
第64図	3 瀬戸・美濃陶器天目茶碗	腰部片	口底 -	高 -		灰白	内外面に鉄釉。	
第64図	4 焼締陶器甕	胴部片	口底 -	高 -		灰オリーブ	内面横撫で。外面縦撫で。	
第64図	5 常滑陶器甕	胴部片	口底 -	高 -		灰～灰黒	外面に鉄釉。内外面に自然釉。外面では自然釉が流れる。	
第64図	6 石製品砥石	2/3	長幅 (7.0) 2.8	厚重 1.6 54.5		デイサイト	研面は5面認められる。正面は、研ぎ減りと考えられるやや外湾した形態である。裏面、右側面、左側面及び下面はほぼ平坦である。右側面には僅かに櫛歯タガネ痕が残る。上部欠損。	
第64図	7 石製品砥石	ほぼ完形	長幅 8.8 (2.8)	厚重 2.3 63.9		デイサイト	研面は3面認められる。正面及び裏面は、研ぎ減りと考えられる著しく外湾した形態である。右側面はほぼ平坦である。	

Ⅱ区1号溝

挿 図 No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
			口底	高	厚			
第64図	1 肥前磁器染付小坏	一部欠損	口底 6.2 2.7	高 3.1		白	極薄成形。口縁部内外面に矢羽根文帯。腰に染付帯。見込みに月か。いわゆる卵殻手。	
第64図	2 肥前磁器染付小坏	一部欠損	口底 7.0 2.4	高 3.8		灰白	外面に草花文。内面無文。	
第64図	3 肥前磁器染付小坏	1/2	口底 (7.2) (2.8)	高 2.8		灰白	口縁部外面に斜格子文。内面無文。焼成不良。	
第64図	4 肥前磁器染付小坏	体部1/2欠	口底 7.2 -	高 -		白	外面に草花文。内面無文。二次被熱。	2と揃い。
第64図	5 肥前磁器染付端反碗	体部2/3欠損	口底 (8.4) 3.5	高 5.2		白	外面に海浜図。内面無文。高台外に2重圏線。	
第64図	6 肥前磁器染付湯呑	一部欠損	口底 7.2 (3.7)	高 6.2		灰白	外面に花鳥図。内面無文。	
第64図	7 肥前磁器染付湯呑	1/3	口底 (7.3) (3.2)	高 5.8		白	外面に花図。内面無文。	

遺物観察表

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
				口 底	7.0 3.3	高				6.5
第64図	8	瀬戸・美濃 磁器染付湯 呑	1/2	口 底	7.0 3.3	高	6.5	白	外面に花図。内面無文。	近代か
第64図	9	肥前磁器染 付碗	1/3欠	口 底	7.5 3.7	高	5.3	灰白	焼成不良。外面に格子文を描く。	
第64図	10	肥前磁器染 付湯呑	1/2	口 底	7.6 3.4	高	5.9	白	外面に花鳥図。口縁部内面と高台外に淡く2重圏線。欠損部断面に漆継ぎの黒褐色漆が残る。	
第64図	11	肥前磁器染 付湯呑	1/2	口 底	7.5 4.2	高	5.4	白	腰が水平に開き、高台がハの字に開く。外面に風景図。口縁部内面に崩れた雷文帯。高台外に2重圏線。内外面に赤橙色の溶液付着。欠け口断面に焼継痕。高台内面に焼継溶液で「文吉」と記載。	
第64図	12	肥前磁器染 付丸碗	1/3	口 底	8.4 3.4	高	4.9	灰白	外面に草花図。口縁部内面に2重圏線。見込み1重圏線内に略した五弁花。	
第64図	13	肥前磁器染 付筒形湯呑	体部2/3欠損	口 底	(6.2) 2.8	高	4.5	白	外面に円文。内面無文。	
第64図	14	肥前磁器染 付筒形湯呑	体部2/3欠損	口 底	8.0 4.2	高	5.8	白	焼成不良。外面に菊花文。口縁部内面に2重圏線。見込み1重圏線内に五弁花か。	
第64図	15	肥前磁器染 付丸碗	1/2	口 底	9.6 4.0	高	4.8	白	外面に菊花と薦。内面無文。高台内に1重方角渦福字銘。	
第64図	16	肥前磁器染 付端反碗	1/2	口 底	11.0 4.2	高	6.1	灰白	外面に斜格子文。口縁部内面に裝飾帯、見込み1重圏線内に不明文様。高台外面に2重圏線。	
第64図	17	肥前磁器染 付平碗	体部下半1/2	口 底	- 3.2	高	4.4	白	外面に竹か。内面無文。	近現代。
第65図	18	肥前磁器染 付広東碗	体部下半1/2	口 底	- 6.2	高	5.1	灰白	外面に呉須2色使用の染付。見込み1重圏線内に不明文様。高台端に砂付着。	
第65図	19	肥前磁器染 付端反碗蓋	一部欠損	口 底	9.1 3.9	高	2.8	白	外面に梅と草花。口縁部内面に裝飾帯、見込みの草花。	
第65図	20	肥前磁器染 付皿	1/2	口 底	12.7 5.4	高	2.6	灰白	内面に薦文、見込み五弁花コンニャク判。蛇の目に釉掻き取り。底部と見込みに重焼痕。	
第65図	21	肥前磁器染 付皿	一部欠損	口 底	12.6 5.6	高	2.9	灰	内面に薦文、見込み五弁花コンニャク判。蛇の目に釉掻き取り。底部と見込みに重焼痕。	20と揃い。
第65図	22	肥前磁器染 付輪禿皿	口縁部1/2欠	口 底	13.4 4.9	高	2.7	灰	内面に薦文、見込み五弁花コンニャク判。蛇の目に釉掻き取り。底部と見込みに重焼痕。	
第65図	23	肥前磁器染 付輪禿皿	一部欠損	口 底	13.6 5.5	高	3.1	灰白	内面に薦文、見込み五弁花コンニャク判。蛇の目に釉掻き取り。見込みに重焼痕。	22と揃い。
第65図	24	肥前磁器染 付輪花鉢	腰下1/2残	底	6.4			白	内外面に染付。高台外面に2重圏線。	
第66図	25	肥前磁器染 付輪花鉢	一部欠損	口 底	18.4 9.2	高	8.5	灰白	内面に2種の草花図を2組配置。見込みに龍図。外面に同図案を4組配置。底部蛇の目凹型高台。高台内外周の釉を掻き取る。豊付にも施釉。一部に焼継があり、その溶剤で見込みに斜格子様の図形を施す。	
第65図	26	瀬戸・美濃 陶器腰鏝碗	1/4	口	(9.5)			灰白	灰釉に貫入入る。	
第65図	27	制作地不詳 陶器陶器灰 釉端反碗	1/2	口 底	(10.0) 4.7	高	5.4	淡黄	内面と外面腰下まで灰釉を施し、内外面とも腰位に白土を横位に半周分だけ刷毛塗り。削り出し高台。	
第65図	28	瀬戸・美濃 陶器灰釉折 縁輪禿皿	破片	口 底	(14.0) (5.3)	高	3.8	灰白	内外面腰まで灰釉。	
第65図	29	瀬戸・美濃 陶器皿	底部片	底	(14.0)			灰白	内面に呉須と鉄絵具で文様を描く。内外面の灰釉に貫入入る。見込みにトチン痕2個。	
第65図	30	瀬戸・美濃 陶器鏝釉灯 明油皿	1/2	口 底	9.2 3.6	高	1.8	灰	鏝釉施釉後、口縁部外面以下を払う。見込みと体部外面に重焼痕。	
第65図	31	瀬戸・美濃 陶器鏝釉灯 明油皿	1/4	口 底	(10.6) (4.6)	高	2.0	灰白	鏝釉施釉後、口縁部外面以下を払う。見込みに重焼痕。	
第66図	32	瀬戸・美濃 陶器鏝釉灯 明油皿	1/2	口 底	9.8 3.7	高	1.8	灰	鏝釉施釉後、口縁部外面以下を払う。見込みに重焼痕。	
第66図	33	瀬戸・美濃 陶器鏝釉灯 明油受皿	2/3	口 底	9.4 3.9	高	2.0	紫灰	受け部1箇所をU字形に抉る。鏝釉施釉後、口縁部外面以下を払う。受け部と体部外面重焼痕。口唇部3箇所に灯火痕。	
第66図	34	瀬戸・美濃 陶器鏝釉灯 明油受皿	1/2	口 底	9.6 4.1	高	2.3	灰白	鏝釉施釉後、口縁部外面以下を払う。受け部と体部外面重焼痕。口唇部1箇所に灯火痕。	
第66図	35	瀬戸・美濃 陶器鏝釉灯 明油受皿	腰上2/3欠	口 底	(9.7) 4.3	高	2.3	灰白	鏝釉施釉後、口縁部外面以下を払う。受け部と体部外面重焼痕。	
第66図	36	瀬戸・美濃 陶器鏝釉灯 明油受皿	2/3	口 底	9.2 3.8	高	1.9	黄灰	受け部1箇所をU字形に抉る。鏝釉施釉後、口縁部外面以下を払う。受け部と体部外面重焼痕。	
第66図	37	瀬戸・美濃 陶器鏝釉灯 明油受皿	1/3	口 底	(9.7) (4.3)	高	1.9	灰	鏝釉施釉後、口縁部外面以下を払う。受け部と体部外面重焼痕。口唇部に灯火痕2箇所。	

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				口底	高	厚			
第66図	38	瀬戸・美濃 陶器錆釉灯 明油受皿	口縁1/4、底部 1/2残	口底 (9.6) 4.2	高 1.8		灰	錆釉施後、口縁部外面以下を払う。受け部と体部外面重 焼痕。	
第67図	39	制作地不詳 陶器土瓶	体部2/3欠	口底 6.7 7.2	高 11.7		くすんだ灰橙	注口部欠損。肩部内面から体部外面下位灰釉。外面の変換 部分に鉄絵具で縁取り、内部に白土を使用して白鷺を描い ている。口唇部の釉は拭き取る。上げ底の底部と腰下に煤 が厚く付着。欠損部に焼継痕。	
第66図	40	瀬戸・美濃 陶器水甕	口縁部片				灰白	外面素地に文様印刻。内外面に灰釉、外面に緑釉施釉。貫 入する。	
第66図	41	瀬戸・美濃 陶器半胴甕	腰下1/3	底 6.2			灰白	内面と外面腰まで錆釉。	
第66図	42	瀬戸・美濃 陶器灰釉大皿	1/5	口底 (38.8) (18.6)	高 6.9		灰白	内面と外面腰まで灰釉。貫入する。見込みのトチン痕2箇所。	
第67図	43	堺・明石陶 器すり鉢	1/4	口底 (32.0) (14.2)	高 11.7		赤橙	底部上げ底。外縁部擦れ。内面平滑、見込みの櫛歯消滅。	
第67図	44	在地系土器 鉢	口縁部片	口 (42.0)			黒灰～灰白	内外面焼し、黒色化。口縁部肥厚。口唇部と内面研磨光沢。 内面下半部荒れ、キズ・剥がれ顕著。	
第67図	45	在地系土器 鉢	体部片	口底 (44.0) (34.0)	高 11.9		黒灰～灰白	内外面焼し、黒色化。口縁部小さく外折。口唇部と内面研 磨光沢。	
第67図	46	在地系土器 鉢	1/4	口底 (42.0) (28.0)	高 10.9		赤橙～黒灰	焼成良好、硬質。内外面焼し、黒色化。口縁部小さく外折。 口唇部と内面研磨光沢。底部に型作り痕。内面下半部やや 荒れ、キズ・剥がれ。	
第67図	47	円盤状加工 品	完形	口底 4.7 4.5	高 1.4			土器の破片を円形に打ち欠いたもの。	
第67図	48	在地系土器 皿	口頸部3/4欠	口底 (9.2) 6.4	高 1.6		橙	焼成良好、硬質。内外面焼し、黒色化。体部やや丸みを持 ちながら直線的に開く。底部内面指撫で。底部回転篋切り、 無調整。	
第67図	49	在地系土器 皿	口頸部3/4欠	口底 (9.5) 6.2	高 2.2		橙	焼成良好、硬質。内外面焼し、黒色化。体部やや丸みを持 ちながら直線的に開く。底部内面指撫で。底部回転篋切り、 無調整。	
第67図	50	在地系土器 煎り鍋	口頸部1/2欠	口底 14.2 7.3	高 4.6		白橙	焼成良好、硬質。把手欠損。体部内外面に轆轤目。底部内 外面回転篋で。口縁部内面に煤油付着。	
第67図	51	在地系土器 煎り鍋	体部1/4	口底 (14.4) (12.4)	高 4.6		にぶい白橙	焼成良好、硬質。把手欠損。体部内外面に轆轤目。底部内 外面回転篋で。口縁部内面に煤油付着。	
第67図	52	在地系土器 十能	体部1/3				黄灰白	焼成良好。側面と底面型作り痕。先端部内削ぎ状。表面中 央に屋号「山加」の刻印。	
第68図	53	在地系土器 十能	把手欠	口底 (26.0) 17.0	高 5.0		黄灰白	把手欠損。焼成並。側面と底面型作り痕。	
第68図	54	在地系土器 置輪	破片	口底 (37.0) (40.6)	高 3.7		橙	断面L字形。煤付着。	
第68図	55	在地系土器 焙烙	1/2残、底部欠	口 38.0			黄橙～橙	内耳2個残存。底部丸底。外面被熱、煤付着。縁から4cm程 のところに円孔一対あり。補修孔であろう。	
第68図	56	在地系土器 焙烙	1/2残、底部欠	口 38.0			橙～灰	内耳2個残存。底部平底。外面被熱、煤付着。縁から2cm程 のところに円孔1個あり。補修孔であろう。	
第68図	57	在地系土器 焙烙	口縁部片	口 (37.0)			橙	内耳1個残存。底部丸底。外面被熱、煤付着。	
第68図	58	在地系土器 焙烙	口縁部片	口 (37.0)			橙	内耳1個残存。底部平底。外面被熱、煤付着。	
第68図	59	在地系土器 焙烙	1/4	口 (38.0)			橙	内耳1個残存。底部平底。外面被熱、煤付着。	
第68図	60	在地系土器 焙烙	口縁部片		高 5.4		黄白灰	焼成良好、硬質。内面瓦質。底部平底。内耳1個残存。外 面煤付着、黒色化。口縁部下に補修孔1個。	
第68図	61	在地系土器 焙烙	口縁部片		高 5.7		灰白～黒灰	焼成良好、硬質。内面瓦質。底部平底。内耳1個残存。外 面煤付着、黒色化。	
第69図	62	瓦棧瓦	1/4		厚 1.9 ～2.1		白灰	右前角を方形に切り落とし。裏面に指痕。表面と側面光沢。	
第69図	63	瓦棧瓦	左前部破片		厚 1.9		白灰	左後部を方形に切り落とし。表面と側面光沢。	
第69図	64	瓦平瓦	1/3	幅 24.0	厚 1.7		白灰～暗灰	1枚成形。面取り側縁1、端部1。表面と側縁に研磨、裏面撫で。	
第69図	65	瓦平瓦	左後部破片		厚 1.7		白灰	裏面に「大」墨書。表面と側面焼し、黒色化。表面と側面光沢。	
第69図	66	瓦平瓦	前部破片		厚 1.7		灰	前側面に屋号「山木」の刻印。表面焼し、黒色化。表面と側 面光沢。	
第69図	67	瓦棧瓦	軒丸部破片				灰	軒丸が右に付くタイプ。瓦当巴文。	
第70図	68	在地系土器 置き竈	3/4	高低 (35.4) 31.0	高 31.4		橙	天井部一部残、体部・底部2/3残。体部ロクロ成形。口唇 部内折して平坦面形成。正面を大きく切り取り、底部に直 径26の盤を半裁して張出部を取り付け、出し入れ口の上 部を狭間様の装飾を加える。底面には丸い脚が4個つく。内 面と口唇平坦面に煤付着、黒色化。底部内面と体部内面中 位が被熱で白色化。	
第70図	69	鉄製品釘	ほぼ完形	長幅 7.1 0.8	厚重 0.7 5.38			断面ほぼ正方形の角釘。先端に向かい徐々に細くなり尖る。 頭は薄く広げ折り曲げる。硬い錆・泥に覆われ本体脆弱な ため、木質等は確認できない。	
第70図	70	銅製品キセル・吸い口	ほぼ完形	長幅 6.0 1.0	厚重 1.0 5.77			キセルの吸い口。劣化し全体に緑青に覆われるが一部に黒 色平滑な表面が残存する。雁首側端部から1mm程に沈線が 模様彫られている。	

遺物観察表

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				長 幅	(7.9) 4.8	厚 重	1.9 110.4			
第70図	71	石製品砥石	1/2					珪質粘板岩	研面は4面認められる。正面には、研ぎ減りと考えられる作出面が2面認められる。下部の作出面は、やや内湾した形態である。上面、右側面及び左側面は平坦である。下部欠損。	

II区2号溝

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				口 底	7.8 3.0	高	3.2			
第71図	1	肥前磁器染付小坏	2/3					白	外面に染付、内面無文。内面に赤褐色の付着物。	
第71図	2	肥前磁器染付小坏	1/2					白	外面に染付、内面無文。	
第71図	3	肥前磁器白磁香炉	破片					白	断面5字状。口縁部から体部外面透明釉。	
第71図	4	瀬戸・美濃陶器染付皿	一部欠損					灰白	内面に扇と花を2組配置。見込み2重圏線内に略した五弁花。外面に折れ枝。高台内中央に円形の印刻。内外面に貫入。	
第71図	5	制作地不詳陶器蓋	完形					白灰	凹型で端部が水平に開く。中央に乳首状の摘み。上面に白銀釉、貫入する。裏面回転斡削り。	
第71図	6	瀬戸・美濃陶器錆釉灯明油皿	1/2					灰白	錆釉施釉後、口縁部外面以下を払う。見込みに重焼痕。	
第71図	7	瀬戸・美濃陶器錆釉灯明油受皿	1/3					淡黄	錆釉施釉後、口縁部外面以下を払う。受け部と体部外面重焼痕。	
第71図	8	在地系土器置輪	破片					橙	断面L字形。煤付着。	
第71図	9	鉄製品釘	ほぼ完形						断面ほぼ正方形の角釘。先端に向かい徐々に細くなり端部は劣化破損する。頭は大きく広げ深く折り曲げている。錆び中に植物繊維束が残存するが、釘との直接かかわりはないと考えられる。	

II区3号溝

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				口 底	(9.0) (3.2)	高	2.8			
第72図	1	肥前磁器染付端反碗蓋	1/4					白	内外面に染付。	
第72図	2	肥前磁器染付丸碗	1/4					灰	焼成不良。器形歪み、器面荒れ。外面に草木文、内面無文。	
第72図	3	円盤状加工品	完形					淡黄	肥前陶器器手碗の底部を円形状に打ち欠いたもの。高台部も打ち欠いている。	
第72図	4	在地系土器皿	1/4					橙	焼成並。体部直線的に開く。底部内面指撫で。底部回転斡削り、無調整。	
第72図	5	在地系土器鉢か	底部片					灰	焼成良好、瓦質。底部外面に粗い回転刷毛調整痕。	中世か。
第72図	6	在地系土器火鉢か	口縁部片					灰黄	器形不明。内外面燻し、黒色化。口縁部外面に鐮状の突帯が付き、その上面に2種類の印判を施す。	中世。
第72図	7	在地系土器焙烙	口縁部片					高 5.3 淡橙	内耳1個残存。外面煤付着、黒色化。	
第72図	8	常滑陶器甕	胴部片					黄灰	内面に甕のあたり痕。外面撫で。	
第72図	9	銅製品キセル・雁首	完形					長幅 3.3 1.3 厚重 1.5 3.87	キセルの雁首。表面は緑青色で一部に黒青色平滑な表面が残存するが、メッキ・線刻等の装飾は見られない。吸い口側端部内面に羅卯と見られる木質痕が見られる。	
第72図	10	銅製品銭貨	ほぼ完形					縦横 2.326 2.335 厚重 0.138 2.51	寛永通寶。表面は外縁・文字・郭とも明瞭、裏面も外縁・郭とも明瞭。外縁周囲の凹凸は劣化破損。	
第72図	11	石製品砥石	1/2					長幅 (6.2) 2.6 厚重 1.5 37.1	砥沢石 研面は4面認められ、それぞれほぼ平坦な形態である。正面は、研ぎ減りと考えられる作出面が認められる。左側面は正面及び底面に対して斜交する。下部欠損。	

II区5号溝

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				口	(9.6)					
第72図	1	在地系土器皿	口縁部1/4					淡橙	口唇部に灯火痕2箇所。	
第72図	2	瓦男瓦	左端部片					橙	焼成酸化、硬質。半裁成形。面取り側縁2面、丸みあり。表面に縄目叩き痕。裏面に斜行削り痕。	

II区6号溝

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				口	(10.7)					
第72図	1	瀬戸・美濃陶器尾呂茶碗	体部1/4					灰黄	胎釉とウノフ釉漬掛け。	
第72図	2	常滑陶器甕	胴部片					褐灰	内面にロクロ目。外面に厚く自然釉。	

II区7号溝

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				口	(9.0)					
第72図	1	肥前磁器染付丸碗	口縁部片					白	外面に染付。口縁部内面に装飾帯、見込みに2重圏線。	

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第72図	2	肥前陶器陶胎染付碗	1/4	口底	(11.0) (4.8)	高	6.9	灰白	外面に東屋山水文。内面無文。貫入入る。	
第72図	3	京・信楽系陶器灰釉碗	口縁部片	口	(7.0)			灰黄白	内外面に灰釉。貫入入る。	
第72図	4	志戸呂陶器錆釉灯明油受皿	1/5	口底	(11.0) (5.8)	高	2.2	灰	軽質で受け部が高い。内面と口縁部外面に錆釉。錆釉黒褐色。受け部と体部外面重焼痕。底部回転篋削り。外面に煤油付着。志戸呂か。	

II区8号溝

第73図	1	瀬戸・美濃陶器灰釉丸碗	1/3	口底	(6.8) 2.8	高	4.1	灰黄白	内外面に澄んだ淡い緑色の灰釉。貫入入る。	
第73図	2	常滑陶器甕	胴部片					黒灰褐	外面に薄く鉄釉。内面に指押さえ痕。	
第73図	3	石製品砥石	1/2	長幅	(18.8) (13.8)	厚重	(7.7) 2750.0	粗粒輝石安山岩	長楕円形の円礫を素材とする。正面及び裏面に研面と想定される平滑面が認められる。正面には、刃慣らし傷と考えられる痕跡が集中する。	

II区9号溝

第73図	1	肥前磁器染付丸碗	体部1/4	口	(8.0)			白	外面に雨降り文。内面無文。	
------	---	----------	-------	---	-------	--	--	---	---------------	--

II区4号ピット

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第73図	1	在地系土器火鉢	1/3	口底	(21.2) (23.0)	高	18.0	黄灰白～灰褐	高台が付く火鉢で、体部の両側に獅子の把手が付く。内外面燻し、黒色化。体部外面の上下に2種類の叩き目文帯を配し、中位の把手間に貝の圧痕と印刻で山水を表現。無文部を研磨し、体部外面に黒漆、高台外面に赤漆を塗布。内面にはロクロ痕が残る。口唇部全体に敲打痕。煙管か。	

II区10号ピット

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第73図	1	石製品砥石	2/3	長幅	(10.2) 3.2	厚重	1.7 67.0	砥沢石	研面は3面認められる。正面及び裏面は、研ぎ減りと考えられるやや外湾した形態である。正面には、研ぎ減りによる部分的な作出面が認められる。左側面はほぼ平坦である。右側面には、櫛歯タガネ痕が認められる。上部及び下部欠損。	

II区1号地下式土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第73図	1	肥前磁器染付皿	一部欠損	口底	12.4 4.4	高	3.9	灰黄白	内面に二重線文。見込み蛇の目釉剥ぎ。見込みに重焼痕。高台に砂付着。	
第73図	2	在地系土器香炉	破片					橙	底部に三脚が付く。体部外面に円文と菊花文の型押し文様。	中世。

II区1号竪穴状遺構

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第74図	1	制作地不詳陶器染付土瓶	一部欠損	口底	11.6 10.2	高	13.0	灰	底部上げ底。外面腰まで白色釉施釉し、その上に山水と花を2組染付。貫入入る。内面の光沢は、薄く灰刷毛塗りか。注口内面に円孔7個。体部を縦断する焼継ぎ痕あり。	
第73図	2	制作地不詳陶器灰釉台付灯明油受皿	皿部欠損	口底	(9.0) 5.7	高	5.0	灰黄白	台部が容器になっており、中に油を入れておくこともできる。受け部外側と外面に灰釉。貫入入る。底部に重焼痕。	
第73図	3	瓦軒棧瓦	軒丸部分のみ	径	7.7			暗灰	軒丸は巴文。	
第74図	4	銅製品銭貨	ほぼ完形	縦横	2.615 2.652	厚重	0.110 2.44		文久永寶。表面外縁・文字・郭とも彫深く明瞭、裏面も外縁・波・郭とも彫深く明瞭。波型の摸様に沿ってゴースト状に低い波型の隆起が見られる。	
第74図	5	石製品石鉢	完形	長幅	25.2 25.4	厚重	12.0 7000.0	粗粒輝石安山岩	全体的に平滑な面で構成されており、非常に丁寧に整形されている。側面全体には、花様のモチーフが刻まれている。	

II区2号竪穴状遺構

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第75図	1	遺物所在不明皿か	底部片					白灰	表裏に深暗緑色の釉が厚く掛かる。	
第75図	2	鉄製品釘	一部欠損	長幅	5.2 0.6	厚重	0.5 2.26		断面ほぼ正方形の角釘。先端に向かい徐々に細くなるが先端側は劣化破損する。頭側は斜めに破損している。木質等は確認できない。	

II区遺構外

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第75図	1	肥前磁器染付小碗	体部1/3欠	口底	6.4 4.0	高	4.7	白	体部外面上半部に二重線の唐草文。下半に輪花状の加工を施し、そこに同文様を配置。口縁部内面に雷文帯。	
第75図	2	肥前磁器染付丸碗	1/3	口底	(10.2) 4.0	高	5.4	灰白	外面に雪輪梅樹文。内面無文。高台内「大明」崩れ銘か。高台に砂付着。	

遺物観察表

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第75図	3	肥前磁器染付端反碗	1/3	口底	(10.5) 4.2	高	5.9	灰白	外面に山水図。口縁部内面に裝飾帯、見込み1重圏線内に舟か。
第75図	4	肥前磁器染付丸碗	1/3	口底	(9.0) 3.4	高	4.7	灰白	外面にコンニャク判による菱形文を配置。内面見込みにコンニャク判による五弁花。
第75図	5	肥前磁器染付皿	1/2	口底	(11.5) (7.0)	高	3.6	灰白	口縁部肥厚。底部蛇の目高台。内面に格子文。見込みの釉を蛇の目に掻き取る。見込みに不明文様。底部蛇の目高台部に墨書3文字が残る。「□可も」か。
第75図	6	肥前磁器染付水滴	破片					白	型打ち造りで、一隅に注ぎ口がつく。底部が大きく上げ底となる。外面には底まで灰釉が掛かり、上面には染付が入る。底部の表裏面に布目痕が付く。
第75図	7	制作地不詳陶器ミニチュア碗	口縁部2/3欠	口底	(2.0) 0.8	高	1.2	黄白	端反碗の形態。口唇部平坦。内外面に透明釉。内面に鉄釉で3本の線。
第75図	8	瀬戸・美濃陶器錆釉灯明油皿	3/4	口底	10.4 4.3	高	2.1	にぶい黄白	錆釉施釉後、口縁部外面以下を払う。見込みと底部に重焼痕。
第75図	9	瀬戸・美濃陶器錆釉灯明油受皿	3/4	口底	10.4 5.0	高	7.3	にぶい黄橙	受け部1箇所をU字形に扶る。錆釉施釉後、口縁部外面以下を払う。受け部と体部外面重焼痕。受け部と外面に煤油付着。
第75図	10	瀬戸・美濃陶器ひょうぞく	体部2/3欠	底	4.4			暗灰	内面から外面下位に鉄釉。底部に設置用の円孔。底部回転糸切り、無調整。底部に重焼痕。
第75図	11	在地系土器皿	3/4	口底	11.0 7.2	高	2.3	灰黄白	器形歪み。口縁部内湾。見込みに指撫で。底部回転糸切り、無調整。
第75図	12	在地系土器置輪	1/5	口底	(34.8) (38.0)	高	4.1	にぶい黄橙	底面内湾。内外面黒色化、煤付着。

II区一括

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第76図	1	土製品土製人形	ほぼ完形	縦横	1.8 1.3	厚	0.6	明赤褐	恵比寿像。頭部の頭巾が潰れ。裏面に細かな布痕。下方に小孔一対あり。何かの付属品か。
第76図	2	土製品土製人形	ほぼ完形	縦横	2.4 1.75	厚	0.75	明赤褐	狐裡面。鼻先が潰れて不明瞭。裏面の凹みに細かな布痕あり。
第76図	3	瓦女瓦	破片					灰褐	表裏面撫で。中央に釘孔1個。
第76図	4	羽口	破片	径孔	(7.2) (2.5)			灰黄白	炉内先端部に溶解物付着。胎土赤化、手前白色化。
第76図	5	鉄製品不詳	ほぼ完形	長幅	10.6 2.4	厚重	1.0 25.60		断面細い菱形で先端は丸みを持つ。茎部分に柄の痕跡と見られる木質が残存する。ヤスリと考えられるが現状ではヤスリ目は確認できない。
第76図	6	銅製品キセル・雁首	破片	長幅	1.7 1.7	厚重	0.4 1.76		キセル雁首の火皿部分で上下に潰れている。潰れながらも厚さをとどめ、所謂雁首銭ほど平坦ではない。
第76図	7	銅製品銭貨	一部欠損	縦横	2.320 -	厚重	0.101 1.84		(けん)元重寶。表面は外縁・文字・郭とも明瞭だが文字の一部が潰れ気味、裏面は平坦で外縁・郭とも一部で不明瞭。外縁の一部は劣化破損する。
第76図	8	石製品火打石	完形	長幅	3.3 2.0	厚重	1.3 8.6	チャート	稜線上に連続する潰れと微小な剥離痕が認められる。
第76図	9	石製品砥石	2/3	長幅	(8.1) (4.1)	厚重	(2.1) 98.7	砂質頁岩	研面は3面認められる。それぞれほぼ平坦な形態を呈する。正面は非常に滑らかで細かな線状痕が認められるが、裏面には長軸方向に並行する僅かな段差がいくつか認められ、大きな線状痕が集中する。右側面には、この面で分割することを意図した打撃痕が残る。
第76図	10	石製品砥石	2/3	長幅	10.0 5.7	厚重	2.8 58.3	二ツ岳軽石	正面、裏面、左側面及び右側面の4つの研ぎによる作出面で構成される。それぞれ滑らかな曲面を呈する。正面と裏面は僅かに凸状であり、左側面と右側面は外湾する形態である。下部欠損。
第76図	11	石製品石製品	1/2	長幅	30.0 21.2	厚重	14.4 5000.0	粗粒輝石安山岩	皿状の孔が認められ、上端部径約5cm、底部径約4cm、深さ約3cmを測る。孔は、比較的滑らかな曲面で構成される。正面には、僅かに断面V字の線状痕が認められる。下部欠損。

III区1号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第77図	1	在地系土器鉢	口縁部片					淡紫灰	焼成良好、瓦質。口縁部内湾。口縁部下に3条の沈線。

III区4号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第77図	1	肥前磁器染付小坏	1/2	口底	7.4 3.0	高	3.5	灰白	外面に染付、内面無文。
第77図	2	肥前磁器染付丸碗	1/2	口底	(9.2) 3.6	高	4.4	灰白	外面に簡略化した雪輪梅樹文。内面無文。
第77図	3	肥前磁器染付丸碗	口頸部1/2欠	口底	8.6 3.6	高	5.0	灰白	外面に縦格子と蛾、口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に五弁花。内外面に細かな貫入る。
第77図	4	京・信楽系陶器灰釉灯明油皿	1/3	口底	(10.2) (4.0)	高	2.1	白灰	内面に灰釉、貫入る。外面腰下から底部に回転篋削り。口部上げ底。見込みにトチン痕1個。

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第77図	5	瀬戸・美濃陶器ひょうそく	体部2/3欠	口底	(7.0) 4.5	高	5.1	灰黄褐	内外面に鉄釉。底部回転糸切り痕、無調整。底面に設置用の円孔あり。
第77図	6	瀬戸・美濃陶器ひょうそく	体部欠	口底	- 4.4	高	4.5	灰黄	内外面に鉄釉。底部回転糸切り痕、無調整。底面に設置用の円孔あり。
第77図	7	在地系土器皿	1/2	口底	10.4 7.0	高	2.0	黄橙	底部から口縁部に直線的に開く。底部回転糸切り痕、無調整。
第77図	8	円盤形土製品	完形	横縦	5.1 4.8	厚	0.9	灰黒	内耳鍋の胴部破片を円形状に打ち欠いたもの。
第77図	9	在地系土器焙烙	1/5	口底	(38.4) (34.6)	高	5.0	灰褐	底部平底。内耳1個残存。外面に煤付着、黒色化。
第77図	10	在地系土器置き竈	破片					黄橙～灰褐	出し入れ口部底面につく突出部分の破片。直径20程の盤を半裁した大きさと、縁部の高さは3.8で、僅かに外傾しながら直立する。内外面に回転撫で痕。内外面被熱、まだらに黒色化。

Ⅲ区7号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第77図	1	在地系土器鉢	1/6	口底	(45.0) (34.6)	高	10.3	灰黄白～灰黒	口縁部がくの字に折れて突出。外面撫で。口唇部と内面研磨・光沢。口唇部に敲打痕と擦れ。体部内面と底部内外面荒れ・劣化・剥落。底部外縁擦れ顕著。
第77図	2	瓦軒丸瓦	破片					灰黄白	軒丸瓦の一部が剥落したもの。軒丸部は巴紋。中世か。

Ⅲ区9号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第77図	1	在地系土器鉢	底部1/4	底	(11.0)			にぶい黄橙	焼成良好、硬質。内面に縦位の櫛歯状沈線。内面摩耗顕著。中世。
第77図	2	常滑陶器甕	胴部片					黒褐色	内面に刷毛目横撫で痕、外面に刷毛目縦撫で痕。中世。
第77図	3	常滑陶器甕	口縁部片					灰褐	口縁部折り返し。中世。
第77図	4	常滑陶器甕	肩部片					橙	内外面に薄く鉄釉、光沢あり。内面に粘土帯接合痕、指押さえ痕、撫で等の痕跡が残る。5と同個体。中世。
第78図	5	常滑陶器甕	胴部片					橙	4と同個体。中世。
第78図	6	在地系土器焙烙	口縁部片					灰白～淡橙	口縁部が大きく開き、口唇部内面に稜を持つ。内外面回転撫で。外面燻し、黒色化。
第78図	7	在地系土器内耳鍋	口縁部片					灰黄～灰橙	内外面燻し、内面灰色化、外面黒色化。外面煤付着。中世。

Ⅲ区11号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第78図	1	龍泉窯青磁皿	口縁部片					暗灰	口縁部大きく外反。口唇部輪花。釉に貫入する。中世。
第78図	2	瀬戸・美濃陶器碗	口縁部片					くすんだ淡橙白	形不明瞭。内外面に長石釉か。貫入する。

Ⅲ区13号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第78図	1	肥前磁器染付丸碗	1/2	口底	8.8 3.4	高	5.2	白	外面に菊花文。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に五弁花。
第78図	2	瀬戸・美濃陶器徳利	腰下1/3	底	(11.0)			白灰	外面に胎釉、内面無釉。腰下厚手の作り。
第78図	3	堺・明石陶器すり鉢	口縁部片					橙	内外面に鉄泥。釉に光沢なし。口縁部内面の段消失。

Ⅲ区16号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第78図	1	古瀬戸陶器盤類	底部片					灰黄白～淡橙	体部外面と底部回転篋削り。外面下位まで灰釉。内面下位まで灰釉刷毛塗り。中世。

Ⅲ区22号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第78図	1	肥前磁器染付筒形小坏	1/2	口底	5.6 3.4	高	4.2	灰白	口縁部外反。高台蛇の目様。外面に横縞文、内面無文。
第78図	2	肥前磁器染付小坏	体部1/3欠	口底	6.8 2.5	高	3.2	白	口縁部外面に呉須帯、内面無文。口縁部以下の内面全体に赤茶色の付着物。付着物の大半は失われてその痕跡のみ。赤錆と言うには赤色が強すぎる。
第78図	3	肥前磁器染付碗	1/2	口底	7.2 3.6	高	5.3	白	外面に格子文、内面無文。内外面に弱い貫入する。
第78図	4	肥前磁器染付丸碗	1/3	口底	(9.8) (4.0)	高	4.2	灰白	外面に染付、内面無文。
第78図	5	瀬戸・美濃陶器か鉄絵徳利	1/2	口底	(3.3) (5.7)	高	18.8	黄白	薄手のつくりで、口縁部に小さく注ぎ口が付く。注ぎ口の左手体部に鉄絵で椿を描き、花を白土、葉を緑色の釉で表現。外面全体と口縁部内面に透明釉。細かな貫入する。内面と底部無釉。

遺物観察表

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				底	口底	高	厚			
第78図	6	制作地不詳 陶器徳利	胴部下半		6.8			黄白	底部回転篋削り。外面に透明釉。細かな貫入入る。底面に「本町 井筒屋」の文字と屋号「枳形内に舁」を墨書。	
第78図	7	在地系土器 皿	2/3	口底	10.0 6.0	高	2.1	橙	腰が丸く、口縁部は直線的に開く。焼成良好。底部内面指撫で、外面回転系切り無調整。	
第78図	8	在地系土器 皿	3/4	口底	9.8 6.2	高	2.0	橙	腰が丸く、口縁部外反。焼成良好。底部内面指撫で、外面回転系切り無調整。	
第78図	9	在地系土器 焙烙	口縁部片					白橙	底部丸底。	
第78図	10	常滑陶器甕	口縁部片					褐灰	口縁部くの字状。	中世。
第78図	11	在地系土器 置き竈	破片					赤橙～褐灰	出し入れ口部底面につく突出部分の破片。直径20程の盤を半裁した大きさで、縁部の高さは3で、外傾しながら立ち上がる。内外面に回転撫で痕。	

Ⅲ区24号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				口底	(8.8) (3.4)	高	4.4			
第79図	1	肥前磁器染 付丸碗	1/6					灰白	外面染付、内面無文。	

Ⅲ区27号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				縦横	2.518 2.484	厚重	0.174 1.99			
第79図	1	銅製品銭貨	ほぼ完形						皇〇〇〇、錆化が著しく、文字不明瞭。外縁・文字・郭とも彫深く明瞭だが一部錆に覆われ識別困難。裏面は平坦で不明瞭。	
第79図	2	古銭		縦横	2.402 -	厚重	0.152 0.79			

Ⅲ区30号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				口底	(7.4) 2.4	高	3.9			
第79図	1	肥前磁器染 付丸碗	腰上4/5欠					白	外面草花文、内面無文。	

Ⅲ区31号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				口底	31.9 19.6	高	16.1			
第79図	1	在地系土器 内耳鍋	3/4					にぶい褐色	口縁部が内湾しながら短く開き、内面に低い小さな内耳が付く。内耳1個残存。内面と口縁部回転横撫で。体部外面粗い研磨。	中世。

Ⅲ区32号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				口底	(5.6) (3.5)	高	4.5			
第79図	1	瀬戸・美濃 陶器鉄釉 ひょうそく	体部1/5					灰黄白	見込み内欠損。内面及び外面腰下まで鉄釉。	

Ⅲ区35号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				口底	7.2 2.6	高	4.4			
第79図	1	肥前磁器染 付丸碗	1/2					白灰	焼成不良。口縁部外面に笹文、内面無文。高台内外面に灰釉がめくれて割れている。	

Ⅲ区36号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				口底						
第79図	1	常滑陶器甕	胴部片					暗灰	内面に指頭痕。	中世。

Ⅲ区47号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				縦横	4.1 4.1	厚	1.5			
第79図	1	円盤形加工 品	完形						常滑陶器甕の破片を円形状に加工したもの。	
第79図	2	瓦軒平瓦	破片			厚	2.1	灰	表面に斜行撫で。裏面に斜格子の叩き目痕。側面2面とも軽い研磨。	
第79図	3	在地系土器 火鉢か	口縁部片					灰褐～灰	瓦質。口唇部内面に突出。口縁部外面に菊花文の型押し有り。	
第79図	4	在地系土器 植木鉢	破片			高	12.7	黒灰	瓦質。輪花型の型押し造り。高さ2.7の脚が付く。口縁部外面に菊花の型押し文が巡る。口唇部と体部内外面研磨光沢。底部内面に斜格子状の研磨文様有り。	

Ⅲ区1号井戸

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				長幅	(5.6) 1.8	厚重	1.7 27.1			
第79図	1	在地系土器 内耳鍋	口縁部片					にぶい橙	口縁部内面が内湾。焼成良好。	中世。
第79図	2	常滑陶器甕	胴部片					橙～灰褐	外面入念撫で、軽い研磨。器面荒れ顕著。内面粗い研磨。煤付着、黒色化。	中世。
第79図	3	石製品砥石	2/3					砥沢石	研面は4面認められる。それぞれの研面は、ほぼ平坦な形態である。下部欠損。	

Ⅲ区2号井戸

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第80図	1	在地系土器 片口鉢	1/6	口 底	(29.0) (11.6)	高	(10.5)	白灰	口縁部が弱く外傾。口唇部に浅い凹線が巡る。内外面燻し、黒色化。体部下半内面に数条の縦すり目。	中世。
第80図	2	在地系土器 焙烙	口縁部片					赤褐～灰褐	厚手の作り。口縁部内湾しながら開く。内面横撫で。外面燻し、黒色化。	
第80図	3	常滑陶器甕	胴部片					褐灰	外面に鉄釉。内面撫で、指押さえ。	中世。

Ⅲ区3号井戸

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第80図	1	青白磁瓶か	胴部片					灰白	外面素地に印刻文。釉は淡水色。内面に釉流れる。二次被熱。	中世。
第80図	2	常滑陶器甕	口縁部片					褐灰	口縁部が折り返し状に外反。	中世。

Ⅲ区2号溝

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第80図	1	銅製品銭貨	一部欠損	縦 横	2.565 2.559	厚 重	0.162 2.66		永楽通寶。表面は外縁・文字・郭とも彫深く明瞭、裏面も彫深く外縁・郭とも明瞭。寶の左外縁は劣化破損する。	

Ⅲ区3号溝

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第80図	1	瀬戸・美濃 磁器碗	1/3	口 底	(8.4) (4.0)	高	4.4	白	外面に銅板転写による染付、内面無文。	近現代。
第80図	2	瀬戸・美濃 陶器志野丸 皿	腰下1/4					灰黄白	内外面に長石釉。貫入入る。	
第80図	3	石製品砥石	2/3	長 幅	(12.0) 4.0	厚 重	(5.1) 428.3	砥沢石	正面は、研ぎ減りによってやや内湾した形態である。左右側面には櫛歯タガネ痕が僅かに残り、部分的な研ぎ部が認められる。裏面も部分的な研ぎ部が認められる。下部欠損。	

Ⅲ区4号溝

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第80図	1	肥前磁器染 付丸碗	口縁部片	口	(8.8)			白	外面に花等のコンニャク判。内面無文。	
第80図	2	肥前磁器染 付猪口	1/2	口 底	(7.4) 4.4	高	5.4	白	外面に草花文様。内面無文。高台内に1重圈線。	
第80図	3	瀬戸・美濃 陶器天目茶 碗	腰下1/3					灰白	高台欠損。内面と外面腰下まで鉄釉。禾目。	
第80図	4	円盤形加工 品	完形	口 底	5.8 5.7	高	1.2	灰白	中世古瀬戸平碗の底部を円形状に加工したもの。	
第80図	5	円盤形加工 品	完形	口 底	5.2 5.2	高	1.6	淡黄	瀬戸・美濃陶器胎釉碗の底部を円形状に加工したもの。	
第80図	6	円盤形加工 品	完形	口 底	5.0 4.8	高	1.3	灰白	瀬戸・美濃陶器鉄釉碗の底部を円形状に加工したもの。	
第80図	7	円盤形加工 品	完形	口 底	4.4 4.3	高	1.2	黒灰	常滑陶器甕の胴部破片を円形状に加工したもの。	
第80図	8	円盤形加工 品	完形	口 底	4.9 4.6	高	1.0	赤橙～黒灰	常滑陶器甕の胴部破片を円形状に加工したもの。	
第80図	9	渥美陶器甕	頸部片					暗灰	外面に叩き目。口頸部内面に軽い研磨。	中世。
第81図	10	常滑陶器甕	胴部片					暗灰	内外面に軽い研磨。	中世。
第81図	11	渥美陶器甕	胴部片					暗灰	外面に格子状の叩き目。内面に自然釉	中世。
第81図	12	常滑陶器甕	胴部片					白灰	外面に錆釉、内面に自然釉。	中世。
第80図	13	常滑陶器甕	胴部片					褐灰	外面に自然釉、内面に指押さえ痕。	中世。
第81図	14	常滑陶器甕	胴部片					暗灰～灰褐	外面に錆釉、内面に自然釉。内面に指押さえ痕。	中世。
第81図	15	常滑陶器甕	胴部片					褐灰	外面撫で、内面指押さえ痕。	中世。
第81図	16	在地系土器 片口鉢	胴部片					灰オリーブ	内面に縦すり目。	中世か。
第81図	17	在地系土器 皿	1/3	底	(5.0)			浅黄橙	底部内外面撫で。	中世。
第81図	18	在地系土器 おろし皿	1/3	口 底	(12.7) (7.0)	高	3.0	白灰	片口が付く。内面篋によるおろし目。内外面燻し、黒色化。外面と底面篋撫で。	中世。
第81図	19	在地系土器 焙烙	口縁部片					白灰～黒灰	口縁部外傾。口唇部内面に凹線。外面黒色化。	
第81図	20	在地系土器 片口鉢	底部片					灰白	内面下位使用により摩滅。底部回転糸切り後、無調整。	中世。
第81図	21	在地系土器 内耳鍋	口縁部片	口	(28.0)			白灰	内外面燻し、黒色化。内面口縁部下位に浅い沈線。	中世。
第81図	22	在地系土器 不詳	口縁部片					にぶい黄橙	内外面燻し、黒色化。口縁部外面に軽い研磨。	中世。
第81図	23	円盤形加工 品	完形	口 底	3.8 3.3	高	0.6	褐～にぶい橙	焙烙の底部片を円形状に加工したもの。	

遺物観察表

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第81図	24	在地系土器 焙烙	破片				白灰～黒灰	内耳1個残存。外面煤付着、黒色化。	
第81図	25	在地系土器 焙烙	破片				白灰～黒灰	口縁部外傾。外面煤付着、黒色化。	
第81図	26	在地系土器 焙烙	底部片				にぶい黄橙	底部内面に刻印あり。屋号か。	
第81図	27	羽口	先端部1/2	外径	(6.6)	内径	(2.3)	にぶい橙	先端部に炉内の融解物付着。羽口胎土赤変。
第81図	28	石製品砥石	不明	長幅	(8.0) (6.9)	厚重	(5.9) 282.3	粗粒輝石安山岩	研面と考えられる作出面が6面認められる。正面の研面はやや内湾した形態であるが、他の研面はほぼ平坦である。左側面には刃慣らし傷と考えられる痕跡が集中する。上下面欠損。

Ⅲ区2号ピット

第81図	1	瀬戸・美濃 陶器灰釉小 香炉	口縁部片	口	(5.2)			灰白	口縁部内面から外面に灰釉、貫入する。
------	---	----------------------	------	---	-------	--	--	----	--------------------

Ⅲ区6号ピット

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第82図	1	堺・明石陶器 搦り鉢	底部片	底	(18.0)			明赤褐	使用により内面平滑。
第82図	2	在地系土器 鉢	口縁部片	口底	(41.8) (32.8)	高	10.4	灰白～黒灰	口唇部と内面研磨により光沢を帯びる。

Ⅲ区1号礎石

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第82図	1	瀬戸・美濃 陶器灯明受 皿	1/3	口底	(9.8) 4.2	高	2.1	淡黄	2号礎石出土破片と接合。内外面に錆釉、外面口縁部以下の釉拭う。外面腰に重焼痕。
第82図	2	瀬戸・美濃 陶器鉄釉袴 腰形香炉	口縁部片	口	(14.0)			灰白	口縁部内面から外面腰まで鉄釉。欠け口の一部、外面腰の稜、口唇部内外面稜に強く粗い擦れ痕あり。

Ⅲ区2号礎石

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第82図	1	肥前磁器碗	破片	口底	(7.0) (2.7)	高	3.5	白	外面に染付。内面無文。	
第82図	2	肥前磁器猪 口	1/4	口底	(7.6) (5.6)	高	5.8	白灰	外面に染付。内面無文。	
第82図	3	肥前磁器筒 形湯呑	1/3	口底	(7.6) (3.8)	高	5.4	灰白	外面に染付。口縁部内面に2重圏線、見込みに1重圏線。内外面に貫入する。	
第82図	4	肥前磁器染 付重か鉢	1/2	口底	7.3 6.6	高	2.7	灰白	外面型紙摺。内面無文。重ね部のみ無釉。	近現代。
第82図	5	肥前磁器染 付広東碗蓋	1/2	口底	(9.8) 5.0	高	2.7	白	外面染付。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に鷲か。	
第82図	6	肥前磁器広 東碗	底部2/3	底	5.9			白	外面に染付。内面見込み1重圏線内に不明文様。	
第82図	7	肥前磁器染 付皿	1/4	口底	(13.0) (7.0)	高	4.0	灰白	内面に吉祥文様、外面に唐草文。	
第82図	8	瀬戸・美濃 陶器緑釉皿	口縁部片					淡黄	口縁部弱く外折れ。口縁部先端内外面に灰釉。	中世。
第82図	9	瀬戸・美濃 陶器灰釉梅 文皿	2/3	底	5.0			灰白	底部内面呉須による型紙摺。貫入する。	
第82図	10	瀬戸・美濃 陶器錆釉灯 明油皿	1/2	口底	9.8 4.0	高	2.2	灰オリーブ	内外面に錆釉、外面口縁部以下の釉拭う。見込みに重焼痕。	
第82図	11	常滑陶器甕	胴部片					灰褐	内外面に撫で。	
第82図	12	常滑陶器甕	胴部片					赤褐	外面に粗い研磨。	
第83図	13	在地系土器 焙烙	口縁部片					淡橙～黒灰	内耳が付く。口縁部直立きみ。底部平底。	
第83図	14	在地系土器 焙烙	口縁部片	口	(40.0)	高	3.4	橙	口縁部直立。	
第83図	15	在地系土器 植木鉢	底部片					灰	瓦質で硬質。底部に低い脚が付く。	
第83図	16	石製品石製 品	完形	長幅	7.2 8.5	高重	5.1 199.5	粗粒輝石安山岩	漏斗状の孔が認められ、上端部径約5cm、底部径約1cm、深さ約1.5cmを測る。孔は滑らかな曲面で構成される。上面には全体的に磨りが認められる。整った矩形を呈しており、何らかの工具により整形されたものと考えられる。	
第83図	17	石製品石製 品	不明	長幅	(18.1) (13.6)	高重	(9.8) 2542.6	粗粒輝石安山岩	袋状の孔が認められ、上端部径約4cm、底部径約1.5cm、深さ約2cmを測る。孔の底部には細かな凹凸が認められるが、孔のそれ以外の箇所は滑らかな曲面で構成される。正面は比較的滑らかな平坦面である。	

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
				長 幅	20.4 (19.8)	高 重				9.2 3060.5
第83図	18	石製品石製品	4/5				粗粒輝石安山岩	漏斗状の孔が認められ、上端部径約7.5cm、底部径約2cm、深さ約3cmを測る。孔の底部は滑らかな北面であるが、孔のそれ以外の箇所は細かな凹凸が認められる。正面には平ノミ状の工具痕が残る。		
第83図	19	石製品石製品	完形	長 幅	23.6 19.2	高 重	14.6 2992.9	粗粒輝石安山岩	孔が2つ認められる。正面の孔はコップ状であり上端部径約10cm、底部径約5cm、深さ約8cmを測る。孔の底部には細かな凹凸が認められるが、孔のそれ以外の箇所は滑らかな曲面で構成される。孔の側面部に断面U字形の線状痕があり、線状痕は底面に対して垂直方向に観察される。左側面の孔は断面V字形であり、平ノミ状工具によりものと考えられる。	

Ⅲ区 4号礎石

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
				口 底	(9.2) 3.6	高				5.8
第84図	1	肥前磁器丸碗	体部上半欠損	口 底	(9.2) 3.6	高	5.8	白	外面に星梅鉢文。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に五弁花コンニャク判か。	
第84図	2	肥前磁器筒形湯呑	2/3	口 底	6.7 3.6	高	5.1	白	1号遺物集中出土破片と接合。外面に菊花文染付。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に崩れた五弁花。	
第84図	3	瀬戸・美濃陶器錆釉灯明油皿	一部欠損	口 底	10.0 4.2	高	1.9	灰	内外面に錆釉、外面口縁部以下の釉拭う。見込みに重焼痕。	
第84図	4	在地系土器焙烙	口縁部片			高	4.9	灰白	内外面焼し、黒色化。口縁部外傾。底部平底。	

Ⅲ区 6号礎石

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
				口 底	8.0 3.2	高				3.4
第84図	1	肥前磁器小広東碗	3/4	口 底	8.0 3.2	高	3.4	白	外面に染付。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に花文か。	1遺物集中15と揃い。
第84図	2	肥前磁器丸碗	完形	口 底	8.2 3.9	高	3.8	灰白	外面に梅樹文染付、内面無文。粗い貫入入る。	
第84図	3	肥前磁器丸碗	完形	口 底	8.2 3.4	高	4.5	灰白	1号遺物集中出土破片と接合。外面に簡略化した雪輪梅樹文、内面無文。高台内の不明文様。	
第84図	4	肥前磁器広東碗蓋	一部欠損	口 底	9.6 5.2	高	2.5	白	1号遺物集中出土破片と接合。外面に3重鋸歯文様、つまみ内に寿か。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に花文。	1遺物集中・1～6は揃い。
第84図	5	円盤形加工品	完形	口 底	5.1 4.8	高	1.4	灰白	瀬戸・美濃陶器腰錆湯呑の底部を円形状に加工したもの。	
第84図	6	瀬戸・美濃陶器大鉢	口縁部片	口	(29.0)			黄灰白	口縁部縁折れ状。口唇部に広く平坦面。内外面に灰釉。	
第84図	7	在地系土器焙烙	口縁部片	口	(38.2)			赤橙～黄橙	口縁部内傾、底部丸底。外面に煤付着、黒色化。	
第84図	8	常滑陶器甕	胴部片					黒灰	内外面に錆釉。内面に指押さえ痕。	
第84図	9	在地系土器皿	3/4	口 底	10.4 6.6	高	2.3	にぶい橙	1号遺物集中出土破片と接合。底部から直線的に開き、口縁部内折、見込みに指撫で、底部回転糸切り後、無調整。	
第85図	10	在地系土器焙烙	1/5	口 底	(39.6) (37.0)	高	5.5	白黄橙	体部やや内湾しながら開く。内耳1個残存。	
第85図	11	在地系土器焙烙	1/2	口 底	40.0 36.0	高	5.5	灰白	1号遺物集中出土破片と接合。低部から直線的に開く。内耳2個残存。内外面焼し、黒色化。外面に煤付着。底部縁寄りに焼成後の小円孔が1個あり。補修孔か。	
第85図	12	瓦平瓦	破片					灰橙	酸化焼成。1枚成形。前端部面取り1面。表裏面から指撫で。	中世か。

Ⅲ区 7号礎石

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
				底	(4.0)					
第85図	1	肥前磁器碗	底部1/3	底	(4.0)			白	外面染付。見込み2重圏線内に花文か。	
第85図	2	肥前磁器深皿	1/3	口 底	(12.8) (7.0)	高	4.3	灰白	内面に染付、外面に蛇唐草文。	
第85図	3	瀬戸・美濃陶器灰釉端反皿	口縁部片					灰白	口縁部端反り。内外面に灰釉、貫入入る。	大窯か。
第85図	4	瀬戸・美濃陶器染付皿	1/4	口 底	(13.1) 6.2	高	3.6	淡黄	体部内外面と見込みに染付。貫入入る。	
第85図	5	瀬戸・美濃陶器染付皿	底部	底	6.0			灰黄白	見込みに花文染付。高台部を打ち欠いている。底部を円形状に加工したものか?	
第85図	6	在地系土器皿	底部	底	6.5			にぶい橙	底部を円形状に加工したものか?見込みに指撫で、底部回転糸切り後、無調整。轆轤左回転。	
第85図	7	石製品火打石	完形	長 幅	5.3 2.6	高 重	2.3 31.8	石英	稜線上に連続する潰れが認められる。左側面の一部、上面、下面及び裏面は自然面で覆われており、その形状から小形の垂円礫を利用していることが分かる。	

Ⅲ区 1号配石

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
				口 底	5.4 5.3	高				1.9
第85図	1	円盤形加工品	完形	口 底	5.4 5.3	高	1.9	灰白	瀬戸・美濃陶器腰錆碗の底部を円形状に加工したもの。	
第85図	2	円盤形加工品	完形	口 底	5.1 4.7	高	2.1	淡黄	肥前陶器器手碗の底部を円形状に加工したもの。	

遺物観察表

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第85図	3	瀬戸・美濃 陶器挿り鉢	1/4	口 底	(35.2) (14.4)	高	14.1	灰黄白	内外面に錆釉。底部回転糸切り後、無調整。
第85図	4	常滑陶器片 口鉢	口縁部片					灰褐	口縁部外面横ナデ、内面軽い研磨。
第86図	5	在地系土器 焙烙	1/4	口 底	(40.0) (33.0)	高	10.0	白灰～黒	内外面燻し、黒色化。口唇部と内面研磨光沢。外面腰下篋削り調整。
第86図	6	在地系土器 焙烙	口縁部片	口	(39.0)			白灰	内面に軽い研磨。外面煤付着、黒色化。

Ⅲ区 2号配石

第86図	1	在地系土器 甕?	底部1/2	底	(6.4)			灰	瓦質で硬質。内面研磨光沢。底面に明瞭な糸切り痕。
------	---	-------------	-------	---	-------	--	--	---	--------------------------

Ⅲ区 1号遺物集中

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第86図	1	肥前磁器広 東碗蓋	ほぼ完形	口 底	9.1 4.6	高	2.5	白	外面に3重鋸歯文様、つまみ内に方形枠の寿。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に花文。
第86図	2	肥前磁器広 東碗蓋	ほぼ完形	口 底	9.3 5.0	高	2.8	白	外面に3重鋸歯文様、つまみ内に方形枠の寿。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に花文。
第86図	3	肥前磁器広 東碗蓋	1/2	口 底	9.3 4.9	高	2.7	白	外面に3重鋸歯文様、つまみ内に方形枠の寿。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に花文。
第86図	4	肥前磁器広 東碗蓋	1/2	口 底	9.1 5.0	高	2.6	白	外面に3重鋸歯文様、つまみ内に方形枠の寿。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に花文。
第86図	5	肥前磁器広 東碗蓋	1/2	口 底	(9.2) (5.0)	高	2.7	白	外面に3重鋸歯文様、つまみ内に方形枠の寿。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に花文。
第86図	6	肥前磁器広 東碗蓋	1/3	口 底	(9.0) (5.0)	高	2.5	白	外面に3重鋸歯文様、つまみ内に方形枠の寿。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に花文。
第86図	7	肥前磁器染 付環	2/3	口 底	7.2 2.2	高	3.0	白	内面に牡丹と唐草の図案を対向する位置に配置。外面無文。焼継あり。高台内に焼継溶液で「せら田(せらだ)」、外面腰部に「志ミ寿や(しみずや)」と記載。
第86図	8	肥前磁器環	1/3	口 底	(7.6) 2.7	高	3.0	白	内面七宝文染付。外面無文。
第86図	9	肥前磁器丸 碗	1/2	口 底	(8.3) 2.9	高	3.9	灰白	外面に緋文染付。内面無文。
第86図	10	肥前磁器丸 碗	一部欠損	口 底	7.2 2.6	高	3.4	灰白	外面に笹文染付。内面無文。
第86図	11	肥前磁器丸 碗	1/2	口 底	7.6 2.8	高	3.5	白	外面に笹文染付。内面無文。
第86図	12	肥前磁器丸 碗	1/2	口 底	7.8 3.2	高	3.2	白	外面に緋文染付。内面無文。
第86図	13	肥前磁器丸 碗	1/3	底	2.8			灰白	外面に緋文染付。内面無文。
第86図	14	肥前磁器丸 碗	1/3	口 底	(8.0) 2.9	高	3.8	灰白	外面に緋文染付。内面無文。
第86図	15	肥前磁器小 広東碗	1/2	口 底	8.0 2.8	高	2.5	白	外面に染付。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に花文か。
第86図	16	肥前磁器小 広東碗	一部欠損	口 底	7.8 2.9	高	4.2	白	外面に松と鳥を染付。内面無文。
第86図	17	瀬戸・美濃 磁器端反碗	1/2	口 底	8.0 2.8	高	4.5	白	外面に海浜風景文染付、内面無文。
第87図	18	肥前磁器丸 碗	2/3	口 底	8.6 3.5	高	5.1	白	外面に笹竹文。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に不明文様。貫入する。
第87図	19	肥前磁器丸 碗	2/3	口 底	(8.4) 3.6	高	5.0	灰白	外面に笹竹文。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に五弁花か。口縁部に焼成前の小孔あり。
第87図	20	肥前磁器丸 碗	1/2	口 底	(8.0) 3.3	高	5.1	灰白	外面に草花文。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に五弁花か。
第87図	21	肥前磁器丸 碗	3/4	口 底	8.4 3.2	高	4.9	灰白	外面に草花文。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に五弁花か。
第87図	22	肥前磁器丸 碗	1/3	口 底	(8.4) (3.2)	高	4.9	灰白	外面に草花文。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線。
第87図	23	肥前磁器丸 碗	1/4	口	(8.7)			灰白	外面に笹竹文。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線か。
第87図	24	肥前磁器丸 碗	1/2	口 底	8.0 3.0	高	5.4	白	外面に若松文。見込みに不明文様。
第87図	25	肥前磁器丸 碗	一部欠損	口 底	8.4 3.4	高	4.8	灰白	外面に丸文4組。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に省略文様。
第87図	26	肥前磁器丸 碗	1/3	口 底	(8.4) 3.6	高	5.0	灰白	外面に丸文4組。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に省略文様。
第87図	27	肥前磁器丸 碗	1/3	口 底	(8.5) (3.2)	高	5.0	白	外面に3本の横帯文。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に不明文様。
第87図	28	肥前磁器筒 形湯呑	3/4	口 底	6.6 3.0	高	5.0	白	外面に花と縦縞文、腰下に結び目文。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に丸文。
第87図	29	肥前磁器筒 形湯呑	ほぼ完形	口 底	6.6 3.5	高	4.6	白	外面に草花文3組。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に五弁花か。

遺物観察表

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第87図	30	肥前磁器筒形湯呑	3/4	口底 6.8 3.4	高 5.1	白	外面に草花文3組。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に五弁花か。貫入入る。	29と揃いか。	
第87図	31	肥前磁器筒形湯呑	1/2	(7.4) 口底 4.0	高 5.3	白	外面に菊花と格子文。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に不明文様。		
第87図	32	肥前磁器筒形湯呑	3/4	口底 6.6 3.9	高 5.0	白	外面に帆掛け舟3組。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に五弁花か。		
第87図	33	肥前磁器筒形湯呑	1/2	口 (6.8)		白	外面に草花文3組。口縁部内面に2重圏線、見込みに圏線。貫入入る。		
第87図	34	肥前磁器筒形湯呑	1/4	口 (6.6)		白	口錆。外面中位鉄泥による横線。外面カキ目。		
第87図	35	肥前磁器丸碗	1/3	口底 (8.6) (3.5)	高 5.2	白	外面に矢羽根文。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線。		
第87図	36	肥前磁器丸碗	1/2	口底 (8.2) 3.3	高 4.8	灰白	外面に矢羽根文。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に不明文様。	37と揃いか。	
第87図	37	肥前磁器丸碗	1/3	口底 (8.6) (3.4)	高 4.9	灰白	外面に矢羽根文。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に不明文様。	36と揃いか。	
第88図	38	肥前磁器丸碗	1/2	底 3.4		白	外面に染付。見込み1重圏線内に省略した五弁花か。		
第88図	39	肥前磁器丸碗	1/3	口 (9.0)		白	外面に虫籠文。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線。変色あり、二次焼成か。	40と揃いか。	
第88図	40	肥前磁器丸碗	口縁部片	口 (9.3)		白	外面に虫籠文。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線。	39と揃い。	
第88図	41	肥前磁器丸碗	ほぼ完形	口底 8.8 3.7	高 4.2	灰	焼成不良。外面に2種類のコンニャク盤を交互に3組配置。内面無文。		
第88図	42	肥前磁器丸碗	ほぼ完形	口底 8.5 3.6	高 3.9	白灰	焼成不良。外面に梅樹文。内面無文。		
第88図	43	肥前磁器丸碗	完形	口底 9.0 3.7	高 5.0	白灰	焼成不良。外面に簡略化した雪輪梅樹文。内面無文。高台内に不明文様。	47と揃い。	
第88図	44	肥前磁器丸碗	3/4	口底 (8.4) 3.0	高 4.1	白灰	焼成良好。外面に草花文、内面無文。		
第88図	45	肥前磁器丸碗	3/4	口底 8.6 3.5	高 4.4	灰白	外面に簡略化した雪輪梅樹文。内面無文。高台内中央に丸い凹み。	46・48と揃い。	
第88図	46	肥前磁器丸碗	1/2	口底 8.6 3.5	高 4.3	灰白	外面に簡略化した雪輪梅樹文。内面無文。高台内中央に丸い凹み。	45・48と揃い。	
第88図	47	肥前磁器丸碗	1/2	口底 8.5 3.4	高 4.7	灰	焼成不良。外面に簡略化した雪輪梅樹文。内面無文。高台内に凹みと不明文様。	43と揃い。	
第88図	48	肥前磁器丸碗	1/3	口底 (8.5) (3.4)	高 4.2	灰白	外面に簡略化した雪輪梅樹文。内面無文。	45・46と揃い。	
第88図	49	肥前磁器丸碗	1/3	口底 (9.0) (4.0)	高 4.2	灰	外面に草花文。内面無文。		
第88図	50	肥前磁器丸碗	1/4	口底 (10.0) (4.2)	高 5.1	灰	焼成不良。外面に雪輪梅樹文。内面無文。	43と揃いか。	
第88図	51	肥前磁器丸碗	1/3	底 4.0		灰白	外面に雪輪梅樹文。内面無文。	53・54・55と揃いか	
第88図	52	肥前磁器丸碗	1/2	口底 (8.8) 3.4	高 4.7	灰白	外面に簡略化した雪輪梅樹文。内面無文。高台内に折れ松様の文様。	43と揃い。	
第88図	53	肥前磁器丸碗	3/4	口底 9.9 4.0	高 5.2	灰白	外面に雪輪梅樹文。内面無文。高台内に「み」か。		
第88図	54	肥前磁器丸碗	1/3	口 9.4		灰白	外面に雪輪梅樹文。		
第88図	55	肥前磁器丸碗	3/4	口底 (9.8) 3.5	高 5.2	白	外面に雪輪梅樹文。内面無文。		
第88図	56	肥前磁器端反碗	3/4	口底 10.9 4.1	高 5.8	白	外面に海浜風景。内面見込みに舟図。		
第88図	57	肥前磁器端反碗	1/2	口底 (10.6) 4.2	高 5.9	灰白	外面に松竹梅図。内面見込みに十字文様。	58と揃い。	
第89図	58	肥前磁器端反碗	底部1/2	底 (4.0)		灰白	外面に松竹梅図。内面見込みに十字文様。	57と揃い。	
第89図	59	肥前磁器丸碗	1/2	口底 (11.5) 4.4	高 5.8	灰白	外面に丸文。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に五弁花。	61と揃いか。	
第89図	60	肥前磁器丸碗	1/3	口底 (11.2) 4.4	高 5.5	白	外面に丸文。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に五弁花。	59・61と同文だが色調が異なる。	
第89図	61	肥前磁器丸碗	底部2/3	底 4.6		白灰	外面に丸文。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に五弁花。	59と揃いか。	
第89図	62	肥前磁器広東碗	3/4	口底 10.5 5.7	高 5.8	白	外面に3重鋸歯文様を染付。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に花文。焼継あり。高台内に焼継溶剤で「せら田志ミ寿や(せらだ しみずや)」と記載。	6礎石4・1～6は揃い。	
第89図	63	肥前磁器広東碗	ほぼ完形	口底 (10.2) 5.6	高 5.8	白	外面に3重鋸歯文様を染付。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に花文。焼継1箇所あり。口唇部7箇所に赤橙色の粘土様の付着物あり。焼継作業に伴うものか。	6礎石4・1～6は揃い。	
第89図	64	肥前磁器広東碗	1/2	口底 (10.2) 5.6	高 5.8	白	外面に3重鋸歯文様を染付。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に花文。	6礎石4・1～6は揃い。	
第89図	65	肥前磁器広東碗	1/3	口底 (10.3) 5.8	高 5.6	白	外面に3重鋸歯文様を染付。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に花文。	6礎石4・1～6は揃い。	

遺物観察表

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
第89図	66	肥前磁器広 東碗	1/4	口 底	(10.1) (5.6)	高	5.9	白	外面に3重鋸歯文様を染付。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に花文。	6礎石4・1～ 6は揃い。
第89図	67	肥前磁器広 東碗	3/4	口 底	11.0 6.4	高	6.1	白	外面に縦格子文、高台外面に2重圏線。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に変形した寿。	68と揃い。
第89図	68	肥前磁器広 東碗	ほぼ完形	口 底	10.9 6.5	高	6.3	白	外面に縦格子文、高台外面に2重圏線。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に変形した寿。	67と揃い。
第90図	69	肥前磁器広 東碗	1/4	口 底	(11.2) (6.6)	高	6.2	白	外面に草花文染付。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に不明文様。貫入入る。	
第90図	70	肥前磁器広 東碗	1/3	口 底	(10.8) (6.0)	高	5.6	灰白	外面に七宝文か。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に不明文様。	
第90図	71	肥前磁器広 東碗	1/4	口 底	(9.8) (5.6)	高	5.5	白	外面に仙芝文染付。口縁部内面に2重圏線、見込み1重圏線内に不明文様。	
第90図	72	肥前磁器広 東碗	底部3/4	底	6.0			白	見込み1重圏線内に不明文様。釉は青色が強く、高台に重焼時の付着物が残る。貫入入る。	
第90図	73	肥前磁器染 付皿	1/4	口 底	(13.1) (6.8)	高	3.0	灰	内面に菊唐草文。見込み蛇の目軸剥ぎ。高台と見込みに重焼痕。	
第90図	74	肥前磁器染 付皿	1/2	口 底	(13.3) (7.6)	高	4.4	灰	輪花口縁。体部内面に染付、見込みに2重圏線。外面に蛇唐草文。	
第90図	75	肥前磁器染 付皿	1/4	口	(13.8)			灰	輪花口縁。体部内面に染付、見込みに2重圏線。外面に蛇唐草文。	
第90図	76	肥前磁器染 付皿	1/2	口 底	(14.3) 7.0	高	3.6	白	蛇の目凹型高台。口錆が付く。体部内面に染付、見込み2重圏線内に松竹梅の型印刻文。体部に焼継ぎあり。	近代。
第90図	77	肥前磁器染 付皿	3/4	口 底	14.6 10.2	高	3.9	白	蛇の目凹型高台。内面に一連の風景を染付、外面に蛇唐草文。	
第90図	78	肥前磁器染 付皿	底部片					白	皿の底部破片。内面に松竹梅染付。高台内「富貴長春」銘、円錐ピン痕4箇所。	
第90図	79	肥前磁器猪 口	完形	口 底	6.9 4.6	高	5.7	白	外面に斜格子文と緋文を染付。内面無文。	
第90図	80	肥前磁器猪 口	2/3	口 底	7.1 4.5	高	5.3	白	外面全体に斜格子文染付。	81・82と揃い。
第90図	81	肥前磁器猪 口	2/3	口 底	6.8 4.3	高	5.8	白	外面下半に斜格子文染付。	80・82と揃い。
第90図	82	肥前磁器猪 口	1/2	口 底	(6.9) (4.4)	高	6.0	白	外面下半に斜格子文染付。	80・81と揃い。
第91図	83	肥前磁器猪 口	1/3	口 底	(7.2) (4.8)	高	5.6	白	口錆。体部外面に舟文染付。	
第91図	84	肥前磁器猪 口	1/4	口 底	(7.1) (4.2)	高	5.8	白	外面に染付。	
第91図	85	肥前磁器猪 口	1/4	口 底	(8.8) (6.0)	高	5.9	白	蛇の目凹型高台。外面に松文染付。口縁部内面に菱形裝飾帯、見込み1重圏線内に不明文様。	
第91図	86	磁器仏飯具	一部欠損	口 底	7.8 4.6	高	6.0	灰白	体部外面に簡略化した龍文。脚底部蛇の目。	
第91図	87	肥前磁器水 滴	1/2	幅	6.8	高	2.6	灰白	上面に型押し印刻文様。底部内外面に布痕が残る。左手前角に注ぎ口。外面全体に灰釉、上面の一部に藍色の釉を掛けるが、図の右手側面は一部無釉となっている。	
第91図	88	肥前磁器染 付小瓶	底部1/2	底	7.0			灰	焼成不良。外面に染付、内面無釉。高台の作り粗雑、砂付着。内面に褐色の錆状付着物。	
第91図	89	肥前磁器染 付小瓶	胴部下半～底部	底	5.3			灰白	体部球形。外面に染付、内面無釉。底部内面の中央に釉垂れ落ち微量。	
第91図	90	瀬戸・美濃 陶器小碗	1/2	口 底	5.8 2.8	高	3.1	黄灰白	内面と外面腰下まで灰釉、貫入入る。	
第91図	91	瀬戸・美濃 陶器小碗	2/3	口 底	6.0 2.9	高	3.8	白灰	内面と外面腰下まで灰釉、貫入入る。畳付が二重。	
第91図	92	京・信楽系 陶器灰釉汁 次かカンテ ラ	胴部1/2	口 底	(4.7) (4.5)	高	3.8	灰白	把手欠損。内面と外面腰まで灰釉、貫入入る。口縁端部上面無釉。	
第91図	93	古瀬戸灰釉 平碗か	胴部片					淡黄	内面と外面腰まで灰釉。	中世。
第91図	94	京・信楽系 陶器灰釉碗	1/2	口 底	9.2 3.4	高	5.2	灰白	内面と外面腰まで灰釉、貫入入る。	
第91図	95	瀬戸陶器鍔 茶碗	2/3	口 底	(8.4) 3.4	高	5.8	灰白	内面胴縁釉、外面胎釉。外面回転施文具による施文。内外面に貫入入る。	
第91図	96	瀬戸・美濃 陶器腰鍔茶 碗	1/3	口 底	(8.8) 3.8	高	6.1	黄灰白	内面と口縁部外面に灰釉、以下に鍔釉。灰釉に貫入入る。	
第91図	97	瀬戸・美濃 陶器鉄釉丸 碗	2/3	口 底	8.7 (3.4)	高	5.4	黄灰白	内面と外面腰まで鉄釉。口唇つれ部が黒色化。灰落とし、火入れ等に転用か。	
第91図	98	瀬戸・美濃 陶器腰鍔茶 碗	1/3	口	(9.0)			灰	内面と口縁部外面に灰釉、以下に鍔釉。灰釉に貫入入る。	
第91図	99	瀬戸・美濃 陶器灰釉碗	口縁部片	口	(14.0)			灰	内外面に灰釉、貫入入る。	

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				底	口	高			
第92図	100	瀬戸・美濃 陶器灰釉火 入れか	底部片	底	(5.5)		灰白	外面腰まで灰釉、内面無釉。貫入入る。高台内に「巳口」墨書。	
第92図	101	瀬戸・美濃 陶器鉛釉筒 形香炉	1/3	口 底	(9.6) 6.8	高 6.1	淡黄	口縁部内面から外面腰まで鉛釉。口縁外部面敲打痕顕著。灰落とし、火入れ等に使用か。	
第92図	102	瀬戸・美濃 陶器鉛釉筒 形香炉	1/3	口 底	(10.0) (7.0)	高 6.2	にぶい橙黄橙	口唇部平坦で内斜。内外面腰まで鉛釉。口唇部無釉。脚先端部に鉛釉付着。	
第92図	103	瀬戸・美濃 陶器灰釉輪 壳皿	1/2	口 底	(13.5) 5.8	高 3.2	黄灰白	口縁部外折、口唇部外側に稜。体部上半に灰釉どぶ漬け、見込みに指で塗る。見込みと高台に重焼痕。	
第92図	104	瀬戸・美濃 陶器灰釉輪 壳皿	2/3	口 底	10.4 5.8	高 3.1	黄灰白	口縁部外折、口唇部外側に稜。体部上半に灰釉どぶ漬け、見込みに指で塗る。見込みと高台に重焼痕。	
第92図	105	瀬戸・美濃 陶器灰釉輪 壳皿	2/3	口 底	12.2 6.4	高 3.2	黄白灰	体部内湾。内外面に灰釉、見込みを蛇の目に釉剥ぎし、錆釉を塗る。内面腰に呉須で1重圈線。見込みに呉須絵。貫入入る。	
第92図	106	京・信楽系 陶器灰釉灯 明油皿	1/4	口 底	(10.6) (4.0)	高 2.1	灰白	内面櫛目1箇所。口縁部外面から内面に灰釉、貫入入る。底部回転瓷撫で。	
第92図	107	瀬戸・美濃 陶器錆釉灯 明油皿	一部欠損	口 底	10.4 4.9	高 2.0	灰	内外面に錆釉、外面口縁部以下の釉拭う。見込みと外面に重焼痕。	
第92図	108	瀬戸・美濃 陶器錆釉灯 明油皿	2/3	口 底	10.0 4.8	高 1.9	灰オリーブ	内外面に錆釉、外面口縁部以下の釉拭う。見込みと外面に重焼痕。	
第92図	109	瀬戸・美濃 陶器錆釉灯 明油皿	一部欠損	口 底	9.8 3.9	高 1.9	灰オリーブ	内外面に錆釉、外面口縁部以下の釉拭う。見込みに重焼痕。内外面と欠け口に煤油付着。	
第92図	110	瀬戸・美濃 陶器か灰釉 灯明受皿	1/2	口 底	(10.6) (4.0)	高 2.1	黄灰白	受け部大きく「U」字状に抉る。口縁部外面から内面に灰釉、貫入入る。受け部と外面に重焼痕。	
第92図	111	瀬戸・美濃 陶器鉄釉灯 明受皿	一部欠損	口 底	10.0 4.8	高 2.4	黄灰白	受け部「U」字状に抉る。内外面に錆釉、外面口縁部以下の釉拭う。受け部と外面に重焼痕。	
第93図	112	瀬戸・美濃 陶器錆釉灯 明受皿	3/4	口 底	10.2 4.4	高 2.0	灰	内外面に錆釉、外面口縁部以下の釉拭う。受け部と外面に重焼痕。	
第93図	113	瀬戸・美濃 陶器錆釉灯 明受皿	3/4	口 底	9.9 4.3	高 1.9	黄灰白	受け部「U」字状に抉る。内外面に錆釉、外面口縁部以下の釉拭う。受け部と外面に重焼痕。外面に煤油付着。	
第93図	114	瀬戸・美濃 陶器錆釉灯 明受皿	1/2	口 底	(10.8) 4.8	高 2.2	黄灰白～灰褐	器形歪み。内外面に錆釉、外面口縁部以下の釉拭う。見込みと外面に重焼痕。	
第93図	115	瀬戸・美濃 陶器錆釉灯 明受皿	1/3	口 底	(9.8) (4.7)	高 2.0	黄灰白	受け部「U」字状に抉る。内外面に錆釉、外面口縁部以下の釉拭う。受け部と外面に重焼痕。	
第93図	116	瀬戸・美濃 陶器鉄釉 ひょうそく	受け部2/3欠損	底	5.7		灰白	脚台がつく大型品。内外面に鉄釉。底部回転糸切り後、無調整。底面に固定用の円孔。	
第93図	117	軟質施釉陶 器カンテラ	ほぼ完形	口 底	4.9 6.0	高 5.6 6.9	橙	両口形、長さ23.7。本体口唇部に小さく蓋受けが付く。腕部付け根に吊り下げ用の突起が一对つくが、紐は残っていない。内外面に薄い透明釉。底部菱形、内面に回転指撫で。両燃焼部に使用による黒色の付着物が残る。	
第93図	118	軟質施釉陶 器カンテラ	両燃焼部欠損	口 底	4.2 4.2	高 5.3	橙	両口形、両腕部欠損。本体口唇部に小さく蓋受けは付く。腕部付け根に吊り下げ用の突起が一对つくが、紐は残っていない。内外面に薄い透明釉。一方の肩部に円形のスタンプを重ねて横位に三輪を印刻。底部丸形、内面に回転指撫で。	
第94図	119	瀬戸・美濃 陶器灰釉片 口	底部	底	7.8		灰オリーブ～淡黄	内面と外面腰まで灰釉。内面底部に目痕3箇所。高台内に丸い当て具痕。	
第94図	120	瀬戸・美濃 陶器灰釉片 口鉢	胴部下半	底	8.3		淡黄	外面腰下まで灰釉、艶があり貫入入る。内面淡く灰釉刷毛塗り、艶無し。	
第94図	121	古瀬戸灰釉 瓶	胴部片				灰	櫛目横に一条。外面灰釉。内面無釉。	中世。
第94図	122	古瀬戸灰釉 盤類	胴部片				灰～淡黄	外面腰まで灰釉、貫入入る。内面下位、灰釉刷毛塗り。内面上位から灰釉流れる。	中世。
第94図	123	京・信楽系 陶器か灰釉 土瓶	2/3	口 底	(6.8) 7.2	高 11.0	灰～黄灰白	3区6号礎石出土破片と接合。注口および把手を欠損。外面腰まで灰釉。内面肩部にたつぷりの施釉あり。底部外面に粒状の脚3箇所貼り付け。底部に使用による煤付着。焼継あり。外面腰に焼継溶液で「せら田 志ミ寿や(せらだ しみずや)」と記載。	124と揃いか。

遺物観察表

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
				口 底	() ()	高				
第94図	124	京・信楽系 陶器か灰釉 土瓶	1/3	口 底	(7.0) (6.4)	高	10.3	灰～黄灰白	外面腰まで灰釉。内面肩部に軽い施釉。注口取り付け部に丸孔3個で連結。底部外面に粒状の脚3箇所貼り付け。底部に使用による煤付着明瞭。	123と揃いか。
第94図	125	京・信楽系 陶器か土瓶	1/4	底	(6.6)			黄灰白	外面に青緑釉。注口取り付け部に丸孔3個で連結。底部外面に粒状の脚3箇所貼り付け。底部に使用による煤付着。	
第94図	126	堺・明石陶 器すり鉢	口縁部片	口	(30.0)			赤褐	施釉なし。	
第94図	127	瀬戸・美濃 陶器鉄釉す り鉢	口縁部片	口	(31.0)			黄灰白	内外面に鉄釉。	
第94図	128	在地系土器 片口鉢	底部片	底	(15.0)			橙	内面に縦位の沈線。内面使用により平滑化。二次被熱あり。	
第94図	129	在地系土器 片口鉢	底部片	底	(16.0)			淡黄灰	内面に櫛歯状の施文あり。内面使用により平滑化。底部に櫛歯状の調整痕。	
第94図	130	在地系土器 片口鉢	胴部片					灰	内面使用により平滑。	
第95図	131	渥美陶器 甕	胴部片					灰	外面に叩き目。内面横ナデ。	
第95図	132	常滑陶器 甕	胴部片					褐灰	内外面横ナデ。外面に鉄釉。	
第95図	133	常滑陶器 甕	胴部片					黒灰	外面に自然釉。内面に指押し痕。	
第95図	134	常滑陶器 甕	胴部片					褐灰～橙	内外面ナデ。内面に指押し痕。	
第95図	135	常滑陶器 甕	胴部片					褐灰～橙	内外面ナデ。内面に指押し痕。	
第95図	136	渥美陶器 甕	胴部片					灰	外面に刷毛目。内面に自然釉。	
第95図	137	円盤形加工 品	完形					にぶい黄橙	在地系土器の破片を円形状に加工したもの。	
第95図	138	円盤形加工 品	完形					橙	在地系土器の破片を円形状に加工したもの。	
第95図	139	在地系土器 皿	1/3	口 底	(10.4) 7.0	高	1.8	淡橙	底部から口縁部に直線的に開く。底部回転糸切り痕、無調整。内面指ナデ。	
第95図	140	円盤形加工 品	完形					にぶい橙	在地系土器の破片を円形状に加工したもの。	
第95図	141	在地系土器 皿	底部	底	5.4			淡黄橙	底部回転糸切り後、無調整。内面ナデ。	
第95図	142	在地系土器 皿	口縁部片	口 底	(10.4) (7.0)	高	1.9	淡橙	体部直線的に開き、口縁部内折。底部回転糸切り後、無調整。	
第95図	143	在地系土器 茶釜	胴部片					橙	外面に粗い研磨。内面ナデ。	
第95図	144	在地系土器 植木鉢	破片			高	10.3	黒灰～灰白	方形状で脚が付く。側面角に面取り。外面に軽い研磨。内面ナデ。	
第96図	145	在地系土器 焙烙	一部欠損	口 底	35.7	高	6.9	にぶい橙	底が丸いタイプで、内面に把手が3箇所つく。底部内面ほぼ中央に「大器上」の刻印。外面煤付着。	
第96図	146	在地系土器 焙烙	口縁部片	口 底	(35.3)			橙白～橙	底が丸いタイプで、内面に把手がつく。外面煤付着。	
第96図	147	在地系土器 焙烙	3/4	口 底	36.8 33.0	高	5.3	灰白～黒灰	底が平坦なタイプ。内面に把手が3箇所つく。外面に煤付着。	
第96図	148	在地系土器 焙烙	口縁部片	口 底	(39.4) (36.0)	高	5.1	にぶい黄橙	底が平坦なタイプ。内面に把手がつく。外面に煤付着。	
第96図	149	在地系土器 焙烙	口縁部片	口 底	(37.8) (33.0)	高	5.1	橙	底が平坦なタイプ。内面に把手がつく。底部内面かいる研磨。体部外面に煤付着。	
第96図	150	在地系土器 鉢	1/2	口 底	(27.8) (22.0)	高	9.0	にぶい黄橙	腰部に沈線1条、口縁部外面に淵。外面が荒れており、口唇部と底部周縁に著しい潰れ・ぼつれが認められる。	
第96図	151	在地系土器 植木鉢?	1/3	口	(33.0)			黒灰～黄灰	胴部が丸く、口縁部が外折。内外面燻し、黒色化。外面に弱い叩き目がつき、胴部中央の無紋帯と口縁部内面に研磨光沢を施す。内面には轆轤目をそのまま残す。底部欠損。	
第97図	152	在地系土器 鍋	口縁部片	口 底	(29.2) (24.7)	高	8.7	黒灰～黄灰	体部がやや開き、口唇部が外側に小さく突出する。内面に弱い研磨を施す。外面腰下に胎土不足による凹みが目立つ。	
第97図	153	在地系土器 手水鉢?	1/4	口 底	(40.4) (32.4)	高	10.6	黒灰～黄灰	体部が開き、口縁部が外折。内外面燻し、黒色化。内面入念研磨、光沢。	
第97図	154	在地系土器 手水鉢?	1/3	口 底	(40.0) (28.0)	高	9.9	灰～黄灰白	体部が丸く開き、口縁部外折。内外面燻し、黒色化。内面入念研磨、光沢。153に比べて丸みがある。	
第97図	155	在地系土器 置き竈	上端部1/4	口	(35.0)			黒灰～橙	焚き口上方の窓部縁装飾の一部が残る。内外面の所々に使用による弱い被熱変色あり。上端部外縁に煤油付着。	
第97図	156	銅製品銭貨	完形	縦 横	2.332 2.330	厚 重	0.128 1.99		寛永通寶。表面は彫深い硬い錆に覆われ外縁・文字・郭とも不明瞭。裏面は平坦外縁・郭とも不明瞭。	
第97図	157	石製品砥石	ほぼ完形	長 幅	10.5 6.3	厚 重	3.1 308.9	砂岩	研面は4面認められる。正面は、下部が研ぎ減りによって先端に向かって著しく傾斜した形態を呈する。また、中央から上部にかけては、やや内湾した形態である。裏面も同様な形態である。左右側面はほぼ平坦である。上部欠損。	
第97図	158	石製品砥石	1/2	長 幅	6.0 1.8	厚 重	(3.4) 54.3	凝灰質砂岩	研面は5面認められる。正面、左右側面、上下面はほぼ平坦な形態である。右側面に径約5mmの孔が認められる。右側部欠損。	

Ⅲ区一括

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考	
				底	口底	高				
第98図	1	磁器坏	1/4	底	2.6			白	見込みに青色の上絵具で「咲繁」の文字。外面高台付け根に呉須で鎖状の文様、高台内に不明の文字。	
第98図	2	肥前磁器染付小碗	2/3	口底	(7.3) 2.5	高	3.9	白	外面に染付、内面無文。	7と揃い。
第98図	3	肥前磁器染付小碗	1/2	口底	7.4 3.0	高	3.4	白	口縁部外面に笹文、内面無文。	
第98図	4	瀬戸・美濃磁器染付端反碗	胴部1/2	底	4.0	高	3.1	白	外面に東屋文、見込みに染付文様。	
第98図	5	肥前磁器白磁か染付端反小碗	1/3	口底	(6.8) 2.4	高	3.4	灰	全体に貫入。残存部無文。	
第98図	6	肥前磁器染付端反小碗	底部1/2	口底	(7.1) 3.5	高	5.2	白	外面に染付、内面無文。	
第98図	7	肥前磁器染付小碗	3/4	口底	7.5 2.6	高	3.9	白	外面に染付、内面無文。	2と揃い。
第98図	8	肥前磁器広東碗蓋	2/3	口底	10.2 5.8	高	2.9	白	外面に柳と亀。口縁部内面に二重圏線、見込み一重圏線内に鷺。	
第98図	9	肥前磁器広東碗蓋	1/3	口底	(9.9) 5.2	高	2.7	白	外面に縦格子文。口縁部内面に二重圏線、見込み一重圏線内に寿文。	1遺物集中67・68に蓋
第98図	10	肥前磁器広東碗蓋	1/3	口底	(9.3) 4.8	高	2.6	白	外面に3重鋸歯文様、つまみ内に方形枠の寿。口縁部内面に2重圏線、見込み一重圏線内に花文。	6礎石4・1遺物集中1～6と揃い。
第98図	11	肥前磁器端反碗蓋	1/2	口底	(8.6) (3.4)	高	2.8	白	外面に笹文。口縁部内面と見込みに炭弾きによる雲状文。	38と共通手法。
第98図	12	瀬戸・美濃磁器端反碗	1/2	口底	(7.1) 3.5	高	4.0	白	外面に銅版転写による施文。内面無文。底部蛇の目凹高台。	近現代。
第98図	13	肥前磁器染付丸碗	一部欠損	口底	7.5 2.7	高	3.7	灰白	口縁部外面に折松葉と山、内面無文。	
第98図	14	肥前磁器染付丸碗	1/2	口底	8.4 3.6	高	3.7	灰白	外面に折松葉と梅樹文。内面無文。	
第98図	15	肥前磁器染付丸碗	1/2	口底	(8.0) 4.0	高	4.1	灰白	外面に折松葉と梅樹文。内面無文。	
第98図	16	肥前磁器染付丸碗	1/3	口底	(9.6) (4.2)	高	5.2	灰白	外面に折松葉と梅樹文。内面無文。	
第98図	17	瀬戸・美濃磁器碗	1/2	口底	8.2 3.2	高	4.7	白	外面にゴム印判による施文。内面無文。	近現代。
第98図	18	肥前磁器染付丸碗	2/3	口底	8.8 3.8	高	4.0	灰	外面に折松葉と梅樹文。内面無文。	
第98図	19	肥前磁器染付丸碗	2/3	口底	8.8 3.6	高	4.1	灰白	外面に折松葉と梅樹文。内面無文。	
第98図	20	肥前磁器染付丸碗	2/3	口底	(8.4) 3.1	高	4.1	白	外面に二重網目文、内面に一重網目文、見込み星形状文様コンニャク判。	
第98図	21	肥前磁器染付丸碗	1/3	口底	(9.0) 3.6	高	4.3	灰	外面に梅樹文。内面無文。	
第98図	22	肥前磁器染付丸碗	1/2	口底	9.0 3.6	高	5.2	灰白	外面に簡略化した雪輪梅樹文、内面無文。高台内不明銘。	
第98図	23	肥前磁器染付丸碗	1/3	口底	(8.4) (3.8)	高	4.3	灰	外面に簡略化した雪輪梅樹文、内面無文。	
第98図	24	瀬戸・美濃磁器染付丸碗	2/3	口底	(7.0) 3.4	高	5.5	白	外面に草花文、内面無文。貫入入る。	
第98図	25	肥前磁器染付端反碗	胴部下半	底	4.0			白	外面に草花文。見込みに草花文、高台内に焼継ぎ時の「千也」朱書き。焼継ぎ痕あり。	
第99図	26	肥前磁器染付丸碗	一部欠損	口底	9.6 4.2	高	5.2	灰白	外面に雪輪梅樹文、内面無文。高台内不明銘。	
第99図	27	肥前磁器染付筒形湯呑	1/3	口底	(7.1) 3.5	高	5.1	灰白	外面に草花文。口縁部内面に二重圏線、見込み一重圏線内五弁花。	
第99図	28	肥前磁器染付筒形湯呑	1/4	口底	(7.0) (3.6)	高	5.3	灰白	外面に染付。口縁部内面に二重圏線、見込み一重圏線内の文様不明。内面に茶褐色の付着物。	
第99図	29	肥前磁器染付丸碗	2/3	口底	8.4 3.5	高	5.1	白	外面孟宗譚。見込み一重圏線内五弁花。	
第99図	30	肥前磁器染付丸碗	2/3	口底	(8.6) 3.5	高	5.1	灰白	外面に菊花文。口縁部内面に二重圏線、見込み一重圏線内五弁花。	
第99図	31	肥前磁器染付丸碗	1/2	口底	(8.8) 3.6	高	5.7	白	外面に草花文。口縁部内面に二重圏線、見込み一重圏線内五弁花。貫入入る。	
第99図	32	肥前磁器染付丸碗	1/4	口底	(8.6) (3.8)	高	5.6	白	外面に染付。口縁部内面に二重圏線、見込み二重圏線内五弁花。	
第99図	33	肥前磁器染付丸碗	1/3	口底	(8.7) 3.2	高	5.1	白	外面に笹竹文。口縁部内面に二重圏線、見込み一重圏線内五弁花。	1遺物集中23と揃いか。
第99図	34	肥前磁器染付丸碗	1/4	口底	(7.8) 3.5	高	5.3	灰白	外面に笹竹文。口縁部内面に二重圏線、見込み一重圏線内五弁花。	

遺物観察表

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				底	口底	高			
第99図	35	肥前磁器染付丸碗	胴下半1/2	底	3.6		白	外面に笹文。見込一重圏線内五弁花。貫入入る。	
第99図	36	肥前磁器染付丸碗	1/2	口底	8.4 3.2	高 5.4	白	外面に蛸唐草文。口縁部内面に裝飾帯、見込み二重圏線内に蛸唐草。	
第99図	37	肥前磁器染付丸碗	1/2	口底	(8.8) 3.2	高 5.6	白	外面に菊花文。口縁部内面に二重圏線、見込一重圏線内五弁花。	
第99図	38	瀬戸・美濃磁器染付端反碗	1/2	口底	9.5 3.7	高 5.0	浅黄	外面に花唐草文。口縁部内面炭弾きによる雲状文、見込み二重圏線内に不明文様。高台内不明銘。	
第99図	39	瀬戸・美濃磁器染付端反碗	3/4	口底	9.2 4.0	高 4.8	白	外面「□禄寿」の文字。口縁部内面に染付帯、見込み一重圏線内に米印。	
第99図	40	瀬戸・美濃磁器染付端反碗	1/4	口底	(10.7) 4.2	高 6.0	白	外面に草花文。口縁部内面に鋸歯文、見込みに染付文様。	
第100図	41	肥前磁器染付端反碗	一部欠損	口底	10.5 4.2	高 6.0	灰白	外面によるけ縞文。口縁部内面に格子文、見込み一重圏線内に斜格子文。畳付に灰付着。	
第100図	42	瀬戸・美濃磁器か丸碗	1/2	口底	11.4 3.8	高 5.0	灰白	外面に型紙摺による鶴亀文。口縁部内面瓔珞文。見込み、手描きによる1重圏線内に型紙摺による松竹梅文。	
第100図	43	肥前磁器染付端反碗	2/3	口底	10.5 4.0	高 6.3	灰白	外面に斜格子文、口縁部内面に裝飾帯、見込み一重圏線内に不明文様。	
第100図	44	肥前磁器染付端反碗	1/3	口底	(11.2) 4.4	高 6.0	白	外面に梅木文か。見込みに染付文様。	
第100図	45	肥前磁器染付丸碗	3/4	口底	11.4 4.5	高 6.0	灰白	外面に丸文。口縁部内面に二重圏線、見込一重圏線内五弁花。畳付に灰付着。	
第100図	46	肥前磁器染付広東碗	1/2	口底	11.4 5.8	高 6.6	灰白	外面に蓮か。口縁部内面に二重圏線、見込み一重圏線内に染付文様。	
第100図	47	瀬戸・美濃陶器染付広東碗	底部片	底	(5.0)		黄白	外面に染付、見込み一重圏線内に染付文様。弱く貫入入る。	
第100図	48	制作地不詳磁器不詳	口縁部片				白	内面白堆。時期不詳。内外面灰釉、口縁部無釉。	
第100図	49	肥前磁器染付皿	3/4	口底	13.6 7.0	高 2.9	灰	内面に菊唐草文、見込み蛇の目釉剥ぎ。見込み五弁花コンニャク判。見込みと高台に重焼痕。	
第100図	50	肥前磁器染付皿	一部欠損	口底	12.4 5.2	高 2.7	灰	内面に菊唐草文、見込み蛇の目釉剥ぎ。見込み五弁花コンニャク判。五弁花は小さい。見込みと高台に重焼痕。	
第100図	51	肥前磁器染付皿	ほぼ完形	口底	13.2 7.5	高 3.8	灰白	内面に山水と扇文、見込み五弁花コンニャク判。外面に蛇唐草文。高台内1重圏線に渦福字銘。	
第101図	52	肥前磁器染付皿	1/2	口底	(14.0) 7.8	高 3.9	灰白	内面に山水と扇文、見込み五弁花コンニャク判。外面に蛇唐草文。高台内1重圏線に渦福字銘。	
第101図	53	肥前磁器染付皿	口縁部片	口底	(15.0) (9.0)	高 4.6	白	打ち型成形。内外面染付。口縁部内面に雷文帯がめぐる。	
第101図	54	肥前磁器染付皿	底部1/2	底	8.0		白	内外面染付。高台内1重圏線に渦福字銘。見込み五弁花コンニャク判。	
第101図	55	肥前磁器染付皿	1/3	口底	(13.4) (8.2)	高 3.8	灰	内外面染付。	
第101図	56	肥前磁器染付皿	口縁部片	口	(12.0)		白	内外面染付。底部蛇の目凹型高台。	
第101図	57	肥前磁器染付中皿	1/2	口底	(21.0) 12.4	高 4.8	白	口縁部輪花。内面に草花文、見込み一重圏線内草花文か。外面に二重線による蛇唐草文。高台内一重圏線内に不明文様。底部高台内にトチン痕1個。	
第101図	58	肥前磁器染付猪口	1/3	口底	(6.8) 4.6	高 5.9	白灰	外面下半に斜格子文、内面無文。	1遺物集中81・82と揃いか。
第101図	59	肥前磁器青磁火入れ	1/3	口	11.5		灰白	体部上半直線的にやや開き、口唇部内折して突出。内面中位付近から外面青磁釉。	
第101図	60	制作地不詳磁器レンゲ	把手端部欠損				白	縁に呉須を塗布。内面緑色絵具による手描き松文。底面に畳付がつく。	近現代。
第101図	61	円盤形加工品	完形	口底	4.8 4.8	高 1.3	白灰	肥前磁器小坏の底部を円形状に加工したものの。高台端部も打ち欠く。	
第101図	62	京・信楽系陶器小杉碗	胴下半1/3	底	3.2		黄灰白	外面下位に鉄絵。内外面透明釉に細かな貫入入る。	
第101図	63	瀬戸・美濃陶器端反碗	口縁部片	口	(8.9)		浅黄褐	口縁部外面白土と鉄絵具による梅文?内面白化粧。内外面透明釉。細かい貫入入る。	
第101図	64	京・信楽系陶器碗	1/3	口底	(10.9) (4.4)	高 5.5	くすんだ黄灰	口縁部外面鉄絵具と白土による施文。内面から高台脇透明釉。細かい貫入入る。内面目痕2箇所。	
第101図	65	肥前陶器陶胎染付碗	1/3	底	4.7		暗灰	内外面に貫入入る。	
第102図	66	肥前陶器刷毛目茶碗	底部1/2	底	4.8		明橙	内外面白土刷毛塗り。細かな貫入入る。	
第102図	67	肥前陶器刷毛目茶碗	口縁部片	口	(12.0)		明橙	内外面白土刷毛塗り。66と同個体。	
第102図	68	肥前陶器陶胎染付碗	1/3	口	(11.3)		暗灰	内外面に貫入入る。	
第102図	69	肥前陶器陶胎染付碗	1/2	底	5.2		灰	外面に花唐草文か。内外面に貫入入る。	

挿 図 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
			底	口底	高			
第102図	瀬戸・美濃 陶器染付筒 形湯呑	胴下半2/3	底	3.3		灰～黄白	外面に菊花文。見込み一重圏線内に星梅鉢文。	
第102図	瀬戸・美濃 陶器灰釉丸 皿	1/3	口底	(11.8) (5.6)	高 2.4	暗灰オリーブ	外面上半部から内面に灰釉。	
第102図	益子・笠間 陶器か灰釉 皿	1/4	口底	(13.6) (8.8)	高 2.1	灰黄白	内面呉須による文様。見込み目痕3箇所。高台上に「田」墨書、高台内にも墨書あり。	
第102図	相馬陶器か 色絵花皿	ほぼ完形	口底	9.6 4.9	高 2.8	灰黄白	釉は透明釉をかけ、全体に明瞭な二重貫入が入る。口縁端部5箇所を内側に押圧して花形を構成し、内面に赤・緑・黄・茶・白の上絵具で絵柄を施す。	近現代か。
第102図	瀬戸・美濃 陶器灰釉輪 禿皿	1/2	口底	(12.8) 6.8	高 3.1	黄灰白	体部上半内外面と見込みに灰釉。高台内粗いナデ。	
第102図	瀬戸・美濃 陶器灰釉皿	1/2	口底	(13.8) 6.5	高 2.9	淡灰オリーブ	外面上半部から内面に灰釉。見込みと高台に重焼痕。	
第102図	瀬戸・美濃 陶器御深井 皿	1/2	口底	(12.5) 7.5	高 2.9	淡黄	やや焼成不良。内面鉄絵具による型紙摺。内面底部周縁浅い沈線。内面から口縁部外面灰釉。高台仕上げ粗雑。	
第102図	瀬戸・美濃 陶器大皿	底部1/2	底	14.0		灰白	内面呉須で葉を、鉄絵具で枝か茎を描く。内面から高台脇灰釉。内面目痕3箇所。	
第102図	円盤形加工 品	未製品?	口底	5.6 5.6	高 2.2	灰白	肥前陶器器手碗の高台部を円形状に加工したもの。高台部の一部にも好打痕があり、高台部を外す意図がみられる。	
第102図	円盤形加工 品	完形	口底	5.1 5.1	高 1.5	黄灰白	瀬戸・美濃陶器鉄釉碗の高台部を円形状に加工したもの。	
第103図	瀬戸・美濃 陶器錆釉灯 明油皿	完形	口底	9.6 4.4	高 2.0	灰	内外面に錆釉、外面口縁部以下の釉拭う。底部回転篋削り。見込みに重焼痕。内外面に煤油付着。	
第103図	瀬戸・美濃 陶器錆釉灯 明油皿	ほぼ完形	口底	10.2 4.0	高 2.1	灰オリーブ	内外面に錆釉、外面口縁部以下の釉拭う。底部回転篋削り。見込みに重焼痕。内外面に煤油付着。	
第103図	瀬戸・美濃 陶器錆釉灯 明油皿	1/2	口底	(10.2) (4.4)	高 2.0	黄白灰	内外面に錆釉、外面口縁部以下の釉拭う。底部回転篋削り。見込みに重焼痕。内外面に煤油付着。	
第103図	瀬戸・美濃 陶器錆釉灯 明受皿	一部欠損	口底	10.3 4.8	高 1.6	灰	受け部「U」字状に抉る。内外面に錆釉、外面口縁部以下の釉拭う。底部回転篋削り。受け部と外面に重焼痕。受け部上端の大半が擦れ・潰れ。	
第103図	瀬戸・美濃 陶器か灰釉 灯明受皿	口縁部片	口底	(12.0) (4.3)	高 2.4	灰黄白	口縁部上端から内面に灰釉。底部回転篋ナデ。	
第103図	瀬戸・美濃 陶器錆釉灯 明受皿	一部欠損	口底	10.4 4.6	高 2.6	灰	受け部「U」字状に抉る。内外面に錆釉、外面口縁部以下の釉拭う。底部回転篋削り。受け部と外面に重焼痕。	
第103図	瀬戸・美濃 陶器錆釉灯 明受皿	3/4	口底	11.2 6.2	高 2.2	淡黄灰	口縁より受け部がかなり高い。受け部「U」字状に抉る。内外面に錆釉、外面口縁部以下の釉拭う。底部回転篋削り。受け部と外面に重焼痕。	
第103図	瀬戸・美濃 陶器錆釉灯 明受皿	1/2	口底	10.3 4.6	高 2.4	黄灰白	受け部「U」字状に抉る。内外面に錆釉、外面口縁部以下の釉拭う。底部回転篋削り。受け部と外面に重焼痕。	
第103図	瀬戸・美濃 陶器灰釉灯 明受皿	1/2	口底	9.8 5.8	高 1.7	灰黄白	口縁部上端から内面に灰釉。底部回転篋ナデ。腰下に墨書らしき墨痕あり。	
第103図	軟質施釉陶 器カンテラ	2/3	口底	4.5 5.0	高 6.1	橙	両口形カンテラ。底部方形状で、回転糸切り痕あり。底部内面に指ナデ。燃焼部片側欠損。全体に光沢のある透明釉をかける。口唇部にほつれ、体部に剥落あり。所々に使用による煤油付着。釣り穴部に銅線残る。	
第104図	軟質施釉陶 器カンテラ	1/2	口底	(4.0) 3.5	高 5.5	橙	小型品で、全体に光沢のある黒色釉をかける。燃焼部の一部欠損。所々に使用による煤油付着。口唇部蓋受け明瞭。底部方形状、内面に回転指ナデ。	
第104図	古瀬戸陶器 灰釉瓶	胴部片				白灰	外面に灰釉、内面釉垂れ。	中世。
第104図	龍泉窯系青 磁碗	胴部片				暗灰	内外面に貫入。	中世。
第104図	瀬戸・美濃 陶器灰釉摺 絵鬘水入れ	1/3			高 3.8	灰白	外面鉄絵具による型紙摺。内面から体部外面に灰釉。いわゆる御深井製品。	
第104図	瀬戸・美濃 陶器胎釉有 耳壺	口縁部片	口	(8.6)		灰	外面と口縁部内面に胎釉。内外面とも口縁部上半は無釉。口唇部上端全体に剥げ、胎釉一部残る。重焼痕か。	
第104図	古瀬戸陶器 灰釉有耳壺	肩部片				白灰	外面に灰釉がたつぷりとかかる。貫入入る。肩部に橋状の把手が付くが欠損。	中世。
第104図	瀬戸・美濃 陶器灰釉片 口鉢	1/3	口	(18.5)		淡黄	口縁部外面下端に削り沈線。口唇部内面にやや突出。内外面に灰釉。	

遺物観察表

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第104図	97	堺・明石陶器すり鉢	口縁部片					橙	無釉。	
第104図	98	堺・明石陶器すり鉢	口縁部片					赤橙	内外面に錆釉。口縁部内面の段差明瞭。	
第104図	99	堺・明石陶器すり鉢	口縁部片					橙～暗橙	片口部分。口縁部が薄く、口唇部の沈線が明瞭。	
第104図	100	瀬戸・美濃陶器すり鉢	口縁部片					灰黄白	内外面錆釉。	
第104図	101	円盤形加工品	完形	口底	4.7 4.3	高	2.0	橙	堺・明石陶器すり鉢の底部破片を円形状に加工したもの。	
第104図	102	在地系土器片口鉢	底部	底	11.3			淡灰～淡橙	被熱劣化。底部内面使用により平滑。底部を円形状に加工した円盤状加工品の可能性あり。	
第104図	103	常滑陶器甕	口縁部片					灰	口縁部上下端が小さく伸びる。外面に錆釉か。	13世紀第3四半期
第104図	104	常滑陶器甕	口縁部片					灰白	口縁部受け口状をなす。内外面に自然釉。	13世紀第2四半期
第105図	105	焼締陶器甕	胴部片					淡紫橙	表面褐色。内面ナデ、外面かるい研磨。	中世。
第105図	106	常滑陶器甕	胴部片					暗紫灰	外面に自然釉。	中世。
第105図	107	常滑陶器甕	肩部片					黒灰	内外面に錆釉。	中世。
第105図	108	常滑陶器甕	胴部片					赤橙	内外面ナデ。外面に錆釉。	中世。
第105図	109	円盤形加工品	完形	口底	5.8 6.0	高	1.1	灰	常滑陶器甕破片を円形状に加工したもの。外面に錆釉。	
第105図	110	円盤形加工品	完形	口底	5.2 5.1	高	1.5	赤橙	常滑陶器甕破片を円形状に加工したもの。	
第105図	111	円盤形加工品	完形	口底	5.2 5.1	高	1.5	灰～黄橙	常滑陶器甕か壺破片を円形状に加工したもの。	
第105図	112	円盤形加工品	完形	口底	4.7 4.5	高	1.4	白灰	在地系土器の破片を円形状に加工したもの。内外面燻し、黒色。外面に円粒列、粒剥落。	
第105図	113	搬入系土器焼塩壺	胴下半	底	4.0			くすんだ灰黄	轆轤整形。内外面横ナデ。底面に糸切り痕を残す。	
第105図	114	在地系土器灯明皿？	2/3	口底	(7.7) 4.3	高	2.5	橙	全体に劣化。厚手で、底部が敲打以上に突出し、口縁部先端が外削ぎ状に内湾。口唇全体に煤油付着。	
第105図	115	在地系土器皿	1/3	口底	(10.0) (7.4)	高	1.8	橙	薄手硬質。体部直線的に開く。底部上げ底状、回転糸切り後、無調整。	
第105図	116	在地系土器皿	1/3	口底	(9.4) (5.6)	高	1.9	淡橙	焼成並。口縁部やや内湾。底部回転篋削り後、無調整。	
第105図	117	在地系土器皿	1/4	口底	(9.8) (7.0)	高	2.1	淡橙	焼成並。口縁部やや内湾。底部ナデ。底部に円孔あり。	
第105図	118	在地系土器皿	底部片	底	(6.0)			淡橙	焼成並。底部回転篋削り後、周縁部ナデ。底部に円孔あり。	
第105図	119	在地系土器鉢？	底部片					にぶい橙	丸底内耳鍋に似るが、脚がつく。内外面燻し、黒色。内外面ナデ。	中世。
第105図	120	在地系土器茶釜？	胴部片					にぶい橙	やや厚手のつくりで胴部が丸く、肩部につまみが付く。内外面弱い燻し、黒褐色。外面入念ナデ、内面粗いナデ。	中世か。
第105図	121	在地系土器サナ	1/4	径	(17.0)	高	1.7	明赤橙	上面被熱変色、剥落多。	
第106図	122	在地系土器手水鉢	口縁部片	口	(43.2)			黒～淡黄灰	口縁部小さく外折。外面上半部削り後、入念ナデ、内面研磨光沢。	
第106図	123	在地系土器甕？	胴部片					白灰	内外面燻し、黒色。内外面丁寧なナデ。	
第106図	124	在地系土器焙烙	口縁部片	口底	(36.0) (33.0)	高	5.4	淡黄橙	平底で、内耳が付く。外面に煤付着。	
第106図	125	在地系土器焙烙	口縁部片	口底	(36.0) (33.0)	高	5.3		平底で、内耳が付く。内外面燻し、黒色。外面に煤付着。	
第106図	126	在地系土器浅鉢？	口縁部片					くすんだ赤橙	直径約27cm。焼成良好、硬質。内外面に丁寧なナデ。口唇部は丸みをもたせて特に丁寧な仕上げ。底部に強いナデ。	
第106図	127	搬入系土器置き竈	焼き口部					橙	縁内面突出。直径20の盤を半裁して使用したものと考え。正面部に墨書？	
第106図	128	搬入系土器置き竈	焼き口部					橙	127より厚みがなく、縁内面の突出が無い。直径20の盤を半裁して使用したものと考え。正面部に墨書か。	
第106図	129	瓦平瓦	破片					くすんだ橙	表面に丁寧なナデ、裏面に粗いナデ。	中世。
第107図	130	銅製品銭貨	完形	縦横	2.836 2.846	厚重	0.131 4.23		寛永通寶(11波)。表面は外縁・文字・郭とも彫深く明瞭。裏面も外縁・波・郭とも明瞭。	
第107図	131	銅製品銭貨	一部欠損	縦横	2.378 2.384	厚重	0.116 2.04		寛永通寶。表面は外縁・文字・郭とも彫深く明瞭、裏面は平坦で外縁・郭不明瞭。外縁周囲の凹凸は劣化破損。	
第107図	132	石製品火打石	完形	長幅	6.1 1.5	厚重	3.1 24.7	チャート	稜線上に連続する潰れが認められる。右側面は、全面が自然面である。自然面はほぼ平坦であり、素材礫の形状は不明である。裏面には両極剥離痕が認められ、両極打撃により整形されている。	
第107図	133	石製品砥石	完形	長幅	9.5 3.4	厚重	2.9 90.6	砥沢石	研面は4面認められる。正面、裏面及び左側面は、研ぎ減りによって内湾した形態である。右側面はほぼ平坦である。上部欠損。	

IV区2号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				口底	高	径			
第107図	1	肥前磁器染付広東碗蓋	ほぼ完形	口底 10.2 5.8	高 2.9		白	外面に蓮弁文、つまみ部内に略した寿。口縁部内面に二重圏線、見込み一重圏線内に鷺。	17とセットか。
第107図	2	肥前磁器染付広東碗蓋	1/3	口底 (10.0) (5.4)	高 2.7		白	外面とつまみ部内に草花文。口縁部内面に二重圏線、見込み一重圏線内に不明文様。	
第107図	3	肥前磁器染付小碗	1/2	口底 7.4 2.8	高 3.8		白	外面に草花文と蜻蛉、内面無文。	4と揃い。
第107図	4	肥前磁器染付小碗	ほぼ完形	口底 7.4 2.8	高 3.8		白	外面に草花文と蜻蛉、内面無文。	3と揃い。
第107図	5	肥前磁器染付小広東碗	1/2	口底 8.0 3.3	高 3.3		白	外面に染付。口縁部内面に二重圏線、見込み一重圏線内に不明文様。	
第107図	6	肥前磁器染付丸碗	1/3	口底 (8.8) (3.4)	高 5.0		白	外面に菊花文。口縁部内面に二重圏線、見込み一重圏線内に五弁花か。	7と揃い。
第107図	7	肥前磁器染付丸碗	1/3	口底 (8.6) (3.3)	高 5.0		白	外面に菊花文。口縁部内面に二重圏線、見込み一重圏線内に五弁花。貫入入る。	6と揃い。
第107図	8	肥前磁器染付丸碗	3/4	口底 (10.4) 3.8	高 5.1		白	外面に菊花文。内面無文。	
第107図	9	瀬戸・美濃磁器染付端反碗	3/4	口底 9.0 3.5	高 4.6		白	外面に染付、見込みに染付。	
第107図	10	肥前磁器染付丸碗	完形	口底 8.4 3.6	高 4.9		白	外面に笹文と農夫か。口縁部内面に二重圏線、見込み一重圏線内に略した五弁花。	
第108図	11	肥前磁器染付丸碗	1/2	口底 10.0 3.9	高 5.0		白灰	外面に梅木文、内面無文。	
第108図	12	肥前磁器染付丸碗	一部欠損	口底 10.2 4.2	高 5.0		白灰	外面に雪輪梅樹文、内面無文。高台内不明銘。	12～14は揃い。
第108図	13	肥前磁器染付丸碗	一部欠損	口底 9.8 4.1	高 5.1		白灰	外面に雪輪梅樹文、内面無文。高台内不明銘。	12～14は揃い。
第108図	14	肥前磁器染付丸碗	一部欠損	口底 10.2 3.9	高 5.2		白灰	外面に雪輪梅樹文、内面無文。高台内不明銘。	12～14は揃い。
第108図	15	肥前磁器染付端反碗	一部欠損	口底 11.0 4.6	高 6.1		白	外面に草文、見込みに染付。	
第108図	16	肥前磁器染付広東碗	体部2/3欠	口底 (11.2) 6.0	高 6.0		白	外面に東屋文か、内面無文。見込みにトチン痕3個。	
第108図	17	肥前磁器染付広東碗	3/4	口底 11.8 6.4	高 6.1		白	外面に蓮弁文。口縁部内面に二重圏線、見込み一重圏線内に唐草文。	1とセットか。
第108図	18	肥前磁器小瓶	胴部1/3	底 2.8			灰白	御神酒徳利。外面に染付。	
第108図	19	肥前磁器染付皿	1/5	口底 (12.8) (6.0)	高 3.1		白灰	内面に蛇唐草文、見込み蛇の目軸剥ぎ。外面無文。	
第108図	20	肥前磁器染付皿	一部欠損	口底 19.6 12.2	高 3.1		白	体部内面に菊花文と斜格子文、見込み五弁花コンニャク判。外面に蛇唐草文。高台内1重圏線内に「大明年製」銘。高台内円錐ピン痕。	
第109図	21	肥前磁器染付皿	ほぼ完形	口底 14.5 9.2	高 4.0		白	蛇の目凹型高台。内面全体に草花文、外面蛇唐草文。焼継1箇所。高台蛇の目部分に焼継溶液で「せら田 志みすや(せらだ しみすや)」と記載。	
第109図	22	瀬戸・美濃陶器腰鉋茶碗	完形	口底 8.8 4.4	高 5.6		灰白	外面口縁部下に螺旋状凹線。灰軸に貫入入る。	
第109図	23	瀬戸・美濃陶器か蓋	1/3	口底 (7.8) (5.0)	高 1.6		浅黄	汁次の蓋か。表面に灰軸。中央に方形にした摘みが付く。裏面回転軌削り。体部との稜を斜めに落とす。	
第109図	24	古瀬戸陶器平碗	口縁部片				灰黄白	内面から外面腰まで灰軸。貫入入る。	14世紀後葉～15世紀初頭。
第109図	25	瀬戸・美濃陶器汁次か	口縁部片	口 (10.0)			灰黄白	残存部無文。口唇部から外面にたつぷりの灰軸、貫入入る。口縁部内面蓋受け部は無軸。体部内面に薄く灰軸。	
第109図	26	瀬戸・美濃陶器練り鉢	口縁部片	口 (28.0)			灰黄白	内外面に灰軸、貫入入る。	
第109図	27	瀬戸・美濃陶器水甌	口縁部片	口 (28.0)			黄灰白	口縁部内折。外面籠状工具で施文。内外面灰軸で胴縁軸を流す。貫入入る。	
第109図	28	瀬戸・美濃陶器練り鉢	一部欠損	口底 26.5 12.0	高 15.7		灰黄白	内面と外面腰下まで灰軸、貫入入る。見込みに大きく4箇所、軸を掻き取る。底部削りだし高台。	
第110図	29	瀬戸・美濃陶器半胴甌	体部2/3欠損	口底 (22.8) 17.0	高 23.4		灰黄白	外面口縁部下と腰に2条の沈線。内外面に鉄軸。外面腰下と底面の軸を掻き取る。見込みに4箇所、口唇部に1箇所のトチン痕。高台に灰付着。底部に円孔あり。植木鉢に転用か。	
第110図	30	在地系土器焙烙	1/4	口底 (38.0) (35.0)	高 5.2		黄灰白	底部平底。体部内外面燻し、黒色。外面に煤付着。	
第110図	31	在地系土器手水鉢?	1/6	口底 (42.0) (34.0)	高 11.9		黒灰～白灰	口縁部折り返し状に肥厚。口唇部上面に浅い沈線がめぐる。内外面燻し、黒色。外面ナデ、口唇部～内面研磨光沢。内面上半と外面下半が荒れ、腐食・剥落。	
第110図	32	石製品石製品	完形	長幅 12.3 11.7	厚重 8.8 887.5		粗粒輝石安山岩	漏斗状の孔が認められ、上端部径約7cm、底部径約2cm、深さ約3cmを測る。孔の底部付近には著しい凹凸が認められるが、孔のそれ以外は滑らかな曲面で構成されている。外周部分に僅かに断面V字の線状痕が認められる。	

遺物観察表

IV区3号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第110図	1	瓦平瓦	破片				暗灰～にぶい橙	表面に砂付着。前面一部研磨。外面に粗い窠痕。	中世。

IV区12号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第110図	1	肥前磁器染付丸碗	口縁部2/3欠	口底	(7.8) 3.3	高	4.2	灰白	外面に笹文、内面無文。
第110図	2	在地系土器皿	体部1/2欠	口底	9.3 5.7	高	1.9	灰白	体部内湾、口縁部外反。底部回転糸切り、内面に指ナデ痕。轆轤右回転か。重焼により口縁部変色。
第110図	3	在地系土器皿	体部欠損	底	6.4			灰白～淡橙	底部回転糸切り後、ナデ。底部内面に指ナデ痕。轆轤右回転。内面に煤油付着。
第110図	4	懐炉か	完形	口底	12.1 7.6	高	2.0	淡灰	瓦片の周囲を削り、小判形に整形。懐炉として使用か。
第110図	5	銅製品銭貨	ほぼ完形	縦横	2.380 2.394	厚重	0.158 2.58		寛永通寶。表面は外縁・文字・郭とも明瞭。裏面は外縁・郭不明瞭。

IV区13号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第111図	1	常滑陶器甕	頸部片					淡灰	内外面ナデ。外面に自然釉。
第111図	2	石製品砥石	2/3	長幅	(9.3) 2.5	厚重	2.7 93.0	砥沢石	研面は4面認められる。正面は、研ぎ減りにより中央部が盛り上がったやや凸状の形態を呈する。裏面及び左右側面はほぼ平坦である。左右側面には、線状の痕跡が著しく認められる。上部欠損。

IV区18号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第111図	1	瀬戸・美濃磁器か端反小坏	1/4	口底	(6.2) (2.2)	高	4.2	白	口縁部外面に一重圈線内、腰下に二重圈線。内面無文。
第111図	2	常滑陶器甕	胴部片					黒褐色	内外面ナデ。外面に錆釉。
第111図	3	渥美陶器甕	肩部片					暗灰	外面叩き目。内面撫で。外面に自然釉。
第111図	4	常滑陶器甕	胴部片					黒灰	外面に縦位の刷毛目、内面に横位の刷毛目。
第111図	5	在地系土器片口鉢	口縁部片					くすんだ赤橙	内面丁寧ナデ、外面粗いナデ。内外面燻し、黒色。
第111図	6	在地系土器火鉢か	口縁部片					淡橙	口縁部焼成前に内側から穿孔。内外面燻し、黒灰色。口縁端部内面擦れる。
第111図	7	瓦平瓦	破片					赤橙～暗灰	内外面ナデ。側面研磨。
第111図	8	瓦丸瓦	端部破片					淡灰～くすんだ橙	表面ナデ、かるい研磨。裏面布目痕、粗いナデ。

IV区22号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第111図	1	肥前磁器染付丸碗	1/3	口	(9.0)			白灰	外面に簡略化した雪輪梅樹文。内面無文。
第111図	2	京・信楽系陶器小杉碗	腰下破片	底	(3.1)			灰白	外目下位に鉄絵具による施文。内外面灰釉に貫入する。
第111図	3	瀬戸・美濃陶器半胴甕	胴下半2/3	底	14.4			淡橙	内面から外面腰まで鉄釉。削りだし高台か。
第111図	4	在地系土器焙烙	1/6	口底	(37.0) (34.0)	高	4.9	黄灰白	底部平底。内耳がつく。内外面燻し、黒色。

IV区25号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第112図	1	銅製品銭貨	完形	縦横	2.327 2.334	厚重	0.134 2.01		寛永通寶。表面は外縁・文字・郭とも彫深く明瞭。裏面は平坦で外縁・郭とも不明瞭。
第112図	2	銅製品銭貨	一部欠損	縦横	2.431 2.425	厚重	0.157 2.36		寛永通寶。表面は外縁・文字・郭とも彫深く明瞭、裏面は平坦だが外縁・郭明瞭。外縁周囲の凹凸は劣化破損。

IV区26号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第112図	1	肥前磁器筒形湯呑み	1/3	口底	(6.2) (3.0)	高	4.1	白灰	外面にコンニャク判の円文を横位に3つ重ねて三輪を表示。内面無文。
第112図	2	制作地不詳陶器ミニチュア碗	完形	口底	3.0 1.1	高	1.5	黄灰白	型作り。内面から口縁部外面に緑釉。
第112図	3	在地系土器手水鉢?	1/6	口底	(37.0) (29.4)	高	8.9	黒灰～灰白	口縁部折り返し状に肥厚。内外面燻し、黒色。外面入念ナデ、口唇部～内面研磨光沢。内面全体に荒れ顕著、腐食・剥落多し。
第112図	4	瓦丸瓦	破片					淡灰	表面ナデ、一部に縄目叩き痕を残す。裏面粗いナデ、一部に布目痕を残す。

IV区28号土坑

挿 図 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
			縦横	厚	重	重			
第112図 1	銅製品銭貨	ほぼ完形	縦横 2.385 2.385	厚 0.158	重 2.38		寛永通寶。表面は硬い錆に覆われるが、外縁・文字・郭とも明瞭、裏面はやや平坦だが外縁・郭とも明瞭。		
第112図 2	銅製品銭貨	完形	縦横 2.485 2.500	厚 0.128	重 2.11		寛永通寶。表面は硬い錆に覆われるが、外縁・文字・郭とも明瞭、裏面は外縁・郭とも彫深く明瞭。		
第112図 3	銅製品銭貨	完形	縦横 2.322 2.315	厚 0.120	重 1.98		寛永通寶(背足)。表面は外縁・文字・郭とも彫深く明瞭、裏面は外縁・文字・郭とも明瞭。		
第112図 4	銅製品銭貨	完形	縦横 2.355 2.346	厚 0.131	重 2.57		寛永通寶。表面は外縁・文字・郭とも彫深く明瞭、裏面は外縁・郭とも明瞭だが郭と穴の中心がずれる。		

IV区29号土坑

挿 図 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
			口底	高	重	重			
第112図 1	肥前磁器染付広東碗蓋	1/3	口底 (5.0)	高 2.4	重 2.4	白	外面に花唐草文か、つまみ部内に不明染付。口縁部内面に二重圏線、見込み一重圏線内に鷲か。		
第112図 2	肥前磁器染付丸碗	1/2	口底 8.6 3.4	高 4.9	重 4.9	灰	外面残存部梅樹文。内面無文。高台内に不明文様。		
第113図 3	肥前磁器染付丸碗	1/3	口底 (8.8) (3.3)	高 3.9	重 3.9	灰白	外面に簡略化した雪輪梅樹文か。内面無文。		
第113図 4	肥前磁器染付丸碗	1/3	口底 (8.4)	高 3.9	重 3.9	灰白	外面に菊花文。口縁部内面に二重圏線、見込み一重圏線。		
第113図 5	肥前磁器染付猪口	1/3	口底 (7.4) (4.8)	高 5.7	重 5.7	白灰	外面下半に斜格子文、内面無文。		
第113図 6	肥前磁器不明	体部上半	口底 7.0	高 3.5	重 3.5	白	体部が直線的に開き、内面中位に突出部、あるいは二重構造か。外面に草花文3組染付、残存部内面無文。		
第113図 7	肥前磁器染付皿	一部欠損	口底 14.0 9.5	高 3.5	重 3.5	白	蛇の目凹型高台。内面雲龍文。外面に蛇唐草文。	7～9は揃い。	
第113図 8	肥前磁器染付皿	一部欠損	口底 13.9 9.7	高 3.9	重 3.9	白	蛇の目凹型高台。内面雲龍文。外面に蛇唐草文。	7～9は揃い。	
第113図 9	肥前磁器染付皿	底部欠損	口底 14.0	高 3.9	重 3.9	白	大きさ、文様とも残存部は7・8と共通。	7～9は揃い。	
第113図 10	肥前磁器赤絵火入れ	1/2	口底 (10.4) 7.5	高 7.6	重 7.6	白	腰から緩やかに内湾しながら僅かに開き気味に立ち上がり、口縁部先端が内折して巻き込むように下がる。外面から口縁部内面に灰釉、貫入入る。外面に赤絵で海浜風景。見込みに「おに口」と墨書。		
第113図 11	瀬戸・美濃陶器錆釉灯明油皿	1/3	口底 (10.2) 4.9	高 2.0	重 2.0	灰オリーブ	内外面に錆釉、外面口縁部以下の釉拭う。底部回転籠削り。見込みと外面に重焼痕。		
第113図 12	軟質施釉陶器カンテラ	2/3	口底 (4.2) 6.0	高 5.0	重 5.0	赤橙	両口形カンテラ。底部菱形。底部内面に指ナデ。燃焼部片側欠損。全体に光沢のある透明釉をかける。燃焼部に使用による煤油付着。釣り穴部に紐なし。		
第113図 13	円盤形加工品	完形	口底 2.4 2.2	高 0.5	重 0.5	灰白	瀬戸・美濃陶器柿釉製品破片を円盤状に加工。		
第113図 14	円盤形加工品	完形	口底 2.7 2.9	高 0.9	重 0.9	黒灰～灰白	在地製土器焙烙の底部片を円盤状に加工。		
第114図 15	在地系土器焙烙	1/6	口底 (36.2) (33.0)	高 4.7	重 4.7	黒灰～灰白	底部平底。内耳が付く。体部内外面燻し、黒色。外面に煤付着。		
第114図 16	在地系土器焙烙	1/4	口底 (38.0) (32.6)	高 5.2	重 5.2	黒灰～灰白	底部平底。内外面燻し、黒色。外面に煤付着。		
第114図 17	在地系土器焙烙	体部1/4	口底 (36.4) (33.0)	高 5.4	重 5.4	黄灰白	底部平底。内耳が付く。外面に煤付着。		
第114図 18	在地系土器鉢	一部欠損	口底 40.0 33.5	高 10.9	重 10.9	黄灰白	底部に剥落、欠損あり。口唇部上端を平坦に調整。口縁部外面に竹管様の沈線が巡る。体部外面に強いナデ。		
第114図 19	在地系土器焔炉	1/4	口底 (26.0) (27.2)	高 22.2	重 22.2	黒灰～黄灰白	円筒形で上下が空き、前面に大きな方形の枠が開く。枠の上方に眉状の隆帯が付く。鍋等を掛ける口唇部に煤油付着。		
第114図 20	鉄製品不詳	破片	長幅 14.2 11.5	厚 1.24 6.55	重 6.55		L字型の細い板状鉄製品で、鉄製品に沿って片面全体に密着する針葉樹材木質が残存する。4箇所鉄製品を木質に固定する状態で角釘破片が残存する。木製柵の縁金と考えられるが、木質の残存がわずかなため断定はできない。		

IV区31号土坑

挿 図 No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
			口底	高	重	重			
第115図 1	瀬戸・美濃磁器か皿	1/2	口底 10.9 6.4	高 2.2	重 2.2	白	内面黒色絵具による波と岩の文様を銅板転写。外面無文。	近現代。	
第115図 2	制作地不詳磁器ミニチュア徳利	完形	口底 1.0 1.5	高 4.9	重 4.9	白	左右を型で作り、貼り付けて成形。外面黄緑色と黄色の上絵。口縁部上面黄色の絵具で塗る。	近現代か。	
第115図 3	制作地不詳磁器徳利	一部欠損	口底 2.7 5.4	高 17.4	重 17.4	灰白	外面の口縁部、胸部、腰下に銅板転写による施文。	近現代。	
第115図 4	在地系土器植木鉢	体部下半1/2残存	口底 (8.4)	高 4.3	重 4.3	橙	轆轤整形。底部ナデ。底部中央に円孔。		
第115図 5	在地系土器焙烙	3/4	口底 34.5	高 4.3	重 4.3	黒灰～にぶい黄橙	丸底。内耳3箇所1箇所剥離。口縁部器壁厚い。外面被熱黒色、煤付着。		

遺物観察表

IV区32号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				底	高	厚重			
第115図	1	肥前磁器碗	腰下残存	底	2.9		白灰	残存部内外面無文。	
第115図	2	在地系土器皿	1/2	口底	9.4 5.8	高	2.1	にぶい橙	体部直線的に開き、口縁部弱く内湾。底部回転系切り後、無調整。底部内面指ナデ。轆轤左回転。口縁部全体に油煙付着。
第115図	3	銅製品銭貨	ほぼ完形	縦横	2.271 2.238	厚重	0.177 1.84		寛永通寶。表面は外縁・郭とも明瞭、裏面は平坦で外縁・郭やや不明瞭。寛および永の字の部分に外庄による変形が見られる。

IV区33号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				底	高	厚重			
第115図	1	瀬戸・美濃陶器灰釉碗	底部片	底	(6.2)		黄灰白	内面と外面腰下まで灰釉、貫入する。	

IV区36号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚重			
第115図	1	京・信楽系陶器鉢	口縁部片	口	(20.0)		黄灰白	口縁部受け口状。内外面灰釉、細かな貫入する。	
第115図	2	石製品砥石	2/3	長幅	(7.5) (2.6)	厚重	1.8 50.5	砥沢石	研面は2面認められる。正面は、研ぎ減りにより緩やかな起伏面を呈する。左側面には、部分的な研ぎ部が認められほぼ平坦である。左右側面には、櫛歯タガネ痕が僅かに残る。下部欠損。

IV区38号土坑

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚重			
第116図	1	肥前磁器染付皿	1/5	口底	(13.6) (8.0)	高	3.5	白	内面に草花文、外面に蛇唐草文。
第116図	2	瀬戸・美濃陶器灰釉皿	2/3	口底	12.2 5.0	高	3.0	暗灰	底部内面呉須絵。文様不明瞭であるが型紙摺か。高台端部を除き灰釉。貫入する。
第116図	3	在地系土器皿	2/3	口底	9.7 6.2	高	1.9	橙	体部内湾しながら開く。底部回転系切り後、無調整。底部内面指ナデ。轆轤左回転。
第116図	4	石製品石臼(下)	1/4	径	(34.0)	高重	(12.4) 5496.3	粗粒輝石安山岩	1/4残。上面は摩滅し僅かに挽目の痕跡が残る。側面に挽き手孔の一部残る。中央部には径約4cmの軸受孔が見られる。

IV区1号井戸

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚重			
第116図	1	古瀬戸陶器緑釉小皿	1/3	口	(11.4)		淡灰	口縁部外反。体部内面から口縁部外面灰釉。腰下に櫛歯状の刷毛目。底部欠損。	14世紀末～15世紀前葉。
第116図	2	常滑陶器甕	胴部片				黒灰～暗橙	外面叩き目。焼締まり弱く焼成不良。	中世。
第116図	3	常滑陶器甕	胴部片				赤橙	内外面ナデ。	中世。

IV区3号井戸

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚重			
第116図	1	常滑陶器甕	胴部片				灰	外面灰釉かかる。内面横ナデ。	中世。
第116図	2	瓦平瓦	破片				淡灰	前端側面外削ぎ。表裏面粗いナデ、表面前端部研磨。	中世。

IV区4号井戸

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚重			
第116図	1	常滑陶器甕	肩部片				暗灰	内外面横ナデ。内外面器表暗褐色。	中世。
第116図	2	常滑陶器甕	胴部片				黒灰	外面に錆釉。	中世。
第116図	3	常滑陶器甕	胴部片				黒褐～黒灰	内外面器表黒色。外面に縦位の刷毛目。内面横位ナデ。	中世。

IV区6号井戸

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚重			
第117図	1	常滑陶器甕	肩部片				灰褐	内外面横ナデ。外面に錆釉。	中世。
第117図	2	瓦平瓦	破片				灰	薄手。表裏面に粗い刷毛目。側面研磨	中世。
第117図	3	瓦平瓦	破片				暗灰	側面上端部を丸く調整。表裏面粗いナデ。	中世。
第117図	4	瓦丸瓦	破片				明橙	瓦当面欠損。表面ナデ。裏面斜行する刷毛目、周縁部入念ナデ。	中世。

IV区7号井戸

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				長幅	厚重	高			
第117図	1	石製品砥石	ほぼ完形	長幅	8.4 2.9	厚重	2.2 64.1	砥沢石	研面は4面認められる。正面は、研ぎ減りにより緩やかな起伏面を呈する。裏面は、やや外湾した形態である。左右側面は、著しく内湾している。上面の一部に研ぎ部が認められることから、この形態で機能したものと判断した。

IV区8号井戸

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第117図	1	肥前磁器染付丸碗	体部1/4	口	(10.0)		白灰	外面染付、内面無文。	
第117図	2	石製品砥石	完形	長幅	12.6 7.3	厚重	4.1 494.6	砂岩	研面は5面認められる。正面は、研ぎ減りによりやや内湾した形態である。左側面と底面は、中央部が盛り上がったやや凸状の形態を呈する。右側面と裏面は緩やかに外湾しており、部分的な研ぎ部が認められる。

IV区10号井戸

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第117図	1	在地系土器片口鉢	底部片				灰	外面研磨光沢。体部内面下位から底部内面使用により摩滅。	中世。

IV区11号井戸

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第117図	1	瀬戸・美濃陶器腰錆茶碗	腰下	底	4.6		白灰	内面灰釉貫入する。	
第117図	2	常滑陶器甕	胴部片				灰褐	外面斜格子状叩き目。外面錆釉。	中世。
第117図	3	瓦平瓦	破片				灰～暗橙	薄手。側面に丸み。表裏面粗いナデ。	中世。

IV区12号井戸

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第118図	1	瀬戸・美濃磁器小碗	口縁部片				白	外面銅板転写による染付。内面無文。	近現代。
第118図	2	古瀬戸陶器盤類	破片				淡灰	外面轆轤目顕著。外面腰に沈線4条。内外面体部下位まで灰釉。内面貫入する。	15世紀。
第118図	3	常滑陶器甕か壺	胴部片				暗灰	外面に叩き目、内面ナデ。外面錆釉。	中世。
第118図	4	在地系土器皿	口縁部片				橙	体部内湾。	

IV区13号井戸

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第118図	1	在地系土器火鉢	口縁部片				淡灰～灰白	内外面燻し、黒色。内面刷毛目ナデ。口唇部と外面研磨光沢。口縁部外面に隆帯区画型押し巴文。	

IV区3号ピット

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第118図	1	在地系土器皿	一部欠損	口底	10.0 6.6	高	1.8	白橙	体部内湾。底部糸切り後ナデ。内面に指ナデ。

IV区40号ピット

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第118図	1	在地系土器大鉢	1/6	口底	(42.0) (34.0)	高	11.6	灰白橙	体部内湾、口縁部丸く折り返して突帯をなす。内外面燻し、黒色。口唇部～内面研磨光沢。外面丁寧なナデ。手水鉢か。

IV区41号ピット

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第118図	1	鍍瓦	瓦当面1/3				灰～灰黒	瓦当面に巴紋。内面研磨。	

IV区68号ピット

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第118図	1	銅製品銭貨	完形	縦横	2.515 2.513	厚重	0.164 3.03		寛永通寶。表面は錆びに覆われるが外縁・文字・郭とも彫深く明瞭、裏面は平坦で外縁・郭不明瞭。

IV区70号ピット

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第118図	1	古瀬戸陶器盤類か	胴部片				白灰	盤類体部下位片か。残存部外面上端灰釉。	15世紀か。

IV区1号礎石

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第118図	1	石製品石製品	完形	長幅	22.3 13.7	高重	12.6 3379.8	粗粒輝石安山岩	浅い皿状の孔が認められ、上端部径約6cm、底部径約3cm、深さ約1cmを測る。孔は滑らかな曲面で構成される。

IV区一括

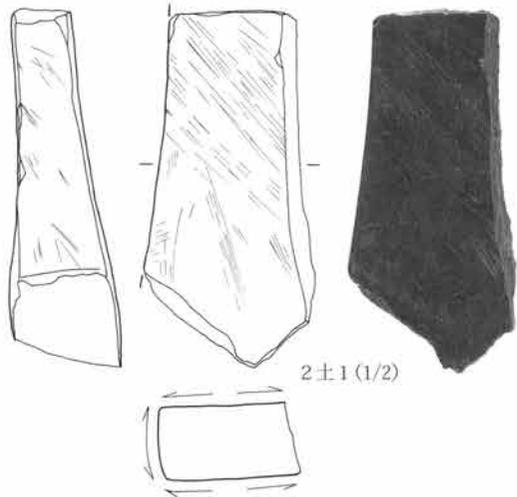
挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
第119図	1	肥前磁器染付広東碗蓋	1/2	口底	(9.0) 4.9	高	2.2	白灰	外面龍文。摘み内宝珠文。天井部内面雲雷文か。

遺物観察表

挿 図	No.	種類器種	出土位置 残 存 率	計測値				胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				口 底	(口 底)	高	3.0			
第119図	2	制作地不詳 磁器白磁か 染付坏	口縁部1/4、底 部1/2	口 底	(6.4) 2.5	高	3.0	白	端反。残存部無文。	
第119図	3	肥前磁器染 付小碗	一部欠損	口 底	6.5 3.2	高	4.7	白	外面に草花文。口縁部内面に一重圏線。	近代か。
第119図	4	肥前磁器染 付小碗	3/4	口 底	7.6 2.7	高	3.3	灰白	外面に格子文、内面無文。	5と揃い。
第119図	5	肥前磁器染 付小碗	3/4	口 底	7.5 3.0	高	3.4	灰白	外面に格子文、内面無文。	4と揃い。
第119図	6	肥前磁器染 付小碗	1/2	口 底	8.3 2.8	高	3.4	灰白	外面不明文様コンニャク判。内面無文。	
第119図	7	肥前磁器染 付丸碗	3/4	口 底	9.6 4.1	高	5.2	灰	口縁部外面の桐紋はコンニャク印判。内面無文。	
第119図	8	肥前磁器筒 形湯呑み	一部欠損	口 底	6.3 3.1	高	4.5	白	外面三輪文を2箇所に配置。内面無文。	
第119図	9	肥前磁器筒 形湯呑み	体部2/3欠損	口 底	(6.2) 3.0	高	4.2	白	外面二輪文を2箇所に配置か。内面無文。	
第119図	10	肥前磁器筒 形湯呑み	1/3	口 底	(7.0) (4.2)	高	5.6	白	外面やや崩れた菊花文。口縁部内面に二重圏線、見込み一 重圏線。	
第119図	11	肥前磁器筒 形湯呑み	体部2/3欠損	口 底	(7.0) 3.7	高	5.6	白	外面菊花文。口縁部内面に二重圏線、見込み一重圏線内に 五弁花。	
第119図	12	肥前磁器染 付皿	口縁部破片	口	(14.0)			灰白	内面に染付、外面に蛇唐草文。	
第119図	13	肥前磁器染 付皿	1/2	口 底	(13.6) 5.2	高	3.1	白灰	内面蛇の目軸剥ぎ。口縁部内面に唐草文、見込み小型五弁 花コンニャク判。	
第119図	14	肥前磁器猪 口	3/4	口 底	7.7 4.7	高	5.5	灰白	外面松竹梅文。松文はコンニャク判。内面無文。高台内「大 明年製」崩れ銘か。	
第119図	15	肥前磁器猪 口	1/3	口 底	(7.2) (4.6)	高	5.5	灰白	外面下半に斜格子文、内面無文。	
第119図	16	制作地不詳 磁器湯呑み か	口縁部破片	口	(7.0)			灰白	口縁部外面グリーン二重圏線。いわゆる国民食器。	近現代。
第119図	17	瀬戸・美濃 磁器植木鉢	口縁部破片	口	(21.4)			白	口縁部直角に外折。外面と口縁部内面・口唇部に染付。内 面口縁部以下は無釉。	近現代。
第119図	18	瀬戸・美濃 陶器灰釉汁 次?	胴部下半～底部 1/2	底	4.5			灰黄白	外面腰まで灰釉、貫入入る。内面見込みに釉垂れ。	
第119図	19	瀬戸・美濃 陶器腰鏝茶 碗	2/3	口 底	9.4 4.0	高	5.6	灰黄白	口縁部外面下位螺旋状凹線。灰釉に貫入入る。	
第119図	20	瀬戸・美濃 陶器鏝油 皿	1/2	口 底	10.2 4.6	高	1.8	黄灰	内外面に鏝釉、外面口縁部以下の釉拭う。底部回転鏝削り。 見込みと外面に重焼痕。口唇部に被熱痕2箇所。	
第119図	21	瀬戸・美濃 陶器鏝油 皿	2/3	口 底	9.5 4.0	高	2.0	暗灰	受け部「U」字状に抉る。内外面に鏝釉、外面口縁部以下の 釉拭う。底部回転鏝削り。受け部と外面に重焼痕。	
第120図	22	瀬戸・美濃 陶器大皿	口縁部破片	口	(28.6)			灰黄白	口縁部外折。内面呉須で葉を、鉄絵具で茎を描く。灰釉に 貫入入る。	
第120図	23	中国陶器河 南彩釉陶盤	底部片					灰白～暗灰	内面に緑釉と褐色、外面は腰まで緑釉。内面沈線2条。	中世。
第120図	24	瀬戸・美濃 陶器戸車	ほぼ完形	径	4.5	高	1.4	灰白	軸穴と接地面灰釉。灰釉は擦れ、2箇所素地露出。	
第120図	25	堺・明石陶 器挿り鉢	口縁部破片					灰橙～赤橙	口唇部内面に沈線がめぐる。	
第120図	26	瀬戸・美濃 陶器半胴裏	口縁部破片	口	(21.0)			暗灰	内外面錆色の鉄釉。	
第120図	27	円盤形加工 品	完形	口 底	3.5 3.7	高	1.2	黒灰	常滑裏の胴部破片を円形状に加工したもの。外面に鏝釉。	
第120図	28	在地系土器 皿	2/3	口 底	9.2 6.4	高	1.6	橙	体部内湾。底部回転糸切り後、無調整。底部内面に指ナデ。	
第120図	29	常滑陶器裏	胴部破片					黒灰	内外面ナデ。外面に鏝釉。	
第120図	30	在地系土器 内耳鍋	口縁部破片					淡灰	口縁部外折。内外面燻し、黒色。内外面ナデ。	中世。
第120図	31	在地系土器 鉢	口縁部破片					暗灰	燻しか。内外面ナデ。	中世。
第120図	32	在地系土器 鉢	1/2、底部欠損	口	(30.8)			黒灰～白橙	内外面燻し、黒色。口唇部研磨光沢。体部上半の沈線間を 櫛歯の波状文で充填。下半部に軽い研磨を施す。内面ナデ。	
第120図	33	在地系土器 焙烙	口縁部破片	口 底	(30.0) (31.0)	高	3.3	明橙	口縁部短く、厚い。内面研磨光沢。口唇部から外面に煤付 着、黒色。	
第120図	34	宇瓦	宇部1/3					白灰	瓦当文様は点列紋。色は灰白色で、胎土に砂を多量に含む。 焼成良好で硬質。	中世。
第120図	35	石製品 砥石	2/3	長 幅	(7.1) 3.1	厚 重	2.6 75.1	砥沢石	研面は4面認められる。正面は、研ぎ減りにより僅かに内 湾する。裏面と左側面はほぼ平坦であり、右側面は僅かに 外湾した形態である。上部欠損。	
第120図	36	石製品	2/3	長 幅	9.0 10.4	厚 重	8.2 561.3	二ツ岳石	漏斗状の孔が認められ、上端部径約2.5cm、底部径約1cm、 深さ約1.5cmを測る。孔には、正面と並行する方向の段差 がいくつか認められ、工具を回転するように用いあけられ た痕跡と推定される。	

II区

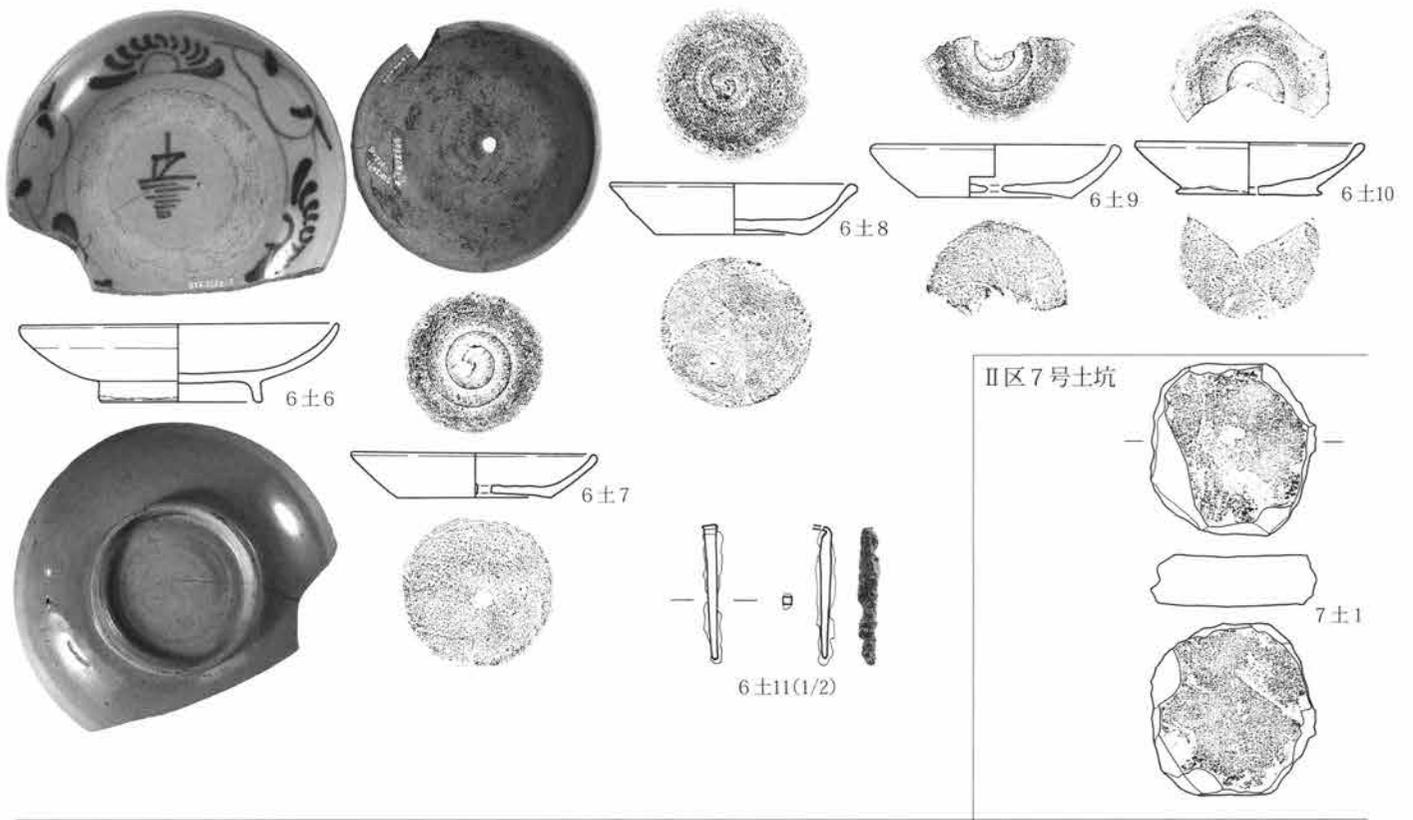
II区2号土坑



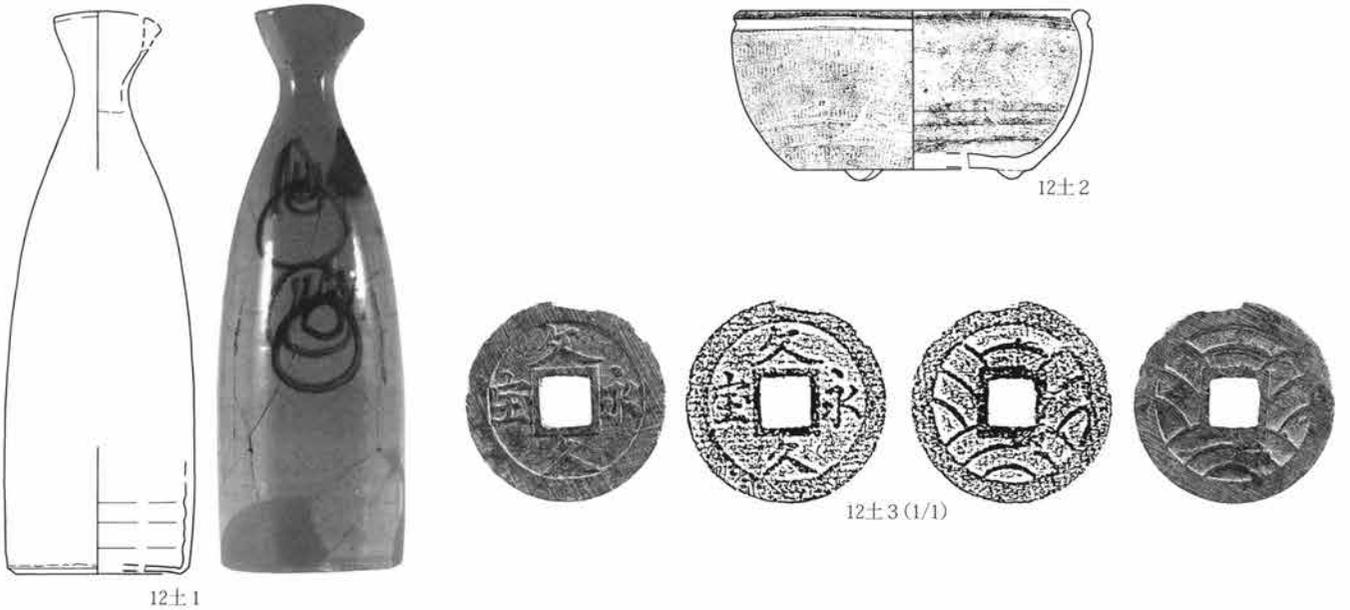
II区6号土坑



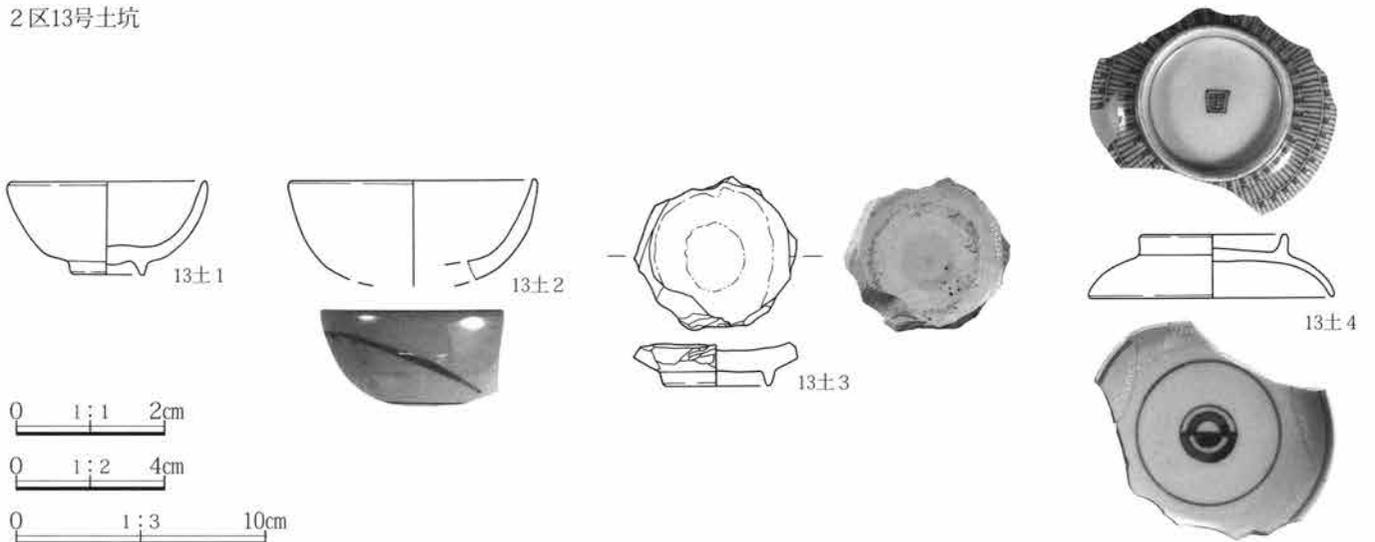
第55图 II区2号土坑出土遺物、6号土坑出土遺物(1)



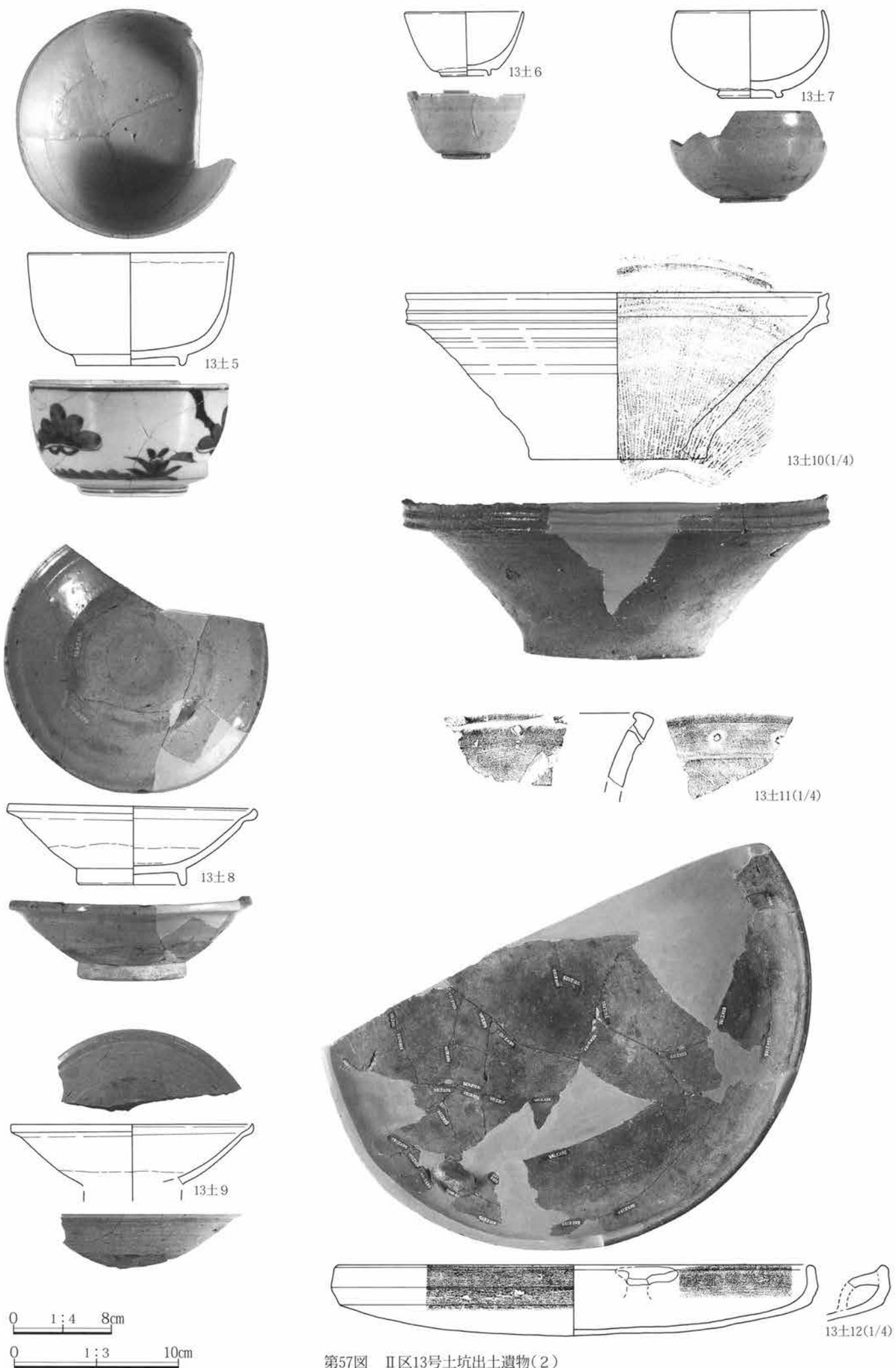
II区12号土坑



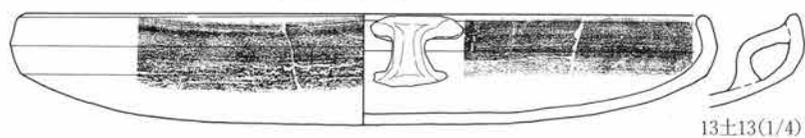
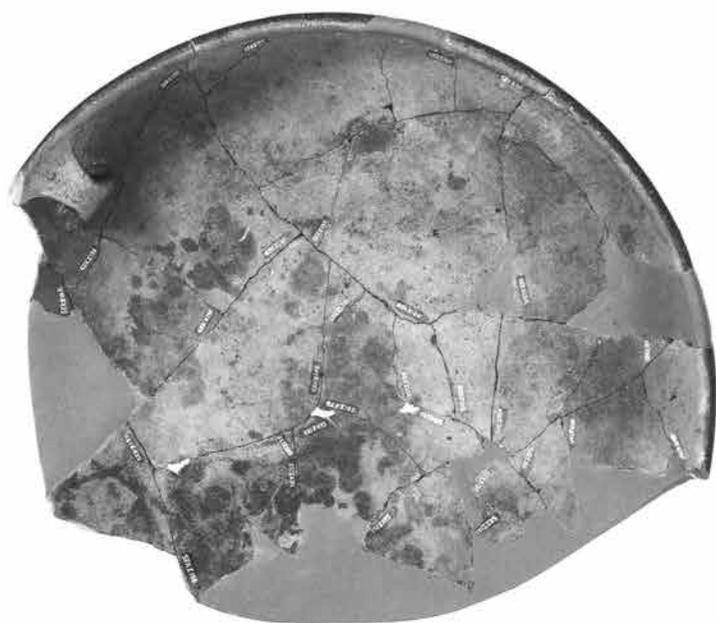
2区13号土坑



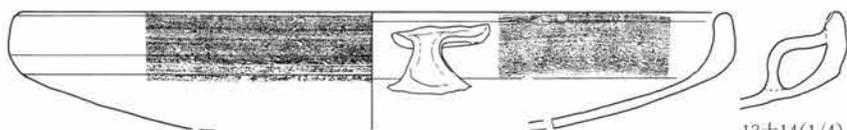
第56图 II区6号土坑出土遗物(2)、7·12号土坑出土遗物、13号土坑1出土遗物(1)



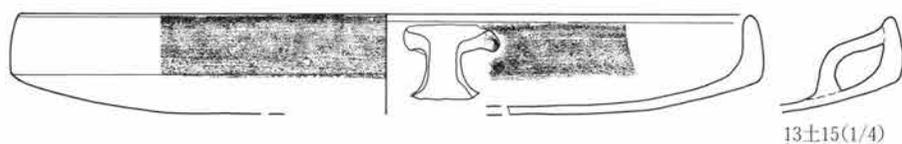
第57图 II区13号土坑出土遗物(2)



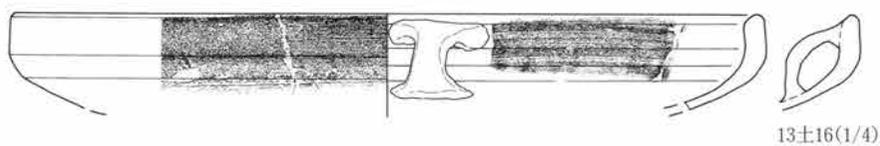
13±13(1/4)



13±14(1/4)



13±15(1/4)

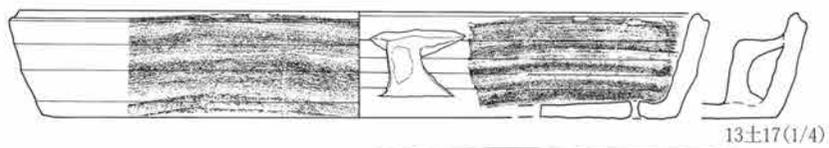


13±16(1/4)

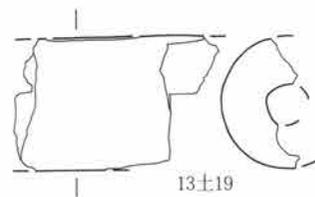


第58图 II区13号土坑出土遗物(3)

0 1:4 8cm



13±17(1/4)



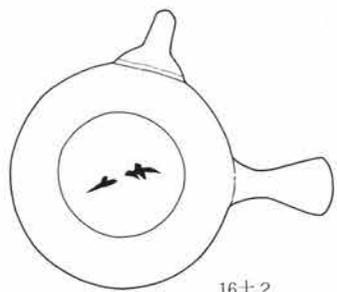
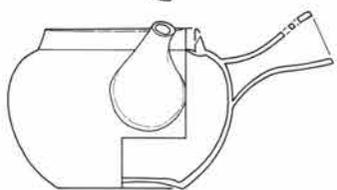
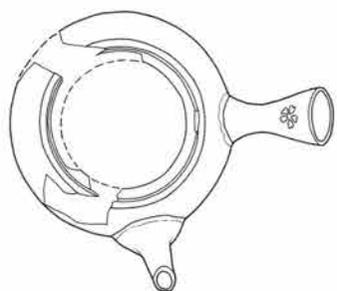
13±19



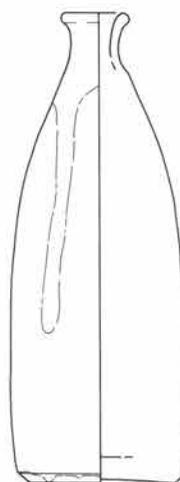
13±18(1/4)



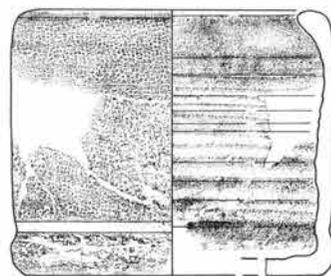
II区16号土坑



16±2



16±1



16±4(1/4)



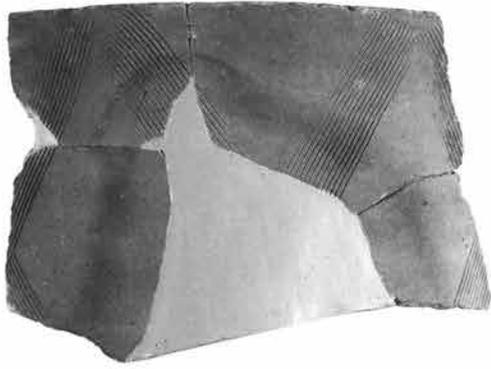
16±3(1/4)



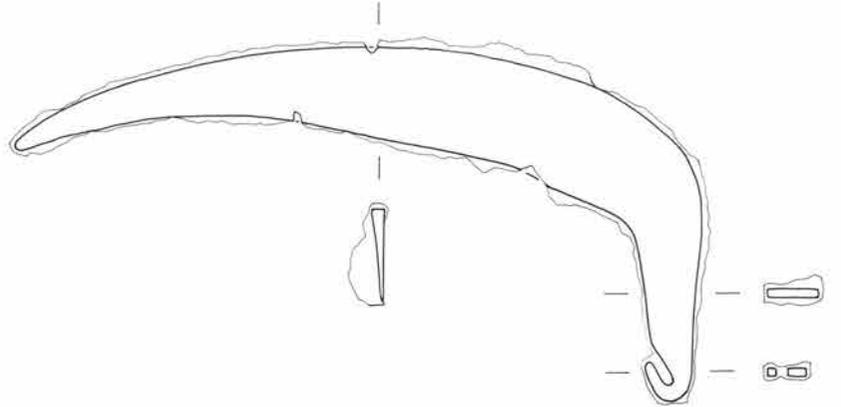
0 1:4 8cm

0 1:3 10cm

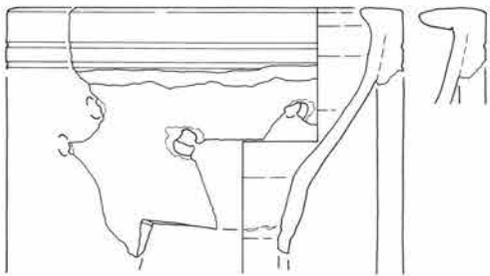
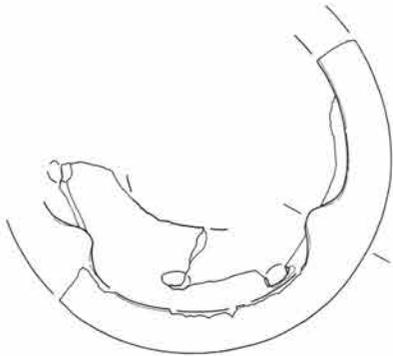
第59图 II区13号土坑出土遗物(4)、16号土坑出土遗物(1)



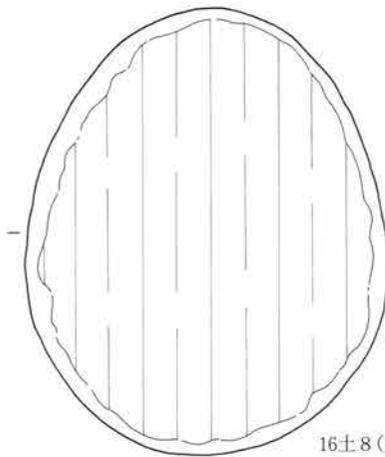
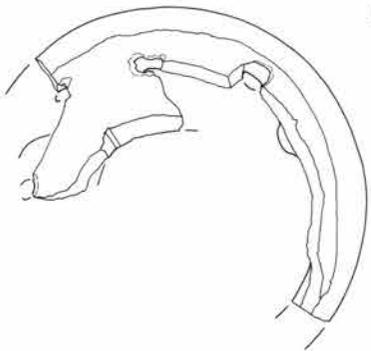
16±5 (1/4)



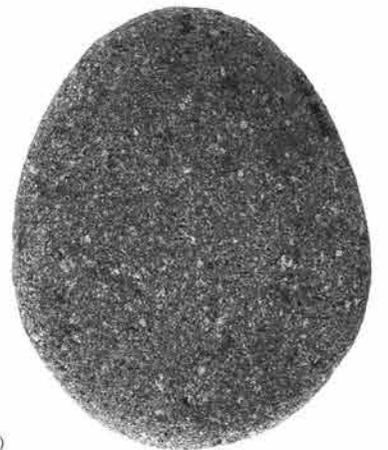
16±7 (1/2)



16±6 (1/4)



16±8 (1/2)

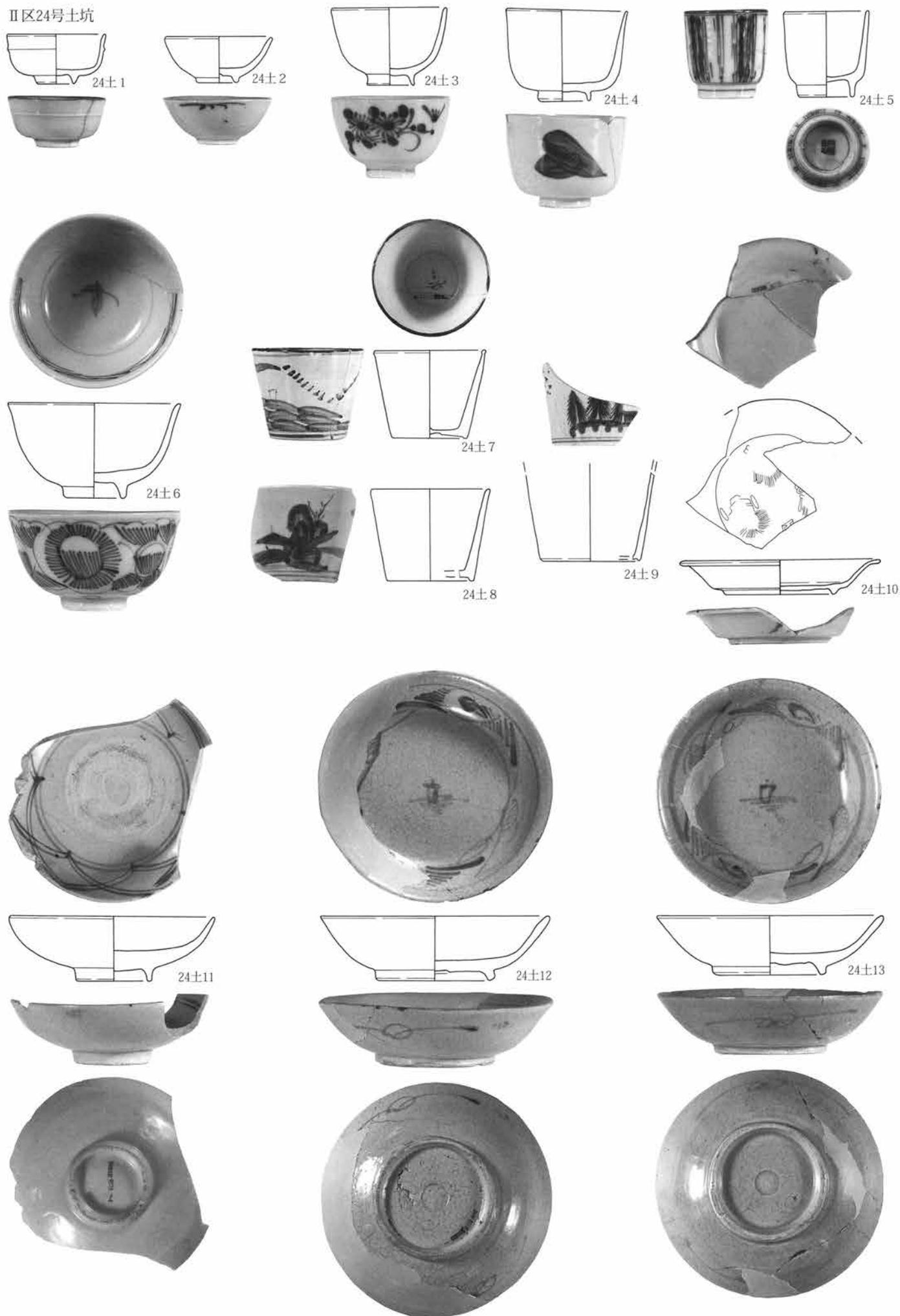


0 1:2 4cm

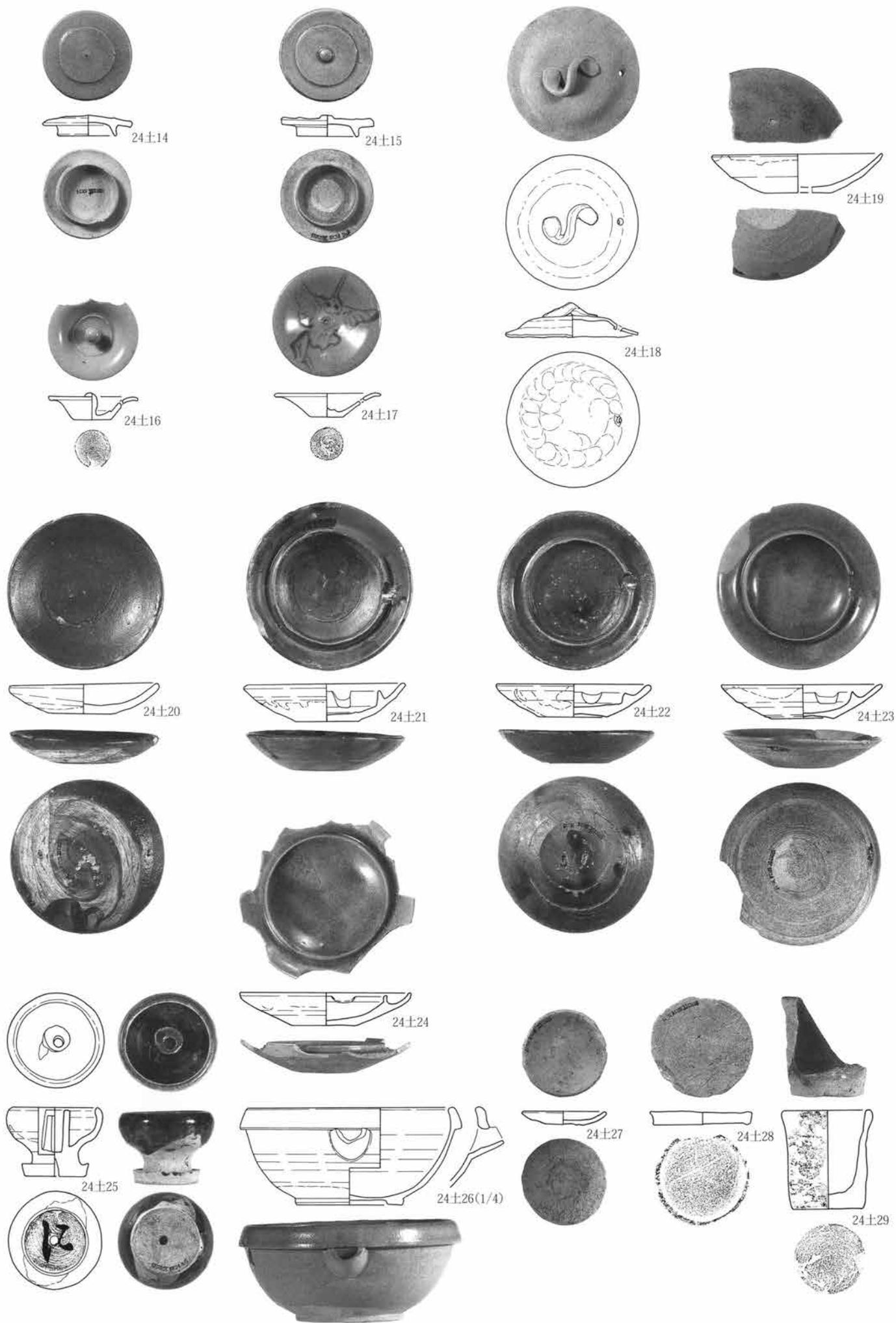
0 1:4 8cm

第60图 II区16号土坑出土遗物(2)

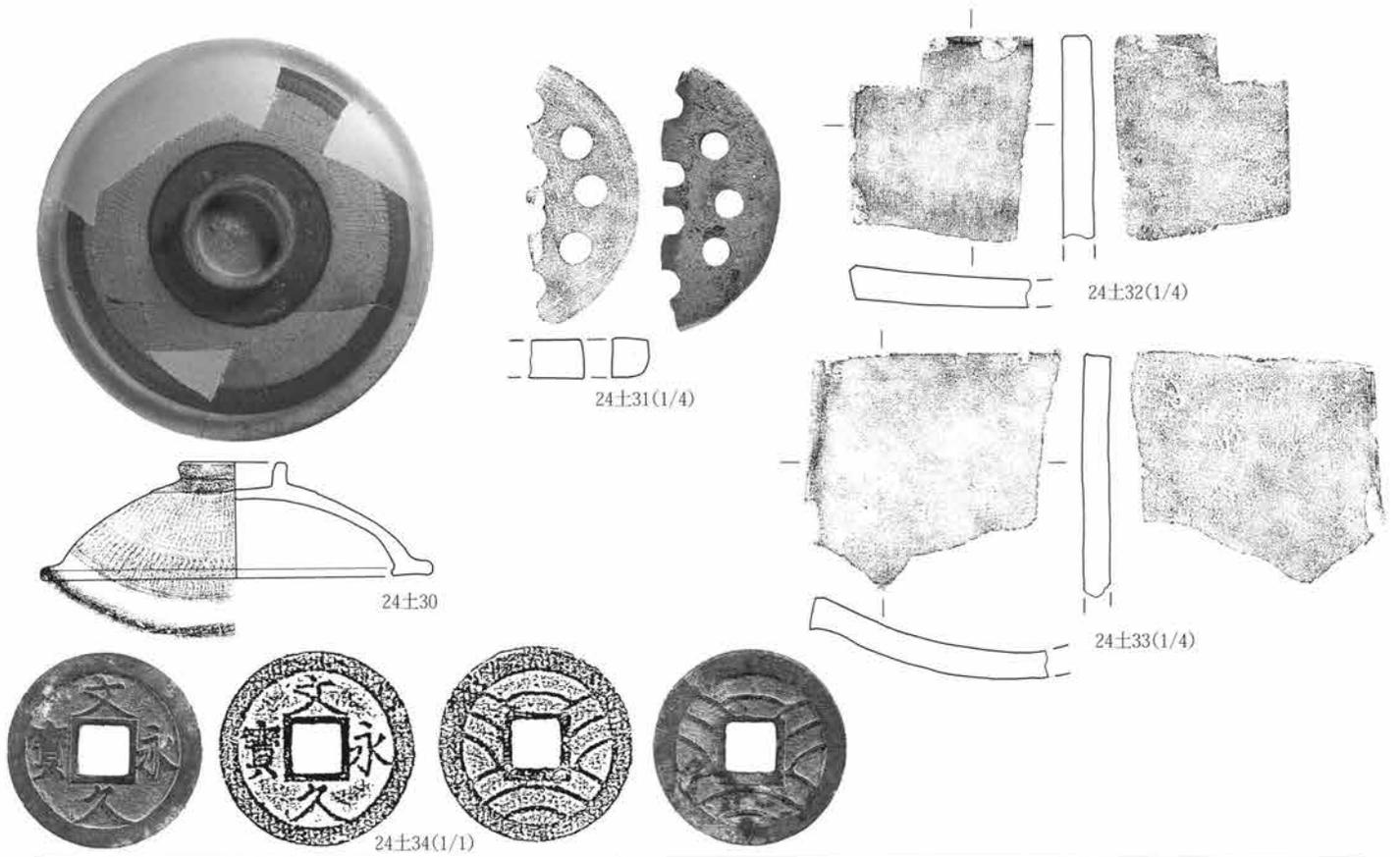
II区24号土坑



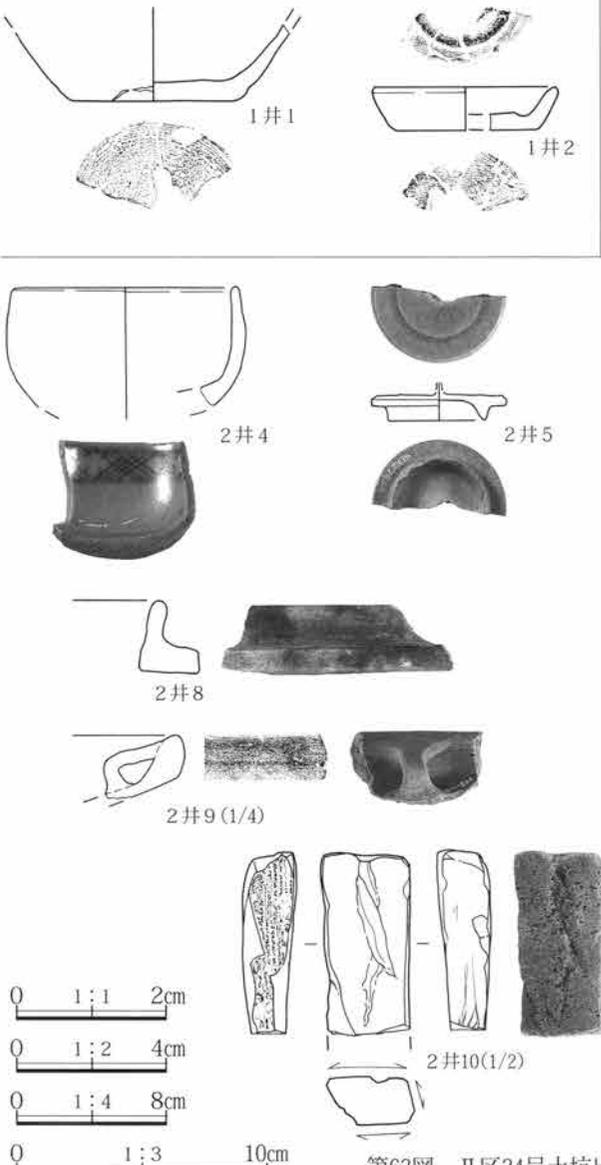
第61图 II区24号土坑出土遗物(1)



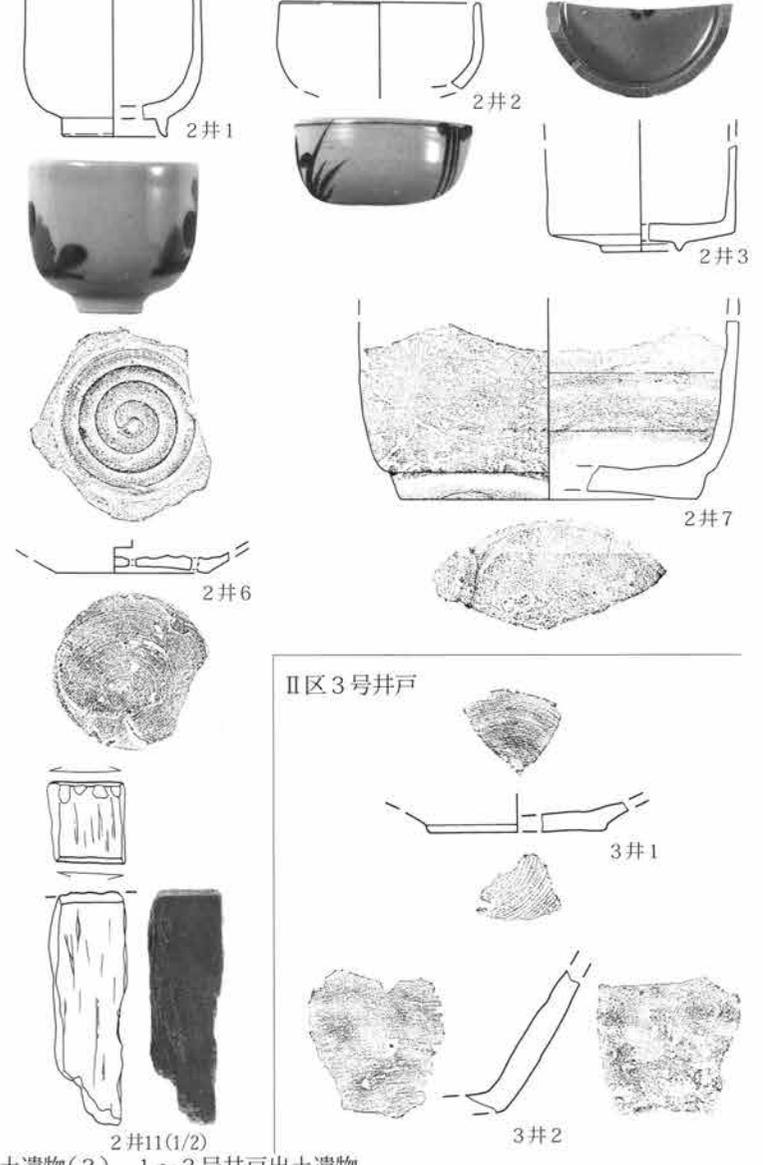
第62图 II区24号土坑出土遗物(2) 0 1:3 10cm 0 1:4 8cm



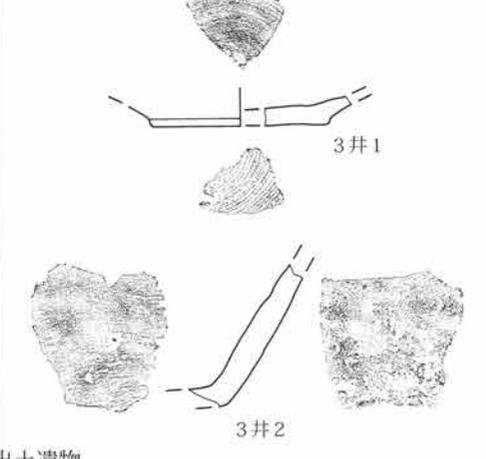
Ⅱ区1号井戸



Ⅱ区2号井戸

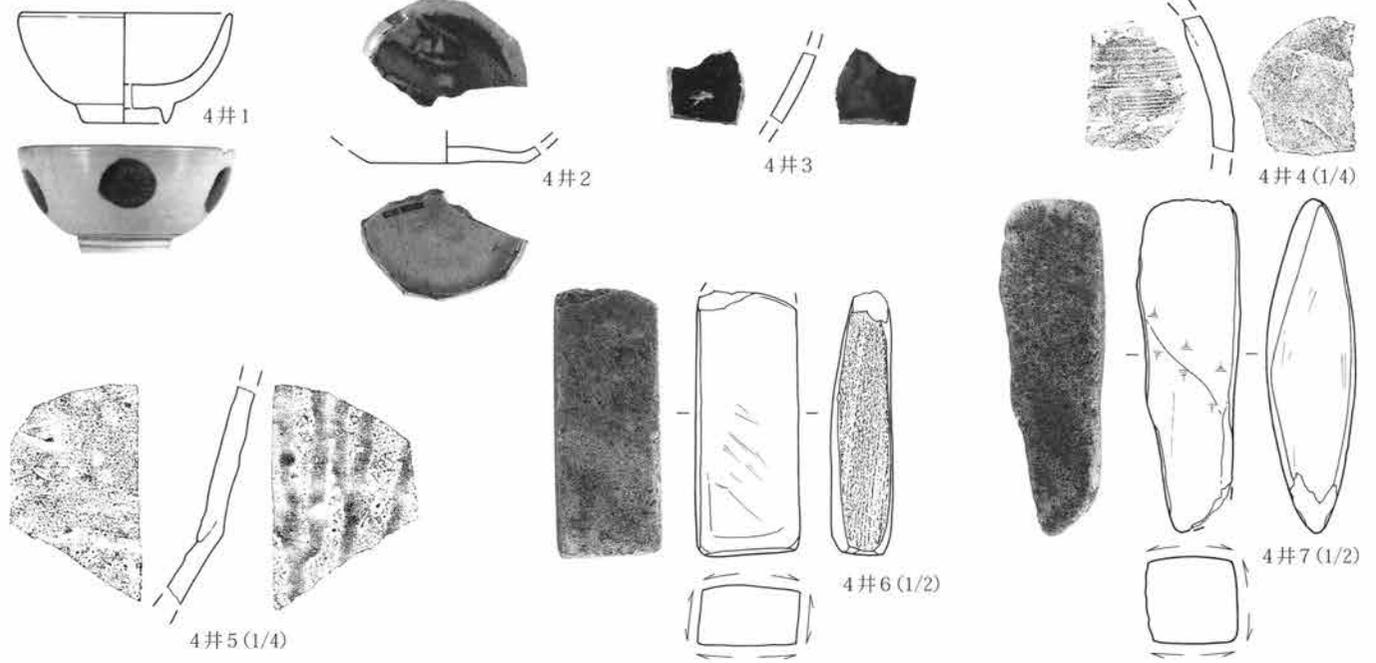


Ⅱ区3号井戸

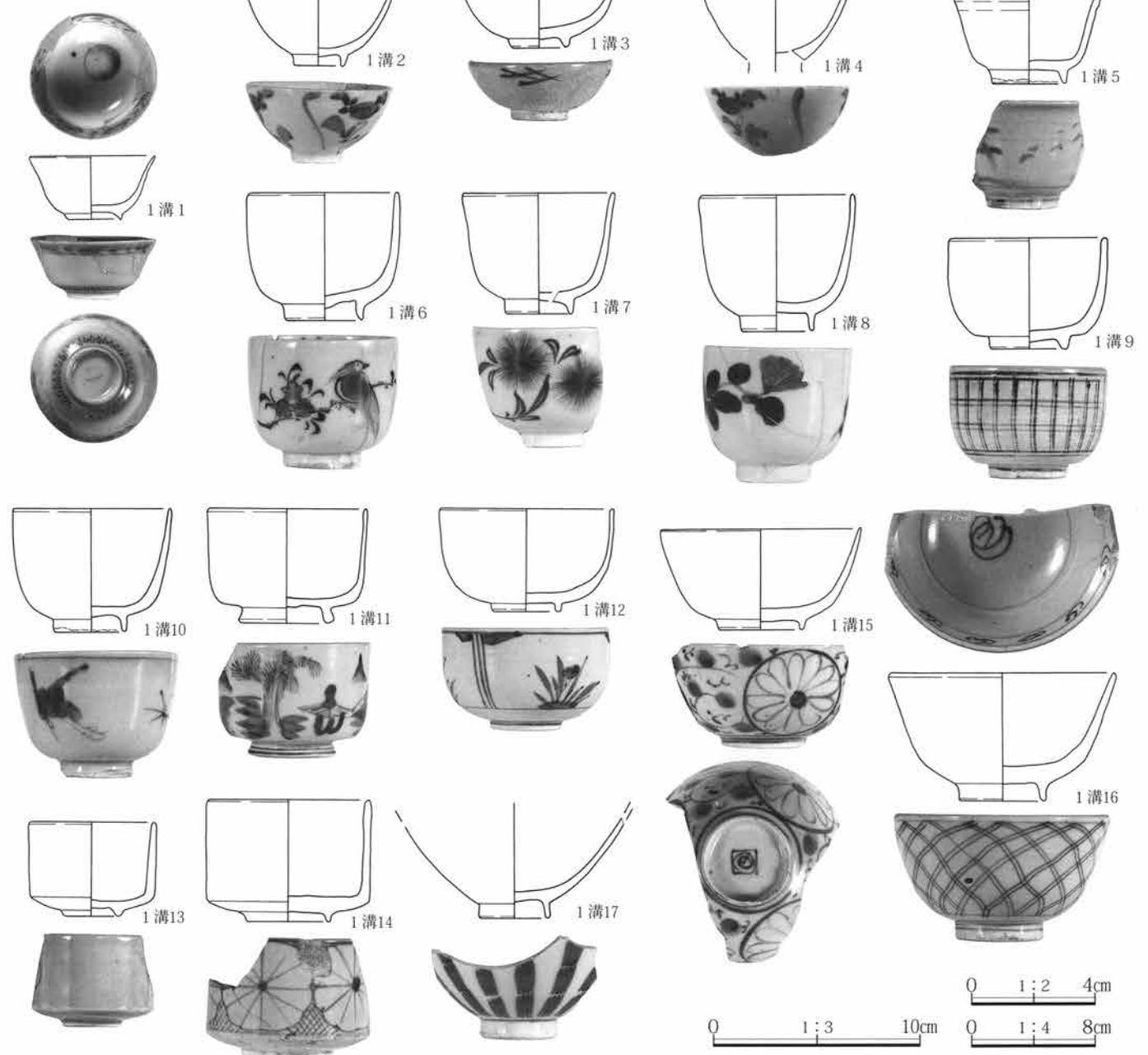


第63図 Ⅱ区24号土坑出土遺物(3)、1~3号井戸出土遺物

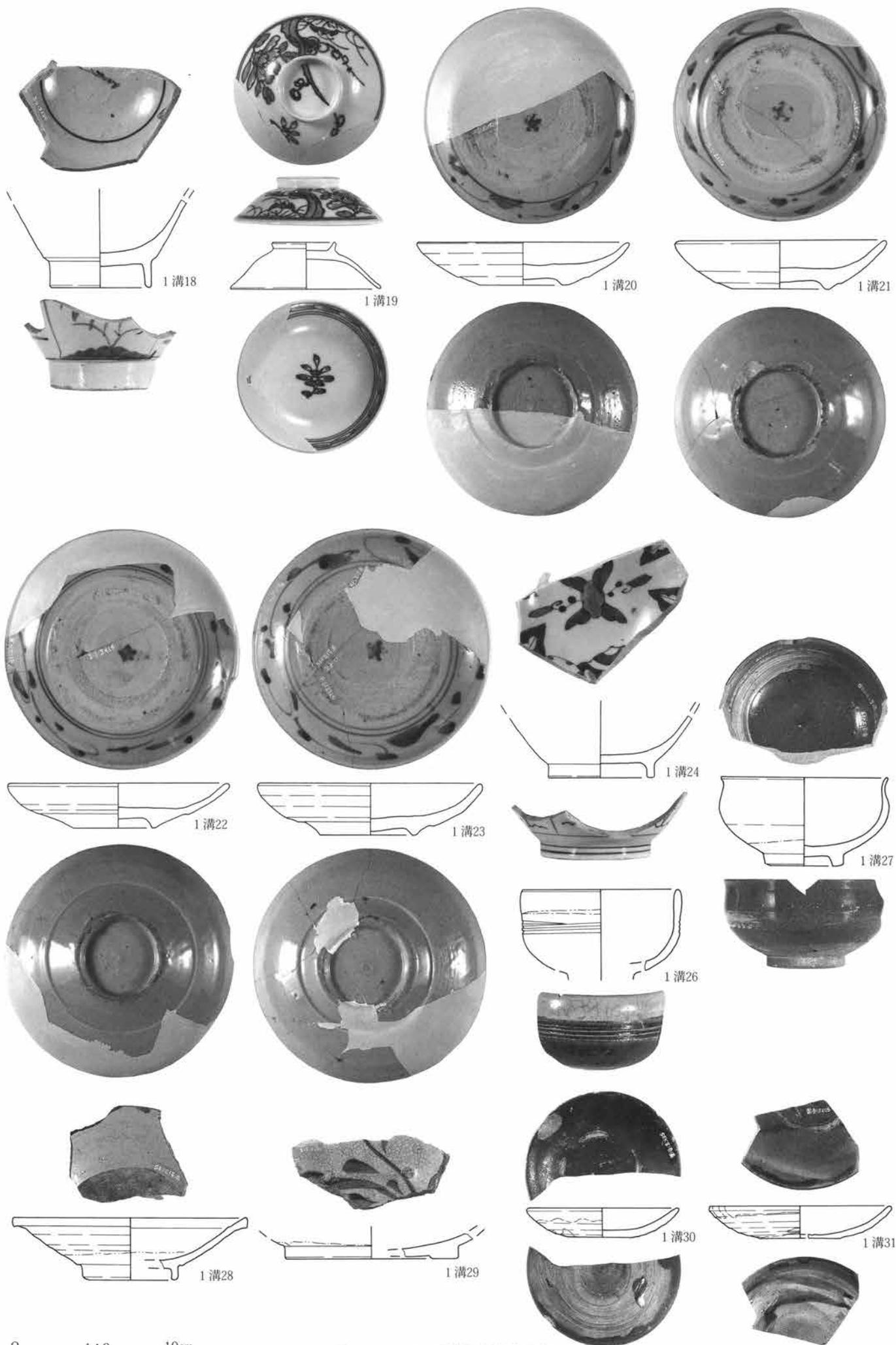
II区4号井戸



II区1号溝

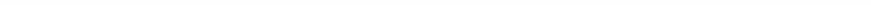
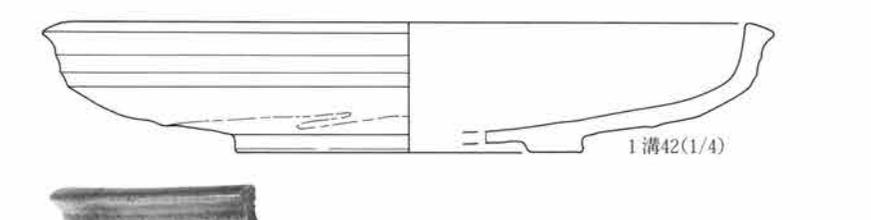
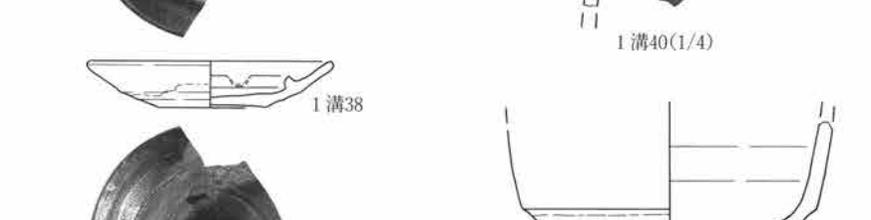
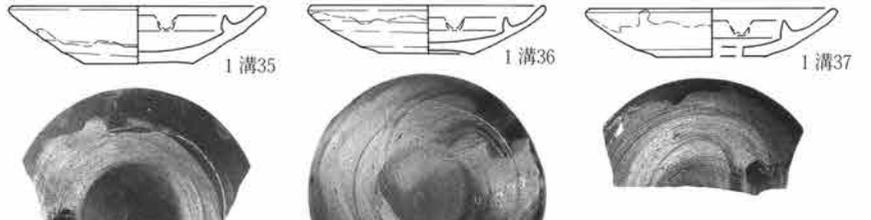
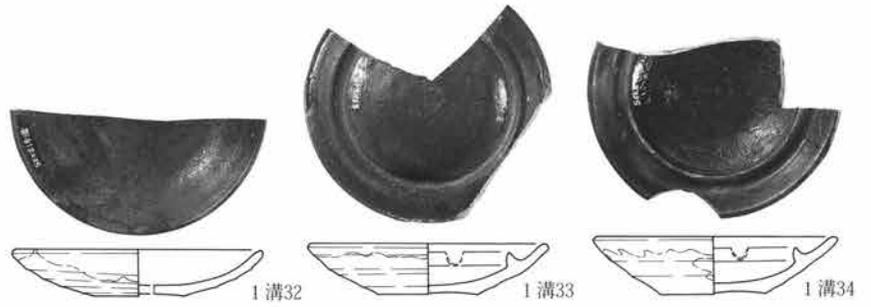
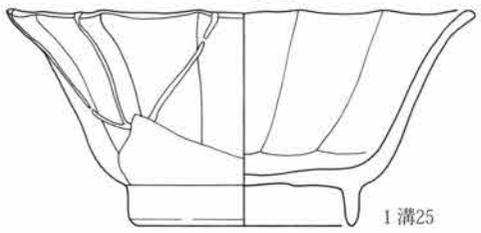
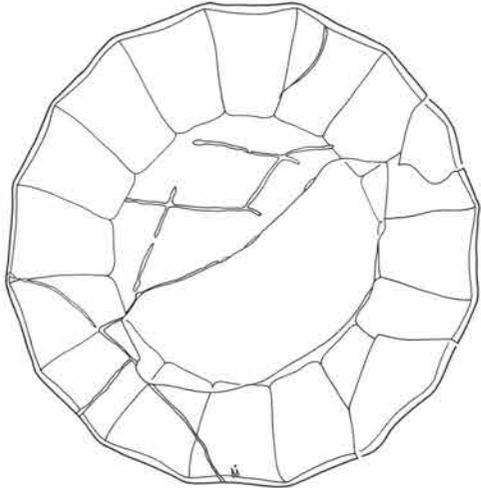


第64图 II区4号井戸出土遺物、1号溝出土遺物(1)



0 1:3 10cm

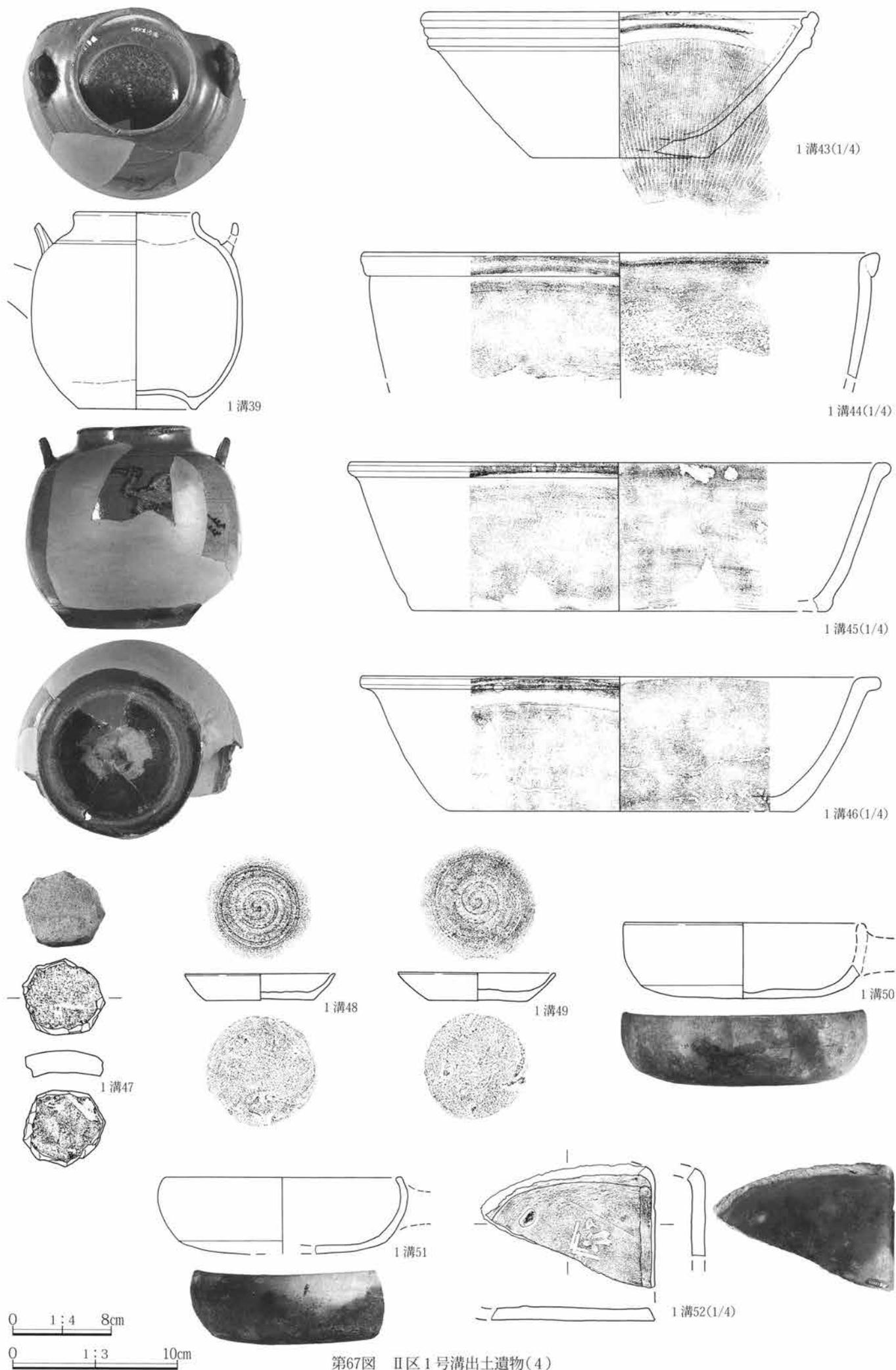
第65图 II区1号沟出土遗物(2)



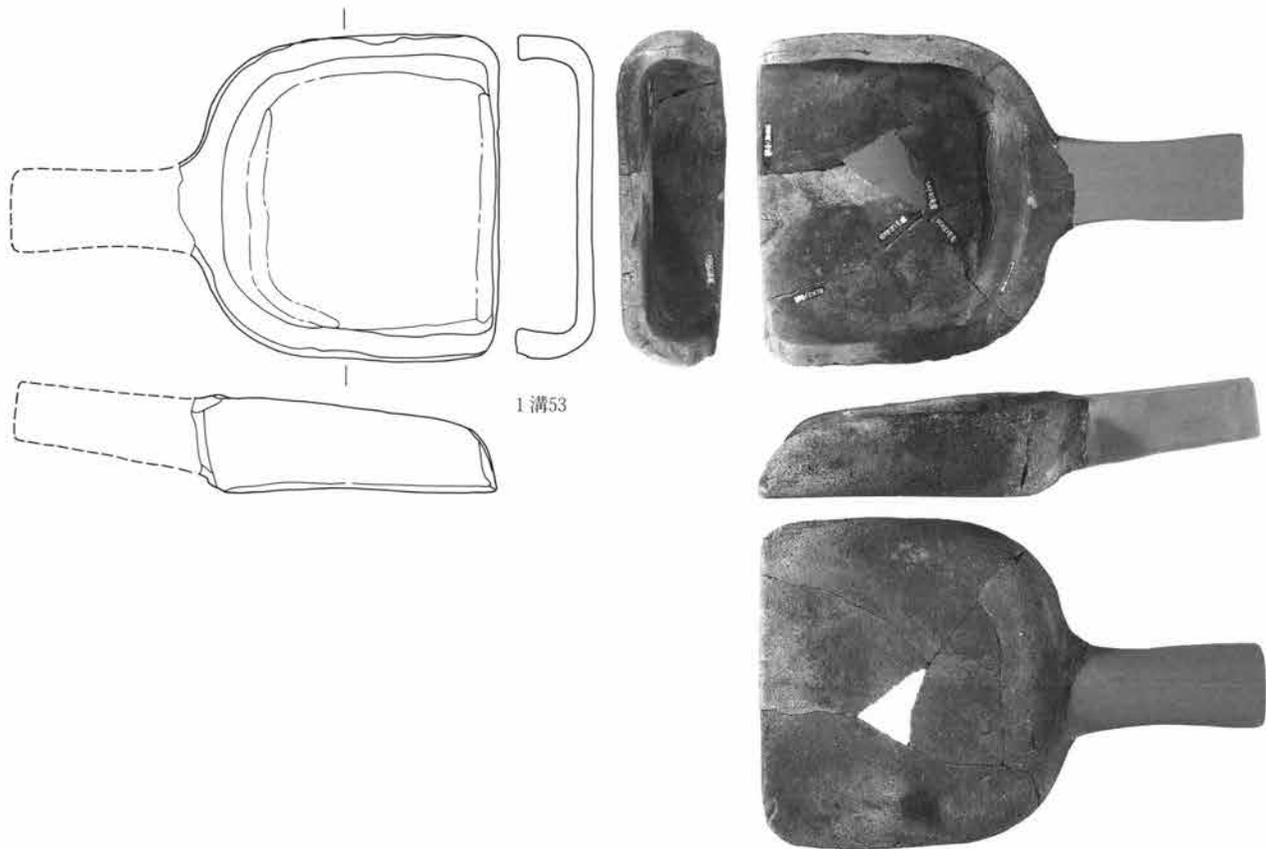
0 1:4 8cm

0 1:3 10cm

第66图 II区1号溝出土遺物(3)

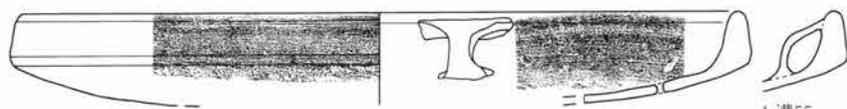


第67图 II区1号沟出土遗物(4)



1 溝53

1 溝54

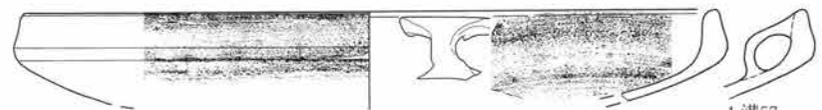


1 溝55

1 溝56



1/8



1 溝57

1 溝58



1 溝59



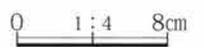
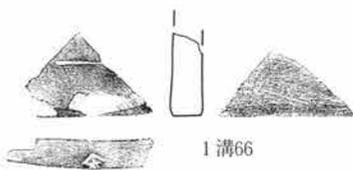
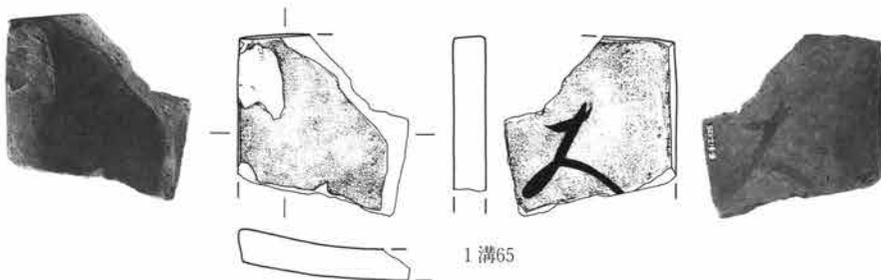
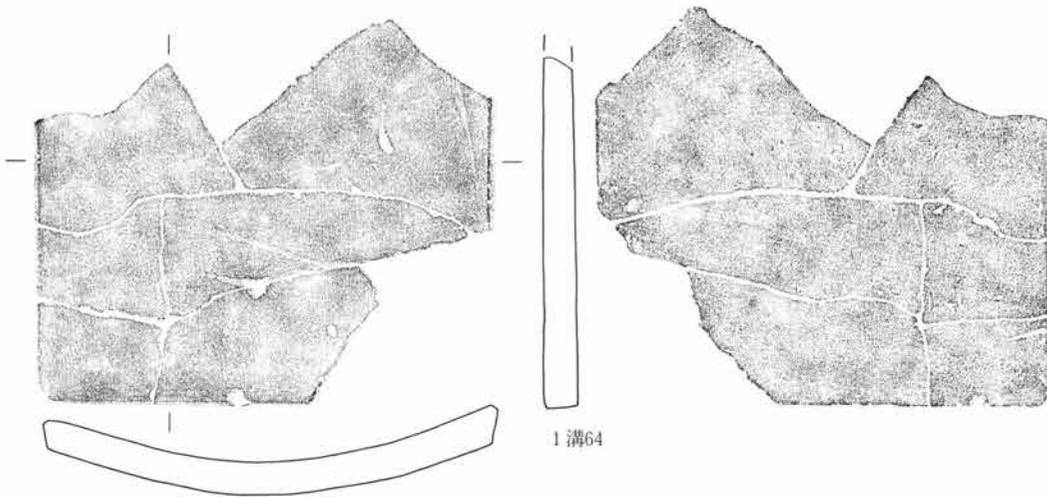
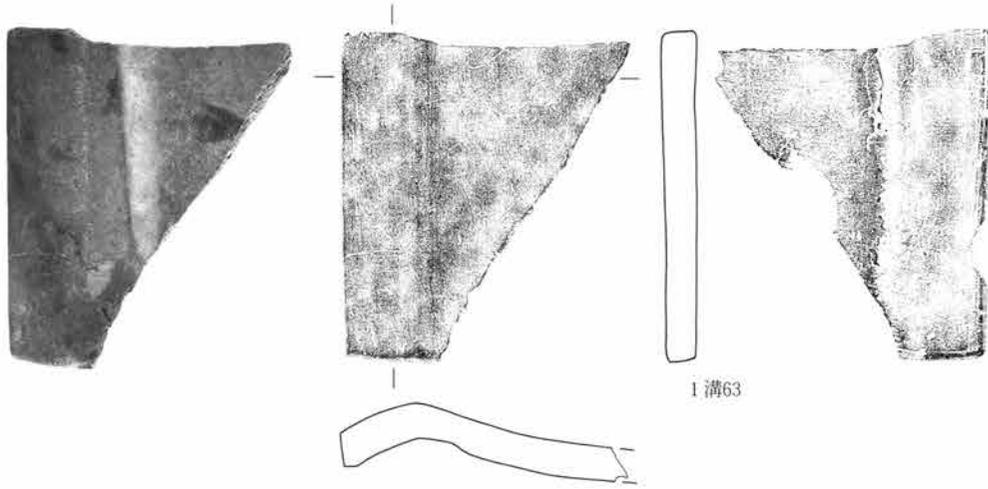
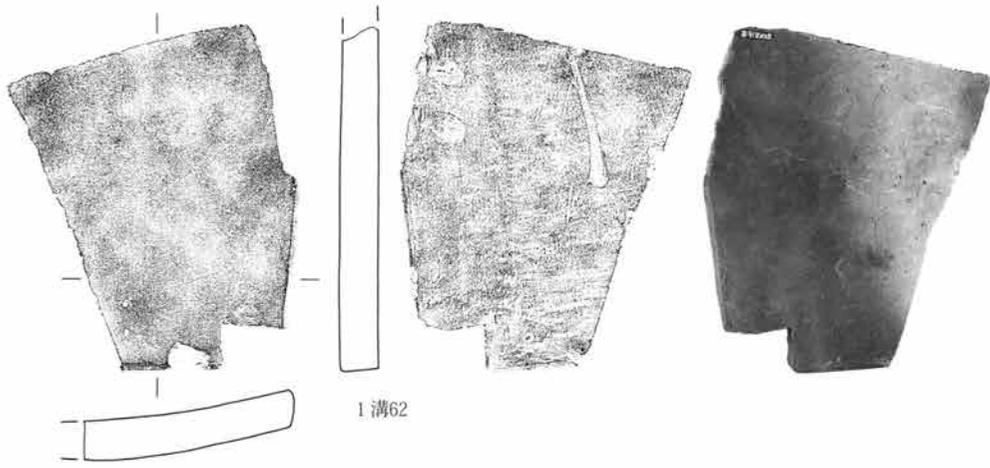
1 溝60



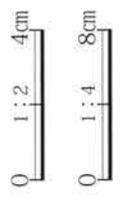
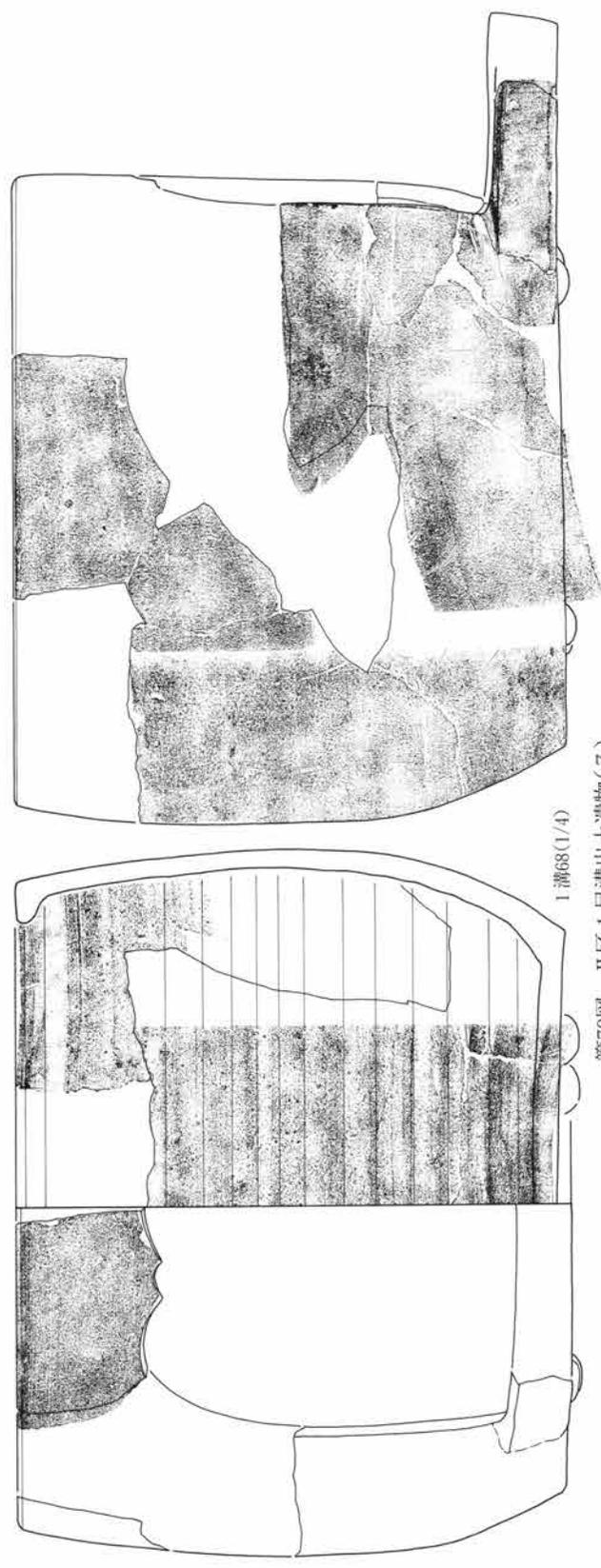
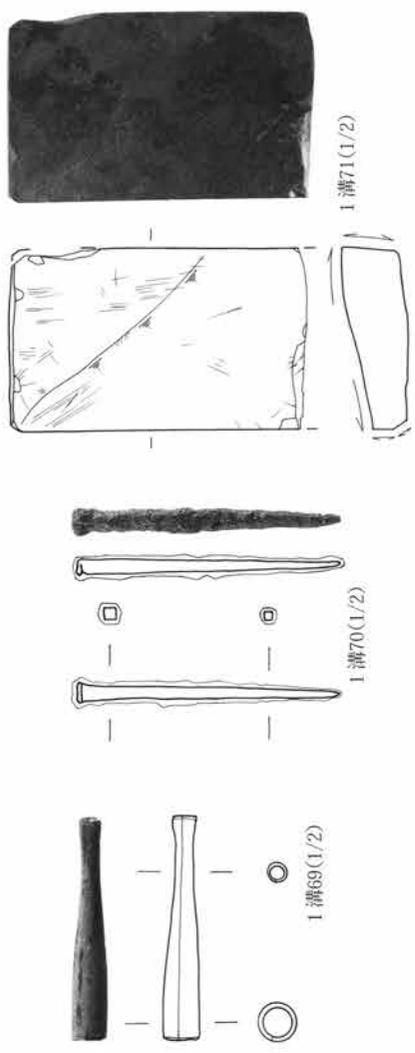
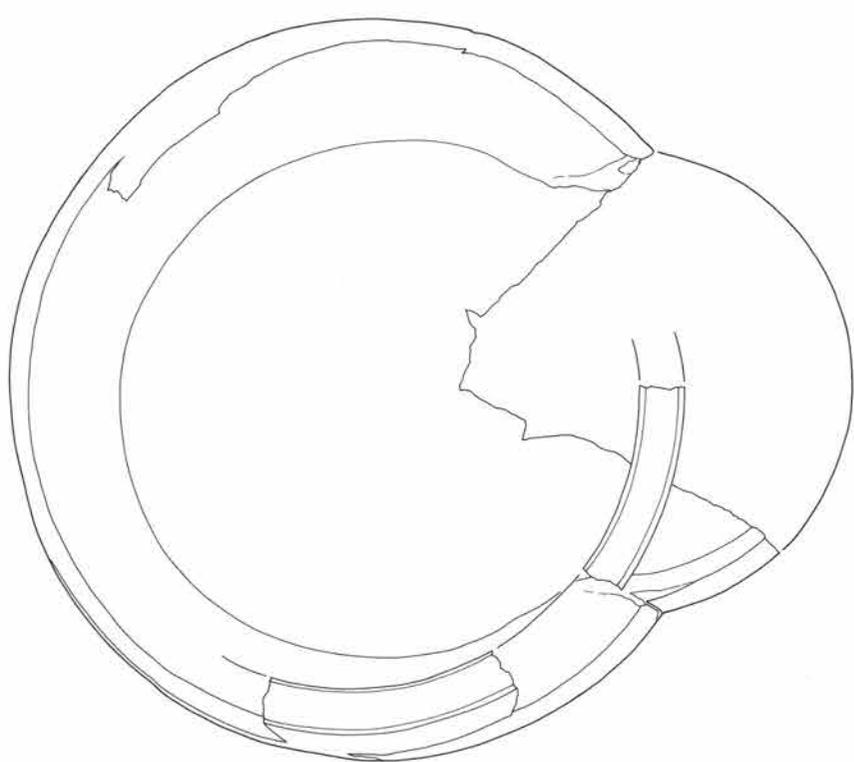
1 溝61



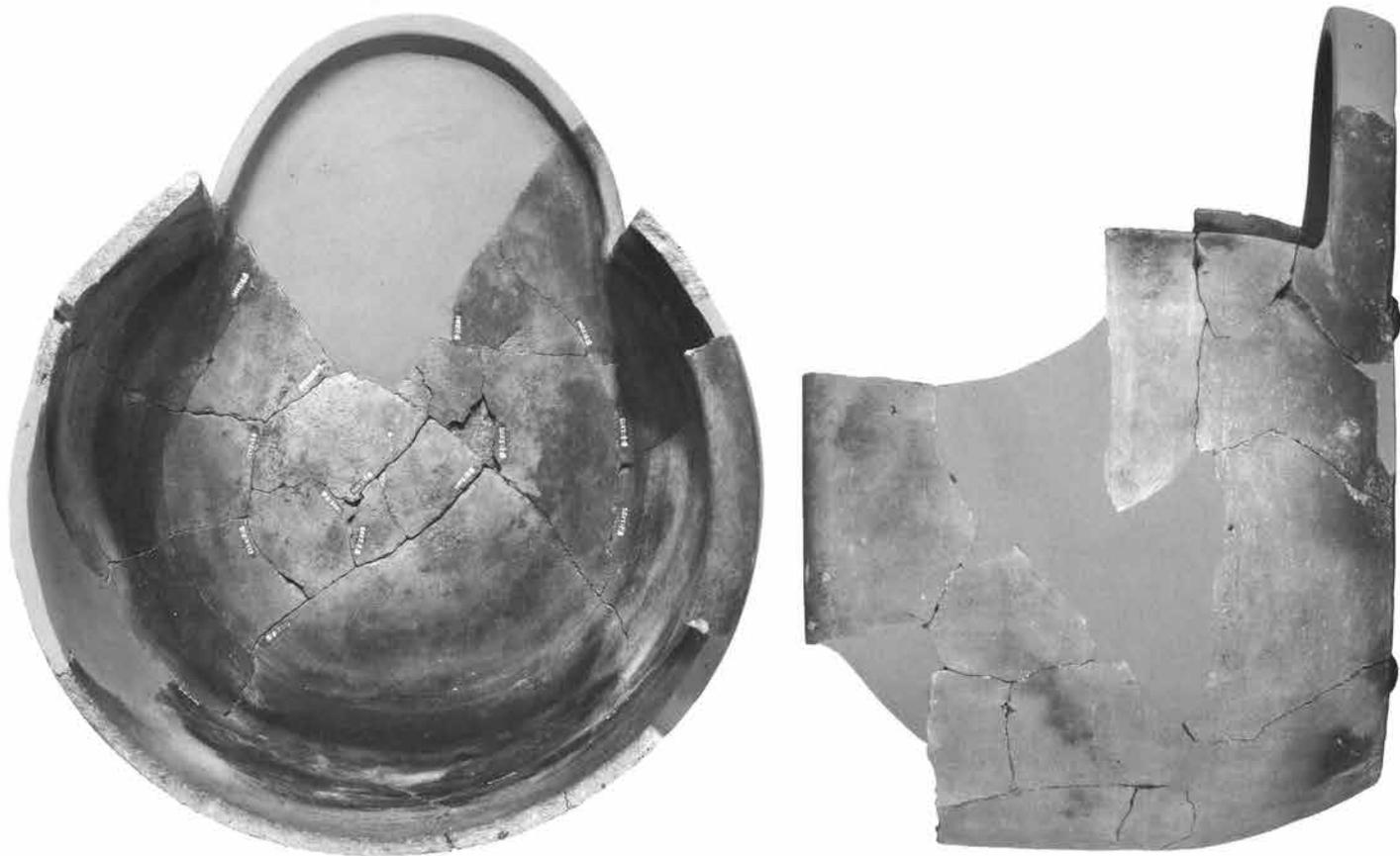
第68図 II区1号溝出土遺物(5)



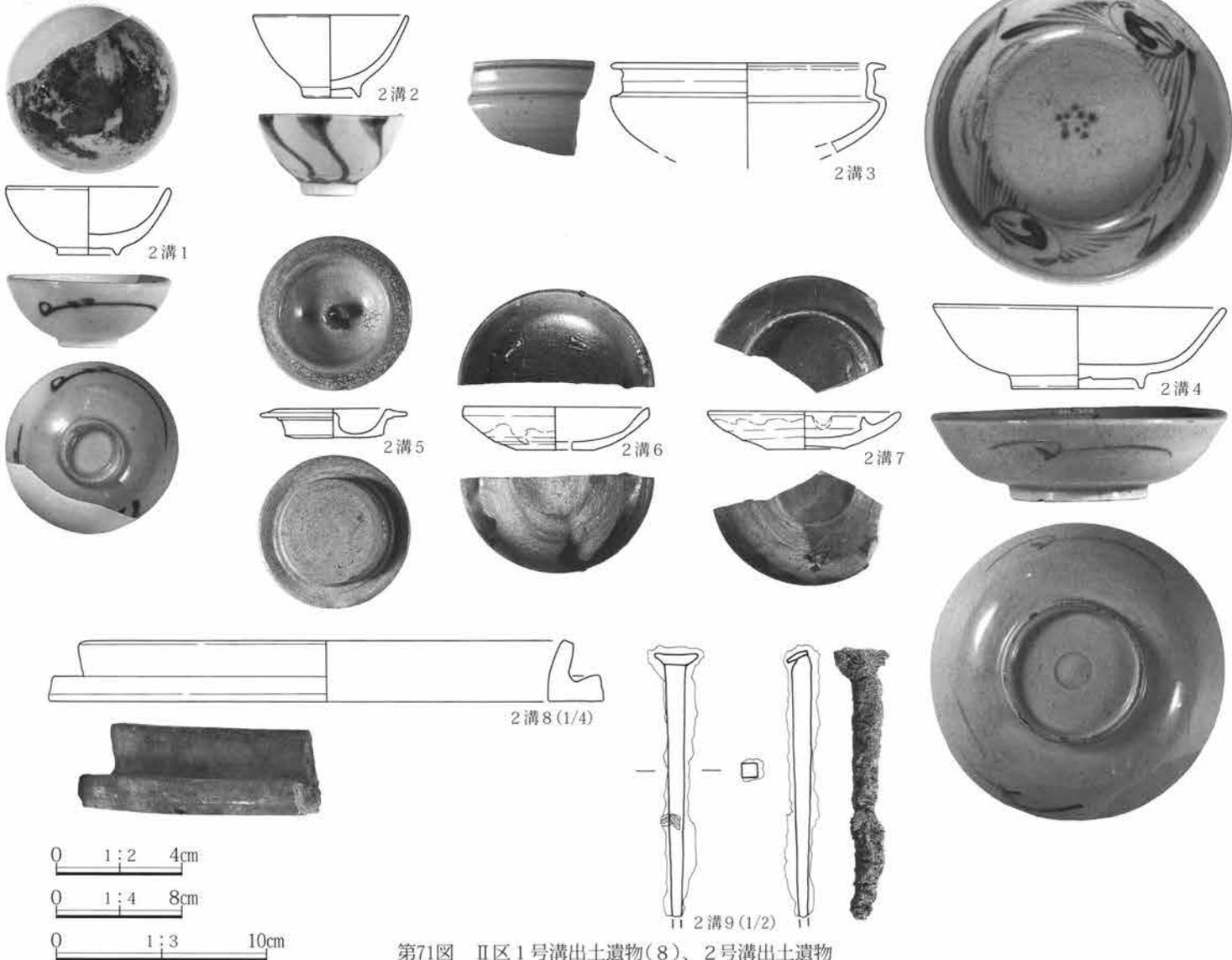
第69図 II区1号溝出土遺物(6)



第70图 II区1号溝出土遺物(7)

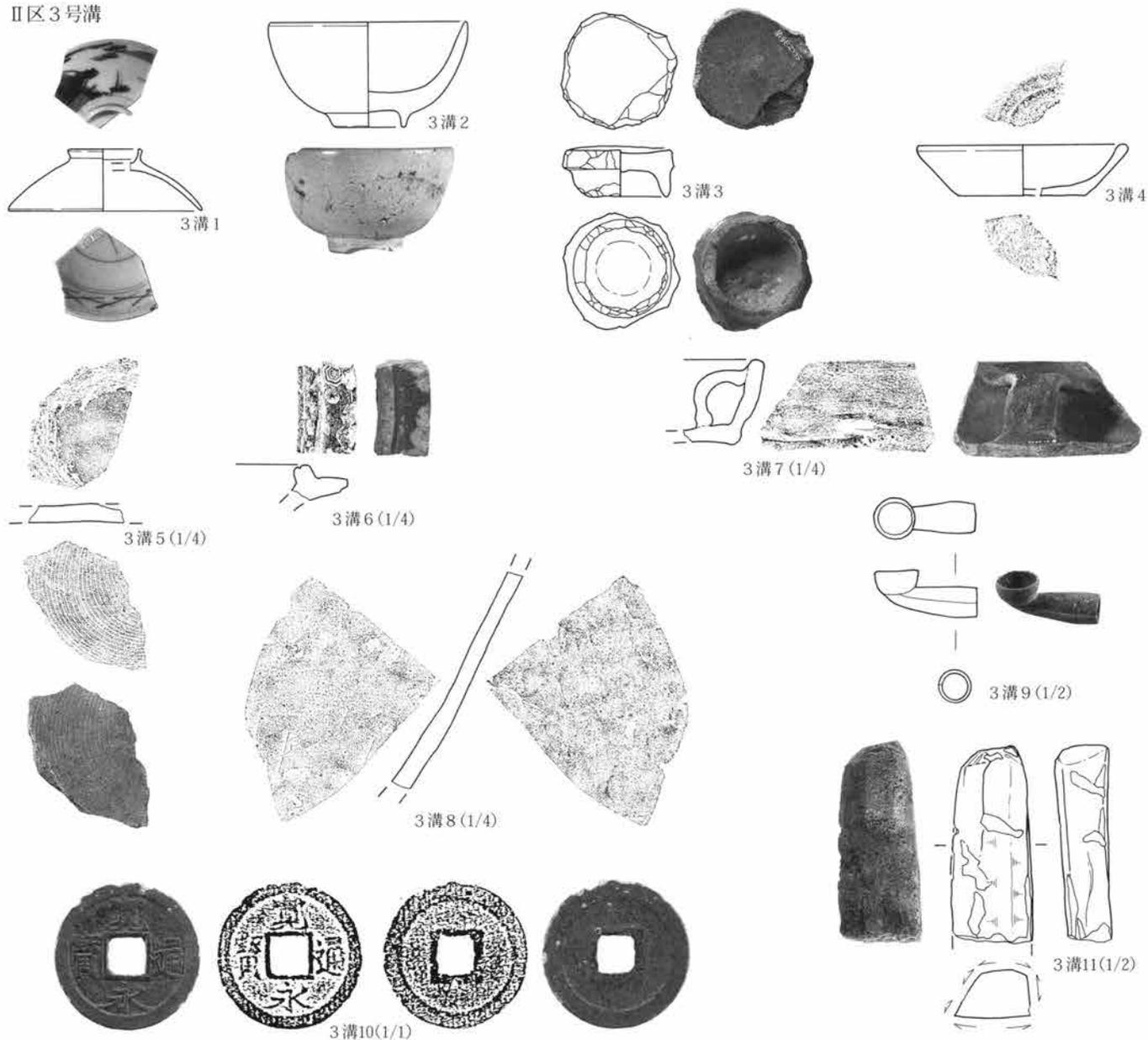


II区2号沟

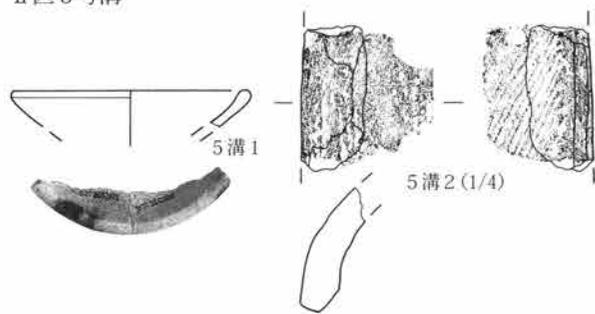


第71图 II区1号沟出土文物(8)、2号沟出土文物

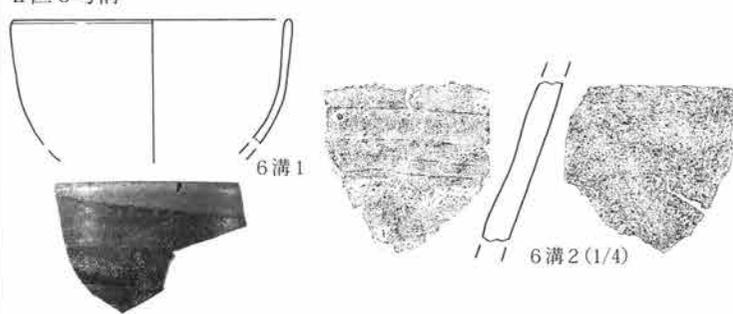
II区3号沟



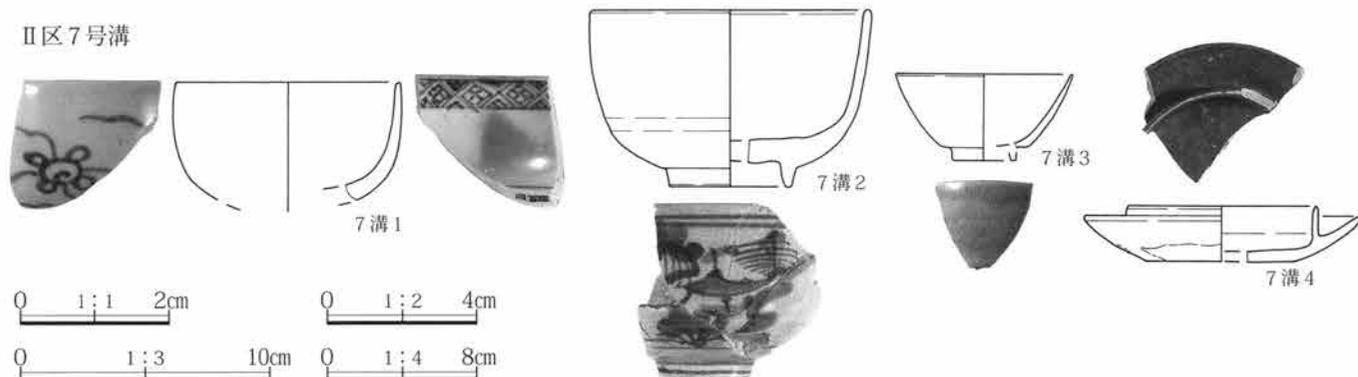
II区5号沟



II区6号沟



II区7号沟

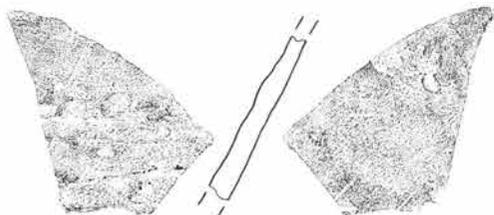


第72图 II区3·5·6号沟出土遺物、7号沟出土遺物

II区8号溝



8溝1



8溝2 (1/4)



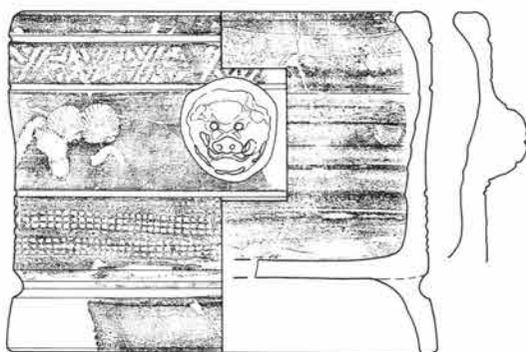
8溝3 (1/4)

II区9号溝



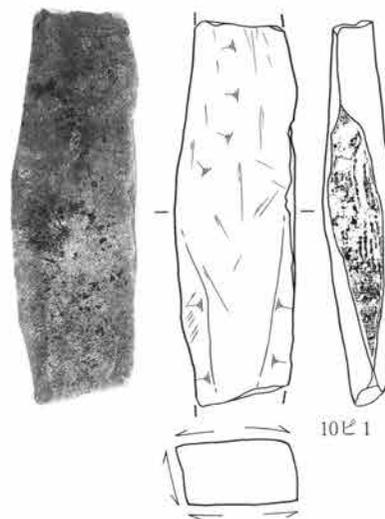
9溝1

II区4号ピット



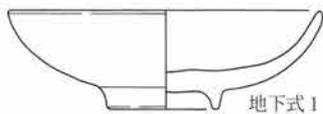
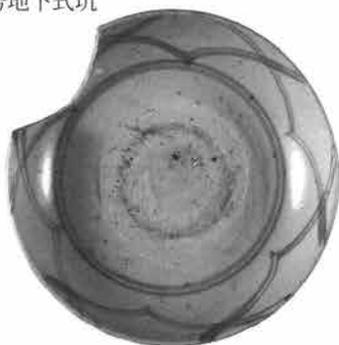
4ピ1

II区10号ピット



10ピ1

II区1号地下式坑



地下式1

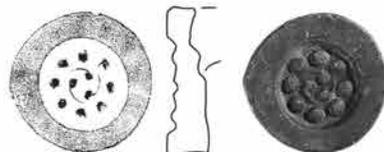


地下式2

II区1号竪穴状遺構



1竪2



1竪3 (1/4)

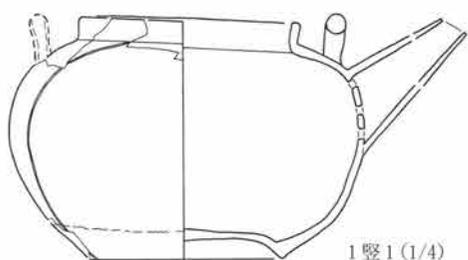
0 1:1 2cm

0 1:2 4cm

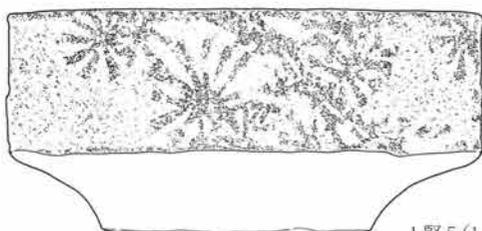
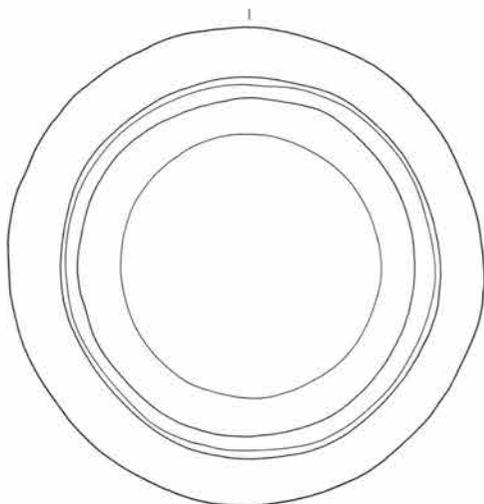
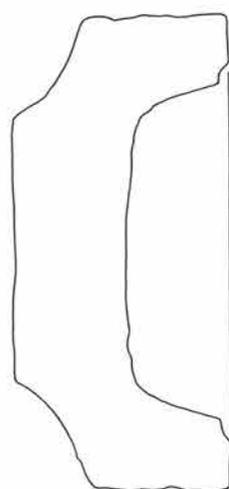
0 1:3 10cm

0 1:4 8cm

第73図 II区8・9号溝出土遺物、4・10号ピット、1号地下式坑出土遺物、1号竪穴状遺構出土遺物(1)



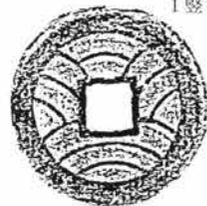
1 豎 1 (1/4)



1 豎 5 (1/4)



1 豎 4 (1/1)

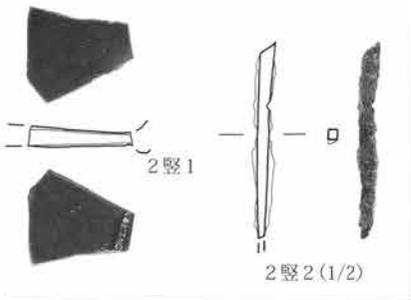


0 1:1 2cm

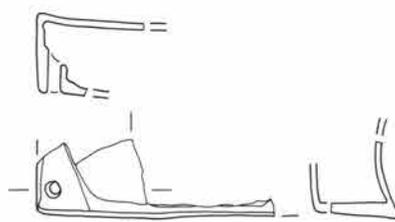
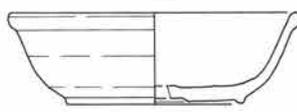
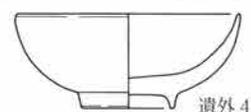
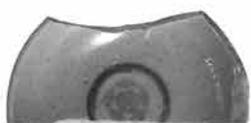
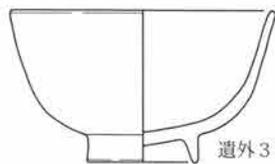
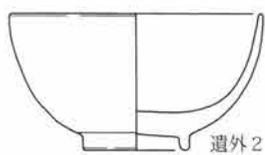
0 1:4 8cm

第74图 II区1号竖穴状遺構出土遺物(2)

Ⅱ区2号竖穴状遺構



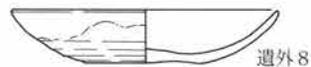
Ⅱ区遺構外



遺外 6



遺外 7

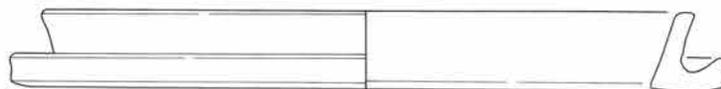
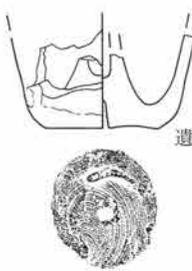


遺外 8

遺外 9

遺外 10

遺外 11

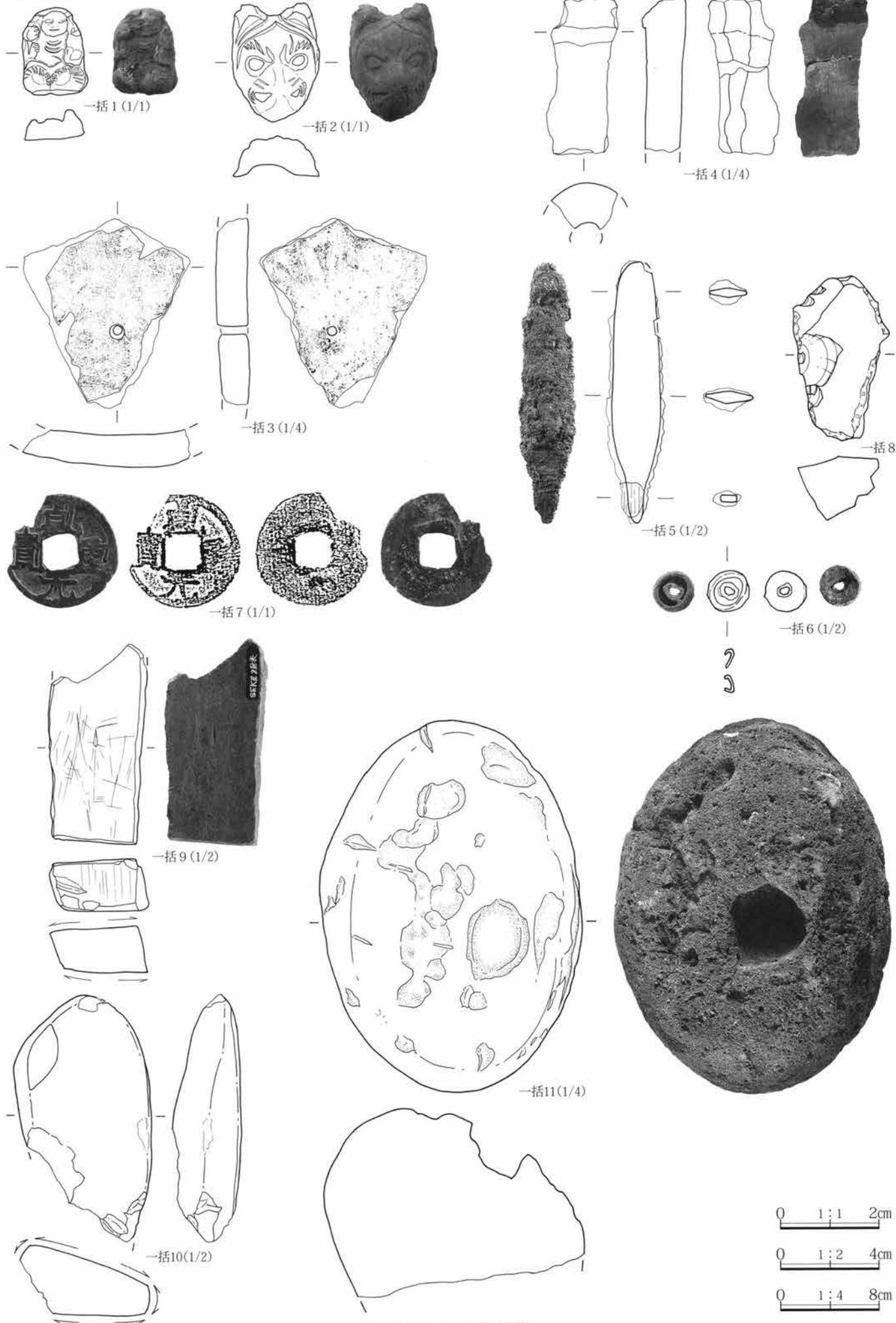


遺外 12(1/4)

0 1:2 4cm 0 1:3 10cm 0 1:4 8cm

第75图 Ⅱ区2号竖穴状遺構、遺構外出土遺物

II区一括



第76图 II区一括出土遗物

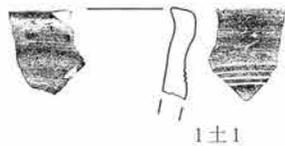
0 1:1 2cm

0 1:2 4cm

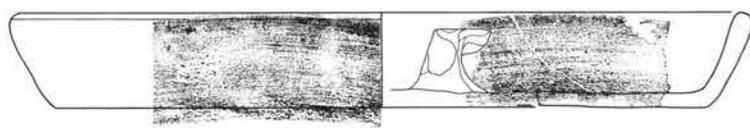
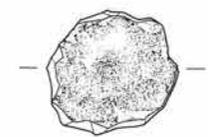
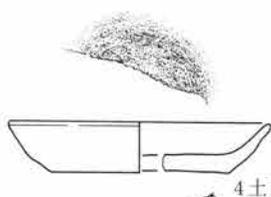
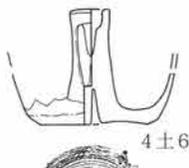
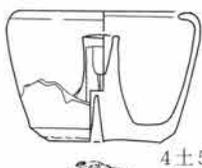
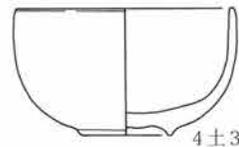
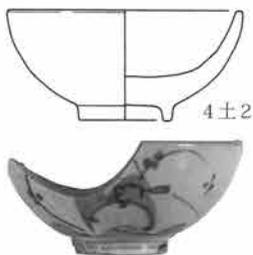
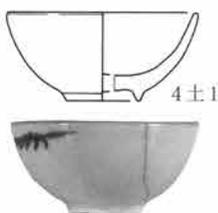
0 1:4 8cm

Ⅲ区

Ⅲ区1号土坑

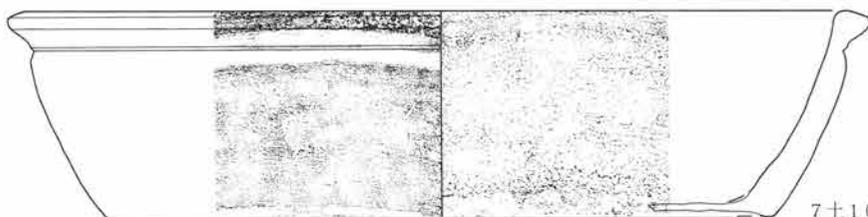


Ⅲ区4号土坑

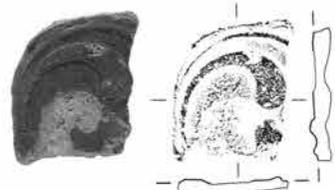


4±10(1/4)

Ⅲ区7号土坑

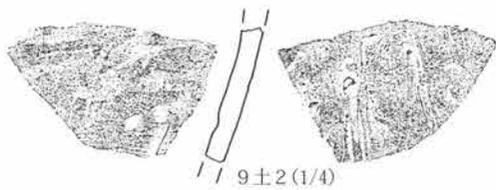


7±1(1/4)

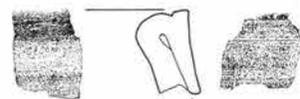


7±2(1/4)

Ⅲ区9号土坑



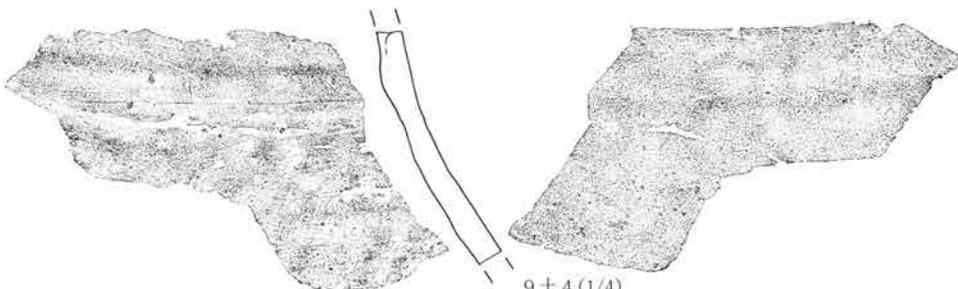
9±2(1/4)



9±3(1/4)



9±1(1/4)

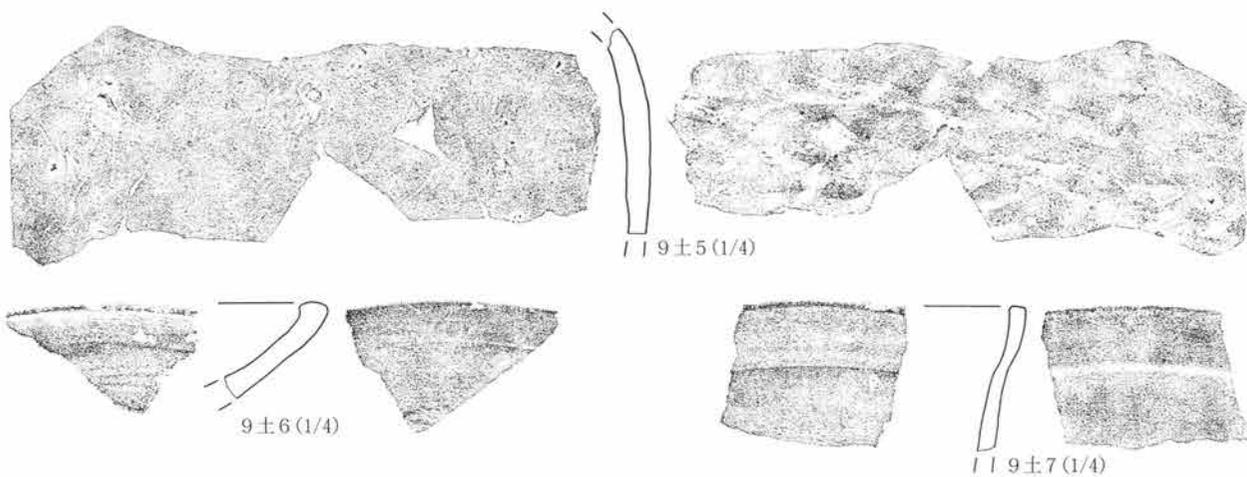


9±4(1/4)

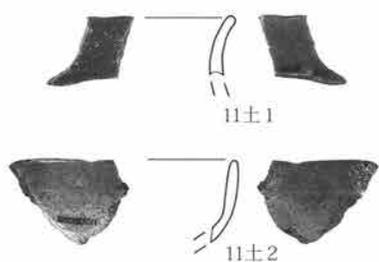
0 1:4 8cm

0 1:3 10cm

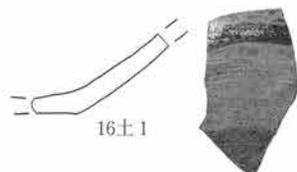
第77图 Ⅲ区1·4·7号土坑出土遺物、9号土坑出土遺物(1)



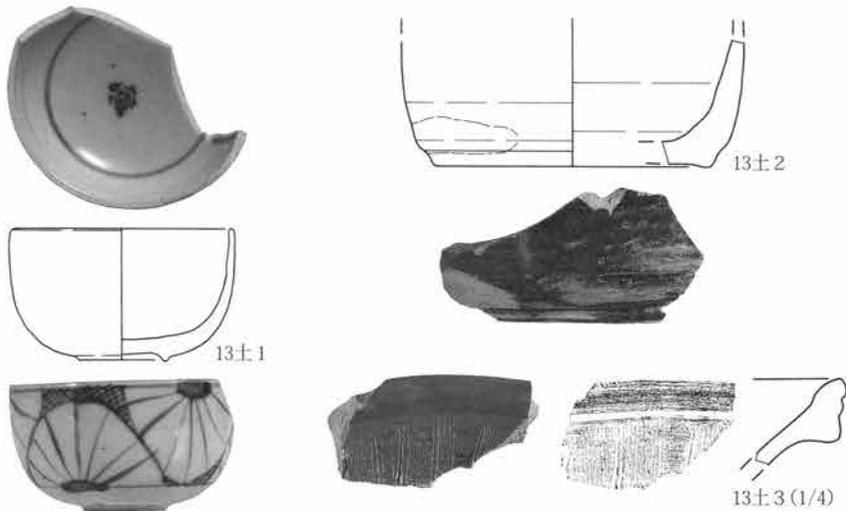
Ⅲ区11号土坑



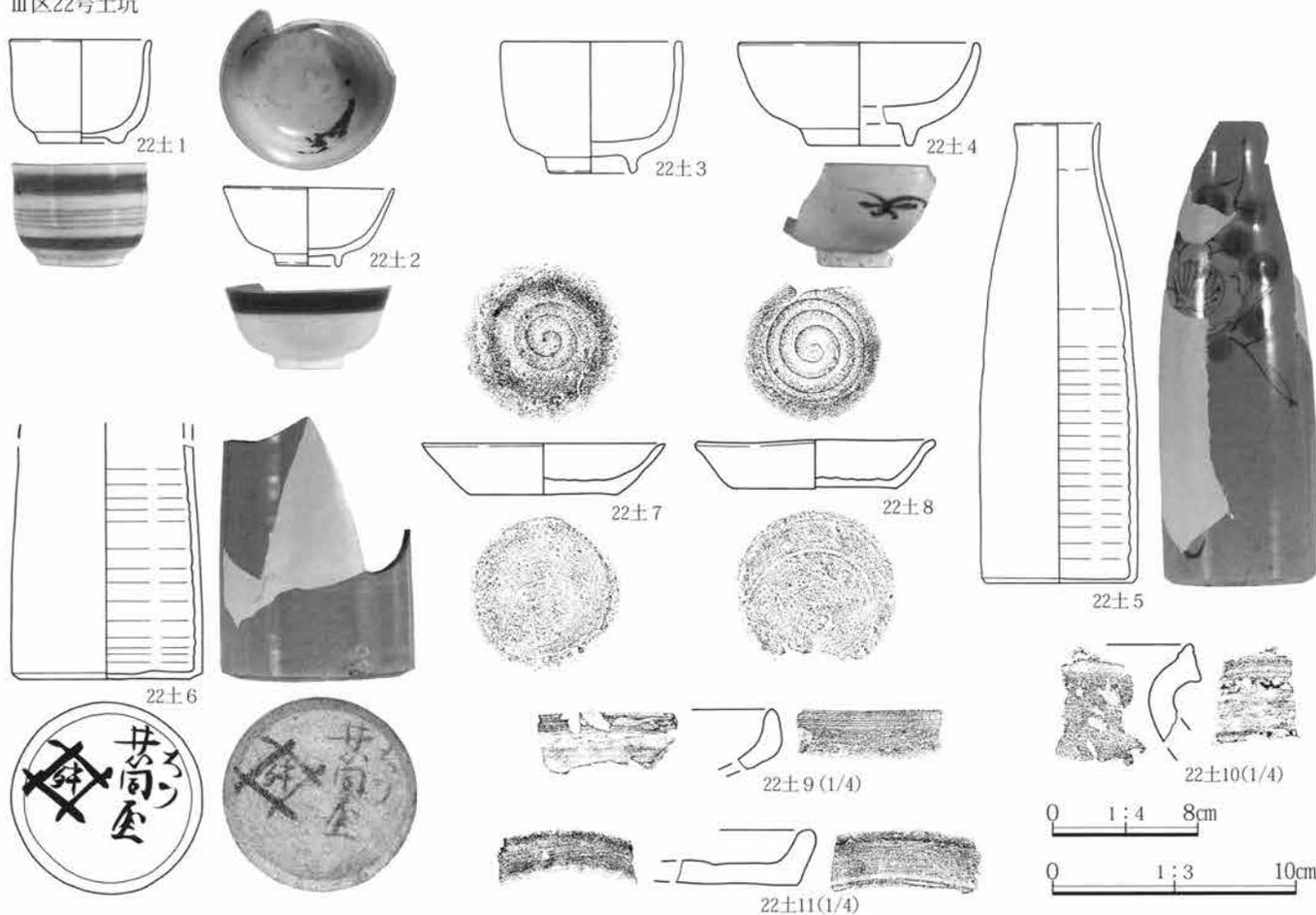
Ⅲ区16号土坑



Ⅲ区13号土坑

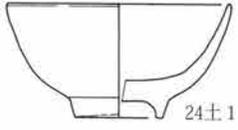


Ⅲ区22号土坑



第78图 Ⅲ区9号土坑出土遺物(2)、11·13·16·22号土坑出土遺物

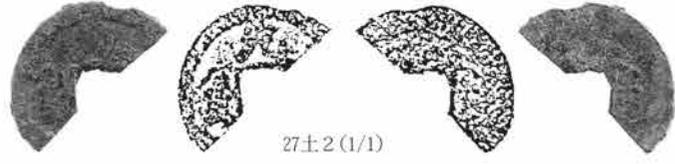
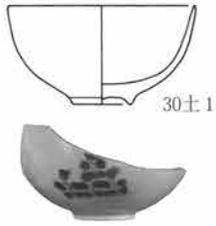
Ⅲ区24号土坑



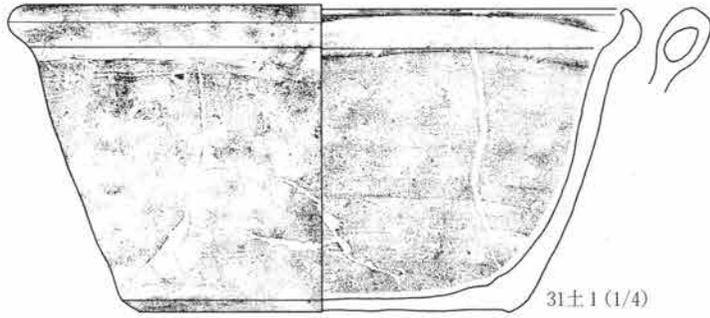
Ⅲ区27号土坑



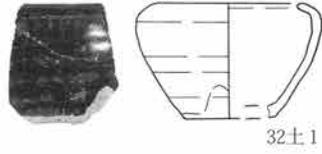
Ⅲ区30号土坑



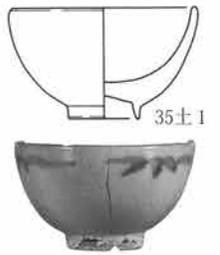
Ⅲ区31号土坑



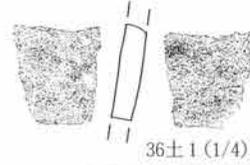
Ⅲ区32号土坑



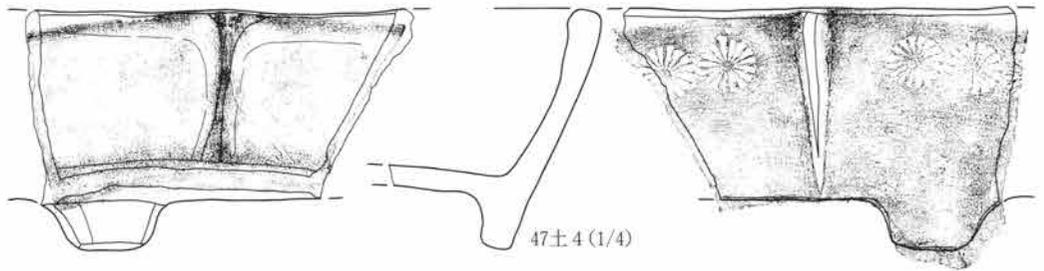
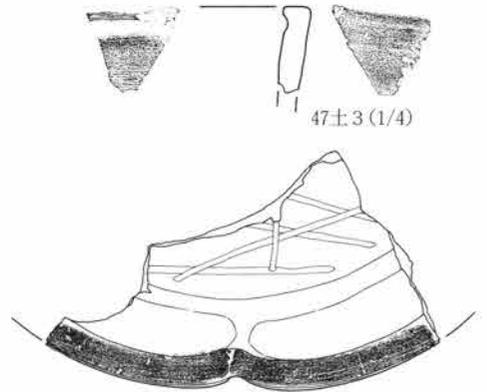
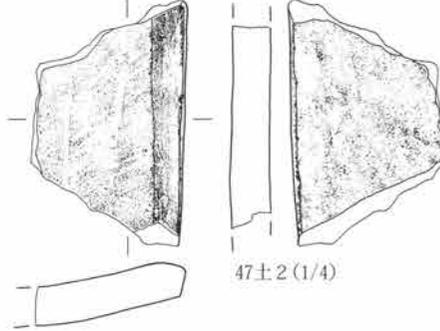
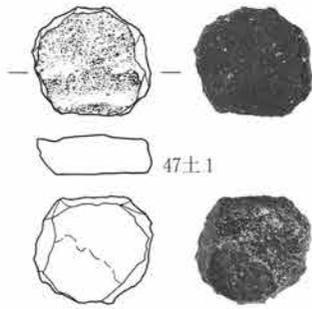
Ⅲ区35号土坑



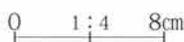
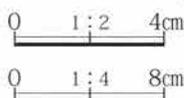
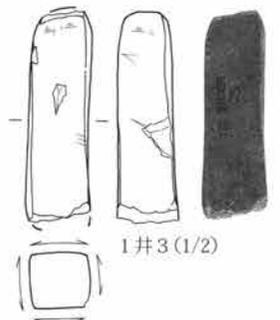
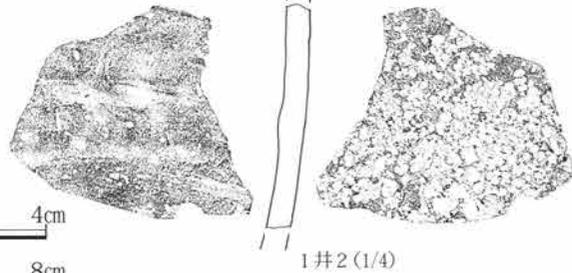
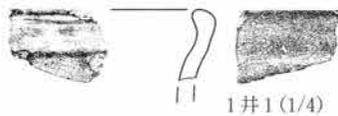
Ⅲ区36号土坑



Ⅲ区47号土坑

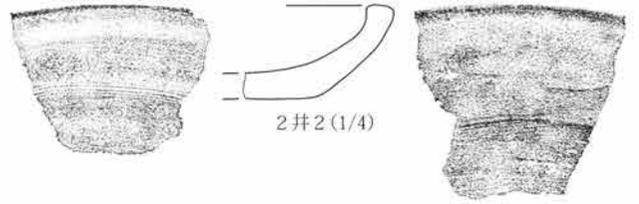
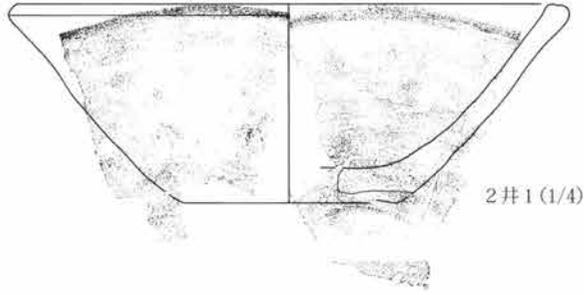


Ⅲ区1号井戸

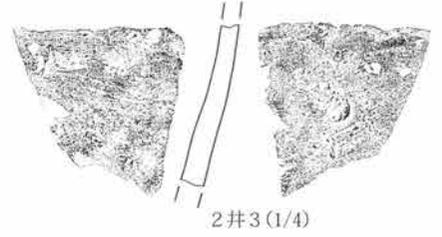
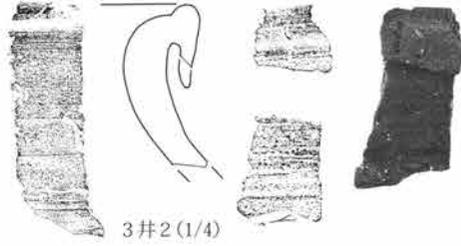


第79图 Ⅲ区24·27·30~32·35·36·47号土坑、1号井戸出土遺物

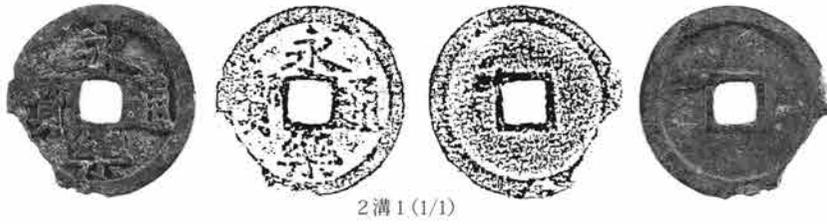
Ⅲ区2号井戸



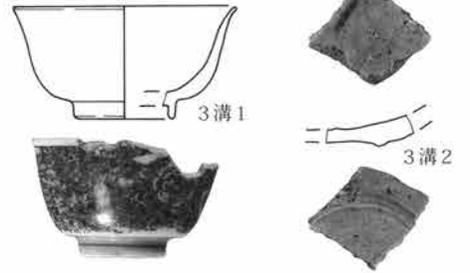
Ⅲ区3号井戸



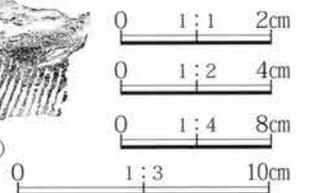
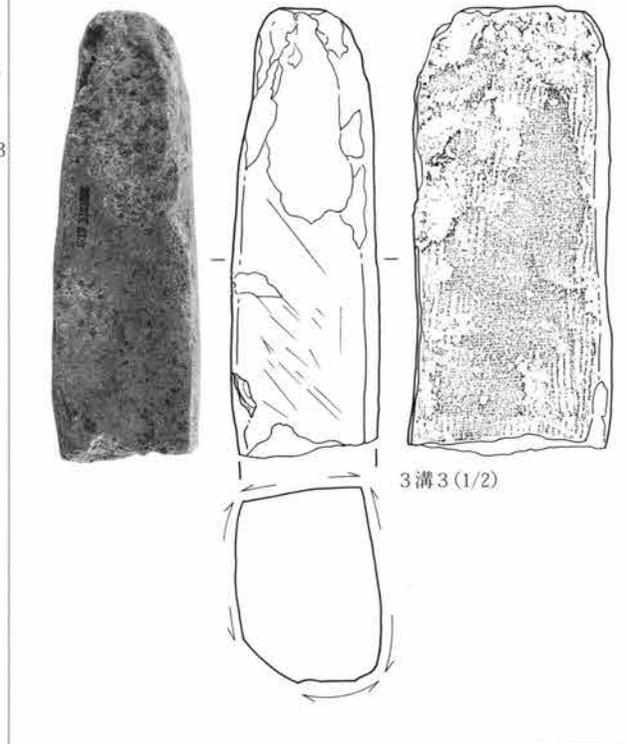
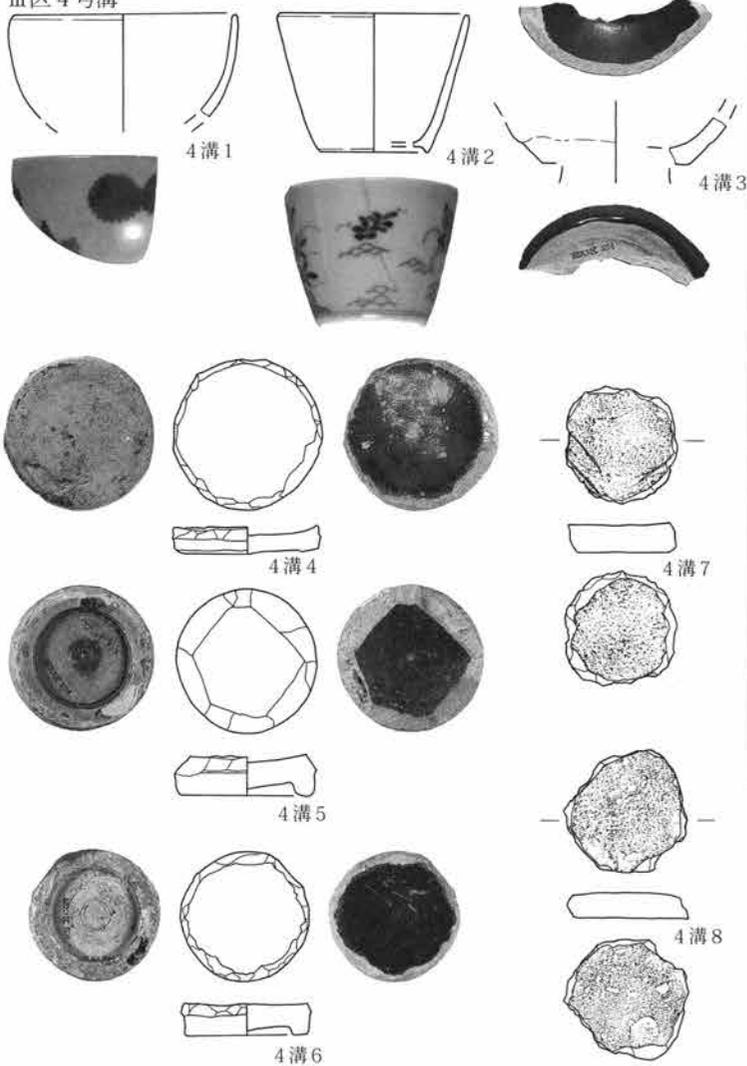
Ⅲ区2号溝



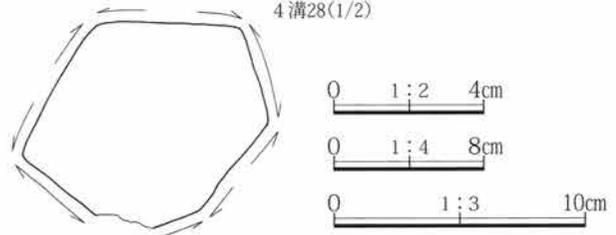
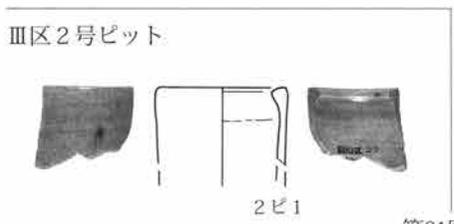
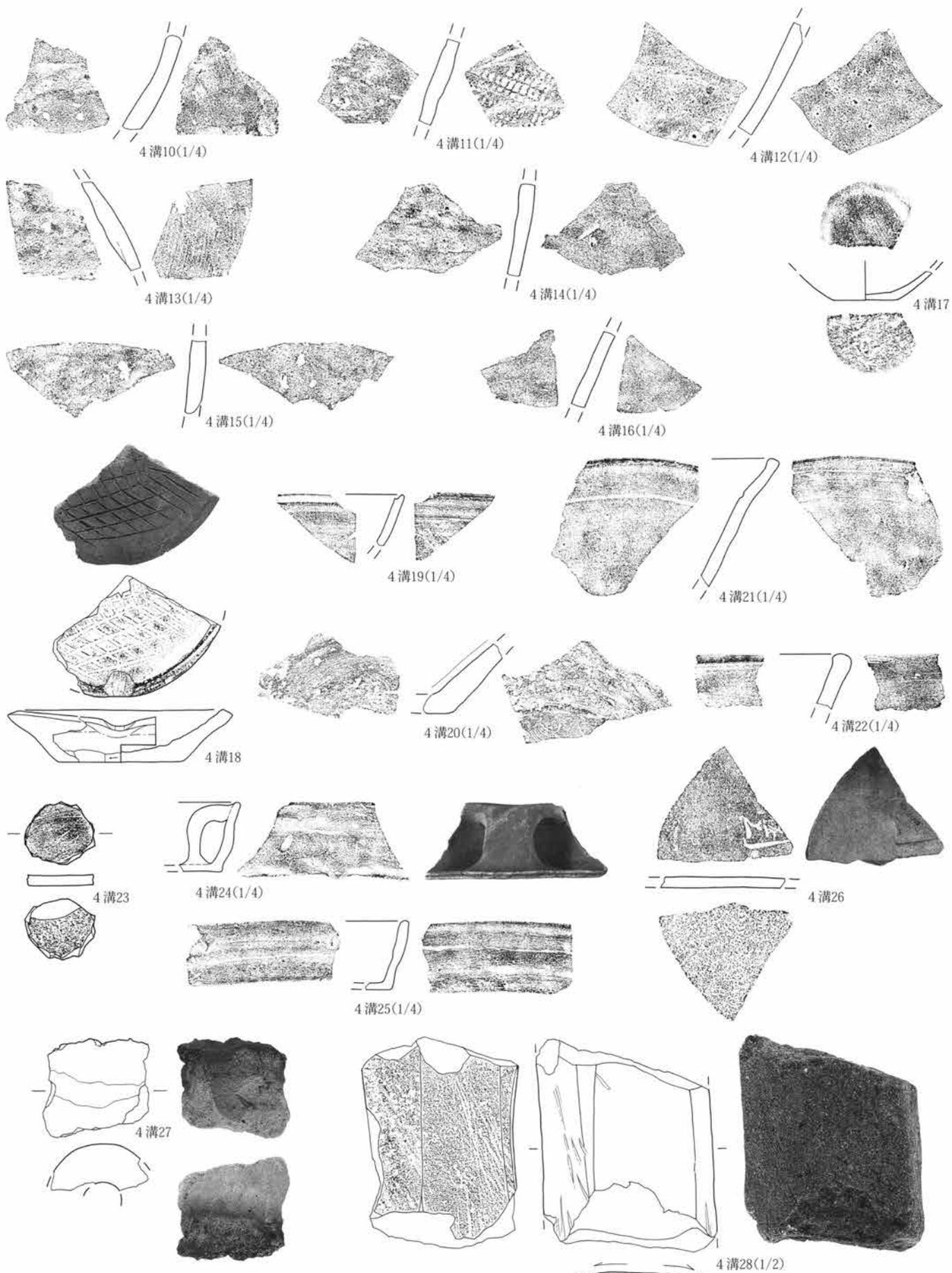
Ⅲ区3号溝



Ⅲ区4号溝

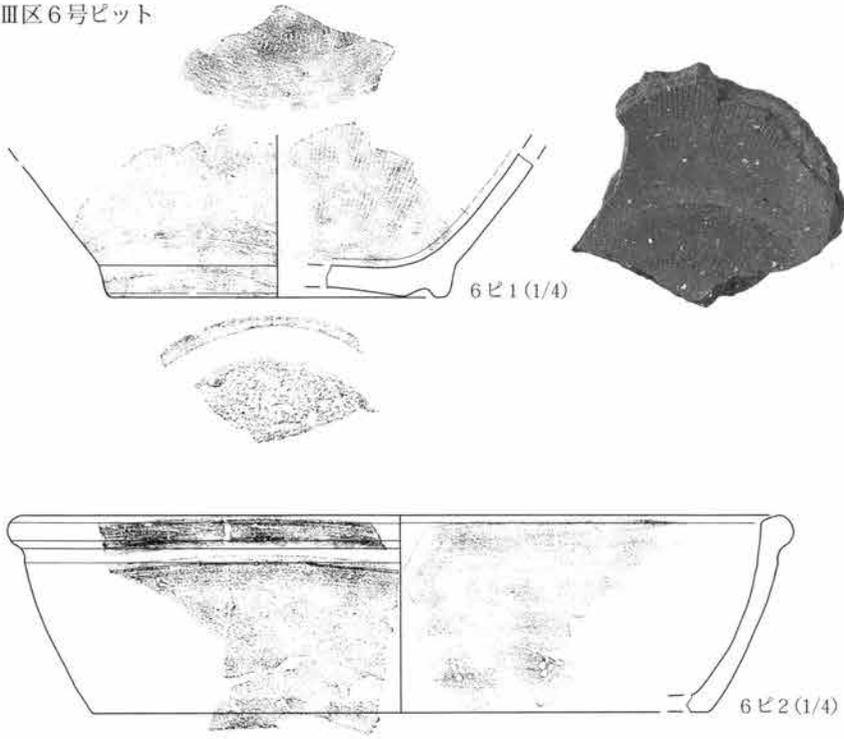


第80図 Ⅲ区2・3号井戸、2・3号溝出土遺物、4号溝出土遺物(1)

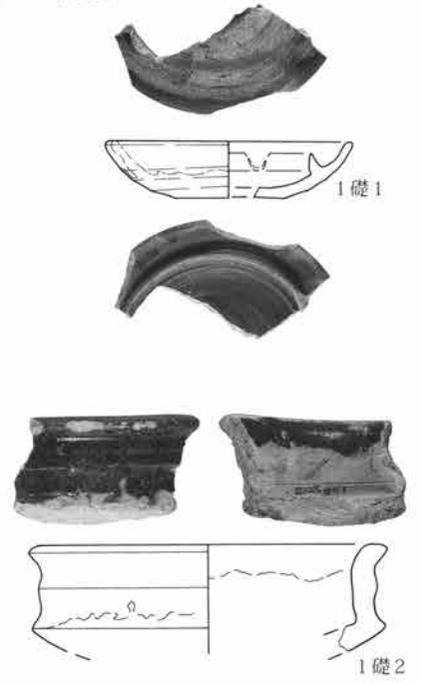


第81図 Ⅲ区4号溝出土遺物(2)、2号ピット出土遺物

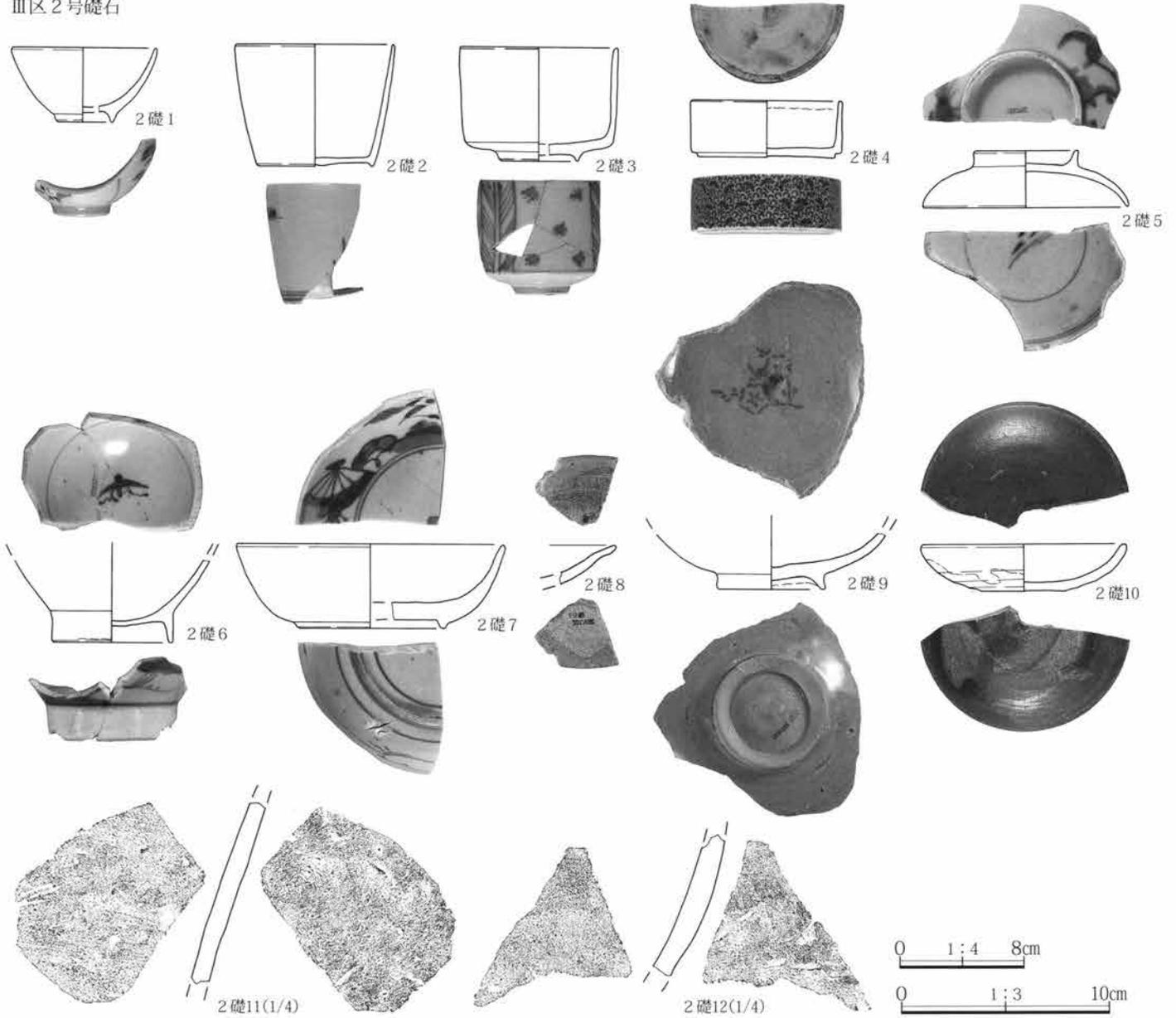
Ⅲ区6号ピット



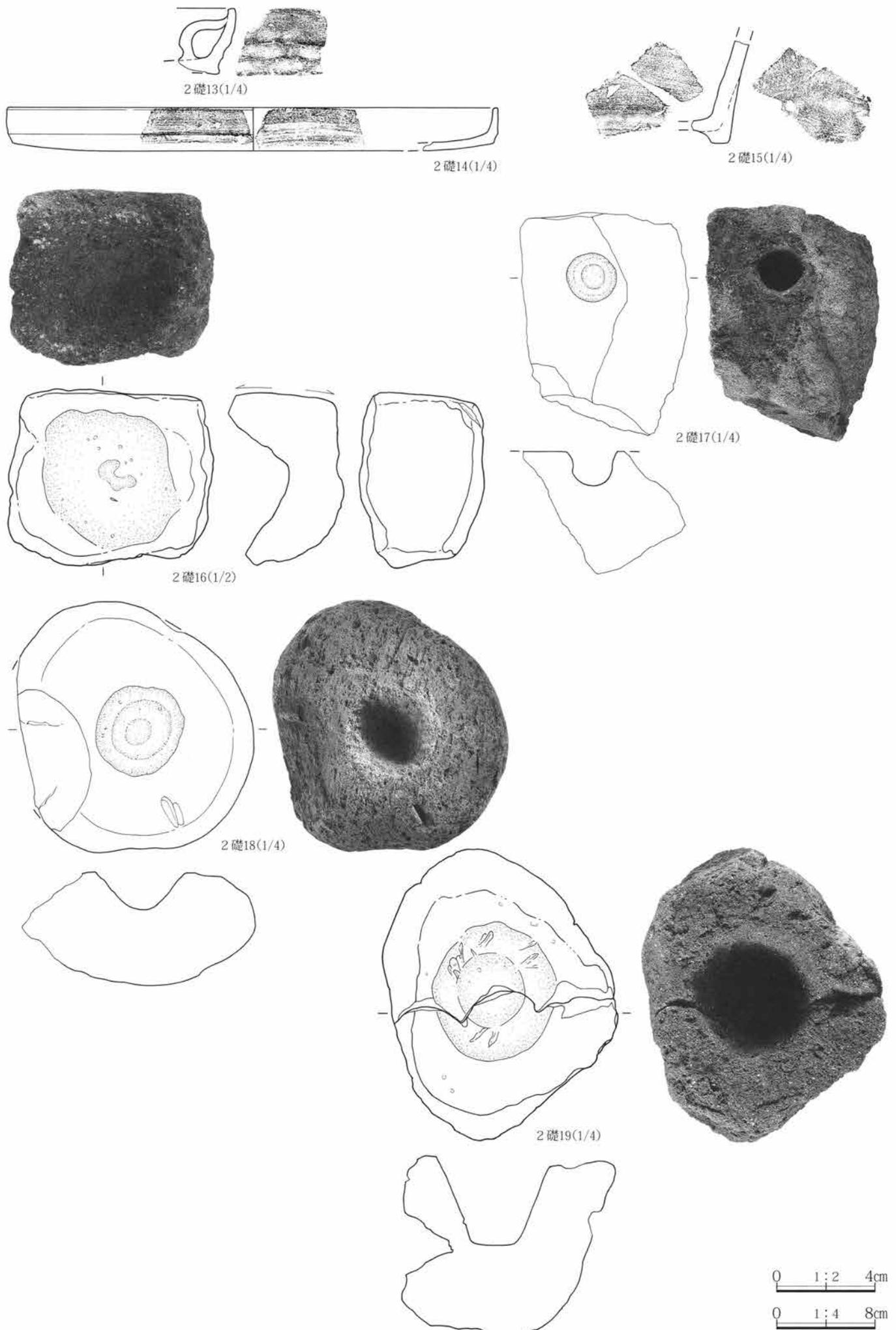
Ⅲ区1号礎石



Ⅲ区2号礎石

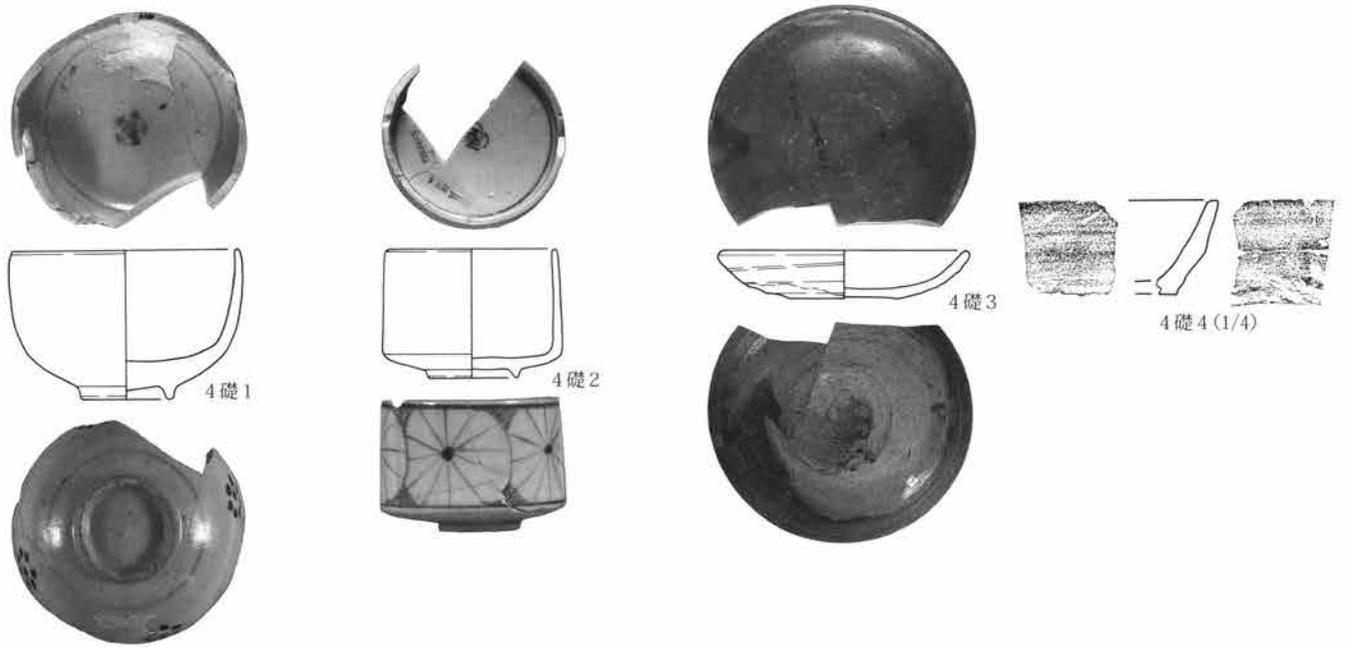


第82図 Ⅲ区6号ピット、1号礎石出土遺物、2号礎石出土遺物(1)

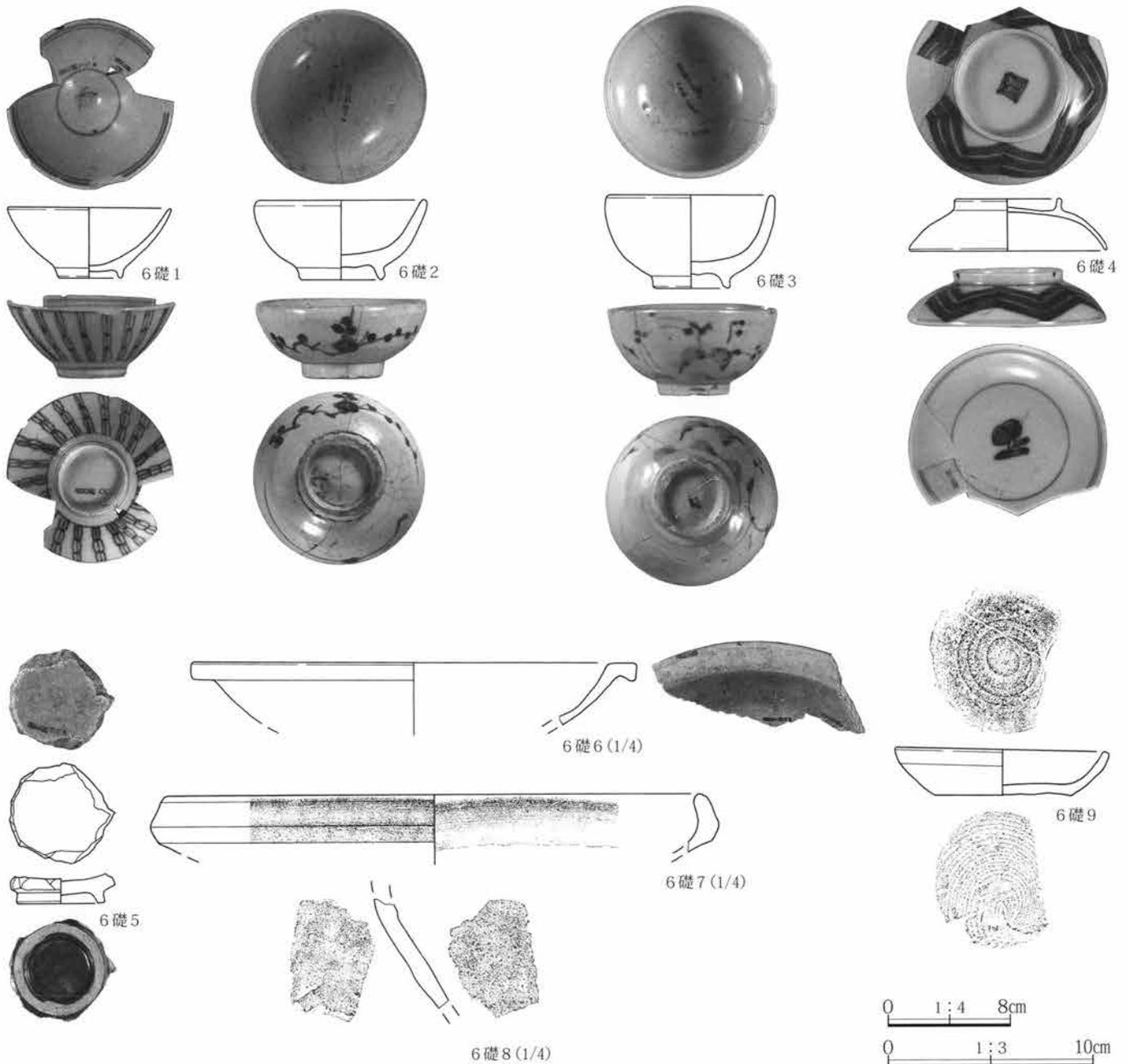


第83图 Ⅲ区2号礎石出土遺物(2)

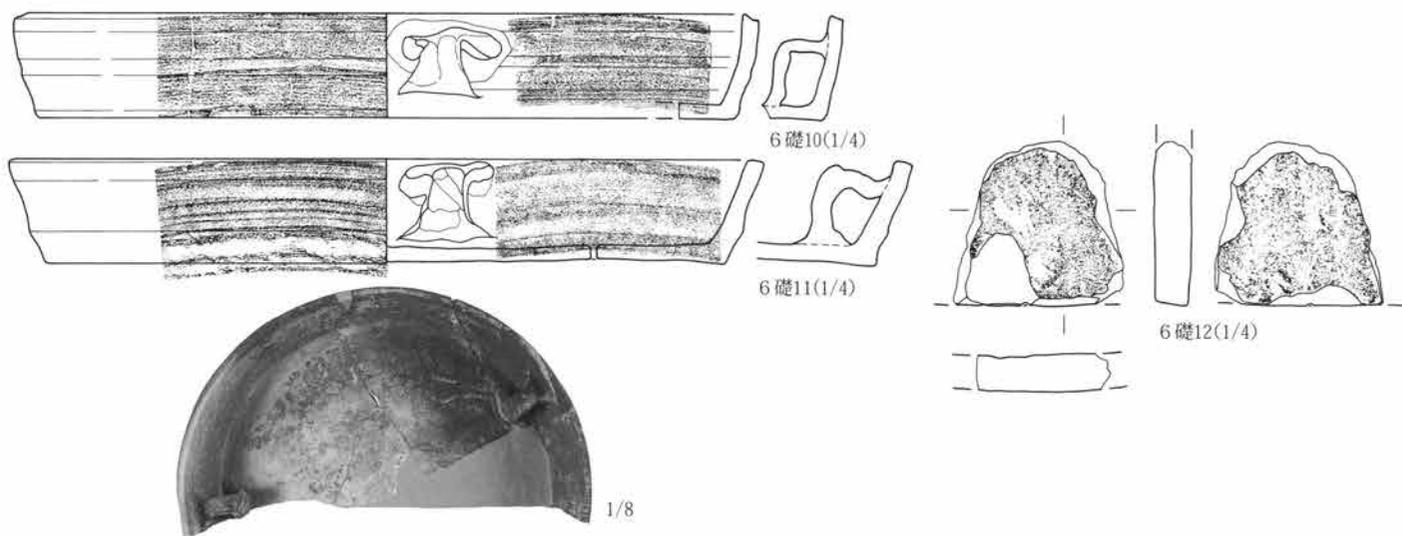
Ⅲ区4号礎石



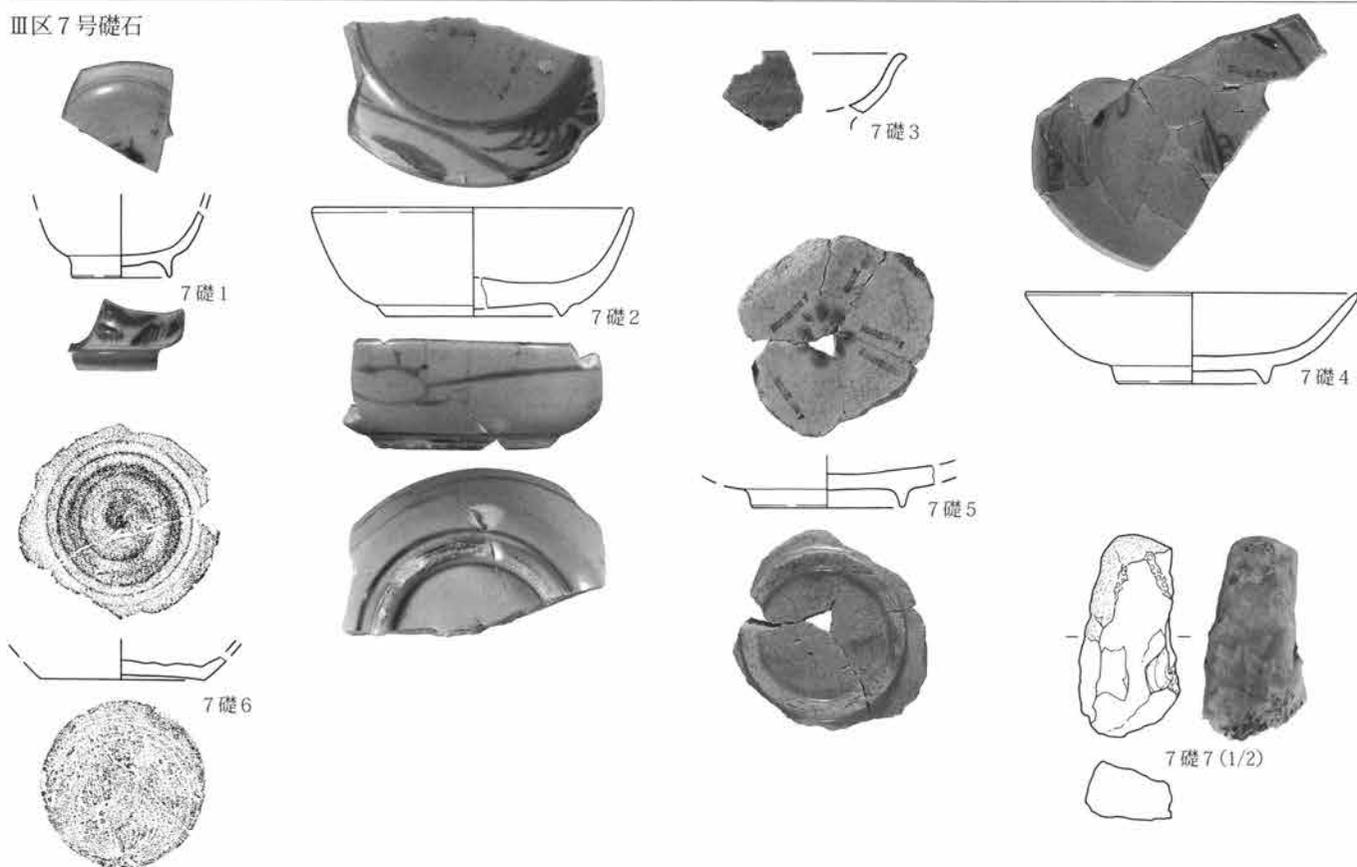
Ⅲ区6号礎石



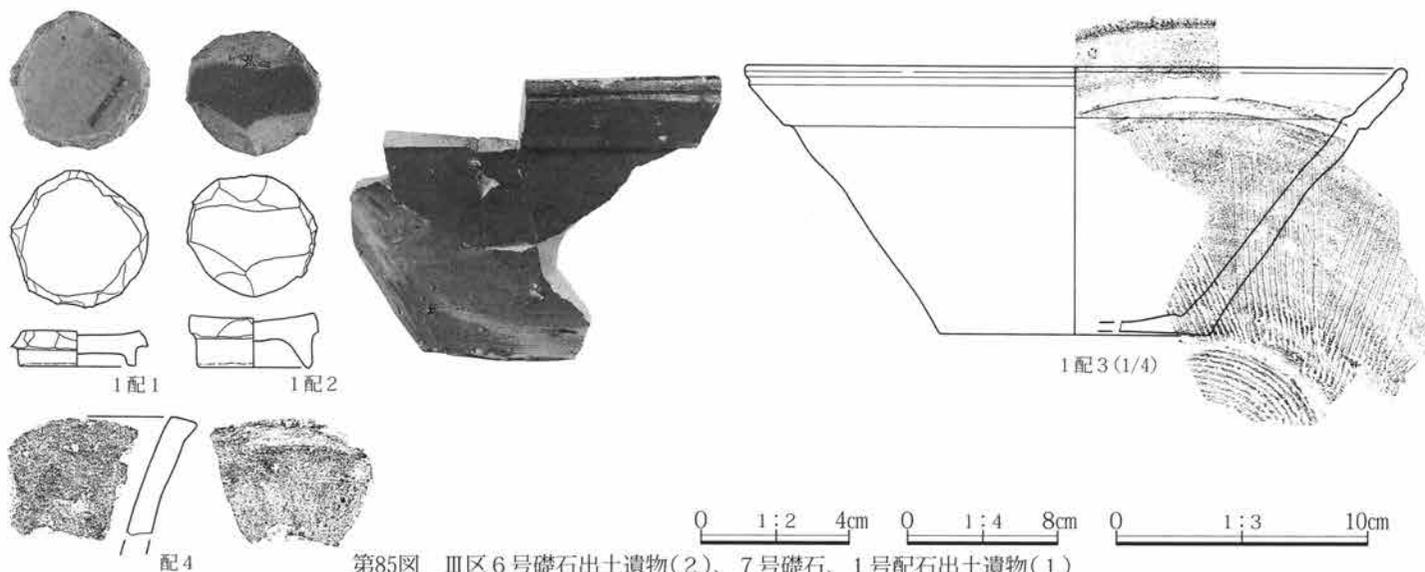
第84图 Ⅲ区4号礎石出土遺物、6号礎石出土遺物(1)



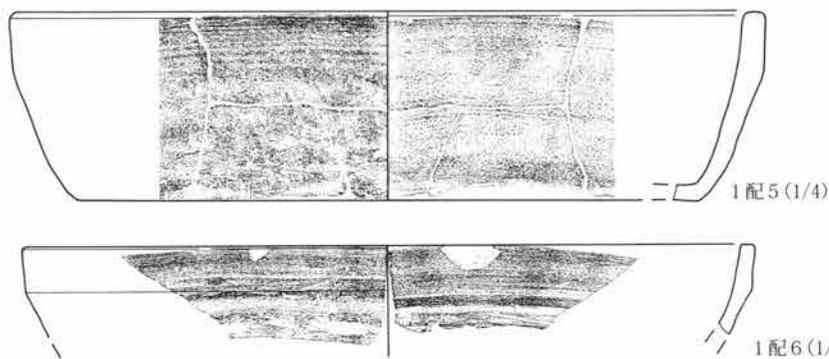
Ⅲ区7号礎石



Ⅲ区1号配石



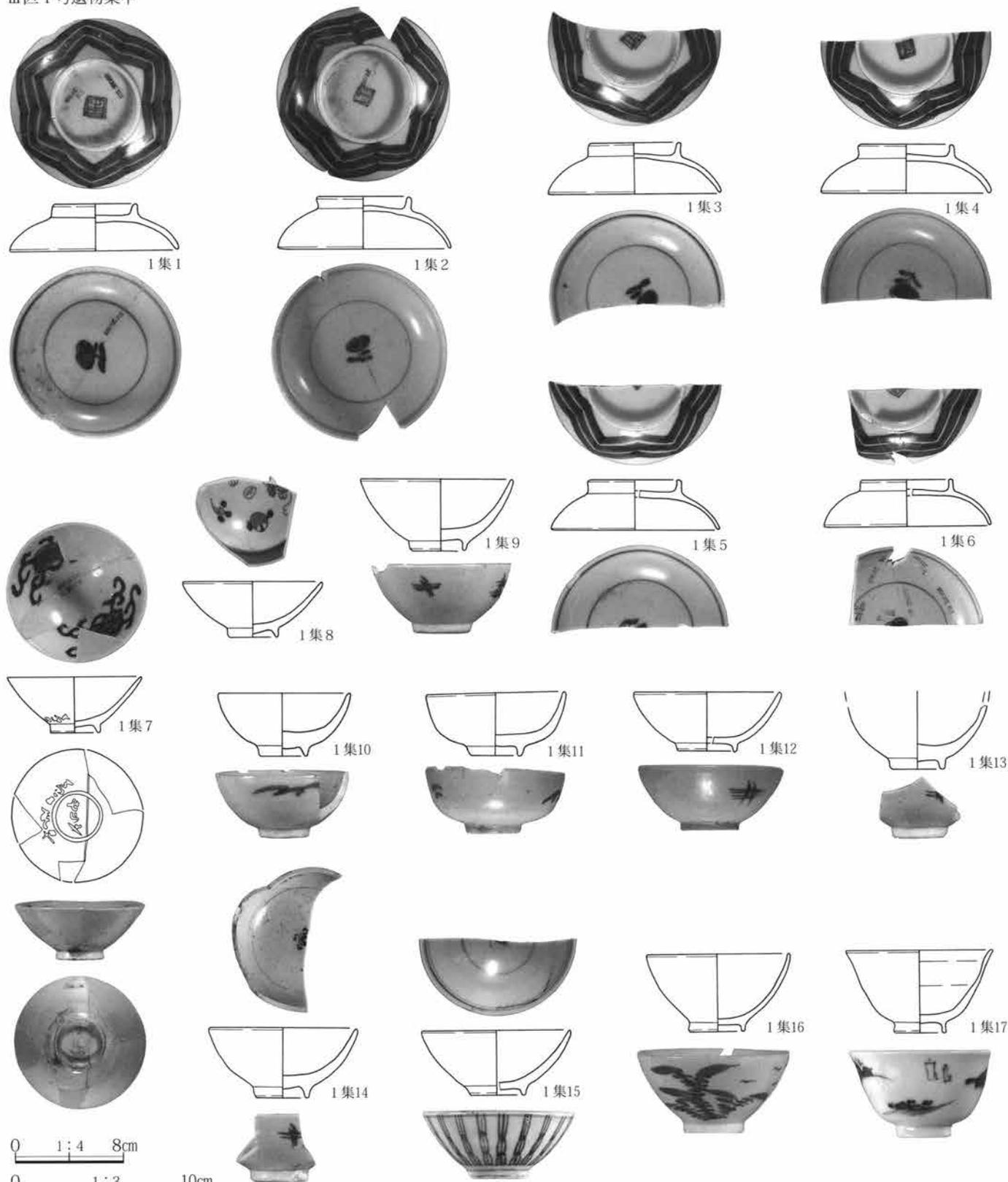
第85图 Ⅲ区6号礎石出土遺物(2)、7号礎石、1号配石出土遺物(1)



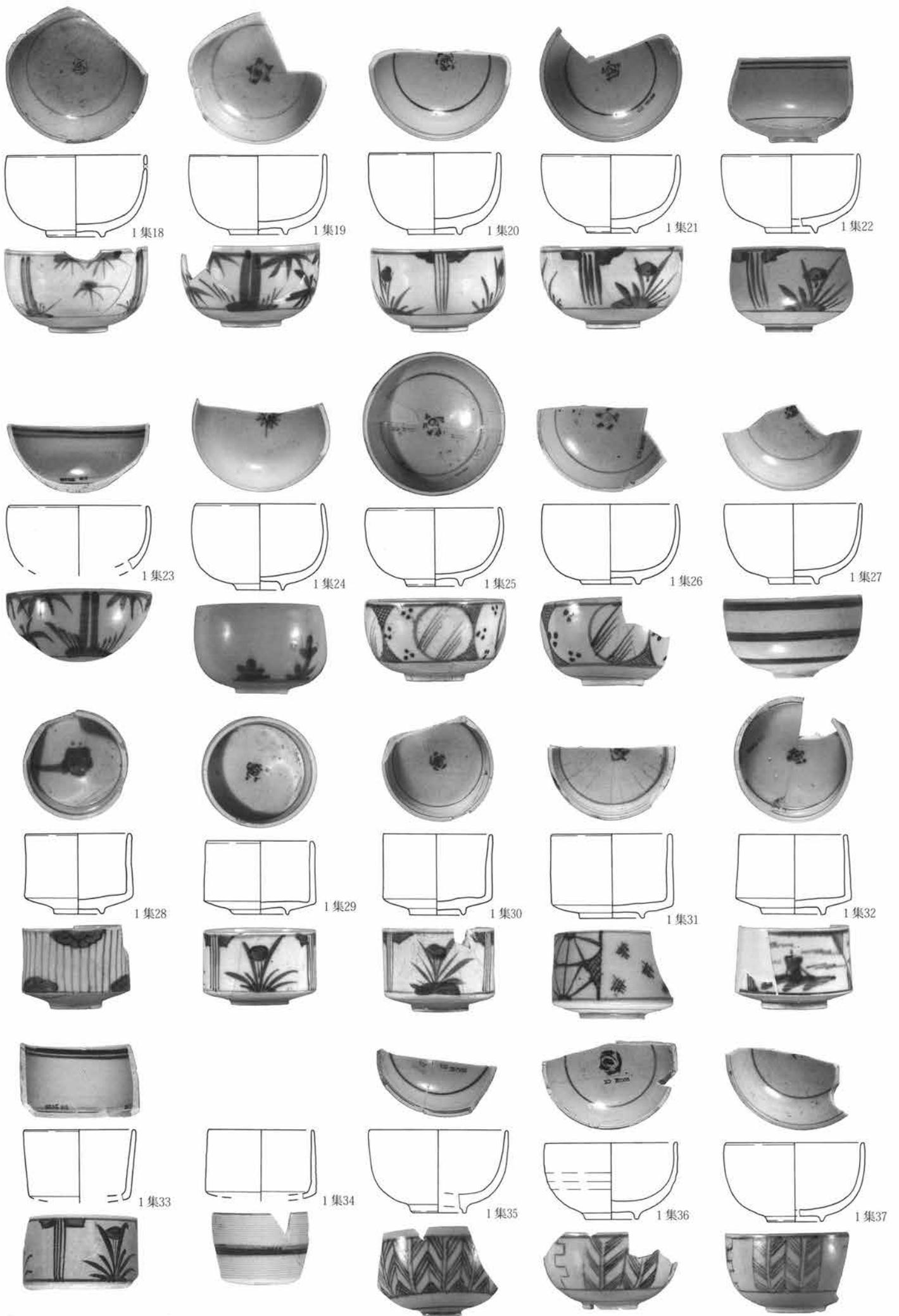
Ⅲ区2号配石



Ⅲ区1号遺物集中

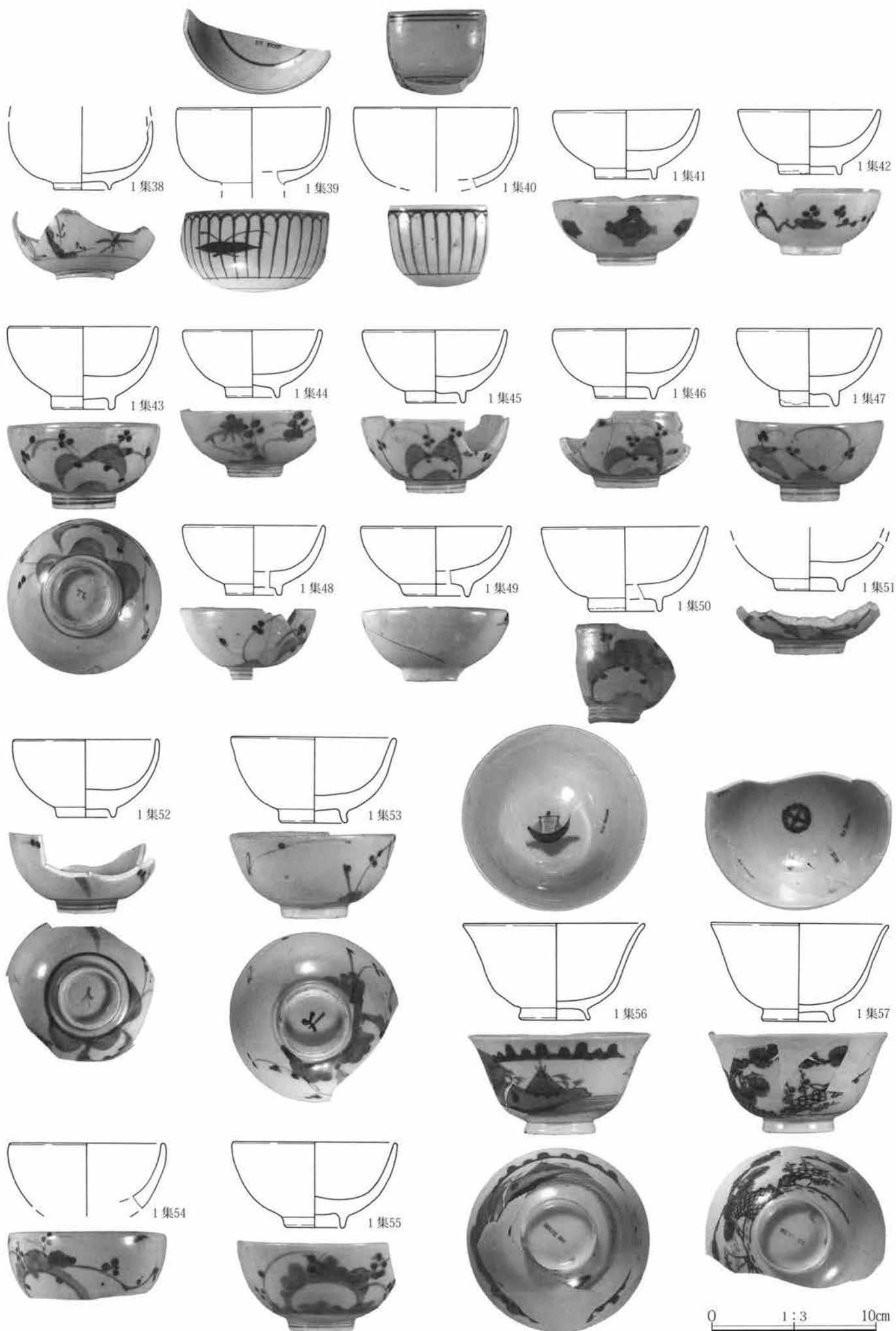


第86图 Ⅲ区1号配石出土遺物(2)、2号配石出土遺物、1号遺物集中箇所出土遺物(1)

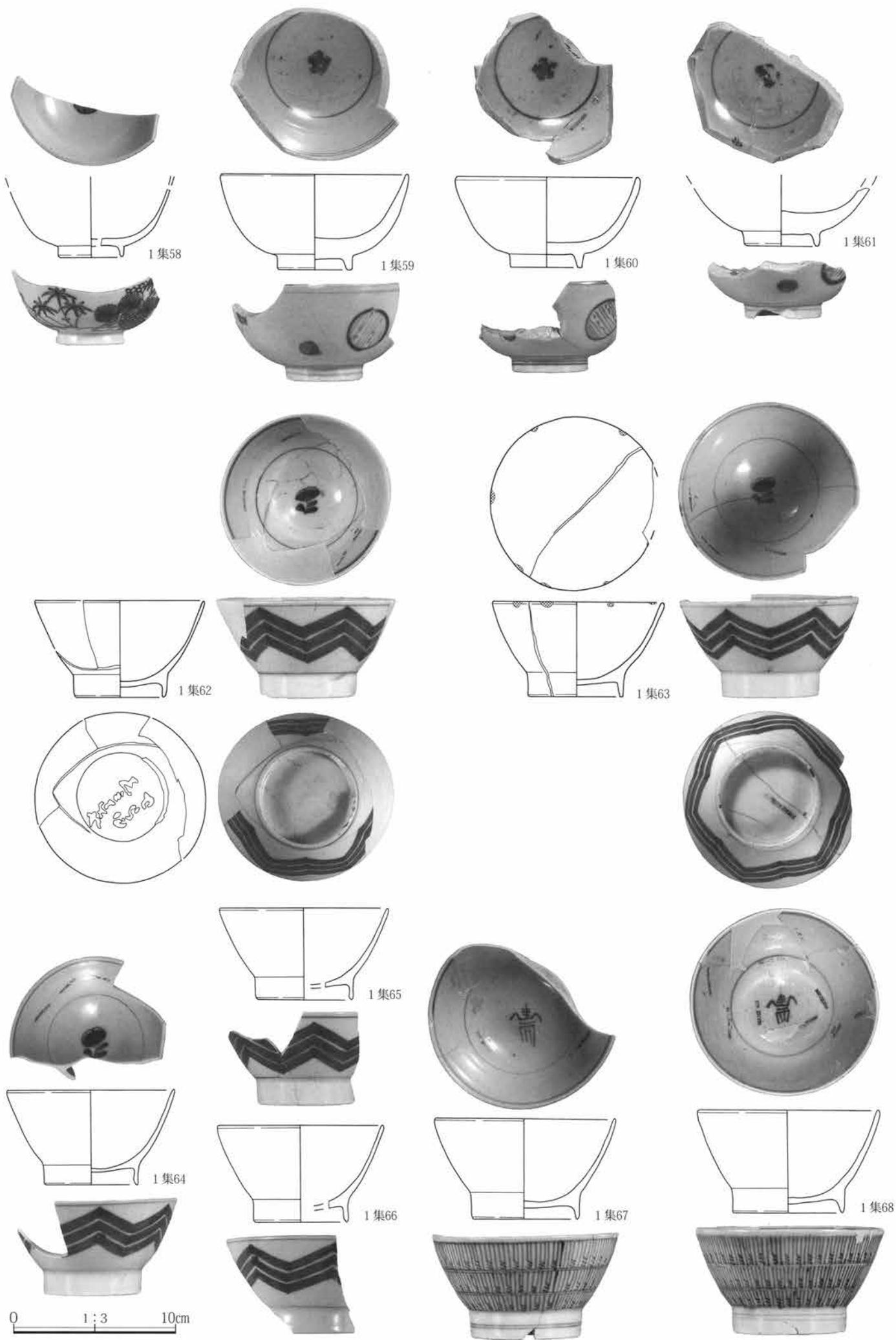


0 1:3 10cm

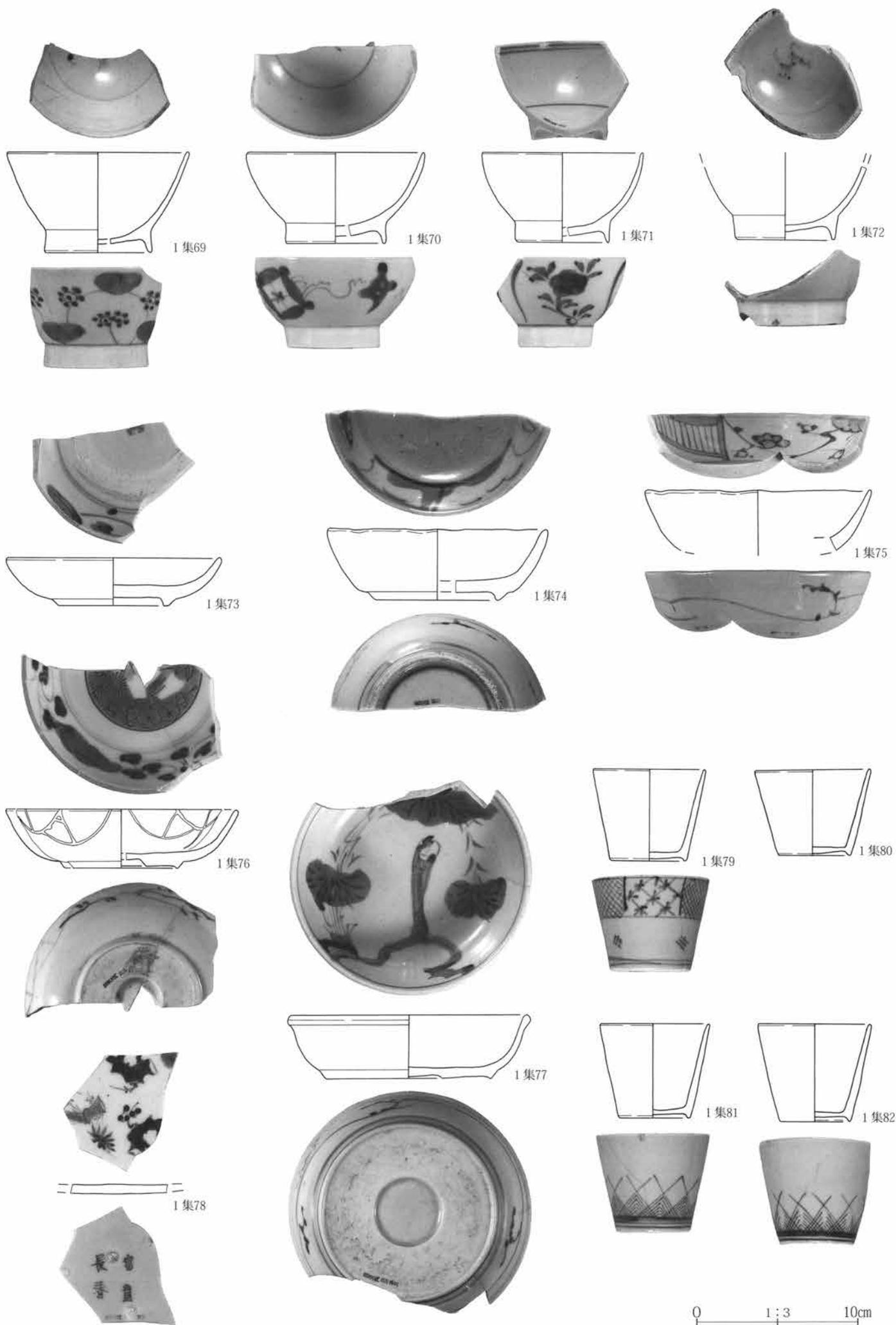
第87图 Ⅲ区1号遗物集中箇所出土遗物(2)



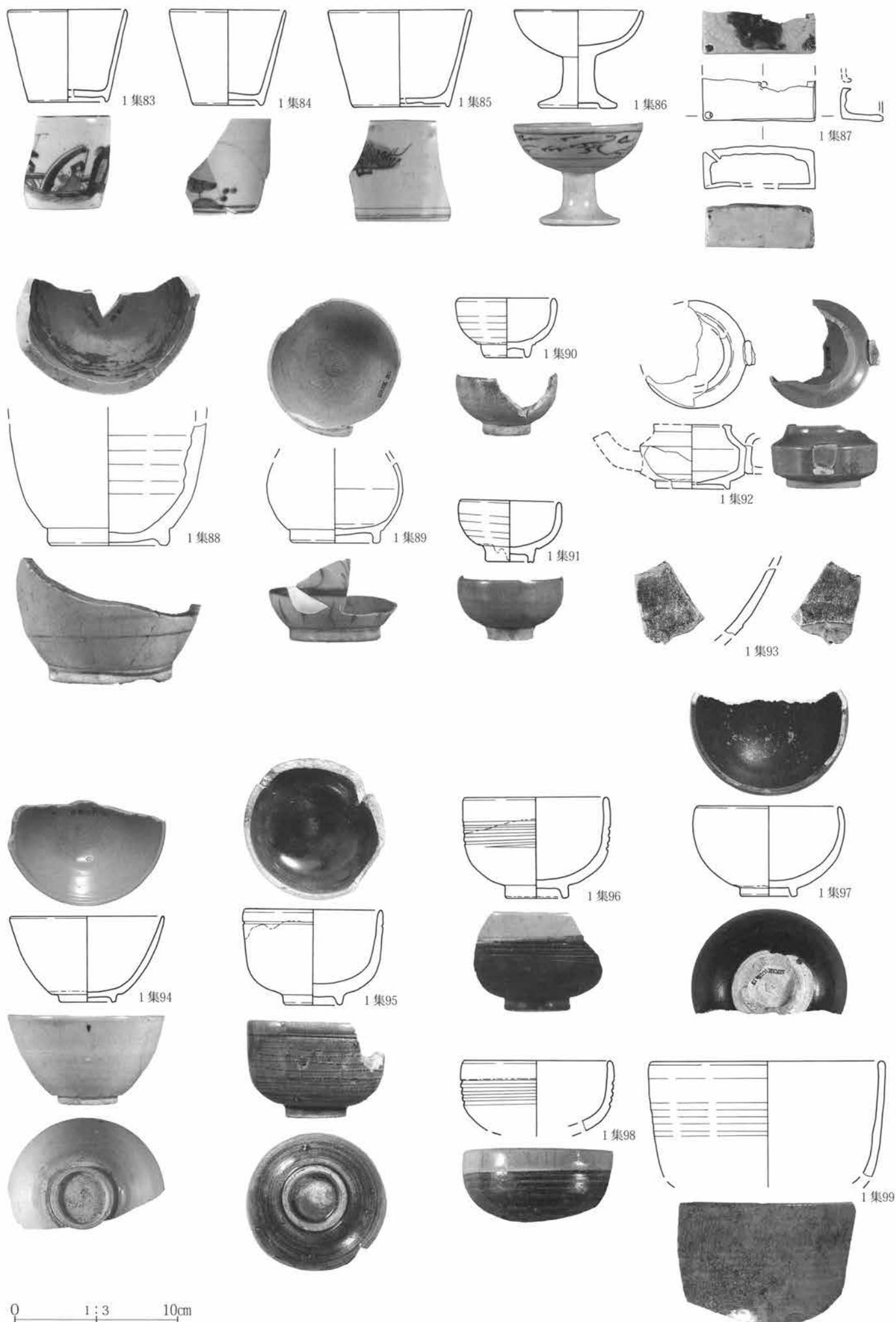
第88图 Ⅲ区1号遺物集中箇所出土遺物(3)



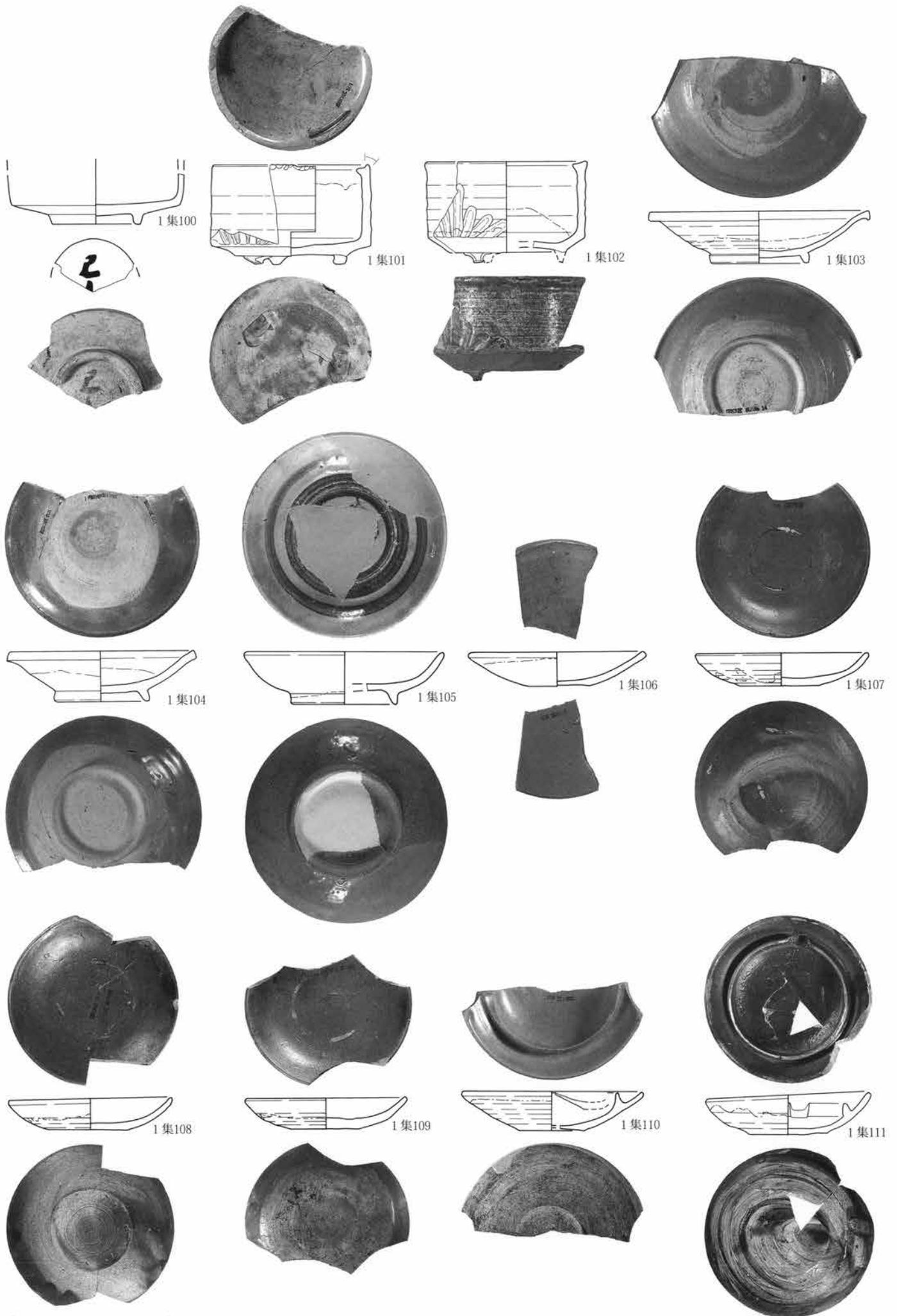
第89图 Ⅲ区1号遗物集中筒所出土遗物(4)



第90図 Ⅲ区1号遺物集中箇所出土遺物(5)

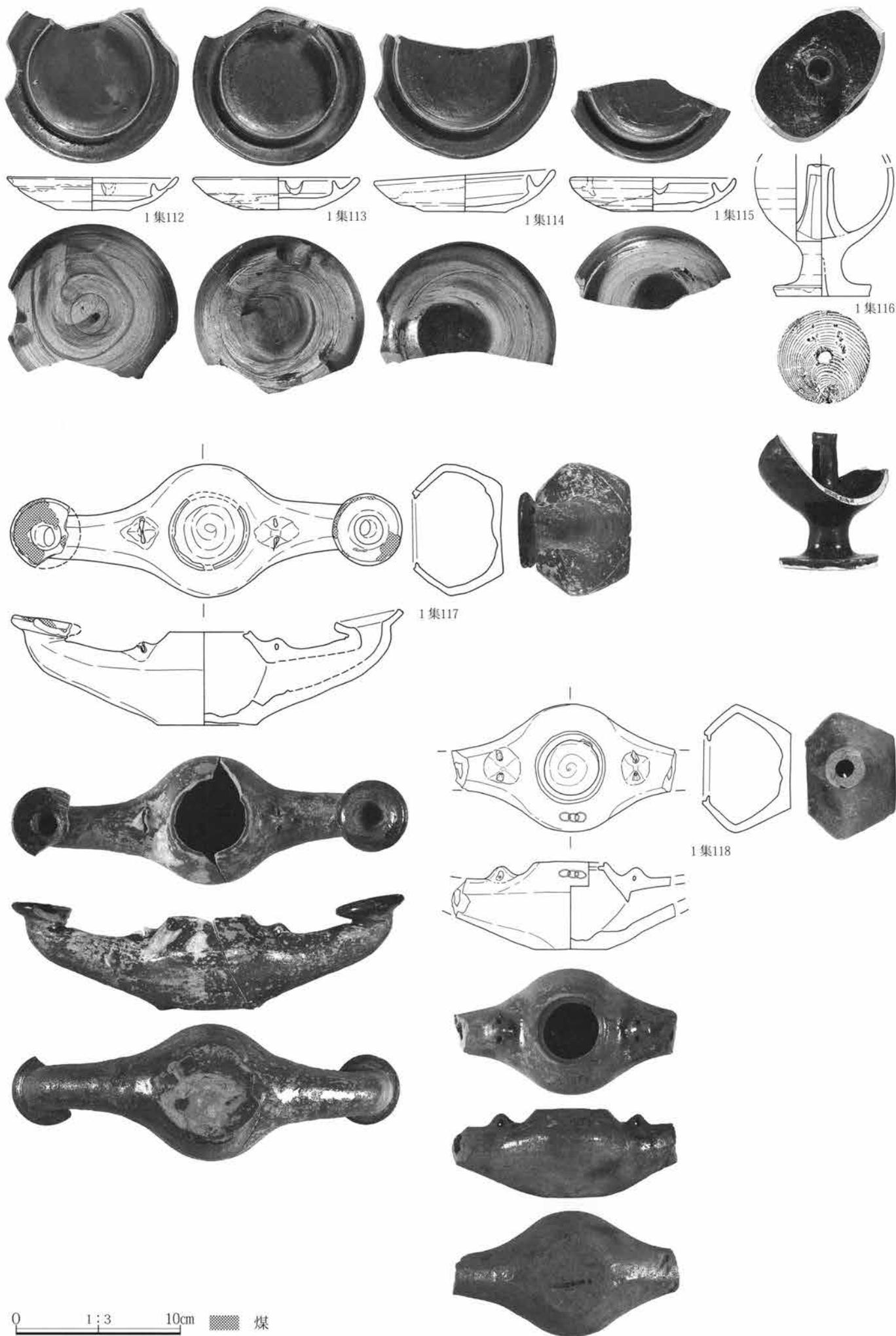


第91图 Ⅲ区1号遗物集中箇所出土遺物(6)

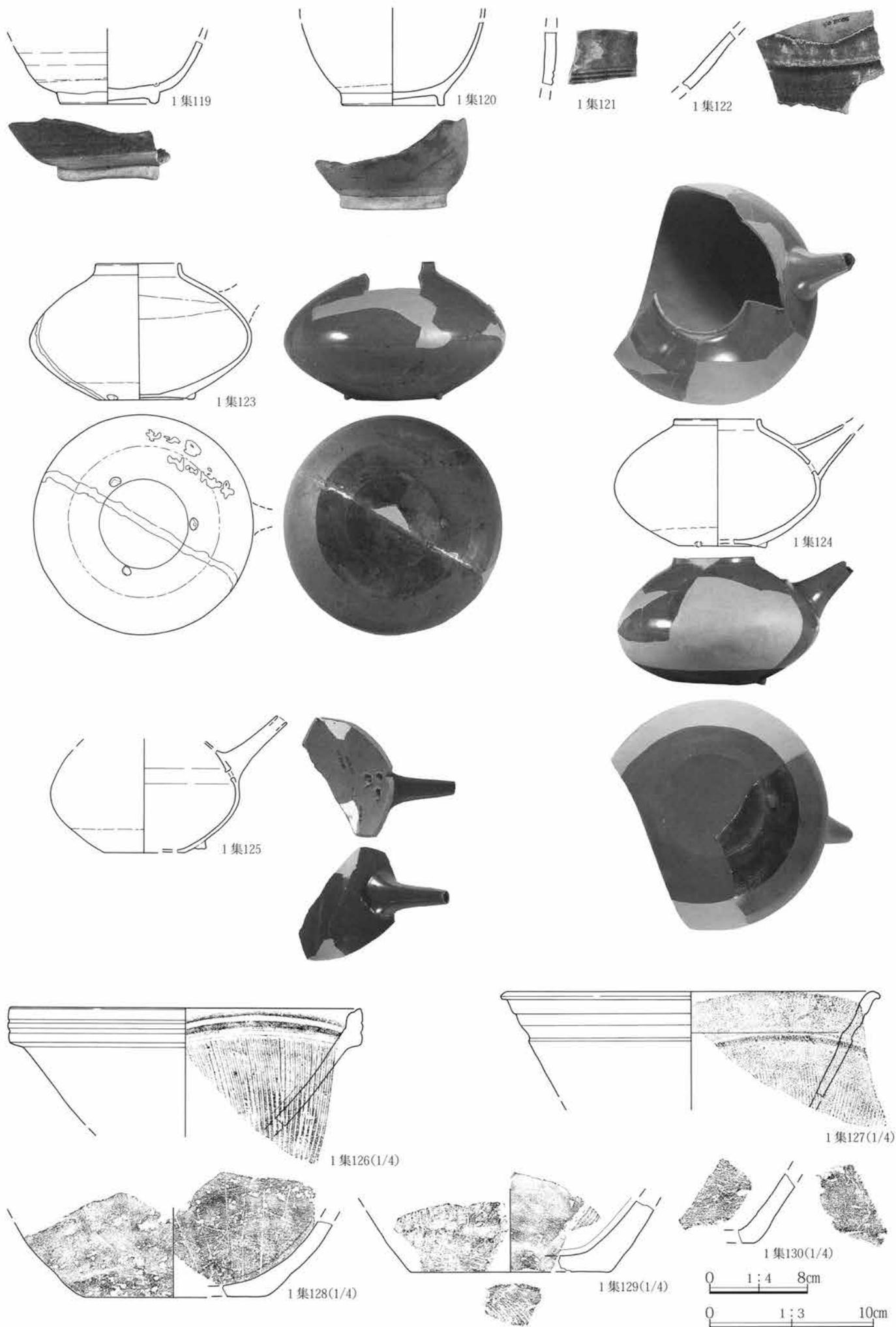


0 1:3 10cm

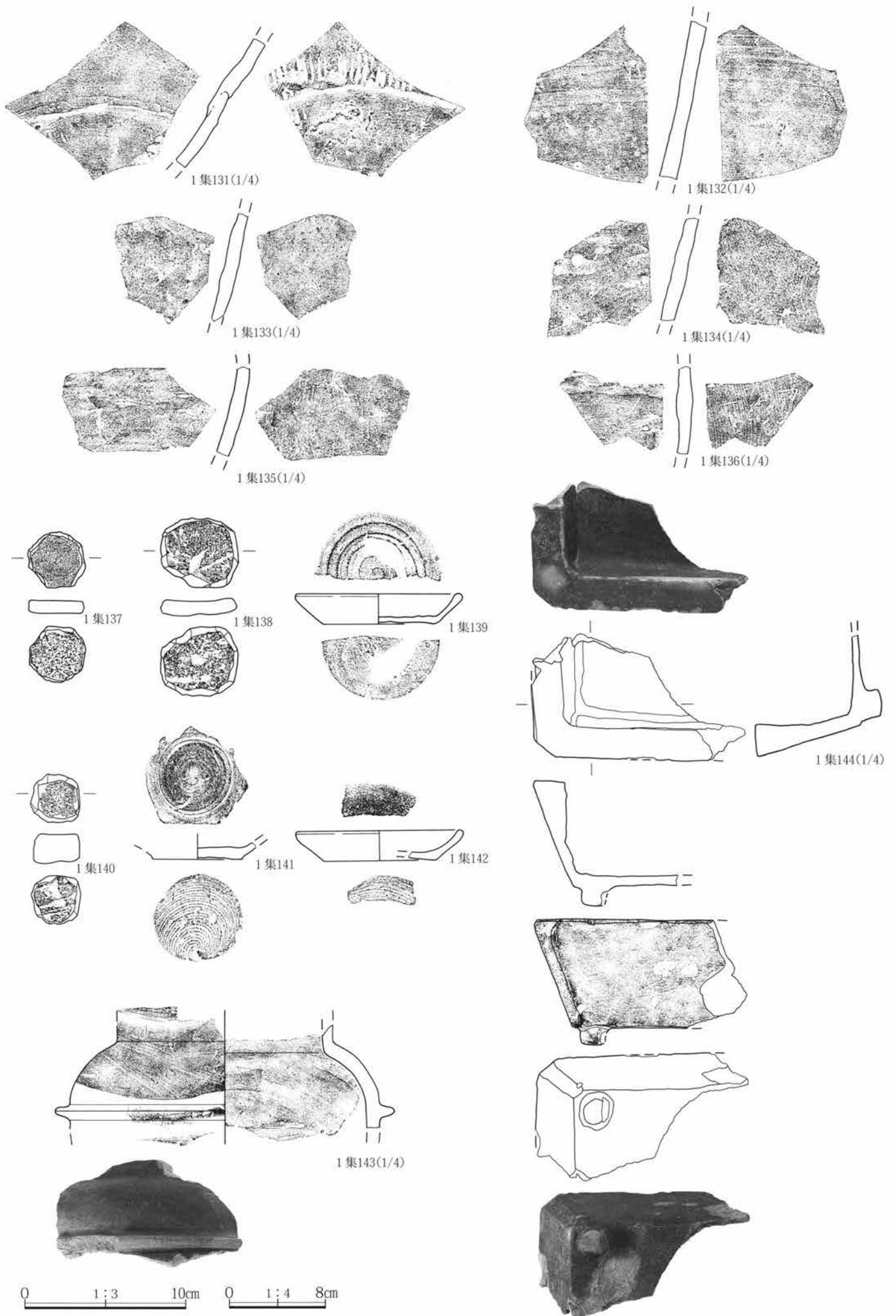
第92图 Ⅲ区1号遗物集中箇所出土遗物(7)



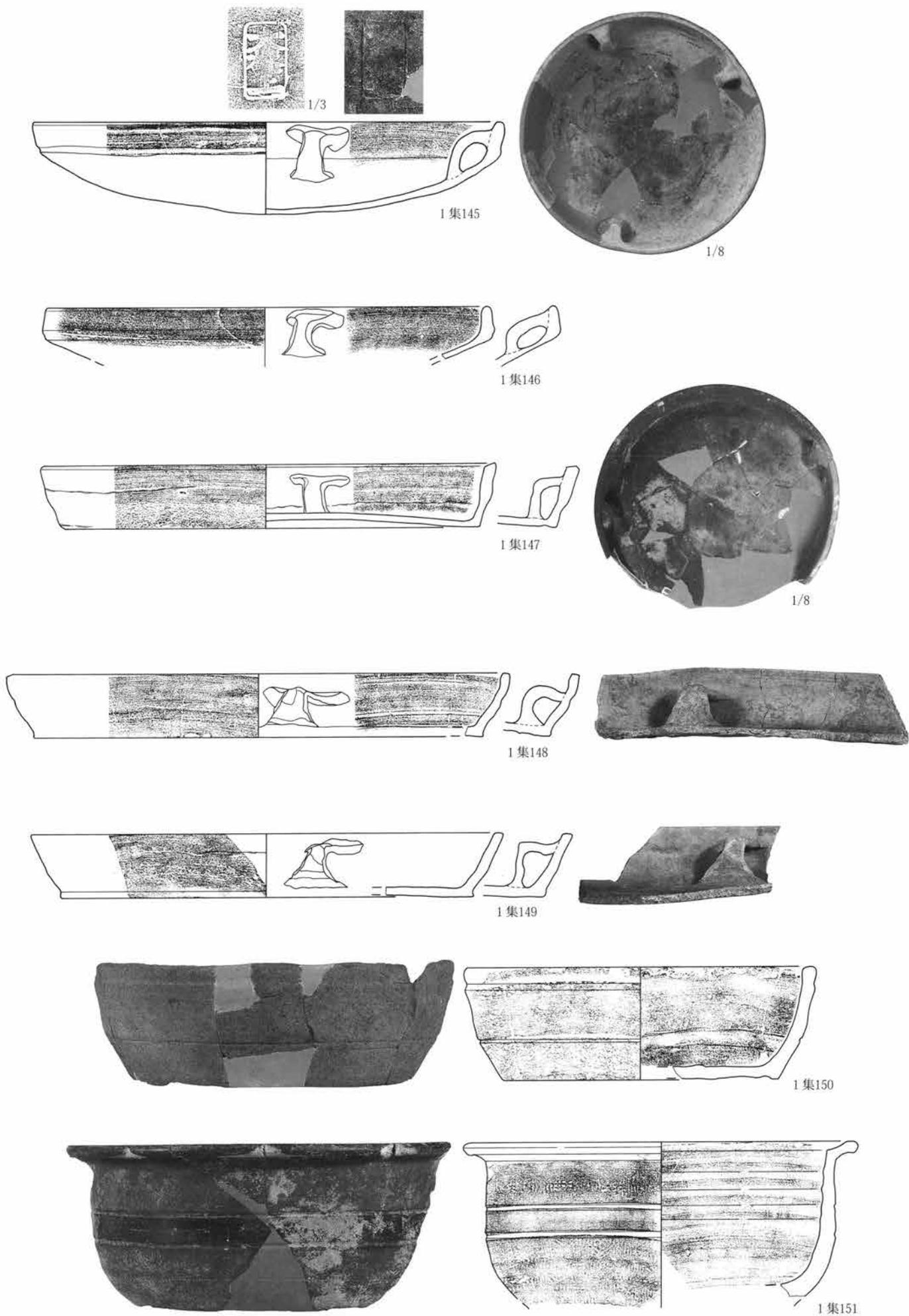
第93图 Ⅲ区1号遗物集中筒所出土遗物(8)



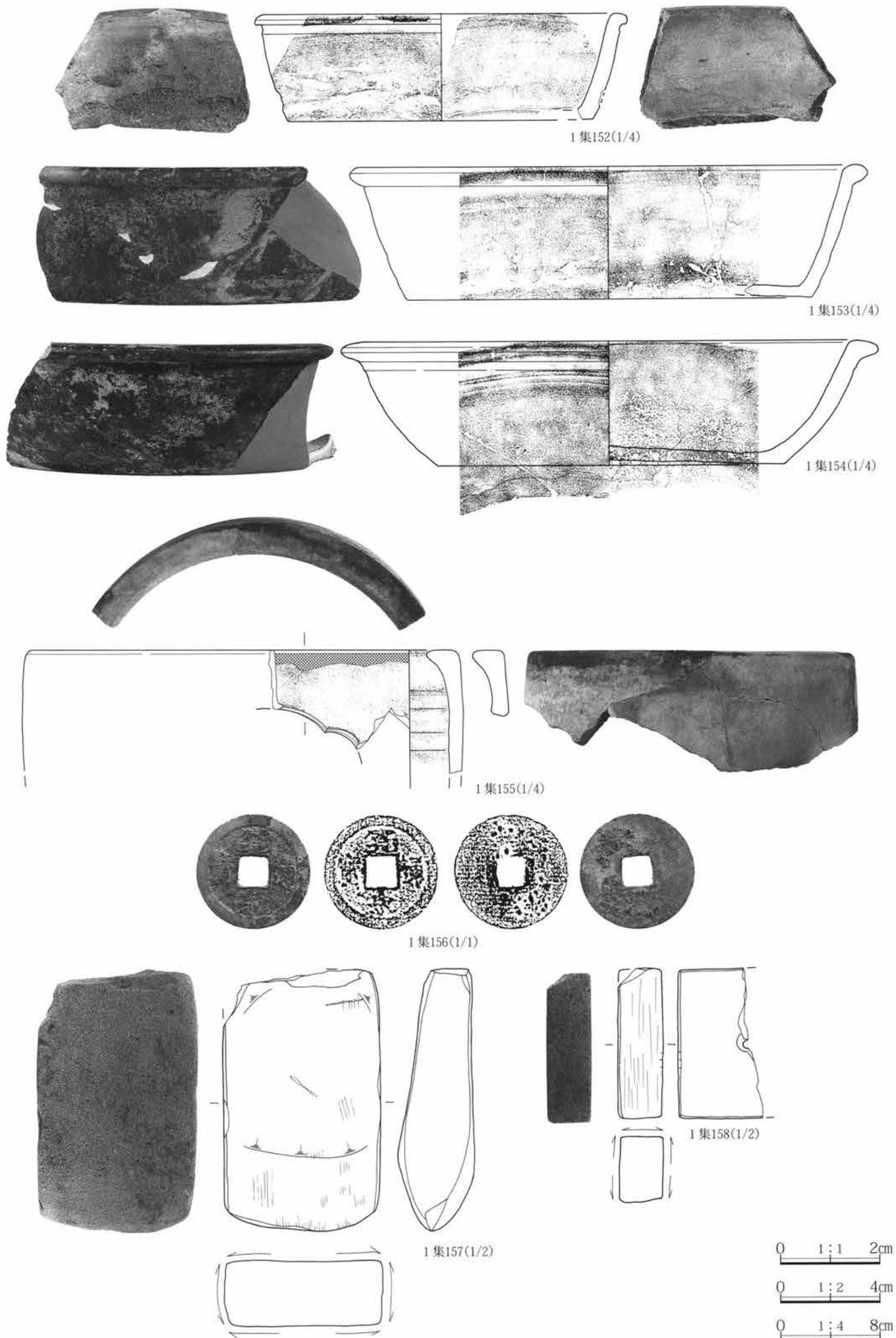
第94图 Ⅲ区1号遺物集中箇所出土遺物(9)



第95图 Ⅲ区1号遺物集中箇所出土遺物(10)

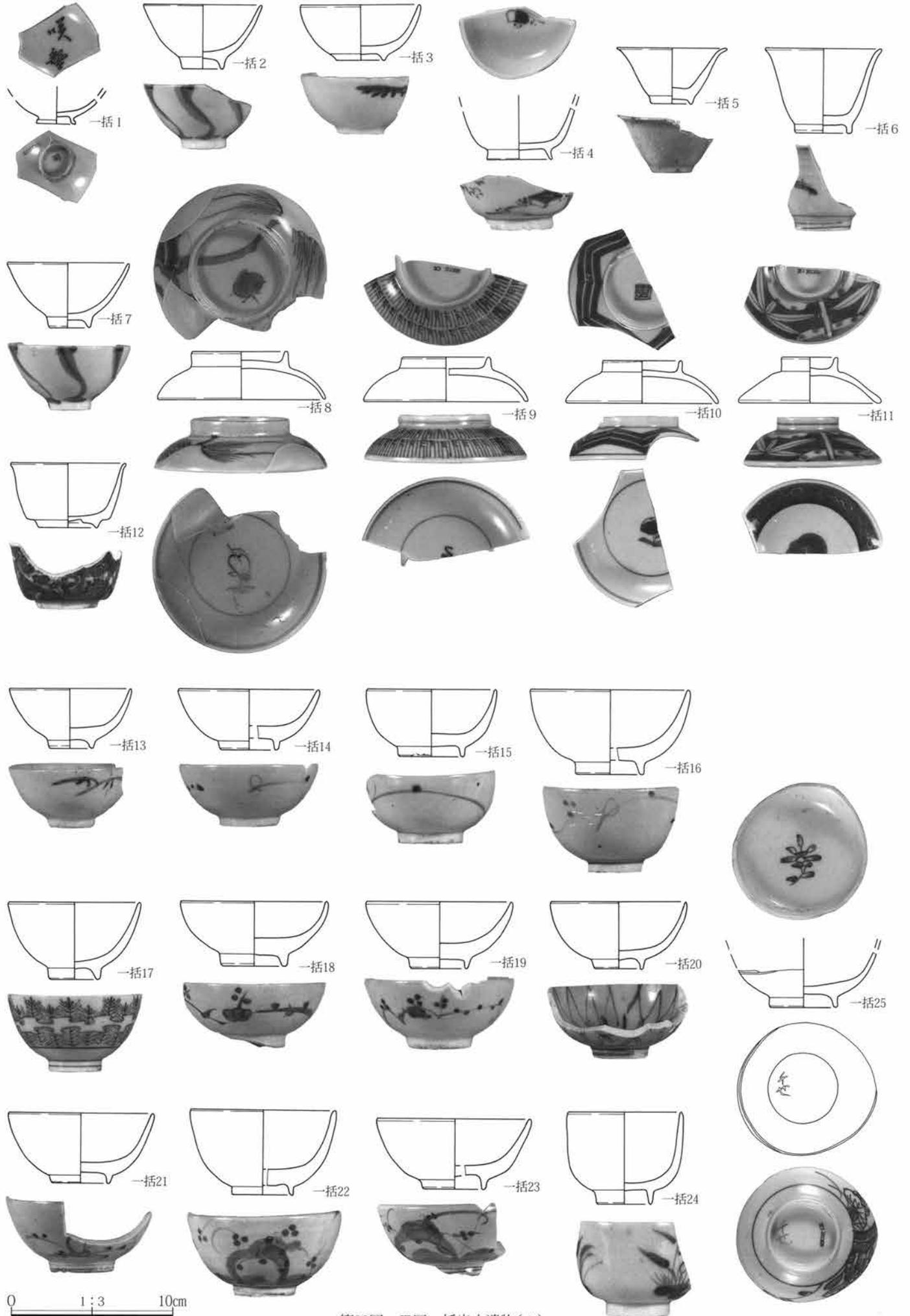


第96图 Ⅲ区1号遗物集中箇所出土遺物(11)

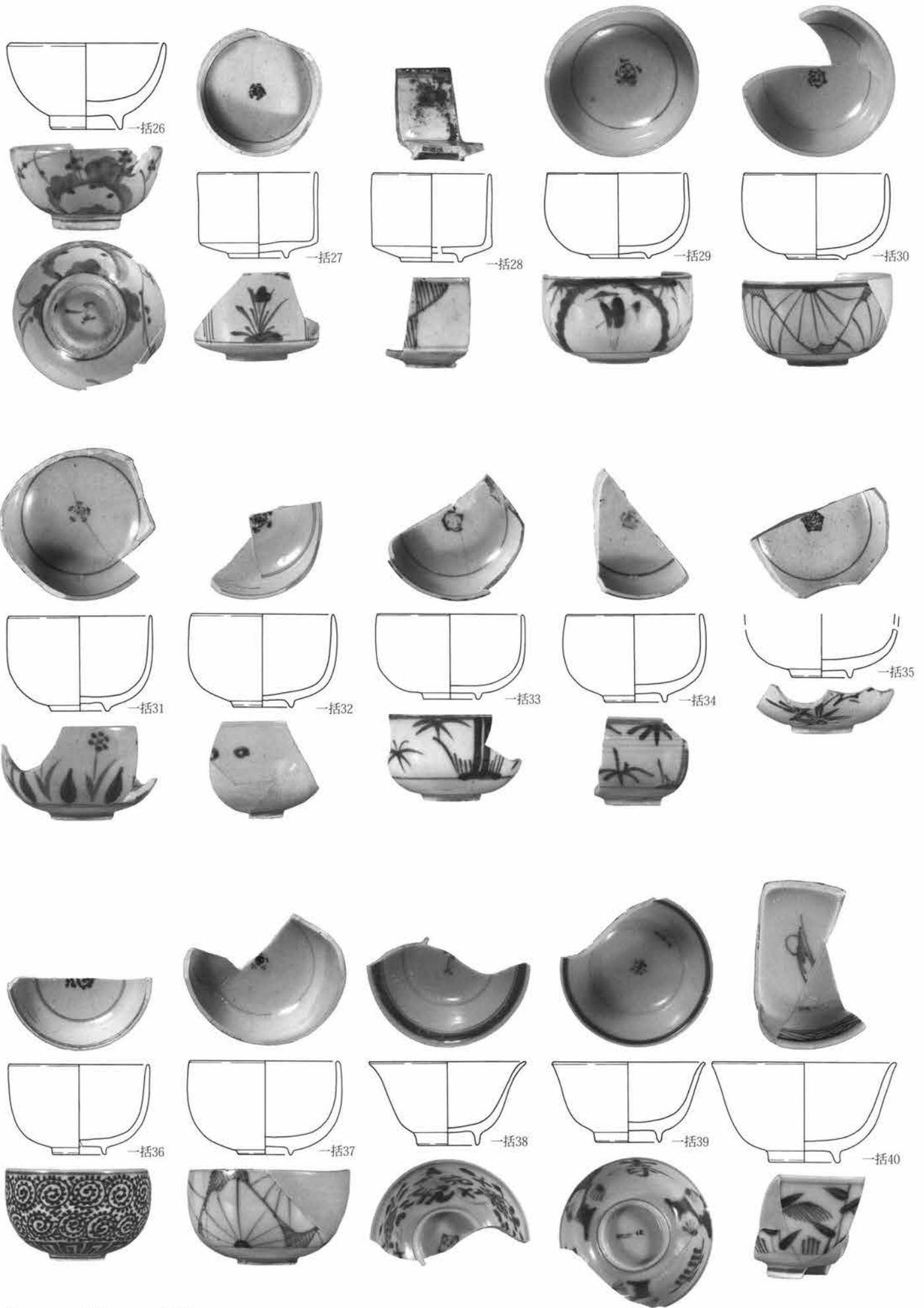


第97图 Ⅲ区1号遺物集中箇所出土遺物(12)

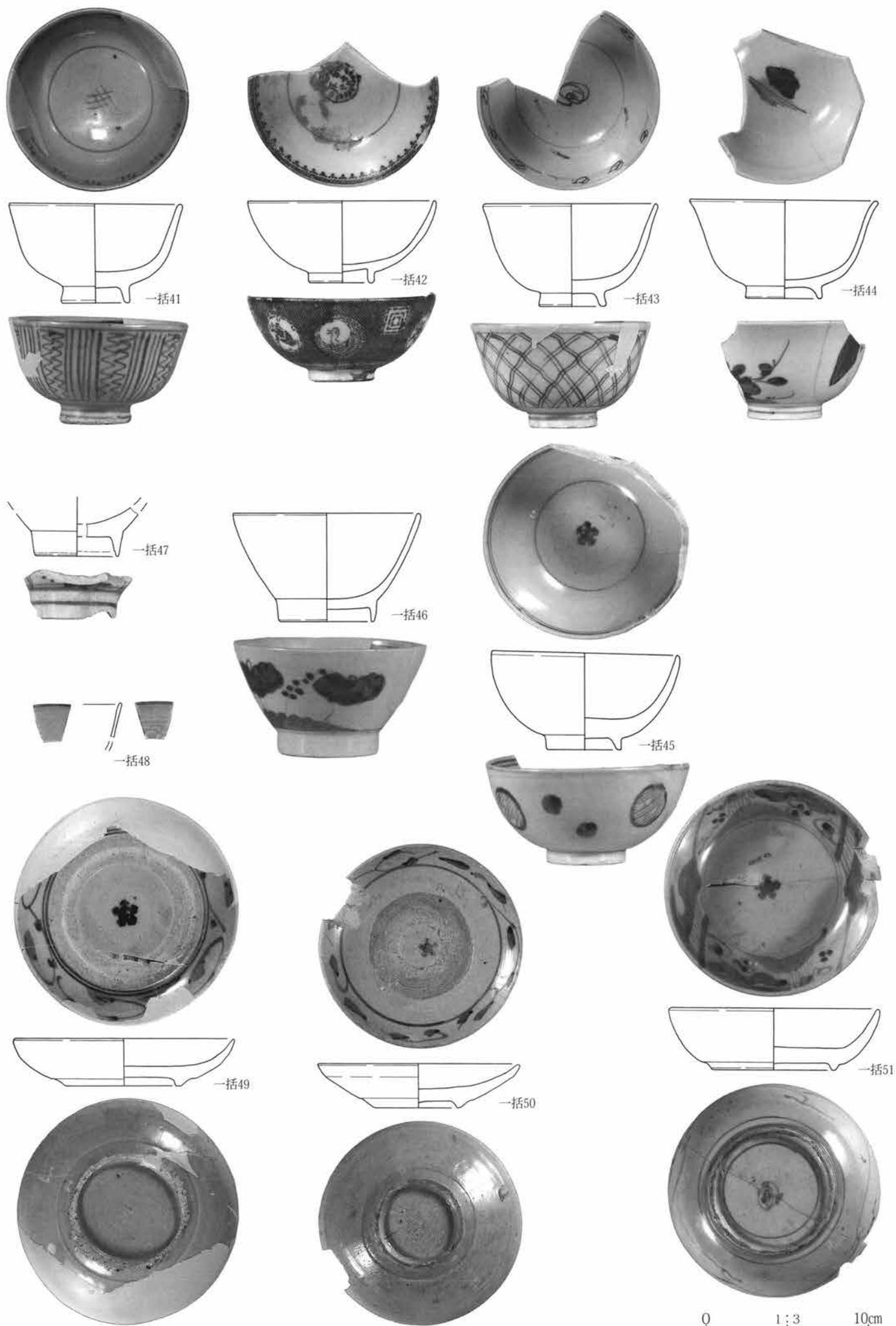
Ⅲ区一括



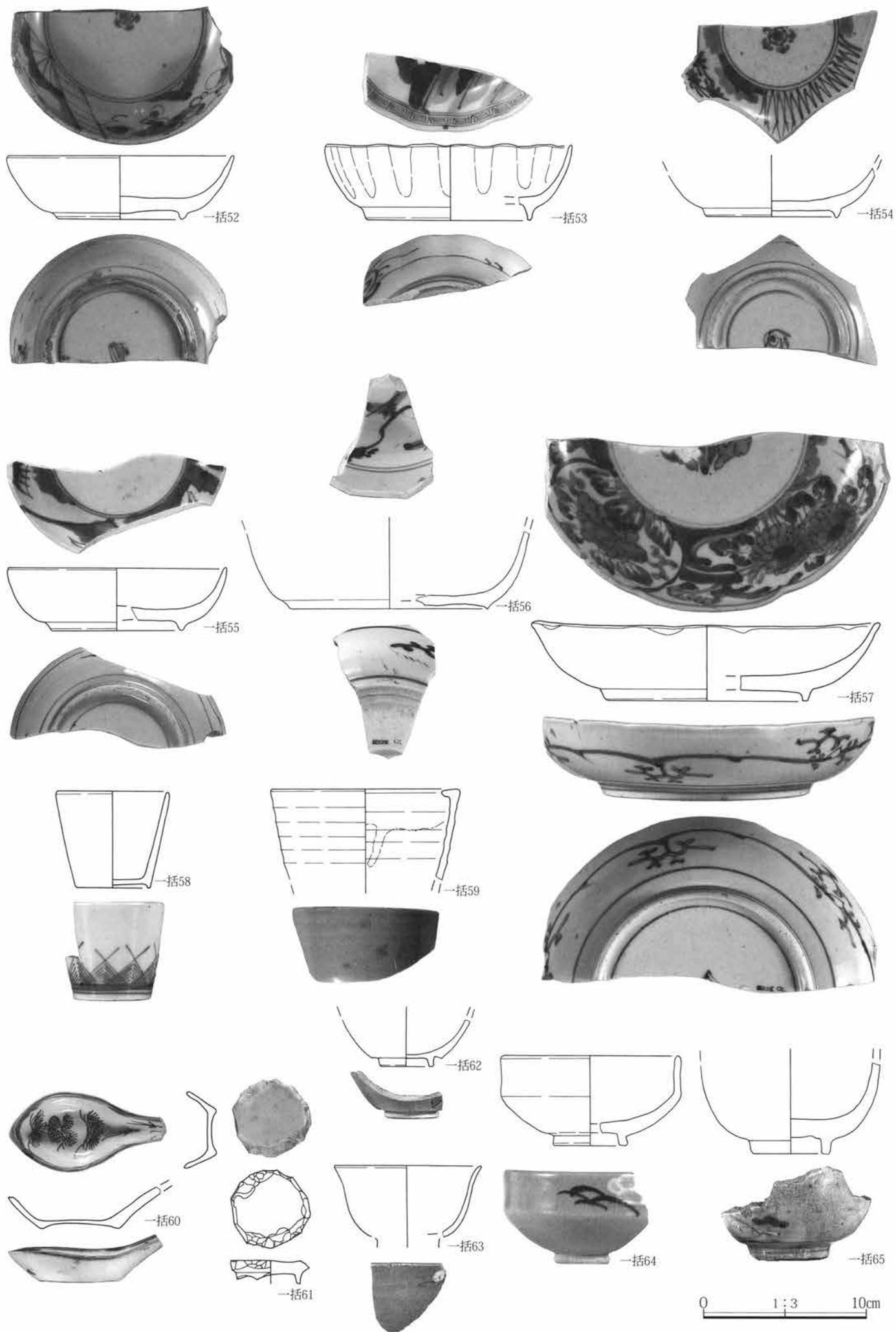
第98图 Ⅲ区一括出土遺物(1)



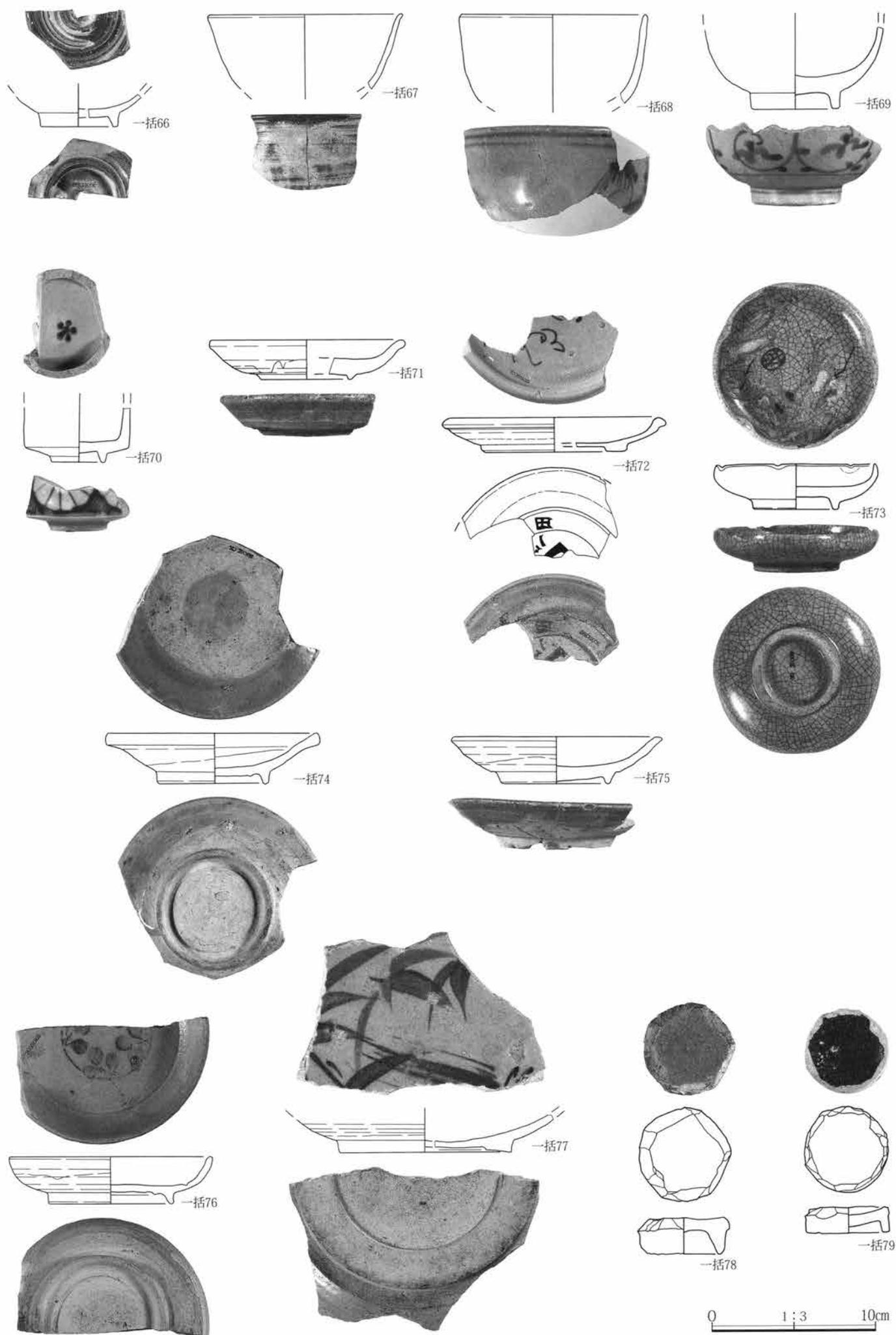
第99图 Ⅲ区一括出土遗物(2)



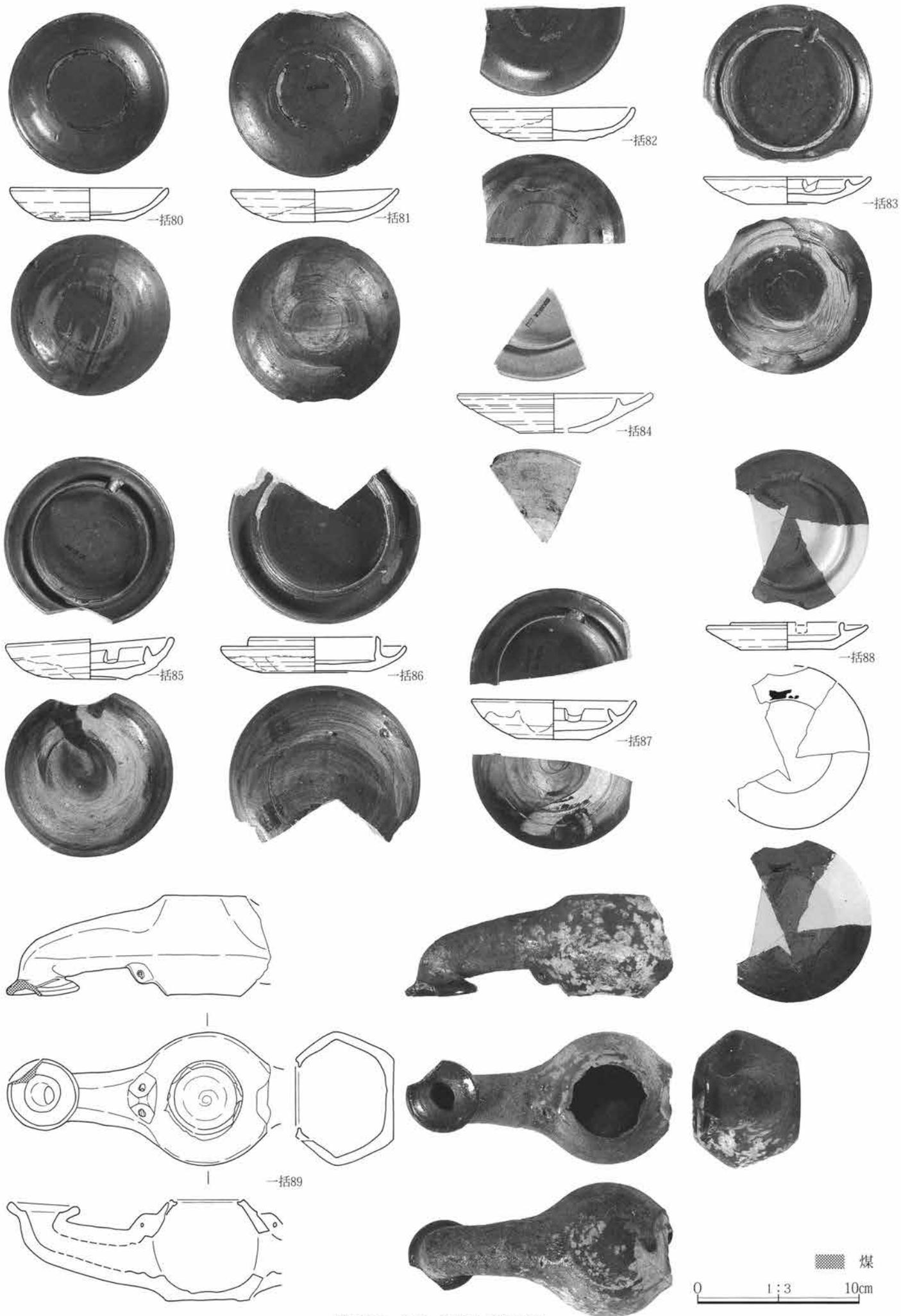
第100图 III区一括出土遺物(3)



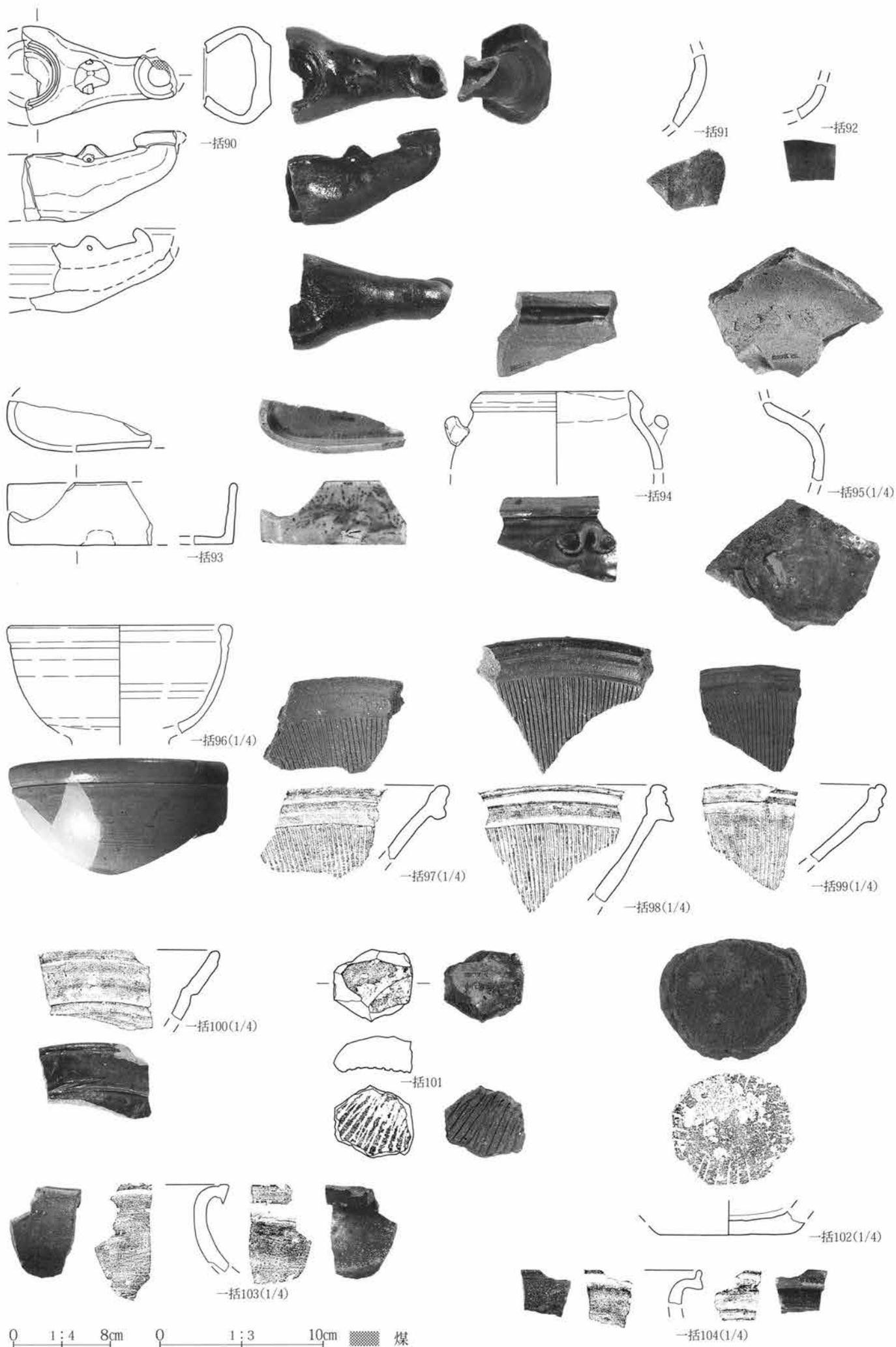
第101图 Ⅲ区一括出土遗物(4)



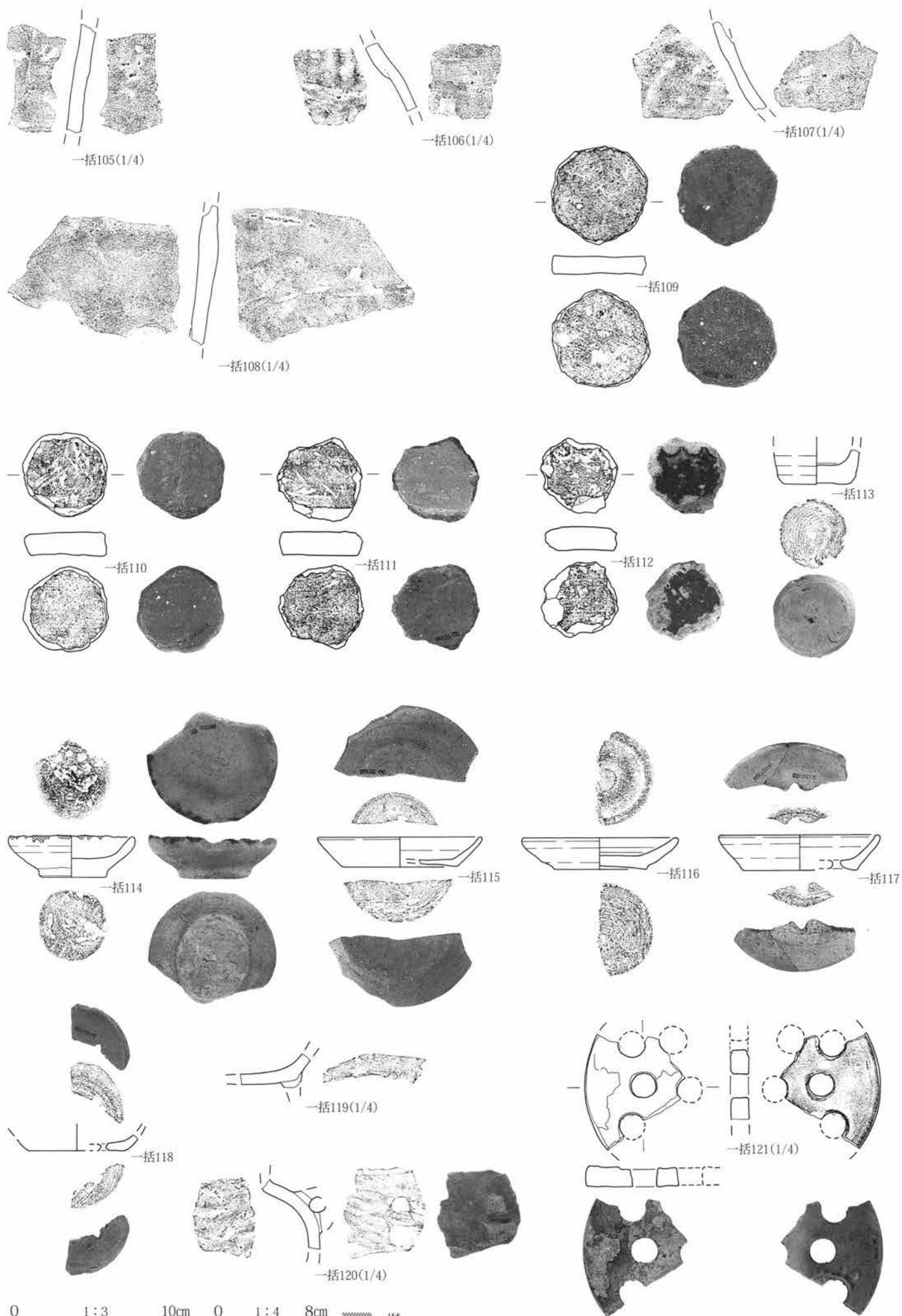
第102图 Ⅲ区一括出土遗物(5)



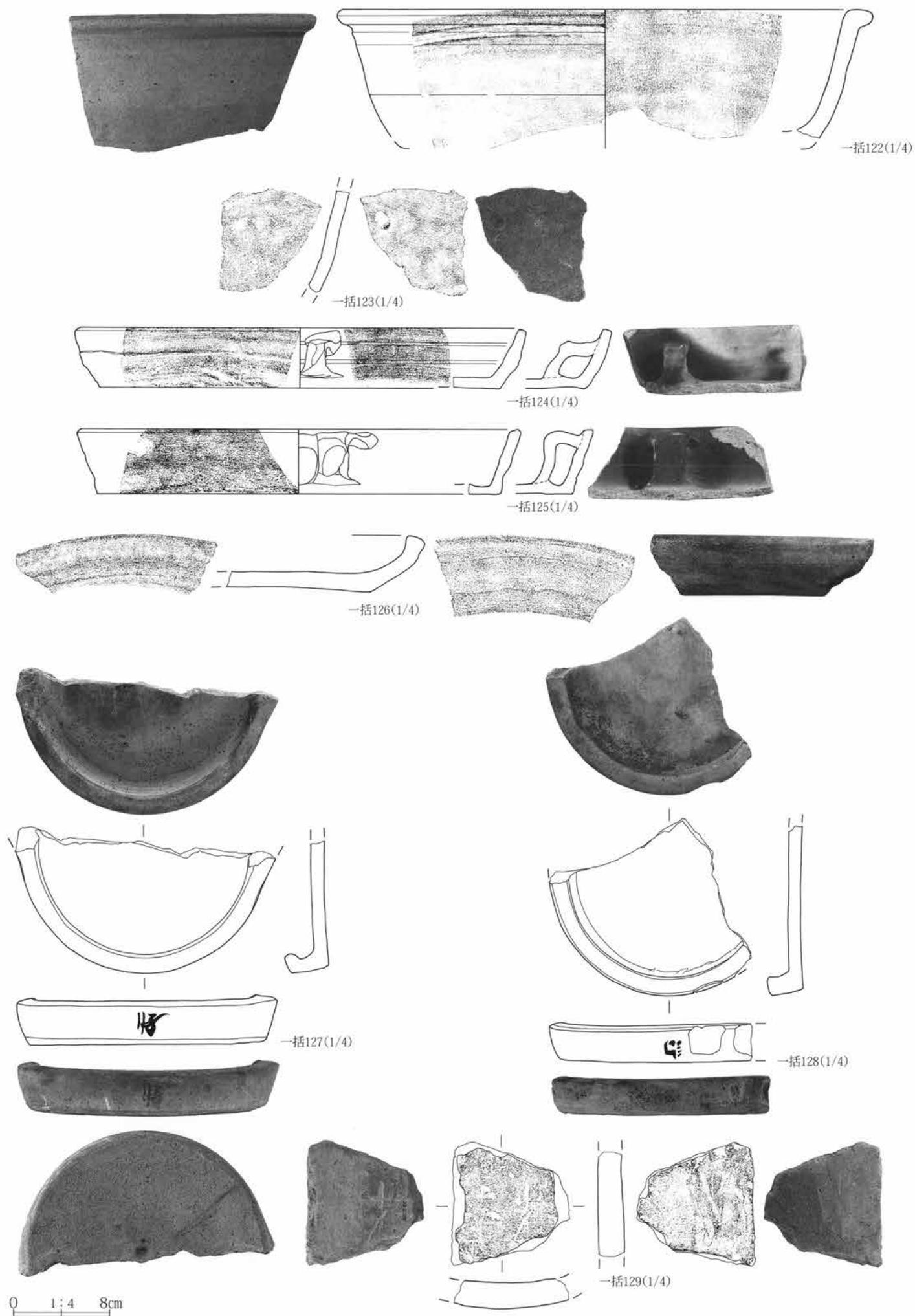
第103图 Ⅲ区一括出土遺物(6)



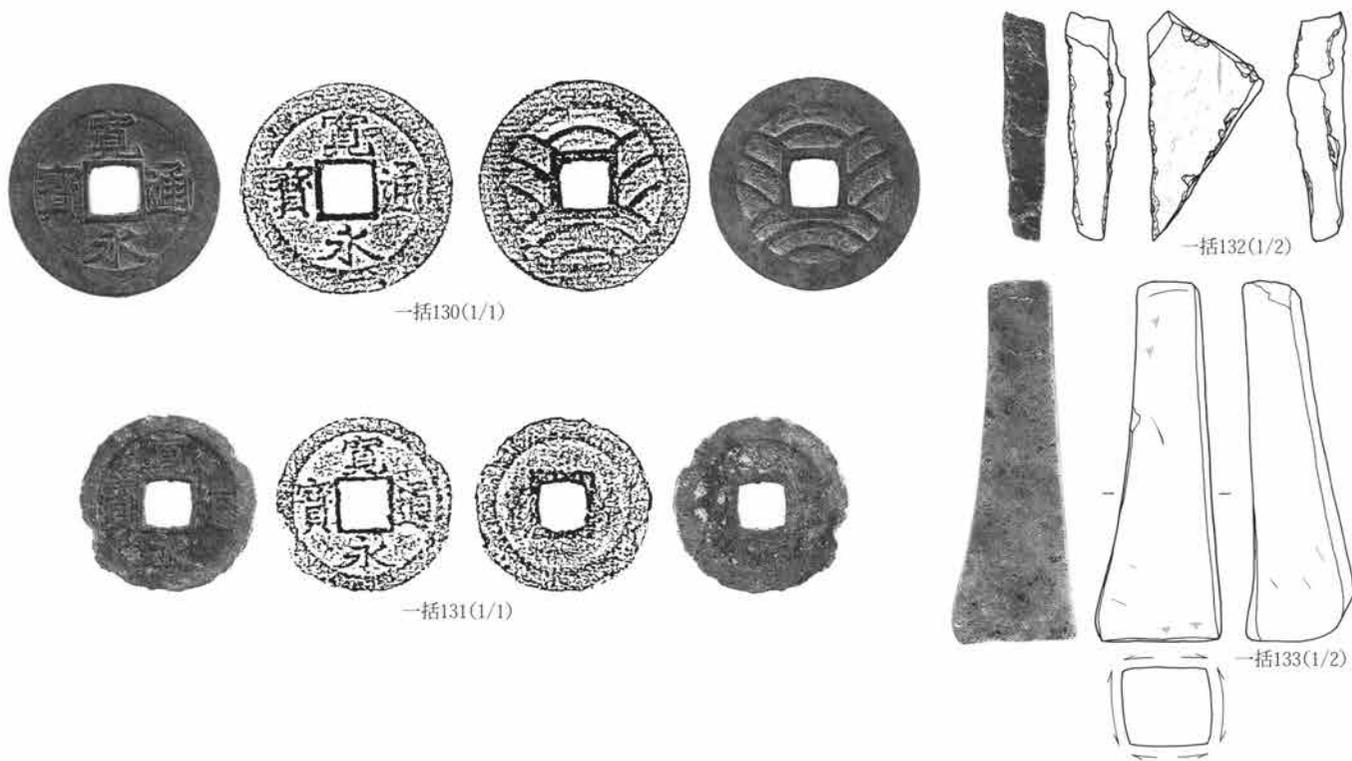
第104图 Ⅲ区一括出土遗物(7)



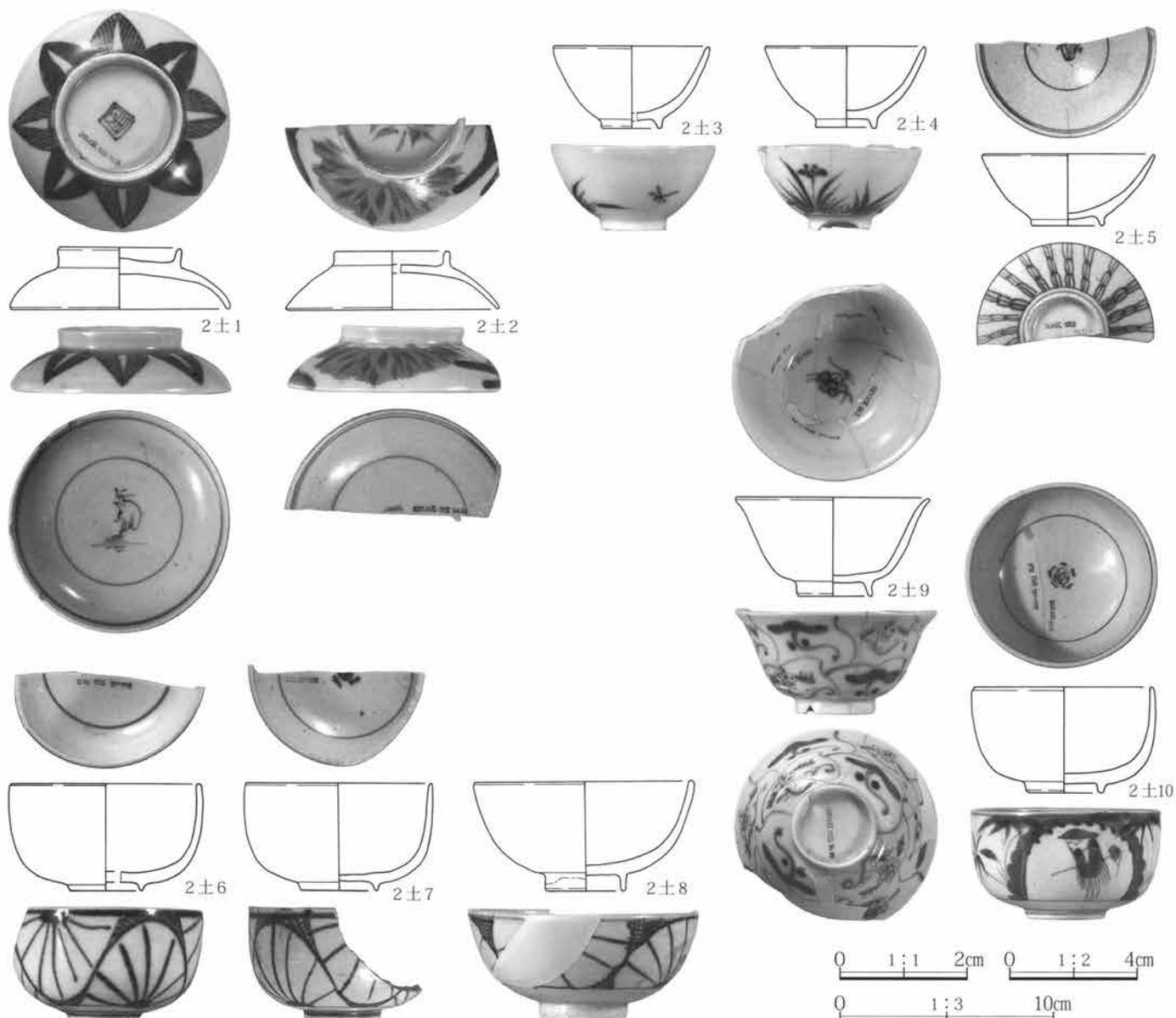
第105图 Ⅲ区一括出土遗物(8)



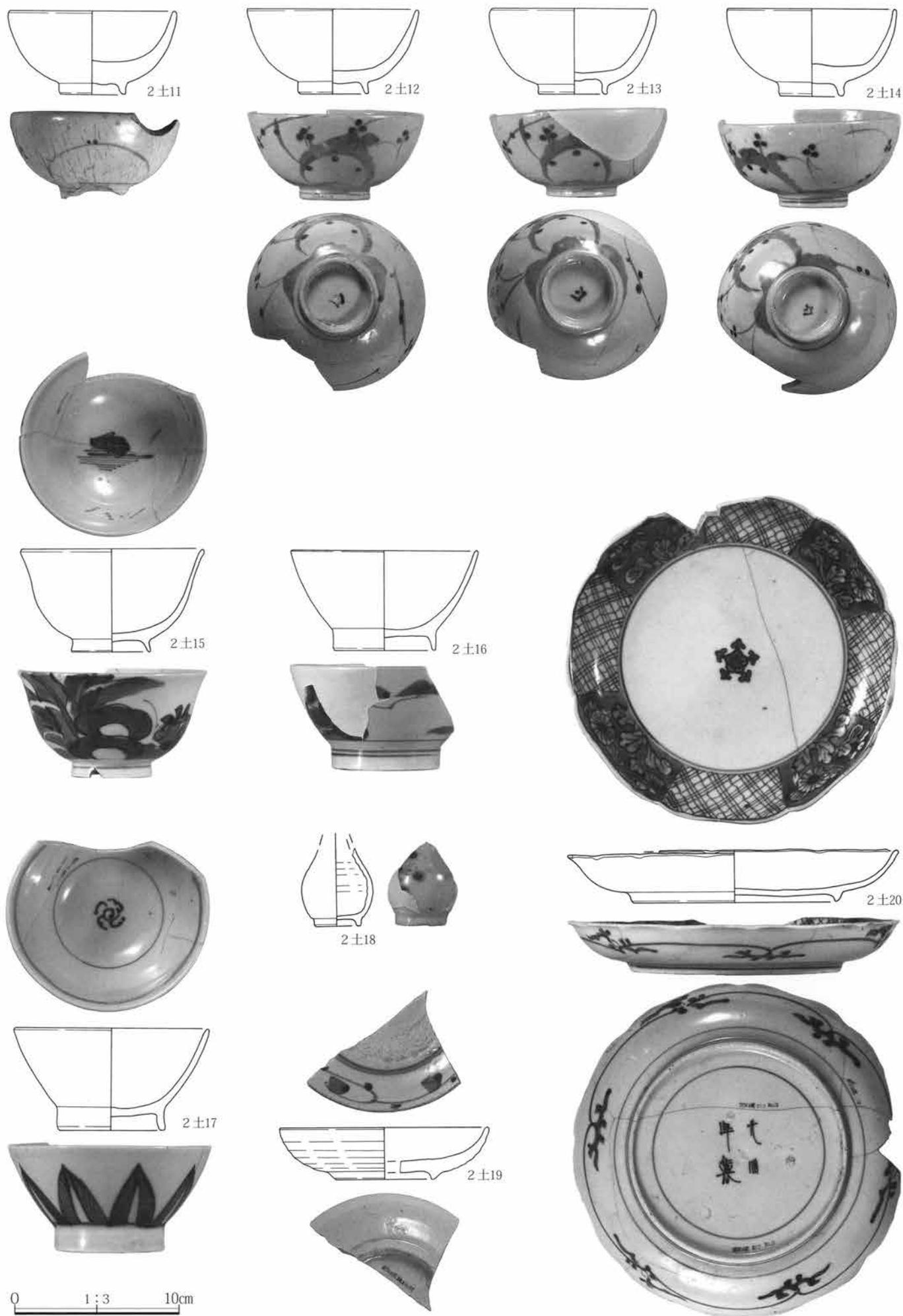
第106图 Ⅲ区一括出土遗物(9)



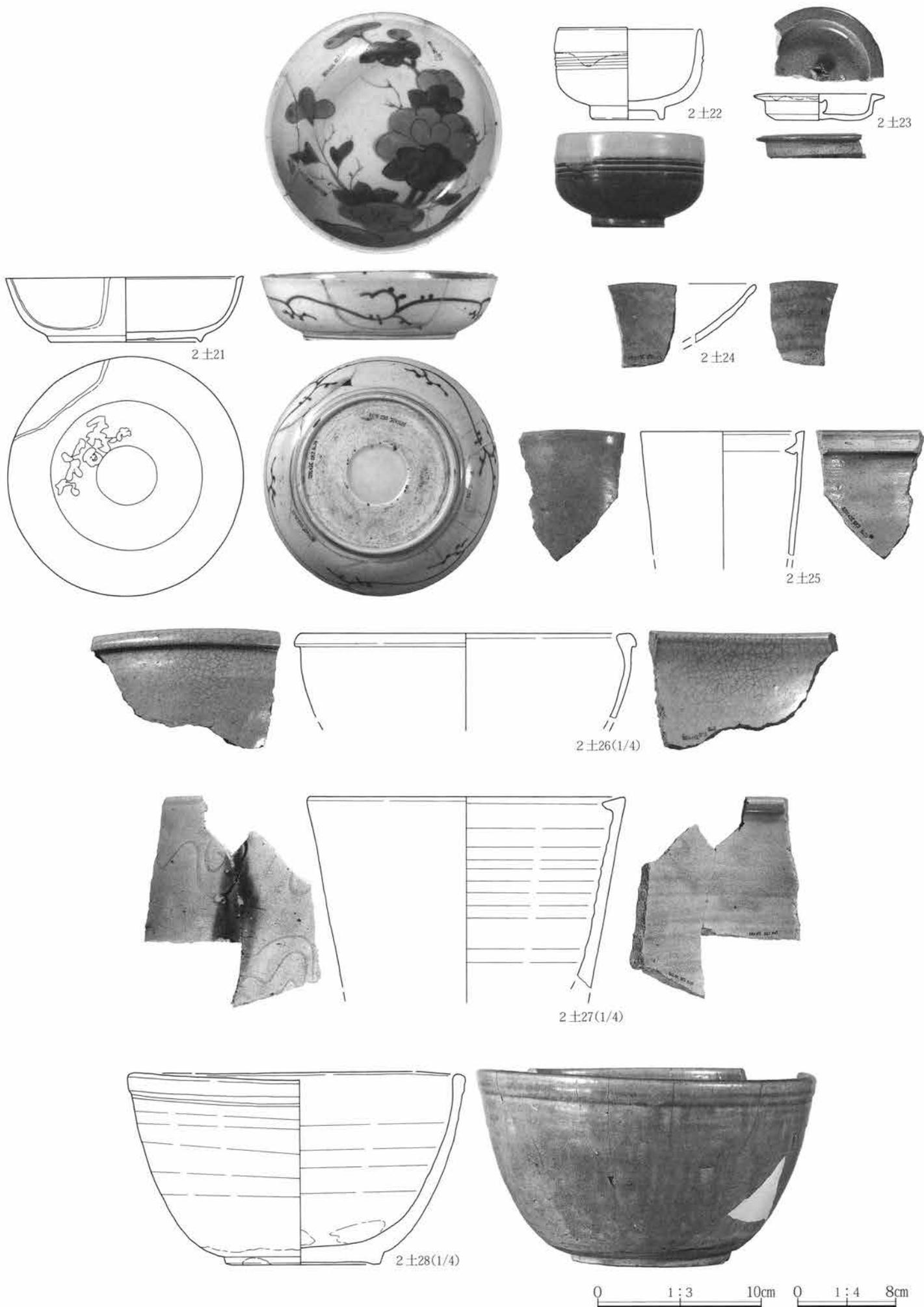
IV区 IV区2号土坑



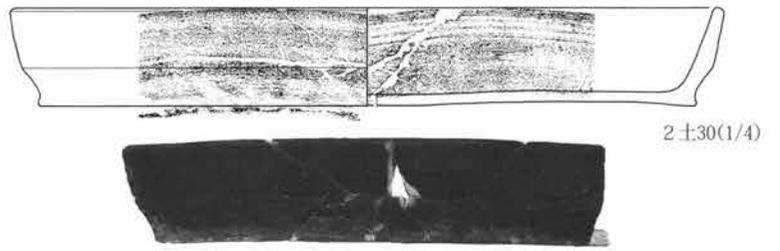
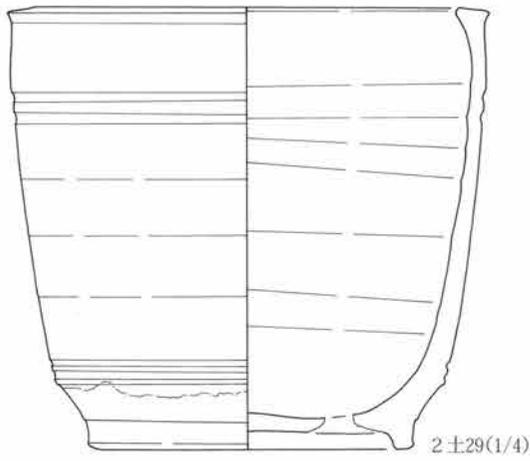
第107图 III区一括出土遗物(10)、IV区2号土坑出土遗物(1)



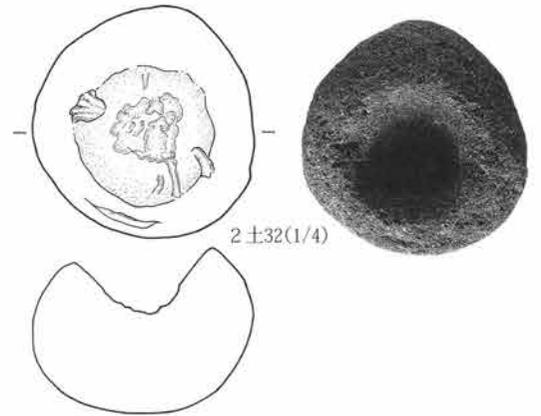
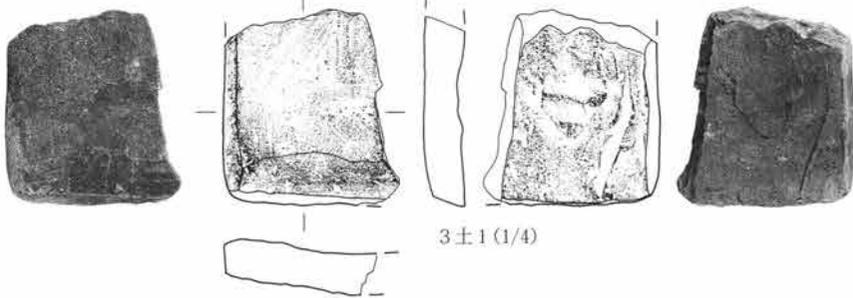
第108图 IV区2号土坑出土遗物(2)



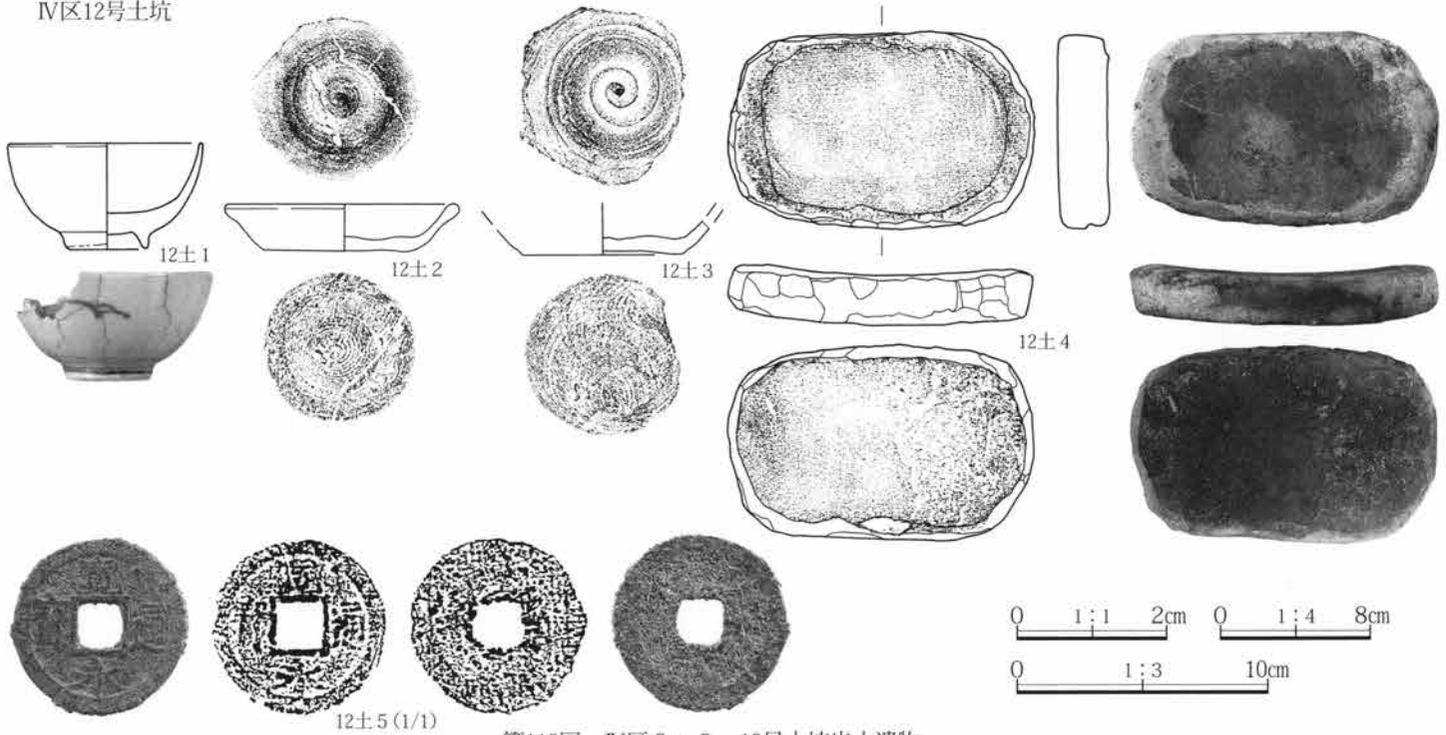
第109图 IV区2号土坑出土遗物(3)



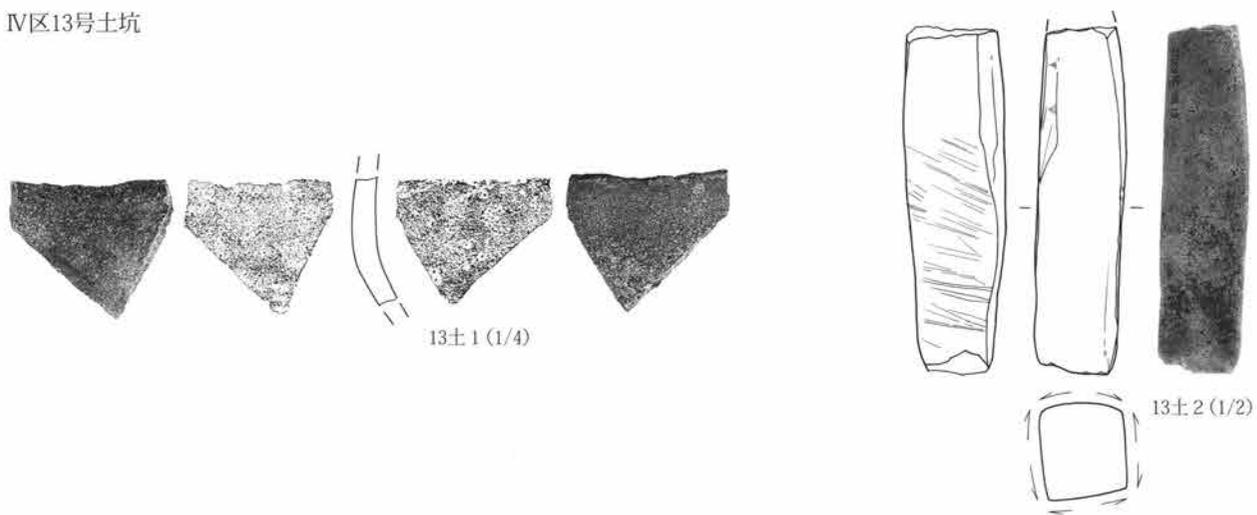
IV区3号土坑



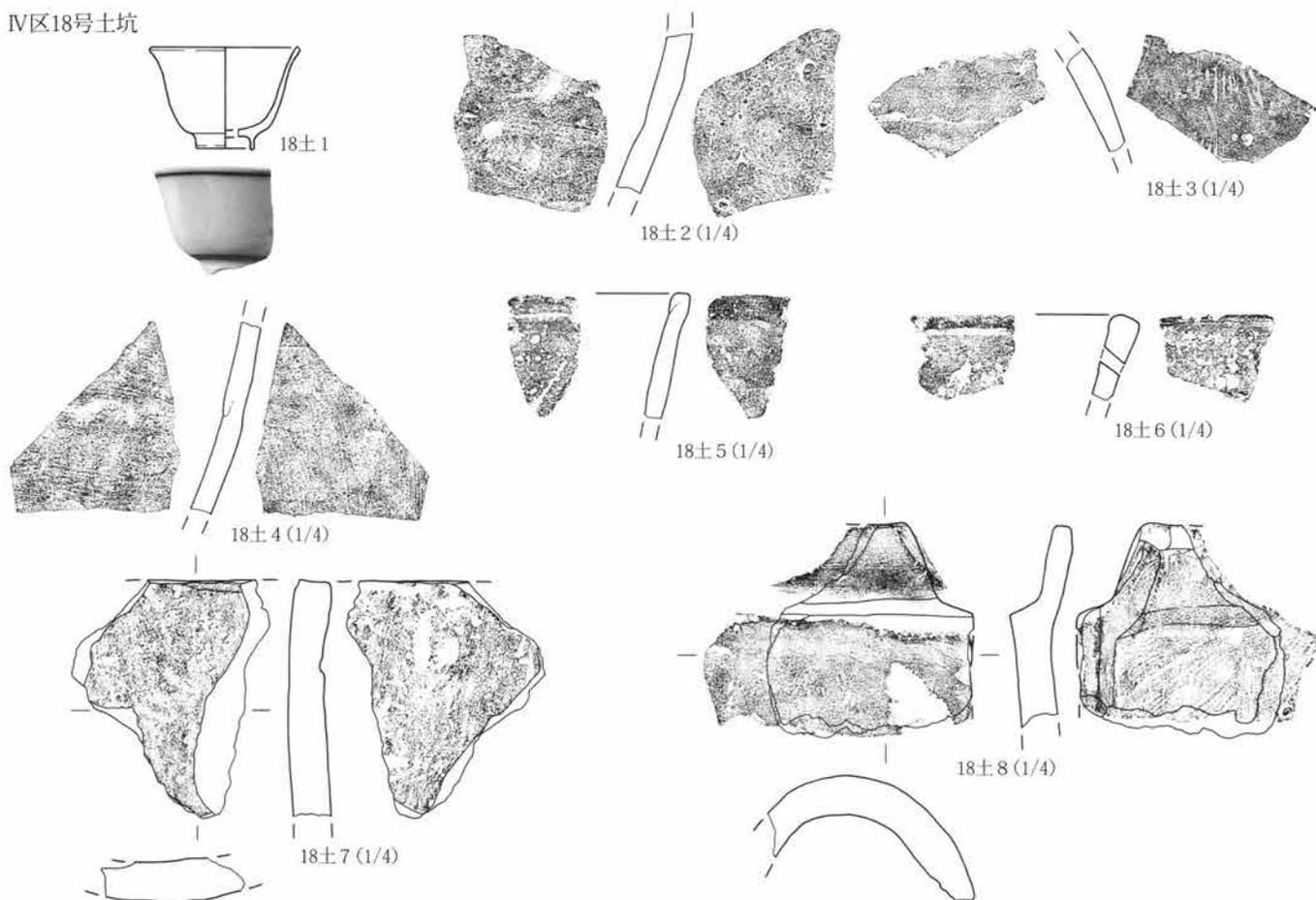
IV区12号土坑



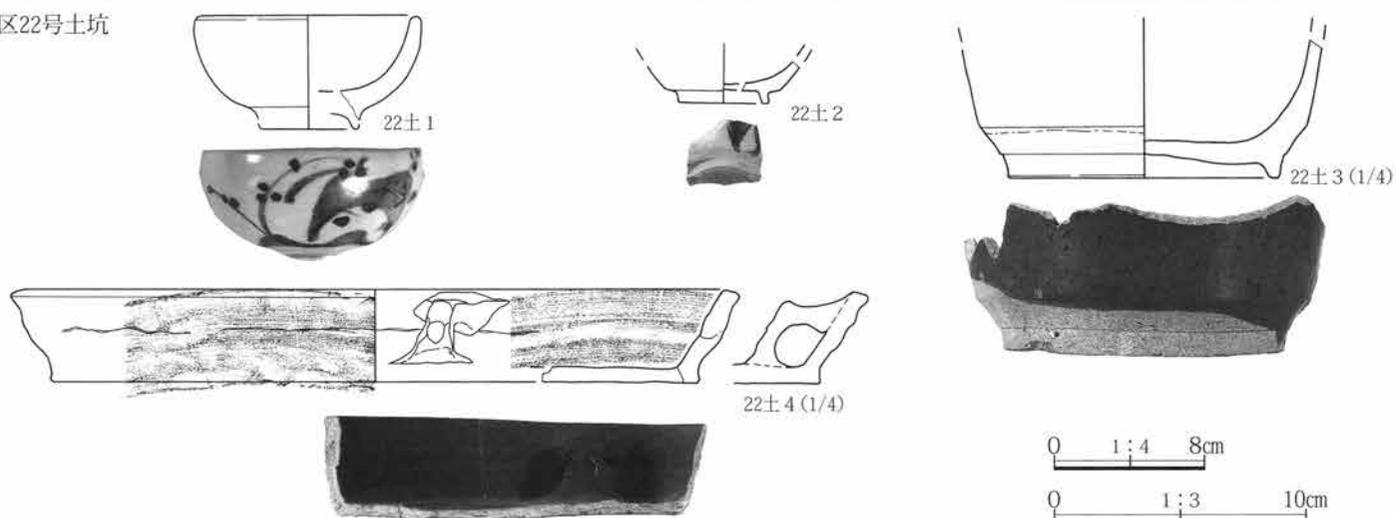
IV区13号土坑



IV区18号土坑

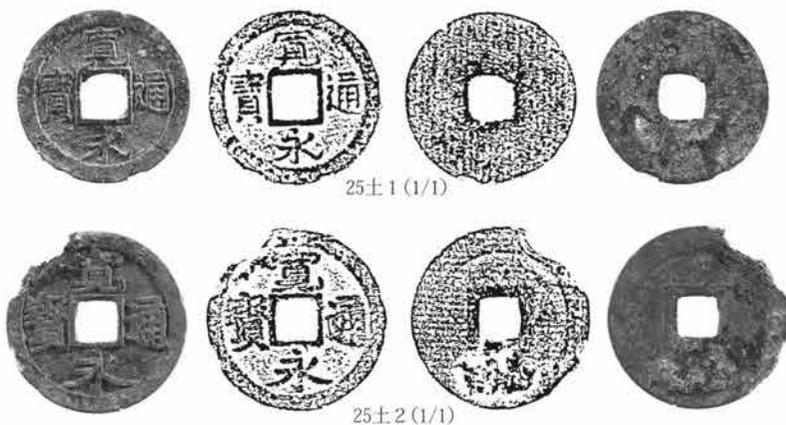


IV区22号土坑

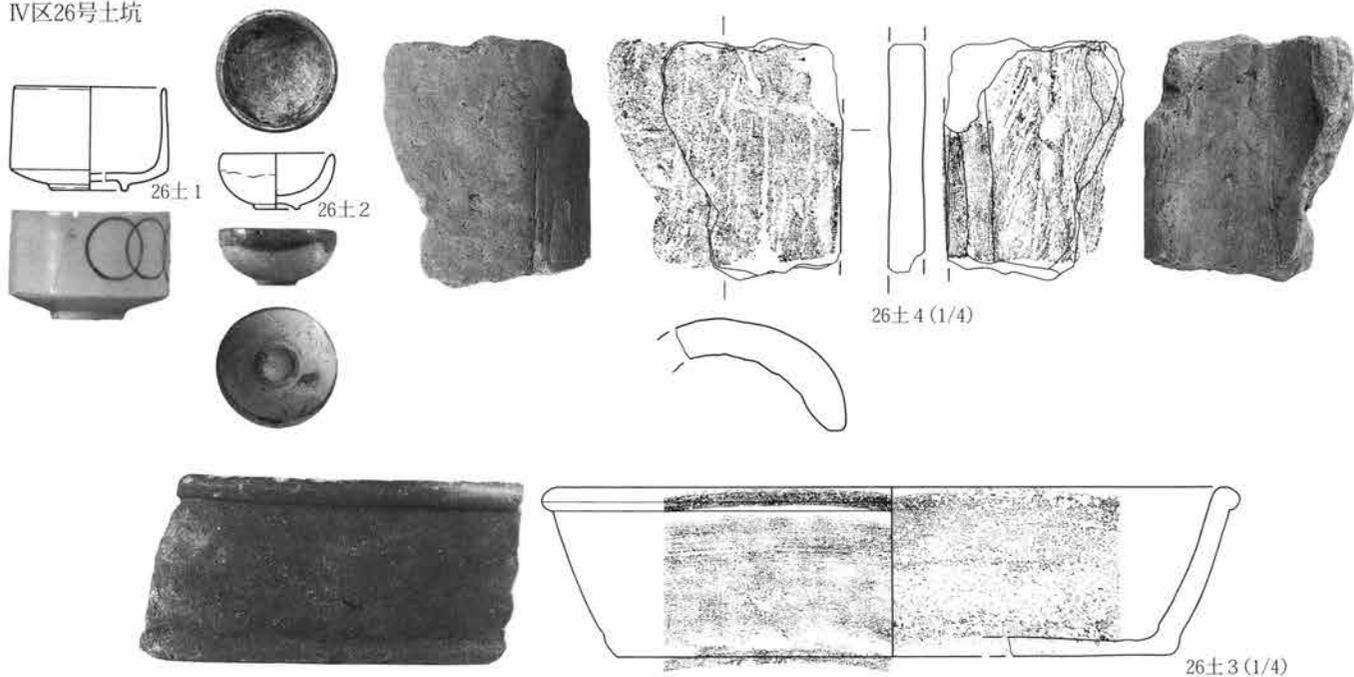


第111图 IV区13·18·22号土坑出土遗物

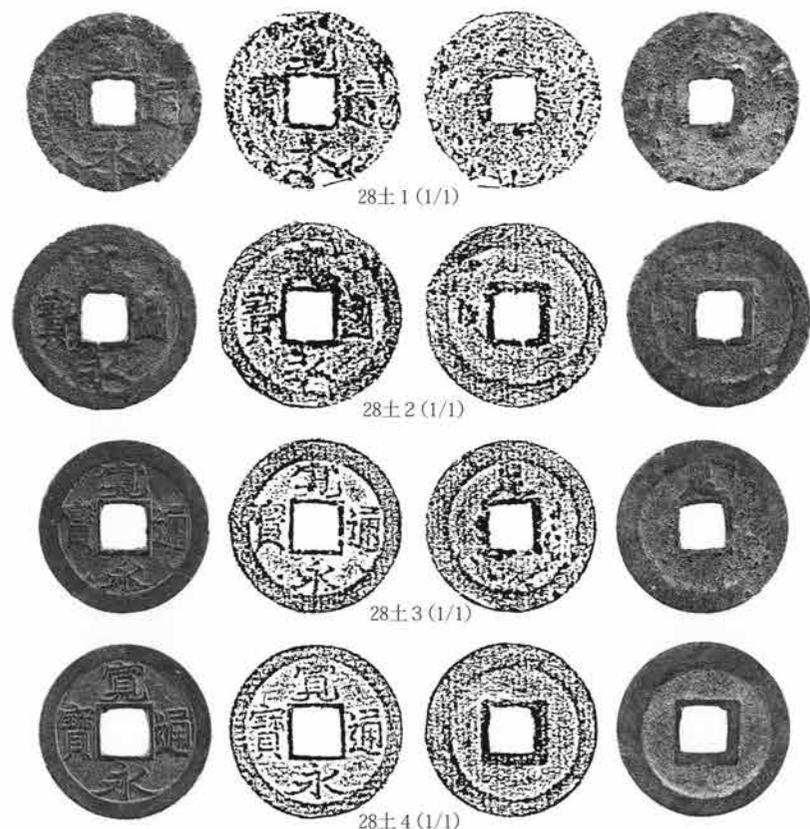
IV区25号土坑



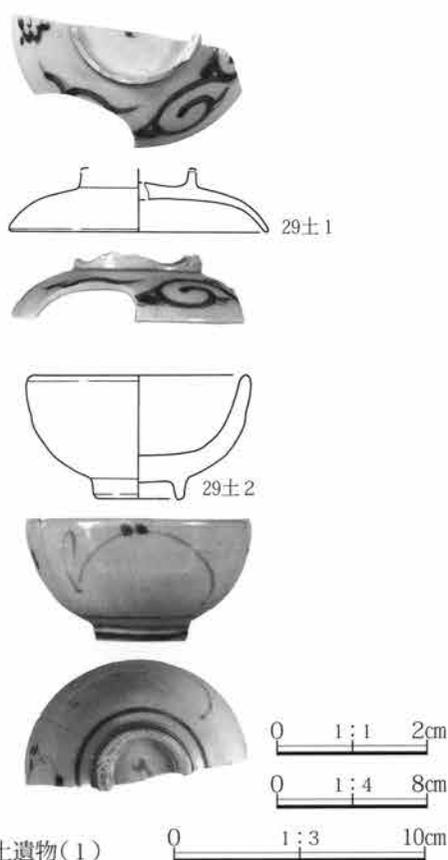
IV区26号土坑



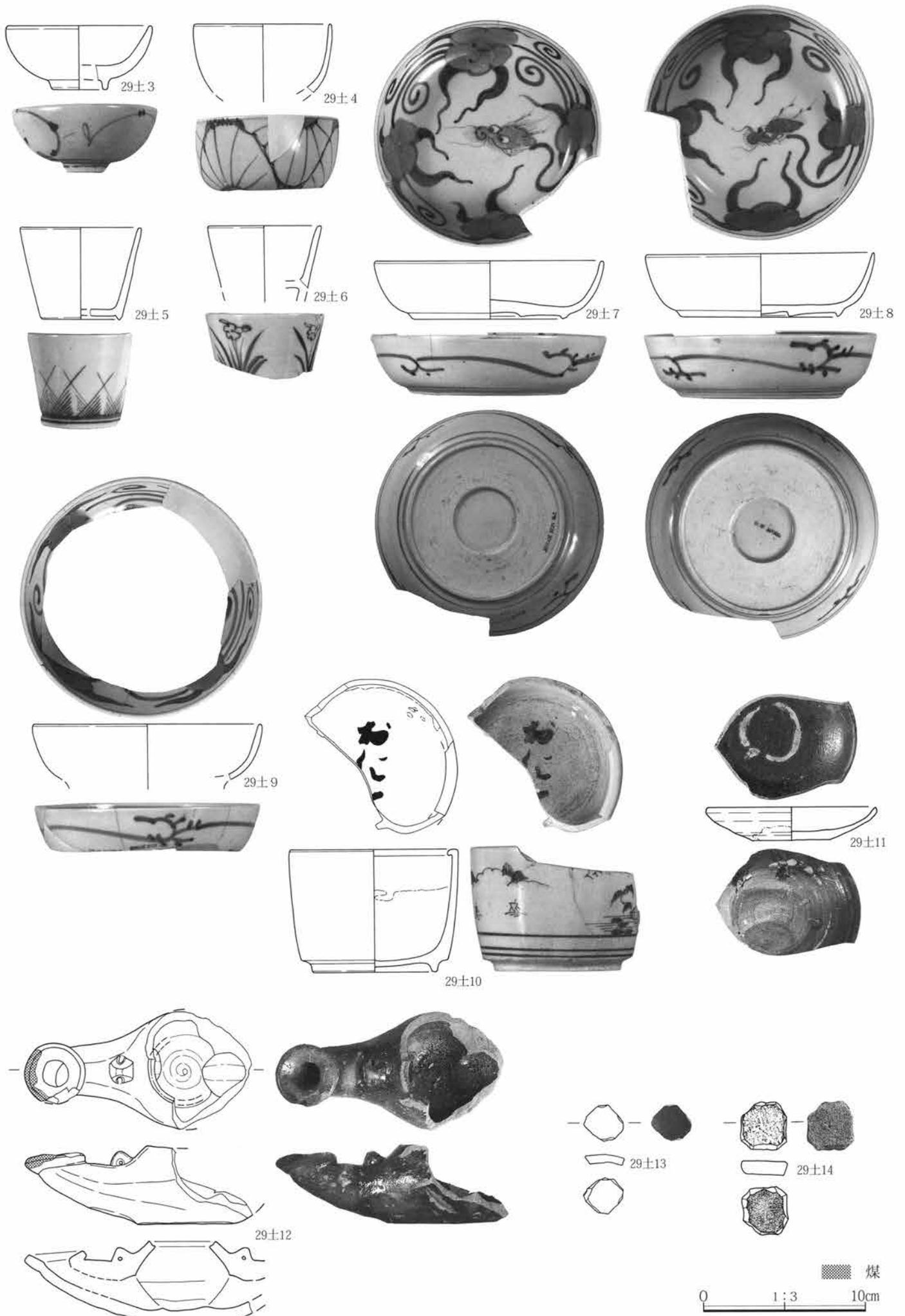
IV区28号土坑



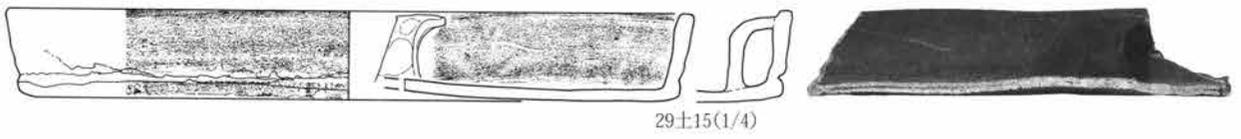
IV区29号土坑



第112图 IV区25·26·28号土坑出土遗物、29号土坑出土遗物(1)



第113图 IV区29号土坑出土遺物(2)



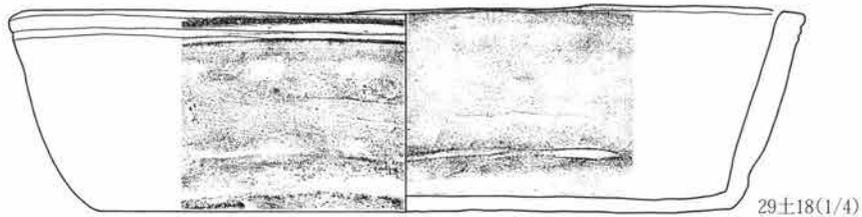
29±15(1/4)



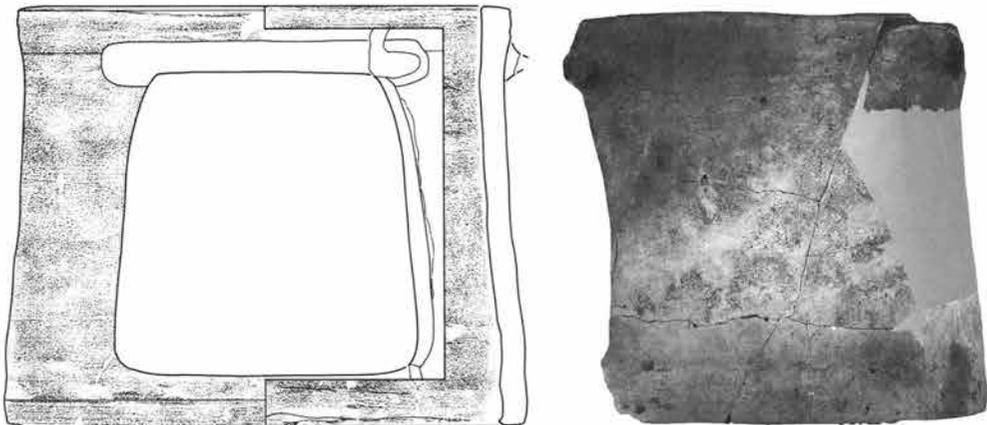
29±16(1/4)



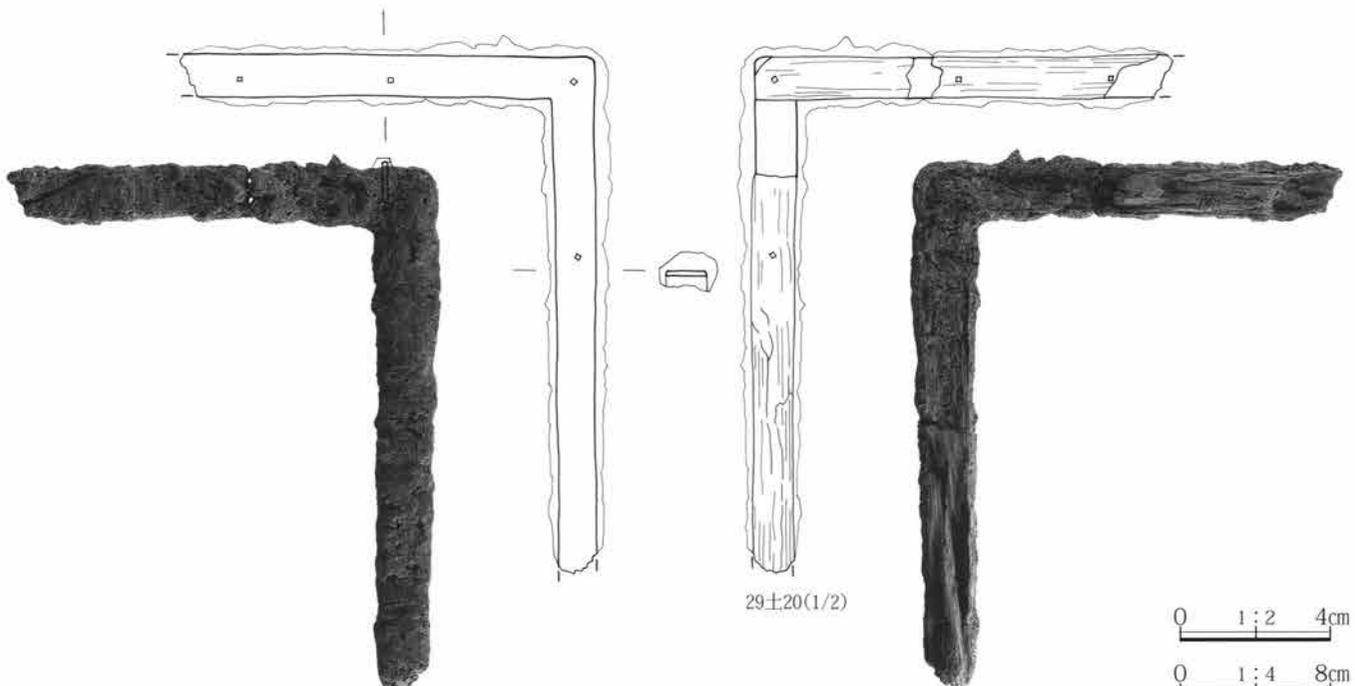
29±17(1/4)



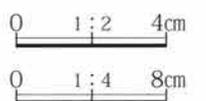
29±18(1/4)



29±19(1/4)



29±20(1/2)



第114图 IV区29号土坑出土遗物(3)

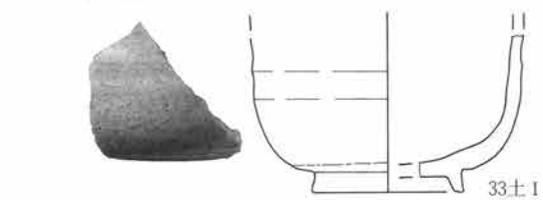
IV区31号土坑



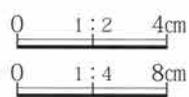
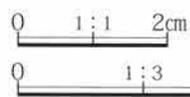
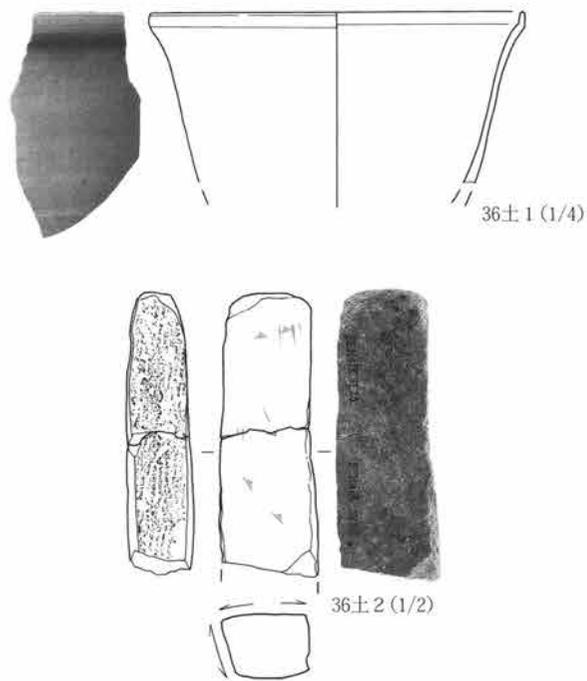
IV区32号土坑



IV区33号土坑



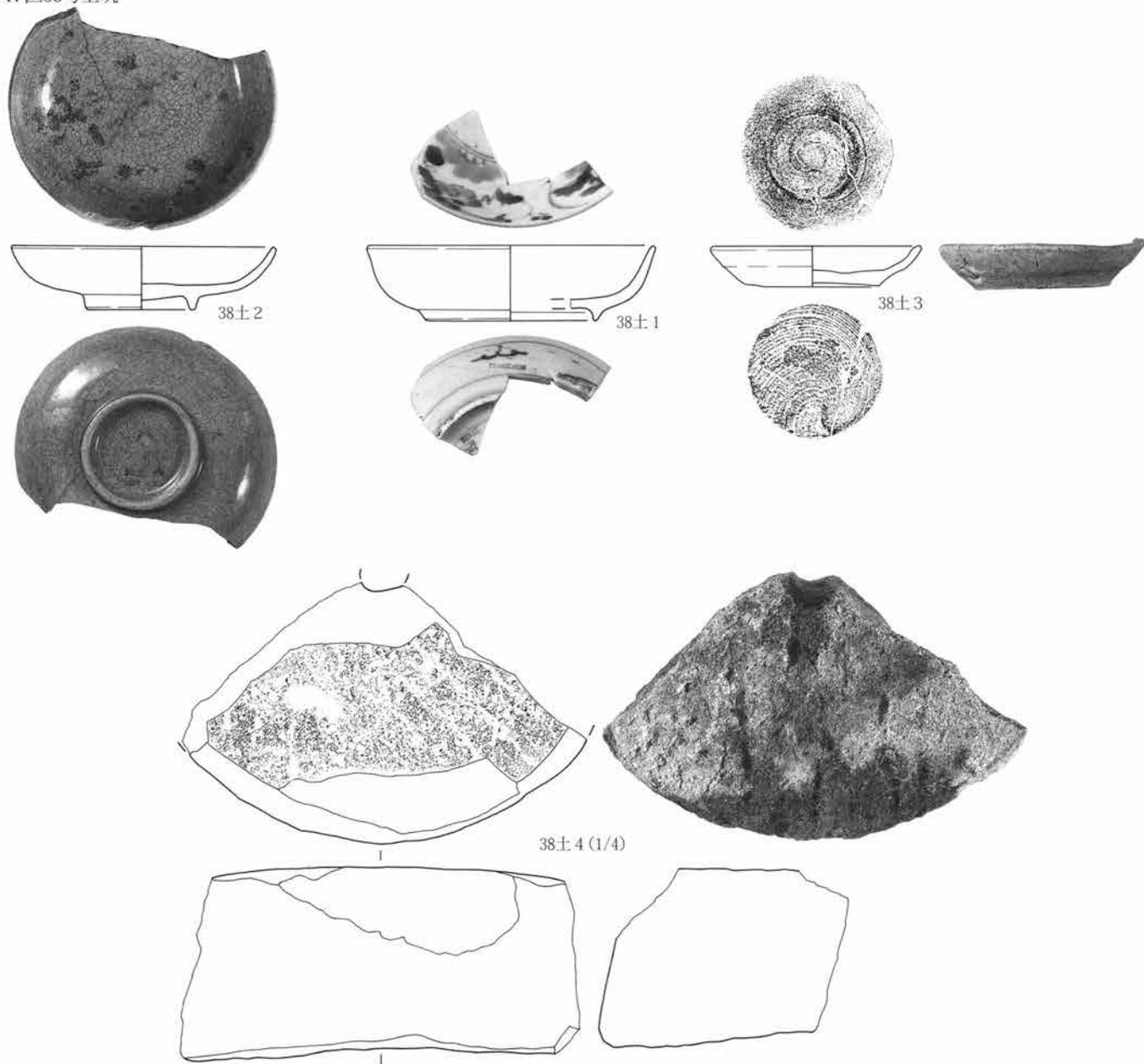
IV区36号土坑



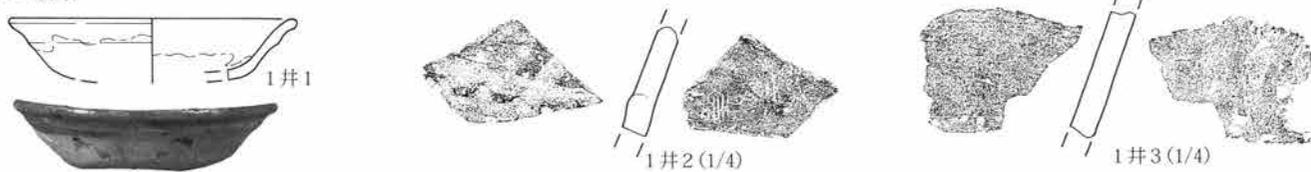
煤

第115图 IV区31~33、36号土坑出土遗物

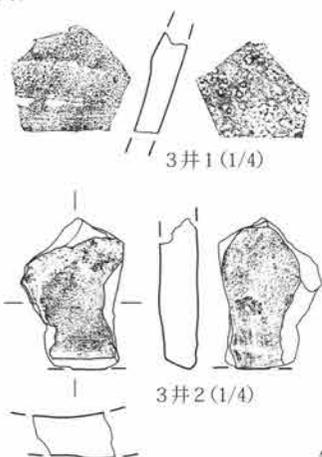
IV区38号土坑



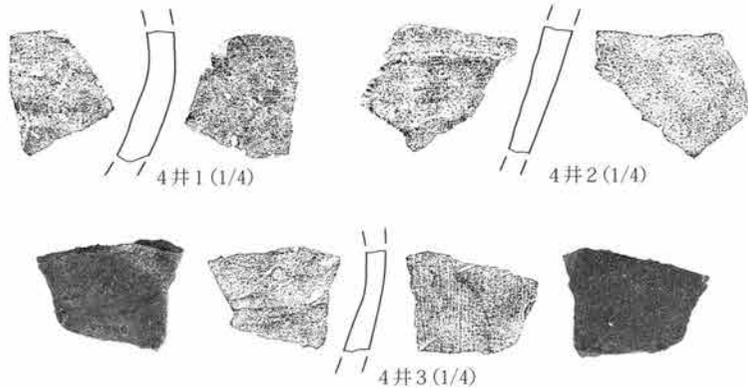
IV区1号井戸



IV区3号井戸



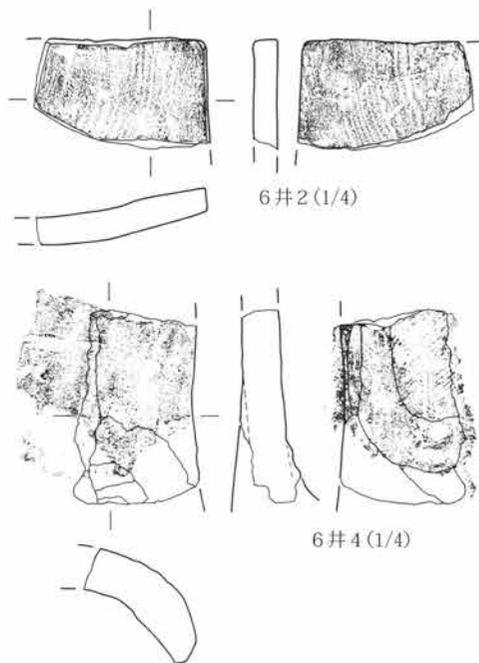
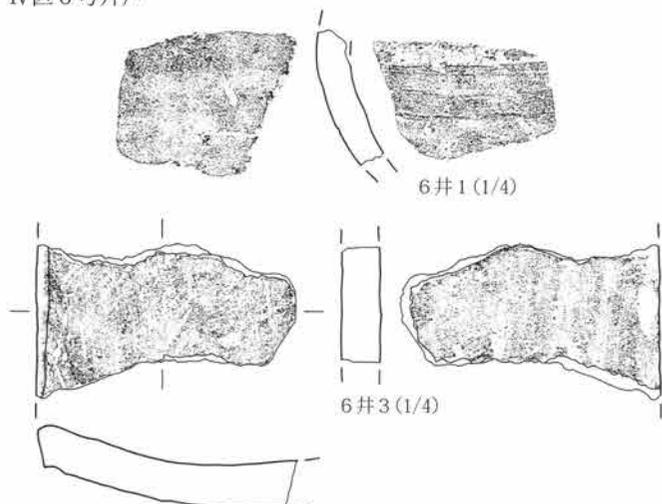
IV区4号井戸



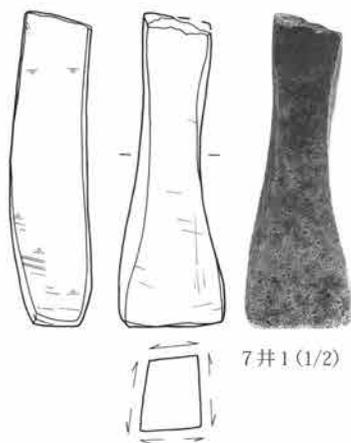
0 1:3 10cm 0 1:4 8cm

第116图 IV区38号土坑、1·3·4号井戸出土遺物

IV区6号井戸



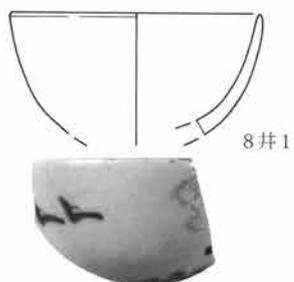
IV区7号井戸



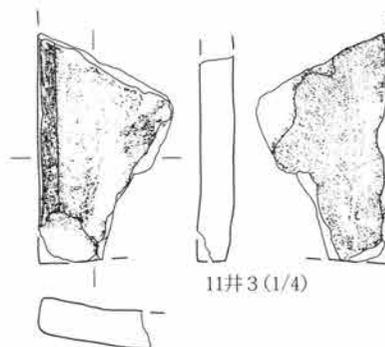
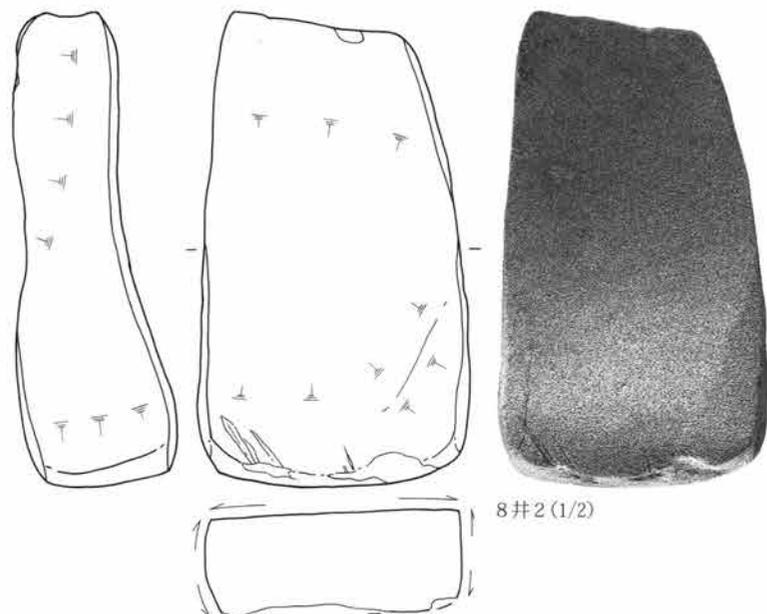
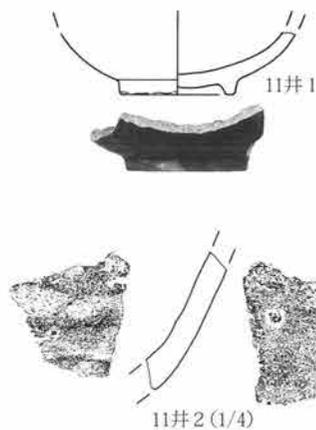
IV区10号井戸



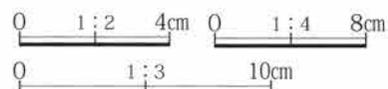
IV区8号井戸



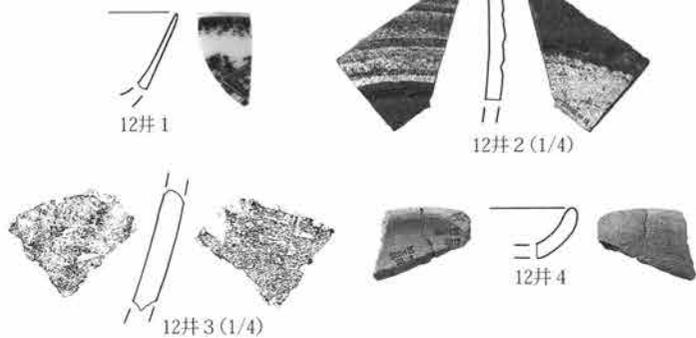
IV区11号井戸



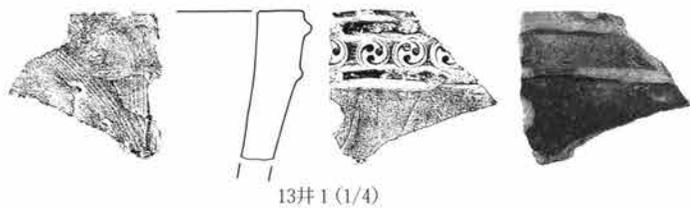
第117图 IV区6~8・10・11号井戸出土遺物



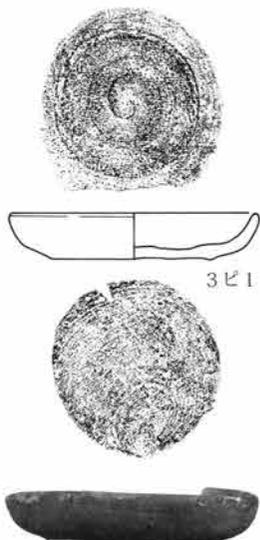
IV区12号井戸



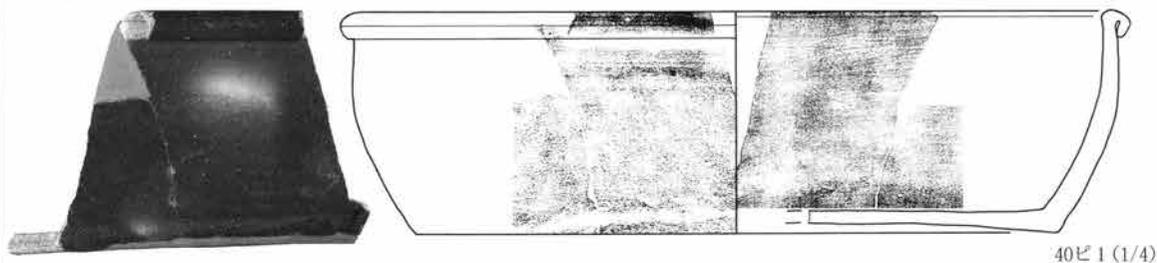
IV区13号井戸



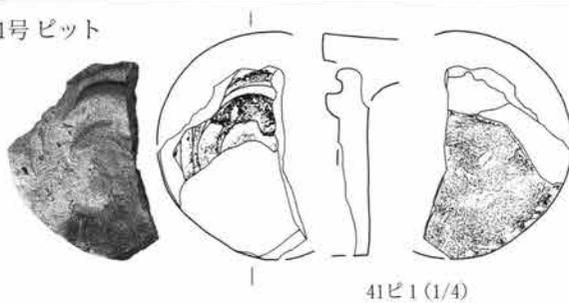
IV区3号ピット



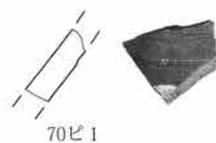
IV区40号ピット



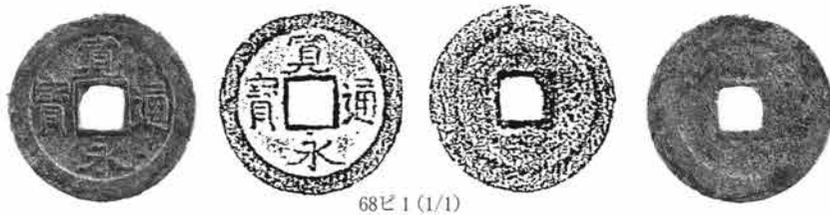
IV区41号ピット



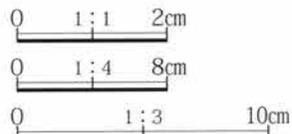
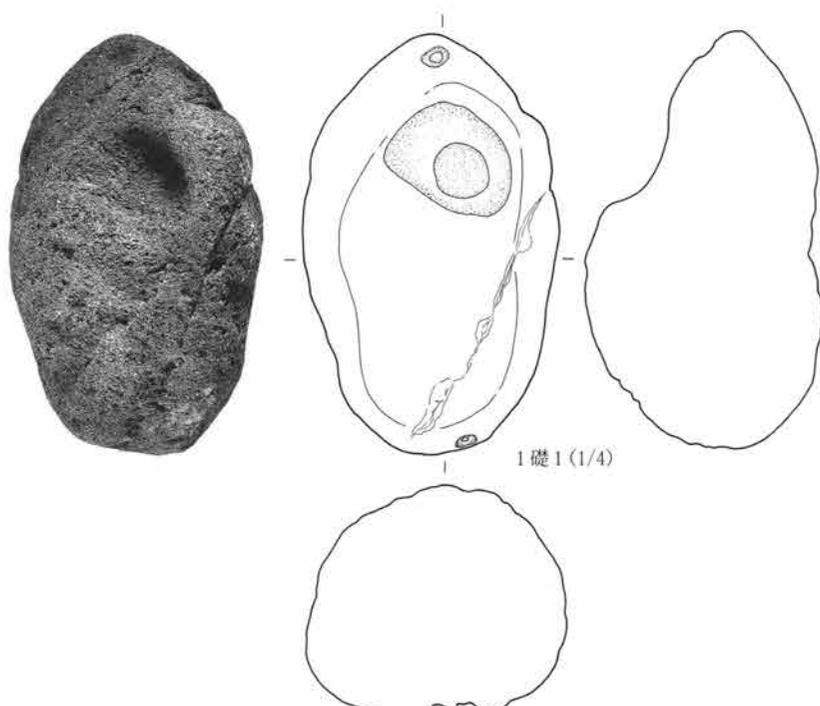
IV区70号ピット



IV区68号ピット

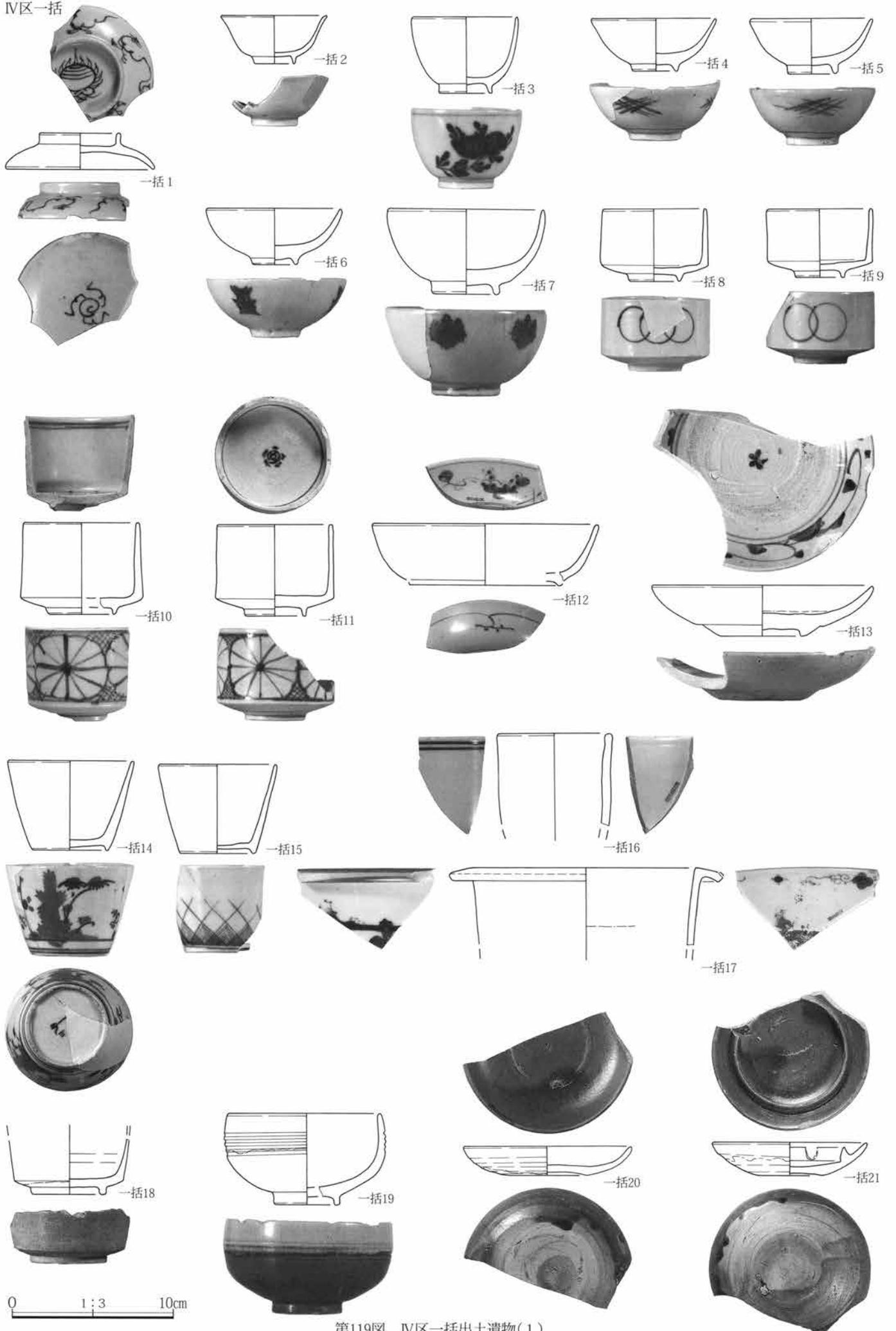


IV区1号礎石

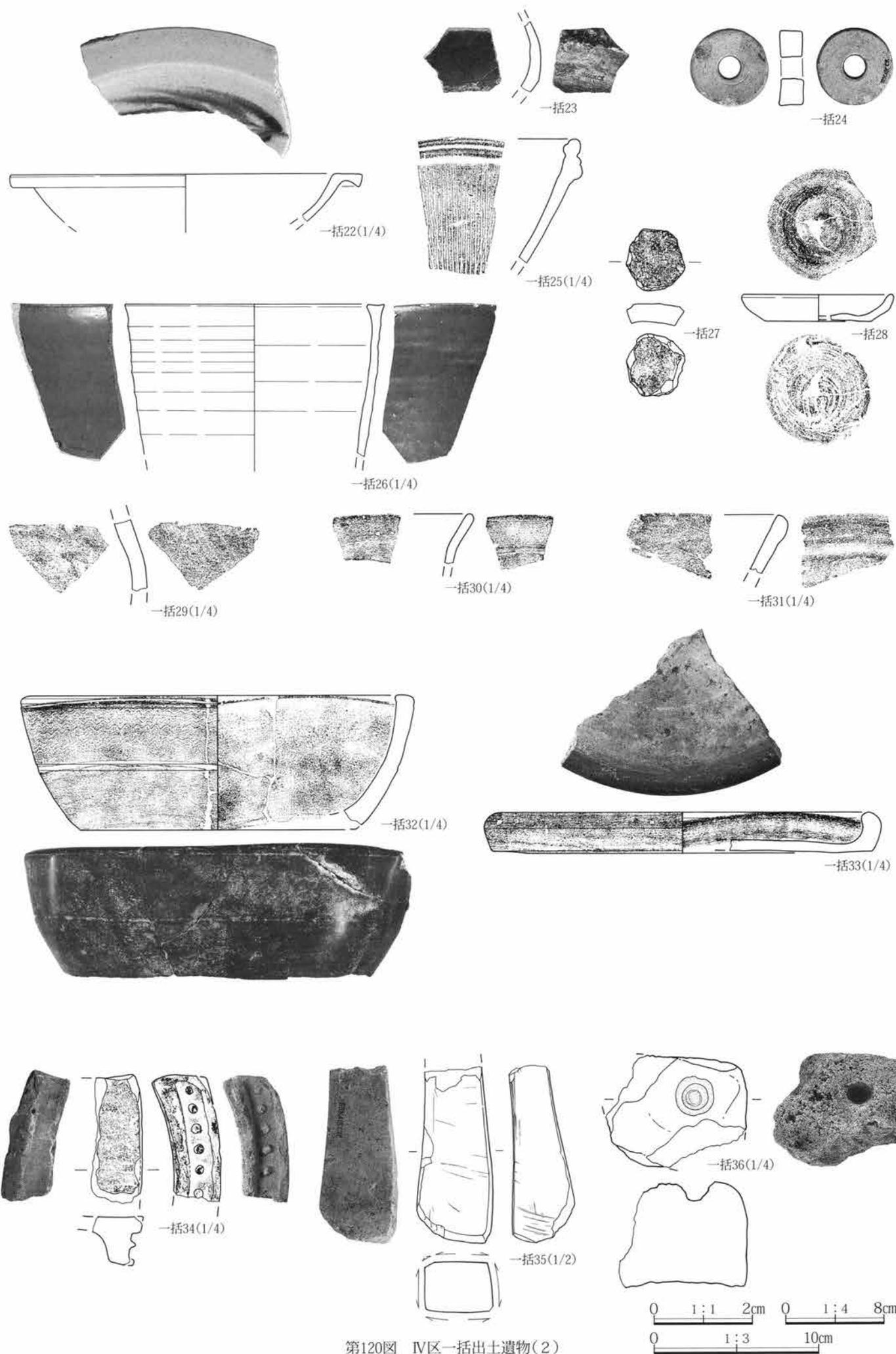


第118図 IV区12・13号井戸、3・40・41・68・70号ピット、1号礎石出土遺物

IV区一括



第119图 IV区一括出土遗物(1)



第120图 IV区一括出土遗物(2)



1. II-1区全景(北)



2. II-2区全景(南)



3. II-3区全景(北)



4. II-3区全景 北端(南)



5. II-4区全景(南)



6. II-5区全景(北)



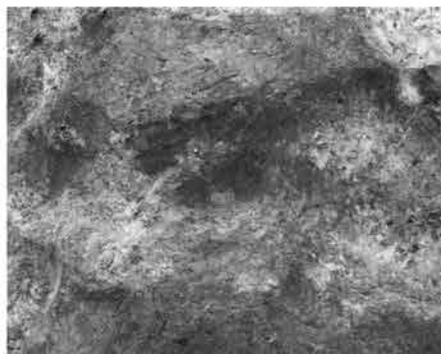
7. II-7区全景 西端(西)



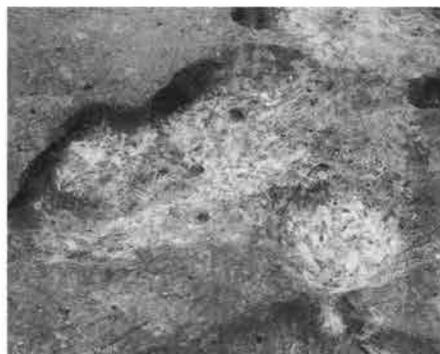
8. II-7区全景 東端(西)



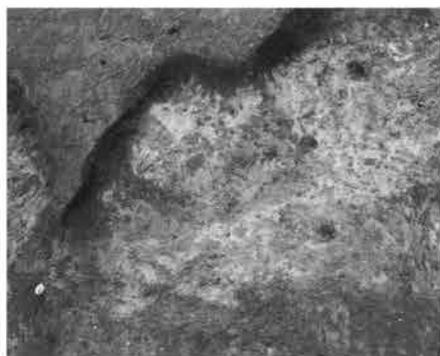
1. II-3区1号土坑全景(南)



2. II-3区2号土坑全景(南)



3. II-3区3·5号土坑全景(南)



4. II-3区4号土坑全景(南)



5. II-3区6号土坑遺物出土狀況(東)



6. II-3区6号土坑土層断面(南)



7. II-3区6号土坑全景(東)



8. II-3区7号土坑全景(東)



9. II-3区7号土坑土層断面(南)



10. II-2区8号土坑土層断面(東)



11. II-5区9号土坑全景(西)



12. II-5区10号土坑全景(西)



13. II-4区11号土坑全景(南)



14. II-4区12号土坑全景·土層断面(南)



15. II-1区13号土坑全景(南)



1. II-1区13号土坑土层断面(南)



2. II-6区16号土坑全景(北)



3. II-6区16号土坑土层断面(西)



4. II-7区17号土坑全景·土层断面(南)



5. II-7区18号土坑全景(西)



6. II-7区18号土坑土层断面(北)



7. II-7区19号土坑全景(西)



8. II-7区19号土坑土层断面(西)



9. II-7区20号土坑全景·土层断面(北)



10. II-7区21号土坑土层断面(北)



11. II-7区22号土坑全景(北)



12. II-7区21号土坑土层断面(南)



13. II-7区24号土坑遗物出土状况(南西)



14. II-7区24号土坑遗物出土状况(南西)



15. II-7区24号土坑全景(南西)



1. II-6区25号土坑土层断面(東)



2. II-6区26号土坑土层断面(南)



3. II-7区27号土坑全景(北)



4. II-7区28号土坑全景·土层断面(南)



5. II-2区1号井戸全景(北)



6. II-2区1号井戸土层断面(南)



7. II-2区2号井戸全景(北)



8. II-2区2号井戸土层断面(西)



1. II-1区3号井戸全景・土層断面(西)



2. II-3区1号溝全景(北)



3. II-3区1号溝土層断面(東)



4. II-3区2号溝全景(南)



5. II-1区3号溝全景(北)



6. II-1区3号溝土層断面(北)



7. II-2区3号溝全景(北)



8. II-2区3号溝土層断面(北)



1. II-3区3号溝南部全景(北)



3. II-3区3号溝土層断面(南)



2. II-3区3号溝北部全景(北)



4. II-4区3号溝全景(南)



5. II-5区3号溝全景(南)



6. II-7区5号溝全景・土層断面(東)



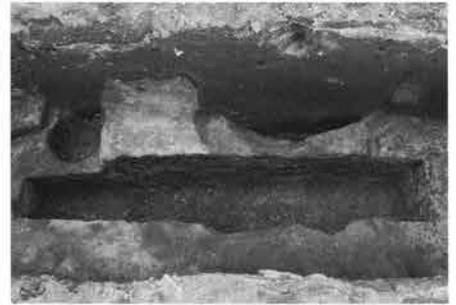
7. II-7区6・7号溝全景(東)



1. II-7区8号溝全景(西)



2. II-6区8号溝土層断面(西)



3. II-7区9号溝全景(北)



4. II-7区9号溝全景(西)



5. II-7区9号溝土層断面(西)



6. II-3区1号ピット全景(南)



7. II-3区1号ピット土層断面(東)



8. II-3区2号ピット全景・土層断面(南西)



9. II-5区3号ピット全景(東)



10. II-5区3号ピット土層断面(東)



11. II-7区4・5号ピット全景・土層断面(北)



12. II-7区6号ピット全景・土層断面(北)



13. II-7区7号ピット全景・土層断面(南)



14. II-7区8号ピット全景(北)



15. II-7区9号ピット全景(北)



1. II-6区1号地下式抗全景(南西)



2. II-3区1号竖穴状遺構遺物出土状況(東)



3. II-3区1号竖穴状遺構全景(北)



4. II-4区2号竖穴状遺構全景(東)



5. II-4区2号竖穴状遺構土層断面(南)



6. II-6区1号礎石全景(南)



7. III-1区全景(北)



8. III-1区土層断面(南)



1. Ⅲ-2区全景(南西)



2. Ⅲ-3区全景(南)



3. Ⅲ-4区全景(南)



4. Ⅲ-5区全景西端(南)



5. Ⅲ-5区全景(南東)



6. Ⅲ-5区全景(北西)



7. Ⅲ-5区全景(南東)



1. Ⅲ-5区1号土坑全景(北東)



2. Ⅲ-5区1号土坑土層断面(東)



3. Ⅲ-5区2号土坑全景(北西)



4. Ⅲ-5区2号土坑土層断面(東)



5. Ⅲ-5区3号土坑全景(北)



6. Ⅲ-5区3号土坑土層断面(南西)



7. Ⅲ-5区4号土坑全景·遺物出土狀況(北東)



8. Ⅲ-5区4号土坑土層断面(南東)



9. Ⅲ-5区5号土坑全景·土層断面全景(北東)



10. Ⅲ-5区6号土坑土層断面(南東)



11. Ⅲ-3区7号土坑全景(東)



12. Ⅲ-3区7号土坑土層断面(東)



13. Ⅲ-3区8号土坑全景(南東)



14. Ⅲ-3区8号土坑土層断面(東)



15. Ⅲ-5区9号土坑全景(西)



1. III-3区10号土坑全景(東)



2. III-3区10号土坑土層断面(東)



3. III-5区11号土坑全景(南西)



4. III-5区11号土坑土層断面(南西)



5. III-5区12号土坑全景・土層断面(南西)



6. III-5区13号土坑全景・土層断面(北)



7. III-5区14号土坑全景・遺物出土状況(北東)



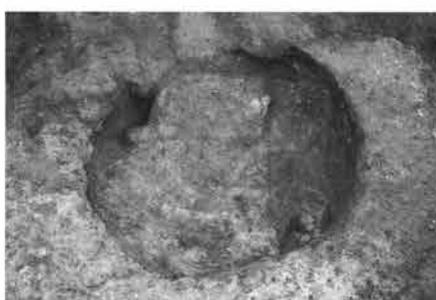
8. III-5区15号土坑全景(南西)



9. III-5区15号土坑土層断面(南西)



10. III-5区16号土坑全景・土層断面(北東)



11. III-5区17号土坑全景(南)



12. III-5区17号土坑土層断面(北西)



13. III-5区18号土坑全景・土層断面(北西)



14. III-5区19号土坑全景(南西)



15. III-2区20号土坑全景(東)



1. III-2区21号土坑全景·土層断面(東)



2. III-2区22号土坑遺物出土狀況(東)



3. III-2区22号土坑全景·土層断面(東)



4. III-2区23・24号土坑全景(南)



5. III-2区23・25号土坑全景(北西)



6. III-2区23・25号土坑土層断面(南)



7. III-5区27号土坑全景(南西)



8. III-5区28・29号土坑全景(南西)



9. III-4区30号土坑全景(南東)



10. III-4区30号土坑土層断面(東)



11. III-4区31・58号土坑全景(西)



12. III-4区31号土坑土層断面(東)



13. III-5区32号土坑全景(東)



14. III-5区32号土坑土層断面(南東)



15. III-4区33・37号土坑全景(南東)



1. Ⅲ-4区34号土坑全景(南東)



2. Ⅲ-4区34号土坑土層断面(西)



3. Ⅲ-4区35号土坑土層断面(西)



4. Ⅲ-4区36号土坑全景(北西)



5. Ⅲ-4区36号土坑土層断面(南)



6. Ⅲ-4区38号土坑全景(西)



7. Ⅲ-4区38号土坑土層断面(西)



8. Ⅲ-4区40·41号土坑全景(南西)



9. Ⅲ-4区42·44~46号土坑全景(北西)



10. Ⅲ-4区42号土坑土層断面(南西)



11. Ⅲ-4区44号土坑全景(南東)



12. Ⅲ-4区46号土坑土層断面(南東)



13. Ⅲ-4区47号土坑全景(西)



14. Ⅲ-4区47号土坑土層断面(南東)



15. Ⅲ-4区47号土坑磔下全景(西)



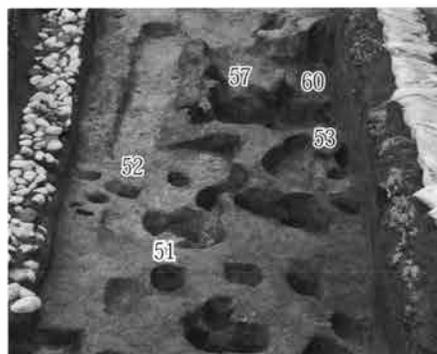
1. III-4区47号土坑磔下土层断面(南)



2. III-4区48号土坑全景(南西)



3. III-4区50号土坑全景·土层断面(南東)



4. III-5区51~54·57·60号土坑全景(北西)



5. III-5区51号土坑土层断面(南西)



6. III-5区52号土坑土层断面(南東)



7. III-5区53号土坑土层断面(北東)



8. III-5区54号土坑土层断面(北東)



9. III-5区55号土坑全景(北東)



10. III-5区55号土坑土层断面(南西)



11. III-5区56号土坑全景(北東)



12. III-5区56号土坑土层断面(南西)



13. III-5区57号土坑全景·土层断面(南西)



14. III-1区59号土坑土层断面(北)



15. III-5区60号土坑土层断面(北西)



1. Ⅲ-5区1号井戸全景(北西)



2. Ⅲ-5区1号井戸土層断面(北東)



3. Ⅲ-4区2号井戸全景(北西)



4. Ⅲ-4区2号井戸土層断面(南東)



5. Ⅲ-4区3号井戸全景(南東)



6. Ⅲ-4区3号井戸土層断面(北東)



7. Ⅲ-5区1号溝全景(北)



8. Ⅲ-3区3号溝全景(南西)



1. III-3区3号溝土層断面(南西)



2. III-4区3号溝全景(南西)



3. III-4区3号溝土層断面(南西)



4. III-2区4号溝全景(南西)



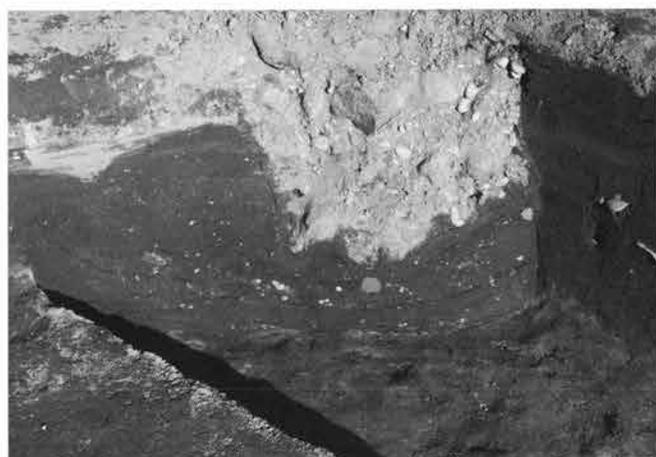
5. III-3区4号溝土層断面A-A' (南西)



6. III-3区4号溝土層断面B-B' (北東)



7. III-4区5号溝全景(南東)



8. III-4区5号溝土層断面(南)



1. Ⅲ-5区2号ピット全景・土層断面(北)



2. Ⅲ-5区3号ピット全景・土層断面(東)



3. Ⅲ-5区5号ピット全景(北西)



4. Ⅲ-5区5号ピット土層断面(北西)



5. Ⅲ-5区6号ピット土層断面(西)



6. Ⅲ-4区7・18号ピット全景(北西)



7. Ⅲ-4区8・9号ピット全景(北西)



8. Ⅲ-4区10号ピット全景(南東)



9. Ⅲ-4区12号ピット全景(南)



10. Ⅲ-4区13号ピット全景(北西)



11. Ⅲ-4区13号ピット土層断面(南)



12. Ⅲ-4区ピット群(北西)



13. Ⅲ-5区21号ピット土層断面(北)



14. Ⅲ-5区22号ピット土層断面(西)



15. Ⅲ-5区23号ピット土層断面(南)



1. III-5区24号ピット土層断面(北西)



2. III-5区25号ピット土層断面(南東)



3. III-5区26号ピット土層断面(北西)



4. III-4区27号ピット土層断面(北西)



5. III-5区ピット群全景(東)



6. III-5区1号礎石全景(北東)



7. III-5区1号礎石土層断面(北東)



8. III-5区1号礎石石組み状況(南)



9. III-5区2号礎石全景(東)



10. III-5区2号礎石全景(南西)



11. III-5区2号礎石土層断面(西)



12. III-4区3~7号礎石全景(南)



13. III-4区3・4号礎石土層断面(北西)



14. III-4区3号礎石土層断面(北西)



15. III-4区4号礎石全景(北西)



1. III-4区4号礎石土層断面(東)



2. III-4区5号礎石全景(北東)



3. III-4区5号礎石土層断面(南東)



4. III-4区6号礎石全景(北西)



5. III-4区6号礎石土層断面(東)



6. III-4区7号礎石全景(西)



7. III-4区7号礎石土層断面(東)



8. III-4区8号礎石全景(西)



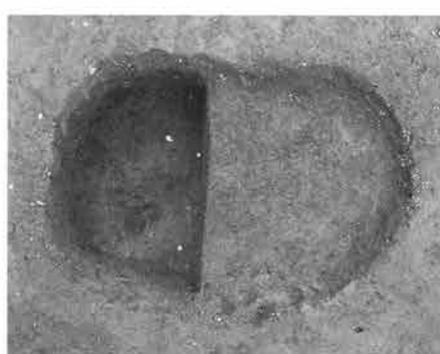
9. III-3区1号配石全景(西)



10. III-3区1号配石完掘後全景(西)



11. III-3区2号配石全景(西)



12. III-3区2号配石完掘後全景(西)



13. IV-1区全景(南)



14. IV-2区全景(北東)



15. IV-3区北東端全景(北東)



1. IV-3区西端全景(西)



2. IV-3区西全景(東)



3. IV-3区中央全景(南)



5. IV-4区全景(東)



4. IV-5区全景(東)



6. IV-3区1号土坑全景・土層断面(南)



7. IV-5区2号土坑全景(南)



1. IV-3区4号土坑全景·土層断面(東)



2. IV-1区5号土坑全景·土層断面(東)



3. IV-1区6号土坑全景·土層断面(東)



4. IV-1区7号土坑全景·土層断面(東)



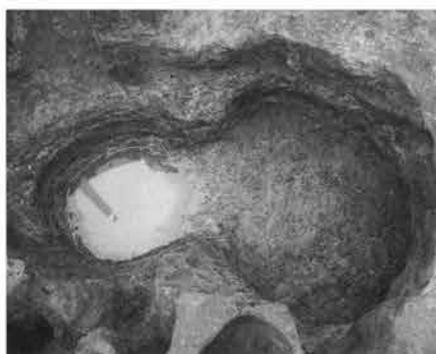
5. IV-1区8号土坑全景·土層断面(東)



6. IV-1区9号土坑全景(南)



7. IV-1区10号土坑全景·土層断面(東)



8. IV-1区11号土坑全景(南西)



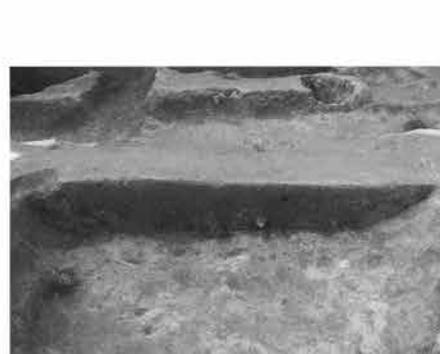
9. IV-1区11号土坑·5号井戸土層断面(北)



10. IV-1区11号土坑底部付近土層断面(南西)



11. IV-1区12号土坑全景(北西)



h12. IV-1区12号土坑土層断面(北西)



13. IV-1区13号土坑土層断面(西)



14. IV-4区14号土坑全景(南西)



15. IV-4区15号土坑全景·土層断面(東)



1. IV-4区16号土坑全景(北)



2. IV-4区16号土坑土層断面(北東)



3. IV-4区17号土坑土層断面(北)



4. IV-4区18号土坑土層断面(南西)



5. IV-3区21号土坑全景(南東)



6. IV-3区21号土坑土層断面(南西)



7. IV-3区22号土坑出土遺物(東)



8. IV-3区22号土坑全景(南西)



9. IV-3区22号土坑土層断面(北)



10. IV-3区23·25号土坑土層断面(南東)



11. IV-3区25号土坑土層断面(南東)



12. IV-3区26号土坑全景·土層断面(北西)



13. IV-3区28号土坑全景(西)



14. IV-3区29号土坑出土遺物狀況(北)



15. IV-3区29号土坑全景(北)



1. IV-3区29号土坑土層断面(西)



2. IV-4区30号土坑全景·土層断面(北)



3. IV-3区32号土坑遺物出土狀況(南)



4. IV-3区32号土坑全景(南)



5. IV-3区32号土坑土層断面(南西)



6. IV-3区33号土坑全景·土層断面(西)



7. IV-4区34号土坑土層断面(南)



8. IV-3区36号土坑全景·土層断面(北西)



9. IV-3区38号土坑遺物出土狀況(南西)



10. IV-3区38号土坑全景(南)



11. IV-3区38号土坑土層断面(南西)



12. IV-3区39号土坑全景(東)



13. IV-3区39号土坑土層断面(南)



14. IV-3区40号土坑全景(西)



15. IV-3区40号土坑土層断面(北西)



1. IV-3区41号土坑全景(北)



2. IV-3区42号土坑全景(東)



3. IV-3区42号土坑土層断面(南)



4. IV-3区43号土坑全景(南)



5. IV-3区43号土坑土層断面(南西)



6. IV-2区44号土坑全景·土層断面(北)



7. IV-3区1号井戸全景·土層断面(東)



8. IV-3区2号井戸全景·土層断面(南)



9. IV-1区3号井戸全景(南東)



10. IV-1区3号井戸土層断面(南西)



11. IV-1区4号井戸土層断面(北東)



12. IV-3区6号井戸全景(北東)



13. IV-3区6号井戸土層断面(南東)



14. IV-3区7号井戸全景(北東)



15. IV-3区7号井戸土層断面(南東)



1. IV-3区8号井戸全景(北)



2. IV-4区9号井戸全景(東)



3. IV-3区10号井戸全景・土層断面(北)



4. IV-3区11号井戸全景・土層断面(東)



5. IV-2区12号井戸全景(西)



6. IV-2区12号井戸土層断面(東)



7. IV-3区13号井戸全景(北東)



8. IV-2区13号井戸全景・土層断面(南)



1. IV-5区1号溝全景(南)



2. IV-5区1号溝土層断面(北)



3. IV-5区2号溝全景(南東)



4. IV-5区2号溝土層断面(北)



5. IV-1区3号溝全景・土層断面(東)



6. IV-4区4号溝土層断面(南)



7. IV-5区4号ピット土層断面(南)



8. IV-5区5号ピット全景(南)



1. IV-5区6号ピット全景(南)



2. IV-5区7号ピット土層断面(東)



3. IV-1区21号ピット土層断面(東)



4. IV-1区22・23号ピット全景(北西)



5. IV-1区22号ピット土層断面(南)



6. IV-1区24～27・30・31・33号ピット群全景(南東)



7. IV-1区23号ピット土層断面(南西)



8. IV-1区24号ピット土層断面(南)



9. IV-1区25号ピット土層断面(西)



10. IV-1区26号ピット土層断面(南)



11. IV-1区27号ピット土層断面(南)



12. IV-1区30号ピット土層断面(南西)



13. IV-1区31号ピット土層断面(南西)



14. IV-4区34号ピット全景・土層断面(南西)



15. IV-4区36号ピット土層断面(北東)



1. IV-4区37号ピット土層断面(東)



2. IV-4区38号ピット土層断面(南西)



3. IV-4区39号ピット土層断面(北西)



4. IV-3区40～42号ピット全景・土層断面(南東)



5. IV-4区60号ピット土層断面(南)



6. IV-4区61・62号ピット土層断面(南)



7. IV-3区63号ピット土層断面(南)



8. IV-3区64号ピット全景(北)



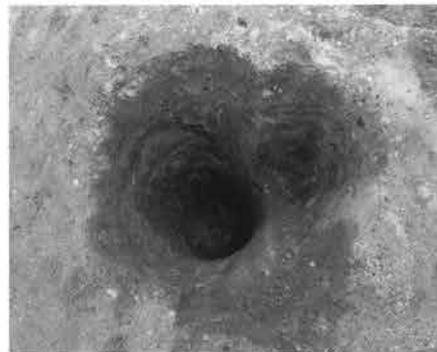
9. IV-3区65号ピット全景(西南)



10. IV-3区66号ピット全景(北)



11. IV-3区66号ピット土層断面(北西)



12. IV-3区67号ピット全景(北)



13. IV-3区68号ピット全景(北西)



14. IV-2区69号ピット土層断面(東)



15. IV-2区70号ピット土層断面(南西)



1. IV-2区71号ピット土層断面(南西)



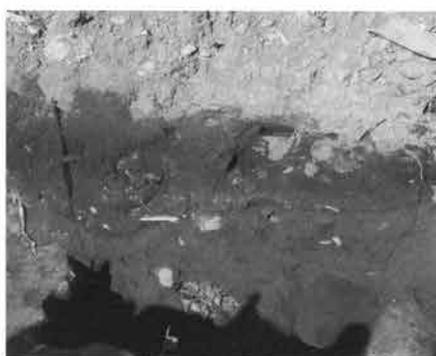
2. IV-2区72号ピット土層断面(南)



3. IV-4区3~5号礎石全景(南東)



4. IV-5区2号礎石全景(南)



5. IV-5区2号礎石土層断面(南)



6. IV-4区3号礎石全景(南西)



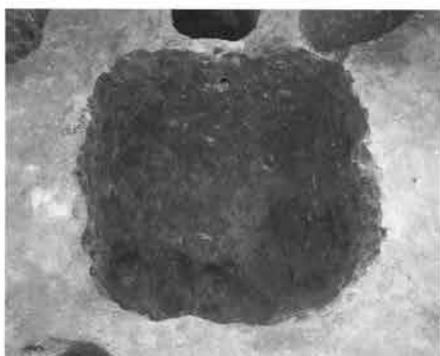
7. IV-4区3号礎石掘方全景(南)



8. IV-4区4号礎石全景(南西)



9. IV-4区4号礎石上面石取り上げ後(南)



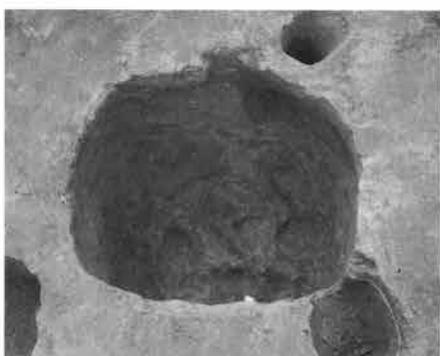
10. IV-4区4号礎石完掘後全景(北)



11. IV-4区5号礎石全景(南西)



12. IV-4区5号礎石下面全景(南)



13. IV-4区5号礎石完掘後全景(南)



14. IV-2区旧石器確認調査坑全景(南)



15. IV-2区旧石器確認調査坑土層断面(北西)

報告書抄録

書名ふりがな	せらだかんごうしゅうらくいせきに
書名	世良田環濠集落遺跡(2)
副書名	社会資本総合整備(防災・安全)(交安・重点)(主)大間々世良田線世良田交差点改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	607
編著者名	高島英之 藤巻幸男
編集機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	20151120
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
遺跡名ふりがな	せらだかんごうしゅうらくいせき
遺跡名	世良田環濠集落遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんおおたしせらだちょう
遺跡所在地	群馬県太田市世良田町
市町村コード	10205
遺跡番号	10052
北緯(世界測地系)	361555
東経(世界測地系)	1391642
調査期間	20140601-20140630、20141101-20141231
調査面積	1,452
調査原因	道路建設
種別	集落
主な時代	中世/近世/近代
遺跡概要	集落－中世+近世－土坑跡132+溝跡18+井戸跡 20+ピット117+礎石跡14+竪穴状遺構2+配石跡2+地下式坑1－陶磁器+土器+瓦+鉄器+銅銭+石製品
特記事項	大量の近世陶磁器の出土
要約	世良田環濠遺跡は、上野国を代表する中世荘園、新田荘の中に位置する中世環濠集落遺跡であり、付近には新田氏本宗家の居館跡と伝える新田館跡や、中世以来の古刹である長楽寺が存在している。今回の調査では、中世の集落に関わる明確な遺構は検出されなかったが、近世の大量かつ多種多様な陶磁器が出土し、その中には高価な肥前磁器が多数含まれていたり、江戸以外の地では出土例が無いと言われているカンテラなどが複数点あり、そうした物資の流通と購買を可能にした豊かな地域性を窺うことが出来る。

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第607集

世良田環濠集落遺跡(2)

社会資本総合整備(防災・安全)(公安・重点)(主)大間々町世良田線
世良田交差点改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成27年(2015) 11月 5日 印刷

平成27年(2015) 11月20日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地 2

電話(0279) 52-2511 (代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／株式会社大塚カラー 群馬事業所

世良田環濠集落遺跡2

